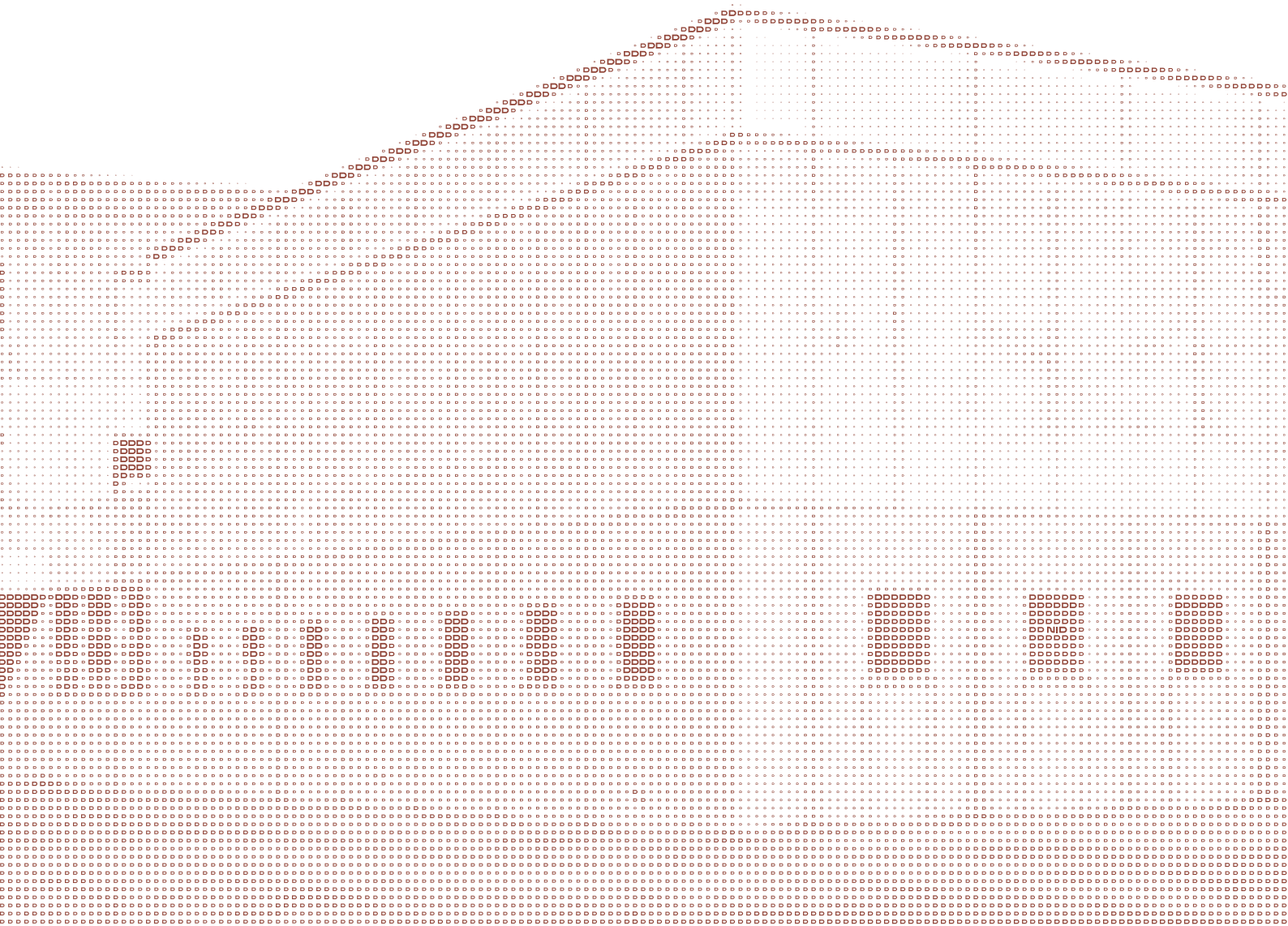


長岡造形大学

Nagaoka Institute of Design
Guide to Liberal Learning

履修ガイド

2018



長岡造形大学

Nagaoka Institute of Design

履修ガイド 2018
GUIDE TO LIBERAL LEARNING

授業計画、成績評価基準などの各授業科目の概要（シラバス）は、
パレット、大学ホームページで確認することができます。

- パレット ログイン → 授業関連 → シラバス → 科目を検索して表示させる
- 大学ホームページ 学部・大学院 → カリキュラム → 科目群から科目を選択して表示させる

1

はじめに

1-1	学長メッセージ	4
1-2	建学の理念	5
1-3	『米百俵』と長岡造形大学	5
1-4	シンボルマークとロゴタイプ	6
1-5	長岡造形大学の歩み	6
1-6	キャンパスが教材	7

2

学位授与方針・教育課程の編成方針

2-1	学位授与方針（ディプロマポリシー）	9
2-2	教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）	9
2-3	履修コース	10

3

平成26～29年度入学者カリキュラムの教育課程

3-1	カリキュラム体系	14
3-2	授業科目・単位数・担当教員	22
3-3	進級要件・卒業要件	30

4

平成30年度以降入学者カリキュラムの教育課程

4-1	カリキュラム体系	34
4-2	授業科目・単位数・担当教員	42
4-3	進級要件・卒業要件	50

5

授業について

5-1	授業期間および授業時間	53
5-2	単位の修得	53
5-3	休講・補講・集中講義	54
5-4	出席の基準	54
5-5	出席のとり方	55
5-6	欠席	55
5-7	出席状況調査	56

6

履修の手引き

6-1	履修登録	57
6-2	履修登録の時期	57
6-3	履修登録の流れ	57
6-4	履修登録時の注意事項	59
6-5	パレットによる履修登録の方法	62
6-6	再履修と継続履修	67
6-7	学芸員課程の履修	68
6-8	教職課程の履修	69
6-9	在学年限	71
6-10	卒業見込証明書	71

7

試験と成績評価について

7-1	試験の種類	72
7-2	成績評価	74
7-3	成績通知表の見方	75
7-4	成績通知	75
7-5	成績評価に対する異議申立て	75
7-6	留年	76
7-7	履修指導	76

8

各種制度について

8-1	転学科制度	77
8-2	本学以外での学修	77
8-3	既修得単位認定	78
8-4	TOEICスコアによる単位の認定	78
8-5	学芸員課程履修者以外の学芸員科目履修	79
8-6	学修度チェック	79

9

資格について 81

10

授業科目の概要（平成26～29年度入学者）

10-1	教養科目	88
10-2	専門教育科目 [学部共通]	106
10-3-1	専門教育科目 [プロダクトデザイン学科共通]	136
10-3-2	専門教育科目 [プロダクトデザイン学科コース別科目]	145
10-3-3	専門教育科目 [プロダクトデザイン学科ゼミ科目、卒業研究]	147
10-4-1	専門教育科目 [視覚デザイン学科共通]	149
10-4-2	専門教育科目 [視覚デザイン学科コース別科目]	161
10-4-3	専門教育科目 [視覚デザイン学科ゼミ科目、卒業研究]	163
10-5-1	専門教育科目 [美術・工芸学科共通]	165
10-5-2	専門教育科目 [美術・工芸学科コース別科目]	173
10-5-3	専門教育科目 [美術・工芸学科ゼミ科目、卒業研究]	175
10-6-1	専門教育科目 [建築・環境デザイン学科共通]	177
10-6-2	専門教育科目 [建築・環境デザイン学科コース別科目]	193
10-6-3	専門教育科目 [建築・環境デザイン学科ゼミ科目、卒業研究]	196

学芸員課程開講科目（平成26～29年度入学者） 198

教職課程開講科目 203

11

授業科目の概要（平成30年度以降入学者）

11-1	教養科目	213
11-2	専門教育科目 [学部共通]	230
11-3-1	専門教育科目 [プロダクトデザイン学科共通]	259
11-3-2	専門教育科目 [プロダクトデザイン学科コース別科目]	268
11-3-3	専門教育科目 [プロダクトデザイン学科ゼミ科目、卒業研究]	270
11-4-1	専門教育科目 [視覚デザイン学科共通]	272
11-4-2	専門教育科目 [視覚デザイン学科コース別科目]	282
11-4-3	専門教育科目 [視覚デザイン学科ゼミ科目、卒業研究]	284
11-5-1	専門教育科目 [美術・工芸学科共通]	286
11-5-2	専門教育科目 [美術・工芸学科コース別科目]	298
11-5-3	専門教育科目 [美術・工芸学科ゼミ科目、卒業研究]	300
11-6-1	専門教育科目 [建築・環境デザイン学科共通]	302
11-6-2	専門教育科目 [建築・環境デザイン学科コース別科目]	318
11-6-3	専門教育科目 [建築・環境デザイン学科ゼミ科目、卒業研究]	321

学芸員課程開講科目（平成30年度以降入学者） 323

教職課程開講科目 328

1 はじめに

1-1 学長メッセージ

シラバスを読み解き実りある修学を

「造形を通して真の人間の豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」という理念を実現するための教育課程がこの履修ガイドに網羅されています。

新年度の履修登録にあたり、新入生の皆さんには4年間のカリキュラムを俯瞰して履修計画を立てていただきたいと思います。在学生の皆さんは初年度（入学時）に立てた履修計画の更なる充実、補填を図って下さい。

卒業要件として定められた単位数獲得を第一義として履修計画を立てることは大切なことですが、今一度、教育の目標に掲げられたディプロマポリシー（学位授与の方針）に目を通して下さい。そこには「社会の要請を的確に認識し、様々な課題に対して創造的な解決策を提示するための3つの力「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を養うことを教育の目標とします。」と謳われています。

3つの力を得る為の履修計画を立案するには、開講科目のシラバスを熟読することが必要となります。該当学年の開講科目のみに目を通すのではなく、所属する学科の全ての開講科目に目を通して下さい。そのことにより4年間で学ぶべき全容が見えて来ます。くれぐれも「木を見て森を見ず」に陥らないようにして下さい。

その意味では、自らの所属学科のみならず他学科の内容にもシラバスを通して触れることにも意味があります。関連する造形領域がいかなる育成内容で成立しているかを知ること、将来の協働において有益に働きます。思いがけず他造形領域に興味を覚えるかもしれません。そのために本学では「転学科制度」も設けています。

近年の造形領域の現実は無境界（境界がない）と言われています。立ち位置としての自らの専門領域は確かに必要なのですが、具体的な造形活動においては制約がないことを意味します。他専門領域との協働は勿論のこと他領域の仕事にも積極的に関わる時代となっています。本学には履修登録の上限を定めたCAP制も存在しますが、この現実を認識し、CAP制の範囲内で出来るだけ多くの開講科目を履修することをお勧めします。

いずれにせよ、この履修ガイドに網羅された本学の造形教育体系を把握し、開講科目シラバスに込められた担当教員の意図を理解した上で、不明な点は教職員および先輩にとことん相談し納得のいく履修登録を行って下さい。

皆さん一人一人の夢実現の一步がこの履修登録から始まります。皆さんにとってこの1年が実りある修学の時となりますようお願いしています。

長岡造形大学 学長 和田 裕



1-2 建学の理念

人々の価値観の変化やめまぐるしく動きつづける社会構造の中で、デザインのあり方は大きく変化し、その領域も大きく広がってきています。エレクトロニクス、情報通信技術、土木、建築、医療、福祉といったさまざまな分野でのめざましい研究成果は、デザインという創造行為を通じて初めて形を獲得し、人々の生活の中に還元されていきます。

新しい世紀の扉が開かれた今、20世紀の蓄積を糧としながら、新しい視点からデザインを総合的に探究していく人材の養成が今日ほど求められている時代はありません。

長岡造形大学は、「造形を通して真の人間の豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」ことを建学の理念とし、新しい時代におけるデザインの実践的教育研究の場としてその役割を担うことを期するものです。

1-3 『米百俵』と長岡造形大学

山本有三の作品に『米百俵』という戯曲があります。昭和18年に出版され、大きな反響を呼びましたが、軍部から反戦戯曲だとして弾圧を受け、絶版・自主回収となった作品です。

……『米百俵』の主人公小林虎三郎は、1828年に長岡藩士の子として生まれた。数え23歳のときに江戸に遊学。佐久間象山について学び、吉田寅次郎（松陰）とともに「象門の2虎」と並び称された。

長岡藩が戊辰戦争（1868年）によって焦土と化すと、虎三郎は藩の大参事に迎えられた。当時、藩の禄高は3分の1に減らされ、藩士たちは極貧の生活を強いられていた。そんな折、分家の三根山藩から見舞いの米百俵が送られてきた。藩士たちは、これで一息つけると喜んだ。ところが、虎三郎は、これで学校を建てることにした。そして「米をよこせ」といきり立つ藩士たちに向かってこう言った。「この米を1日か2日で食いつぶして何が残る。その日暮らしでは、長岡は立ち直れないぞ。国が興るのも、まちが栄えるのもことごとく人にある。食えないからこそ学校を建て、人物を養成するのだ。明日の長岡を考えろ、明日の日本を考えろ」

こうして明治3年、国漢学校が設立された。後年、ここからは解剖学の祖・小金井良精、東洋大学創立者・井上円了、東大総長・小野塚喜平次、日本洋画界の先駆者・小山正太郎、詩人・堀口大学、山本五十六元帥、司法・内務・厚生各大臣を務めた小原直などといった新生日本を背負う幾多の人材を輩出した……

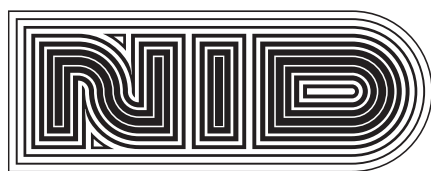


長岡造形大学は、こうした『米百俵』の精神的風土をもつ長岡市が、新潟県の支援を得ながら公設民営方式（自治体が設置費用を負担し、開学後は学校法人による私立大学として運営していく方式）によって設立したもので、また、平成26年4月には公立大学法人化し、まさに平成の『米百俵』として新たな教育の理想を掲げ、文化や産業の発展を支え、我が国の教育研究の進展に寄与することを目指した大学です。

1-4 シンボルマークとロゴタイプ

シンボルマークは、Nagaoka Institute of Design のイニシャル<N I D>をデザインしています。

<N>の中央のカーブとカラーの<青色>は、長岡を育くんだ信濃川を象徴し、平行線、平行曲線の模様は、長岡が誇る文化財<火焰土器>の模様を現代的に表現しています。そうしてできた形は、現代の<文化カプセル>であり、文化情報が長岡造形大学<N I D>に集まり、<N I D>の成果が世界に輪をひろげるようイメージしています。



公立大学法人

長岡造形大学

Nagaoka Institute of Design

1-5 長岡造形大学の歩み

長岡造形大学は、「造形を通して真の人的豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」ことを建学の理念とし、新しい時代におけるデザインの実践的教育研究の場として平成6年に開学しました。デザインを美術的な面からだけでなく、工学・情報・経済・環境などのさまざまな側面から総合的にとらえることで、デザインの新しい可能性を探求しています。

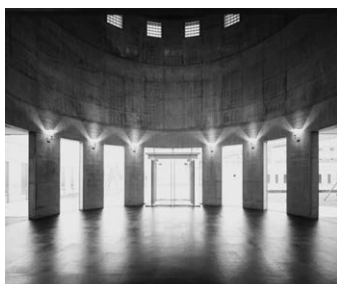
平成21年以降は、「プロダクトデザイン」「視覚デザイン」「美術・工芸」「建築・環境デザイン」の4つの視点からデザイン・アートを学び、社会のため、地球のため、そして未来のために新しい提案ができる人材を育成します。

平成6年4月	長岡造形大学開学（産業デザイン学科／環境デザイン学科）
平成10年4月	長岡造形大学大学院修士課程開設
平成13年4月	長岡造形大学大学院博士（後期）課程開設
平成17年4月	造形学部視覚デザイン学科を開設、3学科体制に （産業デザイン学科／視覚デザイン学科／環境デザイン学科）

- 平成18年 4 月 産業デザイン学科をものデザイン学科に改称
(ものデザイン学科／視覚デザイン学科／環境デザイン学科)
- 平成19年 4 月 環境デザイン学科を建築・環境デザイン学科に改称
(ものデザイン学科／視覚デザイン学科／建築・環境デザイン学科)
- 平成21年 4 月 造形学部にも美術・工芸学科を開設、ものデザイン学科を改組し、プロダクトデザイン学科を設置、4学科体制に
(プロダクトデザイン学科／視覚デザイン学科／美術・工芸学科／建築・環境デザイン学科)
- 平成26年 4 月 開学以来大学を運営してきた学校法人長岡造形大学を公立大学法人化。公立大学として、新たなスタートを切りました。

1-6 キャンパスが教材

長岡造形大学は、学生生活をおくる環境のすべてをデザインの教材としてとらえ、デザインを学ぶ上で理想的な環境を追求しています。建物の構造、学内のインテリアや照明、庭の風景等、キャンパスそのものがデザインにあふれています。学生生活を送る長岡造形大学のキャンパスで、デザインのヒントをたくさん見つけてください。



2 学位授与方針・教育課程の編成方針

2-1 学位授与方針（ディプロマポリシー）

社会の要請を的確に認識し様々な課題に対して創造的な解決策を提示するための3つの力「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を養うことを教育の目標とします。

これらの能力の獲得を目的とする授業科目を履修し、卒業要件単位を修得した者に学士課程学位を授与します。

【教育目標に掲げる3つの能力】

▶社会人基礎力

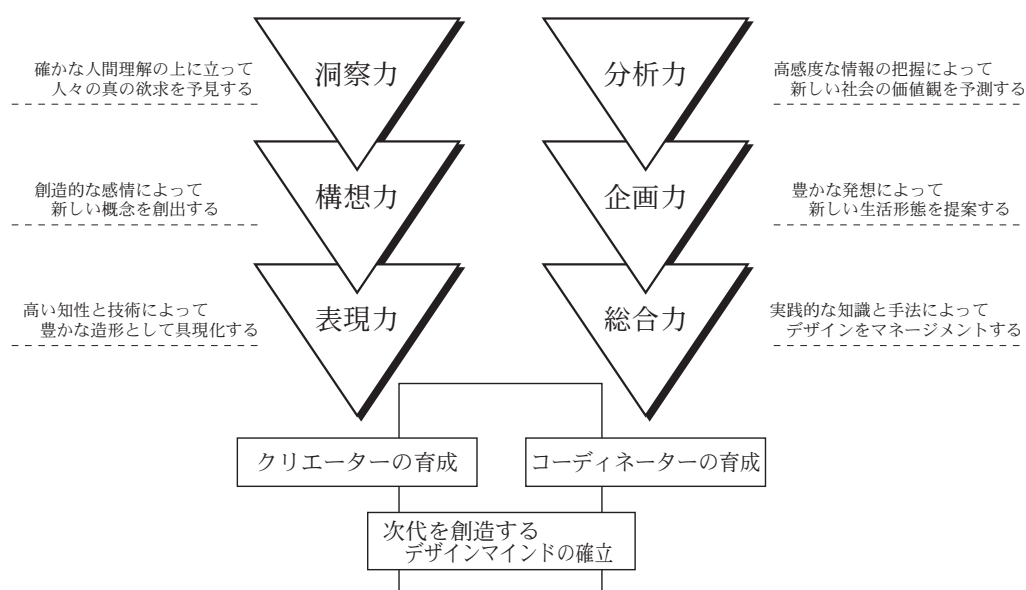
自然・人、社会・人との関わりに関心を持ち、主体的、自律的、継続的な学修ができ、論理的、多面的に物事を考え抜き、状況を判断し、責任感と協調性をもって行動できる。

▶構想力

人と造形との関係を追及する専門的・横断的な知識を身につけ、「問題の発見、原因の究明、解決への構想、試行及び検証」を行うことができる。

▶造形力

人・もの・自然に対する豊かな感性を備えて、「思い」を形にする伝達技術としての表現ができる。



2-2 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

▶地域・社会や企業と連携した実践的なデザインプロジェクトにより、社会人基礎力を養成する「地域・社会連携系」科目を拡充します。

▶構想力を重視したデザインプロセスを総合的に学ぶ演習・実習科目を強化します。

▶複合的な造形力修得のための横断的科目の充実を図ります。

教育課程の構成

教育課程は、次のように区分された科目で構成されています。

教養科目	教養
	言語系
	キャリアデザイン教育
	ソーシャル・スキルズ（言語系、キャリアデザイン教育を含む）
専門教育科目	学部共通専門教育科目
	学科共通専門教育科目
	コース別専門教育科目
	ゼミ科目
	卒業研究

2-3 履修コース

● プロダクトデザイン学科

プロダクトデザインにはカタチや機能だけではなく、そのモノのあり方や人や社会との関わり、他のモノとの関係性まで考え提案するために、細部へのこだわりに加え、幅広い視野も重要になります。カリキュラムでは、実習・演習中心の授業でマンツーマン指導を通じて「問題の発見、原因の究明、解決への構想、試行及び検証する力」および、アイデアを「カタチにするスキル」を身につけ、プロのデザイナーとしてスタートできる能力を培っていきます。

— プロダクトデザインコース

家電製品等の電氣的なメカニズムを内包したプロダクトデザイン、自動車、バイク等の乗り物のデザイン、生活雑貨、照明等インテリア用品のデザイン、産業機器などの生産財のデザインなど工業製品のデザインの領域を幅広く学びます。

立体のデザインに加えて、ユーザーと機器との関係をデザインするインターフェースデザインや、各種工業製品の素材・加工技術とカタチとの関係も学びます。

— テキスタイル・ファッションデザインコース

衣服をはじめとしてバック、帽子などのプロダクトは、道具であると同時に装身具であり、人が身に付けることで完結し、人をより魅力的に見せることが求められます。またカーテン、絨毯、テーブルマットなどのインテリアファブリックは生活を快適にする役割があります。

テキスタイルを切り口とし、社会のニーズに適応したファッションやインテリアに関わる布のデザインおよび制作までを学びます。

● 視覚デザイン学科

カリキュラムは、「理解する・身に付ける＋考える・展開する＋解く・磨く」をテーマに組み立てられています。

軸となるコンピュータ教育は、視覚デザインのツールとして欠かせないものであり、コンピュータの知識と技術を学ぶ授業を1年次から3年次に設け、各専門分野につなげて活かせるように発展させていきます。

また、2年次から始まる各専門分野の基礎的な授業は、学生の興味をその後の進路の決定へと導く内容となっています。さらに3年次の内容は、卒業後に社会で求められる仕事を想定した授業内容となっています。

視覚デザインにおいて、各分野に偏らず「グラフィックデザイン＋専門分野」を強み

に応用力のある人材を育てていきます。

— 伝達デザインコース

広告の企画・制作を中心に授業を展開します。視覚的な表現技術を学ぶだけでなく、ものごとの本質を見極め問題を解決する能力、多様なメディアに対応したヴィジュアルの表現をコントロールする能力を身につけていきます。

[専門領域] 広告、グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、Webを始めとするインタラクティブデザイン、インフォメーションデザイン、パッケージデザイン、商品開発、ブランディングデザイン、ヴィジュアルアイデンティティ、コマーシャル、広告写真

— 表現デザインコース

視覚デザインの領域における表現技法と技術を磨き、個々の持つ豊かな感性を活かし表現することを学びます。また、表現力に頼り過ぎず、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、個々の感性を社会に結びつけて展開する術を学びます。

[専門領域] 写真、イラストレーション、アニメーション、モーショングラフィックス、映像、キャラクターデザイン、ゲームデザイン

● 美術・工芸学科

アートとクラフトの新たな表現の可能性を、絵画、彫刻、工芸の各専門分野の基礎カリキュラムを通して横断的に学びます。それにより、既存の領域間の壁を取り払い、素材・技法・表現手法の理解と融合を図り、柔軟な発想と独創的な創作や研究を目的とした造形教育を行います。

また、グローバルな視野によって専門領域を探究すると共に、デザインの視点による多彩な社会環境での、人と「もの」との関係性や計画・立案から造形表現までを学びます。これにより幅広い知識や能力と社会への発信力を兼ね備えます。

— 美術表現コース

平面における描画表現・版表現、立体造形における形・量塊・構造・空間などの基本要素の理解を、実践的制作を通して学修します。素材の理解と技術、構成員の向上によって、芸術的素養が求められるデザインの現場へ応用可能な豊かな感性を育てます。領域にとらわれない横断的な研究を通じ、柔軟な発想力による多彩な表現力・技術力を習得します。

現代におけるアートとデザインの関わりを考察し、社会における美術の役割をディスカッションすることで、論理的思考を高め、コミュニケーション能力の向上を促します。また、地域への実践的な発表活動を行い、能動的に社会に関わる能力を養います。

— クラフトデザインコース

金属素材やガラス素材との対話により、その性質や表現方法を研究しながら、社会での様々な専門分野で活躍するための応用力を身に付けます。また、きめ細やかなマンツーマン指導によって学生一人一人が目指す表現を具現化し、その確かな技法と各自の感性を融合することで、創造性や表現力、造形力を養います。

伝統という永い時間と精査によって培われてきた工芸や、現代の暮らしの中で育まれてきたクラフトデザインを基盤とし、「ものづくり」の視点から使う人への視野を持つことでコミュニケーション能力を養い、既存の造形表現のみならず、社会との位置づけを考え、人からひとへの温もりや感動を伝える人材教育を実践します。

● 建築・環境デザイン学科

今は生物多様性の時代。メトロポリスより、自然豊かな環境の方が先を行います。よって、コンクリートやアスファルトに囲まれた空間ではなく、人と生物や植物が生きた空間と環境のデザインに重きを置きます。領域は幅広く、建築・構造・ランドスケープ・インテリア、生活空間からコミュニティ空間、文化財の保存、まちづくり・都市計画まで多彩です。これからの世界は、人と社会からの視点と、自然や環境からの視点の両視点からのデザインが求められています。確かな技術力を身につけ、学生ひとりひとりの多彩な考え方や個性をとらえて伸ばし、次の時代が求める豊かでしなやかなハートも持ったデザイナーを育てます。

所定の単位をとれば、一級および二級建築士受験資格を取得することのできるカリキュラムとなっています（新潟県内では長岡造形大学、新潟大学、新潟工科大学の3大学のみです）。実際、本学の卒業生に多くの一級建築士が誕生し、活躍しています。

— 建築・インテリアコース

- ・ 建築をランドスケープや街まで連続する中にとらえます。エキサイティングな演習に取り組むことにより、建築&環境の美しいデザイン、斬新なデザイン、伝統的なデザイン、そして構造と設備のエンジニアリングを修得します。
- ・ ハードな都市環境もさることながらソフトな自然や里山や地域環境を重視し、山・川・海における、人々や生物や植物が生き生きと活動する空間を設計する感性と技術を身に付けます。
- ・ 建築再生／リノベーション／リフォームを学び、すでにある空間資源を見事に生き返らせるデザイン力を身につけ、また、情報をわかりやすく効果的に伝えることのできるディスプレイデザインを学びます。

— 環境計画・保存コース

- ・ 成熟した社会において、街並みや歴史的な建造物など、既存の資源に着目し、これらを活用・保全したり新たな仕掛けを施すことで、暮らしやすさを実現できるような創造力・行動力を身につけます。
- ・ 具体的な空間のデザインだけではなく、都市環境が健やかに持続するための制度のデザインや仕組みのデザインを考え出す力をつけます。
- ・ 学芸員資格の取得を目指します（特に保存系）。

履修コース分け

履修コース分けの方法や時期は次のとおりです。

志望調査時期	第1学年／4月	第2学年／4月

履修コースの申請時期	第2学年／12月～1月

配属時期	第3学年／4月

履修コースの決定

履修コースの決定は、学生本人の志望を尊重しますが、施設・設備、教員配置等の制約もあるため、志望者数に大きな偏りが生じる場合には、履修実績等を加味して決定します。

3 平成26～29年度入学者カリキュラムの教育課程

3-1 カリキュラム体系（平成26～29年度入学者）

プロダクトデザイン学科カリキュラムフロー

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

	1 年次		進級要件	2 年次		進級要件	3 年次		進級要件	4 年次		卒業要件
	前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期	
教養科目	②スポーツ	②保健体育講義		②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論			②哲学				
言語系	②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II		②英語上級 I	②英語上級 II		社会人基礎力の養成					
ソーシャル・スキルズ	①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションIII ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションVII	①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションVI ①英語オーラルコミュニケーションVIII		①英語オーラルコミュニケーションIX	①英語オーラルコミュニケーションX		卒業後の進路を明確にする					
	②論理学 ②統計学	②情報リテラシー		②現代社会論 ②社会起業								
	キャリアデザイン教育	②基礎ゼミ I		①基礎ゼミ II	①キャリア計画実習 I		①キャリア計画実習 II					
専門教育科目 [学部共通]	②基礎造形実習 I（描写） ②基礎造形実習 I（造形） ②基礎造形実習 I（素形材） ②基礎造形実習 I（デザイン） ②基礎造形実習 I（複合造形） ②デザイン概論		造形の基礎力を養成	①学外見学実習	①学外見学実習					専門的・横断的な知識を身につける		
クロス実習			②色彩学	①プロダクト A ①視覚 A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A	①プロダクト B ①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B							
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論		②現代芸術論 ②描写実習	②美術解剖学 ①美術・工芸特別講義							
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学		②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学					
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論		②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②博物館概論	②スノーブラン 実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける					
第4区分 地域・社会連携系				②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C	②地域協創演習 D					
プロダクトデザイン学科 科目	②プロダクトコンピュータ基礎演習		②基礎造形実習 II（描写） ②基礎造形実習 II（造形） ②基礎造形実習 II（素形材） ②基礎造形実習 II（デザイン）	④プロダクトデザイン基礎実習 I ②テキスタイル材料学	④プロダクトデザイン基礎実習 II (A) ④プロダクトデザイン基礎実習 II (B) ②生産技術論	発想力を鍛える				発想力を鍛える		
		②プロダクトコンピュータ演習 ②プロダクトスケッチ実習 I		②プロダクトスケッチ実習 II ②プロダクト3DCG 演習 I	②プロダクトCAD 演習 ②プロダクト3DCG 演習 II ②ファッション画実習 ②テキスタイル・ファッションCAD 演習	技術力を身につける						
プロダクトデザインコース テキスタイル・ファッションコース						④プロダクトデザイン演習 I ④テキスタイル・ファッション演習 I ②ゼミ I	④プロダクトデザイン演習 II ④テキスタイル・ファッション演習 II ②ゼミ II					
卒業研究								③卒業研究 I		③卒業研究 II		創造力を発揮する

●は必修科目
□は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

視覚デザイン学科カリキュラムフロー

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

	1 年次		進級要件	2 年次		進級要件	3 年次		進級要件	4 年次		卒業要件
	前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期	
教養科目	②スポーツ	②保健体育講義		②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論			②哲学				
言語系	②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II		②英語上級 I	②英語上級 II		社会人基礎力の養成					
ソーシャル・スキルズ	①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションⅢ ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションⅦ	①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションⅥ ①英語オーラルコミュニケーションⅧ		①英語オーラルコミュニケーションIX	①英語オーラルコミュニケーションX							
	②論理学 ②統計学	②情報リテラシー		②現代社会論 ②社会起業					卒業後の進路を明確にする			
キャリアデザイン教育		②基礎ゼミ I		①基礎ゼミ II	①キャリア計画実習 I		①キャリア計画実習 II					
専門教育科目 [学部共通]	②基礎造形実習 I（描写） ②基礎造形実習 I（造形） ②基礎造形実習 I（素形材） ②基礎造形実習 I（デザイン） ②基礎造形実習 I（複合造形） ②デザイン概論	造形の基礎力を養成		①学外見学実習	①学外見学実習					専門的・横断的な知識を身につける		
クロス実習		②色彩学		①プロダクト A ①視覚 A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A	①プロダクト B ①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B							
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論		②現代芸術論 ②描写実習	②美術解剖学 ①美術・工芸特別講義							
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学		②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学					
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論		②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②博物館概論	②スノーブラン 実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける					
第4区分 地域・社会連携系				②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C	②地域協創演習 D					
視覚デザイン 学科科目	②視覚コンピュータ基礎演習	②基礎造形実習 II（描写） ②基礎造形実習 II（造形） ②基礎造形実習 II（素形材） ②基礎造形実習 II（デザイン） ②視覚コンピュータ I		④視覚コンピュータ II ④写真映像基礎 ④描写表現基礎 ④タイポグラフィ基礎	④WEBデザイン ④DTP ④タイポグラフィ ④写真映像 ④描写表現		②ポートフォリオ ④アニメーション・モーショングラフィックス ④ヴィジュアルアイデンティティ	②ポートフォリオ ④インフォメーションデザイン ④Web・エディトリアルデザイン ④コマース演習	技術力を身につける			
伝達デザインコース 表現デザインコース ゼミ科目				④視覚デザイン基礎演習 I	④視覚デザイン基礎演習 II	④伝達デザイン演習 I ④表現デザイン演習 I ②ゼミ I	④伝達デザイン演習 II ④表現デザイン演習 II ②ゼミ II	考える力を身につける				創造力を発揮する
卒業研究								③卒業研究 I		③卒業研究 II		

●は必修科目

□は選択必修科目

○は選択科目

科目名が赤色：進級要件にかかわる科目

数字は単位数

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

	1 年次		進級要件	2 年次		進級要件	3 年次		進級要件	4 年次		卒業要件
	前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期	
教養科目	②スポーツ	②保健体育講義		②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論			②哲学				
言語系	②英語中級Ⅰ ②英語中上級Ⅰ	②英語中級Ⅱ ②英語中上級Ⅱ		②英語上級Ⅰ	②英語上級Ⅱ		社会人基礎力の養成					
ソーシャル・スキルズ	①英語オーラルコミュニケーションⅠ ①英語オーラルコミュニケーションⅢ ①英語オーラルコミュニケーションⅤ ①英語オーラルコミュニケーションⅦ	①英語オーラルコミュニケーションⅡ ①英語オーラルコミュニケーションⅣ ①英語オーラルコミュニケーションⅥ ①英語オーラルコミュニケーションⅧ		①英語オーラルコミュニケーションⅨ	①英語オーラルコミュニケーションⅩ							
	②論理学 ②統計学	②情報リテラシー		②現代社会論 ②社会起業				卒業後の進路を明確にする				
キャリアデザイン教育		②基礎ゼミⅠ		①基礎ゼミⅡ	①キャリア計画実習Ⅰ		①キャリア計画実習Ⅱ					
専門教育科目 〔学部共通〕	②基礎造形実習Ⅰ（描写） ②基礎造形実習Ⅰ（造形） ②基礎造形実習Ⅰ（素形材） ②基礎造形実習Ⅰ（デザイン） ②基礎造形実習Ⅰ（複合造形） ②デザイン概論	造形の基礎力を養成		①学外見学実習	①学外見学実習					専門的・横断的な知識を身につける		
クロス実習		②色彩学		①プロダクトA ①視覚A ①美術・工芸A ①建築・環境A	①プロダクトB ①視覚B ①美術・工芸B ①建築・環境B							
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論		②現代芸術論 ②描写実習	②美術解剖学 ①美術・工芸特別講義							
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学		②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論		②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学				
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論		②都市論 ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義		②博物館概論	②スノーブラン	実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける			
第4区分 地域・社会連携系				②地域協創演習A ①インターンシップA ①ボランティア実習A	②地域協創演習B ①インターンシップB ①ボランティア実習B		②地域協創演習C	②地域協創演習D				
美術・工芸 学科科目	基礎力・発想力を身につける	②基礎造形実習Ⅱ（描写） ②基礎造形実習Ⅱ（造形） ②基礎造形実習Ⅱ（素形材） ②基礎造形実習Ⅱ（デザイン） ②美術・工芸コンピュータ基礎演習		④美術・工芸基礎演習Ⅰ（A） ④美術・工芸基礎演習Ⅰ（B） ④美術・工芸基礎演習Ⅰ（C）	④美術・工芸基礎実習Ⅱ ②美術・工芸材料学 ②古美術研究 ②生産技術論 ②プロダクトCAD演習 ②プロダクト3DCG演習Ⅱ	素材と手法を理解する		②美術・工芸・デザイン分析 ②美術工芸史	確かな造形力を身につける			
美術表現コース クラフトデザインコース ゼミ科目				②表示図法 ②プロダクトスケッチ実習Ⅱ ②プロダクト3DCG演習Ⅰ			④美術表現演習Ⅰ ④クラフトデザイン演習Ⅰ ②ゼミⅠ	④美術表現演習Ⅱ ④クラフトデザイン演習Ⅱ ②ゼミⅡ			創造力を発揮する	
卒業研究										③卒業研究Ⅰ	③卒業研究Ⅱ	
教職に関する 科目				②教職入門 ②教育心理学 ②教育課程の編成と実際 ②生徒・進路指導 ②特別活動指導法	②教育原理 ②道徳指導法		⑧美術科指導法 ②教育に関する社会的・制度的・経営的研究 ②教育相談	④工芸指導法 ②教育方法・技術		①事前・事後指導 ②教育実習Ⅰ ②教育実習Ⅱ	②教職実践演習（中・高）	

●は必修科目
□は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

建築・環境デザイン学科カリキュラムフロー									
科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。									
コース配属									
研究室配属									
進級要件									
卒業要件									
1 年次									
前期									
後期									
2 年次									
前期									
後期									
3 年次									
前期									
後期									
4 年次									
前期									
後期									
教養科目	②スポーツ	②保健体育講義	②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②科学技術論	②環境と社会 ②文化人類学	②哲学			
言語系	②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II	②英語上級 I	②英語上級 II					
ソーシャル・スキルズ	①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションIII ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションVII	①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションVI ①英語オーラルコミュニケーションVIII	①英語オーラルコミュニケーションIX	①英語オーラルコミュニケーションX					
キャリアデザイン教育	②論理学 ②統計学	②情報リテラシー	②現代社会論 ②社会起業						
		②基礎ゼミ I	①基礎ゼミ II	①キャリア計画実習 I	①キャリア計画実習 II				
専門教育科目 [学部共通]	②基礎造形実習 I（描写） ②基礎造形実習 I（造形） ②基礎造形実習 I（素形材） ②基礎造形実習 I（デザイン） ②基礎造形実習 I（複合造形） ②デザイン概論	②色彩学	①学外見学実習	①学外見学実習					
クロス実習			①プロダクト A ①視覚 A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A	①プロダクト B ①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B					
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論	②現代芸術論 ②描写実習	②美術解剖学 ①美術・工芸特別講義					
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学	②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学			
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論	②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②博物館概論	②スノーブラン	実践的なプロジェクトで 「社会人基礎力」「構想力」 「造形力」を身につける		
第4区分 地域・社会連携系			②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C	②地域協創演習 D			
建築・環境 デザイン学科 科目	基礎力を 身につける	②基礎造形実習 II（描写） ②基礎造形実習 II（造形） ②基礎造形実習 II（素形材） ②基礎造形実習 II（デザイン） ④建築・環境デザイン演習 I ②建築構法 ②建築・環境 CAD 実習	④建築・環境デザイン演習 II ②建築計画 I ②建築材料実験 ②建築・環境 CG 実習 I ②都市計画 ②住宅リフォーム論 ②測量学実習	④建築・環境デザイン演習 III ②構造力学 I ②建築環境工学 ②建築構造 ②建築材料 ②建築計画 II ②緑地環境設計 ②建築・環境 CG 実習 II	発想力を 高める	②建築設計 ②構造力学 II ②建築設備 ②エコロジカルプランニング ②建築法規	②建築施工 ②コミュニティデザイン	想像力と表現 力を高める	
建築・インテリアコース 環境計画・保存コース ゼミ科目					④建築・インテリア演習 I ④環境計画・保存演習 I ②ゼミ I	④建築・インテリア演習 II ④環境計画・保存演習 II ②ゼミ II			
卒業研究						③卒業研究 I	③卒業研究 II	創造力を 発揮する	

●は必修科目
□は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

3-2 授業科目・単位数・担当教員（平成26～29年度入学者）

(1) 教養科目

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	卒業資格 最低単位数			
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年						
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養科目	スポーツ	○		2	■		■		■		■		* 篠田	選択10～14単位 (学科により異なる)		
	保健体育講義	○		2		■		■		■		■	* 篠田			
	社会心理学			2			■		■		■		* 天野(美)			
	日本文化論			2			■		■		■		* 岡本・* ◎黒川・ * 薩摩・* 芹生			
	美術論			2				■		■		■	石原			
	環境と社会			2				■		■		■	* 水流			
	地域文化論			2				■		■		■	* ◎田中(洋)・* 田邊・* 筑波			
	文化人類学			2				■		■		■	* 飯島			
	法学(日本国憲法)			2				■		■		■	* 星野			
	科学技術論			2				■		■		■	* 寺島			
	哲学			2						■		■	菅原			
	言語系	英語中級Ⅰ	○		2	■								菅原	選択必修4 単位	
		英語中級Ⅱ	○		2		■							菅原		
		英語中上級Ⅰ			2	■		■						菅原		
		英語中上級Ⅱ			2		■		■					菅原		
		英語上級Ⅰ			2			■						菅原		
		英語上級Ⅱ			2				■					菅原		
		ソーシャル・スキルズ	英語オーラルコミュニケーションⅠ	○		1	■								バンゴーサム	それ以上は、 教養科目として卒業要件 単位数に含める
			英語オーラルコミュニケーションⅡ	○		1		■							バンゴーサム	
			英語オーラルコミュニケーションⅢ			1	■		■						バンゴーサム・* エドワーズ	
			英語オーラルコミュニケーションⅣ			1		■		■					バンゴーサム・* エドワーズ	
			英語オーラルコミュニケーションⅤ			1	■		■						バンゴーサム・* エドワーズ・ * 木伏・* ドライアー・* ムリノス	
			英語オーラルコミュニケーションⅥ			1		■		■					バンゴーサム・* エドワーズ・ * 木伏・* ドライアー・* ムリノス	
			英語オーラルコミュニケーションⅦ			1	■		■						* 木伏・* レイサム	
			英語オーラルコミュニケーションⅧ			1		■		■					* 木伏・* レイサム	
	英語オーラルコミュニケーションⅨ				1			■						* レイサム		
	英語オーラルコミュニケーションⅩ				1				■					* レイサム		
	キャリアデザイン教育	基礎ゼミⅠ〈基礎ゼミ〉	○	2			■							板垣・市川・◎金山・小松・ 竹田・福本・* 米田	必修5単位	
		基礎ゼミⅡ		1				■						専任教員		
		キャリア計画実習Ⅰ		1					■					◎真壁・* 椎名・* 高橋・ * 横田(和)・* 横部		
		キャリア計画実習Ⅱ		1						■				◎真壁・* 椎名・* 高橋・ * 横田(和)・* 横部		
		論理学	○		2	■		■		■		■		* 市野		
		統計学	○		2	■		■		■		■		* 中山(雅)		
		情報リテラシー	○		2		■		■		■		■	* 横田(秀)		
		現代社会論			2			■		■		■		* 広田(秀)		
		社会起業			2			■		■		■		* 中嶋		
		計		4	52											

注1 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注2 = 授業科目に()が付された科目は平成30年度入学者用科目として授業名が異なる。()が付された科目及び○印の科目の授業概要は、平成30年度以降入学者の授業科目概要を参照すること。なお、パレットには平成30年度以降入学者用の科目名が表示される。

(2) 専門教育科目〔学部共通〕

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門教育科目 学部共通	基礎造形実習Ⅰ(描写)	○	2	■								阿部・石原・池田・池永・市川・遠藤・岡谷・小川(総)・金澤・金山・菅野・菊池・吉川・金・小林・斎藤・境野・白鳥・菅原・鈴木・竹田・土田・津村・手銭・徳久・長瀬・中村・長谷川(克)・長谷川(博)・馬場・ビュラ・平山・福本・真壁・増田・松本・御法川・森・山下・山田・山本・渡辺・奥田・川上(敦)・*柏田・*北村・*佐治・*たかだ(み)・*星・*森崎	◇	必修15単位	
	基礎造形実習Ⅰ(造形)	○	2	■									◇		
	基礎造形実習Ⅰ(素材材)	○	2	■									◇		
	基礎造形実習Ⅰ(デザイン)	○	2	■									◇		
	基礎造形実習Ⅰ(複合造形)	○	2	■									◇		
	デザイン概論	○	2	■								和田			
	色彩学	○	2		■							*三井			
	学外見学実習		1			■	■					専任教員			
	計		15												
	クロス実習	プロダクトA		1			■		■		■		境野		第1～4区分及びクロス実習から 合計16単位／35単位以上(所属学科により異なる)
プロダクトB			1				■		■		■	土田			
視覚A			1			■		■		■		阿部・◎真壁			
視覚B			1				■		■		■	天野・◎金			
美・工A			1			■		■		■		石原			
美・工B			1				■		■		■	◎菅野・手銭			
建築・環境A			1			■		■		■		A-1 ◎小川(峰)・江尻・山下 A-2 ◎小川(総)・菅原・福本・渡辺			
建築・環境B			1				■		■		■	B-1 ◎津村・平山 B-2 川口・◎森			
第1区分	日本美術史	○	2	■								*大倉	第1区分: 美術・工芸系 選択2科目以上		
	西洋美術史	○	2		■							石原			
	形態デザイン論	○	2		■							*三井			
	美術・工芸概論	○	2		■							遠藤・岡谷・菅野・小林・鈴木・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場			
	現代芸術論		2			■						*大倉			
	描写実習		2			■						◎遠藤・*羽川			
	美術解剖学		2				■					*櫻木			
	美術・工芸特別講義		1				■					◎長谷川(克)・*渋谷・*林(範)・*樋田・*丸山(直)			
第2区分	プロダクトデザイン概論	○	2	■								池永・金澤・金山・菊池・◎斎藤・境野・鈴木・土田・増田	第2区分: プロダクト、 視覚系 選択4科目以上		
	視覚デザイン概論	○	2	■								阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビュラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本			
	人間工学	○	2		■							*三村			
	メディア概論		2			■						◎真壁・*大野・*澤・*林(洋)・*松本(祐)・*南・*山田(興)			
	プロダクトデザイン特別講義		1			■						◎斎藤・*上野・*竹原・*田中(啓)・*松本(有)			
	視覚デザイン特別講義		1			■						◎山本・*五島・*川上(典)・*南雲・*山本(貴)			
	商品記号論		2				■					*國澤			
	ユーザインタフェースデザイン論		2				■					*尾田			
	マーケティング論		2				■					*上原			
	広告論		2				■					*嶋田			
	デザイン感性工学		2					■				境野			
	サインデザイン論		2					■				*太田			
	パッケージデザイン演習		4					■				◎長谷川(博)・*大塚(隆)・*大塚(麻)			
	デザインマネジメント		2						■			池永			
知的財産権論		2						■			*本多				
機構学		2						■			*磯部				
第3区分	建築・環境デザイン概論	○	2		■							小川(総)・小川(峰)・江尻・川口・白鳥・菅原・津村・◎平山・福本・森・山下・渡辺	第3区分: 建築・環境系 選択2科目以上		
	都市論		2			■						渡辺			
	インテリア		2			■						川口・◎森			
	空間安全論		2			■						◎福本・*稲垣			
	文化財学概論		2			■						◎津村・*大塚・*武内・*中山(俊)・*西田・*前嶋			
	緑地環境計画		2			■						小川(総)			
	都市デザイン		2				■					白鳥			
	居住論		2				■					山下			
	建築史		2				■					津村・◎平山			
	建築・環境デザイン特別講義		1				■					◎平山・*アラン・*石川(幹)・*伊藤(祐)・*林村(勉)			
	博物館概論		2					■				津村			
	スノープラン		2						■			斎藤・長谷川(克)・ビュラ・平山・山下・*上村・*本吉			
第4区分	地域協創演習A		2			■	■	■	■	■	■	専任教員	第4区分: 地域・社会連携系 選択1科目以上		
	地域協創演習B		2			■	■	■	■	■	■	専任教員			
	地域協創演習C		2				■	■	■	■	■	専任教員			
	地域協創演習D		2				■	■	■	■	■	専任教員			
	インターンシップA		1			■	■	■	■	■	■	専任教員			
	インターンシップB		1			■	■	■	■	■	■	専任教員			
	ボランティア実習A		1			■	■	■	■	■	■	専任教員			
	ボランティア実習B		1			■	■	■	■	■	■	専任教員			
	計		90												

注1＝進級要件について
 第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること。
 注2＝◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師
 注3＝授業科目に〈〉が付された科目は平成30年度入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、平成30年度以降入学者の授業科目概要を参照すること。なお、パレットには平成30年度以降入学者用の科目名が表示される。

(3) 専門教育科目【プロダクトデザイン学科】

区分	授業科目	単位数	履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数			
					第1学年		第2学年		第3学年					第4学年		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				前期	後期	
専門教育科目 [プロダクト デザイン学科共通]	プロダクトコンピュータ基礎演習 ○	2		■								金澤		必修20単位		
	基礎造形実習Ⅱ (描写)	○	2		■								◇			
	基礎造形実習Ⅱ (造形)	○	2		■							池永・金澤・金山・菊池・ ◎齋藤・境野・鈴木・土田・ 増田・専任教員・*若子	◇			
	基礎造形実習Ⅱ (素形材)	○	2		■								◇			
	基礎造形実習Ⅱ (デザイン)	○	2		■								◇			
	プロダクトコンピュータ演習 ○	2		■								金澤				
	プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ	4				■						池永・◎金澤・金山・菊池・齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田	△			
	テキスタイル材料学	2				■						菊池				
	生産技術論	2					■					*齋藤(博)				
	計	20														
	プロダクトスケッチ実習Ⅰ ○	2		■								◎齋藤・池永		選択8単位以上		
	プロダクトスケッチ実習Ⅱ	2				■						◎齋藤・増田				
	プロダクト3DCG演習Ⅰ	2				■						土田				
	選択必修	プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ (A)	4					■					池永・金澤・◎金山・齋藤・境野・ 土田・増田		▲	選択必修4単位 それ以上は自由選 択科目として卒業 要件には含まない
		プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ (B)	4						■				菊池・◎鈴木・専任教員		▲	
	プロダクトCAD演習	2						■					金山・◎土田			
	プロダクト3DCG演習Ⅱ	2							■				土田			
	ファッション画実習	2							■				*金石			
テキスタイル・ファッションCAD演習	2							■				*安永・◎山本(正)				
専門教育科目 コース別	デザインコース	プロダクトデザイン演習Ⅰ	4						■			池永・金澤・金山・齋藤・境野・ ◎土田・増田	◆	演習Ⅰ、Ⅱを 通して8単位		
		プロダクトデザイン演習Ⅱ	4							■		池永・金澤・金山・齋藤・◎境野・ 土田・増田	◆			
	テキスタイル・ ファッション デザインコース	テキスタイル・ファッション演習Ⅰ	4						■			菊池・◎鈴木・*川越	◆			
		テキスタイル・ファッション演習Ⅱ	4							■		菊池・◎鈴木・専任教員	◆			
	計	16														
	ゼミⅠ	2								■		池永・金澤・金山・菊池・ ◎齋藤・境野・鈴木・土田・増田			必修4単位	
ゼミⅡ	2									■	池永・金澤・金山・菊池・ ◎齋藤・境野・鈴木・土田・増田・ 専任教員					
計	4															
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ	3									■	池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田・*川越		必修6単位		
	卒業研究Ⅱ	3									■	池永・金澤・金山・菊池・ ◎齋藤・境野・鈴木・土田・増田・ 専任教員				
	計	6														

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件: ◇印の科目の単位をすべて修得すること

第3学年進級要件: △印の科目及び▲印の科目のうち1科目、計2科目の8単位をすべて修得すること

第4学年進級要件: ◆印の科目の単位をすべて修得すること

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に〈〉が付された科目は平成30年度入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、平成30年度以降入学者の授業科目概要を参照すること。なお、パレットには平成30年度以降入学者用の科目名が表示される。

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

(4) 専門教育科目【視覚デザイン学科】

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数		
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年						
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				前期	後期
専門教育科目 [視覚デザイン学科共通]	視覚コンピュータ基礎演習	○	2		■								金・◎徳久・ビューラ・真壁		必修26単位	
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	○	2			■							阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本・*川崎・*高島・*ただかだ(み)・*原田・*HARUKI	◇		
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	○	2			■							◎金・徳久・ビューラ・真壁	◇		
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	○	2			■							◎山本・*川崎・*高島・*ただかだ(み)・*原田・*HARUKI	◇		
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	○	2			■							◎金・徳久・ビューラ・真壁	◇		
	視覚コンピュータⅠ	○	2			■							◎金・徳久・ビューラ・真壁			
	視覚デザイン基礎演習Ⅰ		4				■						阿部・◎池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・山本・*迫・*さとう(り)・*古屋・*三田村	▽		
	視覚コンピュータⅡ		4				■						徳久・◎真壁・*矢尾板			
	視覚デザイン基礎演習Ⅱ		4					■					阿部・◎池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・山本・*迫・*さとう(り)・*古屋	▽		
	ポートフォリオ		2						■	■			阿部・天野・◎池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・山本			
	計		26													
	選択必修①	写真映像基礎			4			■						阿部・ビューラ・◎松本・山田・*佐藤(誠)・*長谷川(隆)	△	選択必修4単位
		描写表現基礎			4			■						長瀬・◎御法川・*内堀	△	
	選択必修②	タイポグラフィ基礎			4			■						◎天野・吉川・*阿部(宏)	△	
	Webデザイン			4					■					徳久・◎真壁・*中西・*村山(直)・*矢尾板	▲	
	DTP			4				■						◎天野・金・*関谷	▲	
	タイポグラフィ			4				■						◎天野・吉川・*阿部(宏)	▲	
	写真映像			4				■						阿部・◎ビューラ・松本・山田	▲	
	描写表現			4				■						◎御法川・長瀬・長谷川(博)・*内堀	▲	
	インフォメーションデザイン			4							■			吉川・◎真壁・*真野・*木村(博)		
	アニメーション・モーショングラフィックス			4						■				◎ビューラ・*万年		
	ヴィジュアルアイデンティティ			4						■				◎山本・*太田		
	Web・エディトリアルデザイン			4							■			◎天野・徳久・真壁		
	コマーシャル演習			4							■			◎長谷川(博)・山田・*平		
	計			52												
専門教育科目 コース別	伝達デザイン コース	伝達デザイン演習Ⅰ		4						■			阿部・天野・吉川・金・長瀬・真壁・山田・◎山本・*相澤・*石川(竜)・*嶋田・*角田	◆	演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位	
		伝達デザイン演習Ⅱ		4							■		阿部・天野・吉川・金・長瀬・真壁・山田・◎山本・*相澤・*石川(竜)	◆		
	表現デザイン コース	表現デザイン演習Ⅰ		4					■			池田・徳久・長谷川(博)・ビューラ・◎松本・御法川・*伊藤(彰)・*大西・*五島・*早園・*本間	◆			
		表現デザイン演習Ⅱ		4							■		池田・徳久・長谷川(博)・ビューラ・◎松本・御法川・*安斎・*伊藤(彰)・*大塚(い)・*大西・*川上(典)・*木場・*シミズダニ・*丸山(晶)・*山本(裕)・*若子	◆		
	計			16												
	ゼミⅠ		2								■		阿部・天野・池田・金・吉川・◎長谷川(博)・徳久・*宇波・*吹田			必修4単位
ゼミⅡ		2									■	長瀬・ビューラ・松本・御法川・山田・◎山本・真壁・*相澤				
計		4														
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ		3									■	■	阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本	必修6単位	
	卒業研究Ⅱ		3									■	■	阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本		
	計		6													

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件：▽印の2科目及び△印の科目のうち1科目、▲科目のうち2科目をすべて修得する

第4学年進級要件：◆印の科目の単位をすべて修得する

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に〈 〉が付された科目は平成30年度入学者用科目として授業名が異なる。〈 〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、平成30年度以降入学者の授業科目概要を参照すること。なお、パレットには平成30年度以降入学者用の科目名が表示される。

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

(5) 専門教育科目 [美術・工芸学科]

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年				
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門教育科目 [美術・工芸学科共通]	美術・工芸コンピュータ基礎演習 ○	2		■								池永		必修32単位
	基礎造形実習Ⅱ (描写) ○	2			■							遠藤・岡谷・菅野・小林・鈴木・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場・*奥田・*柏田・*川上(敦)・*川崎・*北村・*佐治・*星・*森崎	◇	
	基礎造形実習Ⅱ (造形) ○	2			■								◇	
	基礎造形実習Ⅱ (素形材) ○	2			■								◇	
	基礎造形実習Ⅱ (デザイン) ○	2			■								◇	
	美術・工芸コンピュータ演習 ○	2			■							池永		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ (A)	4				■						遠藤・◎岡谷・*ミーヨン	△	
	美術・工芸基礎演習Ⅰ (B)	4				■						◎小林・長谷川(克)・*新村	△	
	美術・工芸基礎演習Ⅰ (C)	4				■						菅野・手銭・◎中村	△	
	美術・工芸基礎実習Ⅱ	4					■					石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場・*杉原・*下山・*中安	△	
	美術・工芸材料学	2					■					菅野・菊池・手銭・中村・◎長谷川(克)・*秋本・*井波・*岩崎(靖)・*楠八重・*平賀・*森田		
	古美術研究	2					■					石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場・*伊藤(哲)・*和田(正)		
	計	32												
	プロダクトスケッチ実習Ⅰ ○	2			■							◎齋藤・池永		選択10単位以上
	表示図法	2				■						* 齋藤(博)		
	プロダクトスケッチ実習Ⅱ	2				■						◎齋藤・増田		
	プロダクト3D C G 演習Ⅰ	2				■						土田		
	生産技術論	2					■					* 齋藤(博)		
	プロダクト C A D 演習	2					■					金山・◎土田		
	プロダクト3D C G 演習Ⅱ	2					■					土田		
	美術・工芸・デザイン分析	2							■			◎馬場・*浅賀・*扇原・*溝川・*加藤・*日野		
	美術工芸史	2							■			* 林(克)		
	計		18											
専門教育科目 コース別	美術表現 コース	美術表現演習Ⅰ		4					■			遠藤・岡谷・◎小林・*塩谷・*嶋崎	◆	演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位
		美術表現演習Ⅱ		4						■		遠藤・◎岡谷・小林・*新村	◆	
	クラフト デザインコース	クラフトデザイン演習Ⅰ		4					■			菅野・手銭・◎中村・長谷川(克)・馬場・*井上・*齋藤(直)	◆	
		クラフトデザイン演習Ⅱ		4							■	菅野・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場・*石渡・*気賀澤	◆	
	計			16										
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ		2						■			石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場	◆	必修4単位
	ゼミⅡ		2							■		石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場	◆	
	計		4											
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ		3								■	■	石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場	必修6単位
	卒業研究Ⅱ		3								■	■	石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場	
	計		6											

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件: ◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件: △印の科目の単位をすべて修得する

第4学年進級要件: ◆印の科目の単位をすべて修得する

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に〈 〉が付された科目は平成30年度入学者用科目として授業名が異なる。〈 〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、平成30年度以降入学者の授業科目概要を参照すること。なお、パレットには平成30年度以降入学者用の科目名が表示される。

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

(6) 専門教育科目 [建築・環境デザイン学科]

[illegible]

注 1 = 進級要件について

第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件：△印の3科目のうち、2科目修得する

第4学年進級要件：△印の3科目及び◆印の2科目のうち4科目を修得する

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3＝授業科目に〈〉が付された科目は平成30年度入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、平成30年度以降入学者の授業科目概要を参照すること。なお、パレットには平成30年度以降入学者用の科目名が表示される。

学芸員課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（平成26～29年度入学者）

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	資格取得 最低単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年				
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
学芸員科目	生涯学習概論	2						■					* 相庭	必修21単位
	博物館概論	2						■					津村	
	博物館経営論	2							■				* 浅井(俊)	
	博物館資料論	2							■				◎石原・* 小熊・* 広井	
	博物館資料保存論	2						■					◎石原・津村・小川(総)	
	博物館展示論	2							■				◎森・* 長澤	
	博物館情報・メディア論	2						■					◎石原・* 浅井(勝)・* 松浦	
	博物館教育論	2							■				* 山本(哲)	
	博物館実習	3								■			◎石原・境野・津村・長瀬・中村・平山・御法川	
	デザイン概論	○ 2		■									和田	
	計	21												
	プロダクトデザイン概論	○	2	■									池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・境野・鈴木・土田・増田	選択1科目以上 2単位以上
	視覚デザイン概論	○ 2	■										阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本	
	美術・工芸概論	○ 2		■									遠藤・岡谷・菅野・小林・鈴木・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場	
	建築・環境デザイン概論	○ 2		■									小川(総)・小川(峰)・江尻・川口・白鳥・菅原・津村・◎平山・福本・森・山下・渡辺	
	計	8												
	日本文化論		2			■							* 岡本・* ◎黒川・* 薩摩・* 芹生	選択2科目以上 4単位以上
	美術論		2				■		■		■		石原	
	地域文化論		2				■		■		■		* ◎田中(洋)・* 田邊・* 筑波	
	文化人類学		2				■						* 飯島	
	日本美術史	○ 2	■										* 大倉	
	西洋美術史	○ 2		■									石原	
	文化財学概論		2			■							◎津村・* 大楽・* 武内・* 中山(俊)・* 西田・* 前嶋	
	建築史		2				■						津村・◎平山	
	測量学実習		2			■							平山・◎渡辺・* 可兒・* 渡邊(信)	
	計		18											

注1 = 網掛けした科目は、学芸員課程受講者のみが履修する科目。また、3年次のみ履修可能。

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に〈 〉が付された科目は平成30年度入学者用科目として授業名が異なる。〈 〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、平成30年度以降入学者の授業科目概要を参照すること。なお、バレットには平成30年度以降入学者用の科目名が表示される。

教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（美術・工芸学科平成26～29年度入学者）

区分	授業科目		単位数 (中学校一 種(美術))		単位数 (高校一 種(美術))		単位数 (高校一 種(工芸))		履修学年								担当教員	資格取得 最低単位数		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
教科に関する 科目	基礎造形実習Ⅰ(描写)	○	2	2					■								(略)	中美:必修10単位 高美:必修10単位		
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	○	2	2						■							(略)			
	美術・工芸コンピュータ演習	○	2	2						■							池永			
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(A)		4	4							■						遠藤・◎岡谷・*ミーヨン			
	表示図法						2				■						*齋藤(博)	高工:必修2単位		
	基礎造形実習Ⅰ(造形)	○	2	2					■									(略)	中美:必修8単位	
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	○	2	2						■								(略)	高美:必修8単位	
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(B)		4	4							■							◎小林・長谷川(克)・*新村		
	基礎造形実習Ⅰ(デザイン)	○	2	2			2		■									(略)	中美:必修6単位	
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	○	2	2			2			■								(略)	高美:必修6単位	
	美術・工芸・デザイン分析		2	2			2						■					◎馬場・*浅賀・*扇原・*加藤・ *日野・*溝川	高工:必修6単位	
	基礎造形実習Ⅰ(素形材)	○	2				2		■									(略)	中美:必修8単位	
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	○	2				2			■								(略)	高工:必修8単位	
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(C)		4				4				■							菅野・手銭・◎中村		
	美術論		2	2								■			■			石原	中美:必修14単位 高美:必修14単位 高工:必修10単位	
	デザイン概論	○					2		■									和田		
	日本美術史	○	2	2					■									*大倉		
	西洋美術史	○	2	2						■								石原		
	色彩学	○					2			■									*三井	
	現代芸術論		2	2							■								*大倉	
	美術・工芸概論	○	2	2			2			■									遠藤・岡谷・菅野・小林・鈴木・手銭・ 中村・◎長谷川(克)・馬場	
	美術解剖学		2	2								■							*櫻木	
	美術・工芸材料学		2	2			2					■							菅野・菊池・手銭・中村・◎長谷川(克)・*秋本・ *井波・*岩崎(靖)・*楠八重・*平賀・*森田	
	美術工芸史						2							■					*林(克)	
	計		46	38			26													
教職に関する 科目	教職入門		2	2			2				■							竹田	必修2単位	
	教育原理		2	2			2					■						竹田	必修6単位	
	教育心理学		2	2			2				■							*中村(恵)		
	教育に関する社会的・制度的・経営的研究		2	2			2						■					竹田		
	教育課程の編成と実際		2	2			2				■							竹田	中美:必修20単位 高美:必修18単位 高工:必修18単位	
	美術科指導法		8	8			8						■					市川		
	工芸指導法		4	4			4							■			市川			
	道徳指導法		2									■					市川			
	特別活動指導法		2	2			2				■							*岩崎(保)		
	教育方法・技術		2	2			2								■			竹田		
	生徒・進路指導		2	2			2				■							*中村(恵)	必修4単位	
	教育相談		2	2			2						■					*伊藤(敦)		
	事前・事後指導		1	1			1									■		市川・◎竹田		
	教育実習Ⅰ		2	2			2									■		市川・◎竹田		
	教育実習Ⅱ		2				2	2									■		市川・◎竹田	高工:必修3単位
	教職実践演習(中・高)		2	2			2										■		市川・◎竹田	必修2単位
	計		39	35	2	35	2													
教育職員免許 法施行規則 第66条の6に 定める科目	法学(日本国憲法)		2		2		2					■		■		■		*星野	必修2単位	
	スポーツ	○		2		2		2	■		■		■		■		■	*篠田	選択2単位以上	
	保健体育講義	○		2		2		2		■		■		■		■		*篠田		
	英語中級Ⅰ	○		2		2		2	■									菅原	選択2単位以上	
	英語中級Ⅱ	○		2		2		2		■								菅原		
	英語中上級Ⅰ			2		2		2	■		■							菅原		
	英語中上級Ⅱ			2		2		2		■		■						菅原		
	英語オーラルコミュニケーションⅠ	○	1		1		1	■	■									バンゴーサム		
	英語オーラルコミュニケーションⅡ	○	1		1		1			■								バンゴーサム		
	英語オーラルコミュニケーションⅢ		1		1		1	■		■								バンゴーサム・*エドワーズ		
	英語オーラルコミュニケーションⅣ		1		1		1		■		■							バンゴーサム・*エドワーズ		
	英語オーラルコミュニケーションⅤ		1		1		1	■		■								バンゴーサム・*エドワーズ・ *木伏・*ドライアー・*ムリノス		
	英語オーラルコミュニケーションⅥ		1		1		1		■		■							バンゴーサム・*エドワーズ・ *木伏・*ドライアー・*ムリノス		
	英語オーラルコミュニケーションⅦ		1		1		1	■		■								*木伏・*レイサム		
	英語オーラルコミュニケーションⅧ		1		1		1		■		■							*木伏・*レイサム		
	美術・工芸コンピュータ基礎演習	○	2		2		2		■									池永	必修2単位	
	計		4	20	4	20	4	20												

注1＝中美は中学校一種(美術)、高美は高等学校一種(美術)、高工は高等学校一種(工芸)の略

注2＝◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3＝授業科目に〈〉が付された科目は平成30年度入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、平成30年度以降入学者の授業科目概要を参照すること。なお、パレットには平成30年度以降入学者用の科目名が表示される。

注4＝網掛けした科目は、教職課程受講者のみが履修する科目。

3-3 進級要件・卒業要件（平成26～29年度入学者）

【プロダクトデザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ・Ⅱ」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ」(1科目4単位)及び「プロダクトデザイン基礎演習Ⅱ(A)・(B)」のうち、どちらか1科目(4単位)の、計2科目8単位を修得していること。
4年次進級要件	3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの2科目8単位を修得していること。

●卒業要件

区分			1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン	必修	5	5	
	言語系	選択必修	22		4
		選択	32		14
小計				5	18
専門教育科目	学部共通	必修	15	15	
		選択	90		36
	学科共通	必修	20	20	
		選択必修	8		4
		選択	14		8
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
	卒業研究	必修	6	6	
小計				53	48
				58	66
合計					124

※学部共通選択科目は、第1、第3区分から各2科目以上、第2区分から4科目以上、第4区分から1科目以上、合計36単位を修得する必要がある。

【視覚デザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ・Ⅱ」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「視覚デザイン基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(2科目8単位)及び区分「選択必修①」から1科目(4単位)、区分「選択必修②」から2科目(8単位)の、計5科目20単位を修得していること。
4年次進級要件	3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの2科目8単位を修得していること。

●卒業要件

区分			1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン	必修	5	5	
	言語系	選択必修	22		4
		選択	32		14
小計				5	18
専門教育科目	学部共通	必修	15	15	
		選択	90		22
	学科共通	必修	26	26	
		選択必修①	12		4
		選択必修②	20		8
		選択	8		8
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
	卒業研究	必修	6	6	
小計				59	42
				64	60
合計					124

※学部共通選択科目は、第1、第3区分から各2科目以上、第2区分から4科目以上、第4区分から1科目以上、合計22単位を修得する必要がある。

【美術・工芸学科】

●進級要件

学年	進級要件
2 年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ・Ⅱ」の9科目18単位をすべて修得していること。
3 年次進級要件	「美術・工芸基礎演習Ⅰ(A)(B)(C)」及び「美術・工芸基礎実習Ⅱ」の4科目16単位を修得していること。
4 年次進級要件	3 年次のコース別演習Ⅰ・ⅡおよびゼミⅠ・Ⅱの4科目12単位を修得していること。

●卒業要件

区分			第1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン 言語系	必修	5	5	
		選択必修	22		4
		選択	32		12
小計				5	16
専門教育科目	学部共通	必修	15	15	
		選択	90		30
	学科共通	必修	32	32	
		選択	18		10
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
	卒業研究	必修	6	6	
小計				65	40
				70	56
合計					126

※学部共通選択科目は、第1、第3区分から各2科目以上、第2区分から4科目以上、第4区分から1科目以上、合計30単位を修得する必要がある。

【建築・環境デザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2 年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ・Ⅱ」の9科目18単位をすべて修得していること。
3 年次進級要件	「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の3科目のうちから2科目8単位以上を修得していること。
4 年次進級要件	「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」および「3 年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱ」の5科目20単位のうちから、4科目16単位以上を修得していること。

●卒業要件

区分			第1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン 言語系	必修	5	5	
		選択必修	22		4
		選択	32		10
小計				5	14
専門教育科目	学部共通	必修	15	15	
		選択	90		18
	学科共通	必修	42	42	
		選択	28		16
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
	卒業研究	必修	6	6	
小計				75	34
				80	48
合計					128

※学部共通選択科目は、第1、第3区分から各2科目以上、第2区分から4科目以上、第4区分から1科目以上、合計18単位を修得する必要がある。

4 平成30年度以降入学者カリキュラムの教育課程

4-1 カリキュラム体系（平成30年度以降入学者）

プロダクトデザイン学科カリキュラムフロー

コース配属															
1 年次		進級要件		2 年次		進級要件		3 年次		進級要件		4 年次		卒業要件	
前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
教養科目	②スポーツ		②保健体育講義		②社会心理学 ②日本文化論		②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論				②哲学				
言語系	②英語中級Ⅰ ②英語中上級Ⅰ		②英語中級Ⅱ ②英語中上級Ⅱ		②英語上級Ⅰ		②英語上級Ⅱ		社会人基礎力の養成						
ソーシャル・スキルズ	①英語オーラルコミュニケーションⅠ ①英語オーラルコミュニケーションⅢ ①英語オーラルコミュニケーションⅤ ①英語オーラルコミュニケーションⅦ		①英語オーラルコミュニケーションⅡ ①英語オーラルコミュニケーションⅣ ①英語オーラルコミュニケーションⅥ ①英語オーラルコミュニケーションⅧ												
	②論理学 ②統計学		②情報リテラシー		②現代社会論 ②社会起業						卒業後の進路を明確にする				
	キャリアデザイン教育		②基礎ゼミ				①キャリア計画実習Ⅰ		①キャリア計画実習Ⅱ						
専門教育科目 〔学部共通〕	②基礎造形実習Ⅰ（描写） ②基礎造形実習Ⅰ（造形） ②基礎造形実習Ⅰ（素形材） ②基礎造形実習Ⅰ（デザイン） ②基礎造形実習Ⅰ（複合造形） ②デザイン概論		造形の基礎力を養成										専門的・横断的な知識を身につける		
クロス実習			②色彩学		①プロダクト A ①視覚 A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A		①プロダクト B ①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B								
第 1 区分 美術・工芸系	②日本美術史		②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論		②現代芸術論		②美術解剖学 ①美術・工芸特別講義								
第 2 区分 プロダクト・視覚系	②視覚デザイン概論		②人間工学		②メディア概論 ①視覚デザイン特別講義		②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論		②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習		②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学				
第 3 区分 建築・環境系			②建築・環境デザイン概論		②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画		②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義		②博物館概論		②スノーブラン 実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける				
第 4 区分 地域・社会連携系					②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A		②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B		②地域協創演習 C		②地域協創演習 D				
プロダクト デザイン学科 科目	②プロダクトデザイン概論 ②プロダクトコンピュータ基礎演習		②基礎造形実習Ⅱ（描写） ②基礎造形実習Ⅱ（造形） ②基礎造形実習Ⅱ（素形材） ②基礎造形実習Ⅱ（デザイン） ②プロダクトコンピュータ演習 ②プロダクトスケッチ実習Ⅰ		①プロダクトデザイン特別講義 ④プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ ②プロダクト材料学		④プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(A) ④プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(B) ②生産技術論		発想力を鍛える						
					②プロダクトスケッチ実習Ⅱ ②プロダクト 3DCG 演習Ⅰ		②プロダクト CAD 演習 ②プロダクト 3DCG 演習Ⅱ ②ファッション画実習 ②テキスタイル・ファッション CAD 演習		技術力を身につける				発想力を鍛える		
プロダクトデザインコース テキスタイル・ファッションコース ゼミ科目									④プロダクトデザイン演習Ⅰ ④テキスタイル・ファッション演習Ⅰ ②ゼミⅠ		④プロダクトデザイン演習Ⅱ ④テキスタイル・ファッション演習Ⅱ ②ゼミⅡ				
卒業研究											③卒業研究Ⅰ		③卒業研究Ⅱ		

●は必修科目

□は選択必修科目

○は選択科目

科目名が赤色：進級要件にかかわる科目

数字は単位数

視覚デザイン学科カリキュラムフロー

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

1 年次												2 年次												3 年次												4 年次																																																																																																																																																																																																											
前期						後期						前期						後期						前期						後期						前期						後期																																																																																																																																																																																																					
教養科目																								②スポーツ																								②保健体育講義																								②社会心理学 ②日本文化論																								②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論																								②哲学																																																																																																																							
言語系																								②英語中級Ⅰ ②英語中上級Ⅰ																								②英語中級Ⅱ ②英語中上級Ⅱ																								②英語上級Ⅰ																								②英語上級Ⅱ																								社会人基礎力の養成																																																																																																																							
ソーシャル・スキルズ																								①英語オーラルコミュニケーションⅠ ①英語オーラルコミュニケーションⅢ ①英語オーラルコミュニケーションⅤ ①英語オーラルコミュニケーションⅦ																								①英語オーラルコミュニケーションⅡ ①英語オーラルコミュニケーションⅣ ①英語オーラルコミュニケーションⅥ ①英語オーラルコミュニケーションⅧ																																																																																																																																																																																															
キャリアデザイン教育																								②論理学 ②統計学																								②情報リテラシー																								②現代社会論 ②社会起業																																																卒業後の進路を明確にする																																																																																																																							
																								②基礎ゼミ																																																①キャリア計画実習Ⅰ																								①キャリア計画実習Ⅱ																																																																																																																																															
専門教育科目 〔学部共通〕																								②基礎造形実習Ⅰ（描写） ②基礎造形実習Ⅰ（造形） ②基礎造形実習Ⅰ（素形材） ②基礎造形実習Ⅰ（デザイン） ②基礎造形実習Ⅰ（複合造形） ②デザイン概論																								造形の基礎力を養成																																																																																																																								専門的・横断的な知識を身につける																																																																							
クロス実習																																																②色彩学																																																①プロダクト A ①視覚 A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A																								①プロダクト B ①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B																																																																																																																							
第1区分 美術・工芸系																								②日本美術史																								②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論																								②現代芸術論																								①プロダクト B ①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B																								②美術解剖学 ①美術・工芸特別講義																																																																																																																							
第2区分 プロダクト・視覚系																								②プロダクトデザイン概論																								②人間工学																								②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義																								②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論																								②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習																								②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学																																																																																															
第3区分 建築・環境系																																																②建築・環境デザイン概論																								②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画																								②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義																								②博物館概論																								②スノーブラン																								実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける																																																																							
第4区分 地域・社会連携系																																																																								②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A																								②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B																								②地域協創演習 C																								②地域協創演習 D																																																																																															
視覚デザイン 学科科目																								②視覚デザイン概論 ②視覚コンピュータ基礎演習																								②基礎造形実習Ⅱ（描写） ②基礎造形実習Ⅱ（造形） ②基礎造形実習Ⅱ（素形材） ②基礎造形実習Ⅱ（デザイン） ②視覚コンピュータⅠ																								①視覚デザイン特別講義 ④視覚コンピュータⅡ ④写真 ④描写基礎 ④映像Ⅰ																								④WEBデザイン ④タイポグラフィ ④映像Ⅱ ④描写表現 ②視覚デザイン論 ④視覚デザイン基礎演習Ⅱ																								④サウンドデザイン																								④コマーシャル演習																								技術力を身につける																																																																							
伝達デザインコース 表現デザインコース ゼミ科目																																																																								④視覚デザイン基礎演習Ⅰ																																																④伝達デザイン演習Ⅰ ④表現デザイン演習Ⅰ ②ゼミⅠ																								④伝達デザイン演習Ⅱ ④表現デザイン演習Ⅱ ②ゼミⅡ																								考える力を身につける																																																																							
卒業研究																																																																																																																								③卒業研究Ⅰ																								③卒業研究Ⅱ																								創造力を発揮する																																																																							

●は必修科目
□は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

	1 年次		進級要件	2 年次		進級要件	3 年次		進級要件	4 年次		卒業要件
	前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期	
教養科目	②スポーツ	②保健体育講義		②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論			②哲学				
言語系	②英語中級Ⅰ ②英語中上級Ⅰ	②英語中級Ⅱ ②英語中上級Ⅱ		②英語上級Ⅰ	②英語上級Ⅱ		社会人基礎力の養成					
ソーシャル・スキルズ	①英語オーラルコミュニケーションⅠ ①英語オーラルコミュニケーションⅢ ①英語オーラルコミュニケーションⅤ ①英語オーラルコミュニケーションⅦ	①英語オーラルコミュニケーションⅡ ①英語オーラルコミュニケーションⅣ ①英語オーラルコミュニケーションⅥ ①英語オーラルコミュニケーションⅧ										
	②論理学 ②統計学	②情報リテラシー		②現代社会論 ②社会起業				卒業後の進路を明確にする				
キャリアデザイン教育		②基礎ゼミ			①キャリア計画実習Ⅰ		①キャリア計画実習Ⅱ					
専門教育科目 〔学部共通〕	②基礎造形実習Ⅰ（描写） ②基礎造形実習Ⅰ（造形） ②基礎造形実習Ⅰ（素形材） ②基礎造形実習Ⅰ（デザイン） ②基礎造形実習Ⅰ（複合造形） ②デザイン概論	造形の基礎力を養成								専門的・横断的な知識を身につける		
クロス実習		②色彩学		①プロダクト A ①視覚 A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A	①プロダクト B ①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B							
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論		②現代芸術論	②美術解剖学							
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学		②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論		②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学				
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論		②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義		②博物館概論	②スノーブラン	実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける			
第4区分 地域・社会連携系				②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B		②地域協創演習 C	②地域協創演習 D				
美術・工芸 学科科目	基礎力・発想力を身につける	②基礎造形実習Ⅱ（描写） ②基礎造形実習Ⅱ（造形） ②基礎造形実習Ⅱ（素形材） ②基礎造形実習Ⅱ（デザイン） ②美術・工芸コンピュータ基礎演習		④美術・工芸基礎演習Ⅰ（絵画） ④美術・工芸基礎演習Ⅰ（彫刻） ④美術・工芸基礎演習Ⅰ（工芸） ④美術・工芸基礎演習Ⅰ（複合） ②表示図法 ②プロダクトスケッチ実習Ⅱ ②プロダクト3DCG演習Ⅰ	①美術・工芸特別講義 ④美術・工芸基礎演習Ⅱ ②美術・工芸材料学 ④描写表現 ②古美術研究 ②生産技術論 ②プロダクトCAD演習 ②プロダクト3DCG演習Ⅱ		②美術・工芸・デザイン分析 ②美術工芸史		確かな造形力を身につける			
美術表現コース クラフトデザインコース ゼミ科目							④美術表現演習Ⅰ ④クラフトデザイン演習Ⅰ ②ゼミⅠ	④美術表現演習Ⅱ ④クラフトデザイン演習Ⅱ ②ゼミⅡ				創造力を発揮する
卒業研究										③卒業研究Ⅰ	③卒業研究Ⅱ	
教職に関する 科目				②教職入門 ②教育心理学 ②教育課程の編成と実際 ②生徒・進路指導 ②特別活動指導法	②教育原理 ②道徳指導法		③美術科指導法 ②教育に関する社会的・制度的・経営的研究 ②教育相談	④工芸指導法 ②教育方法・技術		①事前・事後指導 ②教育実習Ⅰ ②教育実習Ⅱ	②教職実践演習（中・高）	

●は必修科目
□は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

1 年次			2 年次		3 年次		4 年次	
前期		後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
進級要件			進級要件			進級要件	卒業要件	
教養科目	②スポーツ	②保健体育講義	②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論		②哲学		
言語系	②英語中級Ⅰ ②英語中上級Ⅰ	②英語中級Ⅱ ②英語中上級Ⅱ	②英語上級Ⅰ	②英語上級Ⅱ	社会人基礎力の養成			
ソーシャル・スキルズ	①英語オーラルコミュニケーションⅠ ①英語オーラルコミュニケーションⅢ ①英語オーラルコミュニケーションⅤ ①英語オーラルコミュニケーションⅦ	①英語オーラルコミュニケーションⅡ ①英語オーラルコミュニケーションⅣ ①英語オーラルコミュニケーションⅥ ①英語オーラルコミュニケーションⅧ						
キャリアデザイン教育	②論理学 ②統計学	②情報リテラシー	②現代社会論 ②社会起業	①キャリア計画実習Ⅰ	①キャリア計画実習Ⅱ	卒業後の進路を明確にする		
専門教育科目 [学部共通]	②基礎造形実習Ⅰ（描写） ②基礎造形実習Ⅰ（造形） ②基礎造形実習Ⅰ（素形材） ②基礎造形実習Ⅰ（デザイン） ②基礎造形実習Ⅰ（複合造形） ②デザイン概論	造形の基礎力を養成					専門的・横断的な知識を身につける	
クロス実習		②色彩学	①プロダクト A ①視覚 A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A	①プロダクト B ①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B				
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論	②現代芸術論	②美術解剖学 ①美術・工芸特別講義				
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学	②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学		
第3区分 建築・環境系			②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史	②博物館概論	②スノーブラン 実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける		
第4区分 地域・社会連携系			②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C	②地域協創演習 D		
建築・環境 デザイン学科 科目	基礎力を身につける	②基礎造形実習Ⅱ（描写） ②基礎造形実習Ⅱ（造形） ②基礎造形実習Ⅱ（素形材） ②基礎造形実習Ⅱ（デザイン） ④建築・環境デザイン演習Ⅰ ②基礎数学 ②製図実習 ②建築・環境コンピュータ基礎演習	④建築・環境デザイン演習Ⅱ ②建築計画Ⅰ ②建築材料実験 ②建築・環境 CAD 実習 ②建築 CG 実習Ⅰ ②都市計画 ②住宅リフォーム論 ②測量学実習	④建築・環境デザイン演習Ⅲ ①建築・環境デザイン特別講義 ②構造力学Ⅰ ②建築環境工学 ②建築構造 ②建築材料 ②建築計画Ⅱ ②緑地環境設計 ②建築・環境 CG 実習Ⅱ	発想力を高める	②建築設計 ②構造力学Ⅱ ②建築設備 ②エコロジカルプランニング ②建築法規	②建築施工 ②コミュニティデザイン	想像力と表現力を高める
建築・インテリアコース 環境計画・保存コース ゼミ科目				①建築・インテリア演習Ⅰ ①環境計画・保存演習Ⅰ ②ゼミⅠ	①建築・インテリア演習Ⅱ ①環境計画・保存演習Ⅱ ②ゼミⅡ			創造力を発揮す
卒業研究						③卒業研究Ⅰ	③卒業研究Ⅱ	

●は必修科目
□は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

4-2 授業科目・単位数・担当教員（平成30年度以降入学者）

(1) 教養科目

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	卒業資格 最低単位数			
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年						
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養	スポーツ		2	■		■		■		■		■	*篠田	選択10～14単位 (学科により異なる)		
	保健体育講義		2		■		■		■		■	*篠田				
	社会心理学		2			■		■		■		*天野(美)				
	日本文化論		2			■		■		■		*岡本・*◎黒川・*薩摩・*芹生				
	美術論		2				■		■		■	石原				
	環境と社会		2				■		■		■	*水流				
	地域文化論		2				■		■		■	*◎田中(洋)・*田邊・*筑波				
	文化人類学		2				■		■		■	*飯島				
	法学（日本国憲法）		2				■		■		■	*星野				
	科学技術論		2				■		■		■	*寺島				
	哲学		2						■		■	菅原				
	言語系	英語中級Ⅰ		2	■								菅原	選択必修4単位		
		英語中級Ⅱ		2		■							菅原			
		英語中上級Ⅰ		2	■		■						菅原			
		英語中上級Ⅱ		2		■		■					菅原			
		英語上級Ⅰ		2			■						菅原			
		英語上級Ⅱ		2				■					菅原			
		ソーシャル・スキルズ	英語オーラルコミュニケーションⅠ		1	■								バンゴースム	それ以上は、 教養科目として 卒業要件 単位数に含める	
			英語オーラルコミュニケーションⅡ		1		■							バンゴースム		
			英語オーラルコミュニケーションⅢ		1	■		■						バンゴースム・*エドワーズ		
			英語オーラルコミュニケーションⅣ		1		■		■					バンゴースム・*エドワーズ		
	英語オーラルコミュニケーションⅤ			1	■		■						バンゴースム・*エドワーズ・ *木伏・*ドライアー・*ムリノス			
	英語オーラルコミュニケーションⅥ			1		■		■					バンゴースム・*エドワーズ・ *木伏・*ドライアー・*ムリノス			
	英語オーラルコミュニケーションⅦ			1	■		■						*木伏・*レイサム			
	英語オーラルコミュニケーションⅧ			1		■		■					*木伏・*レイサム			
	キャリアデザイン教育		基礎ゼミ		2			■						板垣・市川・◎金山・ 小松・竹田・福本・*米田		必修4単位
			キャリア計画実習Ⅰ		1					■				◎キャリアデザインセンター長・ *椎名・*高橋・*横田(和)・*横部		
		キャリア計画実習Ⅱ		1						■			◎キャリアデザインセンター長・ *椎名・*高橋・*横田(和)・*横部			
		論理学		2	■		■		■		■		*市野			
		統計学		2	■		■		■		■		*中山(雅)			
		情報リテラシー		2		■		■		■		■	*横田(秀)			
		現代社会論		2			■		■		■		*広田(秀)			
	社会起業		2			■		■		■		*中嶋				
	計		4	52												

注1=◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

(2) 専門教育科目〔学部共通〕

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数		
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年						
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門教育科目 学部共通	基礎造形実習Ⅰ(描写)	2		■								阿部・石原・池田・池永・市川・遠藤・岡谷・小川(総)・金澤・金山・菅野・菊池・吉川・金・小林・斎藤・境野・白鳥・菅原・鈴木・竹田・土田・津村・手銭・徳久・長瀬・中村・長谷川(克)・長谷川(博)・馬場・ビュラ・平山・福本・真壁・増田・松本・御法川・森・山下・山田・山本・渡辺・奥田・川上(敦)・*柏田・*北村・*佐治・*北村(英)・*星・*森崎	◇	必修14単位		
	基礎造形実習Ⅰ(造形)	2		■									◇			
	基礎造形実習Ⅰ(素形材)	2		■									◇			
	基礎造形実習Ⅰ(デザイン)	2		■									◇			
	基礎造形実習Ⅰ(複合造形)	2		■									◇			
	デザイン概論	2		■								和田				
	色彩学	2			■							*三井				
	計	14														
	クロス実習	プロダクトA		1			■		■		■		境野		第1～4区分及びクロス実習から 合計16単位～35単位以上(所属学科により異なる)	
		プロダクトB		1				■		■		■	土田			
		視覚A		1			■		■		■		阿部・◎真壁			
		視覚B		1				■		■		■	天野・◎金			
		美・工A		1			■		■		■		石原			
		美・工B		1				■		■		■	◎菅野・手銭			
		建築・環境A		1			■		■		■		A-1 ◎小川(峰)・江尻・山下 A-2 ◎小川(総)・菅原・福本・渡辺			
		建築・環境B		1				■		■		■	B-1 ◎津村・平山 B-2 川口・◎森			
	第1区分	日本美術史		2	■								*大倉			第1区分: 美術・工芸系 選択2科目以上
		西洋美術史		2		■							石原			
		形態デザイン論		2		■							*三井			
		美術・工芸概論※		2		■							遠藤・岡谷・菅野・小林・鈴木・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場			
		現代芸術論		2			■						*大倉			
		美術解剖学		2				■					*非常勤講師			
		美術・工芸特別講義※		1				■					◎長谷川(克)・*渋谷・*林(範)・*樋田・*丸山(直)			
		プロダクトデザイン概論※		2	■								池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・境野・鈴木・土田・増田	第2区分: プロダクト、 視覚系 選択2科目以上		
	第2区分	視覚デザイン概論※		2	■								阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビュラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本			
		人間工学		2		■							*三村			
		メディア概論		2			■						◎真壁・*大野・*澤・*林(洋)・*松本(祐)・*南・*山田(興)			
		プロダクトデザイン特別講義※		1			■						◎齋藤・*上野・*竹原・*田中(啓)・*松本(有)			
		視覚デザイン特別講義※		1			■						◎山本・*五島・*川上(典)・*南雲・*山本(貴)			
		商品記号論		2				■					*非常勤講師			
		ユーザインタフェースデザイン論		2				■					*尾田			
		マーケティング論		2				■					*上原			
		広告論		2				■					*嶋田			
		デザイン感性工学		2					■				境野			
		サインデザイン論		2					■				*太田			
		パッケージデザイン演習		4					■				◎長谷川(博)・*大塚(隆)・*大塚(麻)			
		デザインマネジメント		2						■			池永			
		知的財産権論		2						■			*本多			
		機構学		2						■			*磯部			
	第3区分	建築・環境デザイン概論※		2		■							小川(総)・小川(峰)・江尻・川口・白鳥・菅原・津村・◎平山・福本・森・山下・渡辺	第3区分: 建築・環境系 選択2科目以上		
		都市論		2			■						渡辺			
		インテリア		2			■						川口・◎森			
空間安全論			2			■						◎福本・*稲垣				
文化財学概論			2			■						◎津村・*大塚・*武内・*中山(俊)・*西田・*前嶋				
緑地環境計画			2			■						小川(総)				
都市デザイン			2				■					白鳥				
居住論			2				■					山下				
建築史			2				■					津村・◎平山				
建築・環境デザイン特別講義※			1				■					◎平山・*アラン・*石川(幹)・*伊藤(祐)・*木村(勉)				
博物館概論			2					■				津村				
スノープラン			2						■			齋藤・長谷川(克)・ビュラ・平山・山下・*上村・*本吉				
第4区分	地域協創演習A		2			■	■	■	■	■	■	専任教員	第4区分: 地域・社会連携系 選択1科目以上			
	地域協創演習B		2			■	■	■	■	■	■	専任教員				
	地域協創演習C		2					■	■	■	■	専任教員				
	地域協創演習D		2					■	■	■	■	専任教員				
	インターンシップA		1			■	■	■	■	■	■	専任教員				
	インターンシップB		1			■	■	■	■	■	■	専任教員				
	ボランティア実習A		1			■	■	■	■	■	■	専任教員				
	ボランティア実習B		1			■	■	■	■	■	■	専任教員				
計		88														

注1 = 進級要件について
第2学年進級要件: ◇印の科目の単位をすべて修得すること。
注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師
注3 = ※印 所属学科以外の概論、特別講義を学部共通選択科目とする。

(3) 専門教育科目【プロダクトデザイン学科】

区分	授業科目	単位数	履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数		
					第1学年		第2学年		第3学年					第4学年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				前期	後期
専門教育科目 [プロダクト デザイン学科共通]	プロダクトデザイン概論	2		■								池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田		必修23単位	
	プロダクトコンピュータ基礎演習	2		■								金澤			
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	2			■								◇		
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	2			■							池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田・専任教員・ *若子	◇		
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	2			■								◇		
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	2			■								◇		
	プロダクトコンピュータ演習	2			■							金澤			
	プロダクトデザイン特別講義	1				■						◎齋藤・*上野・*竹原・ *田中(啓)・*松本(有)			
	プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ	4				■						池永・◎金澤・金山・菊池・ 齋藤・境野・鈴木・土田・増田	△		
	プロダクト材料学	2				■						◎菊池・*齋藤(博)			
	生産技術論	2					■					◎境野・長谷川(克)・ *齋藤(博)			
	計	23													
	選択必修	プロダクトスケッチ実習Ⅰ		2		■							◎齋藤・池永		選択8単位以上
		プロダクトスケッチ実習Ⅱ		2			■						◎齋藤・増田		
		プロダクト3DCG演習Ⅰ		2			■						土田		
		プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(A)		4				■					池永・金澤・◎金山・齋藤・境野・ 土田・増田	▲	
		プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(B)		4				■					菊池・◎鈴木・専任教員	▲	
		プロダクトCAD演習		2				■					金山・◎土田		
		プロダクト3DCG演習Ⅱ		2				■					土田		
		ファッション画実習		2				■					*金石		
		テキスタイル・ファッションCAD演習		2				■					*安永・◎山本(正)		
		計		16											
専門教育科目 コース別	デザインコース	プロダクトデザイン演習Ⅰ		4					■			池永・金澤・金山・齋藤・境野・ ◎土田・増田	◆	演習Ⅰ、Ⅱを 通して8単位	
		プロダクトデザイン演習Ⅱ		4						■		池永・金澤・金山・齋藤・◎境野・ 土田・増田	◆		
	テキスタイル・ ファッションコース	テキスタイル・ファッション演習Ⅰ		4					■			菊池・◎鈴木・専任教員	◆		
		テキスタイル・ファッション演習Ⅱ		4						■		菊池・◎鈴木・専任教員	◆		
	計		16												
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ		2						■			池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田・ 専任教員		必修4単位	
	ゼミⅡ		2							■		池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田・ 専任教員			
	計		4												
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ		3								■	池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田・ 専任教員		必修6単位	
	卒業研究Ⅱ		3								■	池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田・ 専任教員			
	計		6												

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること

第3学年進級要件：△印の科目及び▲印の科目のうち1科目、計2科目の8単位をすべて修得すること

第4学年進級要件：◆印の科目の単位をすべて修得すること

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

(4) 専門教育科目【視覚デザイン学科】

区分	授業科目	単位数	履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数		
					第1学年		第2学年		第3学年					第4学年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				前期	後期
専門教育科目 [視覚デザイン学科共通]	視覚デザイン概論	2		■							◎山本・阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田		必修29単位		
	視覚コンピュータ基礎演習	2		■							金・◎徳久・ビューラ・真壁				
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	2			■						阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本・*川崎・*高島・*たかだ(み)・*原田・*HARUKI	◇			
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	2			■							◇			
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	2			■							◇			
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	2			■							◇			
	視覚コンピュータⅠ	2			■						◎金・徳久・ビューラ・真壁				
	視覚デザイン特別講義	1				■					◎山本・*南雲・*五島・*川上(典)・*山本(貴)				
	視覚デザイン基礎演習Ⅰ	4				■					阿部・◎池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・山本・*迫・*さとう(り)・*古屋・*三田村	▽			
	視覚コンピュータⅡ	4				■					徳久・◎真壁・*矢尾板				
	視覚デザイン基礎演習Ⅱ	4					■				阿部・◎池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・山本・*迫・*さとう(り)・*古屋	▽			
	視覚デザイン論	2					■				阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本				
	計	29													
	選択必修①	写真	4				■					阿部・松本・*非常勤講師	△	選択必修 4単位	
		描写基礎	4				■					長瀬・◎御法川・*内堀	△		
		映像Ⅰ	4				■					ビューラ・◎山田・*非常勤講師	△		
		選択必修②	Webデザイン	4					■				徳久・◎真壁・*中西・*村山(直)・*矢尾板		▲
			タイポグラフィ	4					■				◎天野・吉川・*阿部(宏)		▲
			映像Ⅱ	4					■				◎ビューラ・*万年		▲
			描写表現	4					■				◎御法川・*内堀・*羽川		▲
		サウンドデザイン	4						■			◎ビューラ・*宇波・*吹田			
		コマーシャル演習	4							■		◎長谷川(博)・山田・*非常勤講師			
		計	36												
専門教育科目 コース別	伝達デザイン コース	伝達デザイン演習Ⅰ	4						■			阿部・天野・吉川・金・長瀬・真壁・山田・◎山本・*相澤・*石川(竜)・*嶋田・*角田	◆	演習Ⅰ、Ⅱを 通して8単位	
		伝達デザイン演習Ⅱ	4							■		阿部・天野・吉川・金・長瀬・真壁・山田・◎山本・*相澤・*石川(竜)	◆		
	表現デザイン コース	表現デザイン演習Ⅰ	4						■			池田・徳久・長谷川(博)・ビューラ・◎松本・御法川・*伊藤(彰)・*大西・*五島・*早園・*本間	◆		
		表現デザイン演習Ⅱ	4							■		池田・徳久・長谷川(博)・ビューラ・◎松本・御法川・*安斎・*伊藤(彰)・*大塚(い)・*大西・*川上(典)・*木場・*シミズダニ・*丸山(晶)・*山本(裕)・*若子	◆		
	計	16													
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ	2							■			阿部・天野・池田・金・吉川・◎長谷川(博)・徳久		必修4単位	
	ゼミⅡ	2								■		長瀬・ビューラ・松本・御法川・山田・◎山本・真壁・*相澤			
	計	4													
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ	3								■	■	阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本		必修6単位	
	卒業研究Ⅱ	3									■	■	阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・真壁・松本・御法川・山田・◎山本		
	計	6													

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件：▽印の2科目及び△印の科目のうち1科目、▲科目のうち1科目、計4科目の単位をすべて修得する

第4学年進級要件：◆印の科目の単位をすべて修得する

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

(5) 専門教育科目 [美術・工芸学科]

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門教育科目 [美術・工芸学科共通]	美術・工芸概論	2			■							遠藤・岡谷・菅野・小林・鈴木・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場		必修35単位	
	美術・工芸コンピュータ基礎演習	2		■								池永			
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	2			■								◇		
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	2			■							遠藤・岡谷・菅野・小林・鈴木・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場・*奥田・*柏田・*川上(敦)・*川崎・*北村・*佐治・*星・*森崎	◇		
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	2			■								◇		
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	2			■								◇		
	美術・工芸コンピュータ演習	2			■							池永			
	美術・工芸特別講義	1					■					◎長谷川(克)・*樋田・*丸山(直)・*渋谷・*林(範)			
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(絵画)	2				■						遠藤・◎岡谷・*ミーヨン	△		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(彫刻)	2				■						◎小林・長谷川(克)・*新村	△		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(工芸)	2				■						菅野・手銭・◎中村	△		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(複合)	2				■						遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・*ミーヨン・*新村	△		
	美術・工芸基礎演習Ⅱ	8					■					石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場・*杉原・*下山・*中安	△		
	美術・工芸材料学	2					■					菅野・菊池・手銭・中村・◎長谷川(克)・*秋本・*井波・*岩崎(靖)・*楠八重・*平賀・*森田			
	古美術研究	2					■					石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場・*伊藤(哲)・*和田(正)			
	計	35													
	プロダクトスケッチ実習Ⅰ		2		■								◎齋藤・池永		選択10単位以上
	表示図法		2			■							*齋藤(博)		
	プロダクトスケッチ実習Ⅱ		2			■							◎齋藤・増田		
	プロダクト3DCG演習Ⅰ		2			■							土田		
	描写表現		4				■						◎御法川・*内堀・*羽川		
	生産技術論		2				■						◎境野・長谷川(克)・*齋藤(博)		
	プロダクトCAD演習		2				■						金山・◎土田		
	プロダクト3DCG演習Ⅱ		2				■						土田		
	美術・工芸・デザイン分析		2						■				◎馬場・*浅賀・*扇原・*加藤・*日野・*溝川		
	美術工芸史		2						■				*林(克)		
	計		22												
専門教育科目 コース別	美術表現 コース	美術表現演習Ⅰ		4					■			遠藤・岡谷・◎小林・*塩谷・*嶋崎	◆	演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位	
		美術表現演習Ⅱ		4						■		遠藤・◎岡谷・小林・*新村	◆		
	クラフト デザインコース	クラフトデザイン演習Ⅰ		4					■			菅野・手銭・◎中村・長谷川(克)・馬場・*井上・*齋藤(直)	◆		
		クラフトデザイン演習Ⅱ		4						■		菅野・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場・*石渡・*気賀澤	◆		
	計		16												
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ		2						■			石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場	◆	必修4単位	
	ゼミⅡ		2							■		石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場	◆		
	計		4												
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ		3								■	■	石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場	必修6単位	
	卒業研究Ⅱ		3								■	■	石原・遠藤・岡谷・菅野・小林・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場		
	計		6												

注1 = 進級要件について
 第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得する
 第3学年進級要件：△印の2科目の単位をすべて修得する
 第4学年進級要件：◆印の科目の単位をすべて修得する
 注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

科目名をクリックすると、授業科目の概要が開きます。

(6) 専門教育科目【建築・環境デザイン学科】

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門教育科目 [建築・環境デザイン 学科共通]	建築・環境デザイン概論	2			■							小川(総)・江尻・川口・白鳥・菅原・津村・ ◎平山・森・渡辺・山下・福本・小川(峰)		必修45単位	
	建築・環境コンピュータ基礎演習	2		■								* 武井			
	製図実習	2		■								平山・◎森			
	基礎数学	2		■								福本・津村・◎渡辺			
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	2			■								◇		
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	2			■							小川(総)・小川(峰)・白鳥・津村・ 福本・◎平山・森・山下・*木田(勝)・ *関川・*武井・*成田・*西澤・ *廣田(真)・*室田	◇		
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	2			■								◇		
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	2			■								◇		
	建築・環境CAD実習	2			■							◎小川(峰)・*武井			
	建築・環境デザイン演習Ⅰ	4			■							小川(総)・小川(峰)・川口・白鳥・ 津村・◎山下・*佐藤(淳)	△		
	建築構法	2			■							平山			
	建築・環境デザイン特別講義	1					■					◎平山・*木村(勉)・*石川(幹)・ *アラン・*伊藤(拓)			
	建築・環境デザイン演習Ⅱ	4				■						小川(総)・白鳥・福本・ ◎渡辺・*柏原・*清水	△		
	建築材料実験	2				■						◎江尻・小川(峰)・*白井			
	建築環境工学	2					■					* 飯野(秋)			
	建築計画Ⅰ	2				■						* 西村			
	建築・環境デザイン演習Ⅲ	4					■					◎小川(峰)・江尻・*飯野(由)・ *佐藤(淳)・*東海林・*田中(理)	△		
	構造力学Ⅰ	2					■					江尻			
	建築材料	2					■					津村・◎平山・森			
	建築構造	2					■					江尻			
	計	45													
		測量学実習		2			■						平山・◎渡辺・*可兒・*渡邊(信)		選択16単位以上
		建築・環境CG実習Ⅰ		2			■						◎福本・*高木・*佐々木		
		都市計画		2			■						渡辺		
		住宅リフォーム論		2			■						川口		
		建築計画Ⅱ		2				■					* 西村		
		緑地環境設計		2				■					小川(総)		
		建築・環境CG実習Ⅱ		2				■					◎福本・*高木・*佐々木		
		構造力学Ⅱ		2					■				江尻		
		建築設備		2					■				* 飯野(秋)		
		建築設計		2					■				山下		
		エコロジカルプランニング		2					■				◎小川(総)・*鈴木(誠)		
		建築法規		2					■				◎小川(峰)・*石橋		
		建築施工		2						■			* 片山		
		コミュニティデザイン		2						■			福本		
		計		28											
専門教育科目 コース別	インテリア コース	建築・インテリア演習Ⅰ		4					■			小川(総)・江尻・川口・森・ ◎山下・*大淵・*高田(清)	◆	演習Ⅰ、Ⅱを通 して8単位	
		建築・インテリア演習Ⅱ		4						■		小川(総)・川口・白鳥・ ◎森・山下	◆		
	環境計画 コース	環境計画・保存演習Ⅰ		4					■			津村・平山・◎渡辺・福本・ *梅嶋・*大滝・*金出	◆		
		環境計画・保存演習Ⅱ		4						■		津村・平山・◎渡辺・福本・ *大滝・*金出・*後藤	◆		
	計			16											
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ		2						■			小川(総)・小川(峰)・江尻・川口・白鳥・ 菅原・津村・◎平山・福本・森・山下・渡辺		必修4単位	
	ゼミⅡ		2							■		小川(総)・小川(峰)・江尻・川口・白鳥・ 菅原・津村・◎平山・福本・森・山下・渡辺			
	計		4												
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ		3								■	■	小川(総)・小川(峰)・江尻・川口・白鳥・ 菅原・津村・◎平山・福本・森・山下・渡辺		必修6単位
	卒業研究Ⅱ		3								■	■	小川(総)・小川(峰)・江尻・川口・白鳥・ 菅原・津村・◎平山・福本・森・山下・渡辺		
	計		6												

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件：△印の3科目のうち、2科目修得する

第4学年進級要件：△印の3科目及び◆印の2科目のうち4科目を修得する

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

学芸員課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（平成30年度以降入学者）

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	資格取得 最低単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年				
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
学芸員科目	生涯学習概論	2						■				* 相庭	必修21単位	
	博物館概論	2						■				津村		
	博物館経営論	2							■			* 非常勤講師		
	博物館資料論	2							■			◎石原・* 小熊・* 広井		
	博物館資料保存論	2						■				◎石原・津村・小川(総)		
	博物館展示論	2							■			◎森・* 長澤		
	博物館情報・メディア論	2						■				◎石原・* 浅井(勝)・* 松浦		
	博物館教育論	2							■			* 山本(哲)		
	博物館実習	3								■		◎石原・境野・津村・長瀬・中村・平山・御法川		
	デザイン概論	2		■								和田		
	計	21												
	プロダクトデザイン概論		2	■								池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・境野・鈴木・土田・増田	選択1科目以上 2単位以上	
	視覚デザイン概論		2	■								阿部・天野・池田・吉川・金・徳久・長瀬・長谷川(博)・ビューラ・眞壁・松本・御法川・山田・◎山本		
	美術・工芸概論		2		■							遠藤・岡谷・菅野・小林・鈴木・手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場		
	建築・環境デザイン概論		2		■							小川(総)・小川(峰)・江尻・川口・白鳥・菅原・津村・◎平山・福本・森・山下・渡辺		
	計		8											
	日本文化論		2			■							* 岡本・* ◎黒川・* 薩摩・* 芹生	選択2科目以上 4単位以上
	美術論		2				■		■		■	石原		
	地域文化論		2				■		■		■	* ◎田中(洋)・* 田邊・* 筑波		
	文化人類学		2				■					* 飯島		
	日本美術史		2	■								* 大倉		
	西洋美術史		2		■							石原		
	文化財学概論		2			■						◎津村・* 大楽・* 武内・* 中山(俊)・* 西田・* 前嶋		
	建築史		2				■					津村・◎平山		
	測量学実習		2			■						平山・◎渡辺・* 可兒・* 渡邊(信)		
	計		18											

注1 = 網掛けした科目は、学芸員課程受講者のみが履修する科目。また、3年次のみ履修可能。

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（美術・工芸学科平成30年度入学者）

区分	授業科目	単位数 (中学校一 種(美術))		単位数 (高校一種 (美術))		単位数 (高校一種 (工芸))		履修学年								担当教員	資格取得 最低単位数
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教科に関する 科目	基礎造形実習Ⅱ(描写)	2	2						■						(略)	中美:必修6単位 高美:必修6単位	
	美術・工芸コンピュータ演習	2	2						■						池永		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(絵画)	2	2							■					遠藤・◎岡谷・*ミーヨン		
	表示図法					2				■					*齋藤(博)	高工:必修2単位	
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	2	2						■						(略)	中美:必修4単位	
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(彫刻)	2	2							■					◎小林・長谷川(克)・*新村	高美:必修4単位	
	基礎造形実習Ⅰ(デザイン)	2	2	2			■								(略)	中美:必修6単位	
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	2	2	2				■							(略)	高美:必修6単位	
	美術・工芸・デザイン分析	2	2	2								■			◎馬場・*浅賀・*扇原・*加藤・ *日野・*溝川	高工:必修6単位	
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	2			2			■							(略)	中美:必修4単位	
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(工芸)	2			2					■					菅野・手銭・◎中村	高工:必修4単位	
	美術論	2	2								■		■		■	石原	中美:必修14単位
	デザイン概論				2		■									和田	高美:必修14単位
	日本美術史	2	2					■								*大倉	高工:必修10単位
	西洋美術史	2	2						■							石原	
	色彩学				2			■								*三井	
	現代芸術論	2	2							■						*大倉	
	美術・工芸概論	2	2	2					■							遠藤・岡谷・菅野・小林・鈴木・ 手銭・中村・◎長谷川(克)・馬場	
	美術解剖学	2	2								■					*非常勤講師	
	美術・工芸材料学	2	2	2							■					菅野・菊池・手銭・中村・◎長谷川(克)・*秋本・ *井波・*岩崎(靖)・*楠八重・*平賀・*森田	
	美術工芸史				2								■			*林(克)	
	計	34	30	22													
教職に関する 科目	教職入門	2	2	2					■						竹田	必修2単位	
	教育原理	2	2	2						■					竹田	必修6単位	
	教育心理学	2	2	2					■						*中村(恵)		
	教育に関する社会的・制度的・経営的研究	2	2	2							■				竹田		
	教育課程の編成と実際	2	2	2					■						竹田	中美:必修16単位	
	美術科指導法	8	8	8								■			市川	高美:必修14単位	
	工芸指導法				4								■		市川	高工:必修18単位	
	道徳指導法	2									■				市川		
	特別活動指導法	2	2	2					■						*岩崎(保)		
	教育方法・技術	2	2	2									■		竹田		
	生徒・進路指導	2	2	2					■						*中村(恵)	必修4単位	
	教育相談	2	2	2								■			*伊藤(敦)		
	事前・事後指導	1	1	1										■	市川・◎竹田	中美:必修5単位	
	教育実習Ⅰ	2	2	2										■	市川・◎竹田	高美:必修3単位	
	教育実習Ⅱ	2		2	2									■	市川・◎竹田	高工:必修3単位	
	教職実践演習(中・高)	2	2	2										■	市川・◎竹田	必修2単位	
	計	35	31	2	35	2											
教育職員免許法 施行規則 第66条の6に 定める科目	法学(日本国憲法)	2	2	2							■		■		■	*星野	必修2単位
	スポーツ		2	2	2	2	■		■			■		■		*篠田	選択2単位以上
	保健体育講義		2	2	2		■		■			■		■		*篠田	
	英語中級Ⅰ		2	2	2	2	■									菅原	選択2単位以上
	英語中級Ⅱ		2	2	2		■									菅原	
	英語中上級Ⅰ		2	2	2	■		■								菅原	
	英語中上級Ⅱ		2	2	2		■		■							菅原	
	英語オーラルコミュニケーションⅠ	1	1	1	1	■										バンゴースム	
	英語オーラルコミュニケーションⅡ	1	1	1	1		■									バンゴースム	
	英語オーラルコミュニケーションⅢ	1	1	1	1	■		■								バンゴースム・*エドワーズ	
	英語オーラルコミュニケーションⅣ	1	1	1	1		■		■							バンゴースム・*エドワーズ	
	英語オーラルコミュニケーションⅤ	1	1	1	1	■		■								バンゴースム・*エドワーズ・ *木伏・*ドライバー・*ムリノス	
	英語オーラルコミュニケーションⅥ		1	1	1		■		■							バンゴースム・*エドワーズ・ *木伏・*ドライバー・*ムリノス	
	英語オーラルコミュニケーションⅦ		1	1	1	■		■								*木伏・*レイサム	
	英語オーラルコミュニケーションⅧ		1	1	1		■		■							*木伏・*レイサム	
	美術・工芸コンピュータ基礎演習	2	2	2		2	■									池永	必修2単位
	計	4	20	4	20	4	20										

注1＝中美は中学校一種(美術)、高美は高等学校一種(美術)、高工は高等学校一種(工芸)の略

注2＝◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3＝網掛けした科目は、教職課程受講者のみが履修する科目。

4-3 進級要件・卒業要件（平成30年度以降入学者）

【プロダクトデザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ・Ⅱ」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ」(1科目4単位)及び「プロダクトデザイン基礎演習Ⅱ(A)・(B)」のうち、どちらか1科目(4単位)の、計2科目8単位を修得していること。
4年次進級要件	3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの2科目8単位を修得していること。

●卒業要件

区分			1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン 言語系	必修	4	4	
		選択必修	20		4
		選択	32		14
小計				4	18
専門教育科目	学部共通	必修	14	14	
		選択	88		35
	学科共通	必修	23	23	
		選択必修	8		4
		選択	14		8
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
	卒業研究	必修	6	6	
小計				55	47
				59	65
合計					124

※学部共通選択科目は、第1、第2、第3区分から各2科目以上、第4区分から1科目以上、合計35単位を修得する必要がある。

【視覚デザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ・Ⅱ」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「視覚デザイン基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(2科目8単位)及び区分「選択必修①」から1科目(4単位)、区分「選択必修②」から1科目(4単位)の、計4科目16単位を修得していること。
4年次進級要件	3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの2科目8単位を修得していること。

●卒業要件

区分				1～4学年開講単位数	卒業要件単位数				
					必修		選択		
教養科目	キャリアデザイン	必修		4	4				
	言語系	選択必修		20			4		
		選択		32			14		
小計					4		18		
専門教育科目	学部共通	必修		14	14				
		選択		88			29		
	学科共通	必修		29	29				
		選択	選択必修①		12			4	12
			選択必修②		16			4	
			選択(①、②を除く)		8				
	コース別演習	必修		8	8				
	ゼミ	必修		4	4				
卒業研究	必修		6	6					
小計					61		41		
					65		59		
合計							124		

※学部共通選択科目は、第1、第2、第3区分から各2科目以上、第4区分から1科目以上、合計29単位を修得する必要がある。

※学科共通選択科目は選択必修①、②からそれぞれ4単位以上、またその他の選択科目を合わせ合計12単位以上を修得する必要がある。

【美術・工芸学科】

●進級要件

学年	進級要件
2 年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ・Ⅱ」の9科目18単位をすべて修得していること。
3 年次進級要件	「美術・工芸基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の5科目16単位を修得していること。
4 年次進級要件	3 年次のコース別演習Ⅰ・ⅡおよびゼミⅠ・Ⅱの4科目12単位を修得していること。

●卒業要件

区分			第1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン 言語系	必修	4	4	
		選択必修	20		4
		選択	32		12
小計				4	16
専門教育科目	学部共通	必修	14	14	
		選択	88		27
	学科共通	必修	35	35	
		選択	22		10
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
	卒業研究	必修	6	6	
小計				67	37
				71	53
合計					124

※学部共通選択科目は、第1、第2、第3区分から各2科目以上、第4区分から1科目以上、合計27単位を修得する必要がある。

【建築・環境デザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2 年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ・Ⅱ」の9科目18単位をすべて修得していること。
3 年次進級要件	「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の3科目のうちから2科目8単位以上を修得していること。
4 年次進級要件	「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」および「3 年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱ」の5科目20単位のうちから、4科目16単位以上を修得していること。

●卒業要件

区分			第1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン 言語系	必修	4	4	
		選択必修	20		4
		選択	32		10
小計				4	14
専門教育科目	学部共通	必修	14	14	
		選択	88		16
	学科共通	必修	45	45	
		選択	28		16
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
	卒業研究	必修	6	6	
小計				77	32
				81	46
合計					127

※学部共通選択科目は、第1、第2、第3区分から各2科目以上、第4区分から1科目以上、合計16単位を修得する必要がある。

5 授業について

5-1 授業期間および授業時間

学年

4月1日 - 3月31日

学期

前期・後期に分かれています。

前期 4月1日 - 9月30日

後期 10月1日 - 3月31日

授業開始日は毎年変更します。また、後期授業は、学則第13条に則り9月下旬より開始します。1年間の学事は、キャンパスガイドのカレンダー、またはパレットのサイドメニューから確認してください。

授業期間

1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週にわたることが原則とされています。

授業時間

授業は1時限90分で行われ、授業時間は次のとおりです。

時限	授業時間
1時限	9:00 — 10:30
2時限	10:40 — 12:10
3時限	13:00 — 14:30
4時限	14:40 — 16:10
5時限	16:20 — 17:50

5-2 単位の修得

大学における教育課程の学修は、単位制によって行われ、すべての授業科目に一定の単位数が定められています。これは、学生自らが目標を設定し、それを実現するための多様な学習を可能にするためです。

自分自身で受講したい授業科目を選んで履修計画を立て、卒業に必要な単位を満たしていかなければなりません。

単位数の計算

本学では、授業の方法や形態によって、原則として次のような基準で単位数が算定されています。

講義	1 授業時間 (90分) × 15回をもって2単位とする
演習	1 授業時間 (90分) × 15回をもって2単位とする
実習	1 授業時間 (90分) × 15回をもって1単位とする

※本学の授業は、通年科目30回、前期科目15回、後期科目15回で構成しています。

※単位数が2倍になると、授業回数も比例し2倍になります。

(例 演習 4単位 = 1 授業時間 × 30回)

※1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として定められています。45時間の学修には、大学での授業時間のほかに、授業外に学生が自主的に行う自主学習（予習・復習等）時間も含まれています。

講義・演習	授業時間	自主学習時間	= 45時間 = 1単位
	授業時間7.5回	11時間15分 + 自主学習時間	33時間45分
実習	授業時間	自主学習時間	= 45時間 = 1単位
	授業時間15回	22時間30分 + 自主学習時間	22時間30分

単位の認定

授業科目を履修し、各科目で定められている成績評価基準により合格した場合に単位が与えられます。

5-3 休講・補講・集中講義

休講

災害、天候、その他の理由による臨時の休講や教員の都合により、特定の授業科目の休講を行うことがあります。

補講

教員の都合による休講に対しては、その学期末の補講期間に補講を行うことがあります。補講期間中は、通常の時間割の曜日時限に関わらず補講が入ります。

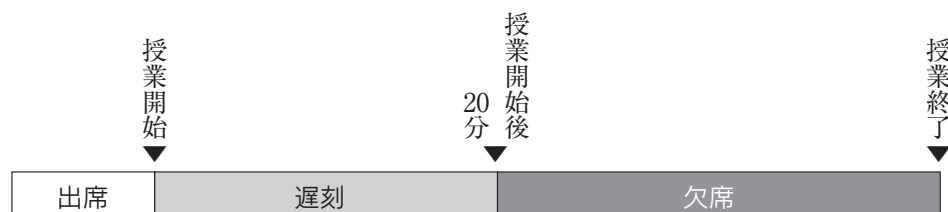
集中講義

教員の都合等により、授業時間割を離れて集中して授業を行う場合があります。

授業の実施、休講、補講、試験等、修学に関するすべての連絡は、学生用ポータルサイト“パレット”により行います。パレットは毎日チェックし、連絡事項を見落とさないように注意してください。
また、公共交通機関が運休、遅延した際の対応は、キャンパスガイドを参照してください。

5-4 出席の基準

原則として授業開始までは「出席」、授業開始後20分までは「遅刻」、20分以降は「欠席」の扱いになります。遅刻は授業の進行を妨げ、受講者全員に対しての迷惑となります。授業を受けるにあたっては時間厳守を心がけてください。また科目によって取り扱いが異なる場合は、授業科目の概要の「出席・遅刻の基準」に掲載してあります。



5-5 出席のとり方

点呼や学生証（ICカード）を専用機械（カードリーダー）により読み取るなど担当教員によって出席のとり方は異なります。

カードリーダーで出席をとる授業で学生証を忘れた場合、授業開始前に学務課で専用の「学生証不携帯者用出席用紙」を発行します（当日限り有効、1科目1枚）。授業前に学務課で手続きを行い、授業開始時に必ずその出席用紙を教員に渡してください。

出席に関する不正行為

（１）出席に関する不正行為について

下記のいずれかに該当する行為は出席に関する不正行為とみなします。

- ・他の学生に成り代わり出席または代返を行うこと
- ・上の行為を依頼すること
- ・出席の手続きを行ったにも関わらず、授業を受けないまたは無断で途中退室すること

（２）出席に関する不正行為に対する処分

出席に関する不正行為が確認され、その行為が故意であると判断された場合には、当該科目を原則不合格とします。また学長が特に悪質と見なす場合は当該期に履修したすべての科目を不合格とします。

合わせて、出席に関する不正行為は学則第47条に基づいて懲戒処分の対象となります。

（３）出席についての注意事項

- ・本学では授業前にカードリーダーで出席を登録する際は、担当教員が指示する場合を除き、授業終了までのすべての時間に対して受講することを前提としています。
- ・万一、授業中に受講を中断し、退室する場合には、担当教員に申し伝える必要があります。（無断退室とみなされる場合には、担当教員が出席に関する不正行為と判断します）担当教員に直接伝えられない場合は、退室後すぐに事務局に申し伝えてください。
- ・突発的な体調不良により退室しなければならない場合は、適切な処置につなげるため医務室を利用してください。

5-6 欠席

欠席には次のような種類があります。届出が必要な場合もありますので注意してください。

公欠（出席扱いとなる欠席）

忌引（決められた親族に限る）、天災、学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症、博物館実習、介護等体験実習、教育実習が理由で欠席する場合、公欠届を提出することにより、原則として出席扱いとなります。届出時には、下記の添付書類が必要となります。

・忌引……会葬礼状等

忌引きによる公欠を認める期間は、死亡した日または通夜の日から起算して、連続した右記日数（非授業日含む）の範囲内となります。

死亡した者		忌引日数
父	母	7日
祖 父	母	3日
兄 弟	姉 妹	3日
おじ又はおば		1日

（上記以外は、学務課に確認してください。）

- ・天災……自治体発行の証明書等
- ・学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症……学校感染症治癒証明書または保健所・医療機関等発行の証明書
- ・博物館実習
- ・介護等体験実習
- ・教育実習

公欠届の提出により、事務局から、認められた期間の授業の担当教員に公欠理由を伝えますが、学生本人からも必ず担当教員に欠席理由を伝えてください。なお、補習や課題等の実施については各授業の担当教員が判断します。

公欠以外

(2週間未満の欠席)

各担当教員に直接欠席理由を伝え、補習・課題等の指示を受けてください。書類による届出の必要はありません。

(2週間以上の欠席)

欠席届を提出してください。疾病やけがによる場合は医師の診断書が必要になります。

欠席届の提出により、事務局から、欠席期間の授業の担当教員に理由を伝えますが、学生本人からも必ず担当教員に欠席理由を伝えてください。なお、出席点の取扱いや補習、課題等の実施については、欠席の理由により各授業の担当教員が判断します。

※どの場合の欠席についても、補習・課題等の指示については、学生本人が直接担当教員より受けてください。また、試験日に病気や災害などの正当な理由で欠席する場合は、追試験を受験できる可能性があります。詳しくは、「7-1 試験の種類」(72ページ)を参照して下さい。

5-7 出席状況調査

出席状況を把握し、不良者について履修指導を行うため、継続的に授業の出席状況について調査を行います。

出席不良の条件(原則として、2週連続で欠席した場合)に該当した学生には、パレットで通知します。学務課や教員から呼び出しがあった場合は速やかに応じるようにしてください。また、呼び出しに応じない場合は、保証人に状況等を連絡します。

6 履修の手引き

6-1 履修登録

大学の教育は、学生がそれぞれの目的に基づき、主体的に学ぶことを基本としています。授業を受けるためには、学生自身で履修登録を行う必要があります。履修登録の手続きをしないと授業を受けることができません。履修登録および履修登録内容の確認は、本履修ガイドをよく読み、所定の期間内に自己の責任において行ってください。

なお、各学期の履修登録前に履修ガイダンスを実施しますので、必ず出席してください。

6-2 履修登録の時期

履修登録は年2回、4月および9月に行います。

4月…【全員が行います】1年間の履修計画を立て当該年度に履修する全ての通年、前期、後期科目の登録を行います。

9月…【希望者だけ行います】前期に登録した後期科目を変更する場合にのみ行います。前期の成績に応じて、履修科目の取消や追加ができます。

6-3 履修登録の流れ

■4月履修登録

【1年間の履修計画を立てる】

- ・本履修ガイド、時間割、パレットに掲載のシラバスを確認し、各自1年間の履修計画を立ててください。

【履修登録を行う】 パレットによる履修登録の方法は P.62 を参照

- ・所定の期間中にパレットの「履修登録」機能より各自履修登録を行ってください。

【履修登録内容の確認を行う】

- ・パレットに表示される学生時間割表で確認します。
- ・必ず全員が履修登録内容の確認を行ってください。

正しく履修登録
されていた場合

登録内容に誤りが
あった場合

【履修登録内容の修正】

- ・所定の期間中に学務課まで申し出てください。

履修登録完了です。以降、前期・通年科目の履修登録を変更できません。

■9月履修登録

【後期の履修計画を見直す】

前期成績通知表を確認し、後期の履修計画を見直してください。

後期履修科目を
追加または削除
したい場合

後期履修科目の
変更がない場合

9月履修登録は不要です。

【履修登録を行う】 パレットによる履修登録の方法は P.62 を参照

・ 所定の期間中にパレットの「履修登録」機能より各自履修登録を行ってください。

【履修登録内容の確認を行う】

・ パレットに表示される学生時間割表で確認します。
・ 9月履修登録を行った学生は必ず履修登録内容の確認を行ってください。

正しく履修登録
されていた場合

登録内容に誤りが
あった場合

【履修登録内容の修正】

・ 所定の期間中に学務課まで申し出てください。

履修登録完了です。以降、後期科目の履修登録を
変更できません。

6-4 履修登録時の注意事項

1. 開講科目、履修学年を理解する

「授業科目・単位数・担当教員」の表の見方（22／42ページ）

必修科目…卒業までに必ず全科目修得しなくてはならない授業科目
選択科目…卒業までに、卒業要件で定める単位数以上を修得しなければならない授業科目

履修学年、開講期に印または単位数が書いてあります。上級学年で開講される科目は履修することができません。

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	卒業資格 最低単位数
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養科目	スポーツ		2	■		■		■		■		*篠田	選択10～14単位 (学科により異なる)
	保健体育講義		2		■		■		■		■	*篠田	
	社会心理学		2				■		■		■	*天野(美)	
	日本文化論		2				■		■		■	*岡本・*黒川・ *薩摩・*芹生	
	美術論		2				■		■		■	石原	
	環境と社会		2				■		■		■	*水流	

区分ごとに、卒業までに修得しなくてはならない単位数がわかります。

履修学年について

全ての科目に「履修学年」が設定されています。

これは、設定した学年以上の学年であれば、履修が可能という意味です。

例えば、履修学年が1学年前期と設定されている科目は、2学年～4学年の前期にも履修を行なうことができます。

しかし、履修学年が3学年後期と設定されている科目の場合は、3学年後期及び4学年後期に履修することができますが、1学年後期や2学年後期には履修することができません。

また、一度単位を修得した科目については、再度履修登録をすることができません。担当教員の許可を得た場合は、授業を聴講することはできますが、その場合の単位はつきません。単位を落とした科目については、再度履修登録を行い、単位取得を目指すことが可能です。

2. 時間割を確認する

- ・同一の学期・曜日・時限においては、1科目しか登録できません。（重複履修（67ページ）が認められる場合は除きます）2時限続きの科目もありますので、時間割が重複しないよう注意してください。
- ・科目名の次に小文字のアルファベット（a,b等）がついているものは、複数クラス開講される授業です。クラスの指定のあるものは、別途パレット等で連絡しますので、指定されたクラスを履修登録してください。
- ・科目ごとに授業の進行や実施時期に特別な対応が必要な場合には、履修ガイダンス時に説明をしますので、必ず確認をしてください。

3. 履修したい科目内容を確認する

- ・パレットに掲載のシラバスには各科目の授業計画や成績評価基準、授業にあたって必要な内容等が載っています。履修登録の前に授業内容をよく確認してください。

平成30年度に開講する科目の例

基礎造形実習Ⅰ（デザイン）

第1学年 前期 必修 実習 2単位

履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

コンピュータの発達により現代は、マウスとキーボードの操作を覚えさえすれば、全くデザインの学習をしていなくとも大抵の事は出来てしまう世の中となった。しかしこのような時代であればこそ、デザインの専門家を目指す者にとって必要不可欠なのは、実際に手を使って線や形を描くこと、色を作って塗ること、そして平面だけではなく立体として感じることである。これら造形の基礎から学ぶべき事柄は非常に多い。そこでこの実習では、デザインや色彩の基礎学習および立体としての構成について必要な基本的技術を学ぶ。

達成目標

- ・課題文に書かれた内容を正確に読み取り、作品制作に臨むことができる。
- ・美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることができる。
- ・色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。
- ・立体における素材形状の「面材」を利用し、構成的且つ構造的な美しいフォルムを見つけ出し、紙による立体として制作することができる。
- ・スケジュール管理をし、期日までに作品を仕上げるることができる。

「達成目標」は、この授業で達成すべき目標内容です。常に意識しながら、授業に取り組んでください。

授業計画

- 01 色彩1 [線・面・多角形] 課題説明、制作
- 02 色彩1 [線・面・多角形] 制作
- 03 色彩1 [線・面・多角形] 制作
- 04 色彩1 [線・面・多角形] 制作
- 05 色彩1 [線・面・多角形] 講評
- 06 色彩2 [色相環] 課題説明、制作
- 07 色彩2 [色相環] 制作
- 08 色彩2 [色相環] 制作
- 09 色彩2 [色相環] 制作
- 10 色彩2 [色相環] 講評
- 11 立体2 [紙立体] 課題説明、制作
- 12 立体2 [紙立体] 制作
- 13 立体2 [紙立体] 制作
- 14 立体2 [紙立体] 制作
- 15 立体2 [紙立体] 講評

各回の授業予定です。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度 (50%)
 - ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・適切な質疑応答ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容 (50%)
 - ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション

成績評価を行う基準を定めています。％表示は、大まかな割り振りで、各授業にて詳細な説明をする場合があります。

以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

「出席・遅刻の基準」は、本学の定める基準(54ページ)以外を適用する授業のみ、掲載します。

テキスト

授業内でプリントを配布する他、適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

授業ガイダンスや事前の授業などで指示する。

履修希望者への要望・事前準備

社会的マナーを身につけることも学習であるので、作品の提出や出席について厳しく指導をする。加えて特に締め切りは守るように最善の努力を図る。そのためにはスケジュール管理を学ぶことが必須である。

「テキスト」は、授業で必要なものですから各自用意してください。

「参考書、参考資料等」は、授業で必ず必要なものではありませんが役立つ資料です。

「用具」は、用具が必要な授業のみ掲載します。

4. CAP制について

履修登録単位数の上限（原則として各期24単位、年間48単位）を設定する制度をCAP制と呼びます。

CAP制は、無理のない履修計画を立てることで、各授業における予習・復習・制作等の時間を確保し、学生各自の授業内容の理解や知識・技術の修得を十分に実のあるものとすることを目的とした制度です。

履修登録できる単位数の上限は、GPAと連動しています。各期（前期・後期とも）に履修登録できる単位数の上限は、以下の通りです。

履修登録する期の1つ前の期 ^(*) のGPA	各期の履修登録の上限単位数
2.0未満の者	24単位
2.0以上の者	30単位

(* = 前期の履修登録の場合は前年度の後期、後期の履修登録の場合は当年度の前期)

※入学初年次、休学等により履修登録する期の1つ前の期のGPAが無い学生は、上限単位数を一律24単位とする。

※集中講義および学芸員課程・教職課程の専門科目（通常の課程に含まれない科目）については、上限の単位数には含めない。

※編入学試験により入学した者は、CAP制を適用しない。

5. 進級要件を確認する

“進級要件”とは、進級するために最低限満たさなくてはならない条件です。学年・学科ごとに、進級要件の内容が異なります。進級要件が満たせない場合は留年となります。詳しくは「3-3または4-3 進級要件・卒業要件」（30／50ページ）を参照して下さい。

6. 卒業要件を確認する

“卒業要件”とは、卒業するために最低限満たさなければならない条件です。大学を卒業するためには、4年以上在学し、卒業要件を満たす必要があります。卒業した者には、「学士（造形）」の学位が授与されます。（卒業要件については、「3-3または3-4 進級要件・卒業要件」（30／50ページ）を参照して下さい。）

7. 単位を修得するペース配分

4年間で卒業要件を満たすためには、各学年においておおよそ以下のペースで単位を取得するのが理想的です。上級学年では、専門性の高い授業となり、さらに就職活動や卒業研究などで多忙となります。1年生のうちから計画的に履修してください。

学年	前期	後期	累計
1	20～24単位	20～30単位	40単位以上
2	20～30単位	20～30単位	80単位以上
3	14～20単位	14～20単位	110単位以上
4	卒業研究+数科目程度		124～128単位以上

6-5 パレットによる履修登録の方法

1. 履修登録期間に実施すること

〔前期〕

①上部メニューより「履修登録」をクリックします。

②科目を登録します。予め記入した履修計画表や時間割を確認しながら登録しましょう。

登録する科目の曜日・時限の **選択** ボタンをクリックします。

※登録した単位数の合計は画面右上に表示されます。

別画面が出ますので、登録する科目にチェックをつけ、**確定** ボタンをクリックします。

授業コード	科目名	単位
☒ 113	英語Ⅱ e	2
☐ 130	英語Ⅳf	2
☐ 310	コンピュータ基礎演習Ⅱ e	1
☐ 311	プロダクトデザイン概論	2

- ③登録した科目が表示されますので、同様にして1科目ずつ登録します。
- 登録を取り消したい場合は、**削除** ボタンをクリックしてください。
- ※パレットの画面は、上段が前期、下段が後期になっています。
- ※後期科目の履修登録を忘れないように注意してください。

- ④すべての科目の登録が終了しましたら、登録画面の右上にある**チェック** ボタンをクリックします。
- 「チェックを開始してよろしいですか」との表示が出ましたら、「OK」をクリックします。
- ※登録を途中で中断する場合は、**チェック** ボタンをクリックしておく、後でこの続きから登録することができます。

登録内容にエラーがある場合、“登録内容にエラーがあります”というメッセージが出ます。

エラー内容が別画面で表示されますので確認し、エラーメッセージ (P.64参照) を参考に、登録の修正を行います。

※履修登録画面には、正しく登録された科目の背景はグレー、エラーとなった科目はピンク色で表示がでます。

※エラーが消えない場合、理由が分からない場合は学務課まで相談に来てください。エラーが全て消えるまで修正を行い、再度 **チェック** ボタンを押してエラーがないかチェックします。

【参考：エラーチェック時のメッセージ】

エラーメッセージの一例	原因	対応
必修科目が登録されていません。	必修科目が登録されていない、または登録が不足しています。	不足している必修科目を登録してください。
同一学期（年度）内に、同一の授業を複数履修しています。	「スポーツ」「デザイン概論」などの複数クラス開講科目は1クラスずつしか履修登録できません。	履修クラスを1つ決め、それ以外のクラスは削除してください。
修得済科目を履修しています。	既に単位を修得した科目は履修登録できません。	選択した科目を削除してください。
〇〇〇を履修するためには●●●の修得が必要です。	特定の科目において、履修するためには別の科目の修得か履修登録が条件となっている科目があります。	不足している科目を追加してください。
同一時限に複数の授業を履修しています。	同一の時限には1つの科目しか履修登録できません。	登録しない科目を削除してください。
履修登録単位数の上限は●単位です	履修登録単位数の上限があります。（CAP制）	履修上限の範囲内となるように履修登録してください。

⑤すべてのエラーが消えると、最終確認画面となりますので、**確定** ボタンをクリックし、登録を完了してください。

※登録画面に戻りたい場合は、**授業の選択へ戻る** ボタンをクリックしてください。

⑥次に、1～3年生は「進級見込判定」、4年生は「卒業見込判定」をするため、「成績関連」→「進級/卒業見込判定」をクリックします。

ここで「進級条件を満たしています」または「卒業条件を満たしています」という表示が出ていれば登録完了です。

※要件を満たしていない場合は、要件を満たすよう履修登録を見直してください。

●履修登録のやり直しについて

- ・履修登録期間中は、一度登録を完了していたとしても、修正が可能です。また、途中で登録画面に戻りたい場合は、**授業の選択へ戻る** ボタンをクリックしてください。
 - ・登録を変更した場合には、必ず **チェック** ボタンおよび **確定** ボタンをクリックしてください。
- ※この操作を行わない場合、登録の変更が反映されませんので注意してください。

【後期】

①上部メニューより「履修登録」をクリックします。

後期の「履修登録」画面が表示され、すでに前期に登録した科目が表示されます。

②前期に履修登録した内容に変更がある場合には、登録の追加や削除を行ってください。

【科目を追加したい場合】

追加したい科目の曜日・時限の欄で **選択** をクリックし、追加したい科目にチェックをつけ、**確定** をクリックしてください。

※追加操作後、履修登録画面に、追加した科目が表示されているか確認してください。

【登録済の科目を削除したい場合】

削除したい科目の曜日・時限の欄で **削除** をクリックしてください。

※必修科目は削除しないように注意してください。

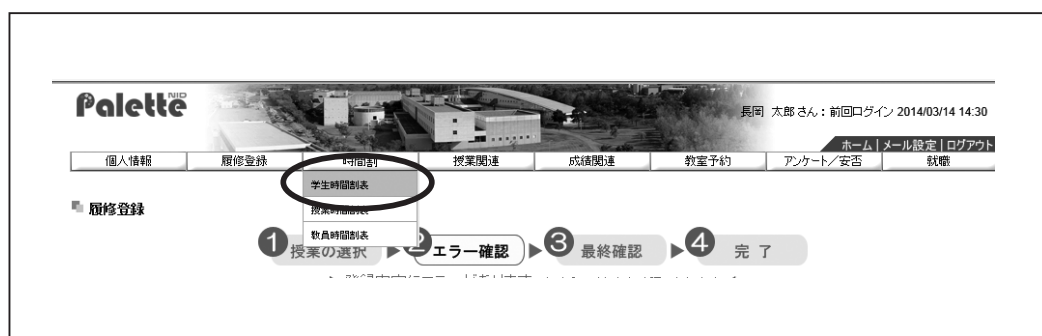
●以降、P.63 (1)履修登録期間に実施すること〔前期〕④～⑥の操作を行ってください。

2. 履修登録期間終了後に実施すること（前期・後期共通）

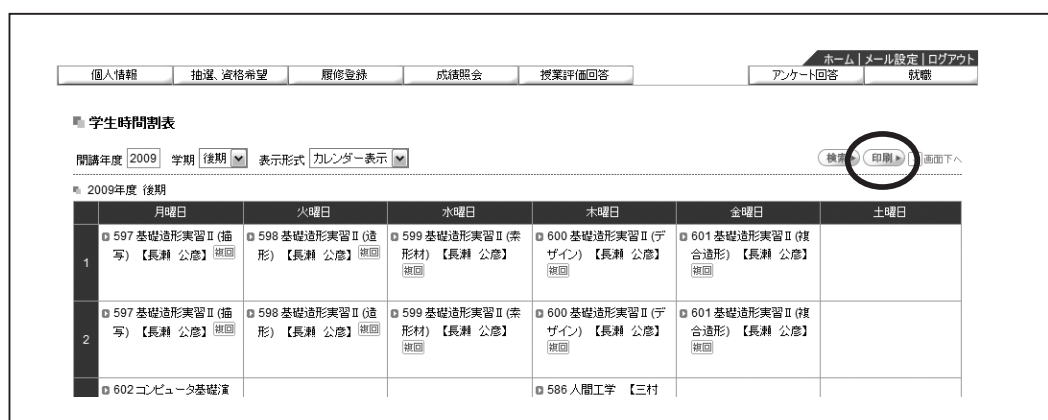
履修登録受付期間終了後、入力した科目がきちんと履修登録されたかどうかについては、以下の手順によりパレット上で必ず学生時間割表を確認してください。

※学生時間割表の確認は、予め決められた期間内に実施してください。確認期間から遅れて申し出た場合には対応できませんので、各自の責任で行ってください。

①上部メニューより「時間割」→「学生時間割表」をクリックします。



②万一、登録内容に誤りがあった場合は、学生時間割表の画面を印刷し、赤で修正を入れて、期限までに学務課に提出してください。



6-6 再履修と継続履修

再履修

再履修とは、不合格となった授業科目を次年度以降に再び履修することをいいます。再履修する場合には、改めて履修登録が必要です。

なお、再履修科目が他の履修科目と時間割が重複するときは、〔重複履修の注意〕に記載の条件を満たした場合に限り、重複履修ができます。学務課で「重複履修科目登録票」を受け取り、再履修科目担当教員の許可を受けて履修登録期間内に学務課に提出してください。

〔重複履修の注意〕

- 重複履修は、原則として以下の「○」の組み合わせに限りします。

正規履修 再履修	必修科目	選択科目 (指定科目) *1	選択科目 (*1以外の科目)
必修科目	○	○	×
選択科目	×	×	×

*1科目の性格上開講学年に履修しなくてはならない選択科目（該当科目についてはパレットで連絡します）。開講学年で履修する場合のみ、必修科目を再履修科目とする重複が認められます。

- 進級・卒業要件のない学年の重複履修も認められます。
- 重複履修が可能な科目であっても、再履修科目の担当教員が許可しない場合は、重複を認められません。
- 重複履修が認められた場合は、各自担当教員と連絡を取り合い履修計画を立ててください。

継続履修

継続履修とは、通年科目の前期授業を履修した後、休学・留学期間をはさみ、所定の手続きを経て次年度以降の後期に同一科目を履修した場合、通年で履修したとみなすことをいいます。

(例)	4月	9月	3月
	「A科目」前期履修		休学
次年度	4月	9月	3月
	休学	「A科目」後期履修	

※ただし、開講する授業科目、担当教員、授業内容などの変更により、継続履修できない場合もあります。

6-7 学芸員課程の履修

本学では、全学科の学生を対象に学芸員資格を取得できる学芸員課程を設けています。

学芸員について

博物館（美術館、民俗歴史資料館、科学館等を含む）での資料の収集、整理や保管をはじめとして、企画展示を行う際の企画から立案、開催に向けてのさまざまな活動（案内書、目録、ポスター類の作成・監修等）、さらに年報、報告書の作成、展示・資料に関する調査研究などを担う専門職として位置づけられており、博物館には必ず学芸員をおくことが義務づけられています。本学では資格取得のための学芸員課程を設置しています。

募集人数

35名とします。

募集人数を超える応募者があった場合は、15名を上限に環境計画・保存コースの学生を優先しますが、第2学年までの修得単位数が67単位以上であることを優先の条件とします。その他のコースは第2学年までの成績をもとに選考します。

履修方法

- ① 学芸員課程を受講し、学芸員の資格取得を希望する者は、第3学年の履修登録時に「学芸員課程受講届」を学務課へ提出し、履修が認められた後、指定した日時までに学芸員課程受講料を納入してください。

ただし、この手続きは第3学年の年度初めの定められた期間に限ります。

- ② 必修科目10科目21単位、選択科目3科目以上6単位以上を修得しなければなりません。
(履修科目参照)

注) 学芸員課程授業科目のうち、卒業要件単位に含まれない科目があります。卒業要件に含まれるかどうかは「3-2または4-2 授業科目・単位数・担当教員」(22/42ページ)に準じます。

- ③ 「博物館実習」のうち館内実習については、前年度までに他の必修9科目（必須9科目は、開講年次に修得する必要があります）を全科目修得済みで、卒業見込みでなければ参加することができません。
- ④ 学芸員課程の受講を途中で取りやめる場合は、「学芸員課程受講取消届」をすみやかに学務課へ提出してください。

受講料等

- ① 学芸員課程受講料は10,000円です。
- ② 更に、館内実習について、実習料として10,000円を「館内実習届」提出の際に徴収します。
- ③ 一旦納入した受講料及び実習料は、返還しません。
- ④ 見学実習、学内実習、館内実習に係わる交通費、食事代、宿泊料等は自己負担とします。

履修科目

「学芸員課程受講者の授業科目・単位数・担当教員」(28/48ページ)のとおりです。

博物館実習について

博物館実習は次の内容で行います。詳細は、ガイダンスおよびパレットで指示します。

実習の種類	内 容	必要実習時間
見 学 実 習	土曜日、日曜日、長期休業中に実施する博物館・美術館等の見学研修（8月上旬） 1日＝8時間、半日＝4時間	18時間以上
学 内 実 習	学内での調査・実習等	26時間
館 内 実 習	事前指導 実習館での実習 5日間以上 （原則4年次の夏期休暇中に実施） 報告レポート、プレゼンテーション等の事後指導	56時間
合 計		100時間以上

資格の取得について

本学において定める学芸員課程履修科目の履修要件をすべて満たし、かつ本学を卒業することにより、学芸員の資格を取得することができます。資格を取得すれば、「学芸員資格証明書」を受けることができます。

6-8 教職課程の履修

本学では、美術・工芸学科の学生を対象に教員免許状を取得できる教職課程を設置しています。

取得できる教員免許状

- ・中学校教諭一種免許状（美術）
- ・高等学校教諭一種免許状（美術）
- ・高等学校教諭一種免許状（工芸）

教職課程履修条件

平成28年度以降入学者

第2学年前期開始時

- ・通算GPAが2.0以上であること

第3学年前期開始時

- ・通算GPAが2.2以上であること

履修登録方法

- ① 第1学年の1月に教職課程についての説明会を開催します。美術・工芸学科の学生は、必ず出席してください。日時、場所、時間については、パレットで連絡します。
- ② 教職課程履修希望者は「教職課程受講届」を学務課に提出してください。提出期間等は1月に開催する説明会にて連絡します。
- ③ 教職課程の受講を途中で取りやめる場合は「教職課程受講取消届」をすみやかに学務課へ提出してください。

受講料等

① 教職課程履修受講料	15,000円
② 介護等体験実習費	10,000円
③ 教育実習費	10,000円

納入時期については、その都度、連絡します。

一旦納入した受講料等は、返還しません。

教育職員免許状申請時に新潟県に納入する申請手数料が必要となります。

上記のほか、介護等体験実習及び教育実習に係る交通費や食事代等は自己負担となります。

教員免許状取得のために履修を要する科目の種類及び科目一覧

教員免許状を取得するためには、次に掲げる①～③の項目の単位を、取得する教員免許状の種類に応じて修得し、④⑤の実習を行う必要があります。各項目の科目等詳細については、「教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員」（29／49ページ）を確認してください。

① 教科に関する科目

取得する免許状の種類によって決まっています。全ての科目が教育課程の科目と重複しています。教職課程においてはすべて必修科目です。

② 教職に関する科目

取得する免許状の種類によって決まっています。教職課程独自の科目となります。

③ 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

取得する教員免許状に関わらず、履修が必要な科目です。全ての科目が教育課程の科目と重複しています。

④ 介護等体験実習

教育課程または教職課程の開講科目ではありませんが、教員免許状を取得するためには行わなければならない実習です。原則として特別支援学校で2日間、社会福祉施設等で5日間、合計7日間の介護等体験が必要となります。

⑤ 教育実習

教育実習は、4年次に教育実習の目的、教育実習の視点、心構えを学び、学内での模擬授業の実施等による演習の後に免許状の種類により、中学校、高等学校において行う現場実習です。

中学校教諭一種免許状を取得するためには中学校にて3週間の実習（教育実習Ⅰ・Ⅱを履修）、高等学校教諭一種免許状を取得するためには高等学校にて2週間の実習（教育実習Ⅰを履修）が必要ですが、3週間の実習を行うことで中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を併せて修得することができます。

教育実習を履修するためには、教育実習の前年度までに開講された「教職に関する科目」すべてを履修し、単位を修得していなければなりません。

資格の取得について

本学において定める教職課程履修科目の履修要件をすべて満たし、かつ本学を卒業することにより、在住する都道府県の教育委員会に教員免許状を申請し取得することができます。原則として、申請手続きは大学が一括して行います。

6-9 在学年限

在学年限は、修業年限の2倍の年数（8年間）を超えることができません。ただし、この場合の在学期間には、休学期間は含みません。〔学則第16条〕

6-10 卒業見込証明書

第4学年の履修登録後、第3学年までの修得単位と第4学年の履修登録単位の合計が卒業要件を満たしている者に対して卒業見込証明書を発行します。

詳細は、キャンパスガイド『各種手続き・証明書の発行』を確認してください。

7 試験と成績評価について

7-1 試験の種類

履修した授業科目の単位を修得するためには、原則として試験を受けて合格の評価を得なければなりません。担当教員から試験に代えてレポートや作品提出の指示があるときは、それに従ってください。

1. 試験の種類

試験には、定期試験、追試験、再試験があります。

定期試験 定期試験は、原則として前期、後期の各期最終授業日に実施されます。ただし、担当教員が必要と認めたときは、随時に試験が実施され、この試験をもって定期試験に代えることがあります。定期試験のための試験時間割は特に組まず、担当教員の判断のもとに行われます。

追 試 験 病気や災害、交通機関の遅延、忌引などの正当な理由により、定期試験（随時に実施される試験を含む）を受けられなかった者は、当該試験日を含む3日以内（ただし事務局非業務日を含めない）に学務課に連絡し指示を受けてください。あわせて、定期試験終了後1週間以内に、その理由を証明する書類を添え、追試験受験願を学務課に提出し、担当教員の許可があった場合に、追試験を受けることができます。追試験の受験にあたっては、受験料（1科目2,000円）が必要です。

欠席理由とそれを証明するための提出書類は次のとおりです。

欠席理由	提出書類
病気	医師の診断書または学校感染症に該当する場合、学校感染症治癒証明書
交通機関の遅延	当該交通機関の発行する遅延証明書
交通事故	事故証明書
親族の死亡・危篤	保護者や保証人の証明書またはこれに準ずるもの
就職試験	受験票の写しまたは受験先証明書
天災その他の災害	罹災証明書
その他止むを得ない理由	理由書

再 試 験 進級時に進級要件を満たさなかった者及び卒業学年修了時に卒業要件単位を満たさなかった者のうち、下記の全ての条件を満たした場合、特別に再試験の受験が認められます。

- ・卒業研究科目全てが合格していること（卒業時のみ）
- ・進級要件または卒業要件に不足している単位数が1科目分であること
- ・再試験対象科目の担当教員が、再試験の受験を認めていること

なお、再試験対象科目は本学開講科目で当該学期及び前学期に履修登録した科目のうち1科目に限ることとします。再試験の受験にあたっては、受験料（2,000円）が必要です。

2. 受験資格

- ① 学費を納入していること。
- ② 履修登録をしていて、授業ごとに決められた出席要件を満たしていること。

※出席不良や学習意欲に欠けるなどの理由で、担当教員が受験を認めない場合があります。

3. 受験上の注意

- ① 試験を受ける際は、学生証を机の上に提示してください。
- ② 原則として、遅刻は試験開始後20分まで、また、途中退室は試験終了前20分から認めます。ただし、担当教員の判断でこの時間は変更することがあります。
- ③ その他、試験場では、試験監督者の指示に従ってください。

4. 不正行為

(1) 不正行為について

下記のいずれかに該当する行為は不正行為とみなします。

① レポートや作品提出の場合

- ・他人の作成した文書やレポート、他人が作成した作品等を自ら作成したものとして提出すること。（例：他人のデータをそのままコピーして提出すること、インターネット上の画像や文章など、引用を明示せずにそのまま利用すること等。）

② 定期試験、追試験、再試験の場合

- ・予め用意した模範回答（カンニングペーパー）や他人の答案などを見ること及び他の学生に自分の答案をみせること。
- ・本人以外の者が、代わって受験すること。
- ・許可のないものを使用すること。
- ・私語を交わすこと及び試験中に物の貸し借りをすること。
- ・監督者の指示及び注意に従わない行為をすること。

(2) 不正行為に対する処分

不正行為が確認され、その行為が故意であると判断された場合には、当該科目も含めその学期に履修したすべての科目を原則不合格とします。

あわせて、不正行為は学則第47条に基づいて懲戒処分の対象となります。

7-2 成績評価

成績の評価は、担当教員の授業方針、評価方法によって異なりますが、試験、レポート・作品提出、授業出席の状況、その他に基づいて行われます。

バレットに掲載のシラバスに、個々の授業科目について「学生に対する成績評価基準」として、その詳細が記載されています。

1. 成績評価基準について

本学における授業科目

判定	評価	評点	評価基準	GP
合格	S	100点～90点	授業の達成目標を上回る優れた成果を成し遂げた	4
	A	89点～80点	授業の達成目標を十分に達成した	3
	B	79点～70点	授業の達成目標を概ね達成した	2
	C	69点～60点	授業の達成目標を最低限達成した	1
不合格	D	59点以下	授業の達成目標を達成できなかった	0

S・A・B・Cの評価を得た者を合格とし、単位を授与します。

編入学生及び転学科生の認定された単位については、「認」と表示され、GPAの算出には含まれません。

2. GPAについて

教員と学生両者がより明確に成績や成績の変化、傾向を把握することにより履修計画、履修指導の適切化を図るため、GPA制度を導入しています。GPAとはGrade Point Averageの略で、成績評価にGP（Grade Point）と呼ばれる点数を付与し、当該期に履修した各科目のGPにその科目の単位数を乗じたものの合計を、履修登録した科目の総単位数で割って算出する平均値をさします。

D評価もGPAの算出に含みますので、慎重に履修計画を立て、履修登録した科目には責任を持って取り組んでください。GPAは、学期ごとに算出され、自分のGPAと所属する学科学年のGPAが成績通知表に記載されます。(成績証明書には不合格科目は記載されません。)

【GPAの算出式】

$$\frac{4 \times S \text{の修得単位数} + 3 \times A \text{の修得単位数} + 2 \times B \text{の修得単位数} + 1 \times C \text{の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「D」の単位数を含む）}}$$

【GPA算出例】

授業科目名	単位数	評価 (GP)	単位数×GP
美術論	2 単位	S(4)	2×4=8
英語中級 I	2 単位	C(1)	2×1=2
基礎ゼミ II	1 単位	B(2)	1×2=2
写真映像基礎	4 単位	A(3)	4×3=12
広告論	2 単位	D(0)	2×0=0
	①11単位		②24

$$GPA = ② \div ① \rightarrow 24 \div 11 = 2.18$$

7-3 成績通知表の見方

1. 成績評価について

評価はS,A,B,C(=合格)、D(=不合格)で表されます。合格した科目には、単位の欄に修得した単位数が表示されます。履修中の科目には「※」がつきます。(まだ評価は付きません)

2. GPAについて

4.00に近いほど成績優秀という意味で、逆に0.00に近くなるほど成績不振という意味になります。上段が個人のGPA、下段が同じ学年・学科の学生の平均値となります。

3. 修得単位数について

上段は卒業までに必要となる単位数、下段が現在までの個人の修得した単位数です。

7-4 成績通知

成績通知表は、事務局において配付するとともに、パレットの「成績照会」機能からも確認できます。成績通知表は、特別な事情による申し出のない限り、学生本人の承諾を得たものとみなし、前期は9月上旬、後期は2月下旬頃に保証人宛に送付します。

7-5 成績評価に対する異議申立て

シラバス等により学生に周知している達成目標及び成績評価の方法に照らして明らかに成績が誤りであると思う場合は、学務部長に対し異議を申立てることができます。

次の要領で手続きを行ってください。

手続き方法等

- (1) 異議申立期間は、当該科目の成績開示日から3日以内(日曜日、土曜日及び祝祭日は含めない)です。
- (2) 「成績評価についての異議申立書」は学務課教務係にて配付します。所要事項を記入し、添付書類とともに期限内に学務課教務係へ提出してください。担当教員への直接の異議申立ては認めません。

- (3) 異議申立書を受理した日から原則として2週間以内に、当該異議申立の結果を文書で回答します。
- (4) 成績評価に対する異議申立て期間等に関する詳細については、各学期の試験・補講期間前にパレットに掲示します。

7-6 留年

進級要件を満たさなかった者及び第4学年終了時に卒業要件を満たさなかった者は、留年になります。

必修科目が不合格となった場合、授業時間割の編成上、次年度再履修するこれらの科目と他の必修科目が重なり、どちらかの必修科目が、その年度には履修できなくなる場合がありますので、注意してください。

7-7 履修指導

それぞれの志向や進路希望に応じて、入学時から段階的、系統的に履修できるよう適切な助言・指導を行うため、ホームルーム編成を行います。みなさんの希望や必要に応じて随時履修指導を行いますので、ホームルーム担任に相談してください。

なお、学務課においても相談に応じます。履修登録、成績通知表配付時はもちろん、心配な点や疑問点は気軽に相談してください。

事務局窓口対応時間	8:30 ~ 18:15
メール	gakumu@nagaoka-id.ac.jp
電話	0258-21-3351

※土曜・日曜・祝日・校舎閉鎖日は終日窓口業務および電話対応は行っていない。

※授業日、補講日以外の窓口業務は17:00までとなります。

8 各種制度について

8-1 転学科制度

本学内において他の学科への転学科を志願する者は、教授会において選考の上、学長が転学科を許可することがあります〔学則第40条〕。転学科試験の詳細については「転学科試験実施要領」（9月頃パレットに掲載）で確認してください。

出願資格

本学に在籍し、在学年限内に卒業が可能な者。

日程

出願期間	1月中旬頃～2月下旬頃
審査	3月上旬頃
発表	3月中旬頃

出願書類

- ① 転学科願（現在所属している学科長及び希望学科の学科長に事前相談（転学科後の履修計画等）を行い、相談者の欄に確認印をもらうこと）
- ② 転学科志望理由書
- ③ 転学科受験料納付書
- ④ 受験料2,000円

審査方法

書類審査および面接試験

転学科の時期

審査を受けた年度の次年度4月1日から

転学科後の配属年次及びカリキュラム年度

「第2学年」に配属します。このため、実質的な学年が下がり、4年間での卒業が不可能となる場合があります。カリキュラム年度は転学科先の第2学年のものが適用されます。

他学科専門教育科目の履修

転学科を志願する者は、授業を開講する学科の学科長の許可があった場合、他学科専門教育科目を履修することができます。

履修については、事前に希望学科の学科長または学務課に相談してください。

既修得単位の取り扱い

転学科の許可を受けた者が既に取得した単位は、転学科実施要領に基づいて単位の読み替えを行います。読み替えできない科目については自由選択科目として取り扱います。

8-2 本学以外での学修

他の大学・短大での学修

本学において教育上有益と認めるときは、他の大学または短期大学との協議に基づき、当該他大学または短期大学における授業科目の履修をすることができます。これにより、履修した授業科目について修得した単位については、教授会の議を経て、60単位を限度として本学において修得した単位とみなすことができます。〔学則第33条〕

なお、長岡技術科学大学、長岡大学、新潟工科大学、放送大学と単位互換協定を締結していることから、それぞれの大学の授業科目を履修することができます。基本的には履修にかかる入学金、授業料等は免除されます。放送大学については、授業料が必要となりますが、単位を修得した場合は、奨学金として相当額を本学より支給します。

いずれの大学において取得した単位も、本学の規定の範囲内で本学における履修とみなしますが、認定される区分・単位数はカリキュラム年度および所属学科により異なります。

放送大学は1月頃と7月頃に、それ以外の大学については、4月頃と8月頃に、希望者を募集します。詳しくは、学務課に問い合わせてください。

短大・高専での学修

本学において教育上有益と認めるときは、短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができます。〔学則第34条〕

留学

外国の大学または短期大学に留学することを志願する者は、学長の許可を得て、留学することができます。〔学則第41条〕

8-3 既修得単位認定

本学において教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に他の大学または短期大学等において履修し、修得した単位（科目等履修生の規定により修得した単位を含む）と入学後、他大学等において修得し、本学において修得したものとみなされた単位数と合わせて60単位を限度として、本学において修得した単位とみなすことができます。

〔学則第35条〕

入学前に修得した単位を有し、かつ認定を希望する者は、入学年度の4月中に、修得単位を示す成績証明書等の資料を添え、既修得単位認定願を学務課に提出してください。

8-4 TOEICスコアによる単位の認定

TOEIC及びTOEIC-IP(長岡造形大学を通して受験したもの)のスコアにより、英語科目の単位を本学において修得したものとみなすことができます。

TOEICスコア及び認定単位数

平成26年度以降入学者

TOEICスコア	認定科目	認定単位数
600点以上	英語上級Ⅰおよび英語上級Ⅱ	4単位

TOEICスコアによる単位の認定を希望する者は、Educational Testing Serviceが発行するTOEICスコアの公式認定証（原本）を添え、TOEICスコアによる単位認定願を下記の受付期間内に学務課に提出してください。（ただし、申請締切日より遡って2年以内のものに限る。）

受付期間

前期 4月2日～4月27日
後期 9月4日～9月28日

8-5 学芸員課程履修者以外の学芸員科目履修

学芸員課程履修者以外にも学芸員課程科目を履修することができます。

対象者

学部第3学年～第4学年

履修を認める科目

学芸員科目として開講している科目のうち、以下の6科目とし、いずれも卒業・進級要件には含まれないものとします。

・生涯学習概論（2単位）	・博物館展示論（2単位）
・博物館経営論（2単位）	・博物館情報・メディア論（2単位）
・博物館資料論（2単位）	・博物館教育論（2単位）
・博物館資料保存論（2単位）	

定員

各科目15名とします。

定員を超えて応募があった場合は第4学年を優先し、履修実績等を加味して決定します。

履修方法

前期履修登録時期に学務課に受講届を提出する必要があります。

詳細は第3学年の履修ガイダンスで説明します。

受講料

履修者決定後、履修者は受講料10,000円を納入してください。

受講料は科目数にかかわらず一律とし、履修学年が第3学年～第4学年の2年間に渡った場合でも10,000円とします。

8-6 学修度チェック

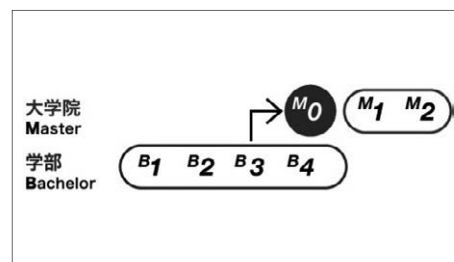
就職・進学など卒業後の進路決定を控える3年生に対して、3年次終了時点での自らの実力を確認し、就職試験や大学院受験において必要な準備を進める機会として「学修度チェック」を実施します。自らの進路に対しての意識を高めてもらう機会として位置づけていますので、ぜひ活用してください。

学修度チェックの結果は、本学大学院への進学における「3on3制度」による「M0（エムゼロ）認定」に利用します。これは、「一定水準」を満たす学生を対象に学部4年次を修士課程0年次（＝M0）として認定し、修士課程の基礎科目の先行受講を認めることで修士課程期間を実質3年間として取扱うものです。

また、M0として認定を受けた学生が大学院に進学する場合には「3on3入学試験」を利用することができ、意欲のある学生の進学を後押しする制度です。

*履修度チェックの結果は、成績や卒業に影響を与えるものではありません。

*修士課程の基礎科目については、大学院履修ガイドを確認してください。



3on3制度によるM0認定のイメージ

学修度チェックの項目

①通算GPA

学部1年前期～3年後期までの通算GPAを確認します。

②TOEIC・IPテストの実施

1月下旬に本学にて全3年生が一斉に受験します。(受験料は大学が負担します)

③ポートフォリオの提出

自らの活動・成果をまとめ、自己アピールするためのポートフォリオの制作について、提出状況を確認します。(各学科の授業内で確認を行います)

学修度チェックによるMO認定基準

以下の基準を満たす場合、MOとして認定します。

項目	基準	基準の根拠
通算GPA	2.5以上	授業の達成目標を達成したと認められる水準
TOEICスコア	450点以上	一般的に社会が求め、今後必要となる標準的なスコア
ポートフォリオ	提出し、かつ指導教員が認める内容であること	就職・進学における十分な内容のポートフォリオであるか

*MO認定を受けたことが卒業を約束するものではありませんので、注意してください。

学修度チェックの結果の配付について

第3学年後期の成績通知表とあわせて、全3年生に学修度チェックの結果を配付します。

また、MO認定の結果についても、同時に通知をします。MO認定を受けた学生は、4年次前期に修士課程の基礎科目群の授業を受講することができます。

なお、先行して受講した授業の単位は本学大学院修士課程入学後に、修士課程1年前期に修得したものとして認定します。

9 資格について

学芸員資格

全 学 科

本学の学生は学芸員資格取得に必要な科目を履修することにより卒業と同時に学芸員の資格が取得できます。

履修の詳細については、「6-7 学芸員課程の履修」（68ページ）を参照して下さい。

また、学芸員課程履修者以外で学芸員の資格認定を希望する者は、本学を卒業した後、文部科学省が実施する試験認定を受験することができます。筆記試験に合格し、1年間学芸員補の職に従事した後に資格が認定されます。本学にて学芸員課程の科目の単位を修得している場合は、該当する試験科目が免除されます。詳しくは学務課まで問い合わせてください。

教員免許

美術・工芸

美術・工芸学科の教育課程を修了し、教員免許状取得に必要な科目を修得した者は、次の教員免許を取得することができます。

- ・中学校教諭一種免許状（美術）
- ・高等学校教諭一種免許状（美術）
- ・高等学校教諭一種免許状（工芸）

履修の詳細については、「6-8 教職課程の履修」（69ページ）を参照して下さい。

技術検定受験資格

建 築 ・ 環 境

技術検定とは、土木工事等の建設業の施工管理等に係る国家試験を取得するための検定で、以下の6種目があります。

- ・建設機械施工
- ・土木施工管理
- ・建築施工管理
- ・電気工事施工管理
- ・管工事施工管理
- ・造園施工管理

建築・環境デザイン学科を卒業後、当該種目において1年以上の実務経験を経た者に2級、指導監督の実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験を経た者に1級技術検定の受験資格が与えられます。ただし、2級技術検定においては建設機械施工を除き、建築・環境デザイン学科を卒業見込み又は卒業後1年以内の者は実務経験を積むことなく学科試験を受験することが可能です。この場合、学科試験と同時に行われる実地試験は、学科試験に合格し所定の実務経験を積んだ後に受験することができます。またこれにより学科試験に合格した者は、卒業後4年以内に行われる連続する2回の技術検定の学科試験が免除され、実地試験のみ受験することができます。

商業施設士受験資格

建 築 ・ 環 境

本学は、公益社団法人商業施設技術団体連合会より商業施設士試験受験資格認定課程として認定されています。これにより、商業施設士及び商業施設士補の資格取得に必要な事項が軽減されます。

●商業施設士

本学教育課程の修了・卒業により、商業施設士試験の受験資格である実務経験年数が1年に短縮されます。

●商業施設士補

本学が認定を受けている科目を、必要単位数以上修得又は修得見込みであり学長の推薦を受けたものは、公益社団法人商業施設技術団体連合会が実施する商業施設士補の講習会を受講することができます。講習会を受講することにより、商業施設士補の資格を取得することができます。

また、商業施設士補の資格を取得した場合は、商業施設士試験の学科試験が免除され、さらに実務経験なしで実技試験を受験することができます。

第3学年までに商業施設士補の資格を取得し、翌年の商業施設士試験に合格した場合、在学中に商業施設士の資格が取得できます。

認定科目及び必要単位数の詳細は次の「商業施設士補認定科目・単位数」を確認してください。

商業施設士補認定科目・単位数（平成26年度以降入学者）

【A 群】

区 分	科目	充当する教科名	単位数	必要単位数
A-1 商業一般	商業一般に関する科目	マーケティング論 商品記号論 デザインマネジメント	2 2 2	2区分以上に わたり計30単 位以上
A-2 業態計画	商業施設の構成に関する科目	建築・環境デザイン特別講義 プロダクトデザイン特別講義	1 1	
A-3 計画一般	商業施設の企画、商業施設の計画、法規、安全計画、展示・装置計画、設計に関する科目	空間安全論 インテリア 建築法規 建築・インテリア演習Ⅰ 建築・インテリア演習Ⅱ 建築設備 建築設計 建築・環境デザイン演習Ⅰ 建築・環境デザイン演習Ⅱ	2 2 2 4 4 2 2 4 4	
A-4 施設計画	建築一般に関する科目	建築計画Ⅰ 建築計画Ⅱ 建築史 建築環境工学 建築構法 建築材料実験	2 2 2 2 2 2	
A-5 監理・施工	商空間の工事監理・施工に関する科目	構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 建築構造 建築材料 建築施工	2 2 2 2 2	

【B 群】

区 分	科目	充当する教科名	単位数	必要単位数
B-1 図案表現	設計・製図・CAD・CGなどにより、商業施設を構想し表現することに関する科目	製図実習 建築・環境CAD実習 基礎造形実習Ⅰ（デザイン）	2 2 2	4単位以上

*平成26年度以降入学者から商業施設士補の資格取得対象は、建築・環境デザイン学科のみとなりました。

登録ランドスケープアーキテクト（RLA）

建築・環境 ランドスケープ系研究室

登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格制度とは、ランドスケープアーキテクトとして実務を遂行するために必要な「一定の知識と技量からなる能力」を試し、個人を登録ランドスケープアーキテクト（RLA）として認定する制度です。

建築・環境デザイン学科のランドスケープ系研究室に所属し卒業した場合に、資格認定試験受験資格となる実務経験年数が3年以上に短縮されます。

インテリアプランナー登録資格

建築・環境

本学建築・環境デザイン学科は、公益財団法人建築技術教育普及センターの定めるインテリア又は建築に関する課程で「個別に認められている課程（認定基準Ⅰ）」として認められています。

インテリアプランナー試験（IP試験）に合格し、必要実務経験年数を満たした場合、インテリアプランナー登録を受けることができます。

本学教育課程を修了し卒業することにより、登録に必要な実務経験年数が卒業後2年以上に短縮されます。

なお、インテリアプランナー登録には、登録申請時に学長が発行する「インテリアプランナー登録資格に係る単位取得証明書」の提出が必要です。

建築士受験資格

建築・環境

建築・環境デザイン学科の学生は建築士試験指定科目を修得することにより、建築士試験の受験資格を得ることが出来ます。取得した単位数によって受験可能な資格や卒業後に必要となる実務経験の年数が異なります。

建築士受験資格の取得には「建築士受験資格指定科目」（84・85ページ）に記載する①～⑨までの各区分の必要単位数の取得と、①～⑨及び⑩の合計の必要単位数の取得の両方の要件を満たすことが必要になります。（必要経験年数と必要単位数は下表のとおり）

必要経験年数と必要単位数

指定科目	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
①建築設計製図	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
②建築計画	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位
③建築環境工学	2単位	2単位	2単位			
④建築設備	2単位	2単位	2単位	6単位	6単位	6単位
⑤構造力学	4単位	4単位	4単位			
⑥建築一般構造	3単位	3単位	3単位			
⑦建築材料	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
⑧建築生産	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
⑨建築法規	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
①～⑨の計（a）	30単位	30単位	30単位	20単位	20単位	20単位
⑩その他（b）	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
（a）＋（b）	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
必要な実務経験年数	2年	3年	4年	0年	1年	2年

公益財団法人 建築技術教育普及センター ホームページより抜粋

建築士受験資格指定科目（平成26～28年度入学者）

区分	科目名	単位数		履修学年								一級建築士受験資格取得必要単位数	二級・木造建築士受験資格取得必要単位数
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
①	製図実習	2		■								7単位以上	5単位以上
	建築・環境デザイン演習Ⅰ	4			■								
	建築・環境デザイン演習Ⅲ	4					■						
②	建築設計		2						■			7単位以上	7単位以上
	建築計画Ⅰ	2				■							
	都市計画		2			■							
	建築計画Ⅱ		2				■						
	空間安全論		2			■							
	建築史		2				■						
③	建築環境工学	2					■					2単位	
④	建築設備		2					■				2単位	
⑤	構造力学Ⅰ	2					■					4単位	
	構造力学Ⅱ		2					■					
⑥	建築構法	2			■							3単位以上	6単位以上
	建築構造	2					■						
⑦	建築材料	2					■					2単位以上	
	建築材料実験	2				■							
⑧	住宅リフォーム論		2			■						2単位以上	1単位以上
	建築施工		2						■				
⑨	建築法規		2					■				1単位以上	1単位以上
⑩	建築・環境CAD実習	2			■							必要実務経験年数と①から⑨の区分の取得単位数により⑩の取得必要単位数は異なる。	必要実務経験年数と①から⑨の区分の取得単位数により⑩の取得必要単位数は異なる。
	建築・環境デザイン演習Ⅱ	4				■							
	測量学実習	2				■							
	建築・環境CG実習Ⅰ	2				■						必要実務経験年数2年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて60単位以上	必要実務経験年数0年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて40単位以上
	緑地環境設計	2					■						
	建築・環境CG実習Ⅱ	2					■						
	エコロジカルプランニング	2							■			必要実務経験年数3年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて50単位以上	必要実務経験年数1年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて30単位以上
	コミュニティデザイン	2								■			
	人間工学	2			■								
	建築・環境デザイン概論	2			■							必要実務経験年数4年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて40単位以上	必要実務経験年数2年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて20単位以上
	都市論	2				■							
	インテリア	2					■						
	緑地環境計画		2			■							
	都市デザイン		2					■					
	居住論		2					■					
建築・環境デザイン特別講義		1					■						

建築士受験資格指定科目（平成29年度入学者）

区分	科目名	単位数		履修学年								一級建築士受験資格取得必要単位数	二級・木造建築士受験資格取得必要単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年				
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
①	製図実習	2		■								7単位以上	5単位以上	
	建築・環境デザイン演習Ⅰ	4			■									
	建築・環境デザイン演習Ⅲ	4					■							
②	建築設計		2						■			7単位以上	7単位以上	
	建築計画Ⅰ	2				■								
	都市計画		2			■								
	建築計画Ⅱ		2				■							
	建築史		2				■							
③	建築環境工学	2					■					2単位		
④	建築設備		2					■				2単位		
⑤	構造力学Ⅰ	2					■					4単位		
	構造力学Ⅱ		2					■						
⑥	建築構法	2			■							3単位以上	6単位以上	
	建築構造	2					■							
⑦	建築材料	2						■				2単位以上		
	建築材料実験	2				■								
⑧	住宅リフォーム論		2			■						2単位以上	1単位以上	
	建築施工		2						■					
⑨	建築法規		2					■				1単位以上	1単位以上	
⑩	建築・環境C A D実習	2			■							必要実務経験年数と①から⑨の区分の取得単位数により⑩の取得必要単位数は異なる。	必要実務経験年数と①から⑨の区分の取得単位数により⑩の取得必要単位数は異なる。	
	建築・環境デザイン演習Ⅱ	4				■								
	空間安全論		2			■								
	測量学実習		2			■						必要実務経験年数2年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて60単位以上	必要実務経験年数0年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて40単位以上	
	建築・環境C G実習Ⅰ		2			■								
	緑地環境設計		2				■							
	建築・環境C G実習Ⅱ		2				■					必要実務経験年数3年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて50単位以上	必要実務経験年数1年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて30単位以上	
	エコロジカルプランニング		2					■						
	コミュニティデザイン		2						■					
	人間工学		2		■							必要実務経験年数4年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて40単位以上	必要実務経験年数2年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて20単位以上	
	建築・環境デザイン概論		2		■									
	都市論		2			■								
	インテリア		2			■								
	緑地環境計画		2			■								
	都市デザイン		2				■							
居住論		2				■								
建築・環境デザイン特別講義		1				■								

建築士受験資格指定科目（平成30年度以降入学者）

区分	科目名	単位数		履修学年								一級建築士受験資格取得必要単位数	二級・木造建築士受験資格取得必要単位数
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
①	製図実習	2		■								7単位以上	5単位以上
	建築・環境デザイン演習Ⅰ	4			■								
	建築・環境デザイン演習Ⅲ	4					■						
	建築設計		2					■					
②	建築計画Ⅰ	2				■						7単位以上	7単位以上
	都市計画		2			■							
	建築計画Ⅱ		2				■						
	建築史		2				■						
③	建築環境工学	2					■					2単位	6単位以上
④	建築設備		2					■				2単位	
⑤	構造力学Ⅰ	2					■					4単位	
	構造力学Ⅱ		2					■				4単位	
⑥	建築構法	2			■							3単位以上	6単位以上
	建築構造	2					■					3単位以上	
⑦	建築材料	2					■					2単位以上	
	建築材料実験	2				■						2単位以上	
⑧	住宅リフォーム論		2			■						2単位以上	1単位以上
	建築施工		2						■			2単位以上	1単位以上
⑨	建築法規		2					■				1単位以上	1単位以上
⑩	建築・環境CAD実習	2			■							必要実務経験年数と①から⑨の区分の取得単位数により⑩の取得必要単位数は異なる。	必要実務経験年数と①から⑨の区分の取得単位数により⑩の取得必要単位数は異なる。
	建築・環境デザイン演習Ⅱ	4				■							
	空間安全論		2			■							
	測量学実習		2			■							
	建築・環境CG実習Ⅰ		2			■						必要実務経験年数2年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて60単位以上	必要実務経験年数0年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて40単位以上
	緑地環境設計		2				■						
	建築・環境CG実習Ⅱ		2				■						
	エコロジカルプランニング		2					■					
	コミュニティデザイン		2							■		必要実務経験年数3年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて50単位以上	必要実務経験年数1年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて30単位以上
	人間工学		2		■								
	建築・環境デザイン概論	2			■								
	都市論		2			■							
	インテリア		2			■						必要実務経験年数4年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて40単位以上	必要実務経験年数2年 ①～⑨の合計単位と⑩の単位併せて20単位以上
	緑地環境計画		2			■							
	都市デザイン		2				■						
	居住論		2					■					
		建築・環境デザイン特別講義	1					■					

10 授業科目の概要（平成26～29年度入学者）

10-1 教養科目

スポーツ

1・2・3・4学年 前期 選択 演習 2単位
篠田浩子

授業の概要およびテーマ

適切なスポーツ・運動習慣や合理的な身体技法を身につけることは生涯にわたる健康生活の基盤となり、人間の生き方そのものにおいて重要な意味を持ちます。本講座では筋反射や身体運動学の科学的な基礎やエビデンスに基づいたコンディショニングやエクササイズ、あるいはスポーツの基本となる「走る・跳ぶ・投げる」など多角的なアプローチにおいて実習します。それらの経験の中で仲間と協力し、多面的な身体運動の意味を理解し、様々な場面に対応できる技術の習得によって個々の身体状況に応じたマイスタイルの生涯フィットネス・生涯スポーツを実践し、継続する能力を養うことを目的とします。

そこで、主に以下のテーマを中心に授業を展開したいと思います。

1. 自分自身の身体に「気づく」…日常生活の身体活動の偏りやスポーツ・運動歴による筋のアンバランスなどの障害リスクのチェックと対処と他者とのコミュニケーション能力としての身体技法の習得
2. 客観的なデータに基づき、各個人の体力やそれぞれの課題に適した運動方法や技術を選択・実践する能力を身につける…「マイ・スタイル」の運動実践方法の習得
3. 日常生活の中で継続可能な適切な身体技法や運動習慣をプログラミングできる…さまざまなスポーツや運動の基礎につながる簡単なリードアップゲームやフィットネスゲームの実践と習慣化

※この授業では特定の各競技スポーツ種目を行うことはありません。低体力の方やこれまでにスポーツ経験や運動経験の少ない方でも取り組める内容を中心に構成されています。

達成目標

- ・自分自身の身体の状態や個人差を認識し、各個人に適切な運動方法を選択的に行う能力と技術を身につける
- ・筋反射や機能解剖・筋生理等に基づいた各運動の意味や運動実践のポイントを理解し、目的に応じた運動方法を見出せる
- ・各コンディショニングやエクササイズの目的や適切な方法について、他者との協力やコミュニケーションを通して、日常生活や各人生ステージにおいて応用してプログラミングし継続的に持続できる

授業計画

- 01 ガイダンス、アイスブレイキングゲーム、身体のアライメントチェック（1）（静止状態で体の歪みチェック）と対処法
 - 02 ウォーミングアップの基本、簡易体力測定（1）「4色の運動」実践（1）
 - 03 4色の運動」実践（2）、ウォーキング・ランニングの基本など
 - 04 ウォーキング・バリエーション（雪道・坂道歩き、リズム・ウォーキング）・障害予防コンディショニング（スクワットの基礎、コアトレーニング等）、スクウェアリレー・他
 - 05 3段階の歩幅・歩速測定等、リズム・ウォーキング・障害予防コンディショニング（コアトレーニング他）またはオリエンテーリング
 - 06 エアロビクス（1）、ボール運動の基本、リードアップゲーム（1）：タッチボールなど
 - 07 エアロビクス（2）リードアップゲーム（2）：鬼ごっこバリエーションなど
 - 08 ※ブラインドウオーク、4色の運動実践（3）
 - 09 ボクシングエアロ（1）・スーパーサーキットトレーニング（1）、リードアップゲーム（3）：パス・ゲーム他
 - 10 ボクシングエアロ（2）・スーパーサーキットトレーニング（2）、フィットネスゲームなど
 - 11 これまでのまとめ、ふりかえり、フィットネスゲーム・ドッチボールなど
 - 12 マイスタイル・フィットネスのプログラミング（1）、軽スポーツ（1）
 - 13 マイスタイル・フィットネスのプログラミング（2）、軽スポーツ（2）
 - 14 ミッション・ウォーク・オリジナルウォーキングマップ作成実習（天候により戸外）
 - 15 簡易体力測定・ミッション・ウォーク実習（天候により戸外）
 - 16 期末試験
- ※オリエンテーリングやブラインドウオーク他、NIDホールの使用可否や天候や条件によって前後したり、変更したりする場合があります。

学生に対する成績評価基準

授業の中で行われる確認テスト（実技含む）：20%、授業への参加態度・意欲、貢献度30%、課題提出物：20%、期末試験：30%

出席・遅刻の基準

2/3以上の授業出席を単位取得条件とします。
また、無断で授業の場から離れた場合は出席不正扱いとなります。（体調不良などでやむを得ず、授業の場を離れた場合は必ず教員に声をかけてください。）

テキスト

授業時に資料を配付します。配付した資料はファイルなどを準備して毎回持参してください。

用具

（各自で用意するもの）
室内運動靴、運動着（ジーンズ不可）、大きめのタオル、補給用水分、着替え、各回で指定された準備物

履修希望者への要望・事前準備

日ごろから適切な体調管理を行い、運動レベルについては各個人の体力などに考慮して無理のないように調整して授業に参加してください。
履修希望者多数の場合は、抽選等で調整を行います。

保健体育講義

1・2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
篠田浩子

授業の概要およびテーマ

古来より人間は身体を媒体とし「動く」ことで他者や世界と関わり、生涯にわたって身体として動くことを宿命づけられてきました。身体運動の質・量が大きく変化した現代においては生活習慣病を始めとする健康障害が大きな問題となり、私たちの「生きる力」を脅かしています。本講座では氾濫する巷の情報に惑わされることなく、生涯にわたる健康生活を実現するための科学的な知識や方法、戦略について解説していきます。また、その上で運動やスポーツを多面的な視野から検討し、他者や社会との有機的な関わりを見据えた健康・体力増進向上のためのライフスタイルに応じたスポーツ・運動実践のあり方について検討します。

達成目標

- ・現代における生活習慣病や健康障害と運動との関係について理解し、それを解決するための科学的知識を身につけ、適切に応用することが出来る。
- ・骨格筋の構造やトレーニングの理論や実践方法の基礎を学び、自らの運動習慣について見直しライフスタイルに応じた持続可能な運動プログラムを作成・実践することができる。
- ・身体の「適応」として捉えられる「体力」について、他者との共生や自らの習慣・生き方と併せて深く考察し、自らの「生きる力」の向上へとつながることが出来る。

授業計画

- 01 ガイダンス、「スポーツ・運動と身体文化」～人間にとって「動く」とは何か～
- 02 現代の生活と運動・スポーツ～「便利さ」と引き換えに失った身体の教養と生体リズム～
- 03 発育・発達と運動～ライフスタイルに応じたスポーツ・運動習慣の設計～
- 04 健康障害と運動・栄養・休養のバランス～お相撲さんに糖尿病が多いのは何故～
- 05 生活習慣病と運動～「寝ない・食べない・運動しない」が脂肪代謝を悪くする
- 06 身体組成と運動の効果～動きやすい体・理想的な体格をつくる～
- 07 ロコモティブ・シンドロームと運動習慣～カルシウム剤を飲むだけでは骨は強くない～
- 08 ～体力要素：「4色の運動」とは？～あなたに足りない色の運動はどれ？～
- 09 骨格筋の構造と働き1～ヒラメの白い筋、マグロの赤い筋の違い～
- 10 骨格筋の構造と働き2～足の指が開かないと踏きやすくなる訳…キネティック・チェーン～
- 11 トレーニングの理論と実践1～筋トレの回数を増やすと筋力は上がらなくなる？～
- 12 トレーニングの理論と実践2～休みをとる戦略：「スプリット・ルーティン」、「インターバル」～
- 13 スポーツ・運動とリスクマネジメント1：日常生活における姿勢・動作と障害リスク、熱中症予防他
- 14 スポーツ・運動とリスクマネジメント2：特殊環境・条件での対応「その時あなたはどのようにする？」
- 15 生涯スポーツ・体育と「生きる力」～ソーシャルキャピタルと地域で行う運動・スポーツの可能性～
- 16 期末試験

学生に対する成績評価基準

授業の受講態度・意欲10%、各講義時の課題20%、期中に行う確認小テスト20%、試験50%
但し、単位取得には全体の2/3以上の出席を前提条件とします。また出欠に関して不正があった場合は厳正に対処します。

テキスト

授業内でプリント類を配付する他、適宜指示します

用具

授業時にその都度指示します

履修希望者への要望・事前準備

授業で学んだことは自らの生活習慣に反映させ、適切な運動プログラムの作成や生活改善を着実に実行し、安全で効果的な運動やスポーツを個々のライフスタイルの中で工夫して実践・継続することでより良い身体環境を実現し「より善く生きる」ための糧としてください。

社会心理学

2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
天野美穂子

授業の概要およびテーマ

社会心理学は、社会的状況における人の心理や行動を研究対象とする学問です。たとえば、「人を説得するにはどのようにすればよいのか?」、「流行はどうやって生まれるのか?」、「インターネット上で匿名で発言すると本音が出やすいのはなぜか?」というような、私たちにとって身近な問題が研究の関心となっています。本講義では、社会心理学の基本的な概念やその実験例、応用事例を順次紹介し、これらの知識の取得によって、自己のより深い理解やさまざまな社会問題の分析・理解に役立つ能力を養うことを目指します。

達成目標

- ・社会心理学の基本的な用語・概念を理解し、説明できる。
- ・社会心理学の知識の習得によって、身の回りの出来事や社会状況・問題を分析し、理解することができる。

授業計画

- 01 授業ガイダンス～社会心理学とは
- 02 自己
- 03 社会的認知
- 04 態度
- 05 対人行動（1）
- 06 対人行動（2）
- 07 対人行動（3）
- 08 集団（1）
- 09 集団（2）
- 10 マス・コミュニケーション（1）
- 11 マス・コミュニケーション（2）
- 12 インターネット・コミュニケーション
- 13 消費者心理
- 14 文化と心理
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

毎回の講義時に提出する小課題／コメントシート（40%）
期末試験（60%）

テキスト

授業内でプリントを配付するほか、適宜指示します。

参考書・参考資料等

社会心理学キーワード 山岸俊男編 有斐閣 1,900円（税抜）

履修希望者への要望・事前準備

講義では、受講生に意見を求めたり、エクササイズの時間を設けながら進めていきます。講義への意欲的な参加を希望致します。

日本文化論

2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
◎黒川廣子、岡本明子、薩摩雅登、芹生春葉

授業の概要およびテーマ

近年グローバル化が進む中で、世界における日本の文化の特徴とは何かを把握するためのテーマを概説し、現代日本の文化に対する理解を促します。

日本は時代ごとに海外の影響を受けながら発展を遂げて、文化的に独特な現象を形成してきました。現代日本文化に影響を与えている複数の異質の文化がダイナミックに融合して文明として成立した事例を挙げて、文化と文明について考えます。古代より日本に最も大きな影響力を及ぼした大陸伝来の仏教について、主に尊像を中心にその形と意味、材質や技法の変遷と表現との密接な関係と、歴史の中でどのような祈りが像に込められたかを考えます。絵画を中心に、大陸文化の伝播とその日本化（和様化）の視点からみる古墳壁画、日本を描くやまと絵、異国・異界の表現、浮世絵に見る西洋文化との出会いやジャポニズムと呼ばれる西欧から見た日本文化を絵画作品を通して概観します。また、古代からの年中行事や生活文化、三道と呼ばれる芸道などに見られる現代に通じる諸要素を探ります。開国に伴う変革、そして高度経済成長期に、近代ヨーロッパおよび現代アメリカから大きな影響を受けつつも、東京オリンピック、日本万国博覧会（大阪）などを経て、現代につながる日本文化を形成したこの重要な時期を、芸術、文化、衣食住など様々な側面から探ります。

達成目標

国際的な視点から見た日本文化のあり方を理解できる。
現代まで受け継がれている日本文化における「美」の感性を考察できる。

授業計画

- 1 序論 文化と文明
 - 2 総論：日本文化への唐文化の影響 神社と寺の違い
 - 3 総論：日本文化への西洋文化の影響 日本の近代化
 - 4 総論：日本文化へのアメリカ文化の影響 1960年代の日本文化
 - 5 仏教美術の受容と展開 1 仏像の誕生と伝来
 - 6 仏教美術の受容と展開 2 仏像の儀軌と技法
 - 7 仏教美術の受容と展開 3 イメージの伝播
 - 8 大陸文化への憧れ 1 古墳壁画の伝存と保存
 - 9 大陸文化への憧れ 2 日本の風景を描く、異国の景色を描く
 - 10 西洋文化との交流 1、浮世絵に見るヨーロッパ
 - 11 西洋文化との交流 2、ヨーロッパの中の日本美術
 - 12 年中行事の彩り
 - 13 生活を彩る文様やかたち
 - 14 三道（茶道・華道・香道）の工芸
 - 15 開国に伴う文化の激変
 - 16 試験
- *担当教員 講義1－4は薩摩、5－7は芹生、8－11は岡本、12－15は黒川
ただし、この順序で進めるとは限りません。

学生に対する成績評価基準

授業態度40%、試験60%

テキスト

随時資料を配付

美術論

2・3・4 学年 後期 選択 講義 2 単位
石原 宏

授業の概要およびテーマ

西洋美術に於ける一技法を中心に、美術史に沿って西洋美術を概観する。テーマは、（１）空間表現の歴史、（２）遠近法の種類、（３）科学的遠近法の発見、（４）空間表現とヨーロッパの南北交流

達成目標

美術作品には、制作された時代の思想・歴史などが反映されている。本講義では西洋の中世からルネサンス時代にかけての空間表現を概観し、どのようにして二次元平面上に立体を表してきたかを考え、またそこに見られる各時代の考え方の変遷を理解する。

授業計画

- 第1回：空間表現と遠近法
- 第2回：古代から中世の空間表現1
- 第3回：古代から中世の空間表現2
- 第4回：ゴシック時代の空間表現
- 第5回：アッシジのサン・フランチェスコ聖堂での革新
- 第6回：ジョットの芸術
- 第7回：ルネサンス前夜のフィレンツェ美術
- 第8回：科学的遠近法の発見
- 第9回：フィレンツェの画家たち1－マサッチョ、マソリーノ
- 第10回：フィレンツェの画家たち2－フラ・アンジェリコ、フィリッポ・リッピ
- 第11回：遠近法に魅せられた画家たち－ウッチェロ、ピエロ・デラ・フランチェスカ、フランドル絵画
- 第12回：『最後の晩餐』の図像学－レオナルド・ダ・ヴィンチの作品を巡って
- 第13回：盛期ルネサンスの画家たち－ミケランジェロ、ラファエロ
- 第14回：マニエリスムとバロック美術における空間表現
- 第15回：まとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価はレポートによる。出席率が80%を下回る場合は単位を与えません。

参考書・参考資料等

「空間を描く遠近法」黒田正己著 彰国社発行 1992年 7,443円
参考資料として、授業時にプリントを配付する。

履修希望者への要望・事前準備

絵を描くとき、何気なく用いている遠近法だが、その歴史は古い。空間表現と言うテーマを通して西洋美術における人間の思考を学ぶ。スライドを使用して数多くの作品に接することを目的としており、コンスタントな出席が不可欠である。

環境と社会

2・3・4 学年 後期 選択 講義 2 単位
水流潤太郎

授業の概要およびテーマ

デザインは生活や社会をよりよくすることを志向しています。したがって、およそデザインに関わる者は、地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題に関心を持ち、自らの考えを深めることが大切です。

この講義では、まず地球環境分野の3大課題である脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会についてとりあげます。さらに後半では、サステナブルな社会に向けて同じく早急な対応が必要となっている、人口減少社会への対応や地方創生、財政健全化の課題も取り上げます。

地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題は、私たちの生活行為や経済活動が引き起こしたものです。講義では、問題が深刻化するに至った原因やメカニズムを探りながら、技術の開発・普及、社会システムやライフスタイルの変革など、問題克服に向けた取り組みについて学びます。

達成目標

- ・地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題について、基礎的な知識を身につけ、概要を説明することができる。
- ・地球環境問題等を自らの問題として自覚し、身近な生活行動や経済活動に関連付けながら、問題の克服に向けた取り組みについて自分の考えを簡潔に論述できる。

授業計画

- 1 社会の持続可能性を脅かす諸問題
- 2 地球温暖化～「脱炭素社会の構築」～
- 3 省エネルギー
- 4 再生可能エネルギーの開発・普及
- 5 二酸化炭素の森林吸収
- 6 対策手法の類型（規制的手法、経済的手法、情報提供等）
- 7 廃棄物の増大、資源の枯渇～「循環型社会の形成」～
- 8 生態系や生物多様性の毀損～「自然共生社会の実現」～
- 9 人口減少、少子高齢化
- 10 地方消滅～「地方創生」～
- 11 リノベーションまちづくり
- 12 空家問題とその対策
- 13 観光まちづくり
- 14 財政危機～「財政健全化」～
- 15 まとめ（未来の選択に自覚を持とう）

学生に対する成績評価基準

成績は課題レポートをもとに評価します。

- ・課題は初回の授業で提示するとともに、最終回の授業で説明します。
- ・レポート提出期限は最終回の授業の1週間後とします。

テキスト

授業ごとにプリントを配付します。

履修希望者への要望・事前準備

社会の持続可能性の問題は、「あちら立てればこちら立たず」、「まだ大丈夫だろうから先送り」の構図にはまっています。老い先の長い、若いジェネレーションほど重大な影響を被る問題ですので、皆さん、関心を強めて下さい。

地域文化論

2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
◎田中洋史、田邊 幹、筑波匡介

授業の概要およびテーマ

「地域」には、それぞれ、豊かな自然と、人びとの暮らしの移り変わりを伝える「歴史」や「文化」があります。本講義では、長岡造形大学が所在する新潟県・長岡市を中心に、「地域」で積み上げられてきた固有の「歴史」と「文化」をとともに学んでいきます。全15回の講義は、人物、地名、古文書、食べ物、景観、建造物、自然災害、戦災など、地域に由来する様々な情報をもとに進めていきます。講義のテーマは、大きく分けて以下の3つです（各講義のタイトルは授業計画を参照）。①「新潟県・長岡市の地域文化」（講義1・15）、②「新潟県・長岡市の歴史と人物」（講義2～4、6、7、9、11～13）、③「自然災害と地域文化」（講義5、8、10、14）。新潟県出身の歴史地理学者・吉田東伍（1864～1918）は、「郷土の地理、郷土の歴史というものはとりもなおさず、郷土の未来に向かってその応用を待つのものである」と述べています。本講義で学んだ、「地域」の「歴史」と「文化」に関する様々な事柄を、自らの専門領域や将来の生活の中で役立ててほしいと考えています。

達成目標

- (1) 新潟県・長岡市の歴史と文化を知ること。
- (2) 自己の生まれ育った地と新潟県・長岡市の違いなどを講義やレポートを通して語れること。
- (3) 新潟県・長岡市で育まれた地域の歴史と文化を、自らの作品や活動にどう活かせるかを模索すること。

授業計画

- 1 地域文化論の序の序～新潟県・長岡市の歴史と風土～
- 2 蔵王堂城から長岡城へ
- 3 城下町長岡と村の食文化
- 4 河井継之助・小林虎三郎・三島億二郎
- 5 中越大震災と災害復興・地域振興～山古志の事例から～
- 6 藩士の記録・村の記録からみた北越戊辰戦争
- 7 信濃川・長生橋と長岡の花火
- 8 中越沖地震と災害復興・地域防災～柏崎の事例から～
- 9 絵葉書が語る近代
- 10 中越大震災と文化財・博物館
- 11 井上門了の妖怪学
- 12 長岡市公会堂と戦前の市民活動
- 13 長岡空襲と戦災復興
- 14 中越大震災・東日本大震災の記録と記憶
- 15 地域文化論の視点～（続）新潟県・長岡市の歴史と風土～

※担当教員 講義1～4、6、7、12～15 田中洋史
講義5・8 筑波匡介、講義9～11 田邊幹

学生に対する成績評価基準

授業態度（10%）、レポート（90%）

テキスト

随時、資料配付

参考書・参考資料等

『ふるさと長岡のあゆみ』（長岡市、1986年）、『長岡の空襲』（長岡市、1987年）、『ふるさと長岡の人びと』（長岡市、1998年）、『長岡歴史事典』（長岡市、2004年）、『長岡市政100年のあゆみ』（長岡市、2006年）、『郷土長岡を創った人びと』（長岡市、2009年）、『知っておきたい新潟県の歴史』（新潟日報事業社、2009年）、『語りつぐ長岡空襲－長岡戦災資料館十周年記念誌－』（長岡市、2013年）など。

用具

筆記用具。その他、必要な場合は随時指示。

履修希望者への要望・事前準備

- (1) 地域の図書館・博物館・美術館を訪れ、読書や鑑賞をとおして、地域の歴史と文化に興味を持ってほしい。
- (2) 自らの出身地と新潟県・長岡市を比較し、その違いや共通点を様々な視点から考えていくという姿勢で講義を受けてほしい。

文化人類学

2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
飯島康夫

授業の概要およびテーマ

人類は、多様な環境のなかで、様々な文化を形成してきました。一方で、多様にみえる各地の文化にも多くの共通性がみられます。本講では、「文化の諸形態とその展開」をテーマに、主として生業形態、時間、祭祀、通過儀礼という視点から、世界や日本の様々な地域で展開する文化についての理解を深めてゆきます。

達成目標

人類文化の多様性と共通性について理解できる。
自らの文化を相対化して考えることができる。

授業計画

- 01 文化とは
- 02 人類の歴史と分類
- 03 文化の見方と異文化理解
- 04 環境への適応と生業パターン
- 05 狩猟採集社会の文化
- 06 牧畜社会の文化（1）
- 07 牧畜社会の文化（2）
- 08 農耕社会の文化
- 09 時間と暦
- 10 信仰と祭り（1）
- 11 信仰と祭り（2）
- 12 儀礼とその分類
- 13 通過儀礼（1）出産
- 14 通過儀礼（2）婚姻
- 15 通過儀礼（3）葬送
- 16 試験

学生に対する成績評価基準

学期末の試験70%、出席を含めた授業参加態度30%
ただし、総授業数の3分の1以上欠席した場合には、期末試験の受験資格を失う。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介します。

履修希望者への要望・事前準備

私たちは自分の属す文化を意識せず、しばしば自文化を基準にして他の文化を見てしまいがちです。異文化、そして自文化をどう理解したらよいかを、受講者それぞれが主体的に考えることを望みます。

法学（日本国憲法）

2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
星野 徹

授業の概要およびテーマ

教職課程の一環として、日本国憲法を題材に「法学」を理解しよう。

憲法解釈を通じて法解釈の在り方、法体系の在り方、そして生活の中で法がどのように機能しているのかを授業を通じて実感できるようにします。

憲法論としては、法の支配とは何か、立憲主義が歴史の中でどのように成り立ち守られてきたか、そして日本国憲法の特殊な成立と性質を、判例を踏まえ理解できるようにします。

教員採用試験の受験希望者については、試験に有益な法律知識を提供します。

達成目標

日本国憲法の基本原則と体系的構造の理解を身につける。
判例解釈を通じて、実践的に法学を理解する。

授業計画

- 01：総論 1 憲法の基本原則とその相互の関係、法の形式
- 02：総論 2 日本国憲法の成り立ち、明治憲法との比較
- 03：総論 3 人権保障総論（主体、新しい権利）
- 04：人権 1 包括的人権 1（人権の種類、平等権）
- 05：人権 2 包括的人権 2（平等権、幸福追求権）
- 06：人権 3 自由権 1（精神的自由、表現の自由を除く）
- 07：人権 4 自由権 2（表現の自由を除く精神的自由の残り）
- 08：人権 5 自由権 3（表現の自由）
- 09：人権 6 自由権 4（経済的自由）
- 10：人権 7 社会権・レポート講評
- 11：人権 8 人身の自由（刑事手続上の保障）
- 12：統治 1 統治の基本原則・国会
- 13：統治 2 国会・内閣
- 14：統治 3 内閣・裁判所
- 15：統治 4 裁判所・憲法保障・地方自治
- 16：試験

学生に対する成績評価基準

レポートの成績30%、試験の成績70%の合計100%で評価する。
レポートは原則として11月の祝日直前の講義の日に出題し、祝日を挟んだ次の講義の日に出題してもらう。
試験は15回の講義の後に、別の日を指定して実施する。
授業の出席日数の不足、出席態度については、減点材料となる。

テキスト

テキストとして『憲法入門』（有斐閣双書）伊藤正己著 定価1,728円（税込み）を指定する。

参考書・参考資料等

『教育六法』、そのほか授業で紹介する書籍。

用具

薄いものでいいので六法、または、憲法の条文のコピー。

履修希望者への要望・事前準備

法学及び憲法に興味を持って授業に臨むこと。
とくに教員志望の方は、教員になることは、自分が教室の責任者になることを意味するので、生徒・児童の人権を理解し、適切な指導を行うためにも、最低限の教養として法学を身につけ、実践できる思考方法を身につけること。

科学技術論

2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
寺島正二郎

授業の概要およびテーマ

今日の我々の生活を支えている科学や技術は、古くからの経験や知恵によって進歩し、多くの試行錯誤によって発展してきた。この科学や技術の進歩は、日常生活から生まれたニーズに基づくものから、その時代の社会的背景に発端を持つものまで様々である。
本講の各講義では、現在の文明社会に欠かすことのできない科学理論や産業技術、生活の必需品に焦点をあて、その発達の歴史や社会への波及効果などについて概説する。これにより科学技術の発展過程を学ぶと共に、今後の技術開発のあり方を考える。

達成目標

科学や技術に興味を持って、科学技術の発展に至った社会的背景や発達の過程、社会的な波及効果などについて理解できるようになること。また、必要な事項について自ら調査を行い、今後の科学技術のあり方について各自の意見が持てること。

授業計画

- 第1～3回目：エネルギーと動力源
- 第4～6回目：建築、家庭用電気製品（衣食住の“住”）
- 第7～9回目：食品の加工（衣食住の“食”）
- 第10～12回目：衣類、生活用品（衣食住の“衣”）
- 第13～15回目：医療・福祉機器、自然現象、宇宙開発
- 第16回目：定期試験

学生に対する成績評価基準

講義ごとに行う出席確認クイズ、レポート、期末試験の結果を総合して評価する。原則として評価の70～80%は定期試験の得点を用いることとし、レポートなどを課した場合には、最大20～30%まで評価に取り入れる。
尚、欠席回数が多い学生については、定期試験とレポート点を合計した得点から（欠席超過回数）×10%を減点し、最終的な評価点とする。

テキスト

特に指定しない。尚、講義資料は長岡造形大学のパレットにアップロードすると共に、必要に応じてプリントを配付する。

履修希望者への要望・事前準備

自分の目で見て、耳で聴いて、自分で考えることが大切です。まず、出席して自分の視点で感じてください。また、授業中は多くの学生さんに意見を求めます。「分かりません」などと回答せず、間違っているとしても良いので「自分の意見」を答えて下さい。
講義中の態度が悪い（私語、内職、居眠り）場合について：
1～2回の注意しますが、改善が見られない諸君は、理由の如何によらず、それ以降の聴講を認めません。お互いに、大人としてのマナーを守りましょう。

哲学

3・4 学年 後期 選択 講義 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

哲学といってもあまりにいろいろな立場があるのが現状ですが、ここで学ぶ哲学とは、世界や自己という根本的な問題について深く感じ、考えるという、人類の文化的伝統を指しています。単に頭で考えるというだけではなく、感覚や直観もあわせ、人間にとっての「謎」の領域に迫ろうとする行為について理解を深めます。狭い意味でのアカデミックな哲学のみを対象とはしません。テーマとしては次の三つがあります。

- (1) 伝統哲学における「英知」を理解する。
ギリシア、キリスト教、インド、中国、日本、等々、各伝統哲学が、世界や自己の「根源」について思索し、それぞれの「宇宙ヴィジョン」を展開していたことが語られます。
- (2) 近代文明とは何であったのかを哲学思想の観点から理解する。
ここでは、近代ヨーロッパ文明における世界のヴィジョンとはどのようなもので、それがいかに近代文明を形作ったかを考えます。
- (3) 現代において「英知の伝統」としての哲学は復活したのか。
人類がまったく新しい時代に突入している現状をふまえ、これから未来へ向かっての哲学的な問いのありかたについて考えます。

達成目標

伝統哲学に含まれた英知を理解する。
近代的な世界観の特徴とその限界を理解する。
人類史的な視野の中で根本的問題を思考することができる。

授業計画

- 01～02. 哲学とは何なのか (1) ～ (2) 文明のゆくえと哲学の現状について
03～08. 東洋における哲学の探究 (1) ～ (6) 日本の哲学、仏教の哲学、インド哲学
09～12. 西洋における伝統の哲学 (1) ～ (4) ギリシア哲学、キリスト教哲学など
13. 近代ヨーロッパ文明と哲学
14. 20世紀から現在への哲学
15. まとめと小論文
(進行計画はだいたいの目安です。履修者の状況に応じて若干の変更を行うことがあります)

学生に対する成績評価基準

期末に、まとめの小論文による試験を行い評価を決定します。

テキスト

開講時に指示します。

参考書・参考資料等

必要に応じて指示することがあります。

履修希望者への要望・事前準備

哲学に一つの決められた答えはないと言われますが、その時の自分にとって最善の答えはあり得ます。それを探求するために、人類の伝統に学んでみてください。

英語中級 I

1 学年 前期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。TOEICへの対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。

達成目標

TOEICテストの形式に慣れ、基礎的な問題解答力をつける。
期末のTOEICテストで400～500点を獲得する。

授業計画

01. TOEICテストの概要、学習の進め方、発音基礎
02. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
03. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
04. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
05. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
06. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
07. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
08. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
09. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験 (TOEIC IPテスト)

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み (授業内のテストを含む) 50%
試験 (TOEIC IPテスト) スコア 50%
ただし、原則としてTOEICスコア300点以上を単位認定の条件とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。

テキスト

主となるテキスト
開講時に指示します。
単語学習として使用するテキスト (後期も使用)
『新TOEICテスト出る語句1800+』早川幸治 コスモビア 1,728円

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『絶対発音力』静哲人 ジャパンタイムズ
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他 (英語の感覚を理解するために)
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

辞書、赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく (参考書の欄も参照)。
MP3プレーヤー (ソフトウェア、アプリ等) は、再生速度を変えられるものがよい (Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple等)。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語中級Ⅱ

1 学年 後期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。
TOEICへの対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。

達成目標

TOEICテストの形式にさらに慣れ、問題解答力をつける。
前回のTOEICテストより50点のスコアアップ。

授業計画

1. 現在の実力チェック
2. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
3. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
4. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
5. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
6. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
7. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
8. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
9. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験 (TOEIC IPテスト)

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み（授業内のテストを含む）50%
試験 (TOEIC IPテスト) スコア 50%
ただし、原則としてTOEICスコア300点以上を単位認定の条件とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。

テキスト

主となるテキスト
最初の授業時に指示します。公式問題集を予定。
単語学習として使用するテキスト（前期から引き続き使用）
『新TOEICテスト出る語句1800+』早川幸治 コスモビア 1,728円

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『絶対発音力』静哲人 ジャパンタイムズ
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他（英語の感覚を理解するために）
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

辞書、赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく（参考書の欄も参照）。
MP3プレーヤー（ソフトウェア、アプリ等）は、再生速度を変えられるものがよい（Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple等）。

英語中上級Ⅰ

1・2 学年 前期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。
TOEICへの対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。

達成目標

TOEICテストの形式に慣れ、問題解答力をつける。
TOEICテストで500～600点以上を獲得する。

授業計画

- (a クラス)
01. TOEICテストの概要、学習の進め方、発音基礎
 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 15. TOEIC模擬テスト
 16. 試験 (TOEIC IPテスト)
- (x クラス)
01. TOEICテストの概要、学習の進め方、現在の実力チェック
 02. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 03. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 04. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 05. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 06. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 07. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 08. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 09. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 15. TOEIC模擬テスト
 16. 試験 (TOEIC IPテスト)

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み（授業内のテストを含む）50%
試験 (TOEIC IPテスト) スコア 50%
原則としてTOEICスコア400点以上を単位認定の条件とする。ただし x クラスでTOEIC初受験の場合のみ350点とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。
遅刻3回で欠席1回分にカウントする。

テキスト

(a. xクラス)
『新TOEICテスト出る語句1800+』早川幸治 コスモビア 1,728円（前年の英語中級で使用したものがある場合はそれด้วย）
このほかにメインとなる追加の教材を指定する（詳細は4月のガイダンスにて）。公式問題集を使用する予定。

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他（英語の感覚を理解するために）
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

自己採点のための赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく（参考書の欄も参照）。
MP3プレーヤー（ソフトウェア、アプリ等）は、再生速度を変えられるものがよい（Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple, Audipo等）。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語中上級Ⅱ

1・2 学年 後期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。
TOEICへの対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。

達成目標

TOEICテストの形式にさらに慣れ、問題解答力をつける。
TOEICテストで前期よりも50点以上のスコアアップ。

授業計画

(1 年生 a クラス, 2 年生 x クラスとも)

01. 現在の実力チェック
02. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
03. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
04. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
05. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
06. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
07. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
08. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
09. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験 (TOEIC IPテスト)

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み (授業内のテストを含む) 50%
試験 (TOEIC IPテスト) スコア 50%
ただし、原則としてTOEICスコア400点以上を単位認定の条件とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。
遅刻3回で欠席1回分にカウントする。

テキスト

(1 年生 a クラス, 2 年生 x クラスとも)
単語学習として使用するテキスト (前期から引き続き使用)
『新TOEICテスト出る語句1800+』早川幸治 コスモビア 1,728円
主となるテキストは後ほど発表します。前期のものを継続して使用する場合があります。

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『絶対発音力』静哲人 ジャパンタイムズ
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他 (英語の感覚を理解するために)
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

辞書、赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく (参考書の欄も参照)。
MP3プレーヤー (ソフトウェア、アプリ等) は、再生速度を変えられるものがよい (Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple等)。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語上級Ⅰ

2 学年 前期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を完成させる。

達成目標

TOEICテストの形式に慣れ、問題解答力をつける。
期末のTOEICテストで600点以上を獲得する。すでに600点を獲得している人については、さらに700点台をめざす。

授業計画

01. TOEICテストの概要、学習の進め方、現在の実力チェック
02. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
03. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
04. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
05. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
06. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
07. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
08. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
09. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験 (TOEIC IPテスト)

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み (授業内のテストを含む) 50%
試験 (TOEIC IPテスト) スコア 50%
ただし、原則としてTOEICスコア450点以上を単位認定の条件とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。
遅刻3回で欠席1回分にカウントする。

テキスト

『新TOEICテスト出る語句1800』早川幸治 コスモビア 1,728円 (英語中上級で使用したもの) ただし、受講者と相談の上変更することがあります。
このほか『公式問題集』を使用する予定 (詳細は初回授業にて)。2800円 + 税

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他 (英語の感覚を理解するために)
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく (参考書の欄も参照)。
MP3プレーヤー (ソフトウェア、アプリ等) は、再生速度を変えられるものがよい (Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple等)。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語上級Ⅱ

2 学年 後期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を完成させる。

達成目標

TOEICテストの形式に慣れ、問題解答力をつける。
期末のTOEICテストで600点以上を獲得する。すでに600点を獲得している人
については、さらに700点をめざす。

授業計画

1. 現在の實力チェック
2. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
3. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
4. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
5. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
6. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
7. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
8. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
9. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験（TOEIC IPテスト）

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み（授業内のテストを含む） 50%
試験（TOEIC IPテスト）スコア 50%
ただし、原則としてTOEICスコア450点以上を単位認定の条件とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。
遅刻3回で欠席1回分にカウントする。

テキスト

英単語の本として、『新TOEICテスト出る語句1800』早川幸治 コスモビア
1,728円（英語中上級で使用したもの）ただし、受講者と相談の上変更するこ
とがあります。
主となる教材は後ほど発表します。前期と同じものを継続して使用する場合
があります。

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『絶対発音力』静哲人 ジャパンタイムズ
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出
版
☆その他（英語の感覚を理解するために）
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ
NHK出版

用具

辞書、赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDお
よびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえてお
く（参考書の欄も参照）。
MP3プレーヤー（ソフトウェア、アプリ等）は、再生速度を変えられるも
のがよい（Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple等）。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集
などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語オーラルコミュニケーションⅠ

1 学年 前期 選択 実習 1 単位
Andrew Van Goethem

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on
listening.

Students interact with each other sharing their own lives
interests and opinions.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

Students will be able to perform a number of tasks that are
related to the topic. After each lesson students should feel more
comfortable talking about the topic that was covered in the
lesson. They will also learn more vocabulary words and phrases
related to the topic that was being discussed.

Students will be motivated to learn English, free of any negative
feeling about it.

They will attain a very basic level of speaking skills suitable for
traveling abroad.

CLASS PLAN

Class 1: Introductions, Topic 1 Family
Class 2: Topic 2 Food
Class 3: Topic 3 Time, Topic 8 Numbers
Class 4: Topic 4 House & Home
Class 5: Topic 5 Music
Class 6: Topic 6 Transportation
Class 7: Topic 7 Sports
Class 8: Topic 9 Best Friends
Class 9: Topic 10 TV, Topic 14 Movies
Class 10: Topic 11 Work, Topic 13 School
Class 11: Topic 15 Money
Class 12: Topic 12 Vacation
Class 13: Topic 12 Vacation Part II
Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
Class 16 TOEIC Bridge Test

GRADE

Class grade is 40%, Participation
20%, Homework: E-mail
20%, Oral Exam
20%, TOEIC Bridge Test

TEXTBOOK

Topic Talk
Second Edition
Written By: David Martin 2006
¥2,520

STUDENTS REQUIREMENTS

Students are required to come to class on time bring a dictionary
and notebook. Students are also required to ask questions when
they don't know something in English.

英語オーラルコミュニケーションⅡ

1 学年 後期 選択 実習 1 単位
Andrew Van Goethem

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on listening

Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

Students will be able to perform a number of tasks that are related to the topic. After each lesson students should feel more comfortable talking about the topic that was covered in the lesson. They will also learn more vocabulary words and phrases related to the topic that was being discussed.

Students will be motivated to learn English, free of any negative feeling about it.

They will attain a very basic level of speaking skills suitable for traveling abroad with some progress from the 1st semester.

CLASS PLAN

Class 1: Topic 16 Restaurants
Class 2: Topic 17 Animals
Class 3: Topic 18 Shopping
Class 4: Topic 19 Health & Fitness
Class 5: Topic 20 Fashion
Class 6: Topic 21 Travel
Class 7: Topic 22 Books Magazines & Newspapers
Class 8: Topic 23 Sickness, Topic 25 Fears
Class 9: Topic 26 Dating, Topic 27 Marriage
Class 10: Topic 28 Beliefs
Class 11: Topic 29 Crime
Class 12: Topic 30 Opinions
Class 13: Topic 24 Holidays
Class 14 & 15: Summary and Oral Exam

GRADE

Class grade is 50%, Participation
10%, Homework: E-mail
15%, English Usage
25%, Oral Exam

TEXTBOOK

Topic Talk
Second Edition
Written By: David Martin 2006
¥2,520

STUDENTS REQUIREMENTS

Students are required to come to class on time bring a dictionary and notebook. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.

英語オーラルコミュニケーションⅢ

1・2 学年 前期 選択 実習 1 単位
©Andrew Van Goethem, Paul Edwards

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on listening. Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions. Second year students will be given the opportunity to increase their speaking ability by joining this class. A list of topics will be discussed during each semester and students can expand their English knowledge they have acquired from their first year English classes. This is an English speaking class.
1-year students will take a TOEIC Bridge Test at the end of the term.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

First-year students will be able to perform a number of tasks that are related to the topic. After each lesson students should feel more comfortable talking about the topic that was covered in the lesson. They will also learn more vocabulary words and phrases related to the topic that was being discussed. Students will be motivated to learn English, free of any negative feeling. Second year students' major goal in this class will be to interact with other students using a wide range of vocabulary and expressions in English. The purpose of this class is to spend each lesson speaking in English only and building much confidence when using English as a second language. They will attain a basic level of speaking skills suitable for traveling abroad.

CLASS PLAN

(Class a, b, and c: 1st-year classes by Van Goethem)

Class 1: Introductions, Topic 1 Family
Class 2: Topic 2 Food
Class 3: Topic 3 Time, Topic 8 Numbers
Class 4: Topic 4 House & Home
Class 5: Topic 5 Music
Class 6: Topic 6 Transportation
Class 7: Topic 7 Sports
Class 8: Topic 9 Best Friends
Class 9: Topic 10 TV, Topic 14 Movies
Class 10: Topic 11 Work, Topic 13 School
Class 11: Topic 15 Money
Class 12: Topic 12 Vacation
Class 13: Topic 12 Vacation Part II
Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
Class 16: TOEIC Bridge Test

(Class d: 1st-year class by Edwards)

Week 1: Introduction to course & textbook
Week 2: Asking people to do things
Week 3: continued
Week 4: Talking about likes & dislikes
Week 5: Talking about what people are doing
Week 6: continued
Week 7: Talking about dates, days and events
Week 8: continued
Week 9: Mid-term review quiz
Week 10: Describing jobs
Week 11: continued
Week 12: Describing locations
Week 13: continued
Week 14: Final exam
Week 15: Final exam
Week 16: TOEIC Bridge Test
(Class x, y and z: 2nd-year classes by Van Goethem)
Week 1: Introductions, How are you? Nice to meet you. Can you say that again?
Week 2: Nice weather, isn't it? I love hip-hop!
Week 3: My favorite movie is... What time is it?
Week 4: Would you try kayaking? Do you have any brothers?
Week 5: She's pretty smart. I love your shirt! What's she wearing?
Week 6: When do you get up? When do you get there? What do you do first?
Week 7: What are you doing? What's your place like? Where can I get a lamp?
Week 8: Where's the mall? Take a left. How much is coffee?
Week 9: Will you take \$20? Do you ever buy books? Your phone is so cool!
Week 10: Do you eat much fruit? We need onions.
Week 11: Do you ever eat a big lunch? How does it taste?
Week 12: I had a great weekend. What time did you call? You won't believe this!
Week 13: What are your plans?
Week 14: Class summary
Week 15: Class summary

GRADE

For 1-year students:
Participation in class: 40%
Homework, Assignments, etc: 20%
Final Exam: 20%
TOEIC Bridge: 20%
For 2-year students:
Participation in class: 50%
Homework, Assignments, etc: 25%
Final Exam: 25%

TEXTBOOK

(Class a, b, and c)
Topic Talk Second Edition Written By: David Martin 2006 EFL Press about ¥2,520
(Class d)
Communication Spotlight (Starter) Second Edition by Alastair Graham-Marr (ABAX ELT Publishers) with audio CD about ¥2,550
(Class x, y and z)
Speak NOW 1: Communicate with Confidence By: Jack C. Richards and David Bohlke Oxford about ¥2,800

STUDENTS REQUIREMENTS

(Class a, b, c, x, y and z: Van Goethem)
Students are required to be in class on time and have their textbooks, dictionary and notebook with them for each lesson. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.
(Class d: Edwards)
Japanese - English/English - Japanese Dictionary, paper or electronic is a must.

英語オーラルコミュニケーションⅣ

1・2学年 後期 選択 実習 1単位
©Andrew Van Goethem, Paul Edwards

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on listening.
Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.
Second year students will be given the opportunity to increase their speaking ability by joining this class. A list of topics will be discussed during each semester and students can expand their English knowledge they have acquired from their first year English classes. This is an English speaking class.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

First year students will be able to perform a number of tasks that are related to the topic.

After each lesson students should feel more comfortable talking about the topic that was covered in the lesson. They will also learn more vocabulary words and phrases related to the topic that was being discussed.

Students will be motivated to learn English, free of any negative feeling.

Second year students' major goal in this class will be to interact with other students using a wide range of vocabulary and expressions in English.

The purpose of this class is to spend each lesson speaking in English only and building much confidence when using English as a second language.

They will attain a basic level of speaking skills suitable for traveling abroad with some progress from the 1st semester.

CLASS PLAN

(Class a, b and c: Van Goethem's schedule)

Class 1: Topic 16 Restaurants

Class 2: Topic 17 Animals

Class 3: Topic 18 Shopping

Class 4: Topic 19 Health & Fitness

Class 5: Topic 20 Fashion

Class 6: Topic 21 Travel

Class 7: Topic 22 Books Magazines & Newspapers

Class 8: Topic 23 Sickness, Topic 25 Fears

Class 9: Topic 26 Dating, Topic 27 Marriage

Class 10: Topic 28 Beliefs

Class 11: Topic 29 Crime

Class 12: Topic 30 Opinions

Class 13: Topic 24 Holidays

Class 14 & 15: Summary and Oral Exam

(Class d: Edwards' schedule)

Week 1: Intro to course/Talking about school schedules

Week 2: Talking about school schedules

Week 3: Talking about things you can do

Week 4: continued

Week 5: Describing location

Week 6: continued

Week 7: Talking about everyday things

Week 8: continued

Week 9: Mid-term review quiz

Week 10: Fluency with numbers

Week 11: continued

Week 12: Talking about things you did

Week 13: continued

Week 14: Asking questions

Week 15: Final exam

Week 16: Final exam

(Class x, y and z: Van Goethem's schedule)

Week 1: Introductions. Where are you from? I'm tall and thin. Alice is more serious.

Week 2: All of my friends text. I've never had Thai food. First, grill the bread.

Week 3: The service is great. Are you ready to order?

Week 4: I have a sore throat. What should I do? I'd love to try that!

Week 5: Soccer is more exciting! I can write pretty well. I'd have to have..

Week 6: I travel for free. Is the manager there?

Week 7: That sounds fun! I'd love to go. I'm sorry, but I can't.

Week 8: Sorry I'm late. Did you go alone? Which do you prefer?

Week 9: You must get a visa. When is the next train?

Week 10: I usually wear..What do you think?

Week 11: Can you do me a favor? What is it used for?

Week 12: I think it's fun. I feel the same way.

Week 13: What would you do? Then what happened?

Week 14: Summary

Week 15: Summary

GRADE

Participation in class: 50%

Homework, Assignments, etc. 25%

Final Exam: 25%

TEXTBOOK

(Class a, b, and c: Van Goethem)

Topic Talk Second Edition Written By: David Martin 2006 ¥2,520

(Class d: Edwards)

Communication Spotlight (Starter) Second Edition by Alastair Graham-Marr (ABAX ELT Publishers) (¥2,550) with audio CD

(Class x, y and z: Van Goethem)

Speak NOW 2: Communicate with Confidence By: Jack C. Richards and David Bohlke Oxford about ¥2,800

STUDENTS REQUIREMENTS

(Van Goethem) Students are required to come to class on time bring a dictionary and notebook. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.

(Edwards) Japanese – English/English – Japanese Dictionary..paper or electronic is a must.

英語オーラルコミュニケーションⅤ

1・2学年 前期 選択 実習 1単位
©Andrew Van Goethem, Paul Edwards, Brian Drier,
Bill Evangelos Moulinos, 木伏あづさ

THEME

First year students: Basic conversation skills using everyday English with some emphasis on listening. Students will interact with each other each week sharing from their own lives, experiences, interests, and opinions.

Second year students will be given the opportunity to increase their speaking ability by joining this class. A list of topics will be discussed during each semester, and students can expand their English knowledge they have acquired from their first year English classes. This is an English speaking class.

1-year students will take a TOEIC Bridge Test at the end of the term, if they do not take a TOEIC test instead.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

This is an oral communication class. Students are expected to use whatever English knowledge they have to positively communicate with their classmates on a weekly basis. There will also be some listening, writing, and reading components as well.

Students will get speaking skills to get by in everyday English.

Second year students' major goal in this class will be to interact with other students using a wide range of vocabulary and expressions in English.

The purpose of this class is to spend each lesson speaking in English only and building much confidence when using English as a second language.

CLASS PLAN

(Class a: Drier's schedule)

Week 1: Introductions (Professor; Class; Students)

Week 2: Getting Acquainted (Let's Chat, Unit 1)

Week 3: Experiences (Let's Chat, Unit 2)

Week 4: Sport & Leisure (Let's Chat, Unit 3)

Week 5: Shopping & Money (Let's Chat, Unit 4)

Week 6: Food (Let's Chat, Unit 5)

Week 7: Travel (Let's Chat, Unit 6)

Week 8: Movies & Television (Let's Chat, Unit 7)

Week 9: Work (Let's Chat, Unit 8)

Week 10: Health (Let's Chat, Unit 9)

Week 11: Love & Romance (Let's Chat, Unit 10)

Week 12: Music & Books (Let's Chat, Unit 11)

Week 13: Culture & Places in Japan (Let's Chat, Unit 12)

Week 14 and 15: Final Exams

Week 16: TOEIC Bridge Test (1-year students only)

(Class b: Van Goethem's schedule)

Class 1: Introductions, Topic 1 Family

Class 2: Topic 2 Food

Class 3: Topic 3 Time, Topic 8 Numbers

Class 4: Topic 4 House & Home

Class 5: Topic 5 Music

Class 6: Topic 6 Transportation

Class 7: Topic 7 Sports

Class 8: Topic 9 Best Friends

Class 9: Topic 10 TV, Topic 14 Movies

Class 10: Topic 11 Work, Topic 15 School

Class 11: Topic 15 Money

Class 12: Topic 12 Vacation

Class 13: Topic 13 Vacation Part II

Class 14 & 15: Summary and Oral Exam

Class 16: TOEIC Bridge Test

(Class v & w: Moulinos's schedule)

1. Introduction

2. Unit 1: Guess Where I'm from.

3. Unit 2: Comfy Seats.

4. Unit 3: A Trip to the Art Gallery; Unit 4: My Quirky Family.

5. Unit 5: Scaredy Cat.

6. Unit 6: The Commute.

7. Unit 7: A Close Shave.

8. Unit 8: Excuses, Excuses.

9. Unit 9: Moving On.

10. Unit 10: Shop till You Drop.

11. Unit 11: Home Sweet Home.

12. Unit 12: The Life of the Party.

13. Unit 13: Aussies are So Cool.

14. Unit 14: World's Worst Cook; Unit 15: Lucky Dog.

15. Unit 16: I Want to be a Superhero; Review for Test.

16. Final Examination.

(Class x: Drier's schedule)

Week 1: Introductions (Professor; Class; Students)

Week 2: Getting Acquainted (Let's Chat, Unit 1)

Week 3: Experiences (Let's Chat, Unit 2)

Week 4: Sport & Leisure (Let's Chat, Unit 3)

Week 5: Shopping & Money (Let's Chat, Unit 4)

Week 6: Food (Let's Chat, Unit 5)

Week 7: Travel (Let's Chat, Unit 6)

Week 8: Movies & Television (Let's Chat, Unit 7)

Week 9: Work (Let's Chat, Unit 8)

Week 10: Health (Let's Chat, Unit 9)

Week 11: Love & Romance (Let's Chat, Unit 10)

Week 12: Music & Books (Let's Chat, Unit 11)

Week 13: Culture & Places in Japan (Let's Chat, Unit 12)

Week 14: World Problems (Let's Chat, Unit 13)

Weeks 15 and 16: Final Exams

(Class y: Kihashi's schedule)

Week 1: Introduction to Class and Useful Language

Week 2: Oral communication exercises

Week 3: Oral communication exercises

Week 4: Oral communication exercises

Week 5: Oral communication exercises

Week 6: Oral communication exercises

Week 7: Oral communication exercises

Week 8: Oral communication exercises

Week 9: Oral communication exercises

Week 10: Oral communication exercises

Week 11: Oral communication exercises

Week 12: Oral communication exercises

Week 13: Oral communication exercises

Week 14: Preparation for Final exam

Week 15: Final exam

Week 16: Final exam

(Class z: Edwards' schedule)

Week 1: Course Introduction/ Student Intro

Week 2: Talking about likes & dislikes

Week 3: Fluency with money & prices

Week 4: continued

Week 5: Describing your family

Week 6: continued

Week 7: Talking about things you did

Week 8: continued

Week 9: Mid-term review quiz

Week 10: Describing occupations

Week 11: continued

Week 12: Describing your daily routines

Week 13: continued

Week 14: Describing locations, things in a room

Week 15: Final exam

Week 16: Final exam

GRADE

For 1-year students: Participation in class: 40%

Homework, Assignments, etc: 20%

Final Exam: 20%

For 2-year students: Participation in class: 50%

Homework, Assignments, etc: 25%

Final Exam: 25%

TEXTBOOK

(Class a & x: Drier)

Let's Chat (John Pak, EFL Press: ¥2500 + tax)

(Class b: Van Goethem)

Topic Talk Second Edition Written By: David Martin 2006 ¥2,520

(Class v & w: Moulinos)

Impact Conversation 1 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens: 2009, Pearson Longman.

(Class y: Kihashi)

To be announced at the first class.

最初の授業時に指示します。

(Class z: Edwards)

Communication Spotlight (High Beginner) 2nd Edition by Allastair Graham-Marr (2013) ABAX ELT Publishers (¥2,550)

(Drier)

I am looking forward to our classes. 2015 will be my first year teaching at NID, and I view this course as an experiment in English.

That is, although I have prepared a schedule, it is tentative. This means that I may make changes during the semester, based on the character of the class and the amount of time necessary for the content.

I may change the sequence of units, remove units altogether, and add content not listed above. I plan to share my personal experiences with you, and I hope that you will come to class prepared to share your experiences with me and your classmates. Bring a dictionary to be safe and 'genki' to be active!

(an Goethem)

Students are required to be in class on time and have their textbooks, dictionary and notebook with them for each lesson. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.

(木伏)

辞書を持参してください

(Moulinos)

Please bring an advanced – level dictionary and a positive attitude to every class session.

(Edwards)

Japanese – English/English – Japanese Dictionary..paper or electronic is a must.

英語オーラルコミュニケーションⅥ

1・2 学年 後期 選択 実習 1 単位

©Andrew Van Goethem, Paul Edwards, Brian Drier,
Bill Evangelos Moulinos, 木伏あづさ

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on listening Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.
Second year students will be given the opportunity to increase their speaking ability by joining this class. A list of topics will be discussed during each semester and students can expand their English knowledge they have acquired from their first year English classes. This is an English speaking class.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

This is an oral communication class. Students are expected to use whatever English knowledge they have to positively communicate with their classmates on a weekly basis.
There will also be some listening, writing, and reading components as well.
Second year students' major goal in this class will be to interact with other students using a wide range of vocabulary and expressions in English.
The purpose of this class is to spend each lesson speaking in English only and building much confidence when using English as a second language.
Students will get speaking skills to get by in everyday English with some progress from the 1st semester.

CLASS PLAN

(Class a and x: Drier's schedule)
Week 1: Introduction; Summer Vacation 1
Week 2: Summer Vacation 2
Week 3: Animals
Week 4: Fashion
Week 5: Family
Week 6: School
Week 7: Nature
Week 8: Friends
Week 9: Fun
Week 10: Home & Housing
Week 11: Opinion/Presentation 1
Week 12: Opinion/Presentation 2
Week 13: Opinion/Presentation 3
Week 14: Opinion/Presentation 4
Weeks 15 & 16: Final Exams
(Class b: Van Goethem's schedule)
Class 1: Topic 16 Restaurants
Class 2: Topic 17 Animals
Class 3: Topic 18 Shopping
Class 4: Topic 19 Health & Fitness
Class 5: Topic 20 Fashion
Class 6: Topic 21 Travel
Class 7: Topic 22 Books Magazines & Newspapers
Class 8: Topic 23 Sickness, Topic 25 Pears
Class 9: Topic 26 Dating, Topic 27 Marriage
Class 10: Topic 28 Beliefs
Class 11: Topic 29 Crime
Class 12: Topic 30 Opinions
Class 13: Topic 24 Holidays
Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
(Class v and w: Moulinos's schedule)
1. Introduction
2. Unit 1: Something Cool.
3. Unit 2: My Humble Abode.
4. Unit 3: Food Cravings.
5. Unit 4: Who We Are.
6. Unit 5: Corporate Ladder.
7. Unit 6: Another World.
8. Unit 7: Big Worry; Unit 8: Unplugged.
9. Unit 9: The Remote.
10. Unit 10: Clean Freak.
11. Unit 11: No Such Thing.
12. Unit 12: Like Chalk and Cheese.
13. Unit 13: Hang in There.
14. Unit 14: The Time of My Life; Unit 15: It's a Guy Thing.
15. Unit 16: Role Model; Review for Test.
16. Final Examination.
(Class y: Kibushi's schedule)
Week 1: Introduction to Class and Useful Language
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: preparation for Final exam
Week 15: Final exam
Week 16: Final exam
(Class z: Edwards's schedule)
Week 1: Course Intro/ Talking about holidays and school
Week 2: Giving instructions/describing how to cook
Week 3: continued
Week 4: Describing current actions
Week 5: continued
Week 6: Talking about the future
Week 7: continued
Week 8: Describing foods (fruits & vegetables)
Week 9: Mid-term review quiz
Week 10: Fluency with large numbers
Week 11: continued
Week 12: Giving directions/describing neighborhoods
Week 13: continued
Week 14: Asking for information
Week 15: Final exam
Week 16: Final exam

GRADE

Participation in class: 50%
Homework, Assignments, etc.: 25%
Final Exam: 25%

TEXTBOOK

(Class a and x: Drier)
No textbook to buy for this class.
(Class b: Van Goethem)
Topic Talk Second Edition Written By: David Martin 2006 ¥2,520
(Class v and w: Moulinos)
Impact Conversation 2 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens; 2009, Pearson Longman.
(Class y: Kibushi)
最初の授業時に指示します。
(Class z: Edwards)
Communication Spotlight (High Beginner) 2nd Edition by Allastair Graham-Marr (2013) ABAX ELT Publishers (¥2,550)

STUDENTS REQUIREMENTS

(Drier)
While Oral Communication V is concerned primarily with communication through conversation, I expect that this class will include some additional emphasis on presenting opinion as well as informal and formal presentation skills. There is a strong possibility that the final exam will consist in an oral presentation. Please note that the schedule is subject to change, much like Oral Communication V, and will probably change even more than that class, because I expect to give students a greater opportunity to give me input concerning the content, activities, and procedure of this class. I hope that you will take an active part in the process of decision-making and offer your opinions about the best form for this class to take.
Note that there will be no textbook to buy for this class. However, I recommend that you bring a dictionary and lots of "yarakhi"
(Van Goethem)
Students are required to be in class on time and have their textbooks, dictionary and notebook with them for each lesson. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.
(Moulinos)
Please bring an advanced-level dictionary and a positive attitude to every class session.
(木伏)
辞書を持参してください
(Edwards)
Japanese-English/English-Japanese Dictionary-paper or electronic is a must.

英語オーラルコミュニケーションⅦ

1・2 学年 前期 選択 実習 1 単位
Lance Latham, 木伏あづさ

THEME

Basic Conversation with some emphasis on listening
Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

This is an oral communication class. Students are expected to use whatever English knowledge they have to positively communicate with their classmates on a weekly basis. There will also be some listening, writing, and reading components as well. Students will get basic speaking skills to express opinions in English.
1-year students will take a TOEIC Bridge Test at the end of the term.

CLASS PLAN

(Class a)
Week 1: Introduction to Course
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: Review of Textbook Materials
Week 15: Oral Assessment
Week 16: TOEIC Bridge Test
(Class x)
Week 1: Introduction to Class and Useful Language
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: Preparation for Final exam
Week 15: Final exam
Week 16: Final exam

GRADE

For 1-year students: Participation in class: 40%
Homework, Assignments, etc.: 20%
Final Exam: 20%
TOEIC Bridge: 20%
For 2-year students: Participation in class: 50%
Homework, Assignments, etc.: 25%
Final Exam: 25%

TEXTBOOK

For both class a and x
To be announced at the beginning of the term.

STUDENTS REQUIREMENTS

(Class a: Lance Latham)
Be prepared to use English in conversation style for most of each class.
However, there will also be some listening, reading, and writing. The items in the schedule are subject to change. In addition to standard writing materials and a notebook, students are expected to bring a paper/electronic dictionary.
(Class x: 木伏あづさ)
辞書を持参してください。

英語オーラルコミュニケーションⅦ

1・2学年 後期 選択 実習 1単位
Lance Latham, 木伏あづさ

THEME

Basic Conversation with some emphasis on listening. Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

This is an oral communication class. Students are expected to use whatever English knowledge they have to positively communicate with their classmates on a weekly basis. There will also be some listening, writing, and reading components as well. Students will get basic speaking skills to express opinions in English with some progress from the 1st semester.

CLASS PLAN

(Class a: Latham's schedule)

Week 1: Oral communication exercises
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: Review of Textbook Materials
Week 15: Oral Assessment

(Class x: Kibushi's schedule)

Week 1: Introduction to Class and Useful Language
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: preparation for Final exam
Week 15: Final exam
Week 16: Final exam

GRADE

Participation/English in Class 50%
Homework, Assignments, etc. 25%
Final exam 25%

TEXTBOOK

(Class a: Latham)

To be announced at the beginning of the term.

(Class x: Kibushi)

To be announced at the beginning of the term.

STUDENTS REQUIREMENTS

(Latham)

Be prepared to use English in conversation style for most of each class. However, there will also be some listening, reading, and writing. The items in the schedule are subject to change. In addition to standard writing materials and a notebook, students are expected to have bring a paper/electronic dictionary.

(木伏)

辞書を持参してください。

英語オーラルコミュニケーションⅧ

2学年 前期 選択 実習 1単位
Lance Latham

THEME

The theme for this class has two major points: one is using English for communication with classmates and the second point is communicating with people living abroad.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

The main purpose of this class is to get students to use English to help them in their future job and get students to express themselves more clearly in many life situations. The students' goals are to increase their English vocabulary use more English expressions with confidence and feel comfortable speaking English in a group situation.

CLASS PLAN

Week 1: Introduction to Course
Week 2: Oral Communication Exercises
Week 3: Oral Communication Exercises
Week 4: Oral Communication Exercises
Week 5: Oral Communication Exercises
Week 6: Oral Communication Exercises
Week 7: Oral Communication Exercises
Week 8: Oral Communication Exercises
Week 9: Oral Communication Exercises
Week 10: Oral Communication Exercises
Week 11: Oral Communication Exercises
Week 12: Oral Communication Exercises
Week 13: Oral Communication Exercises
Week 14: Review of Textbook Materials
Week 15: Oral Assessment

This schedule is subject to change.

GRADE

Attendance/Participation 50%
Homework 25%
Final speaking test 25%

TEXTBOOK

The textbook will be announced at the beginning of the term.

STUDENTS REQUIREMENTS

Be prepared to use English in conversation style for most of each class. However, there will also be some listening, reading, and writing. The items in the schedule are subject to change. In addition to standard writing materials and a notebook, students are expected to have bring a paper/electronic dictionary.

英語オーラルコミュニケーションX

2 学年 後期 選択 実習 1 単位
Lance Latham

THEME

The theme for this class has two major points one is using English for communication with classmates and the second point is communicating with people living abroad.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

The main purpose of this class is to get students to use English to help them in their future job and get students to express themselves more clearly in many life situations. The students' goals are to increase their English vocabulary use more English expressions with confidence and feel comfortable speaking English in a group situation. Students will be expected to show some progress from the 1st semester.

CLASS PLAN

Week 1: Introduction to Course
Week 2: Oral Communication Exercises
Week 3: Oral Communication Exercises
Week 4: Oral Communication Exercises
Week 5: Oral Communication Exercises
Week 6: Oral Communication Exercises
Week 7: Oral Communication Exercises
Week 8: Oral Communication Exercises
Week 9: Oral Communication Exercises
Week 10: Oral Communication Exercises
Week 11: Oral Communication Exercises
Week 12: Oral Communication Exercises
Week 13: Oral Communication Exercises
Week 14: Review of Textbook Materials
Week 15: Oral Assessment
This schedule is subject to change.

GRADE

Attendance/Participation 50%
Homework 25%
Final speaking test 25%

TEXTBOOK

The textbook will be announced at the beginning of the term.

STUDENTS REQUIREMENTS

Be prepared to use English in conversation style for most of each class. However, there will also be some listening, reading, and writing. The items in the schedule are subject to change. In addition to standard writing materials and a notebook, students are expected to have bring a paper/electronic dictionary.

基礎ゼミ I

1 学年 後期 必修 演習 2 単位
◎金山正貴、板垣順平、市川治郎、小松佳代子、竹田進吾、
福本 壘、米田瑠美

授業の概要およびテーマ

デザインを学ぶことの意味、それを社会にどのように還元するかを考えます。
他大学も含めた先輩方の話をきっかけとしながら、自分自身が大学でどのようなことを学びそれを社会で生かしていくかを改めて整理していくことが目的です。

達成目標

自分自身の将来像を見定める。
目標とする将来像に対して、自分自身が今後どのような態度で学修を進めていくべきかを把握する。
学修を進める上で必要となるスキルをより一層向上させる意欲を持つ。
将来へ向けたビジョンを他の学生と共有する。

授業計画

01 ガイダンス
02-10 「大学生活で何に取り組み、どんな未来をつくるのか」
※120分×4回（主に土曜日）でNPOカタリバとの協働により実施します。
※カタリバの最終回は時間を延長します（1時間程度）。
・先輩トークライブ
・対話の座談会
・プレゼンテーション準備
・最終プレゼンテーション
※途中に二度、通常開講日を使って作業日を設定します。
11 ふりかえり
12 成果をデジタルデータにする(PowerPoint,Keynote,Acrobat)
13 学修効果を高めるスキルを身につける 1
14 学修効果を高めるスキルを身につける 2
15 未来履歴書を作成する (Word,Excel)

学生に対する成績評価基準

提出された成果物によって評価を行います。
評価には、数回設定されるプレゼンテーションの評価も含まれます。

出席・遅刻の基準

※NPOカタリバと実施する回は土曜日13時～15時を予定しています。
（4回目は全体発表に時間を要するため13時～16時となる予定です）
事前周知するので、その日程を確保してください。
グループワーク実施の回に関しては、原則として授業開始時までに出席していない場合は参加を認めず、欠席扱いとします。

用具

室内履き（NPOカタリバとのワークショップはNIDホールで行う予定です。冷え込む可能性もあるので、必要に応じて室内履き・防寒具持参してください）

履修希望者への要望・事前準備

自分の将来像を見定め、そうなるために今後何をすべきかをきちんと把握することで日々の学修、制作もより実のあるものになるはずです。積極的な姿勢で参加してください。

基礎ゼミⅡ

2 学年 前期 必修 演習 1 単位
全専任教員（◎津村泰範）

授業の概要およびテーマ

長岡造形大学には4つの学科があり、それぞれにコースも設定されています。所属する各教員は多様な専門性を有しています。学科に関係なく構成された学生グループは、ランダムに割り振られた教員の設定する作品、建築、映像などについて、自ら調査し、理解を深めるとともに、世間一般も踏まえつつ整理します。さらにはグループ内のディスカッション、及び教員とのやりとりによってそれを深化させていきます。その成果は全体プレゼンテーションによって披露されることになります。

達成目標

長岡造形大学の各学科、各教員が専門とするデザイン領域の幅広さを実感する。

それぞれの作品等に対する理解を深める。

学生同士のディスカッションをより効果的なものとするための運営手法を身につける。

プレゼンテーション能力を身につける。

授業計画

- 01 全体ガイダンス・グループ分け
- 02 教員からのテーマ発表
- 03-05 各グループでのリサーチ・担当教員とのディスカッション
- 06-07 プレゼンテーション準備
- 08 全体プレゼンテーション・講評

学生に対する成績評価基準

成果物およびプレゼンテーションにより評価します。

グループワークのため、そこでの寄与度も大きく評価に影響します。

出席・遅刻の基準

各担当教員の指示に従うこと。原則として遅刻は欠席扱いとします。

テキスト

必要としません。

参考書・参考資料等

各担当教員の指示に従うこと。

用具

特に必要としません。ただし、プレゼンテーションに際しPCが必要となる場合があります。

履修希望者への要望・事前準備

表現方法や手段などが違っていても、デザインにかかわる共通なことは、コミュニケーションです。一人作業の方が得意な人もいるでしょうが、実社会では、多くの方々とかわることでモノやコトが実現します。時には実現しないことだってあります。でも、コミュニケーションで乗り越える体験は、実現すると、ちょっといい気分ですよ。気持ちを持ってきてください。

キャリア計画実習Ⅰ

2 学年 後期 必修 実習 1 単位
◎真壁 友、椎名勇太、高橋健太郎、横田和典、横部延寿

授業の概要およびテーマ

自らの生き方を選択する力を身につける授業です。世の中を知ることと、自分自身を考えることで将来の目標を明確にしていきます。また、グループワークやプレゼンテーション等を通して社会で活躍できる能力が何なのかを理解します。この授業では、実際に社会で働かれている先輩や企業の人事担当者を招き社会や仕事での面白さや大変さ等も学んでいきます。

達成目標

自身が社会で求められる能力を理解する。

自身の将来の目標を設定する。

2 年次終了時点での希望進路を明確にする。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 社会を知る
- 03 どのような仕事がしたいか
- 04 内定者報告会
- 05 企業の調べ方を考える
- 06 卒業生パネルディスカッション（1）
- 07 卒業生パネルディスカッション（2）
- 08 社会人として必要なマナー
- 09 人事担当者パネルディスカッション
- 10 振り返りとコミットメント宣言
- 11 インターンシップ報告会（1）
- 12 インターンシップ報告会（2）
- 13 チームに働きかけるコミュニケーション能力について
- 14 グループワークとは
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

- ・出席回数が2/3以上でない場合は、原則として単位を与えません。
- ・レポートにより採点を行います。

テキスト

必要に応じて随時準備し配付します。

参考書・参考資料等

適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

定時での入室、締め切り厳守など時間・ルール厳守を求めます。

キャリア計画実習Ⅱ

3 学年 前期 必修 実習 1 単位
◎真壁 友、椎名勇太、高橋健太郎、横田和典、横部延寿

授業の概要およびテーマ

自らの可能性を発見し、世の中のどのような場所で活躍したいかを考える授業です。
自らが希望を持った社会にどうすれば出ることができるのか学んでいきます。
また、グループワークやプレゼンテーション等を通して社会で活躍できる能力を身につけていきます。
上記を通し、社会で働くということが何なのかをしっかりと学び、今後のキャリアを定めることを目標とします。

達成目標

社会に出る工程を理解し自身のスケジュールを構成できる。
世の中に挑むために準備することが必要な内容を理解できる。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 社会を知る
- 03 「聴く」「伝える」とは
- 04 SPI試験対策
- 05 卒業生パネルディスカッション (1)
- 06 卒業生パネルディスカッション (2)
- 07 振り返り
- 08 人事担当者パネルディスカッション
- 09 振り返りとコミットメント宣言
- 10 インターンシップ実践のためのマナー
- 11 書いて伝える (1)
- 12 書いて伝える (2)
- 13 話して伝える (1)
- 14 話して伝える (2)
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

- ・出席回数が2/3以上でない場合は、原則として単位を与えません。
- ・通常レポート各回6点(78点満点)
- ・中間、最終レポート各回11点(22点満点)

テキスト

必要に応じて随時準備し配付します。

参考書・参考資料等

適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

定時での入室、締め切り厳守など時間・ルール厳守を求めます。

論理学

1・2・3・4 学年 前期 選択 講義 2 単位
市野敬介

授業の概要およびテーマ

日本語でディベートを行います。主張を、根拠をともなって伝え、議論をする授業です。現代の社会課題を論題としたディベートの準備および試合を行います。論理的に考えること、論理的に表現することなどについて、ディベートを通じて体験していただきます。前半のマイクロディベートでは、身近な社会問題で議論を行います。後半のディベート実戦では、本格的にチームを結成し、準備および試合を行います。

達成目標

講座を終えた時に以下のことができるようになっていることをゴールとします。

- (1) テーマ(論題)に対して多面的に考えて、主張を組み立てることができる
- (2) 説得力のある話し方で主張・反論ができる
- (3) 根拠が明確でない議論を聞いて、質問することができる
- (4) 肯定側・否定側の双方の意見をよく聞いて、どちらの議論が優勢だったか判断を下すことができる

授業計画

- 01 講座の全体像／デザイン×ディベートとは
- 02 モデルディベート視聴／メモの取り方／ルール説明
- 03 論題発表／マイクロディベートをやってみる
- 04 メリット・デメリットを考える／立論の3要件を考える
- 05 シナリオを活用したマイクロディベート 準備
- 06 シナリオを活用したマイクロディベート 実践
- 07 シナリオを活用したマイクロディベート 実践
- 08 ディベートの試合 準備
- 09 ディベートの試合 準備
- 10 ディベートの試合 準備
- 11 ディベートの試合 準備
- 12 ディベートの試合 実戦
- 13 ディベートの試合 実戦
- 14 ディベートの試合 実戦
- 15 ディベートの試合 実戦(受講人数によって変動します)

学生に対する成績評価基準

- (1) ディベートの説明・講義
授業への参加、課題に取り組む姿勢、発言・発表の内容などを評価します。ディベートに関する説明や技法を活用する演習は参加型・対話形式で行います。
- (2) ディベートの試合
試合中で行う立論や反論などのスピーチの内容、質疑応答の内容や聞き方答え方で評価します。それだけではなく、審判も行っていたしますので、その審査や選手へのフィードバックの内容も評価をします。
- (3) 身に着いた力に関する自己評価
最終的に講座を通じてご自身でどんな力が身に着いたのか、どんな成長があったのかの振り返りを、理由をつけて記述していただきます。その内容と理由付けで評価します。
概ね(1)10%、(2)40%、(3)50%の割合で評価します。

テキスト

講義の中でお渡しします

用具

筆記用具(できれば、3色のボールペンをご用意ください)
情報機器(スマートフォンやノートパソコン)

履修希望者への要望・事前準備

授業内で様々な質問や課題を出します。「不正解」があるものではありませんので、積極的に回答してください。
ディベートの試合はグループ活動です。限られた時間の中であらゆることを考えて、スピーチをする準備をしていただきます。役割分担や協力をしあいながら活動してください。

統計学

1・2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
中山雅友美

授業の概要およびテーマ

欲しい情報を得るために、どのようなデータをどの程度集めて、どのように処理をすればいいのかということを全体を通して学びます。

はじめに、データから読み取れる特徴を考えてデータを整理する方法を学びます。次に、一部のデータから全体を推測する方法を学びます。最後に、変量の間の相関関係について学びます。

統計学は、研究や仕事だけでなく、日常の生活においても役に立つと思います。

達成目標

統計学の基本的な考え方を理解し、基本の統計的手法を身に付けることを目標にします。

授業計画

- 1 度数分布・ヒストグラム
- 2 平均など
- 3 分散・標準偏差
- 4 正規分布 1
- 5 正規分布 2
- 6 標本調査
- 7 推定 1
- 8 推定 2
- 9 推定 3
- 10 検定 1
- 11 検定 2
- 12 検定 3
- 13 相関関係
- 14 回帰分析
- 15 期末試験
- 16 試験返却とまとめ

学生に対する成績評価基準

期末試験で評価します。

テキスト

「文系でも分かるビジネス統計入門」内田学・兼子良久・斎藤嘉一
著 東洋経済新報社 1,800円+税

用具

電卓

履修希望者への要望・事前準備

試験のときに四則演算・平方根の計算が行える電卓が必要になります。

情報リテラシー

1・2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
横田秀珠

授業の概要およびテーマ

インターネットが普及し情報社会が加速しています。氾濫する情報を検索するニーズが高まりました。またスマートフォンの台頭で、情報を発信する事も容易になりました。更にソーシャルメディアで気軽に情報を拡散する事も可能になり、プライバシー漏洩やセキュリティの重要性など様々な問題点も露呈してきました。情報の検索手法や情報の発信方法、ソーシャルメディアなどの使い方と留意点などを体得し、インターネットの仕組み等を総合的に習得することを目的にした科目です。

達成目標

検索エンジンやソーシャルメディアなどインターネット上の様々なサービスを理解すること、情報を受信する際と発信する際の注意点、プライバシーの管理やセキュリティの重要性を通して情報社会のあり方を説明できるようになること。

授業計画

- 1) 情報リテラシーを学ぶ理由
- 2) インターネット概論と歴史
- 3) 検索エンジンの変遷と進化
- 4) ソーシャルメディアの台頭
- 5) スマートフォン普及と課題
- 6) キュレーションが必要な訳
- 7) 多様な連絡手段とインフラ
- 8) 位置情報で激変の生活習慣
- 9) TVの衰弱と動画メディア
- 10) 様々な動画とネット生配信
- 11) 苦戦する紙媒体と電子書籍
- 12) ラジオと音声技術の未来生
- 13) 画像認識の技術と流出問題
- 14) セキュリティとクラウド化
- 15) デマや詐欺と進化する技術
- 16) 定期試験

学生に対する成績評価基準

講義レポート 40%

期末試験 60%

講義レポートは、講義の内容をブログやソーシャルメディア等でまとめるだけでなく、自分の意見や考察を含めた投稿を評価に取り入れる。

テキスト

特に指定しない。

授業に用いる資料は、パレットからダウンロード可能。

授業までに必要に応じ各自で予習しておくこと。

履修希望者への要望・事前準備

- 1) 講義資料はパレットに掲載するので、必要に応じて各自で予習しておくこと
- 2) パレットの資料や講義まとめブログで復習を徹底すること
- 3) 質問は専用LINE@メッセージなどで受け付ける
- 4) 学習した内容はブログやソーシャルメディアでアウトプットすること望ましい

現代社会論

2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
広田秀樹

授業の概要およびテーマ

宇宙の歴史は約138億年、地球の歴史は約46億年、人類の歴史は約700万年といわれています。想像を絶する長い時間の流れの中で人間は、制度、慣習、文化、思想などを形成し変化させています。その一つの現象が「現代社会」でもあります。本授業では、現代社会を多角的な視点から学習します。

達成目標

現代社会を多角的視点から考える訓練の中で、「表面的な現象」を観察しながら「真実や本質」を見抜く思考力を身に付けることを達成目標とする。

授業計画

- 第1回 宇宙史からの現代社会の考察
- 第2回 地球史からの現代社会の考察
- 第3回 人類史からの現代社会の考察
- 第4回 過去・現在・未来という時間の流れからの現代社会分析の手法
- 第5回 社会の中の「制度・慣習・文化・思想」
- 第6回 国際政治
- 第7回 国際経済
- 第8回 グローバリゼーション
- 第9回 テクノロジーの未来
- 第10回 国内政治
- 第11回 国内経済
- 第12回 国内人口構造と社会の激変
- 第13回 社会の変化とライフスタイルの変化
- 第14回 自由とライフスタイル超多様性の関係
- 第15回 まとめ

学生に対する成績評価基準

レポート提出、期末試験、授業への受講態度・意欲をもとに評価します。

テキスト

毎回講義プリントを配付します。

参考書・参考資料等

浅川公紀『国際政治の構造と展開』武蔵野大学出版会2014年

履修希望者への要望・事前準備

講義に参加する上での基本的なマナー、礼儀礼節をお願いします。遅刻や無断欠席はしないこと。授業はつねに深く考えながら参加し、質問、意見を活発に述べて下さい。

社会起業

2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
中嶋敏夫

授業の概要およびテーマ

本講義は、社会起業の「理論」及び「実務」の習得を通じて、起業の実践を学んでもらおうとするものであり、起業にまつわる「基礎知識」をはじめ、「事例研究」をベースとして受講生の活発な議論を通して起業及び事業化の実践を学び、起業に関する知識及びノウハウの蓄積を図ることにより、起業実践力を高めることを目的としている。

達成目標

起業にまつわる「基礎知識」を習得し、具体的な事例を基に実際にビジネスプランを作成し、起業に対する意欲とチャレンジ精神を養う。

授業計画

1. 「社会起業の概要と現状」
社会起業の意義及び現状の起業実態についての講義を行なう。
2. 「起業とは」
起業の流れと起業後のポイントについて講義を行なう。
3. 「ビジネスモデルの構築」
ビジネスモデル構築のポイントについて、具体的な事例を交えて講義を行なう。
4. 「ビジネスアイデアとビジネスチャンス」
ビジネスアイデアの捉え方と市場性について講義を行なう。
5. 「事業コンセプトとマーケティング」
顧客の捉え方・市場調査を中心に販売戦略の知識と事業コンセプトについて講義を行なう。
6. 「21世紀に売れるモノ」
売れる理由を具体的な事例を挙げて検討する。
7. 「ビジネスプラン策定のポイント」
実際にビジネスプランを策定する際に必要な知識とポイントについて講義を行なう。
8. 「損益計画」
損益（収支）計画策定の仕方について講義を行ない、具体的に策定してみることその方法を学ぶ。
9. 「資金繰り計画」
資金繰り計画策定の仕方について講義を行ない、具体的に策定してみることその方法を学ぶ。
10. 「資金調達について」
資金調達（直接金融と間接金融）の方法及び調達の時期・金額について講義を行なう。
11. 「資本政策の策定」
資本政策策定の目的・必要性について講義を行なう。
12. 「会計の基礎知識」
P/L・B/S等起業に際して必要な会計の基礎知識についての講義を行なう。
13. 「起業に際しての注意点及び支援策について」
起業する際に注意すべき点と起業支援策・支援機関について講義を行なう。
14. 「ビジネスプランの策定」
現在若しくは将来考えているビジネスプランを実際に策定し、自ら検証し精度を高める。
15. 「ビジネスプランの発表」
実際に自ら策定したプランを発表し、その評価ポイントを学び、プレゼンテーションを行なって客観的な評価を受ける。

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が70%を下回る場合は単位を与えません。成績は、課題提出（ビジネスプランの策定）が70%、授業の受講態度・意欲が30%とします。

テキスト

授業内で配付します。別途必要な場合は、適宜指示します。

用具

後半の授業で電卓を必要としますので、事前に指示します。

履修希望者への要望・事前準備

卒業後直ぐに独立・起業するということは少ないと思いますが、講義の内容を理解した上で、組織に属して経営者の計画・方向性を理解し仕事に取り組めば、将来経営に参画することも考えられますし、企業内起業という道も開けてきます。また、作家を目指している方においても、これからの時代は作品を通して糧を得るためには、事業主としての経営マインドを持たねばならず、人・モノ・金・情報・時間といった事業を成立させるための算段を知っておく必要があります。何れにしても、自分が経営側として又、将来自分が自立して起業し代表者になるという気概を持ち、必ずや将来役に立つ時が来るという気持ちで受講してください。

10-2 専門教育科目〔学部共通〕

基礎造形実習Ⅰ（描写）
1 学年 前期 必修 実習 2 単位 履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

描写は全ての造形活動の根幹となる行為であり、自らの手で線を引くところから創作がスタートします。授業では描写（デッサン）の目的と基本となる概念・用具の知識から使用方法まで理解します。また課題では基本的形態（モチーフ）を観察・描写することにより「形・構図・明暗・色彩・質感・空間」を含む「画面」の意味を認識し、観察と空間把握力の基本を修得します。各課題を経験することで絵画的表現のみならず広く造形分野で必要となる図画力、形と空間（パースペクティブ）に対する観察力と考察力の基盤を養います。また、人体という普遍的なテーマを理解するために、実際の人体の持つプロポーション・量感・骨格・筋肉・皮膚の動きに着目し、クロッキーからデッサン等による作品制作を通じて、画面における線・面・量・色彩の描写表現と「人体の構造と美」について理解できるようにします。素材・技法としては、画用紙に鉛筆で描写、透明水彩その他の画材で着彩による表現を行います。各課題は、「静物・着彩」「ヌードデッサン」とし、課題毎の初回授業の1限目に講義形式で課題目的・技法を説明し、その後モチーフを使用した課題作品の制作を行います。

達成目標

- ・造形制作の基となる能動的集中力・持続力を持ち、講義と指導内容を理解し質疑応答ができる。
- ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用方法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。
- ・描写（デッサン）における構図・構成を理解し、正しい形態の比率やパースペクティブ、明暗の階調、質感をとらえ、積極的に制作できる。
- ・人体の骨・筋構造を理解しプロポーション、比率を正確にとる事ができ正しい構図を得ることができる。
- ・観察から得られる量感、質感、動きを認識し的確に描写できる。
- ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。
- ・観察し描くことを繰り返すことにより、各自の問題点を認識し、正しい方向へ修正し、成果を上げることができる。

授業計画

第1回	ガイダンス／「静物着彩」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第2回	「静物着彩」作品制作1
第3回	「静物着彩」作品制作2
第4回	「静物着彩」作品制作3
第5回	「静物着彩」／講評会
第6回	「静物着彩」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第7回	「静物着彩」作品制作1
第8回	「静物着彩」作品制作2
第9回	「静物着彩」作品制作3
第10回	「静物着彩」／講評会／次課題説明
第11回	「人体描写」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第12回	「人体描写」作品制作1
第13回	「人体描写」作品制作2
第14回	「人体描写」作品制作3
第15回	「人体描写」／講評会／次課題説明
- *授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
- ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・適切な質疑応答ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（50％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション
- 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）

また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。

用具

描写用具等一式他。詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力（描写）は、今後の大学での制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力を持っていても基礎的な造形力がなければ具体的な表現成果につながりません。また目的に必要な形に含まれる線を描く力と空間を把握する力、多くの描線や形の中から洗練された一つを選択する能力は造形に関わる全ての分野に必要不可欠となります。また、経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的に、諦めないで最後までしっかりと取り組み修得してください。

基礎造形実習Ⅰ（造形）
1 学年 前期 必修 実習 2 単位 履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

この授業では造形の要素となる「形」を幾何形態や色による立体表現の課題により理解します。

幾何形体の分割構成は、想定する基本的形態を的確に把握し表現します。またそれを分割する際の整合性を考えます。立体物を2次元の画面上で空間構成し、正確なパースペクティブを習得し、魅力的な空間構成を目指します。

彩色による立体表現では、基本的な立体を様々な色変換により視覚表現として空間と立体の関係を試行し、グレースケールと同一色相、類似色相によって理解します。

達成目標

- ・造形制作の基となる能動的集中力・持続力を持ち、講義と指導内容を理解し質疑応答ができる。
- ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用方法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。
- ・描写における構図・構成を理解し、正しい形態の比率やパースペクティブ、明暗の階調、質感をとらえ、積極的に制作できる。
- ・色彩の基礎（三属性の理解）をベースに、モノクロから色相の相関性を理解し、目的に沿った効果的な配色を考え制作できる。
- ・画材を適切に扱うことができ美しい画面を完成させることができる。
- ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。

授業計画

第1回	ガイダンス／「基本形態：立方体」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第2回	「基本形態：立方体」作品制作1
第3回	「基本形態：立方体」作品制作2
第4回	「基本形態：立方体」作品制作3
第5回	「基本形態：立方体」／講評会
第6回	「基本形態：楕円」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第7回	「基本形態：楕円」作品制作1
第8回	「基本形態：楕円」作品制作2
第9回	「基本形態：楕円」作品制作3
第10回	「基本形態：楕円」／講評会／次課題説明
第11回	「混色：立方体」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第12回	「混色：立方体」作品制作1
第13回	「混色：立方体」作品制作2
第14回	「混色：立方体」作品制作3
第15回	「混色：立方体」／講評会／次課題説明
- *授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
- ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・適切な質疑応答ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（50％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション
- 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）

また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。

PCCSハーモニックカラーチャート201-L 日本色研事業株式会社 1,575円
新配色カード199C 日本色研事業株式会社 2,625円

用具

授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力（造形）は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力を持っていても裏付けとなる経験や理由、基礎的な造形力がなければ具体的な結果につながりません。各課題のそれぞれの問題に対して性質や構造を理解できるよう繰り返し考え、その上で教員に質問してください。造形することの意味を考えながら粘り強く制作することで各自に必要な本質的な能力を習得できます。経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的に、しっかりと取り組んでください。

基礎造形実習Ⅰ（素形材）
1 学年 前期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ
 工芸の基本である「手」による素材と技法の実際を習得し、「道具」を使用した制作を行うことで実材造形での基本的な工作原理を養います。グライダー課題では、木を素材とした「ハンド・ランチ・グライダー」を制作します。授業では図面の見方、設計図から完成までの工程を理解し、道具の正しい取り扱いと加工の原理を習得します。これにより素材が目的とする形へと転換する過程を学び、その構造における機能的要素に対する理解を深めます。幾何形体の分割構成は、想定する基本的形態を的確に把握し表現します。またそれを分割する際の整合性を考えます。立体物を2次元の画面上で空間構成し、正確なパースペクティブを習得し、魅力的な空間構成を目指します。紙による立体表現では、素材の扱いから面材の扱い、接合や空間との関係等を意識して美しい立体構成を目指します。

達成目標
 グライダー課題
 ・図面を読み取ることができ、平面から立体への展開や完成までの正しい工程を理解し実践できる。
 ・作業での素材の取り扱いや各工程での道具の使用方法が安全かつ適切に行う事ができる。
 ・制作・組み立てにおいて微細で正確な作業ができ、機能を伴う完成度の高い成果物ができる。
 ・指導に際して能動的な質疑応答ができる。
 幾何分割課題
 ・想定による立体構成・スケッチへ描写表現ができる。
 ・スケッチにて幾何形体を想定し、空間的に構成を考えられる。
 ・描く幾何形体を正確に理解することで、描写し、分割した場合の形状を細部に至るまで適切に表現できる。
 ・与えられた条件内で美しい構成による画面制作をする。
 紙立体課題
 ・立体における素材形状の「面材」を利用し、構成的且つ構造的な美しいフォルムを見つけ出し、紙による立体として制作することができる。
 ・スケジュール管理をし、期日までに作品を仕上げることができる。

授業計画
 グライダー課題
 第1回 課題説明：レクチャー／作業ポイント／制作（主翼）
 第2回 制作（水平・垂直尾翼、胴体部）
 第3回 制作（機体の組立）
 第4回 塗装 錘によるバランス確認
 第5回 講評／作品提出 ・飛行／次回課題説明
 幾何分割課題
 第6回 課題説明／制作ポイント／アイデアスケッチ
 第7回 アイデアチェック／制作
 第8回 制作
 第9回 制作
 第10回 作品提出／講評／次回課題説明
 紙立体課題
 第11回 課題説明：レクチャー／課題ポイント／ アイデアスケッチ
 第12回 アイデアスケッチ〜チェック〜制作
 第13回 制作
 第14回 制作
 第15回 作品提出／講評／次回課題説明
 ＊授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準
 ①受講への態度、理解度（50％）
 ・受講、制作の準備ができていた。
 ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 ・適切な質疑応答ができた。
 ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
 ②成果物（作品）の内容（50％）
 ・課題の条件を満たしている。
 ・指導を成果に生かすことができた。
 ・十分な考察と制作をした。
 ・プレゼンテーション
 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準
 出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト
 授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等
 課題ごとに参考資料としてプリントを配付場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）
 また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。

用具
 詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。
 なお立体制作には各自1,000円程度の材料費が必要となります。

履修希望者への要望・事前準備
 素材と用具の正しい取り扱い方法、材料加工と作業の意味、色彩による構成・空間的表現の基礎を学びます。様々な課題がもつ目的をよく理解し、伴う表現方法を習得し造形センス・感性を伸ばして欲しい。必要な材料・用具の準備を忘れないようにしてください。

基礎造形実習Ⅰ（デザイン）
1 学年 前期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ
 コンピューターの発達により現代は、マウスとキーボードの操作を覚えさえすれば、全くデザインの学習をしていなくとも大抵の事は出来てしまう世の中となった。しかしこのような時代であればこそ、デザインの専門家を目指す者にとって必要不可欠なのは、実際に手を使って線や形を描くことや色を作って塗ることである。これら造形の基礎から学ぶべき事柄は非常に多い。平面デザインを学ぶ上で必要不可欠な平面造形の基礎、並びに色彩や画面構成に関する基本的技術を学習する。

達成目標
 ・課題文に書かれた内容を正確に読み取り、作品制作に臨むことができる。
 ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。
 ・美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることができる。
 ・色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。
 ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。

授業計画
 第1回 ガイダンス／「トーン別色相チャート」:レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
 第2回 「トーン別色相チャート」作品制作:高彩度
 第3回 「トーン別色相チャート」作品制作:中彩度
 第4回 「トーン別色相チャート」作品制作:低彩度
 第5回 「トーン別色相チャート」／修正・講評会
 第6回 「色彩構成／幾何」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
 第7回 「色彩構成／幾何」色相対比、彩度対比の把握
 第8回 「色彩構成／幾何」有彩色によるシンプルな画面構成の制作
 第9回 「色彩構成／幾何」画面構成の把握と修正
 第10回 「色彩構成／幾何」／講評会／次課題説明
 第11回 「色彩構成／イメージ」:レクチャー／アイデア検討
 第12回 「色彩構成／イメージ」:アイデアチェック、作品制作
 第13回 「色彩構成／イメージ」作品制作2
 第14回 「色彩構成／イメージ」作品制作3
 第15回 「色彩構成／イメージ」／講評会／次課題説明
 ＊授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準
 ①受講への態度、理解度（50％）
 ・受講、制作の準備ができていた。
 ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 ・適切な質疑応答ができた。
 ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
 ②成果物（作品）の内容（50％）
 ・課題の条件を満たしている。
 ・指導を成果に生かすことができた。
 ・十分な考察と制作をした。
 ・プレゼンテーション
 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準
 出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
 原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト
 授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等
 課題ごとに参考資料としてプリントを配付場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）
 また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。
 PCCSハーモニックカラーチャート201-L 日本色研事業株式会社 1,575円
 新配色カード199C 日本色研事業株式会社 2,625円

用具
 詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備
 社会的マナーを身につけることも学習であるので、作品の提出や出席についても厳しく指導をする。加えて特に締め切りは守るように最善の努力を図る。そのためにはスケジュール管理を学ぶことが必須である。

基礎造形実習Ⅰ（複合造形）
1 学年 前期 必修 実習 2 単位 履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

現代での幅広い創造分野で表現活動を行うためには、確かな表現力に伴う素材・用具の扱いまでを知る事が不可欠です。複合造形の授業ではその基本となる幾何形体の平面的理解から立体的理解に至るプロセスを実際に経験することから始めます。この授業では、素材を用いて作品制作するうえで必要な基本的な用具・道具（鉛筆、消しゴム、ペン、定規、カッター、接着剤等）について初歩的な使用法をマスターします。また同時に1mm以下の単位で制作することで、各自が制作過程の作法・集中力と成果物（完成作品）のクオリティに対して客観的評価ができる観察力を養います。これらは今後のあらゆる実習における創作に対応する観察力の修得の基盤になるものです。また、平面作品における基本的作法の習得および前期・基礎造形実習Ⅰ各授業にて習得し培った成果を確認し、自己検証をするためのコンクール形式の作品制作を行うものです。これにより限られた時間内でのスケジュール・制作工程を各自が計画し高い完成度の作品制作を目指します。

達成目標

- ・授業、課題の意図、材料・用具の名称、使用法を認識し作業工程を理解・実践できる。
- ・1mm以下の誤差を確認修正でき、作業を正しい作法により行うことができる。
- ・展開図において正確な寸法取りで作図できる。
- ・定規・カッターの正確な扱いにより綺麗に切断ができる。
- ・接合部の辺の調整が適切にでき綺麗に接合できる。
- ・完成物の正確さ、美しさが理解できる。
- ・美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることができる。
- ・色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。
- ・授業で経験し修得したことを基盤に設定された時間内で十分に課題の意図に応えることができる。
- ・与えられたテーマを、習得してきた構合力、色彩計画による画面を自らの狙いの上に適切に実践することができる。
- ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。

授業計画

- 第1回 授業ガイダンス／課題説明／「幾何立体」制作
第2回 「幾何立体」制作
第3回 「幾何立体」制作
第4回 「幾何立体」制作
第5回 「幾何立体」講評／パネル水張り
第6回 「線・面・多角形」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第7回 「線・面・多角形」制作
第8回 「線・面・多角形」制作
第9回 「線・面・多角形」制作
第10回 「線・面・多角形」講評会／次課題説明
第11回 色彩構成課題／制作
第12回 課題制作
第13回 課題制作
第14回 講評会1
第15回 講評会2
＊授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
・受講、制作の準備ができていた。
・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
・適切な質疑応答ができた。
・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
②成果物（作品）の内容（50％）
・課題の条件を満たしている。
・指導を成果に生かすことができた。
・十分な考察と制作をした。
・プレゼンテーション
以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で作成を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルインダーの購入と持参を求めます。）
また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。
PCCSハーモニックカラーチャート201-L 日本色研事業株式会社 1,575円
新色覚カード199C 日本色研事業株式会社 2,625円

用具

詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

初回の授業から受講生への伝達事項が多いので必ず大学指定のバインダーノートを持参のこと。また各授業では配付プリント、用具等を忘れないよう注意してください。作業が出来ない場合があります授業における作品制作の遅れる原因になります。

デザイン概論
1 学年 前期 必修 講義 2 単位 和田 裕

授業の概要およびテーマ

デザインの専門教育研究機関として設立された長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解し、デザインの発祥から始まり、現在に至るまでの役割の変化、活動領域、デザインワークの実態等を通し、これからのデザインに求められる理念、知識、技術の概要を把握することにより、長岡造形大学におけるデザイン修学の心構えを養う。

達成目標

長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解できている。
デザインの発祥から現在に至る道程を理解できている。
他造形領域とデザインの違いを明確に把握している。
デザインの専門領域毎の特性を理解できている。
経営資源としてのデザインの役割を理解できている。
デザイナーとして獲得すべき資質について認識できている。
将来の社会においてデザインの果たす役割を想定できている。
自らの将来を想定し本学で何を学ぶべきかの指針を持ち得ている。

授業計画

- 1）長岡造形大学の理念
- 2）デザインの発祥と軌跡－1
- 3）デザインの発祥と軌跡－2
- 4）造形領域概要
- 5）美術と工芸
- 6）空間に関わるデザイン
- 7）立体に関わるデザイン
- 8）情報に関わるデザイン
- 9）デザイナーの就労形態
- 10）デザイナーの特質
- 11）経営資源としてのデザイン
- 12）ブランディングに関わるデザイン
- 13）デザイナーの倫理
- 14）デザイン＝革新と創造
- 15）デザインワード&感性

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が80％を下回る場合は単位を与えない。
毎回提出するミニレポートにて理解度を評価する。
レポート未提出、欠席、遅刻、受講姿勢悪しき場合は減点対象とする。

テキスト

必要に応じ授業当日にプリントを配付。

参考書・参考資料等

必要に応じ配付プリントに参考図書を明示。

履修希望者への要望・事前準備

この講義を受講していくにつれ、受講生各自が抱いていたデザインへの認識が変化すると思います。
新たな認識の下、以降のデザインに向かう姿勢を再確認し、もし将来設計を変更するようであれば、興味を抱いた領域、内容に付き更に深い認識が持てるよう各自で補習し、2学年からの履修計画立案の参考にして下さい。
予習は、次回の授業計画のテーマにつき自分なりの見識を持つことです。
復習は、興味を抱いた点、疑問を抱いた点など自らが深く掘り下げることです。
されば学生諸君の未来に生じるかもしれないミスマッチを回避できるでしょう。

色彩学
1 学年 後期 必修 講義 2 単位 三井直樹

授業の概要およびテーマ

本講義は、あらゆる制作現場で必要となる色彩感覚を磨き、感性を高めるための基本原理を学ぶ。先ず、アートやデザインに応用できる色彩学の体系を学習し、そのうえで実用的な配色法とデザインテクニックを習得する。また、実践的に色彩を活用するための造形の秩序、プロポジションやテクスチュアなどのかかわりも合わせて論ずる。DTPやモーショングラフィックス等でも活用できるCMYK、RGBのデジタルカラー理論とその配色方法を解説する。多彩なビジュアル資料を併用しながら授業展開をしていく。

達成目標

本科目を履修した学生は、色彩学の意義、色彩理論を理解しながら、色彩に対する感性を磨くことができる。また、実践的な作品制作での配色や作品鑑賞において色彩調和理論を活用することができる。

授業計画

- 01 色彩と造形：オリエンテーション（色とかたち）
- 02 色彩理論01：色彩の原理と混色
- 03 色彩理論02：色の表し方（マンセルシステムとPCCS）
- 04 色彩理論03：色の知覚と色彩心理
- 05 色彩調和01：配色の基本と色彩調和論
- 06 色彩調和02：色の表示方法
- 07 色彩調和03：同一調和、類似調和、対比調和
- 08 色彩調和04：連続多色、ハイキー・ローキー、無彩色
- 09 色彩調和05：トーン、マルチカラー、グラデーション
- 10 配色とデザイン01：明度差、面積比、基調色、アクセント
- 11 配色とデザイン02：テクスチュアと色彩
- 12 配色とデザイン03：アート&デザインにおける色彩の役割
- 13 色彩と造形01：近現代の美術作品、デザインに見る色彩調和
- 14 色彩と造形02：映像と色光
- 15 総括：理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が2／3を下回る場合は単位取得はできません。「理解度の確認とまとめ」（100％）を基本として評価します。

テキスト

三井直樹、三井秀樹『色彩デザイン学』六耀社、2,800円（本体）

参考書・参考資料等

千々岩 英彰『色彩学概説』東京大学出版会、3,200円（本体）

ヨハネス・イッテン『色彩論』美術出版社、3,500円（本体）

三井秀樹『新構成学』六耀社、5,200円（本体）
『色彩用語事典』東京大学出版会、15,000円（本体）
『ハンディクラフトのデザイン学』3,800円（本体）

履修希望者への要望・事前準備

色彩学とは配色のデザイン学です。色彩理論の理解とともに、色を見分ける感性を養って下さい。本講義を基礎にして、各自の作品制作に還元できることが肝要です。履修条件は特にありませんが、色彩センスを会得したいというモチベーションが不可欠です。授業内で指示のあった教科書の部分については、必ず通読し、復習して下さい。

学外見学実習

2 学年 通年 必修 実習 1 単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

世の中に存在する様々なデザインが、どのような場で生み出されているのか、それらが創造されている現場を見学し、実社会とデザインとの関わりを認識するため、各学科において実施するものである。それぞれの学科における授業の概要及びテーマは以下の通りである。

〔プロダクトデザイン学科〕

プロダクトデザインでは多様な素材や生産技術に関する知識が必要である。そこで本授業では金属やファブリックなどの素材を特徴とするメーカーや、高度で大規模な生産設備を持つメーカーの見学を行い、それらに対する知見、理解を深めることを目的とする。

〔視覚デザイン学科〕

企業やプロの制作現場を見学、体験することで、社会や企業の仕組み、仕事について理解する。

〔美術・工芸学科〕

美術系と工芸系の2種類の見学実習を行い、社会と美術表現の繋がりが、手業や機械加工による地場企業の生産現場を認識し、実社会の動向を体感する。

〔建築・環境デザイン学科〕

建築、インテリア、ランドスケープ、都市計画、文化財保存の優れた作品を見学する。事前に施設について調べ、実際に見学して、優れた点を見つけ出すようにする。

達成目標

様々な現場におけるデザインに対する考え方を学び、制作・製造現場を見学し、デザイン制作のプロセスを理解することができる。そして、社会における実際のデザインを考察、まとめることができる。

〔プロダクトデザイン学科〕

各素材や製品カテゴリーごとの生産技術、システムの特性を理解すること。更に実際の製造現場における安全管理、品質向上活動、意欲増進、組織などへの理解を深めること。

〔視覚デザイン学科〕

社会や企業の仕組み、仕事について学生のうちに理解することにより、社会へ出る心構えや準備ができる。

〔美術・工芸学科〕

社会における美術の役割や、生産現場における技術や素材、デザインについて理解することができる。

〔建築・環境デザイン学科〕

見学する施設について調べ、特徴や優れた点を見つけ出し、レポートで自らの意見を述べるることができる。

授業計画

各学科によって実施方法、内容、定員等が異なるので、それぞれの学科における授業計画を確認すること。

〔プロダクトデザイン学科〕

3日間を終日見学に充てる。なお、受け入れ先の都合により見学日時は連続しないことがある。

01 ガイダンス

02～06 見学1：金属、樹脂などを主な材料とする優れたデザインの製品を提供している県内の企業

07～10 見学2：繊維、ファッション関係の県内の企業

11～15 見学3：世界的な大企業の生産現場見学及びデザイナーとの交流

〔視覚デザイン学科〕

2つの学外見学実習を行う。

1. 「紙に関連する企業を見学する」

長岡市内の製紙会社と印刷会社をワークショップも交えて見学し、それらをレポートにまとめる。

2. 「NID新聞を作ろう」

新潟日報社メディアボード内「おもしろしんぶん館」の見学と新潟市内を散策して新聞タイプのレポートにまとめる実習を行う。

01 ガイダンス（1・2は別に行う）

02～08 長岡市内の製紙会社・印刷会社訪問

09～15 新潟日報社訪問および新潟市内フィールドワーク

〔美術・工芸学科〕

美術系として新潟地域的美術館やギャラリーを3箇所程度、工芸系として燕・三条を中心とした博物館や生産現場企業を4箇所程度見学する。実施は休日や補講期間および夏期、冬期、春期の休業中に行うが、詳細は履修者にバレットで通知する。

見学先での移動の関係で、工芸系の見学では見学先収容人数の理由から、2グループに分けて実施する。

01 ガイダンス

02～03 美術系事前学習<見学先情報収集等>

04～08 新潟市の美術館（バックヤード）およびギャラリー等見学

09～10 工芸系事前学習<見学先情報収集等>

11～15 燕・三条の工場見学、その資料的研究のための燕市産業史料館見学

〔建築・環境デザイン学科〕

01～05 日光（東照宮、輪王寺+イタリヤ大使館別荘）の見学/1日

06～10 軽井沢（聖パウロ教会+星のや軽井沢等）の見学/1日

10～15 東京電力刈羽原発の見学/1日

学生に対する成績評価基準

〔プロダクトデザイン学科〕

訪問先の事前調査レポートと、それぞれの見学終了後に提出するレポートを合わせ評価する。

〔視覚デザイン学科〕

企業訪問時の姿勢と見学終了後のレポートを合わせて評価する。

〔美術・工芸学科〕

受講態度および見学姿勢50％、事前学習や事後報告書の内容50％。

〔建築・環境デザイン学科〕

日光見学34％、山形見学33％、柏崎見学33％、いずれも見学後のレポートとする。

出席・遅刻の基準

見学はバスによる見学が主体であることから、集合時間、出発予定時刻に遅れた場合は欠席となるので、注意をすること。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

基本的には、各自が所属する学科の見学に参加すること。

〔プロダクトデザイン学科〕

見学する内容はもとより、社会人としての自覚、マナーを意識すること。

〔美術・工芸学科〕

見学実習は創造現場の実験を経験する良い機会であり、自分と社会との繋がりを確認するものである。この見学から「仕事場」を意識することで、今後の進路を検討する一つの糧とする。また、原則全授業の出席を求める。

〔建築・環境デザイン学科〕

履修は基本的に、建築・環境デザイン学科の学生のみとするが、他学科の学生で履修を希望する場合は、建築・環境デザイン学科担当教員に相談すること。詳しくはガイダンスで伝える。

クロス実習（プロダクトA）

2・3・4学年 前期 選択 実習 1単位
境野広志

授業の概要およびテーマ

身近な商品をテーマとして、調査～コンセプト～造形検討～プレゼンテーションまでのプロダクトデザインの基本的なプロセスを体験する。デザイナーの実務はボーダーレスな業務が多いので他の専攻の学生であってもプロダクトデザインのプロセスを概観することはメリットが多い。またこのプロセスは社会活動の多くの場面で有用として近年注目を集めているデザインシンキングの方法論でもある。

達成目標

- ・プロダクトデザインの基本的なプロセスを理解すること。
- ・デザイナーの共通の思考方法を体得すること。
- ・自らの専門領域において役立つようなスキルを身につけること。

授業計画

原則二コマ連続で全8回とする。詳細はガイダンス時に説明する。
01：ガイダンス、テーマ説明、プロダクトデザインのプロセス説明
02～03：調査
04～05：ブレーンストーミング
06～07：コンセプト立案、アイデアスケッチ
08～09：モックアップモデル作成
10～11：ハードモデル制作
12～13：塗装仕上げ
14～15：プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

基本的な知識の習得度合及び作品で80%、履修態度を20%として評価する。原則、欠席は5点、遅刻は3点減点する。また3回欠席した時点で受講を放棄したものとみなす。

出席・遅刻の基準

原則、遅刻は一コマ目の授業開始後20分までとする。

テキスト

必要な資料については授業内で配付する。

参考書・参考資料等

適宜、指示する。

用具

モデル制作用のカッター、定規等。消耗品代として2000～3000円必要。

履修希望者への要望・事前準備

商品企画やプロダクトデザインに関心がある学生には広く受講を勧めるが、作業はかなり多いので中途半端な意識では臨まないこと。約15人を定員とし、希望が多数の場合はレポートで選定する。またグループディスカッションが成立しない人数（3人以下）の場合は本授業は開講しない。

クロス実習（プロダクトB）

2・3・4学年 後期 選択 実習 1単位
土田知也

授業の概要およびテーマ

3DCGの基本的なオペレーションの習得を目的とする。CGソフトは製品デザインの現場でもっともよく使われているソフトの一つであるRhonocerosを使う。受講人数は20人を上限とする。3DCG系の科目が用意されていない視覚の学生を優先し、視覚の学生の中でも、成績上位のものを優先する。

達成目標

- ・操作方法を確実にマスターすること。
- ・課題で提供されるモデルを完璧に作り上げること。
- ・自らの課題制作に役立つようなスキルを身につけること。

授業計画

01：ガイダンス及びインターフェース
02：数値入力、直線、円・円弧、幾何変換
03：編集、自由曲線
04：サーフェース1
05：サーフェース2
06：ソリッド
07：レンダリング
08：ソリッドの変形
09：ブレンダー
10：ルールスイープの応用
11：ネットワークサーフェース1
12：ネットワークサーフェース2
13：自由制作課題
14：自由制作課題
15：自由制作課題
＊詳細な開講日はガイダンスで発表する。

学生に対する成績評価基準

課題の総合点から欠席、遅刻点を減ずる。ただし、2/3以上の出席が単位取得の必要条件となる。

テキスト

毎回の授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

「Rhonoceros入門」是枝靖久著 ラトルズ 3,800円
＊図書館に蔵書あり。
<http://www.rhino3d.co.jp/>

履修希望者への要望・事前準備

Rhonocerosはコマンドの数が多くそれほど優しいソフトではない。3Dソフトをマスターしたいというそれなりの意思を持って臨むこと。なお、最低開講人数を10名とする。

クロス実習（視覚A）

2・3・4学年 前期 選択 実習 1単位
◎真壁 友、阿部充夫

授業の概要およびテーマ

写真とプロトタイピング2つのテーマについて扱います。
写真ではデジタル一眼レフの使い方、映像スタジオの機材を使い撮影方法を学びます。
プロトタイピングではArduinoの基本的な使い方、モータで動くモデルを作成するための基本技術について学びます。

達成目標

写真

デジタル一眼レフカメラの基本的な使い方を理解し、映像スタジオで機材を使い撮影できる

プロトタイピング

Arduinoの基本的な使い方を習得する。

3Dプリンタを使って構造部品を出力して動くモデルを組み立てる。

授業計画

- 1回2コマで実施予定
- 1 デジタル一眼レフカメラの基本操作
- 2 スタジオ機材の使い方基礎
- 3 物撮りの基礎
- 4 人物撮影の基礎
- 5 Arduinoの基本
- 6 モータについて
- 7 制作
- 8 制作

学生に対する成績評価基準

写真とプロトタイピングの2つを総合して評価を決めます。

用具

プロトタイピングについて：

ノートパソコン（winでもmacでも可）

Arduino UNO

モーター、モータードライバー式

{<https://strawberry-linux.com/catalog/items?code=12026>}

{<https://strawberry-linux.com/catalog/items?code=12023>}

{<https://strawberry-linux.com/catalog/items?code=90009>}

{<http://akizukidenshi.com/catalog/g/gM-01804/>}

履修希望者への要望・事前準備

プロトタイピングについて：

CADの基本操作ができることが望ましい。

CADができない場合は自習で習得してください。

定員：10名

クロス実習（視覚B）

2・3・4学年 後期 選択 実習 1単位
◎金 牟洙、天野 誠

授業の概要およびテーマ

・シンボルマーク

シンボルマークは、会社、団体、家系などを象徴する意匠である。この演習ではシンボルマークを理解するための歴史と文化について学ぶ。また課題として実際にAdobe Illustratorを使ってシンボルを制作し基本的なプロセスを体験する。

・タイポグラフィ

Adobe InDesignを使ってデジタル文字組版の実践的なトレーニングを行う。

達成目標

・シンボルマーク

シンボルマークの基礎知識とデザイン制作を習得していく。

・タイポグラフィ

Adobe InDesignのオペレーションと文字組版の基本の習得。

授業計画

- (01) ガイダンス（1コマ）
- (02) シンボルマーク 1回目：シンボルマークの基礎（2コマ）
- (03) シンボルマーク 2回目：シンボルマークの事例分析1／課題による実習（2コマ）
- (04) シンボルマーク 3回目：シンボルマークの事例分析2／課題による実習（2コマ）
- (05) シンボルマーク 4回目：講評／質疑応答（1コマ）
- (06) タイポグラフィ 1回目：組版の基本とオペレーション（2コマ）
- (07) タイポグラフィ 2回目：オペレーション（2コマ）
- (08) タイポグラフィ 3回目：オペレーション（2コマ）
- (09) タイポグラフィ 4回目：講評／質疑応答（1コマ）

学生に対する成績評価基準

・シンボルマーク

提出課題作品80%、授業参加態度・制作姿勢20%とする。
課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点する。

・タイポグラフィ

制作物（作品）に対する評価を80%、受講態度に対する評価を20%とする。

成果物の評価段階は次の基準に従う。

B評価：文字組に関する最小限の知識と技術を理解することができた。

A評価：文字情報を正確に紙面に再現することができた。

S評価：作品としても完成度が高いもの。

テキスト

必要に応じて適宜指示。

参考書・参考資料等

・シンボルマーク

特になし

・タイポグラフィ

『デザイン解体新書』工藤強勝・著/ワークスコーポレーション/2,500円

その他の参考書は必要に応じて適宜指示する。

用具

・シンボルマーク

Adobe Illustrator、Photoshopがインストールされているノートパソコン、アイデアスケッチが出来る用具一式（A4紙或いはスケッチブック、各種鉛筆・ペンなど）

・タイポグラフィ

Adobe InDesignがインストールされているノートパソコン

履修希望者への要望・事前準備

受講条件として指定の用具を持っていること。定員は10名。

クロス実習（美・工A）

2・3・4学年 前期 選択 実習 1単位
石原 宏

授業の概要およびテーマ

本学での美術領域である絵画、版画、彫刻、西洋美術史分野の実践的授業を通して、美術造形領域を俯瞰的に考察することの一助とします。美術表現といっても、その実際は多岐に及び、専門的表現手法は限られた設備と環境でなければ経験することができません。また、西洋美術史の中に位置づけられる絵画に描かれている建築物の、歴史的な意味の検証を行うプログラムもあります。本授業を領域横断的カリキュラムの一つとして位置付け、当該分野の専門的内容の一端に触れ、視野を広げ今後の自身の創作活動へのヒントとする事を目的とします。少ない時間ですが、専門的な手法や歴史研究の一端を経験することが可能です。

本授業内でのプログラムは、年度によって開講しない年があります。本年度の開講するプログラムは、「絵の中の建築の描写」の1講座です。

なお、授業は実習1単位＝7回授業となります。

達成目標

- ・透視図法の歴史と技術を習得出来る。
- ・西洋建築史の一端を理解出来る。

授業計画

- ・授業は年度によって計画される内容が異なります。
 - ・本年度は前期に開講し、内容は1講座「絵の中の建築の描写」を行います。
 - ・開講する領域での履修人数は、設備等により定員制となりますので注意してください。
 - ・開講内容によっては持参用具、材料費等が必要となる場合があります。
 - ・実習は、集中授業となる場合があります。（原則は2コマ連続）
- 【絵の中の建築の描写】

この授業で扱うのは、画中建築である。画中建築とは絵に描かれた建築のことである。その歴史は古く古代ギリシアの文献に記述がある。ギリシア悲劇の舞台装置（スケノグラフィー-skenographie）である。授業では古代から中世、ルネサンス、バロック時代の画中建築の歴史を学び、また遠近法を使って実際に画中建築を描写する。

- 01 ガイダンス、古代の画中建築
- 02 ゴシック時代の壁画、装飾写本、ルネサンス時代
- 03 バロック時代、特異な画家たち
- 04～07 絵画のモチーフとしての建築の描写
- 08 講評、レポート作成

学生に対する成績評価基準

授業参加態度・制作姿勢30%、提出作品等の内容70%

なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点する。

参考書・参考資料等

適宜指示する

用具

【絵の中の建築の描写】

クロッキー帳、アイデアスケッチ、描写用具（水彩、油彩等々）
その他の物品に関しては、適宜指示いたします。

履修希望者への要望・事前準備

【絵の中の建築の描写】

絵の描写の能力は問わないが、歴史特に美術史に興味があること。

クロス実習（美・工B）

2・3・4学年 後期 選択 実習 1単位
◎菅野 靖、手銭吾郎

授業の概要およびテーマ

本学での工芸領域である金属工芸（鍛金、鋳金、彫金）各分野の実践的授業の実際を通して、デザイン造形領域を俯瞰的に考察することの一助とします。

工芸と言っても、その実際は多岐に及び専門的表現手法は限られた設備と環境でなければ経験することができません。本授業では、本学の領域を横断的カリキュラムの一つとして位置付け、当該分野の専門的内容の一端に触れ、視野を広げ今後の創作活動へのヒントになる事を目的とします。

少ない時間ですが専門的な手法の一端を経験することが可能です。

達成目標

各領域の専門的表現技法、素材の扱い方法、加工方法などを経験します。

- ・各自のコンセプトを立案し完成まで制作をおこなう事ができる。
- ・表現に必要な素材を理解し、それに伴う技法の理解ができる。
- ・制作上のプロセスを理解、正しく実践できる。
- ・工房での安全な制作・加工方法を実践できる。
- ・工芸の実際を理解することができる。

授業計画

*年度によって計画される内容が異なります。今年度の開講は〈彫金〉と〈鍛金〉です。また、開講は時間割に則りますが、詳細は初回ガイダンス時に説明します。（原則は2コマ連続）

〈彫金〉

彫金・ジュエリーにおいて最も基本的な加工法とデザインを経験する目的でシルバーリングの制作を行います。銀素材の溶解に始まり、切削から磨り出し、研磨仕上げ（完成）といった素材づくりからフィニッシュワーク迄の全てを受講者自身で行います。また、加工法の制約を理解し、デザインを考える事も重要な目的です。：定員4名

- 01：ガイダンス
- 02：アイデア決定→3面図（2倍サイズ）
- 03：銀素材溶解→成形
- 04：糸鋸による切断加工
- 05：ヤスリによる摺出し加工
- 06：ヤスリによる摺出し加工
- 07：研磨仕上げ
- 08：講評（作品撮影）

〈鍛金〉

鍛造技法による「スツール」の制作：定員5名

- 01：ガイダンス
- 02：アイデア検討
- 03：アイデア決定、材料取り
- 04：鍛造によるパーツの制作
- 05：鍛造及びパーツの接合（溶接等）
- 06：接合及び天板制作
- 07：調整及び仕上げ（塗装）
- 08：講評

学生に対する成績評価基準

受講態度および理解度・制作姿勢60%、成果物の内容40%。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

持参用具などは、初回ガイダンスやパレットで通知する。

履修希望者への要望・事前準備

〈彫金〉と〈鍛金〉のどちらかを選択する授業ですが、設備や場所の関係から履修人数は上記定員となります。定員を超えた場合は抽選とします。また、材料費が各々3,000円程度かかります。

クロス実習（建築・環境A）

2・3・4学年 前期 選択 実習 1単位

◎小川峰夫、江尻憲泰、山下秀之（建築系A－1）

◎小川総一郎、菅原 浩、福本 壘、渡辺誠介（ランドスケープ・まちづくり系A－2）

授業の概要およびテーマ

前期の前半は建築系、後半はランドスケープ・まちづくり系の教員が提示したそれぞれの課題について、見学や制作を行う。

達成目標

建築・環境デザイン学科以外の学生が、空間デザイン分野の基礎的な演習や実習を体験し、空間造形を理解し、自らの専門領域の糧にすること。

授業計画

01. ガイダンス

02～08. 建築

09～15. ランドスケープ・まちづくり

学生に対する成績評価基準

各教員（グループ毎）による。

履修希望者への要望・事前準備

空間系に興味がある学生のための授業です。

多少専門的になりますが、遅刻せずに出席してください。

クロス実習（建築・環境B）

2・3・4学年 後期 選択 実習 1単位

◎津村泰範、平山育男（保存系B－1）

◎森 望、川口とし子（インテリア系B－2）

授業の概要およびテーマ

後期の前半は保存系、後半はインテリア系。保存系では解説後に建物や街並みを見学してレポートをまとめる。17年度は群馬県の富岡製糸場、長岡市摂田屋などを見学。インテリア系は住宅の居間・食堂のレイアウトやコーディネートを行う。空間イメージを決め、家具や材料、カーテンや小物などを決めて、空間の中にコーディネートする。

達成目標

建築・環境デザイン学科以外の学生のために、建築・環境デザインの範疇を知り、見学や課題により空間系のデザインを学び、提案できるようなること。

授業計画

1：ガイダンス

2：解説

3,4：歴史的建造物の見学・実習

5：解説

6,7：歴史的建造物の見学・実習

8：成果発表

9：課題説明

10：空間イメージ決定

11：家具などの選択

12：配置、色彩構成

13,14：エスキースチェック

15：発表

学生に対する成績評価基準

各教員による。

履修希望者への要望・事前準備

空間系に興味がある学生のための授業です。

多少専門的になりますが、遅刻せずに出席してください。

日本美術史

1 学年 前期 選択 講義 2 単位
大倉 宏

授業の概要およびテーマ

日本の美術を時代を追って概観します。
「日本美術史」という枠組みは、明治期に西洋に自国文化を体系的に紹介、提示する必要から組み立てが始まりました。そのため草創期には「日本文化」の独自性を証明、提示するという国家的課題を負い、扱う作品にも偏りがありました。その意味で美術史もまた時代の鏡であったと言えます。しかし一世紀半の研究の積み重ねと広がり、そして時代の変化とともに日本美術史も変わってきました。1980年代以降には、美術史が扱ってきた作品群をきわめて個人的視点から語る言説が登場し（例えば橋本治やいとうせいこう）、美術史家たちの言葉もより個性的になります。そこで明らかになってきたことは日本文化の多様性、多層性であったように思われます。この講義もまた日本美術は多様であるとの視点に立ち、美術史研究の成果をふまえつつ、私個人の視点も積極的に話すことで、みなさん一人一人が自分の日本美術史を見いだすきっかけを提示したいと思います。

達成目標

1. 講義で紹介する多様な日本美術の表現世界から、現在の自分の関心にあふれてくるものを見出すことができる。
2. 発見した興味ある対象について、正確な理解にもとづきながら、自分の見解を自分の言葉で人に伝えることができる。

授業計画

- 01 〈国家〉から私へ—二つの日本美術史
- 02 誰もいない場所にいる人—仏教伝来以前のイメージの世界
- 03 人の形をした神、神の形をした人—仏教と中国（大陸・半島）文化の受容と葛藤
- 04 アイドル誕生—仏教はどう調理され食べられたか（奈良時代の仏教美術）
- 05 人くさくなった仏たち—仏教の非仏教化（平安時代の仏教美術）
- 06 ただの人に帰っていく仏たち—非仏教化した仏教の仏教化（鎌倉期以降の仏教美術）
- 07 つよいもの、うつくしいもの、わくわくさせるもの—日本人と絵・鎌倉時代までの諸相
- 08 華麗の変遷—寺院建築の展開
- 09 外に開く内—禅宗僧侶の周辺（住宅・水墨画・庭園）
- 10 都という場所—近世の京都美術（宗達光琳派）
- 11 浮世の住み心地 1—浮世絵誕生まで
- 12 浮世の住み心地 2—浮世絵版画の諸相
- 13 3秒後のコーヒーとクリーム—江戸時代後半の絵（文人画・写生画・蘭画ほか）
- 14 〈日本〉に支えられた「私」の苦悩—「美術」の誕生
- 15 日本美術史の忘れ物—「民家」と「民芸」
- 16 試験

学生に対する成績評価基準

試験により評価する。

参考書・参考資料等

『日本美術の歴史』（辻惟雄 東京大学出版会）¥2,940
この本は日本美術史の全体イメージをつたえ、授業に沿って読むことで理解のふかまる良書であり、購入を勧める。
そのほかの参考書としては
『ひらがな日本美術史 1～7』（橋本治 新潮社）
1、2、7 ¥3,150 3 ¥3,360 4～7 ¥2,940
『見仏記』（いとうせいこう みうらじゅん 角川文庫）¥672

履修希望者への要望・事前準備

日本美術はもっとも身近に「本物」に接することのできる美術です。受講前、受講中、受講後に積極的に機会を捉え実際の作品に接する体験を持つことを希望します。

西洋美術史

1 学年 後期 選択 講義 2 単位
石原 宏

授業の概要およびテーマ

芸術は様式の歴史である。芸術の形は多様であるが、芸術作品は時代的、地理的にそれぞれまとまった統一体、すなわち様式を形作る。原始美術から近代美術までのなかから、各時代を代表する作品を取り上げる。

テーマ：

1. 様式の探究、2. 芸術意思の発見、3. 人間と芸術の関わり、4. 歴史と芸術

達成目標

各時代の様式を生み出すもととなった芸術意思について考える力を身に付ける。西洋の原始時代から、現代に至るまでの、建築・彫刻・絵画のそれぞれの時代を代表する作品を知ることができ、制作の際に何らかのインスピレーションを与えることになるだろう。

授業計画

- 01 美術史とは・時代概念の解説
- 02 原始時代の美術
- 03 古代オリエント美術
- 04 古代ギリシア美術
- 05 エトルリア美術と古代ローマ美術
- 06 初期キリスト教美術とビザンチン美術
- 07 ロマネスク美術
- 08 ゴシック美術
- 09 初期ルネサンス美術
- 10 中期ルネサンス美術
- 11 盛期ルネサンス美術
- 12 マニエリスム美術
- 13 バロック美術
- 14 ロココ美術、新古典主義、ロマン主義
- 15 写実主義、印象派、後期印象派、立体派
- 16 試験

学生に対する成績評価基準

16週目に行う試験と、授業態度、レポートをもとに評価します。

出席・遅刻の基準

出席率が80%を下回る場合は単位を与えません。

参考書・参考資料等

『体系世界的美術』（全20巻）学習研究社、『世界美術大全集』（全28巻）小学館、『人類の美術』（全20巻）新潮社

履修希望者への要望・事前準備

人類が延々と作り続けてきた芸術作品には、芸術意思が潜んでいる。1つの作品でも、作者だけでなく、時代、風土の面から考えなければ理解することはできない。ものを作る人間は、芸術の歴史を知っていなければならない。本大学の学生諸君には本講義を積極的に履修してもらいたいが、1回だけ行う試験は出席不良者には高度なものなので、安易な態度で履修しないように。

形態デザイン論

1 学年 後期 選択 講義 2 単位
三井直樹

授業の概要およびテーマ

自然界のあらゆる形や現象、私たちの身の周りにある様々な造形物には、それぞれ形づくる数理性や造形原理が存在する。こうした形体の発生の原理やメカニズム、造形秩序の法則を理解することによって、クリエイティブな感性を涵養し、造形的な豊かな発想につなげることができる。

本講義は造形原理の根幹をなす構成学の観点から自然の形、人工の形を概観し、「形の美」とは何かという命題を基に造形理論を体系的に学んでいく。また、幅広い分野の映像、ビジュアルを鑑賞し、より高度なアートアンドデザインの発想力（クリエイティビティ）と実践力を培うことを目指す。

達成目標

本講義を履修した学生は、造形美と形をつくりだす原理・法則について理解し、造形的感性を養うことができる。また、構成学の習得によって、作品制作における造形表現へ還元することができる。

授業計画

1. 形の体系・1
2. 形の体系・2
3. 形の見え方とゲシュタルト心理学
4. 配色のテクニックとトーン
5. 色彩の錯視と造形表現
6. プロポーションとコンポジション
7. 黄金比と分割法
8. 黄金比と複雑系美学
9. 整数比例法と日本美
10. 紋様と装飾美術
11. ジャポニズムと近代デザイン
12. バウハウスとジャポニズム
13. オーガニックフォルムと自然の造形
14. シンメトリーの美学
15. 総括：理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位取得はできません。「理解度の確認とまとめ」（100%）を基本として評価します。

テキスト

三井秀樹『構成学のデザイントレーニング』六耀社、3200円（本体）
他に適宜プリント配付します。

参考書・参考資料等

三井秀樹『フラクタル造形』（SD選書）鹿島出版会、1,800円（本体）
三井秀樹『新構成学』六耀社、5,200円（本体）
三井秀樹『オーガニックデザイン』平凡社、2,400円（本体）
三井直樹、三井秀樹『色彩デザイン学』六耀社、2,800円（本体）
三井秀樹『形の美とは何か』NHK ブックス、920円（本体）

履修希望者への要望・事前準備

本講義のなかで、さまざまなアート／デザイン領域への造詣を深め、形態に関わる語彙（ボキャブラリー）を広げましょう。作品制作のみならず、作品についてプレゼンテーションを行ったり、文章を書くことも、プロフェッショナルへの大事なスキルです。構成学における造形理論を習得し、美の本質を理解する理論と感性を養いましょう。

美術・工芸概論

1 学年 後期 選択 講義 2 単位
◎長谷川克義、遠藤良太郎、岡谷敦夫、菅野 靖、小林花子、鈴木均治、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

美術や工芸は、時代背景と様々な文化の起こりにより、社会と個人の思想、素材と技術の発達などと密接な関係によって発生し展開してきた。人間が文明を開化させた時代から、19世紀の産業革命を経て今日もたらされた世界の縮図で、美術はどの様に変遷してきたのか、また今日と言う工芸と呼ばれる表現形式はどの様に成立し変化せざるを得なかったのか。本講義では各分野、領域が成立してきた時々の事例と其々が求めた志向の概要と創作原因を理解し、存在する多様な価値観と表現特性の要因関係を考えその概要を探る。造形表現の新たな可能性と展開の模索を行うとき、領域を超えて制作者たちの知見を得ることは、今後の創作活動を志向する者たちの基盤と成り得る分析力と考察力、発想力を養うものと考えます。

- ・作品と作者の認識
- ・アート、デザイン、クラフトの意味と要因の解釈～美術と工芸の枠組み
- ・歴史・地域等から起因する表現と素材の共通性・再生
- ・手と視点からの創造～美術工芸思考
- ・造形活動と社会活動

達成目標

- ・歴史の観点から見る造形表現や普遍的魅力的理解と認識ができる。
 - ・目的と素材特性（素材と手法・技法の関連性）が理解できる。
 - ・鑑賞する作品から作者の思考と表現特性を考察できる。
 - ・社会においての造形表現の意義と現在性を考えることができる。
- ※レポート等課題の体裁および提出は各教員の指示に従うこと。また、提出レポートは講義内容のメモや感想文程度の内容ではなく、授業から考察した自分の考え・意見が述べられている等与えられたテーマに基づいたレポートとしての体裁をなしていること。

授業計画

- 01：日本における美術と工芸の枠組み・分野、領域の概念と解釈
02～03：美術絵画の発生と概念
①素材の発達と表現 ②作家と作品の歴史の変遷～現状
③表現と造形手法の理路
04：染織の発生と概念
①素材と技法の発達 ②作家と作品の展開と現状
③素材と造形手法の理路
05：漆の発生と概念
①素材の発達と表現 ②作家と作品の歴史の変遷～現状
③表現と造形手法の理路
06：陶芸の発生と概念
①素材と技法の発達 ②作家と作品の展開と現状
③素材と造形手法の理路
07～08：美術彫刻の概念
①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史の変遷～現状
③表現と造形手法の理路
09：金属工芸の発生と概念〈鍍金〉
①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史の変遷～現状
③表現と造形手法の理路
10：金属工芸の発生と概念〈彫金〉
①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史の変遷～現状
③表現と造形手法の理路
11～12：版画の概念
①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史の変遷～現状
③表現と造形手法の理路
13：金属工芸の発生と概念〈鍛金〉
①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史の変遷～現状
③表現と造形手法の理路
14～15：ガラス工芸の発生と概念
①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史の変遷～現状
③表現と造形手法の理路
*但し、授業日程は変更になる場合があります。

学生に対する成績評価基準

レポート評価70%・受講姿勢30%

テキスト

適宜配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

履修希望者への要望・事前準備

講義において紹介される種々の概念の上に今日の表現活動が実践されています。皆さんが日々演習等の授業で取り扱う全ての手法と成果をより深く理解し、考察することを望みます。また、原則全授業の出席およびレポート等課題の全提出を求めます。

現代芸術論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
大倉 宏

授業の概要およびテーマ

日本の現代芸術史は、西欧の芸術動向との関わりに言及されずに語られることが稀です。「西洋化＝近代化」が時代の流れであったためですが、そのために見えなくなることもあります。

ここでは参照事項として20世紀美術の海外（主に西欧）の動向を確認した上で、私たちにもっとも身近な「日本の現代美術」を日本人自身の表現史としてとらえます。その現代美術の始まりを近代初頭（明治期）の「西洋画」に求めます。日本の近現代美術に流れる共通の大きな課題が「西欧との対決」であったと考えるためです。この大きな課題の中で苦悩しつつ「自分の表現」を模索した12人の美術家たちの作品、生涯、言葉を紹介し、さらに私自身の批評を語ることで、現代の日本において表現者であることの意味を考えるきっかけとしてほしいと思います。

達成目標

1. 講義で紹介する近現代の日本の美術家の作品、人生、言葉から、現在の自分の関心を強く引くものを意識することができる。
2. その関心を引かれるものについて、正確な理解にもとづきながら、自分の見解を自分の言葉で人に伝えることができる。

授業計画

- 01 近世から近現代へ（授業コンセプトの説明と20世紀前半の美術の国際的動向について）
- 02 高橋由一
- 03 岸田劉生
- 04 村山槐多
- 05 古賀春江
- 06 松本竣介
- 07 佐藤哲三
- 08 岡本太郎
- 09 20世紀後半の美術の国際的動向について
- 10 赤瀬川原平
- 11 河原温
- 12 李禹煥
- 13 井上有一
- 14 森村泰昌
- 15 2000年代の動き
- 16 試験

学生に対する成績評価基準

試験により評価する

参考書・参考資料等

『東京ノイズ』大倉宏 アートヴィレッジ ¥1,575
『眼の神殿『美術』受容史ノート』北澤憲昭 美術出版社 ¥2,957
『日本・現代・美術』榎木野衣 新潮社 ¥3,360
『気まぐれ美術館シリーズ』（全六冊セット）洲之内徹 新潮社 ¥21,000（なお六冊のうち「気まぐれ美術館」「絵の中の散歩」「帰りたい風景」は新潮文庫版もあったが現在絶版。古書などで入手可能）

履修希望者への要望・事前準備

できれば受講前に新潟県立近代美術館、または新潟市美術館など近現代の美術作品を所蔵する美術館の常設展示を観覧しておくこと。また上記の参考書を一冊以上読んでおけば、なお望ましい。

描写実習

2 学年 前期 選択 実習 2 単位
◎遠藤良太郎、羽川幸一

授業の概要およびテーマ

デッサンの語源はデザインと同一のdesignareであり、計画や考えを表すことである。

描写とは遠近法などの図法や、画法（描写のスタイル）、画面の構成、構図、色彩計画を任意に扱い、豊かな視覚伝達を可能にする技術の礎である。

一方で、「何を、どのように描くか」という問題がこの授業の前提としてあるが、この授業ではより実的な技術の習得を主題に、課題として与えられたモチーフ、テーマをとおして個々の描画スタイルを意識しつつ進める実習である。

描写技術から表現の自由な発想についてまで展開できることが理想である。

この授業は描写に関連した創作を目的とした学生に幅広く開かれて

達成目標

描画材を扱い、様々な形態を的確に捉え、明快な方向性に従って的確に表現することができる。

画面空間を有意に構築するための明暗と濃淡を形とともに扱える。また色彩を使う際の色価（ヴァールール）の理解まで視野に入れる。

授業計画

- 9 月初旬集中講義（日程は事前にお知らせします）
- 01～02 概説 観察と描写
 - 03～04 質感表現
 - 05～06 曲面 メビウスの帯
 - 07～08 色彩
 - 09～10 光、影、反射、反映
 - 11～12 有色下地、人物と室内風景（ハーフトーンから明暗、濃淡を捉える）
 - 13～14 人物と室内風景
 - 15 講評 まとめ

学生に対する成績評価基準

作品制作の取り組み方（プロセス）60% 作品の出来40%

テキスト

適宜配付します。

参考書・参考資料等

適宜指示、配付します。
購入可能なものもありますが、必須ではありません。

用具

デッサン道具一式 その他描画材料等は事前に告知します。使用日までに各自そろえてください。

履修希望者への要望・事前準備

受け身ではなく、主体性、自主性を持ち、具体的な問題意識を持って授業に臨んでください。
選択者は必ず出席のこと。

美術解剖学

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
櫻木晃彦

授業の概要およびテーマ

人体を分析的に捉える医学的解剖学とは異なり、美術解剖学では人体を統合的に捉える。このことを念頭に置きながら、ヒトのからだの三次元的な構造を理解する。授業にあたっては実物の写真や解剖図さらには作品中の人体像を提示するにとどまらず、コンピュータグラフィックスを駆使して視覚に訴える。また、テキストを補足するプリントをほぼ毎回配付し、それぞれのテーマに沿って授業を行う。

達成目標

ヒトの形態についての正確なイメージを身につけ、自分の言葉で説明できる。

授業計画

- 01 イントロダクション：美術解剖学とは何か
- 02 共通の言語をもとう：方向用語と運動用語
- 03 骨とは何か：骨のはたらきと全身の骨
- 04 骨と骨の連結：関節はよく動くための連結
- 05 体幹の骨：脊柱と胸郭
- 06 上肢の骨：可動性を重視した骨格
- 07 肩という名のマジック
- 08 下肢の骨：体重支持を重視した骨格
- 09 頭部の骨：多くの骨で構成された立体パズル
- 10 感覚はすべてのはじまり
- 11 全身の筋：筋は収縮するだけの装置
- 12 体幹と上肢・下肢の筋
- 13 頭部の筋：咀嚼筋と表情筋
- 14 体表解剖学：体表から観察できる構造
- 15 総まとめ

学生に対する成績評価基準

課題レポート100%とする。ただし、授業はすべて出席することを前提にすすめられる。

テキスト

高橋彬『入門 美術解剖学』（医歯薬出版）

参考書・参考資料等

桜木晃彦『自分の骨のこと知ってますか』（講談社 + α 新書）
桜木晃彦『図解 からだのしくみがわかる本』（新星出版社）
桜木晃彦・武田美幸『CGクリエイターのための人体解剖学』（ポーンデジタル）

履修希望者への要望・事前準備

人体において自分の最も興味のあるところについて考え、疑問をもって受講することが望ましい。高校で「生物」を履修している必要はない。また、上記の参考書のうち少なくとも1冊は目を通しておくことをお勧めする。

美術・工芸特別講義

2 学年 後期 選択 講義 1 単位
◎長谷川克義、渋谷良治、林 範親、樋田豊郎、丸山直文

授業の概要およびテーマ

豊富な造形活動の経験と作品表現への深い造詣を持つ作家等を招聘し、美術・工芸を取り巻く最新の動向や経緯、次代に求められる思考力や方向性について幅広く講義を行います。
本講義により幅広い表現領域の現状を認識し、学生各自がその志向と制作・研究活動の方向性を探ると共に各専門分野にて創作に必要なとされる意識や概念、習得すべき技法について考察していきます。また毎回講義について事前・事後レポート提出を義務付けます。

達成目標

講師についての事前調査（事前レポート）が己の興味を広げる内容とすることができる。
講義後のレポートが講義内容の単なるメモや感想文ではなく、各自の考察・意見が述べられている等、聴講レポートとして体裁をなすことができる。その内容については、「講義された作家と作品、表現と手法・創作概念の考察」と共に、「各自考察する現在の美術・工芸領域の現状認識」や「講義に関連する自己の制作・表現活動の方向性の考察」を含むものとします。

授業計画

講義日程は4回（4名）を後期日程中に設定します。その予定は履修者にパレット等で周知します。
また、受講希望者はガイダンスに出席すること。レポート課題などの指示があります。
00：ガイダンス
01～02：美術表現分野A
03～04：クラフトデザイン分野A
05～06：美術表現分野B
07～08：クラフトデザイン分野B

学生に対する成績評価基準

レポート評価70%・受講姿勢30%

参考書・参考資料等

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

現代の作家と作品はいかなるものか、その本質を垣間見るまたとな機会である。皆さんが漠然とイメージしている造形活動との差異は…。作家の言葉をどのように聞き理解するか・表現の根幹に必要なことは…。緊張感をもった受講を望みます。必ず質問等を用意し講義に臨むこと。
また、レポート課題の全提出を求めます。
美術・工芸学科の学生だけでなく、他学科の学生も是非受講してください。

プロダクトデザイン概論

1 学年 前期 選択 講義 2 単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、
境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインは、生活のあらゆる場面で接するモノを発想し、形を与え、製品として世の中に送り出し、人々の暮らしを豊かにするモノである。

その分野は、身近な雑貨からファッション、テキスタイル、生活雑貨、家電用品、情報機器から自動車やロボットまで多岐に及ぶ。また、生活者との関わりはもとより、企業の経営資源でもあり、社会とも深い関わりを持つものである。

本講義は、それら広範な分野におけるデザインのありかたや制作・開発のプロセス、今後の展望などを概観するものである。具体的には、本学科の教員全員が、そのバックボーンを通して各分野の概説を行う講義と、プロダクトデザイン、テキスタイル・ファッションデザインの歴史についての講義より構成されている。

達成目標

- ・プロダクトデザインの多様な分野の特質・意義を理解すること。
- ・プロダクトデザイン及びテキスタイル・ファッションデザインの歴史について、概要を理解すること。

授業計画

- 01 授業ガイダンス・プロダクトデザインとは何か
- 02 家具・生活用品のデザイン
- 03 乗り物のデザイン
- 04 情報機器・家電製品のデザイン
- 05 インターフェースデザイン
- 06 プロダクトデザインの歴史Ⅰ
- 07 プロダクトデザインの歴史Ⅱ
- 08 プロダクトデザインの歴史Ⅲ
- 09 テキスタイル（染め）のデザイン
- 10 テキスタイル（染め）のデザインの歴史
- 11 テキスタイル（織）のデザイン
- 12 テキスタイル（織）のデザインの歴史
- 13 UXデザイン
- 14 音響・映像機器などのデザイン
- 15 プロダクトデザインについて トークセッション

学生に対する成績評価基準

各講義においてレポートを提出。
各レポートの得点の平均点から、欠席、遅刻に応じて点を減ずる。

テキスト

テーマ毎に必要なより、コピー等で配付

用具

筆記用具

履修希望者への要望・事前準備

自分の身近にあるプロダクトに対し、常に関心を持ち、観察すること。
概論では、それぞれが独立した分野のようにみえるが、実際には相互に影響しあって新しいモノが生み出されているのであり、それを意識し各回の授業に臨むこと。

視覚デザイン概論

1 学年 前期 選択 講義 2 単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、
金 牟洙、徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、
山田博行

授業の概要およびテーマ

日常生活で接することのない日はないというほど『視覚デザイン』は、実はとても身近な存在なのです。新聞、雑誌、絵本など印刷物に始まり、CDジャケットや食料品のパッケージ、テレビコマーシャルにウェブサイト、または街中で見かけるサインボードに至るまで、余りにも身近すぎてその存在に気付かない程です。そのように今まで接してきながら意識して来なかった『視覚デザイン』を改めて眺めることにより、社会の中での『視覚デザイン』の果たす役割、またはその成り立ちを知り、これから専門的に学修して行く上での基礎的知識や心構えなどを考えていきます。

達成目標

視覚デザインに関わる文字、印刷、イラストレーション、写真、Webなど各分野について基礎知識を深く理解し、専門用語、代表的な作品、作家について説明ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス（長瀬）
 - 02 いろいろなビジュアルコミュニケーション（池田）
 - 03 日本のしるし（金）
 - 04 地域とデザイン（吉川）
 - 05 紙、印刷（長谷川）
 - 06 文字と本（天野）
 - 07 イラストレーション（御法川）
 - 08 写真表現（松本）
 - 09 広告写真（阿部）
 - 10 映像表現（ビューラ）
 - 11 コマーシャル（山田）
 - 12 広告（山本）
 - 13 デジタル（真壁）
 - 14 Web（徳久）
 - 15 まとめ（長谷川・金）
- ※順番は変更することがあります。

学生に対する成績評価基準

積極性など授業態度40%
レポート等60%

テキスト

適宜指示します。

参考書・参考資料等

適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

「視覚デザイン概論」は、視覚表現の基礎となる理論を学ぶものです。講義の内容を単に知識として受け止めるだけではなく、演習や実習における制作を通して、その真の意味合いを考えてください。また日頃から図書館等も利用し、各分野の専門誌を読んでおくこと。さらに、美術館、ギャラリー等を利用し、本物のアート、デザインの作品に触れる機会を持つこと。

人間工学

1 学年 後期 選択 講義 2 単位
三村宣治

授業の概要およびテーマ

人間はいまや数多くの道具や機器を使い、人工的な環境の中で暮らしている。それによって物質的には豊かな社会となった。その反面、機器を使うことによる人間の思考や行動の制限、そして人間の精神や肉体への障害が無視できなくなっている。近年のテクノストレスはその典型である。“人間工学”とは、このような人間と機器・環境との関係を、ヒトの形態・心理・生理的特性を考慮して人間／機械系として捉え、人間にとって最適な作業形態・環境・機器・道具を設計するための基礎知識を与える学問分野である。多くの分野に関連し、学際性の高い内容を扱う。

達成目標

人間工学の基礎である次の6項目に関する基礎的な知識・技能および応用力を身につけ、説明できることを目標とする。

1) 人間工学の手法、2) 形態的特性、3) 生理的特性、4) 官能評価手法、5) 人間／機械系、6) ヒューマンエラー

授業計画

- 01 「人間工学」とは
人間工学の歴史的意義と対象。
- 02 人間の形態的特性1
生体システムの概要と生体計測法、運動機能および動作姿勢の概略。
- 03 人間の形態的特性2
動作分析や時間研究など、動作・時間測定手法。
- 04 人間の形態的特性3
人間の形態的特性に基づく作業動作の最適化や作業配置のための指針。
- 05 人間の形態的特性4
形態的特性のまとめと演習
- 06 人間の生理的特性1
脳の構造と脳波、心電図および筋電図など生体信号について
- 07 人間の生理的特性2
人間の感覚、知覚特性
- 08 人間の生理的特性3
視覚、聴覚など人間の五感と体感感覚の特性。
- 09 人間の生理的特性4
生理的特性のまとめと演習
- 10 官能検査手法、SD法など各種測定法の原理。
- 11 官能検査手法、SD法など各種測定法の利用法。
- 12 人間とシステムの融合「人間／機械系」1
人間／機械系の概念。
- 13 人間とシステムの融合「人間／機械系」2
人間／機械系の設計手順。
- 14 表示装置（ディスプレイ）とコントロールパネルの最適設計。
- 15 人間の心理的特性
ヒューマン・エラーと人間工学
人間の行動・動作に存在するエラーの分類と背後要因、発生要因、さらに人間の行動モデルと人間工学的対策。
- 16 期末試験

学生に対する成績評価基準

成績は、期末試験の成績80%、講義中に行うレポート20%によって総合的に評価する。

総合評価では、達成目標である次の6項目の理解・習得を基準とし、これらを最低限達成した場合、合格とする。

1) 人間工学の手法、2) 形態的特性、3) 生理的特性、4) 官能評価手法、5) 人間／機械系、6) ヒューマンエラー

テキスト

必要に応じプリントを配付する。

参考書・参考資料等

呉 景龍、塚本一義著『現代人間工学』（森北出版）、村田厚生著『人間工学概論』（泉文堂）

履修希望者への要望・事前準備

シラバスにしたがい、プリントを使って講義を行うので、講義後復習をしておくこと。

メディア概論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎真壁 友、大野一生、澤 隆志、林 洋介、松本祐一、
南加乃子、山田興生

授業の概要およびテーマ

現在メディアと呼ばれている物は多様化してきています。紙、放送、インターネット。これからも今までは思い付かなかったようなモノがメディアとして活躍する可能性もあります。この授業ではそれぞれの分野で活躍している講師から、それぞれの立場から「メディアとは？マルチメディアとは？」を講義します。社会の中では様々なメディアに精通したデザイナーが求められています。この授業ではマルチメディアを「コミュニケーションデザイン」「社会」「技術」の各観点から理解し、その全体像を把握することを目的とします。

達成目標

デジタルメディアの歴史とその広がり的一端を知る。

映像、放送での動画編集の意味について理解するきっかけを得る。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 デジタル技術とメディアの歴史1
- 3 デジタル技術とメディアの歴史2
- 4 デジタル技術とメディアの歴史3
- 5 ネットアート
- 6 データビジュアライゼーション
- 7 デバイス
- 8 デバイス
- 9 ネットワークと音楽
- 10 ネットワークと音楽
- 11 放送
- 12 放送
- 13 映像
- 14 映像
- 15 映像
- 16 期末試験

学生に対する成績評価基準

授業のテーマにより授業時間中に行うテスト、提出物があります。

それとあわせ学期末の試験により評価を行います。

なお成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。

テキスト

各講師から授業時に指示されます。

また必要に応じてプリントを配付。

参考書・参考資料等

各講師から授業時に指示されます。

履修希望者への要望・事前準備

各分野の第一線で活躍している先生方を招いてのオムニバス形式の授業になります。デジタルメディアについての内容が多くなります。興味のある人のみ受講すること。また授業中に様々な映像を見る機会があります。映像と音に対して過敏な人は受講をおすすめしません。

出席、提出物、試験の不正に対しては厳しく対処します。

プロダクトデザイン特別講義

2 学年 前期 選択 講義 1 単位
◎齋藤和彦、上野和広、竹原あき子、田中啓一、松本 有

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインの第一線で活躍されているデザイナーあるいは、長年活躍されてきた豊富な経験と深い造詣をお持ちの方を講師として迎え、デザインの動向、注目される製品・作品・成果、次代に求められるデザイナー像などを幅広い視野で講義していただく。

達成目標

- ・事前レポートにより、講師の経歴や仕事などのバックグラウンドを理解すること。
- ・講義レポートにより、講義を受けての自分の考え・意見を記述することができること。
- ・デザイナーの仕事や社会における役割を把握、理解すること。

授業計画

オムニバス形式で4人の講師が4回の授業を行う。

学生に対する成績評価基準

毎回のレポートの総合点から、欠席、遅刻点を減ずる。
配点比率 事前レポート（20％）：講義レポート（80％）
3／4以上の出席、及び事前・講義両レポートの提出が単位取得の必要条件となる

テキスト

必要に応じて配付・指示する。

参考書・参考資料等

授業で適宜紹介する。

履修希望者への要望・事前準備

講義の前に講師の経歴や仕事について十分に調べておくこと。
講義レポートは、講義内容のまとめや感想文にならないように意識し、自分自身の考えを記述すること。

視覚デザイン特別講義

2 学年 前期 選択 講義 1 単位
◎山本 敦、五島一浩、川上典季子、南雲暁彦、山本晃夫

授業の概要およびテーマ

視覚デザインの領域は、広告やグラフィックデザインなどから、写真、映像、デジタルデザイン等、幅広い分野に渡ります。この講義では、それら視覚デザインの分野から代表的なものを抜粋、第一線で活躍されているクリエイターの方を講師にお招きし、各分野を取り巻く最新の動向や仕事内容についての話を伺います。

達成目標

各クリエイターの仕事や社会におけるデザインの役割を、現実的に把握、そして理解できるようになることが目標です。

授業計画

4人の非常勤講師がオムニバス形式で4回の授業を行う。

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が3／4を下回る場合は単位を与えない。
また出欠に関し不正があった場合は、最終成績の素点より50点の減点とする。
レポート60％
積極性など授業態度40％

テキスト

必要に応じて、各講師によるプリントを適宜配付。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

履修希望者への要望・事前準備

講師の方々はいずれも、各分野の第一線で活躍されている方々です。毎講義の前に、講師の方々の仕事、プロフィール等を調べておくこと。
また、真摯な態度で受講すること。

商品記号論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
國澤好衛

授業の概要およびテーマ

消費の対象としての商品が使用価値を超えて記号的価値（商品の背後に潜む意味的な価値）に基づいて消費されるようになると、商品にはモダンデザインが求めている物的機能や環境的機能を超えて、使用者とのコミュニケーションを企図する記号的機能が求められるようになる。

そこでは、デザイナーは審美的な価値を高めるためだけでなく、かたちや色といった非言語を操作してユーザーにわかりやすさや親しみやすさを伝えることが重要となる。

それは、商品のコミュニケーション機能（意味）をデザインすることであり、意味を設計し可視化することである。

本講義では、記号論の基礎を学ぶと同時に、主に消費財のデザイン（プロダクトデザイン）を対象に、"Design is making sense of things."（デザインは意味を与えることである）を主題にして、記号的視点からデザインの本来的な役割や、人とデザインの関係を考察することを学んでいく。

また併せて、今日注目を集める「デザイン思考」についても解説する。

達成目標

- ・デザインについて記号的解釈ができる
- ・デザイン思考について理解する
- ・製品意味論を理解し、意味のデザインの手法を修得する
- ・デザイン表現の記号論的分類ができる（C.S.パースの分類）
- ・感性品質の定義について理解し、イメージボードが制作できる

授業計画

1. デザインと記号論：講義の目的
2. 講義の全体像：資料集の解説を中心に
3. デザインの変遷 I：デザインの変遷
4. デザインの変遷 II：新たなデザインの時代
5. デザイン思考：3つの重要なスキル
6. モダンデザインの誕生：モダンデザインの誕生、記号使用での物議
7. デザイナーの誕生：デザイナーの誕生と活躍
8. デザイン機能の変遷と製品意味論：モダンデザイン誕生以降のデザインの役割
9. デザインの記号的解釈：デザインにおける記号論、記号論の基礎
10. デザインレトリック：レトリックによるデザイン操作
11. デザインの表象と対象：デザインの記号的表現と意味の分類、デザインコード
12. 視覚伝達デザインと記号：視覚伝達デザインの記号的解釈、ゲシュタルト心理学
13. デザインテストとイメージボード：デザイン分類、イメージボードの作成
14. デザインの評価軸：デザイン審査の状況、デザインの印象評価手法
15. デザインの価値：デザイン実践の事例、ブランドの記号性
16. 試験

学生に対する成績評価基準

3分の2以上の出席を前提に、レポートと試験の結果で評価する

出席・遅刻の基準

初回の授業の際に説明する

テキスト

オリジナルテキストを配付する

参考書・参考資料等

『意味論的転回』（クラウスクリップENDORF、共訳、エスアイビーアクセス）
『企業における形態意味論の実践』（自著、インダストリアルデザイン139、140合併号、IIDA）
『記号論への招待』（池上嘉彦、岩波新書）
『記号論』（P・コブリー、吉田成行訳、現代書館）
『記号としての芸術 講座・記号論3』（川本茂雄他編、勁松書房）
『一般記号学』（エリザベート・ヴァルター、向井周太郎他訳、勁松書房）
『レトリック感覚』（佐藤信夫）
『デザイン学（思索のコンステレーション）』（向井周太郎）
『生きのびるためのデザイン』（ヴィクターババネック、阿部公正訳、晶文社）
『誰のためのデザイン？』（D.A.ノーマン、野島久雄訳、新曜社刊）
『エモーショナル・デザイン』（D.A.ノーマン、岡本明他訳、新曜社）
『未来のモノのデザイン』（D.A.ノーマン、安村通晃他訳、新曜社）
『Design Thinking』（N. Cross）他

用具

特に必要ない

履修希望者への要望・事前準備

「デザインは構成されるものであり、計画されるものであるが、完全に規定されるものでなく美性という不確かさによって性格付けられている」とエリザベート・ヴァルターは述べている。

本講義では、この不確かさを「人とデザインとの関係に潜む不確かさ」として捉え、この不確かさを解く糸口を探っていく。

履修生にはこの講義を通じて、デザインのひとつの研究領域である記号論を理解しながら、デザインの鍵を握る「不確かさ」のヒントをつかんで欲しい。

なお、講義にあたっては、配付したテキストを事前学習すること。

ユーザインタフェースデザイン論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
尾田雅文

授業の概要およびテーマ

機器や製品の扱いにおいて、主に「わかりやすさ・使いやすさ」に関するデザインの考え方を学習する。このために、適切なヒューマンインタフェース、人間の認知特性とデザインなどの理解、さらには、社会的課題としてのユニバーサルデザイン（UD）についても取り扱う。

達成目標

デザイン要件としての「わかりやすさ・使いやすさ」を理解し、「ユーザーの立場に立ったデザイン」を自ら発想できるデザイナーとしての基礎的素養、能力の向上を図る。

授業計画

- 1 ユーザインタフェースとは
- 2 ユーザインタフェースデザインの背景と関連分野
- 3 人間の特性 - 視覚 -
- 4 人間の特性 - 聴覚 -
- 5 人間の特性 - 体性感覚 -
- 6 人間の特性 - 高齢者・障がい者 -
- 7 入出力機器としくみ
- 8 インタラクションデザイン
- 9 GUIデザイン
- 10 情報の可視化
- 11 ユーザインタフェースの設計
- 12 ユーザインタフェースの評価
- 13 ユニバーサルデザイン - 高齢者対応 -
- 14 ユニバーサルデザイン - 障がい者対応 -
- 15 ユーザインタフェースの展開

学生に対する成績評価基準

単位付与の前提条件として、2/3以上の出席を満たすことを原則とする。

成績は、報告書・課題等（70%）、授業態度・小テスト（30%）に基づいて評価します。

テキスト

●講義資料を毎回配付する

参考書・参考資料等

- ・「誰のためのデザイン？」D.A.ノーマン 新曜社 3,465円
- ・「福祉工学」依田光正 理工図書 2,800円

履修希望者への要望・事前準備

講義資料を事前にPaletteからダウンロードして、授業に備えてください。

マーケティング論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
上原正孝

授業の概要およびテーマ

マーケティングは低迷する既存商品に新たな価値や需要を創造したり、コンシューマーの潜在的ニーズを掘り起こして売れる商品・サービスを開発したり、価格、流通、コミュニケーション領域を組み合わせることで実に様々なビジネスクリエーションを行なう実践科学です。ビジネス成功に不可欠とまで言われる所以です。今やマーケティングは、私企業は言うに及ばず学校・病院・公共機関などの非営利団体や個人に至るまで社会環境の変化に適応して存続と成長をはかっていくことにも積極的に利用されています。その意味でデザインや広告、コミュニケーションもマーケティングの重要な一要素と言えます。

講義では学生が身近に接する広告キャンペーン、ブランディング、メディアミックス（マスメディア・ソーシャルメディア）等の広範な題材や事例を取り上げ、その背後に隠れたマーケティング意図を対話形式も交えて検討します。またデザインを生かした就職を目指す学生にも有益なマーケティングの応用としてのキャリアデザインにも踏み込む予定です。

達成目標

- 1、マーケティング目的、要素を具体的に説明できる事
 - 2、マーケティング活動のPDCAを具体的に説明出来る事
 - 3、マーケティングとコミュニケーション、プロモーション、広告の相互関係、位置付けを説明出来る事
 - 4、ブランディングの目的、機能、役割を説明できる事
 - 5、マーケティング課題が提示された際、誰に（To whom）、何を（What to say）、どの様に伝えるべきか（How to communicate）が論理的に整理でき、かつ説明できる事（成績評価の指針）
- * 1、2、3、の到達を及第水準とする。
* 上記に加えてより高次な4、5の到達を加算点とする。

授業計画

- 01：マーケティングとは何か（要素と戦略、広告との関係）
- 02：製品とターゲット戦略（消費者インサイト分析と絞込み）
- 03：製品と競合戦略、動機付け
- 04：ポジショニング開発（ビジネス源泉、競合、標的、動機付）
- 05：マーケティング要素－1（製品ブランド、価格、流通戦略）
- 06：マーケティング要素－2（季節、地域、広告・販促戦略等）
- 07：マーケティングとブランディング
- 08：キャンペーンデザイン
- 09：コピー戦略と基本構成要素（誰に、何を、どの様に）
- 10：コピー戦略と追加的要素（購買誘引、USP等）
- 11：コピー・ブリーフ（基本要素とフォーマット）
- 12：メディアプランニング（目標、媒体戦略、媒体ミックス）
- 13：マス&ソーシャルメディアの活用
- 14：ソーシャルマーケティング
- 15：ダイレクトマーケティング
- 16：期末試験

※事例紹介形式で上記項目を渾然一体と組み合わせて説明

学生に対する成績評価基準

毎週提出してもらいレポート20%、課題40%、期末試験40%
欠席1回に付3点、遅刻で1点減点する

テキスト

特にありません

参考書・参考資料等

「マーケティング入門」……・実教出版
「広告の科学」………中公新書
「マーケティング戦略・コピー戦略」…・自著サブテキスト
高等学校の政治経済・公民の教科書

用具

PC（Word、Excel、Powerpoint、PDF）以外は特にありません。
PCは大学の共用PC使用でも可です。

履修希望者への要望・事前準備

このマーケティング論では全15回と言う制約からカバーする領域も主要な項目に限られますが、クリエイターとして広告代理店や制作会社への就職を検討している学生のみならず、将来起業を視野に入れている学生や環境、建築等を含め本学全ての学科生に有益な科目と言えたいと思います。マーケティングは難解な学問と敬遠する学生も多いと思いますが考え方はシンプルで、柔軟な発想力があれば十分理解できると思います。とは言え、世の中の仕組みや生活者の理解の土台の上に組み立てる実践科学なので高等学校の政治経済・公民の教科書は将来の就職準備を兼ねて是非読んでおいて欲しいです。

広告論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
嶋田 清

授業の概要およびテーマ

広告クリエイティブは大きく変化しています。

「不特定多数に向けた、最大公約数的なメッセージを、複数のメディアで、同時に大量投下するマス広告」の時代から、インターネットとデジタル技術の発達により「個に対して、それぞれのターゲット特性に応じたメッセージを、最適な機会と接点で、多様に発信する。」時代になりました。

本講義では新しい時代のコミュニケーション・デザイン＝広告の全体設計の考え方と、いつの時代も変わらないクリエイティブの表現技術の基本について学びます。

達成目標

- ・ブランドの課題を発見できるようになる。
- ・その課題のコミュニケーション的解決策（クリエイティブ・アイデア）を発見できるようになる。
- ・アイデアを発見するための基本技術を身につける。

授業計画

- 1 ローカル広告が元気～課題オリエン
- 2 最新広告のコミュニケーション・デザイン
- 3 広告の領域
- 4 商品・ブランドの作り方
- 5 企業・ブランドの作り方
- 6 20世紀の広告 1
- 7 20世紀の広告 2
- 8 広告の時代性
- 9 広告の社会性
- 10 ストラテジック・プランニング
- 11 表現技術1 ビジュアルライズ
- 12 表現技術2 コピーライティング
- 13 表現技術3 映像表現
- 14 グローバル広告～課題提出
- 15 長岡の広告～課題発表

学生に対する成績評価基準

提出課題レポート70%、
授業参加態度30%

参考書・参考資料等

『表現の技術』高崎卓馬 電通1728円
『広告コピーってこう書くんだ！相談室』谷山雅計 宣伝会議 1944円
『広告をナメたらアカンよ。』山本高史 宣伝会議 1836円

履修希望者への要望・事前準備

- ・新しい情報や話題に積極的に接する姿勢。
- ・人間や社会を日常的に観察する姿勢。

デザイン感性工学

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
境野広志

授業の概要およびテーマ

感性工学とは、人間の感覚や意思、印象及び好悪といった感情について客観的、定量的なアプローチを試みる研究領域である。デザインとは人とモノを意図した関係でつなぐ行為であり、感性工学はその理論的背景を提供し、また新たな方法を展望するための手法ともなるものである。本授業では感性工学の知見、視点によりデザインの価値、デザイナーの思考過程を論理的に把握、理解することを主要なテーマとする。

達成目標

- ・感性工学の意味、役割、理論的背景を理解する
- ・感性工学の手法の理解と演習を通じてその適用方法を理解する
- ・デザインの価値についての定量的な評価を行う
- ・デザイナーの思考過程について、モデル化することでそのスキルを客観的に理解する

授業計画

- 01 ガイダンス、感性工学の概要、歴史概観
- 02 感性とは
- 03 人間の認知諸特性 1
- 04 人間の認知諸特性 2
- 05 美しさの数理
- 06 工学的手法概観
- 07 非線形手法（ラフ集合、AHP）
- 08 多変量解析概要
- 09 多変量演習ガイダンス
- 10 主成分分析／数量化理論Ⅳ類
- 11 数量化理論Ⅲ類
- 12 重回帰分析／数量化理論Ⅰ類
- 13 数量化理論Ⅱ類／判別分析
- 14 感性／記号から見たデザインの変遷
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

レポート及びグループワークとしての解析演習で採点する。授業態度及び欠席等で減点する。4 回以上の欠席は単位を認めない。原則として欠席は 5 点、遅刻は 3 点の減点とする。また出欠に関して不正があった場合は厳正に対処する。

テキスト

直接必要な資料等はパレットなどで配付する。

参考書・参考資料等

- 『感性工学』長町三生 海文堂
- 『システム工学入門』寺野寿郎 共立出版
- 『経営のための多変量解析』本多正久/島田一明 産業能率大学
- 『デザインの工学』森典彦 朝倉書店
- 『キーポイント線形台数』薩摩順吉/四ツ谷晶二 岩波書店
- 『ラフ集合と感性』森典彦他編 海文堂
- 『左脳デザイン』森典彦編 海文堂
- 『ニューラルネットワーク情報処理』麻生秀樹 産業図書
- 『多変量解析のはなし』有島哲/石村貞夫 東京図書
- 『デザイン情報学入門』和歌山大学システム工学部デザイン情報学科日本規格協会
- 『官能評価の基礎と応用』天坂格郎/長沢伸也 日本規格協会

履修希望者への要望・事前準備

本授業では、デザインの数理的な解析を手法の軸としている。基本は中学、高校レベルの統計や確率論であり講義においても概略の説明は行いが、不安があれば復習しておいて欲しい。また、これらの手法はあくまでツールであり、講義の本質は人間の感性を考究することにあるので、関心がある学生は学科を問わず受講してほしい。卒研で論文を希望する学生、進学を希望する学生には特に受講を勧める。

サインデザイン論

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
太田 岳

授業の概要およびテーマ

基本的に前回までのCI計画論にサインデザインの授業を組込んでいきます。私たちの身の回りにはあふれているCIやロゴマークは、企業やブランドのコミュニケーションの核として重要な役割を担っています。本講義では実際の仕事の体験談や実例を紹介しながら、課題やトレーニングを通してそれらを学んでいきます。また看板サインデザインで重要な文字やビクトなどについても事例を紹介しながら学んでいきます。

（講義ですが、実技の課題や宿題も多い。PC作業必須）

達成目標

- ・社会の中におけるCIデザインやブランド、サインデザインの重要性を理解する。
- ・身の回りにおけるCIデザインを「プロのデザイナーの目」で客観的に評価、判断できるようにする事。

授業計画

- 01：ガイダンスCI事例紹介（様々な種類のCIデザイン/重要）
○課題：1（期を通しての課題/マーク収集）○レポート
 - 02：○講義（CIの歴史・プロセス/時代ごとのCIの流れ/マークの変遷）
○次の課題の参考事例紹介 [シンボルマーク]
 - 03：○課題：（デザイントレーニング/5年後10年後のシンボルマークリニューアル）
 - 04：○課題：講評 ○サインデザイン参考事例
 - 05：○課題：（デザイントレーニング/5年後10年後のワードマークリニューアル/授業内で完結→提出）
○講義 [ワードマーク/フォント/書体の特性] など
 - 06：○課題：講評 ○参考事例など
 - 07：○課題：（目指すイメージのマーク制作トレーニング [シンボルマーク] 授業内で完結→提出）
○講義（デザイン表現/先進性・信頼感・親しみなど目指すイメージに合わせた造形の作り方）
 - 08：○課題：講評 ○参考事例など
○課題：（目指すイメージのマーク制作トレーニング [ワードマーク] →宿題、翌週提出）
 - 09：○課題：講評 ○参考事例など
 - 10：○課題：（セルフブランディング/自分自身のマークを制作、名刺のデザインまで落とし込む）
 - 11：○課題：チェック ○参考事例など
 - 12：○課題：チェック ○参考事例など
 - 13：○課題：提出 /プレゼン/評価 ○課題：提出（期を通しての課題/マーク収集）
 - 14：○課題：提出 /プレゼン/評価 ○レポート（このクラスを受ける前と後の変化等）
 - 15：○学校のアンケート ○質疑応答
- ※サインデザイン論では、ビジュアルアイデンティの内容を考慮し、ビジュアルアイデンティの参考になるアプリケーションデザイン事例を紹介いたしますので、セットで履修する事が理想的です。（特に視覚の学生）
※状況により多少スケジュール・内容が変更される事があります。
※レポートは都度指示。（2～4回）

学生に対する成績評価基準

- ・提出物作品50% ・授業態度、制作姿勢50%
- ※授業態度重視。私語、居眠りなど。

出席・遅刻の基準

- ※2/3を下回る出席は単位取得不可。
- ※出欠の不正が認められた場合は、単位取得不可。

参考書・参考資料等

- 「タイポグラフィー 02/ロゴをつくろう」グラフィック社
- 「タイポグラフィー 01/フォントをつくろう」グラフィック社
- 「デザイン トレンドアーカイブvol.0 CI&ロゴマーク特集」PIE BOOKS
- 「プロのデザインルールCI&ロゴマーク編」PIE BOOKS
- 「ロゴワールド・Logo World」河出書房新社
- 「マーク・シンボル・ロゴタイプ」グラフィック社
- 「ブランディングデザイン1,2,3,4」グラフィック社
- その他必要に応じてプリント配付。

履修希望者への要望・事前準備

- ・サインデザイン論はヴィジュアルアイデンティとセットで履修する事が原則です。サインデザイン論ではデザインの考え方を学び、基礎知識やテクニックを覚え、ヴィジュアルアイデンティではそれらを応用しながらポートフォリオを完成させますので、両方履修してください。（特に視覚デザイン学科の学生）
- ・第1回目は事例（実際の仕事）をたくさん紹介しCIの全体像を把握する大変重要な授業ですので、履修希望者は必ず出席してください。その後の理解度が大きく違います。
- ・課題が多く大変ですが決してできない量ではありません。しっかり出席し課題をこなし、デザイナーとしての基礎知識を身につけてください。
- ・2つの大きな課題と多数の小さな課題やレポートがありますが、休んだ日の課題は遅れても必ず提出、また大きな課題が1つでも未提出だと単位は取得できません。
- ・このクラスは人数制限があり抽選になります。真剣にCIデザイン、サインデザインを学びたい学生のみ受講してください。

パッケージデザイン演習

3 学年 前期 選択 演習 4 単位
◎長谷川博紀、大塚 隆、大塚麻利子

授業の概要およびテーマ

近年マーケティングの現場では、基本である 4P（Product, Price, Place, Promotion）に加え 5 つ目の P として Package が注目されています。
パッケージは内容物を保護するための包装に留まらず、店頭（Point of Purchase）での販売促進活動のツールとしての重要性が増していると考えられます。そこで「売れるパッケージ」、「買いたくなるデザイン」とは何かを学ぶことに力を置きます。
また、パッケージデザインは「新たな価値」や「ライフスタイルの提案」を伝える重要な手段でもあり、その点をふまえブランディングや商品企画への展開を併せて学びます。

達成目標

魅力的な商品作りためには優れたパッケージデザインは不可欠です。そのために必要な「立案」、「調査」、「デザイン」、「プレゼンテーション」の能力を身につける事を目標とします。

授業計画

- 1 ガイダンス、第 1 課題説明
- 2 レクチャー、討議、制作と個別チェック
- 3 レクチャー、討議、制作と個別チェック
- 4 第 1 課題 中間プレゼンテーションと講評
- 5 レクチャー、討議、制作、個別チェック
- 6 レクチャー、討議、制作、個別チェック
- 7 第 1 課題 完成作品プレゼンテーションとアドバイス
- 8 レクチャー 第 2 課題説明
- 9 レクチャー、討議、制作、個別チェック
- 10 レクチャー、討議、制作、個別チェック
- 11 第 2 課題 中間プレゼンテーションと講評
- 12 レクチャー、討議、制作、個別チェック
- 13 レクチャー、討議、制作、個別チェック
- 14 第 3 課題 完成作品プレゼンテーションとアドバイス
- 15 第 3 課題展示会、講評会

※課題の進捗に応じて受講生と相談の上、日程を変更する場合があります。

学生に対する成績評価基準

2 つの演習課題（課題の出来ばえとともにプロセスとして中間プレゼンテーションやチェックを含む）で評価（50 点+50 点）

出席・遅刻の基準

欠席は 4 点、遅刻は 2 点の減点とし、かつ 2 / 3 以上の出席を単位取得の必要条件とします。（遅刻 2 回で欠席 1 回と数える）

参考書・参考資料等

『パッケージデザインの教科書』日経デザイン
『パッケージデザインを学ぶ』武蔵野美術大学出版局
『図解でわかるパッケージデザインマーケティング』小川 亮 著 日本能率協会マネジメントセンター
『売れるパッケージ 5 つの法則と 70 の事例』松浦 陽司 著 ANIVA BOOKS
『パッケージデザインの勘どころ』六耀社
『100s ビジュアルアイデア：パッケージ&ラベル』グラフィック社
『パッケージデザイン MORE』グラフィック社
『PACKAGE DESIGN』DAAB 社（洋書）
『BOXED AND LABELLED』GESTALTEN 社（洋書）
『包』岡 秀行 著 毎日新聞社

用具

デザイン作業に必要なコンピュータ（必須）、ソフトとしてイラストレーター、フォトショップ（必須）
A 4 サイズ以上のスケッチブックかコピー用紙、その他筆記具、画材（厚紙等素材を含む）

履修希望者への要望・事前準備

- 筐体のデザインも扱いますが、基本的にはロゴデザインをはじめ、ラベルのグラフィックデザインを主に扱います。
- 短時間でたくさん内容を盛り込んでいるので、履修生に求められる授業のレベルは高くなります。履修の要件として、パッケージデザインに対し強い興味を持っている、パッケージデザインへの理解を一層深めたいと考えている、パッケージデザイナーを目指している等、明確な目的意識が求められます。
- コンピュータソフトとしてイラストレータやフォトショップの基本操作が必要となります。
- 成果物として商品ダミーやモックアップを制作します。その際、厚紙加工のための cutter ワークや簡単な作図が出来るように、インターネットや書籍からテンプレートを手に入れて、それを組み立てたり、既成のパッケージを解体して構造を理解する等の予習をしておくことを薦めます。
- 基本的に毎回チェックを行いますので、製品やパッケージデザインのための「スケッチ」、「展開図」、「カンパ」等についての知識や技能を高めるように心がけてください。
- またマーケティング・リサーチから始まり、コンセプトメイク、プレゼンテーションまで、企画立案に関する書籍を読んでおくこと、授業の理解に役立ちます。
- 演習はグループによる共同作業と個人作業を組み合わせで行う予定です。本授業は指導の都合上、履修者数 50 名を目安とします。履修希望者が多数の場合は、抽選等により受講者を決定する場合があります。

デザインマネジメント

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
池永 隆

授業の概要およびテーマ

近年のデザイン活動は、単にモノづくりやその一組織という領域を超え、企業経営を支える経営資源の一部として認識されつつある。その為にデザイナーにも、問題解決手法としてのデザインと、経営を支えるマネジメントの知識が必要な時代となっている。
この授業では、これからのデザインが経営資源としての役割を果たす為に必要な基本的なマネジメントのありかたや、デザインと企業・社会とはどのような関係であるべきかについて考えていく。

達成目標

- ・マネジメントとデザインの関係性について説明することができる。
- ・経営的資源としてのデザインの役割とその使命について理解できている。
- ・組織の問題点を指摘し、マネジメント的見地から問題解決の具体的な対応策を提示できる。

授業計画

- 01 ガイダンス：マネジメントの歴史と経緯
- 02 経営資源としてのデザイン
- 03 企業とデザイン組織
- 04 ブランディング
- 05 企業とデザインについての考察
- 06 企画・提案・マーケティング
- 07 発想とデザインセンス
- 08 デザインイノベーション
- 09 評価・検証
- 10 デザインプロセスに於けるマネジメントの考察
- 11 PDCA を回す
- 12 ヒト・モノ・カネ
- 13 戦略と戦術
- 14 広告・宣伝・広報
- 15 考察・デザインマネジメントとは

学生に対する成績評価基準

各回の授業において、アンケートやレポート等を提出。
授業全体を 3 段階に分け、各課題提出内容をもとに「達成目標」に照らし合わせて総合的に評価します。
提出課題（アンケート・レポート）の未提出・授業参加態度・欠席回数は最終評価の減点対象となります。
出席率が 2 / 3 を下回る場合には、単位を与えられません。

テキスト

適宜資料を配付します

履修希望者への要望・事前準備

デザイナーにとって、創造的活動を行う際に、つねに経営的視点も必要となる。
そのため社会の動向や情報に対し、アンテナを張っておくことが重要で、新聞・雑誌・ニュースサイトなどを、常にチェックしておくことを習慣づけよう。

知的財産権論

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
本多誠一

授業の概要およびテーマ

物品（製品、商品）や情報関連のデザインを創作し、それらを市場において取引・流通させるにあたっては、他人の知的財産を侵害しないこと、自分の創作に係る知的財産を的確に保護することが重要である。本講義は、それらのために必要とされる基礎的な知識が習得できるように、意匠法、著作権法、不正競争防止法などの知的財産権制度全般を概観し考察する。

達成目標

- ・創作する者として自分が創作したデザインに関して、法律上発生する権利、取得し得る権利、及び行使し得る権利を常に意識し、これらの説明ができる。
- ・自分が創作したデザインに関する権利を意識するのと同様に、他人の創作を尊重し、その権利を侵害しないようにする意識を持ち、これらの意義を説明できる。
- ・知的財産権制度の体系を知得し、これらの概要を説明できる。
- ・デザインを創作しようとする場合、参考にした他人の著作物との関係性を意識すること、また、引用した他人の著作物を適切に明示することを常態として保有し、これを課題作成などにおいて実行できる。

授業計画

- ・毎回、ミニテスト（5 点満点）を実施します。
- ・授業終了後に、パレットシステムを介した報告書を求めます。授業概要、質問又は意見、適宜求める小レポートを500字から1000字程度にまとめて提出。
- 第1回 本講義の概要及び進め方、評価方法等に関するガイダンス
- 第2回 【知的財産権制度の概要（1）デザインとビジネス】
デザインの役割、デザイナーの役割、企業活動におけるデザインの活用領域、デザイン・プロセスにおける知的財産権
- 第3回 【知的財産権制度の概要（2）デザインと知的財産権】
知的財産の特性と保護の意義／知的財産の種類と内容
- 第4回 【特許法 技術的アイデアを守る デザイン創作と発明・考案】
特許制度の概要、デザインの技術的側面の保護
- 第5回 【意匠法 カタチを守る デザイン創作と意匠（1）】
意匠制度の概要、意匠法で守られる意匠（意匠法上の意匠）
- 第6回 【意匠法 カタチを守る デザイン創作と意匠（2）】
意匠登録の要件、意匠の新規性喪失の例外、意匠権
- 第7回 【意匠法 カタチを守る デザイン創作と意匠（3）】
部分意匠制度（全体／部分意匠）、関連意匠制度、秘密意匠制度
- 第8回 【著作権法 表現を守る デザイン創作と著作権（1）】
著作権制度の概要、著作物、著作権
- 第9回 【著作権法 表現を守る デザイン創作と著作権（2）】
著作権・著作隣接権、著作権の保護期間
- 第10回 【著作権法 表現を守る デザイン創作と著作権（3）】
著作人格権、著作権の利用制限
- 第11回 【商標法・不正競争防止法等 ブランドを守る デザイン創作と商標・不正競争（1）】
ブランド（ブランディング）と商標、商標制度の概要
- 第12回 【商標法・不正競争防止法等 ブランドを守る デザイン創作と商標・不正競争（2）】
商品形態模倣、新たなタイプの商標、不正競争、営業秘密
- 第13回 【パブリシティ権等 デザイン創作に関するその他のルールを知る】
パブリシティ権、肖像権、製造物責任法、景品表示法
- 第14回 【模倣品対策・契約等 クライアントと契約する】
模倣品対策、契約における留意点、コンペにおける留意点、下請法
- 第15回 【知的財産権制度の概要（3）デザイン創作と知的財産の今後】
オープンデザイン、クリエイティブ・コモンズ

学生に対する成績評価基準

- ・2/3 以上の出席を満たす受講者に対してのみ単位付与可否検討対象とする。
- ・成績は、報告書・課題等（ミニテストを含む。）の提出自体及び内容評価70%、授業姿勢30%とし、総合評価する。遅刻は、3 回で 1 回の欠席扱い。

テキスト

- ・講義概要をPDF化資料として、パレットシステムを通じて受講者に学内限りの利用を前提に開示します。授業前にハードコピー乃至各自のPCに格納し、内容に目を通したのちに受講に臨むこと。

履修希望者への要望・事前準備

- ・パレットシステム（ワープロを含む）の操作習熟を要す。

機構学

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
磯部浩巳

授業の概要およびテーマ

機構学は主に機械系の大学や工業高校などで履修する科目であるが、デザインを学ぶ皆さんもその基本を理解し、将来に役立ててもらいたい。本講義では機構の基本事項を概説すると共に、身近な機構を例にとり、機構の組み合わせ、運動、働き等について講義する。

達成目標

機械各部の運動を幾何学的、力学的に解析する能力を養い、機械の基本設計に必要な素地をつくる。そのため、各種の機構を例に挙げ、各部の形状や組み合わせによって運動状態がどのようになるかを調べ、さらに希望する運動は、どのような機械要素をどのように組み合わせれば得られるかを理解させる。

授業計画

- 1) 機械と機構（2 回）
- 2) リンク機構の種類と運動（2 回）
- 3) リンク機構の運動解析（2 回）
- 4) カム機構（2 回）
- 5) 摩擦伝動装置（2 回）
- 6) 巻掛け伝動装置（2 回）
- 7) 歯車機構（3 回）

学生に対する成績評価基準

講義毎に提出する理解度報告書で40%、達成目標の理解度調査試験で60%の評価を行う。

参考書・参考資料等

「絵ときでわかる機構学」住野 和男、林 俊一 著、オーム社

履修希望者への要望・事前準備

【物体の移動速度】を移動距離と時間から、【円弧長さ】や【円の面積】を半径と円周率から求められることを前提として履修すること。

建築・環境デザイン概論

1 学年 後期 必修 講義 2 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

環境デザインとは人間と環境相互の多様な関係に深く係る事象において、その両者の関係をよりよいものとするべく計画し設計するための学問である。従来の細分化されて成立してきた様々なデザイン方法論を再度総合化し、環境デザインの方法論を確立することが究極の目標となるが、本授業では環境デザインを構成している建築デザイン、インテリアデザイン、文化財建造物保存、ランドスケープデザイン、都市計画まちづくりの各領域からの環境デザインへのアプローチを概説することにより、これから専門領域に進む学生に建築・環境デザインの全体像を理解してもらうことをテーマとしている。

達成目標

これから深く学んでいく建築・環境デザインの領域の大筋を理解すること。

授業計画

本講義は、学科全教員12人によるオムニバスで講義である。プログラムは以下のとおり。

（講義の順番は、変更する場合あり）

- 01 建築・環境デザインとは（山下）
- 02 住宅リフォーム概論（川口）
- 03 展示空間概論（森）
- 04 歴史・文化的環境の保存再生概論（津村）
- 05 建築史概論（平山）
- 06 建築構造・技術概論（江尻）
- 07 現代建築設計概論（山下）
- 08 エコロジカル・ランドスケープ概論（小川総一郎）
- 09 景観設計概論（小川総一郎）
- 10 まちづくり概論（渡辺）
- 11 コミュニティデザイン概論（福本）
- 12 都市防災概論（福本）
- 13 西洋建築意匠概論（白鳥）
- 14 環境思想概論（菅原）
- 15 長岡都市里山空間概論（小川峰夫）

学生に対する成績評価基準

毎回の講義について自分の考えをまとめたレポート（400字以上を、毎回、次の週の講義にて提出）により評価する。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

特になし。

履修希望者への要望・事前準備

建築・環境デザイン学科の各分野の概説であるため、各講師がそれぞれの領域で伝えようとしているニュアンスを感じ取ることが重要である。いずれ選択しなくてはならない専門領域が環境デザインにどのようにアプローチしているかを横断的に知ることの出来る講義なので、欠席しないように。

都市論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位

渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

古代から現代まで共通する都市化のメカニズムの原理を解説し、その上で人口減少期を迎えている日本の都市の都市文化の特徴を明らかにする。こうした理論を理解した上で、都市の活性化には地域プライドが重要であるとの見地から、新潟県および長岡市の都市としてのプライドづくりのきっかけとなりうるコンセプトを解説し、地域活性化策を考察する。

達成目標

人口減少社会の地方部において今後の都市住民として主体的に関わる思いを持てるように、地域に意識が向かうことができる。都市空間のデザインの見方を修得することができる。

授業計画

- 01 人口論
人口の停滞期、減少期に起こる共通の現象が何かを考える。
- 02 祈りと都市の形態
歴史的に都市の形態を追うことで、その時代の祈りの対象が何にあるかを考察する。
- 03 言語論と文化論から考える都市形態
文化圏によって、言語構造が異なる。このことによって、都市構造はどのような変化があるのかを考察する。
- 04 風水と都市形態
中国の長安（西安）などに見られる都市デザイン・風水思想は、韓国のソウルや日本の京都にも見られる。この考え方について考察する。
- 05 鎖国と都市
日本は江戸時代に鎖国することで、エコロジカルな都市群を形成させたと考えられる。鎖国が日本の都市形成に与えた影響を考察する。
- 06 全共闘世代とジェイコブスの都市論
全共闘世代の都市計画を学んだ学生達は、ジェイコブスの都市論に心酔したといわれる。現在の参加のまちづくり、保存のまちづくりの源流に繋がる考え方を学ぶ。
- 07 地方分権と上杉謙信
中世の新潟（越後）を治めた上杉謙信の人生を概括し、地方分権について歴史的に考察する。
- 08 長岡花火の歴史
- 09 震災復興とまちづくりの心
後藤新平の台湾、そして震災復興のまちづくりを概括し、日本の近代都市計画の礎には何があるのかを考察する。
- 10 商店街と都市論
現在の中心市街地は商店街としての活力を失っている。その活性化方法を事例を見ながら考察する。
- 11 地域通貨と都市のあり方
現代の社会問題は行き過ぎた資本主義に原因を見出すことが多い。その資本主義に対抗するものとして、老いる貨幣として生まれた地域通貨の背景を学ぶ。
- 12 河井継之助と長岡
明治維新時の長岡人・河井継之助が生きていたら、長岡は日本のスィスになったのか？河井の人生を概括し、考察する。
- 13 山本五十六と長岡
長岡出身の山本五十六は、日米戦争を命を賭して反対していたのに、なぜパールハーバー奇襲攻撃を遂行しなければならなかったのか。長岡精神を考察する。
- 14 新潟県のまちづくり事例（村上）
新潟県には、全国的に注目されるまちづくり活動が多くある。それらの活動を見て、自分の地域について考察する。
- 15 途上国の都市計画、地球温暖化、フィルムコミッションを考える
長岡を舞台にした昭和44年映画「青春の鐘」を鑑賞し、今後の地方都市長岡でのフィルムコミッションのあり方について考える。

学生に対する成績評価基準

毎講義でのレポートで評価する

テキスト

授業時に配付する

履修希望者への要望・事前準備

大都市についてはほとんど扱いません。地方分権に興味があり、新潟や長岡など地方の振興に興味のある人が受講してください。

インテリア

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎森 望、川口とし子

授業の概要およびテーマ

インテリア・ディスプレイデザインに関する講義。現代的インテリア空間やディスプレイデザインをどのように構築するかに焦点を当て、20世紀に世界中で繁栄した現代建築から21世紀の新時代に対して開かれるであろうインテリア・ディスプレイデザインについて考える。またインテリア空間と建築との関係性を学び、ディスプレイデザインの各分野に共通する基礎的な知識を習得し、さまざまな分野における作品を紹介する。

達成目標

住空間、商業空間、公共空間、街空間などをヒューマンスケールから考え、インテリア空間として把握できる。また現代社会におけるインテリア空間についての基礎知識を修得し、様々なインテリア空間の形成手法と、空間を構成する要素を記述することができる。

授業計画

1. 建築とインテリア概論
2. ディスプレイとは？
3. 建築の歴史とインテリア
4. ディスプレイデザインの目的・機能・装飾
5. 伝統素材のインテリア
6. 領域別（1）ショーウィンドウ
7. 地球環境とインテリア
8. 領域別（2）ショップ・ストアー
9. 水回りのインテリア
10. 領域別（3）エキジビション
11. 安心・安全とインテリア
12. 領域別（4）ミュージアム
13. 建築とインテリアー人と空間の関係性
14. 領域別（5）アミューズメント
15. 理解度確認テスト、解説。まとめ

学生に対する成績評価基準

川口と森の授業を交互に開講し、最終日に理解度確認テストを行う。評価は川口担当分のレポート20%、森担当分の授業中の小課題20%、理解度確認テスト60%。なお、欠席は減点する。

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

参考書・参考資料等

『インテリアデザイン教科書』彰国社、『マテリアル・デザイン2009-10年度版』彰国社、他

履修希望者への要望・事前準備

授業への積極的な参加を前提に、建築、室内、家具などを総合的に捉える視点を持つこと。

空間安全論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎福本 壘、稲垣文彦

授業の概要およびテーマ

日本には豊かな自然がある一方で、様々な自然現象が起これ、人々が生活を営む空間に応じて災害が発生します。また、ミサイル、テロ、事故、感染症といった脅威にも晒されています。近年に起きた災害を事例に、空間や状況に応じて、「誰にとって何が危険なのか」、「どのような被害を受けるのか」、「その対策や教訓は何か」の各要素を学び、「安全」の基本的な考え方を身に着けます。さらに、私たちの生活に「安全」をどのように取り入れることができるのか具体的な実践に結びつける提案を行えることを目標にします。

達成目標

- ・日本ではこれまでに起きた災害の概要を理解し、その教訓を習得していること
- ・安全なまちづくりに関する様々な取り組みとその重要性を理解していること
- ・身の回りの危険について空間や状況に応じた具体的なイメージができること
- ・これまで自身が関わった空間の自然災害リスクを調べ、他者に説明できること
- ・空間や状況に応じて、自身の生活に安全を取り入れるための具体的な提案を行えること

授業計画

- 第1回 「安全」とは何か？について学ぶ：授業の取り組みのイメージを確認
- 第2回 能動的な協働と内発的な自助・共助の重要性
- 第3回 災害発生時のしくみと被害、教訓を学ぶ①：地震・津波
- 第4回 災害発生時のしくみと被害、教訓を学ぶ②：火災・噴火・風水害・土砂災害
- 第5回 災害発生時のしくみと被害、教訓を学ぶ③：ミサイル・テロ・事故・感染症
- 第6回 災害と空間情報
- 第7回 コミュニティ・プロセス・デザイン～災害復興から地域おこしへ～
- 第8回 地域防災計画と復旧・復興計画の概要
- 第9回 安全なまちづくりに関する様々な取り組み
- 第10回 地域の防災・防犯訓練と自分に必要な防災・防犯訓練
- 第11回 安全なまちづくりの取り組み①：空間に対する理解を促す「Open Street Map」、「防災・防犯マップづくり」、「図上訓練」、「逃げ地図」、「HUG」
- 第12回 安全なまちづくりの取り組み②：現地の救援活動を支援する「DroneBird」、「Crisis Mapping」
- 第13回 安全なまちづくりの取り組み③：人々をつなぐ防災を主題にしたツールとワークショップ「クロスロード」、「防災トランプ」、「シャッフル」
- 第14回 課題演習準備：自身の生活、関わりのある空間に基づく災害リスクを認識する
- 第15回 課題演習：空間や状況を踏まえた「安全」を生活に取り入れるための提案

学生に対する成績評価基準

学習内容を定着させる簡単な課題：30%
積極的な姿勢：20%
課題演習に対する提案：50%

テキスト

特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。
授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意したWEBサービスを利用します。

参考書・参考資料等

- 【参考書】
- （1）片田敏孝（2012）『人が死なない防災』集英社。
 - （2）鎌田浩毅（2015）『せまりくる「天災」とどう向き合うか』ミネルヴァ書房。
 - （3）室崎益輝ほか（2016）『災害対応ハンドブック』法律文化社。
- 【参考資料】
- （4）神奈川わかものシンクタンク（2016）『自宅で防災訓練をしたことがありますか？－自分に必要な防災訓練を考える－』
<https://futakoburakuda.org/b-texts/> よりダウンロード可能。
 - （5）内閣府（2016）『復旧・復興ハンドブック』。

用具

特になし

履修希望者への要望・事前準備

本講義は「空間や状況に応じて災害から身を守る方法と考え方」を学び、それを「みなさんの生活に取り入れるための具体的な提案」に着地させることを目標にします。履修後の成果は、みなさんのポートフォリオの1ページを飾り、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。

文化財学概論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位

©津村泰範、大楽和正、武内正和、中山俊介、西田泰民、前嶋 敏

授業の概要およびテーマ

我が国の文化財に関する幅広い知識を養い、その取り扱い方の基礎を学ぶものとし、文化財全般の基礎知識／文化財保護のあゆみと世界文化遺産／建造物の調査研究と保存・活用／集落・町並みに関する調査研究と保存・まちづくり／古文書の見方／埋蔵文化財の調査研究と遺跡の保存整備／文化財の保存科学／民俗文化財の見方と扱い方／美術工芸品（原始～近世）をテーマとします。

達成目標

文化財全般の基礎知識を習得して歴史的遺産の価値と魅力を理解することができるように、その個々について、文章などによって概略を示すことができる。

授業計画

- ガイダンス
文化財全般の基礎知識／課題説明
- 文化財保護のあゆみ／世界文化遺産と日本
文化財保護法／文化財行政／世界文化遺産の登録
- 我が国の文化財保護の取り組み（建造物）
調査と指定／修理と技術／整備と活用
- 古文書の見方、扱い方
古文書の定義／古文書の管理／古文書の扱い／紙と古文書
- 文化財の保存科学
文化財保存の調査／保存処置
- 埋蔵文化財の調査研究
遺跡・遺物・遺構／年代の研究／発掘
- 遺跡の調査研究と保存整備
遺跡の調査と遺構の展示／遺跡整備の事例
- 民俗文化財の見方・扱い方
生活用具、農具などの文化財としての特徴と研究
- 美術工芸品 1
原始・古代の工芸品の文化財としての特徴と研究
- 美術工芸品 2
中世・近世の工芸品の関する文化財としての特徴と研究
- 課題の中間発表
対象物件の登録、選択理由、進捗状況
- 文化財建造物の見方と基礎知識
種別の分類／構え・構造・意匠／時代・流派・地方性
- 建造物の調査研究
古代、中世、近世の社寺／民家／近代建築・近代化遺産
- 建造物の保存と活用
指定と登録／活用の用途と使い方／活用のための改修と設備
- 課題の発表と意見交換、講評

学生に対する成績評価基準

授業に臨む姿勢30%、課題の提出と発表70%。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とします。課題は自らが文化財指定候補物件を調査して調査書を作成。評価は中間発表を経て、最終回の提出・発表をもっておこないます。

テキスト

授業内容に応じて適宜作成して配付します。

参考書・参考資料等

『わかりやすい文化財保護制度の解説』 ぎょうせい 2,300円
『歴史的遺産の保存・活用とまちづくり』 学芸出版 3,500円
『入門者のための考古学教室・改訂版』 同成社 1,900円
文化庁提供の国宝・重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区、登録有形文化財などに関する資料 <http://www.bunka.go.jp/bunkazai/index.html>

用具

特に必要としませんが、04「古文書の見方、扱い方」では、ハサミが必要です。

履修希望者への要望・事前準備

身近にある建物、遺跡、古い生活用具、伝統的な工芸品などに目を向け、それぞれの価値や魅力を見出す力を養ってください。

緑地環境計画

2 学年 前期 選択 講義 2 単位

小川総一郎

授業の概要およびテーマ

地域環境を理解して地域景観を創出するために、基礎造形実習で習得した技術に磨きをかけ、植物を含む環境を総合的に計画できる基礎知識を習得することを目的とします

達成目標

植生の基礎知識を習得すること。
景観構成要素を再構築して、コンセプトに適合する将来像を表現し伝えられること。
人の目の高さからの正確なスケッチが描けること

授業計画

- エコロジカル・ランドスケープの世界
- スケール感覚・立体感覚を鍛えよう
- 場とシーケンス
- サムネイルスケッチとコメント
- キャンパスツアー
- キャンパスツアー回答
- 情景感覚を鍛えよう
- ものの見え方の仕組みを理解しよう
- 植物群落と造園植栽
- スケッチシートと断面パース
- 小さな庭
- 植栽計画：即日設計
- 小さな庭プレゼン
- 屋外実習（雪国植物園）
- 屋外実習（雪国植物園）

学生に対する成績評価基準

課題:小さな庭60%
小課題とレポート40%

テキスト

エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎
理工図書 4,200円（税別）

参考書・参考資料等

すぐ描ける！ガーデンデザインのテクニック 高崎康隆、本田奈緒子 彰国社 2,500円（税別）

用具

スケッチブックなど、ガイダンス時に説明します。

履修希望者への要望・事前準備

後期の「緑地環境設計」、第3学年前期「エコロジカル・プランニング」を受講する学生は、本講座を必ず受講してください。

都市デザイン

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
白鳥洋子

授業の概要およびテーマ

自然発生的都市と計画的都市のいずれにおいても、建築と人間の営みが堆積し、都市は変容し続ける。本講義では、各都市の変遷や成熟における原則を考察し、それらを踏まえた建築と都市との関係性と都市の意匠的手法や都市空間について認識を深める。各時代や都市の記念碑的な建築と人々の住居の建築との関係性や、都市的な集住の方法への理解を経て、都市の持つ固有性を解き明かす。また、時代の進展とともに生成される様々な建築と都市全体を律する設計方法論について論考を行う。主なテーマは「都市の成立：都市の構成要素」、「住宅と都市：集住の形式と地域の固有性」、「都市建築：都市建築の概念と都市の象徴性」とする。

達成目標

以下の3項目を理解し、考察することを目標とする。

- 1 都市デザインの理解：都市は固有の原則により記念碑的な建築と集住の建築を醸成し、そこにはその都市の固有の人々の生活と都市空間が成立していること。
- 2 都市が各時代と共に文化を築き、持続するシステムを完成させ、それが都市であること。
- 3 都市や建築の組織化の過程を歴史的に考察することにより、自らの建築や都市の設計の手法を考える契機とすること。

授業計画

1. 都市デザインにおける歴史的系譜による概観、その1
2. 都市デザインにおける歴史的系譜による概観、その2
3. 都市デザインにおける歴史的系譜による概観、その3
4. 空間の捉え方について
5. 都市の捉え方について
6. ヨーロッパと都市文化の源流として：（1）集住以前の住宅の原型について
7. （2）集住への変遷における組織化や法則について
8. （3）建築の高度化過程における組織化や方法とその限界について
9. アジア文化の源流として：（1）集住以前の住宅の原型について
10. （2）建築の住宅を集合させるための組織化の法則について
11. （3）高度化過程における組織化の方法とその限界について
12. 都市景観の形成と建築の建設
13. 近代都市デザインの源流とその応用
14. 現代建築と都市デザイン
15. 近年の動向

学生に対する成績評価基準

復習レポート30%、最終レポート70%。

テキスト

『都市史図集』、都市史図集編集委員会編、彰国社、1999。『西洋建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、3訂第2版、1981。『近代建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、新訂版、1976。

参考書・参考資料等

『日本建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、新訂第3版、2011。『西洋の都市』、ヴォルフガング・ブラウンフェルス、日高健一郎訳、丸善、1986。その他は、適宜、講義中に提示する。

用具

適宜。

履修希望者への要望・事前準備

建築に携わる人には、都市的な視点を持っていることが必要です。建築は都市の一部を形成し、都市は建築の集積により成立し、建築を設計することは都市の景観や営みの一部をデザインしているのです。建築は社会的責任を伴い、芸術、科学、人文学などの様々な領域を包含する総合芸術であるとも、人類の叡智の結晶とも言えるのです。建築の創造には、基礎となる知識の豊かさ、発想の基礎となる感性や洞察力が必要であり、さらには大きなエネルギーが必要です。この講義を通じて、都市と建築が高め合う関係と両者の同時性について認識を深めてほしいと思います。

居住論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
山下秀之

授業の概要およびテーマ

リビングデザインに深く関わる内容から、グローバルデザインの内容までを看破する。世界の居住は、つい数年前と比べても格段の違いがある。例えば、情報化社会において、家族や家庭のあり方も劇的に変わりつつある。本講では、皆さんに何が重要で、何が重要でないのかを示唆しながら、居住に関する様々な事象を、＜コントロールvs非コントロール＞という2項対立で解説し、2項間のどこにバランス地点があるのかを考えてもらう。居住論はデザイン論でもあるので、皆さんの演習におけるコンセプトやデザイン手法を補強するものである。

達成目標

近未来の社会を見すえ、そこでの自身の居住を思い描き、自身のデザイン活動に生かせるようになること。毎回のコメントバックに自論を展開できる能力を身につけること。

授業計画

- 01__Simple Life? (居住論は自分の部屋から考える：あなたはシンプルライフ系?)
- 02__Shibuya Chaos (美は乱調にあり)
- 03__Sジョブズ (この人のシンプルデザインに対する執念、その魅力あふれる生き様、居住論的見方)
- 04__番外編1 (コメントバック大会：シンプルとカオスは補完関係にある)
- 05__Metropolis 1 (20世紀最大の都市－NYマンハッタン)
- 06__Metropolis 2 (支配と戦争と都市：独裁か民主か、コントロールか非コントロールか)
- 07__Cold Region 1 (妖精が出てきそうな地域：湖水地方、アイルランド、スコットランド、アイスランド)
- 08__Cold Region 2 (持続的であること、ディープエコロジーへのまなざし：富良野、そして北欧4国)
- 09__Feed Me Better (スローフード発祥地イタリア、最悪の食文化イギリス)
- 10__番外編2 (コメントバック大会：輝く北欧～すべてが良いというわけではないが、やはり持続して行く国)
- 11__The Japanese 1 (私たちは、良くも悪くも日本人)
- 12__The Japanese 2 (さあ～どうだろう、くらいじゃない)
- 13__The Japanese 3 (答えは外ではなく、私たちの中にある)
- 14__Network Society 1 (生のコントロール：精子バンク、家族あるいは母と子)
- 15__Network Society 2 (ネット+エコ／－ 私たちの基準における「家族」)

学生に対する成績評価基準

期末レポート100% (ただし、出席回数12回以上が条件で、欠席日数に準じて減点あり)

出席・遅刻の基準

授業開始5分以内を出席、それ以降を欠席と扱う。出欠に関して1回でも不正が明らかになった場合は、履修を不合格とする。

テキスト

オリジナルのプリントを毎回配付

参考書・参考資料等

特になし

用具

特になし

履修希望者への要望・事前準備

普段生活している背景にある良いこと悪いことを掘り下げ、毎回のコメントバックに、自分の考えをさらに発展させ、実践できるようになることを望む。

建築史

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
◎平山育男、津村泰範

授業の概要およびテーマ

原始、古代から近代、現代を通し、主に日本の建築を歴史的に理解します。そして人々が時代ごと、どのように建築と向き合っているかを造って来たのかを知り、考えて行くとともに、現代はどのような課題に直面しているのかを考える材料を提供したいと考えています。

授業では、『建築を造る』ということを中心として講義を進めて行きます。個別の題材では「歴史的建造物」として、寺院、神社、住宅について、古代から近代について代表的な建築物を中心に考察・説明を加えます。

集落・町並みとしては、古代の平安京、平城京から、江戸の街、各地の歴史的な集落や町並みを扱います。

また、近代の建築では諸外国の関わりと日本における建造のあり方について論じ、考えて行きます。

達成目標

建築の歴史を基礎知識として身につけるとともに、ひとつの建築を前にして、その魅力を自分なりに感じとり、それらを正しく第三者に伝えることができるようになる。それが自分自身にとっての成長ともなり、建築を造るに際しての材料ともなります。

授業計画

平山

- 01 原始：建築の初源とは
- 02 古代1：古代的な建築はどのように成立し、その特色とは何か
- 03 古代2：仏教建築はどのように導入して発展したのか
- 04 古代3：神社建築、寝殿造はどのように成立・発展したのか
- 05 中世1：「大仏様」とはどのような建築様式か
- 06 中世2：「禅宗様」とはどのような建築様式か
- 07 中世3：密教本堂とはどのような建築か
- 08 近世1：方丈とはどのような建築か
- 09 近世2：「権現造」はどのように成立・発展したのか
- 10 近世3：「書院造」が持つ造形の特徴とは何か
- 11 近世4：民家とはどのような建築か

津村

- 12 近代1：洋風建築はどのように導入されたか
- 13 近代2：近代建築はどのように展開したのか
- 14 近代3：近代建築の課題

平山・津村

- 15 課題の発表 建築はどのように創られてきたのか？

学生に対する成績評価基準

講義への取り組み姿勢20%、小課題30%、課題（報告）30%、成果発表20%。なお、小課題は毎回の授業終わりに実施して、次の授業で返却をします。

テキスト

『日本建築史図集』 新訂版 彰国社 2500円

参考書・参考資料等

『日本近代建築史図集』 彰国社 2500円

履修希望者への要望・事前準備

建築史は、これまで人々がどのような思いを込めて、建物を築いてきたのかを考える学問の分野です。人がどのようにして建築、ものを創り出したのかをじっくり考えて下さい。

建築・環境デザイン特別講義

2 学年 後期 必修 講義 1 単位
◎平山育男、アラン パーデン、石川幹子、伊藤拓次郎、木村 勉

授業の概要およびテーマ

広く環境デザインに関わる非常勤講師による講義系授業である。各分野でエキセントリックに活躍している専門家を講師として迎え、環境デザインの領域を拡張していく方法を探っていく。すべての講師は世界を股にかけて仕事をしている。国境を越え、分野横断の内容も多く盛り込まれているので、履修者の「気づき」が試される場となるであろう。講師とのディスカッションの時間も設けてあり、講師から見たNID生の評価も決まることから、それぞれの分野の予習をすることにより、的確な問題意識を持つておくことが重要である。

達成目標

環境デザインの諸分野において活躍している講師に講義していただく。講師について事前調査をし、仕事の内容を把握できること。また、事後レポートが講義内容のメモや感想文ではなく、自分の考え・意見が述べられている等、体裁をなしたレポートを書くことができる。

授業計画

■0：講義のガイダンス・レポートの書き方など（学科長）

■1：環境デザイン（石川）

環境デザインは、人の営みと自然をつなぐデザインです。公園緑地、広場、水辺などの身近な空間から、東日本大震災の復興まで、そのパースペクティブについて、作品を通して紹介します。

■2：構造デザイン（パーデン）

構造デザインの定義はいろいろあるが、中心にあるのは与えられた用途条件と物理的条件の中でより経済的に、より能率的に、より美しく構造システムを発想し、それを実現できるための情報を作成することであろう。エンジニアの感性・経験・思想から生まれる構造デザインについて自分の経験を取り入れながら話します。

■3：歴史ある建築を活かし未来に手渡す（木村）

歴史や時代を語る建築への関心が高まってきた。世界遺産もブームになって久しい。それらを先人の遺産として未来へ引き継いでいこうとするとき、私たちには何ができるだろう。複雑で急激な変化をもたらす現代社会では、建築をより深く理解し、なぜ・どうすべきかの模索が必要だ。いまを生きる私たちにその判断が託されている。

■4：国際協力における社会開発のデザイン（伊藤）

グローバル化時代に於いては日本人のアイデンティティを別の視点から見ることにも必要です。パラグアイの地域おこしのエコツーリズムプロジェクト、ミャンマーの教育プロジェクト、ドミニカ共和国でのフォークメディアを用いた住民参加型保健啓発活動などの事例を紹介しながら、参加者と一緒に考えます。

学生に対する成績評価基準

講義前に作成する「事前レポート」（講師についての調査）と、講義後に作成する「受講レポート」（講義の内容について自分の考え）により評価する。

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

特になし。

用具

特になし。

履修希望者への要望・事前準備

各講師についての予習と、Q&Aセッションやディスカッション時に、手を挙げて発言すること。

博物館概論

3 学年 前期 必修／選択 講義 2 単位
津村泰範

授業の概要およびテーマ

博物館と博物館学の基本を理解するとともに、よりよい博物館のあり方を考えます。博物館の多様な姿への理解を求め、現代の博物館のあるべき姿を探ります。

達成目標

博物館の役割を知り、博物館の定義、歴史、現状を学び、それらの概略を博物館や博物館学に関する基礎知識として語ることができるようになる。

授業計画

- 01 ガイダンス：博物館概論を学ぶにあたって
- 02 博物館学とは何か 1：目的・方法・しくみ
- 03 博物館学とは何か 2：博物館学のあゆみ
- 04 博物館の定義 1：博物館と法令
- 05 博物館の定義 2：博物館の種類
- 06 博物館の歴史 1：世界の博物館の発達史
- 07 博物館の歴史 2：日本の博物館の発達史
- 08 博物館の現状 1：日本の博物館の現状
- 09 博物館の現状 2：地域と博物館
- 10 小課題の発表と意見交換
- 11 博物館の現状 3：一次資料と二次資料／4：展示とは何か
- 12 博物館の現状 5：バリアフリーと博物館／6：災害と博物館
- 13 小課題の発表と意見交換
- 14 博物館の現状 7：学芸員の役割と使命
- 15 理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

授業に臨む姿勢 20%、小課題 30%、理解度の確認 50%、とします。ただし前提として、評価の対象となる出席率は 2/3 以上とします。順番で行う発表も履修者は必ず 1 人 1 回はしてください。

テキスト

テキストは、授業の内容に応じて資料を適宜配付します。

参考書・参考資料等

参考書はテーマに応じて随時紹介します。

用具

特に必要ありません。

履修希望者への要望・事前準備

博物館は単なる“施設”ではありません。学芸員をはじめとする、そこで働く人々の姿を考えるとともに、社会が求める博物館とはどのようなものなのかをイメージしながら学んでください。日常生活の中で得られる博物館に関する知識・情報の修得に努めてください。

スノープラン

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
齋藤和彦、長谷川克義、ヨールグ ビューラ、平山育男、山下秀之、上村靖司、本吉弘岐

授業の概要およびテーマ

長岡は豪雪地帯であり、積雪期はあらゆる面で雪への配慮が必要となります。この科目では、雪の基礎的な性状からはじまり、雪国の暮らし、建築やまちづくりへの配慮、雪国独特のランドスケープ、そして雪国ならではの地域活動などについて、その現状と今後のデザインのあり方などについて学びます。

達成目標

長岡にある大学としてその特長を生かし、雪の基本的性状や中越地方における雪の特徴を理解するとともに、今後の雪との共存について、各自の立場でその方法論を考察する。

授業計画

1. 雪の基礎（1）
2. 雪の基礎（2）
3. 雪の基礎（3）
4. 雪の基礎（雪氷防災研究センター見学 1）
5. 雪の基礎（雪氷防災研究センター見学 2）
6. 雪と建築デザイン
7. 雪と歴史的建造物
8. 雪とプロダクトデザイン
9. 雪と美術・工芸
10. 雪と視覚デザイン
11. 雪国の暮らしと課題（1）
12. 雪国の暮らしと課題（2）
13. 雪国の暮らしと課題（3）
14. 雪国の暮らし（降雪期の中山間地見学 1）
15. 雪国の暮らし（降雪期の中山間地見学 2）

学生に対する成績評価基準

課題およびレポート（70%）、出席した上での教員への質問や討議（30%）により評価する。

テキスト

必要に応じて適宜プリントを配付する。

履修希望者への要望・事前準備

雪について興味を持つことが第一です。せっかく長岡で生活しているのですから、降雪期になったら実際に雪を良く見て触って、雪の風景や街の中の除雪の様子など、雪に関するあらゆることを興味深く観察して下さい。そしてこれらのことに関して疑問を持ったら、必ず書き留めて各教員に質問して下さい。

地域協創演習A

2・3・4学年 通年 選択 演習 2単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。
テーマは年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従う。

達成目標

演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。
また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を習得する。

授業計画

授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当指導教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。

学生に対する成績評価基準

地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当指導教員がプログラムごとに行う。

出席・遅刻の基準

プログラムの内容により基準が異なる為、担当指導教員の説明を必ず聞くこと

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。

地域協創演習B

2・3・4学年 通年 選択 演習 2単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。
テーマは年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従う。

達成目標

演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。
また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を習得する。

授業計画

授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当指導教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。

学生に対する成績評価基準

地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当指導教員がプログラムごとに行う。

出席・遅刻の基準

プログラムの内容により基準が異なる為、担当指導教員の説明を必ず聞くこと

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。

地域協創演習C

3・4学年 通年 選択 演習 2単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。
テーマは年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従う。

達成目標

演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。
また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を取得する。

授業計画

授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当指導教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。

学生に対する成績評価基準

地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当指導教員がプログラムごとに行う。

出席・遅刻の基準

プログラムの内容により基準が異なる為、担当指導教員の説明を必ず聞くこと

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。

地域協創演習D

3・4学年 通年 選択 演習 2単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。
テーマは年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従う。

達成目標

演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。
また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を取得する。

授業計画

授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当指導教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。

学生に対する成績評価基準

地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当指導教員がプログラムごとに行う。

出席・遅刻の基準

プログラムの内容により基準が異なる為、担当指導教員の説明を必ず聞くこと

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。

インターンシップA

2・3・4学年 通年 選択 実習 1単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

企業、自治体、NGO、NPOなどが提供するインターンシップや実習のプログラムに参加し、デザイン業務をはじめとした就業経験をする。受け入れ先に関しては大学からパレットなどを通じて定期的にリストを提示する。また、学生が独自に受け入れ先を探してくることも可能だが、インターンシップが授業として受け入れられるためには下記の基準を満たす必要がある。

「認可基準」

- ・期間3日以上（22.5時間以上、1単位）
- ・実際の就業体験やデザインワークなどの体験を主とするもので、会社説明・業界説明を主とするものではないこと。

なお、この基準はあくまで単位認定のためのものであり、単位認定を受けないインターンシップや実習への参加を拘束するものではない。

達成目標

- ・実務における知識や技術を習得すること。
- ・実社会において労働することの具体的なイメージを掴み、仕事観を醸成すること。

授業計画

参加の1週間前までに「履修申請シート」を事務局に提出すること。学生が独自に探してきた受け入れ先に関しては大学としての単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。インターンシップ最終日には主催の担当者から「インターンシップ・ボランティア実施証明書」の必要か所に記入と捺印を受ける。終了後1か月以内に「インターンシップ・ボランティア実施証明書」と「実際に行ったスケジュール・実務内容が具体的にわかる資料」、「実施内容の報告書」を事務局に提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。

学生に対する成績評価基準

担当教員が受け入れ先によって記録された評価と、学生が提出した実習報告書、成果物を元に総合的に評価する。

履修希望者への要望・事前準備

インターンシッププログラムによっては、ポートフォリオや書類による事前審査が必要とされるものもある。希望のプログラムに参加するためには、何より日々の授業における研鑽が必要である。

インターンシップB

2・3・4学年 通年 選択 実習 1単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

企業、自治体、NPO、NGOなどが提供するインターンシッププログラムに参加し、デザインの実践をはじめとした就業経験をする。受け入れ先に関しては大学からパレットなどを通じて定期的にリストを提示する。また、学生が独自に受け入れ先を探してくることも可能であるが、インターンシップが授業として認められるためには下記の基準を満たす必要がある。

「認可基準」

- ・期間3日以上（22.5時間、1単位）
- ・実際の就業体験やデザインワークの体験などを主とするもので、会社説明・業界説明を主とするものではないこと。

なお、この基準はあくまで授業として単位認定を受けるためのものであり、単位認定を受けないインターンシップ、企業実習などへの参加を拘束するものではない。

達成目標

- ・実務における知識や技術を習得すること。
- ・実社会において労働することの具体的なイメージを掴み、仕事観を醸成すること。

授業計画

参加の1週間前までに「履修申請シート」を事務局に提出すること。学生が独自に探してきた受け入れ先に関しては大学の単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。インターンシップ最終日には主催の担当者から「インターンシップ・ボランティア実施証明書」の必要か所に記入と捺印を受ける。終了後1ヶ月以内に「インターンシップ・ボランティア実施証明書」と「実際に行ったスケジュール・実施内容が具体的に分かる資料」、「実施内容の報告書」を事務局に提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。

学生に対する成績評価基準

担当教員が受け入れ先によって記録された評価と、学生が提出した実習報告書、成果物を元に総合的に評価する。

履修希望者への要望・事前準備

インターンシッププログラムによっては、ポートフォリオや書類における事前審査が必要とされるものもある。希望のプログラムに参加するためには、何より日々の授業における研鑽が必要である。

ボランティア実習A

2・3・4学年 通年 選択 実習 1単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

「暗いと不平を言うよりも自ら進んで灯りをつけなさい」。これはマザーテレサの奉仕の精神を表す言葉です。本授業ではこの奉仕（ボランティア）精神を実社会で実践し、日頃修練している知見・技術を社会に還元する経験を積むことをテーマにしています。具体的には下記の種類が用意されます。

- 1) 地域からの要請を大学で受けたものを本授業のプロジェクトとする方式
- 2) 社会福祉協議会等とおした福祉型ボランティア
- 3) 災害復興関連組織を通した復興支援ボランティア
- 4) 国際協力関連組織（NGO等）を通した国際ボランティア

達成目標

自ら進んで社会の課題に対して自分の技能を通して奉仕することができる

授業計画

- 1) 地域要請プロジェクトの場合
 - 01 主査教員によるガイダンス
 - 02～14 ボランティア実践
 - 15 報告
- *特に長岡大花火大会関連のボランティアが大人数要請されています
- 2) 社会福祉協議会、災害復興組織、NGOを通した場合
 - 01 主査教員への活動計画等の提出
 - 02～14 ボランティア実践
 - 15 関連組織の承認を得た活動記録報告書をもとにした報告

学生に対する成績評価基準

事前にボランティア計画を立て、計画を実践できたかを受け手側からの報告で確認する。また、この経験を通して社会人基礎力の向上が達成できたか提出レポートの報告から評価する。

出席・遅刻の基準

ボランティア計画に基づいて受け入れ側に判断してもらう。
仮に遅刻、欠席が事前に分かっていた場合、先方に事前連絡を入れることは社会人基礎力の一つである。

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

比較的体力を要するプログラムが多いので体調管理に留意すること。
社会人基礎力をつける経験と考えてもらいたく、積極的参加を望む。

ボランティア実習B

2・3・4学年 通年 選択 実習 1単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

「暗いと不平を言うよりも自ら進んで灯りをつけなさい」。これはマザーテレサの奉仕の精神を表す言葉です。本授業ではこの奉仕（ボランティア）精神を実社会で実践し、日頃修練している知見・技術を社会に還元する経験を積むことをテーマにしています。具体的には下記の種類が用意されます。

- 1) 地域からの要請を大学で受けたものを本授業のプロジェクトとする方式
- 2) 社会福祉協議会等とおした福祉型ボランティア
- 3) 災害復興関連組織を通した復興支援ボランティア
- 4) 国際協力関連組織（NGO等）を通した国際ボランティア

達成目標

自ら進んで社会の課題に対して自分の技能を通して奉仕することができる

授業計画

- 1) 地域要請プロジェクトの場合
 - 01 主査教員によるガイダンス
 - 02～14 ボランティア実践
 - 15 報告
- *特に長岡大花火大会関連のボランティアが大人数要請されています
- 2) 社会福祉協議会、災害復興組織、NGOを通した場合
 - 01 主査教員への活動計画等の提出
 - 02～14 ボランティア実践
 - 15 関連組織の承認を得た活動記録報告書をもとにした報告

学生に対する成績評価基準

事前にボランティア計画を立て、計画を実践できたかを受け手側からの報告で確認する。また、この経験を通して社会人基礎力の向上が達成できたか提出レポートの報告から評価する。

出席・遅刻の基準

ボランティア計画に基づいて受け入れ側に判断してもらう。
仮に遅刻、欠席が事前に分かっていた場合、先方に事前連絡を入れることは社会人基礎力の一つである。

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

比較的体力を要するプログラムが多いので体調管理に留意すること。
社会人基礎力をつける経験と考えてもらいたく、積極的参加を望む。

10-3-1 専門教育科目 [プロダクトデザイン学科共通]

プロダクトコンピュータ基礎演習				
1 学年	前期	必修	演習	2 単位
金澤孝和				

授業の概要およびテーマ

コンピュータをデザインの道具として使う基本を、業界標準となっているソフトウェアを使い練習していく。簡単な図形を描くことから始まり、画像処理の基本、レイアウト操作など、実際にデザインの現場で使える技術へと発展していく。

達成目標

- ・ Illustrator／Photoshopの基本操作を習得する。
- ・ その知識を用いて期限内に課題制作ができる。

授業計画

- 1 ガイダンス／コンピュータの基本操作
- 2 Illustratorの基本操作 1
- 3 Illustratorの基本操作 2
- 4 Illustratorの基本操作 3
- 5 Illustratorの基本操作 4
- 6 Illustratorの基本操作 5
- 7 Illustratorの基本操作 6
- 8 Photoshopの基本操作 1
- 9 Photoshopの基本操作 2
- 10 Photoshopの基本操作 3
- 11 Photoshopの基本操作 4
- 12 Photoshopの基本操作 5
- 13 IllustratorとPhotoshopの連携
- 14 IllustratorとPhotoshopの連携
- 15 まとめ／講評

学生に対する成績評価基準

提出課題と受講姿勢（提出課題70%、受講姿勢30%）の総合点を基準とし、欠席・遅刻・早退は総合点から減点する。
なお成績評価の前提条件として、2／3以上の出席が必須。また課題提出が締め切りを過ぎた場合は、遅れた日数により提出課題評価から減点する。

テキスト

授業時にプリントを配付する

参考書・参考資料等

授業中に適時指示する

履修希望者への要望・事前準備

この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行う。操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を養う。
授業開始時に重要な説明を行う事が多い。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となる。十分注意する事。

基礎造形実習Ⅱ（描写）				
1 学年	後期	必修	実習	2 単位
履修ガイド参照				

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱでは、各学科の専門性に直結する内容の授業内容となるがプロダクトデザイン学科では、基礎的な表現と手法として色・形の重要性を改めて見直し、自身の意図が第3者に理解できるような表現を習得することを目指す。
デッサンでは自身でモチーフを選び構成し、質感や表面処理、色などを意識し鉛筆で描画することで造形の成り立ちを理解する。
色彩描写では、花をモチーフにそのものが持つ特徴を見つけ再構成し色彩表現する。
三面図では、画面という平面上に立体を表現する手法として、三角法を中心とした図法を習得し、平面と立体との相関を理解する。

達成目標

- 描写表現手法による作品制作を通じて、「製品の造形の成り立ち」「色彩を用いた様々な表現」について追求し、基礎的な素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とします。
- 〈精密デッサン〉
 - ・ 形を正確に捉える事ができ正しい構図を得ることができる。
 - ・ 観察から得られる量感、質感、動きを認識的に正確に描写できる。
 - ・ 個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。
 - 〈色彩描写〉
 - ・ それぞれの物質の特徴を抽出し的確な色彩と描写ができることにより表現をすることができる。
 - ・ 多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。
 - 〈三面図〉
 - ・ 製図法の概念、正投影図法及びアインズメトリック図法の基礎的理解が出来、図面上での2D⇔3D、立体・空間の抽象的把握ができる。

授業計画

- 精密デッサン（布と製品）
- 第1回：ガイダンス
 - 第2回～4回：制作
 - 第5回：講評
- 三面図
- 第6回：課題説明
 - 第7回～9回：制作
 - 第10回：講評
- 色彩描写（自然物）
- 第11回 課題の説明
 - 第12回～14回 制作
 - 第15回 講評

* 日程変更の可能性があるので、その場合は指示に従うこと。

学生に対する成績評価基準

- ① 受講への態度、理解度（20%）
 - ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
 - ② 成果物（作品）の内容（80%）
 - ・ 課題の条件を満たしている。
 - ・ 指導を成果に生かすことができた。
 - ・ 十分な考察と制作をした。
- 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席・遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外には出席と見ません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）
各学科毎の課題においては適宜説明があります。
また、大学図書館、書店などに各課題、基礎造形系（デザイン、描写、平面、立体、建築等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので普段から参照することを薦めます。

用具

授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力（描写）は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力があれば具体的な成果につながりません。常にものを観察し、どのようにすれば的確な表現ができるのかという目を持つことを心がけてください。

基礎造形実習Ⅱ（造形）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

立体造形の手法の基礎的な素材・器材を使って造形表現を習得する。
図面から立体、スケッチから立体表現では、プロダクトデザインの分野でスタイロフォーム（発泡材）が手軽で素早く形状検討できる素材として、一般的にデザインの現場でも使用されていることから、これを用いたモデリングを行う。図面を読み取りモデル制作することを実習し、その後課題テーマに基づいたオリジナルな造形を考え、モデル化することでイメージの立体化を行う。
線材（糸）による造形では、糸を巻きつけることにより、線から立体への変化、色彩の変化を理解する。
グラフィックレイアウトでは、基礎造形Ⅱで制作した立体作品をより魅力的に見せるグラフィカルな処理をPC上で実習し、ポートフォリオやプレゼンテーションパネル制作への基本スキルを習得する。

達成目標

- ・基礎的な図形や図法の意味を理解できる。
- ・平面上の図から正確な比率で立体を読み取ることができる。また同様に立体物を平面上の図に置き換えることができる。
- ・有機的な面のもつ特徴を観察し、対比と構成による的確に造形表現ができる。
- ・素材と用具を適切に扱う事ができる。

授業計画

図面から立体制作
第1回：課題説明・制作
第2回～3回：制作
第4回：制作・講評
スケッチから立体制作
第5回：課題説明・スケッチ
第6回：スケッチ
第7回：モデル制作
第8回：モデル制作・講評
線材（糸）による色彩の構成
第9回：課題説明・細作
第10回：制作
第11回：制作・講評
グラフィックレイアウト
第12回：課題説明
第13回～14回：制作
第15回：講評

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（20％）
- ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（80％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
- 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。
これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。
また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。
また、大学図書館、書店などに課題、基礎造形系（描写、平面、立体等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。

用具

授業にて適宜指示します。授業日には必ず指示された用具を持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

初めに扱う材料や、課題内容により講義、説明が重要になります。よく理解して授業に臨むことを求めます。また素材の特性や表現技法についても深く知ることが必要です。
自ら興味をもって参考となる作品や資料にふれ予習をする習慣をつけてください。

基礎造形実習Ⅱ（素形材）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザイン学科の各コースでの素材を用いた実習授業である。それぞれの素材の特徴・特性を知り図面からのモデリング、織り、染め、ファッション、これらの課題を通してプロダクトデザインの基礎を学ぶ
図面からモデリングでは、スタイロフォームで制作した立体造形を恒久的なモデルとするため、ケミカルウッドに置き換えて制作し、塗装を施すことでモックアップとしての完成品を目指す。
テキスタイル（織り）では、織り機を使って、織りの原理となる縦糸・横糸の構成を理解する。
テキスタイル（染め）では、絞り、型捺染などの基本手法・原理原則を理解する。
ファッションでは布素材を用い、ミシンによる縫製によってファッション小物を制作することで、布パーツの構成と制作手順を理解する。

達成目標

- ・課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。
- ・課題の説明を記録し制作過程をまとめることができる。
- ・制作等の指導を理解することができ適切な質疑応答ができる。
- ・制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる完成度のある成果物が提出できる。

授業計画

ケミカルウッドによるモデリング
第1回 課題説明
第2回～第5回 制作
第6回 講評
テキスタイル：織り
第7回 課題説明・制作
第8回 制作
第9回 講評
テキスタイル：染め
第10回 課題説明・制作
第11回 制作
第12回 講評
ファッション
第13回 課題説明・制作
第14回 制作
第15回 講評
※全体を3グループに分けて授業を行うため、必ずしもこの順番とはならない。
※詳細日程は授業開始時に説明する。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（20％）
- ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（80％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
- 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。
これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。
また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

テキスト

各課題により資料テキストを授業時に配付する場合があります。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して使用する事があります。学科毎に求められた場合には必ず毎授業持参すること。
また、大学図書館、書店などに課題関連、基礎造形系の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。

用具

各課題制作に必要な準備・持参用具を適宜指示する。各自が使用する材料等は適宜購入してもらう場合があります。（各課題により異なります。）

履修希望者への要望・事前準備

プロダクトデザイン学科の中でも、大きく2つのコースがあり、さらに専門分野に細分化されていきます。これからの大学生活はどの領域に進むかによって、学ぶこともより専門的になっていきますが、その第一歩となるのが、この素形材の授業です。それぞれの領域の課題に興味を持ち、完成度の高い作品制作を目差してください。

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインの最初の作品制作とそれを的確に記録するための実習である。
身近な製品をテーマに、持ちやすさ・使いやすさを考え、立体デザインとしてまとめていくことを目指す。
製品デザインでは、実際の製品を使い、問題点を洗い出し、解決するための手法を考え、造形に落ち込むための手法として、スケッチによりアイデア展開を行う。最後に簡単な発表を行う。
スケッチしたものから選んだアイデアを立体化し、実際に持ちやすさ・使いやすさを検証し、提案モデルを制作することで、機能と造形のバランスを学ぶ。
写真では基礎造形Ⅱで制作した作品をもとに、ライティングやセッティング、構図など作品を魅力的に見せるための写真撮影手法を学ぶ。

達成目標

〈スケッチ〉自分で考えたアイデアを紙の上（平面上）に、第3者が理解できるように表現できる。
〈モデリング〉スケッチで発想したアイデアを的確に立体化し、それが製品としての機能を満たすような造形となっている。
〈写真〉カメラの基本的操作・適切なライティングで、自身の作品をより魅力的なものに見えるよう撮影を行うことが出来、その後の画像処理ができる。

授業計画

製品のデザイン（スケッチ）

- 第1回：課題説明
- 第2～4回：スケッチ展開
- 第5回：発表・講評

製品のデザイン（モデリング）

- 第6回：課題説明
- 第7～9回：モデリング
- 第10回：発表・講評

写真（製品を効果的に見せる）

- 第11回：デジタル一眼レフの基本操作講義
- 第12回：撮影1／セッティングとライティング基礎
- 第13回：撮影2／作品の撮影
- 第14回：撮影3／作品の撮影
- 第15回：撮影4／作品の撮影、講評

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（20％）
 - ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（80％）
 - ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション

以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。
これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。
また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

テキスト

必要に応じて、適宜指示または配付する。

参考書・参考資料等

〈写真〉デジタル映像表現「改訂版」デジタル映像表現編集委員会編（CGARTS協会）3,150円

用具

授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

プロダクトデザインにおける作品制作は、「想像を巡らせ」「考える」ことから始まる。身の回りにあるモノを使いながら、使いやすさ・扱いやすさなどを気にかけてながら生活することで、何かしらの発見や気づきがあるはずである。そういった経験を蓄積しておくこと。

プロダクトコンピュータ演習

1 学年 後期 必修 演習 2 単位
金澤孝和

授業の概要およびテーマ

コンピュータ基礎演習の発展としてAdobe Illustrator及びPhotoshopを自由に使いこなし、思い通りに、かつ正確に作画するための練習を行う。またIllustratorとPhotoshopの連携した使用方法についても、より詳しく学習する。

達成目標

- ・Illustrator／Photoshopをツールとして思い通りに、かつ正確に操作ができる。
- ・知識を応用して期限内に課題制作ができる。

授業計画

- 1 ガイダンス／Illustrator
- 2 Illustrator
- 3 Illustrator
- 4 Illustrator
- 5 Illustrator
- 6 Illustrator
- 7 Illustrator
- 8 Photoshop
- 9 Photoshop
- 10 Photoshop
- 11 IllustratorとPhotoshopの連携
- 12 IllustratorとPhotoshopの連携
- 13 IllustratorとPhotoshopの連携
- 14 IllustratorとPhotoshopの連携
- 15 まとめ／講評

学生に対する成績評価基準

提出課題と受講姿勢（提出課題70％、受講姿勢30％）の総合点を基準とし、欠席・遅刻・早退は総合点から減点する。
なお成績評価の前提条件として、2／3以上の出席が必須。また課題提出が締め切りを過ぎた場合は、遅れた日数により提出課題評価から減点する。

テキスト

授業時にプリントを配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じて適時指示する。

履修希望者への要望・事前準備

この授業では、Illustrator、Photoshopの基本操作は前期で習得していることを前提としている。不安のある履修者は事前に予習をしておくこと。授業開始時に重要な説明を行うことが多い。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となる。十分注意すること。

プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ

2 学年 前期 必修 実習 4 単位

◎金澤孝和、池永 隆、金山正貴、菊池加代子、齋藤和彦、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲

授業の概要およびテーマ

ある指定された具体的な素材、材料を活用し、様々な試行錯誤を繰り返しながら機能あるものを作り上げる。とにかく現物に触れて確認しながら、試しながら考えることを重視する。
2つの課題に取り組み、1つはプロダクトデザインコース、1つはテキスタイル・ファッションデザインコースからのテーマとする。
また、全体を2つのグループに分けて、授業を行うため、第一課題と、第二課題の順番はグループにより異なる。

達成目標

- ・アイデアを出すこと、発想すること。
- ・その時点でのベストを尽くしたと言えるような作品を作ること。

授業計画

「第一課題」 プロダクトデザインコース課題

01 ガイダンス、ブレインストーミング

02 調査

03～06 コンセプトの検討

07～10 造形検討

11～14 モデル制作

15 講評

「第二課題」 テキスタイル・ファッションデザインコース課題

16 ガイダンス、染色

17～18 染色

19～21 織り、ソーイング

22 レクチャー、アイデア検討

23 アイデア検討、試作

24～29 制作

30 講評

学生に対する成績評価基準

2つの課題の総合点から欠席及び・遅刻点を減点する。
ただし、2/3以上の出席および課題提出が単位修得の必要条件となる。

テキスト

授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

週2回の授業であるが、授業時間だけの作業では決して満足するような結果は得られない。毎回の授業において教員に指摘されたことに、授業外の時間を使って取り組むことが大切である。

テキスタイル材料学

2 学年 前期 必修 講義 2 単位

菊池加代子

授業の概要およびテーマ

人類が毛皮を失った時から、私達はテキスタイル無しでは生きていく事が出来なくなりました。余りにも身近な「テキスタイル」を原料→繊維素材（糸）→構造（布）→製品→リサイクルまでを視野に入れ、変化する過程を実際の素材に触り、簡単な実験も行ないながら、テキスタイルの役割や可能性を探ります。
世界各地の伝統的染織文化や最先端のテキスタイル開発を柔軟な思考で捉え、地球環境や持続性も踏まえた私達のデザイン活動に応用出来る事をテーマとします。

達成目標

- ・自分が着ている服や身の回りのテキスタイルの「素材、特性、取り扱い、生産工程」を説明する事が出来る。
- ・天然繊維・化学繊維・無機繊維の原料と特徴を説明する事が出来る。
- ・原料から糸作り、糸から布作り（構造）を理解し構造模型を作る事が出来る。
- ・「テキスタイル素材サンプル帳」を作成し、デザイン活動に応用する事が出来る。
- ・テキスタイルの可能性を掴み、その応用を思考、提案する事が出来る。

授業計画

01 ガイダンス 繊維とは… 素材サンプル帳作成

02 天然繊維 動物性繊維 「絹」

03 天然繊維 動物性繊維 「獣毛」羊毛

04 天然繊維 動物性繊維 「獣毛」羊毛以外

05 天然繊維 植物性繊維 「綿」

06 天然繊維 植物性繊維 「麻」

07 化学繊維 「再生繊維」「合成繊維」

08 化学繊維、無機繊維 最先端の繊維開発

09 糸から布へ 「織」構造模型を作成

10 糸から布へ 「織」織物組織図

11 糸から布へ 「編」

12 糸から布へ 道具のいない布作り「撚り割り」技法

13 加工 「染色」天然染料 化学染料 加飾

14 加工 「縮絨」「ブリーツ」「塩縮」などのテクスチャーから「防災」「抗菌」等の機能付加工等

15まとめ 原始的なテキスタイルから最先端のテキスタイル、テキスタイルの可能性についての考察

学生に対する成績評価基準

授業内容に合わせた提出物（レポート及び制作するサンプル等）を評価の対象とし、未提出がある場合は単位を与えません。
提出が遅れた場合は、日数に応じて減点します。
欠席、遅刻、早退、問題のある授業態度（居眠りやおしゃべり等）は、減点の対象とします。

出席・遅刻の基準

遅刻は、授業開始の「5分」まで、厳しくとります。
出席に対する不正があった場合は、厳正に対処します。

テキスト

授業内でプリントを配付するほか、適宜紹介します。

参考書・参考資料等

「やさしい繊維の基礎知識」繊維学会編

「はじめて学ぶ繊維」信州大学繊維学部編

「やさしい産業用繊維の基礎知識」加藤哲也著・向山泰司監修

用具

配付するプリントと素材サンプルをまとめるファイル帳、はさみ、ホチキスなど、初回の授業で説明します。

履修希望者への要望・事前準備

身の回りに「テキスタイル」がどのくらいあるか探してみてください。また、あなたが朝起きてから夜眠るまでにどれだけのテキスタイルに触れるでしょうか？
「今日、着ている服」の素材は？ 織物？ 編物？ どの様に縫われている？ 風合いはどんな感じ？ どこで作られたものですか？ 着心地はどう？ 洗濯はどうするの？…… 毎日のように身近なところからテキスタイルに興味を持って観察して下さい。

生産技術論

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
齋藤 博

授業の概要およびテーマ

人類は道具を活用して天然材料から手作業で生活に必要なものを作ってきました。それを発展させることで複雑かつ高機能なものも大量に製造することができるようになり、現在では人工的に合成した新素材も加わってますます多種多様な工業製品が流通しています。

ものづくりに際しては、適した素材の選択と所望の形や構造に造り上げる生産技術を知る必要があります。本授業では、各種の工業材料の用途を把握し、それを工業製品に仕上げるまでの基本的な製造プロセスを学ぶことによって、より高機能な製品の開発が容易に行えるようになることを意図しています。

達成目標

工業製品を構成する素材に関する幅広い知識を習得し、それらの造形法および製造技術の現実を理解する。

また、設計者、生産者、コンシューマー間のコミュニケーション用語を理解し、自分の言葉として活用、説明ができるようになる。

授業計画

- 1 イントロダクション：ものづくりの歴史と生産技術
- 2 材料の種類と用途：構造用材料、機能性材料、天然材料
- 3 鉄が主体の金属材料1：鋼、炭素の役割、熱処理
- 4 鉄が主体の金属材料2：ステンレス鋼、鋳鉄、耐熱合金
- 5 非鉄金属材料：アルミニウム、銅、マグネシウム、チタン、貴金属
- 6 有機材料1：プラスチックを中心として
- 7 有機材料2：複合材料、ゴム
- 8 無機材料：セラミックス、ガラス
- 9 加工法1：除去加工（切削、研削、放電、レーザー）
- 10 加工法2：変形加工（プレス、鍛造、鋳造、粉末）
- 11 加工法3：付加・接合加工（3D造形、溶接、ろう付）
- 12 加工法4：処理加工（めっき、CVD、PVD、塗装）
- 13 自然素材（木材、紙）の材料特性と加工
- 14 生産管理技術と最新生産技術
- 15 総まとめ

学生に対する成績評価基準

レポート課題（40%）と小テスト（60%）で評価します。
出席率が2/3を下回る場合は単位を与えられません。
遅刻は3回で1回の欠席扱いとします。

テキスト

授業開始時に必要な資料を配付します。

参考書・参考資料等

特に指定しませんが、情報源と情報媒体を折に触れて活用してください。

履修希望者への要望・事前準備

多種多様な工業製品に関心をいだき、デザインのみならず、使われている素材や特徴を想像する習慣を身につけて下さい。さらに造形・組み立て技術の良し悪しを判断する癖を身につけて下さい。

プロダクトスケッチ実習Ⅰ

1 学年 後期 選択 実習 2 単位
◎齋藤和彦、池永 隆

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザイナーをはじめ新しいモノを生み出す仕事において、自身のイメージをスケッチなどで2次元表現することによって、第三者にそのカタチを伝える事が必須である。
このプロダクトスケッチ実習Ⅰでは、そうした「スケッチワーク」を基礎的な内容から学び、実践的なスキルレベルの習得を目指す。

達成目標

- ・スケッチ作業の原理原則を理解し、形状を正しくとらえる事が出来る。
- ・美しい線が描け、正確に面の明暗とコントラスト、素材の特徴を表現出来る。
- ・アイデアの発想、及びそのアイデアを具体的なスケッチとして再現できる。
- ・描いたスケッチが第三者へのコミュニケーションツールとして正しい情報を伝えられる。

授業計画

01. ガイダンス フリーハンドスケッチ
02. 透視図の理解と立方体の作図
03. 円柱と陰影を描く
04. 球体と陰影を描く
05. マーカースケッチ（マーカースの基礎）
06. マーカースケッチ（立方体と陰影）
07. マーカースケッチ（円・楕円・曲線）
08. マーカーとパステル・質感表現1
09. 質感表現2
10. 質感表現3
11. 応用表現1
12. 応用表現2
13. 応用表現3
14. 最終スケッチ・ベース（線画）の作図
15. レンダリング（完成予想図）制作

学生に対する成績評価基準

課題提出については毎回提出を原則とし、授業内容の理解度、作画の丁寧さ、完成度などを基準とした総合点とする。
詳細は授業ごとに指示をするので、それに従って提出のこと。
単位取得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。
提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。

テキスト

授業内で適宜プリントを配付する。

用具

コピックマーカー クールグレイ12色セット、コピックマーカー12色基本セット、パステル、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、コピー用紙（A3/A4）、修正液、定規など
コピックマーカーは各自用意すること。（参考）コピックマーカー12色セット 4,788円

履修希望者への要望・事前準備

スケッチの上達のためには、ある程度の訓練と繰り返しの作業が必要で、授業時間以外でも常に手を動かし、スケッチの練習をすることが重要である。
尚、本実習の単位取得は「プロダクトスケッチ実習Ⅱ」履修の条件となる。

プロダクトスケッチ実習Ⅱ

2 学年 前期 選択 実習 2 単位
◎齋藤和彦、増田 譲

授業の概要およびテーマ

第1 学年後期に開講される「プロダクトスケッチ実習Ⅰ」の続きの授業の位置付けとなる。

生み出した造形やアイデアを第三者が理解しやすいスケッチとして表現し、より正確なコミュニケーションが図れることを目指す。この授業では、マーカーなどの画材を用いた手描きスケッチとPhotoshop、Illustratorを使用して、複合的な表現を必要とするプロダクト製品である輸送機器や家電・情報機器を中心にその手法を学習する。

達成目標

- ・工業製品の色彩、表面処理表現ができるようになる。
- ・デザインの意図が、的確に第三者に伝わるスケッチが描けるようになる。
- ・Photoshop、Illustratorによるスケッチが描ける。

授業計画

01. ガイダンス フリーハンドスケッチと着色
02. 三面図に着色（質感表現）
03. 輸送機器 1
04. 輸送機器 2
05. 輸送機器 3
06. 家電・情報機器 1
07. 家電・情報機器 2
08. 家電・情報機器 3 (Illustrator)
09. 家電・情報機器 4 (Illustrator)
10. 家電・情報機器 4 (Illustrator)
11. Photoshop スケッチ 1
12. Photoshop スケッチ 2
13. Photoshop スケッチ 3
14. 総合スケッチ 1
15. 総合スケッチ 2

*授業内容により教室が変わることがあるため、その場合は指示にしたがうこと。

学生に対する成績評価基準

課題提出については毎回提出を原則とし、授業内容の理解度、作画の丁寧さ、完成度などを基準とした総合点とする。提出物の詳細は授業ごとに指示をするので、それに従って提出のこと。

単位取得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。

提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。

テキスト

授業内で適宜プリントを配付します。

用具

コピックマーカー グレイセット、コピックマーカー12色基本セット、パステル、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、コピー用紙（A3/A4）、修正液、定規など
コピックマーカーは各自用意すること。12色セット 4,788円（参考）
Photoshop、IllustratorがインストールされたノートPC。

履修希望者への要望・事前準備

「プロダクトスケッチ実習Ⅰ」を履修していることが条件。
スケッチは日頃からの練習が上達の早道であり、手を動かし、画材に慣れておくこと。
早く描けることが目標ではないので、第三者に理解しやすいスケッチを目指すこと。

プロダクト3DCG演習Ⅰ

2 学年 前期 選択 演習 2 単位
土田知也

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインのプロセスにおいて、時間短縮のため及びより自由な造形のため3DCG（CAD）は必要不可欠なツールとなっている。この授業ではプロダクトデザインの現場で、最もよく使われているソフトの一つであるRhinoの基本的な操作を学習する。

達成目標

- ・毎回学習する操作方法を確実にマスターすること。
- ・課題で提示されるモデルを完璧に作り上げること。
- ・提出期限を守ること。
- ・自分のイメージした質感、色彩で美しくレンダリングできるようになること。

授業計画

01. ガイダンス及び数値入力、直線
02. 円、円弧、編集
03. 自由曲線
04. サーフェース 1
05. サーフェース 2
06. ソリッド
07. レンダリング
08. ソリッドの変形
09. ブレンド
10. レールスイープの応用
11. ネットワークサーフェース
12. 3Dカーブ
13. モデリング練習
14. 自由制作課題
15. 自由制作課題

学生に対する成績評価基準

毎回提出される課題の総合点から、欠席、遅刻点を減点する。
ただし、2/3以上の出席及び課題提出が単位修得の必要条件となる。
なお、公欠事由、病気、事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。

テキスト

毎回の授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

「Rhino Ver 5 入門」是枝靖久著 ラトルズ 3,800円
<http://www.rhino3d.co.jp/>

履修希望者への要望・事前準備

本演習は2年後期に開講される3DCG演習Ⅱを通して、デザインのツールとして3DCGをある程度使いこなせるようになることを目的としている。従って、ゴールから逆算したカリキュラムとなり、課題は毎回提出され確実に授業時間内では終了しない。とりあえず経験のために受講しようという様な姿勢では続かないので注意すること。

プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（A）

2 学年 後期 選択 実習 4 単位

◎金山正貴、池永 隆、金澤孝和、齋藤和彦、境野広志、土田知也、増田 謙

授業の概要およびテーマ

設定された具体的な製品領域のもとで、調査からプレゼンテーションにいたる一通りのプロセスを踏襲して課題制作に取り組む。第一から第三課題ともグループワークと個人ワークを組み合わせ、取り組み以下の3つの課題を設定する。

- ①家電・情報機器の領域
- ②ユーザー体験をベースにしたサービス・UI領域
- ③生活雑貨・日用品の領域

達成目標

- ・今までの授業で得た、知識・スキルをフルに活用した課題制作を行うこと。
- ・結果のみならずプロセスを大切にしたい取り組みを行うこと。
- ・ポートフォリオに載せられるようなレベルの高い作品を作ること。

授業計画

「第一課題」

01 ガイダンス、調査

02 調査

03～04 コンセプトの検討

05～06 造形検討

07～09 モデル制作、プレゼンテーション準備

10 プレゼンテーション

「第二課題」

11 ガイダンス、調査

12～13 調査分析 まとめ

14～15 コンセプトの検討

16～17 UI・シナリオ検討

18～19 ムービー制作、プレゼンテーション準備

20 プレゼンテーション

「第三課題」

21 ガイダンス、調査

22 調査

23～24 コンセプトの検討

25～26 造形検討

27～29 モデル制作、プレゼンテーション準備

30 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

課題の総合点から欠席・遅刻点を減点する。

なお、2/3以上の出席及び課題提出が単位取得の必要条件となる。

テキスト

授業において適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

用具

第二課題では、Adobe Premiereをインストールした PC（win,mac どちらかで可）の用意をすること。

履修希望者への要望・事前準備

授業時間はもちろん、授業外での取り組みが大切である。少しでも良いものにするべく前向きに取り組んで欲しい。

プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（B）

2 学年 後期 選択 実習 4 単位

◎鈴木均治、菊池加代子、専任教員

授業の概要およびテーマ

織・染・ファッションそれぞれの基礎を学び3年次の専門選択の一助とする。

織：織機を用いた布制作と動物性繊維の糸染め、ウールの縮絨仕上げを習得する。

染：型糊防染及び型捺染による作品制作をとおして連続模様を習得する。

ファッション：衣服製作の基本構成（製図）を理解することに主眼をおき、ベーシックウェアより基本構成（製図）の展開と製品加工により、オリジナル作品を製作する。

製作行程を理解し、組み立て方を考察します。

達成目標

- ・素材の特性および手法における制約を理解しデザインに生かすことが出来る。
- ・制作における各工程の作業の意味を理解することが出来る。
- ・ファイル等で制作の記録をまとめることが出来る。
- ・期限を守り課題作品を提出することが出来る。
- ・安全に注意を払い、一人で作業することが出来る。

授業計画

織・染・ファッションの内容をそれぞれ5週間を2または3のグループでローテーションする。

織

01〈ストライプとチェック〉ストライプのデザイン・「Weaving note（織計画表）」作成・織機に経糸をかける

02〈ストライプとチェック〉織機に経糸をかける・織

03〈マフラー〉デザイン・ウールの糸染め・「Weaving note（織計画表）」作成

04〈マフラー〉織機に経糸をかける・織

05〈マフラー〉仕上げ・講評

染

06 精練・敷き糊・唐草型型彫り/豆引き・紗張り・藍建て・基本型説明

07 唐草糊置き・基本型型彫り・紗張り/基本型糊置き・応用型説明

08 藍染・応用型デザインチェック・応用型型彫り/応用型紗張り・型捺染説明

09 応用型糊置き・型捺染デザインチェック色糊説明/応用型藍染・型捺染糊置き

10 型捺染しごき・蒸熱・仕上げ/プレゼン・講評

ファッション

11 デザイン考案、パターン（製図）制作

12 裁断、縫製

13 縫製

14 縫製、加工

15 加工、仕上げ

学生に対する成績評価基準

製作姿勢及び理解度（50％）課題による成果物（作品）の内容（50％）を合わせた評価。

出席・遅刻の基準

遅刻は5分までとする。遅刻及び欠席は素点より減点する。

テキスト

課題資料としてプリントを配付。

用具

織：糸代として3,000円から4,000円程度必要となります。

染：布代として1,000円程度必要となります。

ファッション：授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業時間だけの作業だけでは決して満足するような作品は出来上がらない。製作行程を各々しっかり計画立てること。

プロダクトCAD演習

2 学年 後期 選択 演習 2 単位
◎土田知也、金山正貴

授業の概要およびテーマ

立体デザインの分野では「図面」の作成・読解は不可欠の能力である。この授業では具体的な図面作成上の約束事、表現のノウハウ等を具体的な課題により養う。基本はJISの機械製図に基づくが、デザイナーの描く図面としての特性も加味する。
なおソフトはRhinoceorsを使用し、基本的なオペレーションはプロダクト3DCG演習Ⅱにて身につけていることを前提とする。

達成目標

- ・JIS規格の図面の書き方の基本をマスターすること。
- ・課題において決まりごとをしっかりと守って図面を描くこと。
- ・提出期限を守ること。

授業計画

- 01 授業ガイダンス CADとは？
- 02 図面の基本1（図法、寸法、線種）、練習問題1
- 03 練習問題2
- 04 図面の基本3（断面法、矢視図）、練習問題3
- 05 練習問題4
- 06 図面の基本5（複合円弧）、練習問題5
- 07 練習問題6
- 08 練習問題7
- 09 練習問題8
- 10 練習問題9
- 11 実力チェック問題
- 12 実物の図面化1
- 13 実物の図面化1
- 14 実物の図面化2
- 15 実物の図面化2

学生に対する成績評価基準

提出課題の総合点から欠席、遅刻点を減点する。
ただし、2/3以上の出席および課題提出が単位取得の必要条件となる。
なお、公欠事由、病気、事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。

テキスト

01～06はプリントを配付する。

用具

ノギス、直線定規

履修希望者への要望・事前準備

本演習はプロダクト3DCG演習Ⅰの単位取得を受講条件とする。
また、それなりに複雑な図面を描けるようになることを目的とするため負荷もそれなりに高い。何となく、あるいは、とっておいた方がよいと言われたから等の後ろ向きな理由での履修は遠慮してもらいたい。もちろん、図面が描ける様になりたいという強い意志を持つての履修は学科を問わず歓迎する。

プロダクト3DCG演習Ⅱ

2 学年 後期 選択 演習 2 単位
土田知也

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインのプロセスにおいて、時間短縮のため及びより自由な造形のため3DCG（CAD）は必要不可欠なツールとなっている。この授業はプロダクト3DCG演習Ⅰの続きの授業であり、Rhinoceorsの高度な操作を学習し様々な対象をモデリング、レンダリングする。

達成目標

- ・新たに学んだ操作方法を確実にマスターすること。
- ・課題で提出されるモデルを完璧に作り上げること。
- ・提出期限を守ること。
- ・自分の描いたカタチを自由に立体化できるようになること。

授業計画

- 01 モデリング：アイロン
- 02 モデリング：アイロン
- 03 モデリング：マウス
- 04 モデリング：マウス
- 05 高度なレンダリング
- 06 高度なレンダリング
- 07 モデリング：リール
- 08 モデリング：リール
- 09 モデリング：化粧品のボトル
- 10 モデリング：化粧品のボトル
- 11 モデリング：スプーン
- 12 モデリング：スプーン
- 13 モデリング：一輪挿し
- 14 自由課題制作
- 15 自由課題制作

学生に対する成績評価基準

原則として毎回提出される課題の総合点から、欠席・遅刻点を減点する。
ただし、2/3以上の出席及び課題提出が単位取得の必要条件となる。
なお、公欠事由、病気・事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。

テキスト

毎回の授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

Rhinoceorsオフィシャルトレーニングブック 中島淳雄他著
（株）ワークスコーポレーション 4,743円（税抜）

履修希望者への要望・事前準備

本授業はプロダクト3DCG演習Ⅰの単位取得を受講条件とする。

ファッション画実習

2 学年 後期 選択 実習 2 単位
金石浩一

授業の概要およびテーマ

社会におけるデザイン画の描き方、およびファッション画の描き方をプロダクトを通して、その必要性を習得するとともに、人に伝えなければならない情報もしくは自分なりのメモとしての視点やスケッチ力を磨く。

個性を大切にしたいドローイングやファッション画とコラージュなどによる個々のオリジナルなイメージボードを制作します。

達成目標

- ・現在のファッション業界が必要としている、ファッションデザイン画を描く事が出来る。
- ・衣服をデザインした時のバランス感、デフォルメの仕方を習得できる。
- ・個々のおいた設定よりオリジナルな衣服デザイン、イメージボードの作成ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス、ファッションイラストの表現力と個性
- 02 ハンガーイラストとファッション画の描き方
- 03 ハンガーイラストとファッション画の描き方
- 04 デフォルメとバランスとポーズ
- 05 デザインとデザイン画とスタイル画（着衣）ドローイング
- 06 デザインとデザイン画とスタイル画（着衣）ドローイング
- 07 着彩：素材表現とテクニク、ソフト イラストレーターによるテクニク
- 08 着彩：実習
- 09 着彩：素材表現とテクニク フォトショップによるテクニク
- 10 着彩：実習
- 11 ファッションイメージ：コラージュ
- 12 ファッションイメージ：コラージュ
- 13 イメージボード制作
- 14 イメージボード制作
- 15 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%

テキスト

授業内でプリントを配付するほか、適宜指示します。

参考書・参考資料等

- ・ファッション・デザイナーの創作スケッチブック ハイウェル・デイヴィス 著 P-Vine BOOKs
- ・ファッションデザインアイデアノート サイモン・トラバース＝サリダ・ザマン 著 グラフィック社

用具

授業のガイダンスで適宜指示します。

着彩の授業の時は、水彩、色鉛筆、もしくはコンピューターでの作業など各々用意してもらいます。

履修希望者への要望・事前準備

授業内のみの学習ではなかなか成果、達成は得られません。技術習得というのは修練を重ねた上に成り立ちます。人物画を得意とする人、そうでない人も探究心をもって諦めずに授業にのぞんで下さい。

事前準備としては、「こんな絵が好き」、「こんな服が好き」というものを（写真の切り抜きで良いので）見つけて（ファイルングする）おいてください。

テキスタイル・ファッションCAD演習

2 学年 後期 選択 演習 2 単位
◎山本正記、安永 哲

授業の概要およびテーマ

この授業は、テキスタイル（山本正記）ファッション（安永 哲）が分担して行ないます。

テキスタイル・ファッションを専攻する学生には必須の授業です。

（テキスタイル）
プリントにおけるPCの関わり方としては大別して2種類考えられる。一つには人の手によって行われていた作業の効率を高め、製品の安定を計るという目的。もう一つには、染色用インクジェットプリンター等、従来の方法とは異なる出力を前提とした表現の追求にあると考える。

この授業では、photoshop/ Illustratorをツールに、通常のシルクスクリーンプリントを出口とした表現。ダイレクトインクジェットプリントを前提とした表現。PCと連動したジャガード織りを出口とした表現。それぞれへの考察並びにデータの作成について学んでゆく。

この授業はパワーポイントを使った解説と演習にて進行する。

尚、授業計画は担当講師が授業の進行具合から判断し変更する事がある。

（ファッション）
現在のパターン（製図）はアナログのみならずデータ化したものの対応が一般化しており、それによってよりグローバルな対応を可能にしている。CADにより基本的製図理論の理解とパターン（製図）展開法を習得する。

3D CADとの連動により2次元であるパターンの可視化、修正や変更へのよりスピーディーな対応の方法、基礎的工業用パターンへの展開方法等を習得する。

達成目標

- （テキスタイル）
 - ・学内にてのシルクスクリーンプリントを前提としたデータ制作
 - ・ダイレクトインクジェットプリントを前提としたデータ製作
 - ・シルクスクリーンプリントにおけるリポート（送り）を理解する。
 - ・プレゼン用の簡単な2Dマッピング作成
 - ・PCと連動したジャガード織への理解を深める
- （ファッション）
 - ・原型（服のゆとりやデザインが最小限のもの）より、ベーシック（シャツ等）の製図がCADにより描ける。
 - ・基本的製図の理論と展開方法が理解できる。
 - ・同一デザインの内、素材（生地や柄）の違いによるシルエットの変化がわかる。

授業計画

- （テキスタイル）
 - 01 授業説明・カラーマネジメントを含めた色の問題等について
 - 02 Photoshop/ Illustratorを使用したチェック、ドット等ベーシックな柄作り
 - 03 Photoshop/ Illustratorを使用した各種リポート柄柄作り
 - 04 Photoshop/ Illustratorを使用した各種リポート柄と2Dマッピング
 - 05 Photoshop/ Illustratorを使用したシルクスクリーンプリントの為のデータ作成①
 - 06 Photoshop/ Illustratorを使用したシルクスクリーンプリントの為のデータ作成②
 - 07 Photoshop/ Illustratorを使用したインクジェットプリントの為のデータ作成と2Dマッピング①
 - 08 Photoshop/ Illustratorを使用したインクジェットプリントの為のデータ作成と2Dマッピング②
 - 09 photoshopを使用したジャガード用データ作成と2Dマッピング①
 - 10 photoshopを使用したジャガード用データ作成と2Dマッピング②
- （ファッション）
 - 11 アパレルCAD基本操作法、基礎製図理論：
 - 12 ベーシックパターンⅠ、3D CAD展開
 - 13 ベーシックパターンⅡ、3D CAD展開
 - 14 グレーディング（サイズ展開、製図柄配置）
 - 15 工業用パターン展開、実物パターン（プリントアウト）

学生に対する成績評価基準

（テキスタイル）
成績は提出された課題の評価による。

（ファッション）
課題提出内容と最終回のデータ測定を基に「達成目標」に照らし合わせ評価します。出席回数は最終評価の減点対象となります。
*テキスタイル3分の2、ファッション3分の1の割合で集計して成績をつけます。

出席・遅刻の基準

（テキスタイル）
出席等に関しては大学の規定に従うこととする。

テキスト

（テキスタイル）
必要があれば授業内でプリントを配付する他、適宜指示します。

（ファッション）
授業内でプリントを配付するほか、適宜指示します。

用具

（テキスタイル）
基本的にデータのやり取りには外部ストレージの利用を考えて居るが、個人用にUSBメモリーか外付けハードディスクを用意する事が好ましい。
ラフスケッチ用にクロッキー帳と筆記用具

履修希望者への要望・事前準備

（テキスタイル）
Photoshop/ Illustratorに関しては基本操作ができることが前提となっています。（頑張ってください）

加えてIllustratorのオブジェクト/パターンを使用するのは、全体を意識しながらデザイン（部分）を作成して行く為です。意識してください。
用具の欄にクロッキー帳と筆記用具と記したが、此れはパソコン上での作業が直接的に進みやすいためであり、イメージの広がり易い環境を各自が作る必要が在ると考え得て居る為である。

沢山のテキスタイルに興味を持ち、良く観察する事。

（ファッション）
週1回1コマの授業となる為、完結して授業の復習は必ずしてください。遅刻や欠席でも授業を理解するための障害となるので十分注意をすること。

10-3-2 専門教育科目[プロダクトデザイン学科コース別科目]

プロダクトデザイン演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎土田知也、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、齋藤和彦、
境野広志、増田 譲

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインの専門導入授業として、具体的なテーマに対しデザインワークを一貫したフローで進め、カタチだけではない総合的なデザイン提案を行う。

第一、第二課題でそれぞれ産学協同プロジェクト、各種デザインコンペティション参加を経験する。そのことにより社会におけるデザインの役割を理解し、自らのデザインを広く発信していく力を養う。

達成目標

- ・プロダクトデザイナーとしての発想力、企画力、プレゼンテーション力の強化
- ・スケッチをはじめ、自ら考えたデザインを表現する方法の試行と理解
- ・社会におけるデザインの役割、デザイナーの立ち位置の理解

授業計画

課題1（産学協同プロジェクト）

- 1 ガイダンス／課題説明、ブレインストーミング
- 2 調査、考察
- 3 コンセプトの検討
- 4 アイデア展開
- 5 中間講評
- 6 制作
- 7 制作
- 8 プレゼンテーション／課題2説明

課題2（各種デザインコンペティション）

- 9 調査、考察
- 10 アイデア展開
- 11 中間講評
- 12 制作
- 13 制作
- 14 制作
- 15 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

プレゼンテーション内容を含めた課題得点と中間講評の得点の総合点を基準とする。欠席・遅刻・早退は最終評価から減点する。
なお成績評価の前提条件として、2／3以上の出席が必須。

履修希望者への要望・事前準備

本授業は、2年時までの基礎造形力、プロダクトデザインに関わるスケッチのスキル、コンピュータのスキルなどの専門教育の修得を前提としている。不安のある履修者は事前に予習などをしておくこと。

プロダクトデザイン演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎境野広志、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、齋藤和彦、
土田知也、増田 譲

授業の概要およびテーマ

将来を見据えて必要とされる有用なデザインスキル、デザイナーとしての思考を体得する。

第1課題は社会におけるデザイナーの実務を想定し、グループで問題発見からソリューションまでプロジェクト型で演習を進める。

第2課題は家電/情報、生活雑貨/家具、トランスポートレーションなどの領域ごとに課題を設定する。

その中から自分の進路や将来を想定し、課題を選択する。

社会や技術の動向を踏まえ、調査、問題探索も含めた新規性の高いソリューションデザインや商品の企画、仕様、造形を通して、質の高いプロダクトデザインを提案する。

達成目標

デザイナーとしての発想力、企画力、造形力、プレゼンテーション能力の獲得。

さらに社会のニーズに応えられるようなソリューション発想を体得する。

また社会人としての認識やモラルを身に付け就職、進学等への活動に臨めるようにする。

授業計画

01 ガイダンス

02～07 第1課題（グループ分け、課題発見、コンセプト立案、アイデア展開、制作）

08 第1課題 プレゼンテーション

09～14 第2課題（調査、コンセプト立案、アイデア展開、評価、制作）

15 第2課題 プレゼンテーション

（詳細な進行は設定された課題、テーマによる）

学生に対する成績評価基準

単位取得には10回以上の出席を必須とする。

成績については2つの課題の得点を均等に評価し基準点とする。

欠席日数や授業参加態度は最終評価において減点の対象となる。

参考書・参考資料等

個別に指示する

用具

アイデア展開に必要な画材およびコンピュータ。

モデル制作に必要な材料、各道具類は各自準備すること。

履修希望者への要望・事前準備

本授業はプロダクトデザイナーになるための教育として、仕上げる段階にある。

学生個々が自分の将来を見据えて課題選択すること。

またこの授業での作品が自分の代表作となることを意識し、自主的・積極的に臨んでほしい。

テキスタイル・ファッション演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位
◎鈴木均治、川越ゆかり、菊池加代子

授業の概要およびテーマ

織・染・ファッションから何れか一つ選択する。

織：「織物の構造を理解し、織機を用いて自由な布が制作出来る」を目標に糸染めも含めた基礎技術の習得とそれを応用したテキスタイルデザインを実践する。

染：型染め（型糊防染・型紙捺染・スクリーン捺染）を通してリピート模様の染色を布に実践する。

ファッション：ベーシック（原型パターン）からのデザイン展開、マテリアル研究、立体裁断と平面構成によるパターン制作、製造工程の理解とともに作品製作までの基礎的服飾造形手法を習得する。マーケティングマップ等の制作方法を習得しポートフォリオを制作する。

達成目標

染・織共通

- ・課題の内容をレポートにまとめ整理することが出来る。
- ・制作習慣が身についており、また計画通りに作業を進めることが出来る。
- ・教授された方法で糸や布を扱い染や織をすることが出来る。
- ・安全に注意を払いガス・薬品・器械等を取り扱うことが出来る。

染

- ・技法の特性を理解しイメージを具現化することが出来る。

織

- ・織機と糸と組織の関係を理解し、作品を制作し発表することが出来る。

ファッション

- ・生地とデザインの関係性を理解できる。
- ・プロダクトとしてのファッションの役割と時代の流れを読み取り、デザインに活かすことが出来る。
- ・個々のデザインイメージは筋道を立てコンセプトを立案し「使えるモノ」として具現化することが出来る。

授業計画

織

01～07 〈織物組織〉ガイダンス・織物組織解説・サンプル制作・作品（厚い布）デザイン・制作・講評

08～15 〈絛織り〉絛織り解説・サンプル制作・作品（薄い布）デザイン・制作・講評

染

01～03 型防染技法による（引き染め）植物柄の作成

04～10 型紙捺染技法による植物柄および自由柄の作成

11～15 スクリーン捺染技法による幾何文様等の作成

ファッション

01～04 表現基礎Ⅰ（原型パターン理論、立体裁断）

05～08 表現基礎Ⅱ（リサーチによるコンセプト立案、立体裁断と平面構成によるパターン制作、材料研究）

09～14 加工、裁断、縫製 マーケティング方法論

15 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

課題や制作への理解度と受講姿勢50%、作品による評価50%

出席率2／3を下回る場合、課題提出の有無・内容に関係なく単位は与えません。また出席率2／3を上回る場合でも作品・制作姿勢の内容によっては単位を与えないことがあります。

出席・遅刻の基準

始業時までを出席。20分までを遅刻とする。

テキスト

ファッション：専門書が必要となり初回概説にて指示します。

用具

ファッション：洋裁材料一式（ハサミ等）その他は初回概説にて指示します。

履修希望者への要望・事前準備

授業間の制作作業では、授業進度に合わせて各自が計画的に進めてください。授業は主としてレクチャー及びデザインチェック、受講者からの疑問等を解決する時間です。またデザイン案を求められた際には一案だけでなく必ず複数案準備しておくよう心がけてください。

テキスタイル・ファッション演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位
◎鈴木均治、菊池加代子、専任教員

授業の概要およびテーマ

演習Ⅰで履修した同分野を履修する。

織：織物の確かな知識と技術を基に、イメージ・素材・技法の連関を認識した作品制作を行なう。素材や技法の枠を超え、既成概念にとらわれない自由なテキスタイルデザインの創作を実践する。

染：前演習で修得した知識・技法をベースに、イメージ・素材・技法の連関を意識して、制作を通して染色表現の可能性を探索する。

ファッション：マーケットリサーチをもとにブランディングのコンセプト立案をする。コンセプトより商品企画を考察し、ウェアを始めファッションの領域であるバッグや帽子などのデザインおよびマテリアル研究を行う。パターンにおいては立体裁断と平面構成（CAD）を使用し、より効率的な作業手法を習得する。

ブランディングをもとにポートフォリオを制作する。

達成目標

染・織共通

- ・課題の内容をレポートにまとめ整理することが出来る。
- ・制作習慣が身についており、また計画通りに作業を進めることが出来る。
- ・教授された方法で糸や布を扱い染や織をすることが出来る。
- ・安全に注意を払いガス・薬品・器械等を取り扱うことが出来る。

染

- ・技法および素材の特性を理解、また布に染めることの意味を考察した上で作業が行われている。

織

- ・素材の特性・織組織・機の仕組みを理解し、作品制作し発表が出来る。

ファッション

- ・筋道の通ったコンセプト（時代の流れを読み取り配慮したもの＝着目点）を立てることが出来る。
- ・コンセプトに基づいたデザインワークおよび作品制作が出来る。

授業計画

織

01～07 〈二重織り〉サンプル制作・植物繊維の染色・作品（立体orレリーフ状の布）デザイン・制作・講評

08～15 〈コンピュータドビールーム〉サンプル制作・作品制作・講評

染

01～05 生地とは異なった表情をもつ染布の提案（錯視効果などを利用したリピート模様を制作する。）

06～12 布の二次製品への展開を考慮した模様染め1（指定された生地から用途を決め、生地の特性に合ったリピート模様を提案する）

13～15 布の展開を考慮した模様染め2（ラッピングの発想から風呂敷を制作する）

ファッション

01～05 表現基礎Ⅲ マーケティング、コンセプト立案、コーディネート考案、素材研究、デザイン決定

06～09 立体裁断、平面構成によるパターン制作、ポートフォリオ制作

10～14 加工、裁断、縫製

15 ポートフォリオをもとにプレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

課題や制作への理解度と受講姿勢50%、作品による評価50%

出席率2／3を下回る場合、課題提出の有無・内容に関係なく単位は与えません。また出席率2／3を上回る場合でも作品・制作姿勢の内容によっては単位を与えないことがあります。

出席・遅刻の基準

始業時までを出席。20分までを遅刻とする。

用具

ファッション：プログラムにおいて適宜購入

履修希望者への要望・事前準備

授業間の制作作業では、授業進度に合わせて各自が計画的に進めてください。授業は主としてレクチャー及びデザインチェック、受講者からの疑問等を解決する時間です。またデザイン案を求められた際には一案だけでなく必ず複数案準備しておくよう心がけてください。

10-3-3 専門教育科目[プロダクトデザイン学科ゼミ科目、卒業研究]

ゼミⅠ

3学年 前期 必修 演習 2単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、川越ゆかり、
菊池加代子、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲

授業の概要およびテーマ

- ・課題内容、進行は研究室毎に設定し、専門書の輪読、テーマを設定しての調査、実際のデザインワーク、スキルアップのトレーニングなど多岐にわたる。
- ・研究室毎の内容についてはガイダンスの時に資料を配付するので選択の参考にする。
- ・学生は研究室の授業を2つ選択し、前後期でそれぞれ履修するが履修時期の指定はできない。
- ・コースの枠は無く、異なるコースの研究室の授業を履修することも可能である。
- ・一度の授業の履修人数は5人以下とするため、1つの研究室で受け入れる学生の人数はゼミⅠ・Ⅱ合わせて10人が上限 となる。前後期とも同じゼミの履修選択も可能だが、定員をオーバーした場合は成績上位の学生の希望を優先する。
- ・ゼミの選択と卒業研究の研究室配属は同じである必要はなく、異なる研究室を希望しても構わない。

達成目標

- ・デザインに対する知識、技術の幅を広げること。
- ・教員の専門性を認識し、研究室配属の一助となるようにすること。

授業計画

4/4(水): 3年生ガイダンス時、研究室毎の授業内容の資料・アンケート用意配付
4/6(金): 希望研究室のアンケート締め切り
4/9(月): 配属研究室の発表

以降は、それぞれの研究室による授業計画による。
第1回目の授業において指示される。

学生に対する成績評価基準

提出物・成果物の得点から、欠席、遅刻、履修態度により減点する。

参考書・参考資料等

各研究室ごとに、必要に応じ指示・配付する。

履修希望者への要望・事前準備

多様なものの見方が必要なデザイナーにとって、いろいろな分野に対する知識や見聞を得る機会として、積極的な姿勢で臨むこと。

ゼミⅡ

3学年 後期 必修 演習 2単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、
境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲、専任教員

授業の概要およびテーマ

- ・課題内容、進行は研究室毎に設定し、専門書の輪読、テーマを設定しての調査、実際のデザインワーク、スキルアップのトレーニングなど多岐にわたる。
- ・研究室毎の内容については、前期ガイダンス時に配付した資料に準ずる。
- ・前期で決定した履修時期・研究室に従って履修となる。履修時期の指定はできない。

達成目標

- ・デザインに対する知識、技術の幅を広げること。
- ・教員の専門性を認識し、研究室配属の一助となるようにすること。

授業計画

それぞれの研究室の履修内容に沿った授業計画となる。
日程・計画については、第一回目の授業において指示がある。

学生に対する成績評価基準

提出物・成果物の得点から、欠席、遅刻、履修態度により減点する。

参考書・参考資料等

各研究室ごとに必要に応じ指示・配付する

履修希望者への要望・事前準備

多様なものの見方を必要とされるデザイナーにとって、いろいろな分野に対する知識や見聞を得る機会として積極的に臨むこと。

卒業研究Ⅰ

4 学年 前期 必修 演習 3 単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、川越ゆかり、
菊池加代子、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲

授業の概要およびテーマ

個人又は共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「研究論文」又は「論文及び制作」のための骨格・コンセプト・サンプルをまとめる。
その内容と規模は、それまでの学習を集大成するものであること。

達成目標

- ・スケジュールを順守し、それぞれ定められた内容を達成すること。
- ・今までに学んだことを十二分に発揮したものであること。
- ・提案においては既存のものには見られない「新しさ」を感じさせること。
- ・各自の提案に基づき、スケッチ・ボード・映像・ラフモックアップ・サンプルなどを用いた効果的なプレゼンテーションを行うこと。

授業計画

コース／研究室毎に異なるため、詳細は指導教員より指示を受けること。

チェック・審査は学科全体で行う。

01～02 ガイダンス・スケジュール計画

03～04 情報収集・調査・分析

05～07 テーマ設定・試作 中間チェック

08～10 「制作物」または「論文」の進捗状況チェック

11～14 発表用制作・準備・試作

学生に対する成績評価基準

履修態度、研究のプロセス、成果物の完成度などを勘案し、総合的に判断する。

出席・遅刻の基準

各研究室でルールを設定する。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

履修希望者への要望・事前準備

4 年間の学生生活最後の課題であり、集大成の作品としての完成度をを目指すこと。

卒業研究Ⅱ

4 学年 後期 必修 演習 3 単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、
境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲、専任教員

授業の概要およびテーマ

個人又は共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「研究論文」又は「論文及び制作」を行う。
・その内容と規模は、それまでの学習を集大成するものであること。
・卒業研究Ⅰと連続したテーマであること。

達成目標

- ・これまで学んだことを十分に発揮した作品であること。
- ・提案においては、既存のものにはみられない「新しさ」を感じさせること。
- ・本人の意図が第三者に100%伝わり、かつ美しいものであること。
- ・簡潔で制作意図が伝わる効果的なプレゼンテーションを行うこと。

授業計画

コース／研究室毎に異なるため、詳細は指導教員より指示を受けること。

チェック・審査は学科全体で行う。

01～03：中間発表に基づくデザイン決定と制作

04～11：制作・進捗状況チェック

12～14：完成度チェック・パネル制作・プレゼンテーションリハーサル

15：研究発表・審査

学生に対する成績評価基準

研究のプロセス、成果物の完成度をもとに、履修態度などを勘案し、総合的に判断する。

出席・遅刻の基準

各研究室でルールを設定する。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等

授業時に各研究室より、必要に応じ指示または配付する。

履修希望者への要望・事前準備

大学生活の集大成として、自身の代表作となるようなクオリティの高い作品づくりを目指すこと。
本科目は卒業研究Ⅰの単位を修得していなければ履修できない。

10-4-1 専門教育科目 [視覚デザイン学科共通]

視覚コンピュータ基礎演習

1 学年 前期 必修 演習 2 単位

◎徳久達彦、金 牟洙、ヨールグ ビューラ、真壁 友

授業の概要およびテーマ

コンピュータはコミュニケーションの道具として欠かせないものになってきており、学内での掲示連絡手段としても活用されている。この授業では大学生活に必要な基本的なコンピュータの操作から始まり、自分のパソコンをデザイン道具として使う為の基本を、業界標準となっているソフトウェアを使い練習していく。簡単な図形を描くことから始まり、実際にデザインを行える技術と伝えるための方法へと発展させる。

達成目標

- ・コンピュータの基本の扱いを理解できる。
- ・Illustrator、Photoshopの基本操作を習得できる。
- ・情報のレイアウトの基本について理解できる。

授業計画

- 1 Illustratorの基本操作 1
- 2 Illustratorの基本操作 2
- 3 Illustratorの基本操作 3
- 4 Illustratorの基本操作 4
- 5 Illustratorの基本操作 5
- 6 Illustratorの基本操作 6
- 7 Photoshopの基本操作 1
- 8 Photoshopの基本操作 2
- 9 Photoshopの基本操作 3
- 10 Photoshopの基本操作 4
- 11 Photoshopの基本操作 5
- 12 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 1
- 13 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 2
- 14 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 3
- 15 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 4

学生に対する成績評価基準

課題提出により評価

テキスト

授業時にプリントを配付する

参考書・参考資料等

授業中に適時指示

用具

ノートパソコン、Adobe CC

履修希望者への要望・事前準備

この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行う。操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を望む。授業開始時に重要な説明を行う事が多い。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となる。毎回の授業でノートパソコンを使います。ノートパソコン、電源アダプタ、ネットワーク接続用のケーブルを持参してください。

基礎造形実習Ⅱ（描写）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位

履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。デッサンをテーマとする。ここで言うデッサンは、対象を的確に捉え自分の手で再現することである。そのため、鉛筆で描くだけでなく油粘土を使用した立体による制作も行う。

達成目標

目の前の対象を的確に捉え、油粘土で再現することができる。同様に鉛筆で描き再現することができる。

授業計画

01 デッサン 1 「手」	油粘土による模刻 1
02 デッサン 1 「手」	油粘土による模刻 2
03 デッサン 1 「手」	油粘土による模刻 3
04 デッサン 1 「手」	油粘土による模刻 4
05 デッサン 1 「手」	鉛筆によるデッサン 1
06 デッサン 1 「手」	鉛筆によるデッサン 2
07 デッサン 1 「手」	鉛筆によるデッサン 3
08 デッサン 2 「頭部」	油粘土による模刻 1
09 デッサン 2 「頭部」	油粘土による模刻 2
10 デッサン 2 「頭部」	油粘土による模刻 3
11 デッサン 2 「頭部」	油粘土による模刻 4
12 デッサン 2 「頭部」	鉛筆によるデッサン 1
13 デッサン 2 「頭部」	鉛筆によるデッサン 1
14 デッサン 2 「頭部」	鉛筆によるデッサン 1
15 デッサン 2 「頭部」	鉛筆によるデッサン 1

学生に対する成績評価基準

課題70%、授業態度30%

※ 遅刻・欠席は最終評価より減点します。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。授業開始20分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。

参考書・参考資料等

回の内容に応じ配付及び指示します。

履修希望者への要望・事前準備

必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。

基礎造形実習Ⅱ（造形）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。グラフィックを中心テーマとする。文字のバランス、グラフィックにおける基本図形の扱いのトレーニング、マーク・シンボルの作成、写真の撮影を行う。

達成目標

文字を書くときに最も大切な「バランスを保つこと」ができる。グラフィックにおける基本図形の扱い・効果を理解し、活用することができる。

図を単純化しながら、的確で効果的にヴィジュアルコミュニケーションできる。

写真撮影の基礎技術を理解することができる。

授業計画

- 01 グラフィック 1-1 タイポグラフィ 1
- 02 グラフィック 1-1 タイポグラフィ 2
- 03 グラフィック 1-1 タイポグラフィ 3
- 04 グラフィック 1-1 タイポグラフィ 4
- 05 グラフィック 1-2 グラフィック・トレーニング 1
- 06 グラフィック 1-2 グラフィック・トレーニング 2
- 07 グラフィック 1-2 グラフィック・トレーニング 3
- 08 グラフィック 1-2 グラフィック・トレーニング 4
- 09 グラフィック 1-3 マーク・シンボル 1
- 10 グラフィック 1-3 マーク・シンボル 2
- 11 グラフィック 1-3 マーク・シンボル 3
- 12 グラフィック 1-3 マーク・シンボル 4
- 13 写真「携帯電話の撮影」 1
- 14 写真「携帯電話の撮影」 2
- 15 写真「携帯電話の撮影」 3

学生に対する成績評価基準

課題70%、授業態度30%

※ 遅刻・欠席は最終評価より減点します。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。

授業開始20分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。

遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。

参考書・参考資料等

回の内容に応じ配付及び指示します。

履修希望者への要望・事前準備

必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。

基礎造形実習Ⅱ（素形材）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。写真、映像をテーマとする。携帯電話、小物の撮影で写真撮影の基礎技術を修得し、短い映像作品の制作で映像撮影・編集の基礎技術を修得する。

達成目標

写真撮影の基礎技術を理解し、実践することができる。

映像撮影・編集の基礎技術を理解し、実践することができる。

授業計画

- 01 写真「携帯電話の撮影」 4
- 02 写真「携帯電話の撮影」 5
- 03 写真「小物の撮影」 1
- 04 写真「小物の撮影」 2
- 05 写真「小物の撮影」 3
- 06 写真「小物の撮影」 4
- 07 写真「小物の撮影」 5
- 08 映像「1分の映像制作」 1
- 09 映像「1分の映像制作」 2
- 10 映像「1分の映像制作」 3
- 11 映像「1分の映像制作」 4
- 12 映像「1分の映像制作」 5
- 13 映像「1分の映像制作」 6
- 14 映像「1分の映像制作」 7
- 15 映像「1分の映像制作」 8

学生に対する成績評価基準

課題70%、授業態度30%

※ 遅刻・欠席は最終評価より減点します。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。

授業開始20分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。

遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。

参考書・参考資料等

回の内容に応じ配付及び指示します。

履修希望者への要望・事前準備

必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。グラフィックをテーマとする。名作ポスターの模写でポスター制作について理解を深め、その後与えられたテーマに対して各自のポスター制作を行う。

達成目標

名作ポスターの魅力を理解し、再現することができる。
与えられたテーマに対して各自の視点で魅力的な形を探り、ポスターに落とし込むことができる。

授業計画

- 01 グラフィック 2 名作ポスター模写 1
- 02 グラフィック 2 名作ポスター模写 2
- 03 グラフィック 2 名作ポスター模写 3
- 04 グラフィック 3 ポスター 1
- 05 グラフィック 3 ポスター 2
- 06 グラフィック 3 ポスター 3
- 07 グラフィック 3 ポスター 4
- 08 グラフィック 3 ポスター 5
- 09 グラフィック 3 ポスター 6
- 10 グラフィック 3 ポスター 7
- 11 グラフィック 3 ポスター 8
- 12 グラフィック 3 ポスター 9
- 13 グラフィック 3 ポスター 10
- 14 グラフィック 3 ポスター 11
- 15 グラフィック 3 ポスター 12

学生に対する成績評価基準

課題70%、授業態度30%

※ 遅刻・欠席は最終評価より減点します。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。
授業開始20分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。
遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。

参考書・参考資料等

回の内容に応じ配付及び指示します。

履修希望者への要望・事前準備

必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。

視覚コンピュータⅠ

1 学年 後期 必修 演習 2 単位
◎金 牟洙、徳久達彦、ヨールグ ビューラ、真壁 友

授業の概要およびテーマ

この演習は前期のコンピュータ基礎演習からの続きとなります。前期ではAdobe IllustratorとPhotoShopの基本操作を習得しました。この演習ではそれらの技術をデザインで使える技術とするためにトレーニングを行います。また単にコンピュータの操作だけではなく、情報の整理、レイアウトの基本といったデザインを構成する上で必要になる項目を学びます。この授業はコンピュータのソフトウェアの使い方を学ぶだけではなく反復的なトレーニングを通してデザインに必要な基礎技術の習得を目的とします。

達成目標

Adobe Illustratorを使い正確な作図が出来る。
Adobe PhotoShopを使い正確な作業が出来る。
文様やロゴマーク等、割り出し図を理解し、作図出来る。
様々な情報を含む紙面のレイアウトの基礎を理解する。
データの受け渡し、印刷についての基礎を理解する。

授業計画

- 1 ロゴの作図 1
- 2 ロゴの作図 2
- 3 ロゴの作図 3
- 4 レイアウト・情報の整理 1
- 5 レイアウト・情報の整理 2
- 6 レイアウト・情報の整理 3
- 7 模写 1
- 8 模写 2
- 9 模写 3
- 10 模写 4
- 11 総合課題 1
- 12 総合課題 2
- 13 総合課題 3
- 14 総合課題 4
- 15 総合課題 5

学生に対する成績評価基準

提出作品により評価

テキスト

毎回の授業で配付します。

用具

ノートパソコン、Adobe CC

履修希望者への要望・事前準備

毎回の授業でノートパソコンを使います。ノートパソコン、電源アダプタ、ネットワーク接続用のケーブルを持参してください。

視覚デザイン基礎演習Ⅰ

2 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎池田光宏、阿部充夫、吉川賢一郎、金 隼洙、徳久達彦、
長瀬公彦、長谷川博紀、ヨールグ ビューラ、真壁 友、
松本明彦、御法川哲郎、山田博行、山本 敦、迫 一成、
さとうりさ、古屋貴広、三田村光土里

授業の概要およびテーマ

視覚表現の基礎となるアイデアと発想に重点を置く。またその発想をどのように具体化して、どのように伝えるかを学び後期の演習に備える。1 年次に修得した造形の知識と技術を活かし、視覚デザインに必要な思考（主にアイデアの抽出）に焦点をあてて視覚によるコミュニケーション能力の向上を目指す。

達成目標

- ・課題の指示を正確に読み取り作品制作ができる。
- ・作品発表に際して、制作意図を十分に伝えられる。
- ・スケジュール管理をし、課題作品提出締め切りまでに作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス 第1 課題出題、導入
- 02 アイデアチェック 制作
- 03 中間チェック
- 04 講評
- 05 発表、全体講評、提出
- 06 第2 課題出題、導入
- 07 中間チェック
- 08 アイデアチェック、制作
- 09 講評
- 10 発表、全体講評、提出
- 11 第3 課題出題、導入
- 12 中間チェック
- 13 アイデアチェック、制作
- 14 講評
- 15 発表、全体講評、提出 視覚デザイン基礎演習Ⅱへの導入

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%
課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された、次回までに行うべき調査等、自学自習内容をメモし準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。

視覚コンピュータⅡ

2 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎真壁 友、徳久達彦、矢尾板和宣

授業の概要およびテーマ

この演習ではInDesignの基本操作、情報の整理を含めたレイアウトの作成、そしてWebデザインについて学びます。

InDesignはエディトリアルのためのソフトウェアです。ページ数の多い紙媒体の作品をつくるための基本を習得します。また情報の整理の仕方、情報整理を含むレイアウト手法について取り組みます。その発展としてwebページのレイアウトの基礎を学びます。

達成目標

InDesignの基本操作を身につける。
情報を整理したレイアウトが行える。
webページのレイアウトの基礎について学ぶ。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 InDesignの基本（1）
- 3 InDesignの基本（2）
- 4 InDesignの基本（3）
- 5 InDesignの基本（4）
- 6 InDesignの基本（5）
- 7 InDesignの基本（6）
- 8 InDesignの基本（7）
- 9 情報の整理とレイアウト（1）
- 10 情報の整理とレイアウト（2）
- 11 情報の整理とレイアウト（3）
- 12 情報の整理とレイアウト（4）
- 13 Webデザイン レイアウト（1）
- 14 Webデザイン レイアウト（2）
- 15 Webデザイン レイアウト（3）

学生に対する成績評価基準

提出作品により評価します。

テキスト

授業中に配付します。

用具

ノートパソコンを毎回持参する事。

Adobe CC（PhotoShop, Illustrator, InDesign）をインストールしておくこと。

履修希望者への要望・事前準備

1 年次のコンピュータの授業からの延長になりますが取り扱う内容が高度になります。

コンピュータの基本操作、Adobe IllustratorやPhotShopといったツールを使える事が授業の前提になります。

視覚デザイン基礎演習Ⅱ

2 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎池田光宏、阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、金 冨洙、
徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、ヨールグ ビューラ、
真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、山田博行、山本 敦、
迫 一成、さとうりさ、古屋貴広

授業の概要およびテーマ

視覚デザイン基礎演習Ⅰで学んだことをさらに発展させる。視覚表現の基礎となるアイデアと発想に重点を置き、またその発想をどのように具体化して、どのように伝えるかを中心に据えながら3年次の演習へ発展させるための導入として、伝達デザイン・表現デザインに関わる具体的な課題制作にも取り組む。

達成目標

- ・課題の指示を正確に読み取り作品制作ができる。
- ・作品発表に際して、制作意図を十分に伝えられる。
- ・スケジュール管理をし、課題作品提出締め切りまでに作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス 第1 課題出題、導入
- 02 アイデアチェック 制作
- 03 中間チェック
- 04 講評
- 05 発表、全体講評、提出
- 06 第2 課題出題、導入
- 07 中間チェック
- 08 アイデアチェック、制作
- 09 講評
- 10 発表、全体講評、提出
- 11 第3 課題出題、導入
- 12 中間チェック
- 13 アイデアチェック、制作
- 14 講評
- 15 発表、全体講評、提出

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%

課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された、次回までに行うべき調査等、自学自習内容をメモし準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。

ポートフォリオ

3 学年 前期／後期 必修 演習 2 単位

◎池田光宏、阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、金 冨洙、
徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、ヨールグ ビューラ、
真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、山田博行、山本 敦

授業の概要およびテーマ

ポートフォリオはクリエイターには欠かす事のできないコミュニケーションツールの1つです。

この授業では、ポートフォリオを制作する上での様々な手法について研究し、学生各自がこれまでに制作した作品やプロジェクトをアーカイブし、個々のアプローチに準じた方法でオリジナリティーのあるポートフォリオを制作します。また、それを用いたプレゼンテーションについて学習し、実践に備えます。

達成目標

- ・制作した作品やプロジェクトをアーカイブしたポートフォリオを制作できる。
- ・ポートフォリオを使いプレゼンテーションができる。
- ・スケジュール管理をし、課題作品提出締め切りまでに作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 いろいろなポートフォリオの研究について
- 03 ポートフォリオの編集とレイアウトについて
- 04 ポートフォリオの記録写真の制作について
- 05 ポートフォリオの記録写真の制作について
- 06 ページ設計について
- 07 映像ポートフォリオについて
- 08 webポートフォリオについて
- 09 中間講評
- 10 中間講評
- 11 プレゼンテーションと講評
- 12 プレゼンテーションと講評
- 13 プレゼンテーションと講評
- 14 プレゼンテーションと講評
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

課題提出70%

授業参加態度30%

課題提出が締め切りを過ぎた場合は減点します。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業で学習したことをベースに各自が自主的にポートフォリオを制作し、新たな作品やプロジェクトがあれば随時アップデートすること。

遅刻厳禁、課題提出日厳守。

写真映像基礎

2 学年 前期 選択 講義 4 単位

◎松本明彦、阿部充夫、ヨールグ ビューラ、山田博行、佐藤誠二、長谷川隆之

授業の概要およびテーマ

本授業は、視覚デザインに欠かすことができない写真と映像両方のハンドリングを、履修者全員が学びます。各学生が、写真が先か映像が先かは、ガイダンス時に告知します。

写真ではデジタル一眼レフカメラとスタジオ機材の操作と、画像処理の基本を学びます。

映像では、撮影手法と編集技術知識を得ます。決まったテーマに沿って実際の映像作品を制作します。

達成目標

デジタル一眼レフカメラでスタジオ撮影をし、画像処理し上げることが出来る。

時間経過メディアの特性を理解し、アイデアから仕上げまで、機材の使い方を含めてデジタルムービー制作の基礎を習得できる。その上で映像作品を制作できる。

授業計画

0. ガイダンス

〈写真〉

1. デジタル一眼レフカメラ使い方の基本
スタジオ機材使い方の基本
2. PCに繋げての撮影
アイランプ 直接光と間接光、トレペ、レフ板の使い方
3. スタジオでの物撮りの基礎
4. スタジオでの人物撮影の基礎
5. 屋外での人物撮影の基礎
6. 撮影
7. 講評会
〈映像〉
1. 「撮影技術 1」：カメラ、三脚
2. 「撮影技術 2」：録音、ライティング
「ストーリー 1」絵の繋がり
「課題」アイデアチェック 1
3. 「撮影技術 3」、「ワークフロー」
「ストーリー 2」絵コンテ
「課題」アイデアチェック 2、撮影プラン
4. 「編集技術 1」：編集ソフトの導入
「課題」素材の読み込み、粗編
5. 「編集技術 2」：タイムラインでの操作
「課題」本編
6. 「編集技術 3」：文字と音の扱い方
「課題」オーディオ編集、タイトルデザイン、仕上げ
7. 「課題」課題提出、講評会

学生に対する成績評価基準

課題80%

積極性など授業態度20%

履修希望者への要望・事前準備

写真・映像業界のみならず、デザイン業界でも今や写真・映像は必須です。将来写真・映像方面へ進みたい学生はもちろん、アートディレクター、デザイナーとして、カメラマンと一緒に仕事をしたい学生も、積極的に受講してください。「写真映像基礎」で学んだ知識と技術は、AD、Dとして自分の指示や希望を出したり、P、Cの意図を読み取ったりする時に、必ず役に立つでしょう。

描写表現基礎

2 学年 前期 選択 演習 4 単位

◎御法川哲郎、長瀬公彦、内堀 豪

授業の概要およびテーマ

この演習では、木炭やコンテを使用し、目の前の対象を紙の上に描きとらえる（認識・把握する）作業を行う。目的は、描く行為によるヴィジュアルコミュニケーションの能力を高めることである。自分が見ている対象がどのようなものなのかを、描いて他者に伝える。その際、見たものを的確に他者に伝えるためには、的確に描かなければならない。的確に描くためにはトレーニングが必要となる。1 年次の基礎造形実習での描く作業による成果を基に、さらにトレーニングを積み重ねる。1 年次に学習した内容を再確認し、さらに1 段上の力の獲得を目指す。また美術史の巨匠を参考にし、対象のとらえ方・技術を学ぶ。

達成目標

目の前の対象を、紙の上に的確に描きとらえる力を獲得する。

美術史の巨匠から、対象のとらえ方・技術を吸収する。

授業計画

- 01 ガイダンス、課題 1 「石膏像を描く 1 / 木炭」制作
- 02 制作
- 03 制作、講評
- 04 課題 2 「友人を描く / 木炭」制作
- 05 制作
- 06 制作
- 07 制作、講評
- 08 課題 3 「石膏像を描く 2 / 木炭もしくは白・黒コンテ」制作
- 09 制作
- 10 制作
- 11 制作、講評
- 12 課題 4 「モデルを描く / 木炭もしくは白・黒コンテ」制作
- 13 制作
- 14 制作
- 15 制作、講評

学生に対する成績評価基準

課題80%、授業態度20%

テキスト

回の内容に応じ配付及び指示します。

用具

木炭、白・黒コンテ、木炭紙、画用紙、木炭紙大スケッチブック他、授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

描く能力を武器にしたいと考えている学生は履修すること。能力の獲得には、できるまでトレーニングが必要である。

タイポグラフィ基礎

2 学年 前期 選択 演習 4 単位
◎天野 誠、吉川賢一郎、阿部宏史

授業の概要およびテーマ

タイポグラフィとは、情報伝達デザインの中で最も基本的な文字を扱う技術や知識である。具体的には、書体を選択することや字間のバランスを整えてレイアウトし、美しく効果的な紙面を作り上げる技術とそのための方法のこと。これらの技術と知識を習得することで、文字情報伝達の大切さを理解し、世の中のデザインの善し悪しを見極めることができるようになり、様々な問題を改善する力を養うことができるようになる。

達成目標

- ・文字に関する基本的な知識と扱い方が修得できる。
- ・文字の形を観察し、構造を理解することができる。
- ・文字を読みやすく、分かりやすく構成することができる。

授業計画

- 1 回目：ガイダンス／レクチャー「和欧混植」／和欧混植のスペーシング 1
- 2 回目：和欧混植のスペーシング 2
- 3 回目：和欧混植のスペーシング 3
- 4 回目：レクチャー「書体について」／和欧混植のスペーシング 4
- 5 回目：紙面における文字の配置 1
- 6 回目：紙面における文字の配置 2
- 7 回目：紙面における文字の配置 3
- 8 回目：紙面における文字の配置 4
- 9 回目：レクチャー「欧文書体」／欧文書体の構成
- 10 回目：文字だけを使ったポスターの制作
- 11 回目：同上
- 12 回目：同上
- 13 回目：同上
- 14 回目：同上
- 15 回目：提出、採点、返却

学生に対する成績評価基準

提出課題の作品に対する評価を70%とし、授業態度、主に出欠状況に対する評価を残りの30%とする。欠席が1/3（5回）以上の場合や課題提出が締め切りを過ぎた場合は、その遅れた度合いにより減点する。たとえ作品を提出していても、著しく欠席が多い場合は単位を与えないので注意すること。

B評価：文字の基本的な扱い、「読みやすく、分かりやすい構成」ができた。

A評価：学んだことを生かし、造形的に魅力的である。

S評価：より独創的で個性を反映させている。

テキスト

必要に応じて適宜指示する。

参考書・参考資料等

参考書は必要に応じて適宜指示し、資料は配付する。

用具

筆記用具、カッターナイフ、カッターマット、ハサミ、メンディングテープ、三角定規セット、30cm以上の直定規、A4判クリアファイル（40ポケットくらい）。

履修希望者への要望・事前準備

授業は毎回実習を行うので、集中力して受講すること。課題は基本的に毎回違う内容で行うので、欠席することのないように。なお初回のガイダンスを欠席した学生は、履修登録を認めない場合があるので注意すること。毎回の成果物（作品）はA4判クリアファイルにストックする。このファイルにストックされた作品も評価の対象となるので、日頃から整理し授業時間以外でも積極的に制作して、作品数を増やすよう心掛けること。

Webデザイン

2 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎真壁 友、徳久達彦、中西清吾、村山直幸、矢尾板和宣

授業の概要およびテーマ

インターネットは社会の基本的なインフラの一つとなっています。そのメディアを使い情報を発信する基本がWebです。このWebをデザインする技術が現在求められています。この授業ではWebサイトを構築するために必要になる情報の整理、見せ方を学びます。またWebサイトを実装するために必要となる基本技術となるHTMLとCSSのコーディングについて学びます。Webページはパソコンだけでなくスマートフォンを使い見るものになっています。この両方の機器に対応したレスポンスデザインという手法が普通に使われています。この授業ではこのレスポンスデザインについて学びます。情報のまとめ方、デザイン作業、実際のコーディングまでを取り扱います。

達成目標

与えられたテーマに沿ったwebサイトのデザインが行える。
HTML+CSSを使いサイトデザインの実装が行える。
jQueryを使って簡単な仕掛けが作れる。
CMS（WordPress）の仕組みを理解する。

授業計画

- 1 ガイダンス 課題1について説明
- 2 コーディング
- 3 コーディング
- 4 コーディング
- 5 コーディング
- 6 課題1 作業
- 7 課題1 作業
- 8 プレゼンテーション
- 9 課題2について説明
- 10 課題2
- 11 課題2
- 12 課題2
- 13 課題2
- 14 プレゼンテーション
- 15 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

課題の狙いを理解出来ているか。課題を理解したアイデアを考えられるか。丁寧な仕上がりが出来ているか。

課題毎のプレゼンテーションは必須とします。

プレゼンテーションと提出作品により評価します。

締め切り厳守。締め切り後の提出は0点となります。

テキスト

授業中に配付します。

参考書・参考資料等

ドットインストール{<http://dotinstall.com>}

用具

Adobe CC（Dreamweaver, Photoshop, Illustrator）

Webレンタルサーバー

用具については初回授業で詳しく説明します。

履修希望者への要望・事前準備

この授業ではwebデザインの画面レイアウト、情報の扱い、実際にデザインを制作するコーディングまでを扱います。作業の中ではAdobe IllustratorやPhotoshopといったツールを当たり前使える事が授業の前提になります。

DTP

2 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎天野 誠、金 牟洙、関谷恵理奈

授業の概要およびテーマ

DTP（デスクトップパブリッシング）とは、出版物の原稿作成やデザイン、レイアウトなどの作業をコンピュータで行い、印刷用のデータを作成する一連の作業のことである。「タイポグラフィ基礎」（2 年前期）で学んだ文字組みの基礎を、デジタル文字組版へと発展させ実践的なトレーニングを目指す。

更に「タイポグラフィ」（2 年後期）と並行して受講することで、より文字を扱うデザインの基礎力を効果的に養うことができる。

また単にポートフォリオや作品を制作するための技術の修得ではなく、実際のデザインやDTPの現場でも通用する基礎的な技術と知識を習得することも目的とする。

達成目標

- ・ Adobe InDesignやIllustratorなど、DTPに必要な基本アプリケーションの基本的な技術を習得できる。
- ・ 実際のデザインの現場で求められる基本的なスキルを習得できる。

授業計画

- 1 回目：ガイダンス／InDesignの基礎オペレーション
- 2 回目：InDesignの基礎オペレーション
- 3 回目：文字組版の基礎知識／フォーマット分析
- 4 回目：フォーマット再現／フォーマットのリデザイン
- 5 回目：フォーマットのリデザイン
- 6 回目：書籍本文組版
- 7 回目：書籍本文組版
- 8 回目：書籍本文組版
- 9 回目：講評／修正
- 10 回目：雑誌紙面のリデザイン
- 11 回目：雑誌紙面のリデザイン
- 12 回目：雑誌紙面のリデザイン
- 13 回目：雑誌紙面のリデザイン
- 14 回目：講評／修正
- 15 回目：採点、作品返却

学生に対する成績評価基準

提出課題の作品に対する評価を80%とし、授業態度、主に欠欠状況に対する評価を残りの20%とする。欠席が1 / 3（5 回）以上の場合や課題提出が締め切りを過ぎた場合は、その遅れた度合いにより減点する。たとえ作品を提出していても、著しく欠席が多い場合は単位を与えないので注意すること。

B 評価：最小限の知識と技術を理解することができた。

A 評価：正確なオペレーション技術が習得できた。

S 評価：自分の個性を作品に反映させ、応用力も身に付けることができた。

テキスト

必要に応じて適宜指示する。

参考書・参考資料等

参考書は必要に応じて適宜指示し、資料は配付する。

用具

ノートパソコンおよびAdobe InDesign、PhotoShop、Illustratorなど。筆記用具、定規、資料や制作物をストックしておくためのA3判クリアファイル。

履修希望者への要望・事前準備

専門的な技術の解説と授業中の制作が主になるので、必ず毎回出席すること。成果物は専用のファイル（初回で指示する）にストックしておくこと。ファイル自体が評価の対象となるので、煩雑にならないよう日頃から整理し、紛失しないよう注意すること。このファイルが無いと採点の対象ならないので必ず用意すること。

また教室の収容人数の都合などにより、定員制（人数未定）にする場合もある。

タイポグラフィ

2 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎天野 誠、吉川賢一郎、阿部宏史

授業の概要およびテーマ

前期の「タイポグラフィ基礎」では主に文字組みの基礎トレーニングを行ったが、この授業では前期で修得した技術と感覚を活かし、より具体的なデザイン作業へと展開させていく。

また同時期に開講されている「DTP」を並行して受講することで、より実践的な文字組版の技術も修得することができるようになる。

達成目標

- ・ グラフィックデザイナーとして実社会で働くための、文字、文字組版に対する基礎的な知識を知ることができる。
- ・ 文字、文字組版の技術を修得することによって表現することができるようになる。

授業計画

- 1 回目：ガイダンス／【課題1】説明と制作
- 2 回目：制作と講評
- 3 回目：制作と講評
- 4 回目：制作と講評
- 5 回目：映画「Helvetica」鑑賞／【課題2】説明と制作
- 6 回目：講評／【課題3】説明と制作
- 7 回目：制作と講評
- 8 回目：【課題4】説明と制作
- 9 回目：講評／【課題5】説明と制作
- 10 回目：制作と講評
- 11 回目：制作と講評／レクチャー「レイアウトの基本セオリー」
- 12 回目：制作と講評
- 13 回目：制作と講評／レクチャー「紙と製本」
- 14 回目：講評
- 15 回目：提出、採点、返却

学生に対する成績評価基準

受講態度30%、作業プロセスおよび最終成果物（作品）70%とし、成果物の評価段階は以下の基準に基づく。たとえ作品を提出していても、著しく欠席が多い場合は単位を与えないので注意すること。

B 評価：文字の基本的な扱い、「読みやすく、分かりやすい構成」ができた。

A 評価：学んだことを生かし、造形的に魅力的である。

S 評価：より独創的で個性を反映させている。

テキスト

必要に応じて適宜指示する。

参考書・参考資料等

参考書は必要に応じて適宜指示し、資料は配付する。

用具

筆記用具、カッターナイフ、カッターマット、ハサミ、メンディングテープ、三角定規セット、30cm以上の直定規、A4判クリアファイル（40ポケットくらい）。

履修希望者への要望・事前準備

課題は前期同様トレーニングを目的とした内容が主になる。タイポグラフィやデザインレイアウトをもっと深く学びたい学生の受講を望む。

なお希望者を対象に、本課題と平行してオプション課題も行う予定。

写真映像

2 学年 後期 選択 演習 4 単位

◎ヨールグ ビューラ、阿部充夫、松本明彦、山田博行

授業の概要およびテーマ

写真と映像の期間を分け、両方を学ぶ。

写真では、スタジオ撮影には欠かせない機材、ストロボ（フラッシュ）を使った物撮り（ぶつとり）とポートレート（人物）撮影を行います。

映像では、写真カメラで1コマずつ撮りストーリーのある短いストップモーションのアニメーションを制作する。

達成目標

スタジオでストロボを使い、物撮り、ポートレート撮影の基礎を修得する。

時間経過メディアの特性を理解し、アイデアから仕上げまで、ストップモーションの魅力表現したアニメーション制作の基礎を修得できる。

授業計画

0. 共同オリエンテーション

〈写真〉

1. ストロボの基本的な使い方

直接光と間接光 トレペ、傘、ソフトボックスの使い方

2. 複写

3. 物撮り

4. 飲料水の撮り方

5. ポートレート サイドトレペ

6. ポートレート 箱バン、トップライト

7. 講評会

〈映像〉

1. ストップモーションアニメーションについて、試撮

2. アイデア出しと方針相談、試撮

3. 絵コンテ作業と相談、本番の撮影

4. 編集の基本、タイトルデザイン

5. オーディオ1：録音

6. オーディオ2：編集と仕上げ

7. 課題作品の発表と講評会

学生に対する成績評価基準

提出課題作品80%、積極性など授業態度20%。

提出課題作品は「共同講評会」の際、評価されます。

出席・遅刻の基準

基本的に出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。

参考書・参考資料等

『コマmercialフォト』 玄光社

『デジタル映像制作ガイドブック、東京』：ワークスコーポレーション、2004.7 1,301円（図書館や研究室より貸出し可）

用具

ノートパソコン、Adobe CC

履修希望者への要望・事前準備

常日頃から、新聞広告、雑誌広告、ポスターなど、写真を使った広告物を見ておくこと。

ストップモーション作品は授業時間内だけで制作するのは難しいです。時間的余裕を持って臨んでください。

遅刻厳禁、課題提出期限厳守。

毎回の授業でノートパソコンを使います。ノートパソコン、電源アダプタ、ネットワーク接続用のケーブルを持参してください。

描写表現

2 学年 後期 選択 演習 4 単位

◎御法川哲郎、長瀬公彦、長谷川博紀、内堀 豪

授業の概要およびテーマ

前期の描写表現基礎における成果を基に、美術史の巨匠を参考にし、対象をいかにとらえるかを考え・実践する。目的は前期同様、描く行為によるヴィジュアルコミュニケーションの能力を高めることである。そして、対象を的確に紙（キャンパス）の上にとらえることに加え、指定した巨匠の対象のとらえ方・技法を学び、学生各自のとらえ方・技法を拡張する。巨匠の作品を観察し、そこでの発見を各自の制作に反映させる。観察し実践することで、巨匠の考えを迫体験し理解を深める。また透明水彩絵具、アクリル絵具、一部ペンタブレットを使用し、扱える画材・技法の幅も拡張する。

達成目標

目の前の対象を、紙（キャンパス）の上の的確に描きとらえる力を獲得する。

美術史の巨匠の作品を観察し、各自の対象のとらえ方・技術を拡張する。

授業計画

01 ガイダンス、課題1「風景を描く1 / 透明水彩絵具」制作

02 制作

03 制作、講評

04 課題2「風景を描く2 / アクリル絵具」制作

05 制作

06 制作

07 制作、講評

08 課題3「モデルを描く / アクリル絵具」制作

09 制作

10 制作

11 制作、講評

家庭課題「自画像を描く / ペンタブレット」

12 課題4「剥製のある静物を描く / アクリル絵具」制作

13 制作

14 制作

15 制作、講評

学生に対する成績評価基準

課題80%、授業態度20%

テキスト

回の内容に応じ配付及び指示します。

用具

透明水彩絵具、アクリル絵具、B3パネル、画用紙、F10キャンパス、木炭紙大スケッチブック、ペンタブレット（持っていない学生は貸出）、ノートPC他、授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

描く能力を武器にしたいと考えている学生は履修すること。

3年次以降に、描くことで個人の表現を獲得したいと考えている学生は履修すること。

前期同様、対象の観察をおろそかにしないこと。

インフォメーションデザイン

3 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎真壁 友、吉川賢一郎、真野 元成、木村 博之

授業の概要およびテーマ

現在の社会は情報化社会と呼ばれ、私達は様々な情報に囲まれています。多種多様な情報を理解する事が求められますが、情報を発信する側としては情報を分かりやすく図等で表す必要があります。この授業では表現する情報の本質を捉え、理解しやすく表現することを目的とします。 データを理解するための基本、基本的な計算、グラフについて学びます。図示するためのピクトグラム、ダイアグラムについて学びます。またそれらをポスターやフライヤーへと展開しメディアに合わせた展開方法についても探ります。

達成目標

テーマに合わせた情報収集、データ処理が出来る。
ピクトグラム、ダイアグラムについて理解し、それらを作成出来る。
情報の中から本質となる部分を捉える事が出来る。
情報を表すための的確な表現を行う事が出来る。

授業計画

- 1 ガイダンス、情報とヴィジュアル基礎 1
- 2 情報とヴィジュアル基礎 2
- 3 情報とヴィジュアル基礎 3
- 4 情報とヴィジュアル基礎 4
- 5 インフォグラフィックス 1
- 6 インフォグラフィックス 2
- 7 インフォグラフィックス 3
- 8 情報とデザイン、ピクトグラム 1
- 9 情報とデザイン、ピクトグラム 2
- 10 情報とデザイン、ピクトグラム 3
- 11 情報とデザイン、ピクトグラム 4
- 12 都道府県別に見る日本 1
- 13 都道府県別に見る日本 2
- 14 都道府県別に見る日本 3
- 15 都道府県別に見る日本 4

学生に対する成績評価基準

プレゼンテーションと作品により評価します。しかし以下の点について注意してください。
この授業ではプロセス、作品の途中過程も評価の対象とします。
作品の提出だけでは評価の対象とはなりません。
またプレゼンテーションが各課題毎にあります、その出席は必須とします。

テキスト

『インフォグラフィックス—情報をデザインする視点と表現』木村 博之著 誠文堂新光社

参考書・参考資料等

『ひと目でわかるシンボルデザイン』発行 交通エコロジー・モビリティ財団

履修希望者への要望・事前準備

情報を扱いグラフィカルに展開する方法を学びますが、その前提として情報を読む、伝える情報を整理するといった事が必要となります。
また、社会の問題を扱います。日頃から新聞やニュースを読み、社会に対しての関心も持っている事が必要となります。

アニメーション・モーショングラフィックス

3 学年 前期 選択 演習 4 単位
◎ヨールグ ビューラ、万年麻美

授業の概要およびテーマ

本授業では前半と後半に分けて、前半は4週間ごとに手書きアニメーションとモーショングラフィックス及び3DCGの両方の分野を習得する。後半は勉強した技術を使って自由作品を制作する。それぞれの技術を元にした相応しい表現を経験するために2つの練習課題を指定します。9週目から自分で選んだアニメーション技術もしくはモーショングラフィックスの技法を利用しながら優れた表現を追求した自由作品の1本を完成する。その作品は学生アニメーションフェスティバルに出品できるクオリティを目指すこと。

達成目標

アニメーションとモーショングラフィックスの様々な表現を勉強できる。
そのための必要な技術や制作方法を理解できる。
特に自分で目指した表現のために適切な実技のスキルを修得できる。
作品の制作過程に関してスケジュールを管理し、完成度の高い作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス、手書きアニメーション 1
- 02 手書きアニメーション 2、練習課題 1 制作
- 03 デジタルドローイング、練習課題 1 制作
- 04 2Dアニメーションソフト、練習課題 1 制作
- 05 モーショングラフィックス 1、練習課題 2 制作
- 06 モーショングラフィックス 2、練習課題 2 制作
- 07 3DCG 1、練習課題 2 制作
- 08 3DCG 2、練習課題 2 制作
- 09 自由作品の作業：アイデアと技法選択、表現スケッチ
- 10 自由作品の作業：アイデアと技法選択、表現イメージ、ストーリー
- 11 自由作品の作業：絵コンテ、音響プラン
- 12 自由作品の作業：作画、ラインテスト、録音
- 13 自由作品の作業：作画、着彩、編集、整音
- 14 自由作品の作業：編集、仕上げ
- 15 発表と講評

学生に対する成績評価基準

練習課題 1 と練習課題 2、自由課題、三つの作品80%、積極性など授業態度20%。
提出課題作品は「講評会」の際、評価されます。

出席・遅刻の基準

基本的に出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。

テキスト

授業で配付する

参考書・参考資料等

「アニメーションの基礎知識大百科」、"Encyclopedia of Animation Basics"
神村 幸子（かみむら さちこ）、大型本 グラフィックス社2009/9、¥3,000

用具

鉛筆、消しゴム、コピー用紙
ノートパソコンとAdobeCCのソフト

履修希望者への要望・事前準備

カメラで撮影されるコマ撮りアニメーションよりも手で描く、もしくはソフトでアニメートするグラフィックスを勉強したい学生。課題と作品は授業時間内だけで制作するのは難しいので、時間的余裕を持って臨んでください。遅刻厳禁、課題提出期限厳守。
本授業では30人の定員を指定します。希望者が30人を超えたら次の様に選択します：（1）2年次に写真映像系の選択授業を履修した学生を優先（2）他は面接とポートフォリオでの判断。
ノートパソコン、電源アダプター等を授業に持参してください。

ヴィジュアルアイデンティティ

3 学年 前期 選択 演習 4 単位
◎山本 敦、太田 岳

授業の概要およびテーマ

CI、VIを導入する背景や目指すべきイメージの設定、シンボルマークの制作、デザインシステム、アプリケーションデザインへの展開など、企業や組織、地域の顔作り（ブランドイメージ作り）を実践的な作業を通して学んでいく。また実際の企業や組織、地域に協力していただき、クライアントに対してプレゼンテーションを行い、社会との関わりを学ぶ。

達成目標

企業や組織、地域のコミュニケーションの核となる、CI、VIデザインが果たす役割や重要性を理解する。またアイデアの出し方や定着方法、プレゼンテーションのトレーニングもこの授業の目的とする。

授業計画

前期 ガイダンス、課題、アイデアチェック
中期 課題、アイデアチェック
後期 課題、アイデアチェック、プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%
課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点。

テキスト

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

CIを含めたシンボルマーク等の制作に興味のある学生は、必ず履修すること。
またこの授業を履修する学生は、必ずサインデザイン論も履修すること。

Web・エディトリアルデザイン

3 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎天野 誠、徳久達彦、真壁 友

授業の概要およびテーマ

私たちは様々な情報と共存して生きてる。この授業では、その情報から本当に必要なものを収集し、整理と編集作業を経てコンテンツ化し、「紙」と「Web」の2通りの媒体に相応しいデザインに展開させていく。

達成目標

- ・情報の収集と整理能力を身につけることができる。
- ・情報を視覚化できる表現力を養うことができる。
- ・問題解決と改善の提案をすることができる。
- ・自己表現とは違う伝達方法を学ぶことができる。
- ・自分の学習記録を振り返り、未来の計画を立てることができる。
- ・就職活動のポートフォリオとして活かすことができる。

授業計画

- 1 回：ガイダンス「授業の目的と進め方」／課題の説明
- 2 回：情報収集「取材およびリサーチ」
- 3 回：企画と大まかな構成案の発表
- 4 回：収集した情報（元原稿）のチェック／情報の補足や整理・レクチャー「サムネイルスケッチの書き方」
- 5 回：サムネイルスケッチのチェック／レクチャー「サムネイルスケッチからページレイアウトまで」
- 6 回：サムネイルスケッチと原稿のチェック／レクチャー「ページデザインの設計」
- 7 回：ページフォーマットデザインのチェック／レクチャー「レイアウトのセオリー」
- 8 回：ラフレイアウトのチェック／制作
- 9 回：本番用レイアウトのチェック①／制作
- 10 回：本番用レイアウトのチェック②／制作
- 11 回：講評／レクチャー「Webで使う書体」
- 12 回：WEBデザインのチェック／制作
- 13 回：WEBデザインのチェック／制作
- 14 回：講評
- 15 回：全作品提出、採点、返却

学生に対する成績評価基準

提出課題の作品に対する評価を70%とし、授業態度、主に出欠状況に対する評価を残りの30%とする。欠席が1/3（5回）以上の場合や課題提出が締め切りを過ぎた場合は、その遅れた度合いにより減点する。たとえ作品を提出していても、著しく欠席が多い場合は単位を与えないので注意すること。

テキスト

必要に応じて適宜指示する。

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示、配付する。

用具

ノートパソコンおよびAdobe InDesign、Photoshop、Illustrator、Dreamweaverなど。筆記用具、定規、資料や制作物をストックしておくためのA4判クリアファイル（40ポケットくらい）。

履修希望者への要望・事前準備

Adobe Photoshop、Illustratorの基本操作が出来ること。可能であれば、Adobe InDesign、Dreamweaverも使えるとよい。
この授業を4年でどのように活かすのか、明確な目的を持って積極的に授業に望むこと。

コマーシャル演習

3 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎長谷川博紀、山田博行、平 繁雄

授業の概要およびテーマ

「環境問題」「コミュニケーション」「公共マナー・モラル」など現代社会が抱えている問題がいろいろあります。この問題をAC公共広告制作を通してみんなで考え、社会・公共のためになるメッセージを広告という形で発信しよう。各自が考えた企画（実写・アニメーション）から、教員の審査によって制作する作品を決定し、2～7名でグループ制作を行います。各自の役割をしっかりと果たすためのチームワークが求められます。

達成目標

- ・公共広告のコマーシャルを企画～撮影～編集まですることでクリエーターとしての意識、自信を体得できる。
- ・グループ作業を通して社会の現場で必要とされる協調性、コミュニケーション力を身につける。

授業計画

- 1 授業オリエンテーション
- 2 公共広告テーマのとらえ方
- 3 プランニング
- 4 プレゼンテーション
- 5 グループ作業
- 6 グループ作業
- 7 グループ作業
- 8 グループ作業
- 9 グループ作業
- 10 撮影～編集 修正案の検討
- 11 撮影～編集
- 12 撮影～編集
- 13 応募用 企画意図・コンセプト制作
- 14 全体試写
- 15 公開試写

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%

履修希望者への要望・事前準備

ACジャパンのホームページより受賞作品を見て人の心を動かす広告とは・・・を研究しておいてください。

10-4-2 専門教育科目〔視覚デザイン学科コース別科目〕

伝達デザイン演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、
金 牟洙、長瀬公彦、真壁 友、山田 博行、相澤千晶、
石川竜太、嶋田 清、角田 誠

授業の概要およびテーマ

社会・企業・地域・家族または商品・サービス等はさまざまな問題を抱えている。伝達デザイン演習では、それらの問題を抽出し、今までとは異なる視点でコンセプトを描き上げ、視覚によるコミュニケーション（伝達）に焦点をあてて、問題が解決できるようなツールを制作する。

扱う分野としては、広告、VI、エディトリアル、web、インフォグラフィックス、コマーシャルフィルム、広告写真、パッケージデザイン、商品企画・開発等々多岐にわたるが、それらを複合的に取り上げて演習を行う。

達成目標

- ・視覚的なアプローチで問題解決に当る際に、課題解決に先立って問題の発見が先ず重要となる。そのための調査研究をどのように行ったかを論理的に展開できることを目標とする。
- ・ターゲットのインサイトを捉えた新しい視点による創造的問題解決の達成と、より仕上げるにこだわるダミー制作の達成を目標とする。
- ・また他者にモノやコトを伝えるための効果的なプレゼンテーション能力を身につけることも目標に据える。

授業計画

- 01 ガイダンス 第1 課題出題
- 02 デザインチェック 制作
- 03 デザインチェック 制作
- 04 デザインチェック 制作
- 05 発表、講評、提出
- 06 第2 課題出題
- 07 デザインチェック 制作
- 08 デザインチェック 制作
- 09 デザインチェック 制作
- 10 発表、講評、提出
- 11 第3 課題出題
- 12 デザインチェック 制作
- 13 デザインチェック 制作
- 14 デザインチェック 制作
- 15 発表、講評、提出

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%
課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された次回までに調査等、自学自習内容を準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。

伝達デザイン演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、
金 牟洙、長瀬公彦、真壁 友、山田 博行、相澤千晶、
石川竜太

授業の概要およびテーマ

伝達デザイン演習Ⅰに引き続き、社会・企業・地域・家族または商品・サービス等はさまざまな問題を抱えている。伝達デザイン演習では、それらの問題を抽出し、今までとは異なる視点でコンセプトを描き上げ、視覚によるコミュニケーション（伝達）に焦点をあてて、問題が解決できるようなツールを制作する。

扱う分野としては、広告、VI、エディトリアル、web、インフォグラフィックス、コマーシャルフィルム、広告写真、パッケージデザイン、商品企画・開発等々多岐にわたるが、それらを複合的に取り上げて演習を行う。

達成目標

- ・視覚的なアプローチで問題解決に当る際に、課題解決に先立って問題の発見が先ず重要となる。そのための調査研究をどのように行ったかを論理的に展開できることを目標とする。
- ・ターゲットのインサイトを捉えた新しい視点による創造的問題解決の達成と、より仕上げるにこだわるダミー制作の達成を目標とする。
- ・また他者にモノやコトを伝えるための効果的なプレゼンテーション能力を身につけることも目標に据える。

授業計画

- 01 第1 課題出題
- 02 デザインチェック 制作
- 03 デザインチェック 制作
- 04 デザインチェック 制作
- 05 発表、講評、提出
- 06 第2 課題出題
- 07 デザインチェック 制作
- 08 デザインチェック 制作
- 09 デザインチェック 制作
- 10 発表、講評、提出
- 11 第3 課題出題
- 12 デザインチェック 制作
- 13 デザインチェック 制作
- 14 デザインチェック 制作
- 15 発表、講評、提出

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%
課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された次回までに調査等、自学自習内容を準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。

表現デザイン演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎松本明彦、池田光宏、徳久達彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、御法川哲郎、伊藤彰剛、大西隆介、
五島一浩、早園真己、本間 純

授業の概要およびテーマ

視覚デザイン領域における表現技法と技術を磨き、個々の持つ豊かな感性を活かして表現することを学ぶ。また、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋げて行くことを学んで行く。その表現方法は、イラスト、写真、映像、デジタル等多岐に渡る。

また表現デザイン演習Ⅰの成果を表現デザイン演習Ⅱに繋げ、最終的にはその成果を個人の作品集にまとめ、発表をする。

達成目標

グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋がれるようになることを目的とする。その視覚デザイン表現方法は問わないが、自己完結に終わることなく、社会に向けてプレゼンテーションできるものとする。

授業計画

- 1～6. ポスター表現
- 7～13. アーティストの最新作
14. 発表
15. 展示

学生に対する成績評価基準

課題60%
積極性など授業態度40%

用具

課題によって適宜指示を出す。

履修希望者への要望・事前準備

この授業は、多くの非常勤講師がいらっしゃいます。いろんな分野のいろんな先生方から、多くのことを吸収し、自分の作品に生かして行ってください。

課題スケジュールを確認した上で、自分で予定を立て、スケジュール管理をしてください。課題提出メ切は厳守です。

表現デザイン演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎松本明彦、池田光宏、徳久達彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、御法川哲郎、安斎利洋、伊藤彰剛、
大塚いちお、大西隆介、川上典李子、木場明義、
シミズダニヤスノブ、丸山晶崇、山本裕子、若子jet

授業の概要およびテーマ

視覚デザイン領域における表現技法と技術を磨き、個々の持つ豊かな感性を活かして、表現デザイン演習Ⅰで学んだことを活かしながら、より深く学んで行く。また、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋げて行くことを学んで行く。その表現方法は、イラスト、写真、映像、デジタル等多岐に渡る。

また表現デザイン演習Ⅰの成果を表現デザイン演習Ⅱに繋げ、最終的にはその成果を個人の作品集としてまとめ、発表をする。

達成目標

グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋がれるようになることを目的とする。その視覚デザイン表現方法は問わないが、自己完結に終わることなく、社会に向けてプレゼンテーションできるものとする。従って、その成果を学外に向けて、個人の作品集という形でプレゼンテーションする。

授業計画

1. 2. 総合課題
3. 4. ワークショップ
- 5～8. 総合課題
9. 発表
10. 展示
- 11～13. 作品集の制作
14. 発表
15. 展示

学生に対する成績評価基準

課題60%
積極性など授業態度40%

履修希望者への要望・事前準備

この授業は、多くの非常勤講師がいらっしゃいます。いろんな分野のいろんな先生方から、多くのことを吸収し、自分の作品に生かして行ってください。

課題スケジュールを確認した上で、自分で予定を立て、スケジュール管理をしてください。課題提出メ切は厳守です。

10-4-3 専門教育科目〔視覚デザイン学科ゼミ科目、卒業研究〕

ゼミⅠ

3学年 前期 必修 演習 2単位

◎長谷川博紀、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、
金 牟洙、徳久達彦、宇波 拓、吹田哲二郎

授業の概要およびテーマ

4年生の卒業研究へ繋げていくことも踏まえ、広告、Web、写真、映像、イラストレーション、ブランディング、デジタル、アートプロジェクト等視覚デザイン各分野の知識、技術を、ゼミ形式で専門的により詳細に深く学んで行く。

達成目標

各視覚デザイン分野の知識、技術を専門的に身に付け、その分野での作品制作が出来る。またその経験を、次年度4年生時の卒業研究に活かせる。

授業計画

各ゼミの担当教員により授業計画は異なるので、確認すること。

(一例)

- 1～4. 課題制作
- 5. 講評
- 6～9. 課題制作
- 10. 講評
- 11～14. 課題制作
- 15. 講評

学生に対する成績評価基準

課題60%

積極性など授業態度40%

履修希望者への要望・事前準備

これまで学習してきた課題を復習し、授業課題に対する各自の問題を発見しておく。

それぞれの課題におけるテーマやその目的を理解し、各々の問題解決のための方策を探り、課題に取り組む姿勢を持つこと。

ゼミⅡ

3学年 後期 必修 演習 2単位

◎山本 敦、長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、真壁 友、
松本明彦、御法川哲郎、山田博行、相澤千晶

授業の概要およびテーマ

4年生の卒業研究へ繋げていくことも踏まえ、広告、Web、写真、映像、イラストレーション、ブランディング、デジタル、アートプロジェクト等視覚デザイン各分野の知識、技術を、ゼミ形式で専門的により詳細に深く学んで行く。

達成目標

各視覚デザイン分野の知識、技術を専門的に身に付け、その分野での作品制作が出来る。またその経験を、次年度4年生時の卒業研究に活かせる。

授業計画

- 1～4. 課題制作
- 5. 講評
- 6～9. 課題制作
- 10. 講評
- 11～14. 課題制作
- 15. 講評

学生に対する成績評価基準

課題60%

積極性など授業態度40%

履修希望者への要望・事前準備

その専門分野の教員の元で、他の授業では学びきれない、より深い知識や技術をゼミⅡで学んでいきます。敢えて広く学ぶために自分の専門分野以外を取ったり、4年生の卒業研究も視野に入れ、そこに繋げていくことも考えて自分の専門分野のゼミⅡを取るのもいいでしょう。

いずれにせよ、自分の将来を見据えてゼミを選んでください。迷うようであれば、各研究室を積極的に訪ね、各教員と相談するといいでしょう。教員は歓迎します。

卒業研究Ⅰ

4 学年 前期 必修 演習 3 単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、
金 牟洙、徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、
山田博行

授業の概要およびテーマ

個人または共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「制作および論文」または「論文」を行います。

これまでの演習・実習課題と大きく異なる点は、テーマを自ら設定する点で、また研究期間も長期に及びます。この三年間での学習経験を基に、一年間を費やして研究するに値するテーマを設定し、各々がデザインによる実践を進めていきます。

達成目標

中間発表までに、テーマにもとづいた情報収集・調査・分析をしつかりと行なうこと。その中から明快なコンセプトと自分のオリジナリティを結びつけた「制作物」の試作または論文の「構想」を発表する。

中間発表の分量ややり方については適時指示をする。

授業計画

- 01～02 テーマ・コンセプトの立案、提示
- 03～04 スケジュール計画
- 05～06 各テーマによる情報収集、調査、分析
- 07～08 「制作物」または「論文」の検討、試作
- 09～14 中間発表用制作
- 15 中間発表

学生に対する成績評価基準

- 作品および論文45%
- 研究過程30%
- 研究態度15%
- 努力成果10%

履修希望者への要望・事前準備

卒業研究は大学における学習の総決算であり、社会へ踏み出すための重要なプレゼンテーションです。四年間の成果として充実した作品にしてください。

毎回のゼミでは、前回のゼミより、何かしらの進んだ成果を見せてくれることを期待します。そのために制作に没頭して下さい。

卒業研究Ⅱ

4 学年 後期 必修 演習 3 単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、
金 牟洙、徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、
山田博行

授業の概要およびテーマ

個人または共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「制作および論文」または「論文」を行います。

これまでの演習・実習課題と大きく異なる点は、テーマを自ら設定する点で、また研究期間も長期に及びます。この三年間での学習経験を基に、一年間を費やして研究するに値するテーマを設定し、各々がデザインによる実践を進めていきます。

達成目標

卒業・修了研究展前に行われる、卒研最終発表時に作品が完成していること。内容、規模ともに、四年間の研究の集大成となるものを目標とする。コンセプトが明快で、客観性がありながらオリジナリティがある作品を制作する。分量は、平面作品換算でB1を6枚以上。平面に換算できないものは、個別にそれに相当するかを教員が協議し判断する。

授業計画

- 01～03 中間発表に基づく内容の修正～制作
- 04～11 制作
- 12～14 展示計画、実施
- 15 研究発表

学生に対する成績評価基準

取り組み姿勢と成果物評価80%、展示およびプレゼンテーション評価20%

参考書・参考資料等

各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。
各指導教員より適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

本科目は卒業研究Ⅰの単位を修得していなければ履修できない。

卒業研究は学部4年間の集大成として位置付けられている。

長期計画の基に各自がテーマを立案し、それぞれの手法にて段階ごとに具体的成果を望む。

最終発表には充実した研究作品と成果発表を期待する。

10-5-1 専門教育科目 [美術・工芸学科共通]

美術・工芸コンピュータ基礎演習

1 学年 前期 必修 演習 2 単位
池永 隆

授業の概要およびテーマ

デザインの分野で標準的なデジタルツールであるIllustrator、Photoshopの基本操作を習得する。
多くのデザインワークをより質の高いものにしていくために、それぞれのツールの特性を理解した上で、必要な操作等を具体的な課題制作を通じて習得する。
解像度やアウトラインフォントの埋め込み、画像ファイルフォーマットなど、作品制作等に必要な基礎的な知識を身につける。

達成目標

- ・ Adobe Illustratorの基礎的操作方法を習得する
- ・ Adobe Photoshopの基礎的操作方法を習得する
- ・ 各種出力手法を理解する
- ・ 解像度やカラーモード、フォント、画像ファイルフォーマット等の理解を深める

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 Illustratorの基本操作 1
- 03 Illustratorの基本操作 2
- 04 Illustratorの基本操作 3
- 05 Illustratorの基本操作 4
- 06 Illustratorの基本操作 5
- 07 Illustratorの基本操作 6
- 08 Illustratorの基本操作 7
- 09 Photoshopの基本操作 1
- 10 Photoshopの基本操作 2
- 11 Photoshopの基本操作 3
- 12 Photoshopの基本操作 4
- 13 Photoshopの基本操作 5
- 14 PhotoshopとIllustratorの連携 1
- 15 PhotoshopとIllustratorの連携 2

学生に対する成績評価基準

各回で制作する課題によって評価する。

なお、受講態度、欠席回数によっては最終課題の提出を認めないことがある。

テキスト

授業時にプリントを配付する

参考書・参考資料等

授業中に適時指示

用具

授業中に適時指示

履修希望者への要望・事前準備

この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行います。操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を望みます。
授業の前半部分で重要な説明を行う事が多くなる構成となっています。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となります。十分注意して臨んでください。

基礎造形実習Ⅱ（描写）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

デッサン/人体（ヌード・石膏）ではモデルのクロッキー及び固定ポーズを観察し描きます。前期の課題を踏まえ、更に各自が主体的な課題を設定し取り組むことを前提とします。
着色/組モチーフでは対象を捉えること、またそこから画面を構築する過程において、デッサン/人体と同様に特に美術・工芸学科の諸分野の造ること、表現することの前提となる様々な問題を見出し、描くことによってそれに取り組めます。

達成目標

- 描写表現手法による作品制作を通じて、「人体の構造と美」「色彩を用いた様々な表現」について追求し、基礎的なことから素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とします。
- ・ 人体の骨・筋構造を理解しプロポーション、比率を正確にとる事ができ正しい構図を得ることができる。
 - ・ 観察から得られる量感、質感、動きを認識的に的確に描写できる。
 - ・ 描写画材の応用と適切な使用ができる。
 - ・ 個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。
 - ・ それぞれの物質の特徴を抽出し的確な色彩と描写ができることにより表現をすることができる。
 - ・ 多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。

授業計画

授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時限をよく理解して受講してください。
(デッサン：人体)
01：クロッキー
02～08：作品制作
09：講評／作品提出
(着色／組モチーフ)
10：課題・素材・技法等の説明・モチーフセッティング
11～14：作品制作
15：講評会／作品提出

学生に対する成績評価基準

- ① 受講への態度、理解度 (50%)
 - ・ 受講、制作の準備ができていた。
 - ・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・ 適切な質疑応答ができた。
 - ・ 制作姿勢 (制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。)
 - ② 成果物 (作品) の内容 (50%)
 - ・ 課題の条件を満たしている。
 - ・ 指導を成果に生かすことができた。
 - ・ 十分な考察と制作をした。
 - ・ プレゼンテーション
- 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で作成を行うことです。これ以外は出席と見なしません。(無断途中退室も含む) 授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して(基礎造形実習Ⅰも含む)使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。(この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。) また、大学図書館、書店などに各課題、基礎造形系(デザイン、描写、平面、立体、建築等)の入門書・技法書等が多数刊行されていますので普段から参照することを薦めます。

用具

授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力(描写)は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。またスケッチなど目的に必要なかたちに含まれる線(ライン)を描く能力と、多くの描線や形の中から洗練された一つを選択する能力は造形に関わる全ての分野に必要不可欠となります。また、経験の有無に関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。また、授業においては時間・用具・制作姿勢について厳しく対応しますので事前説明と準備を厳守してください。

基礎造形実習Ⅱ（造形）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

彫刻分野に於ける可塑性が特徴の素材『粘土』による制作を通して立体素材への知識や制作手法を習得し立体造形の基礎を学び、様々な要素について考え認識する。

- ・物理的制約の中で発想力を養い、量塊や構造の認識と空間性の意味を探る。幾何形態と自然形態に内在する構造や形の特性を理解し、美しい構成の作品を目指す。
- ・対象（人体）の観察と描写を通してその成り立ちや特性を理解する。塑像による造形表現の魅力に触れる。

達成目標

- ・基礎的な図形や図法の意味を理解できる。
- ・平面上の図から正確な比率で立体を読み取ることができる。また同様に立体物を平面上の図に置き換えることができる。
- ・有機物と人工物の持つ特徴を観察し対比と構成による的確な表現ができる。
- ・粘土素材と用具を適切に扱う事ができる。
- ・立体構成を理解、造形表現の完成度を追求することができる。
- ・課題の意図を理解し、繰り返し目的を追求する。

授業計画

授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時間をよく理解して受講してください。

- 〈幾何形態と自然物の立体構成〉
- 01：課題説明／講義／アイデアスケッチ
 - 02：アイデアチェック／制作
 - 03：制作
 - 04：制作
 - 05：講評／課題提出
- 〈塑像〉
- 06：課題説明／講義／スケッチ
 - 07：塑造制作、心棒の制作／粘土荒付け
 - 08～13：塑造制作
 - 14：仕上げ
 - 15：講評／清掃

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
- ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・適切な質疑応答ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（50％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション

以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅰも含む）使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）また、大学図書館、書店などに課題、基礎造形系（描写、平面、立体等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。

用具

授業にて適宜指示します。授業日には必ず指示された用具を持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

各課題は事前準備をして取り組んでください。初めて扱う材料や、課題内容により講義、説明が重要になります。よく理解して授業に臨むことを求めます。また素材の特性や表現技法についても深く知ることが必要です。自ら興味をもって参考となる作品や資料にふれ予習をする習慣をつけてください。

基礎造形実習Ⅱ（素形材）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

工芸に於ける素形材の意味を一例であるが立体表現における基礎的な実習により理解する。

- ・線材・面材を利用した立体における空間構成およびその機能について
- ・図面（2次元）から起こす石膏素材による回転形態（3次元）について
- ・金属素材を用いた線材・面材使用による構造と機能、ガラス素材による表現手法の基礎について

達成目標

- ・課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。
- ・課題の説明を記録し制作過程をまとめることができる。
- ・制作等の指導を理解することができ適切な質疑応答ができる。
- ・制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを实践でき、美しいデザインによる完成度のある成果物が提出できる。

授業計画

授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時間をよく理解して受講してください。

- 〈ヤジロベエ〉
- 01：課題説明／講義／スケッチ
 - 02：スケッチ、試作
 - 03～04：本制作
 - 05：プレゼンテーション、講評
- 〈回転体〉
- 06：課題説明／アイデアスケッチ
 - 07：挽型作成／鳥目箱設置
 - 08～09：石膏挽き
 - 10：仕上げ／講評
- 〈複合素材課題〉
- 11：素材・技法説明／鍛金制作
 - 12：素材・技法説明／鋳金制作
 - 13：素材・技法説明／ガラス制作
 - 14：各部材仕上げ
 - 15：組立・小テスト・講評

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
- ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・適切な質疑応答ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（50％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション

以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

テキスト

各課題により資料テキストを授業時に配付する場合があります。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅰも含む）使用する事があります。学科毎に求められた場合には必ず毎授業持参すること。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）また、大学図書館、書店などに課題関連、基礎造形系（デザイン、描写、平面、立体、建築等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。

用具

各課題制作に必要な準備・持参用具を適宜指示する。各自が使用する材料等は適宜購入してもらう場合があります。（各課題により異なります。）

履修希望者への要望・事前準備

造形の基礎力は様々なアイデアと素材・表現方法で培われているものです。発想力、スケッチ力を含め基本的な素形材の概念を理解することは今後の制作・研究の展開におおいに役立つので積極的な意図を持って受講してください。

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

デザインを学ぶ者において構成は、制作意図やその手法、工夫などを成果として表現するための根底にあるものである。そこで、構成をより意識するために実験的な混合表現手法を利用した作品制作を行うことと、デジタル一眼カメラでの撮影により、画面構成の基礎知識を習得する。

〈コラージュ〉

画面構成とは、単にバランスのとれた画面を作り上げることのみが目的ではない。目的の設定も含め、画面を構成すること・異素材へのアプローチ・すでに表出されたイメージの再構成とそのフレーミングへの意識を目標に授業を展開する。

〈写真／フレームワーク〉

基本的なデジタル一眼レフの操作やライティングを通して写真撮影の基礎を習得する。また写真の画像処理方法を学ぶ。

達成目標

〈コラージュ〉

- ・画面構成に対する意識を持ち、様々な素材を用いて実験的な混合表現手法を検討・実践することができる。
- 〈写真／フレームワーク〉
- ・カメラの基本的操作や適切なライティングができ、自身の作品や作品制作に必要なモチーフの撮影を行うことができる。
- ・撮影した記録媒体をPCにて処理することができる。

授業計画

〈コラージュ〉

- 01: ガイダンス
- 02～09: 資料収集／コラージュ制作
- 10: 講評会
- 〈写真／フレームワーク〉
- 11: レクチャー・デジタル一眼レフの基本操作講義・セッティングとライティング基礎講義
- 12: 撮影1／立体モチーフの撮影・撮影2／立体モチーフの撮影
- 13: 撮影3／立体モチーフの撮影、小講評・撮影4／平面モチーフの撮影
- 14: 撮影5／平面モチーフの撮影・撮影6／平面モチーフの撮影、小講評
- 15: ブラッシュアップ、メディアへの保存、講評

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
 - ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・適切な質疑応答ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（50％）
 - ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション

以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。
これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。
また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

参考書・参考資料等

〈写真〉デジタル映像表現「改訂版」デジタル映像表現編集委員会編（CGARTS協会）3,150円

用具

授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

各課題においてデザインや美術・工芸での幅広い思考展開に必要なのは疑問の余地がありません。描く・塗る作業のみではなく「考える」「想像」する要素から始まることを体感し、視覚化することを大いに体験して欲しいと思っています。これまで「描く」「作る」といった課題が苦手であった学生も、気持ちを新たに臨んで下さい。

美術・工芸コンピュータ演習

1 学年 後期 必修 演習 2 単位
池永 隆

授業の概要およびテーマ

この授業は前期の美術・工芸コンピュータ基礎演習Ⅰからの応用です。前期で基本操作を学んだIllustratorとPhotoshopを使い今後の作品制作で使える基礎技術を確実なものにします。

それらのデザインツールを活用したポートフォリオの作成に取り組み、そのデータを活用したPowerPointのアニメーション機能を利用する表現を含めたプレゼンテーションの資料作成を行います。

達成目標

- ・Illustrator、Photoshop、PowerPointの基礎的操作な操作ができる。
- ・Illustrator、Photoshopを用いてポートフォリオの作成ができる。
- ・PowerPointを利用した視覚的表現効果を持つプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 Illustratorによるさまざまな描画手法1
- 03 Illustratorによるさまざまな描画手法2
- 04 Illustratorによるさまざまな描画手法3
- 05 Photoshopによる画像編集1
- 06 Photoshopによる画像編集2
- 07 IllustratorとPhotoshopの連携1
- 08 IllustratorとPhotoshopの連携2
- 09 Illustratorによるポートフォリオ作成1
- 10 Illustratorによるポートフォリオ作成2
- 11 PowerPointの基本操作1
- 12 PowerPointの基本操作2
- 13 PowerPointの基本操作3
- 14 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成1
- 15 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成2

学生に対する成績評価基準

各回で制作する課題によって評価する。
なお、受講態度、欠席回数によっては最終課題の提出を認めないことがある。

テキスト

授業時にプリントを配付する。

参考書・参考資料等

授業中に適時指示

用具

授業中に適時指示

履修希望者への要望・事前準備

この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行います。操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を望みます。
授業の前半部分で重要な説明を行う事が多くなる構成となっています。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となります。十分注意して臨んでください。

美術・工芸基礎演習Ⅰ（A）

2 学年 前期 必修 演習 4 単位
◎岡谷敦魚、遠藤良太郎、ミーヨン

授業の概要およびテーマ

この授業では、アナログ写真撮影・現像の技術と、シルクスクリーンの基礎的な技術を学習し、それらの技法と描画手法を組み合わせでコラージュ作品を作成します。

絵画・版画・写真それぞれの表現領域の基礎的な素材と技法を知り、横断的かつ実験的な混合表現手法による作品制作を行います。これにより新たな作品制作の可能性について模索します。

達成目標

- ・布や板など身の周りにある素材を色材・表現素材として捉え、それらを柔軟な発想をもって描画材の一つとして用いることが出来る。
- ・アナログ写真とシルクスクリーンのそれぞれで享受される様々な手法に対して、興味を持ちとり組むことが出来る。
- ・道具を正しく使うことが出来る。
- ・プレゼンテーションにおいて、自己の研究内容を理路を立て説明が出来る。

授業計画

- 01 ガイダンス
02～06 基礎技法研究 写真/シルクスクリーン
07～09 素材研究/本画エスキース
10～14 本画制作
15 講評会

学生に対する成績評価基準

授業参加態度・制作姿勢50%、提出作品・レポート等の内容50%
なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点する。

テキスト

授業にて適宜プリント等配付

用具

材料費として4,000円程度必要となる場合があります。

履修希望者への要望・事前準備

本講義は、物質のない光景から徐々に物質化していく工程を、概念的に俯瞰する授業でもある。履修学生には、その課題内容と将来関わるであろう自主制作との繋がりを考察しながら受講することを望む。

美術・工芸基礎演習Ⅰ（B）

2 学年 前期 必修 演習 4 単位
◎小林花子、長谷川克義、新村秀人

授業の概要およびテーマ

この授業は彫刻と金属工芸（鋳金）の2つの領域の表現方法や制作技法の基礎を学ぶとともに、2つの素材とかがちが引き立て合うような、1つの作品を制作する。具体的には、「動きのあるかたち」を課題テーマとし、粘土と金属の2素材を組み合わせることによって可能となる立体作品を制作する。

また、作品制作を通じて塑造・鋳造の基礎的な技法と各素材の特性を理解し、各自の表現へと結びつける力を培う。

達成目標

- ・課題テーマを理解し、立体作品のための柔軟な発想力を向上させることができる。
- ・塑造等造形を行う場合に必要素材と技法についての関連性を理解することができる。
- ・正しく用具や機器を取り扱い、安全な作業を実践することができる。
- ・作品（成果物）提出時におけるプレゼンテーション等を行うことができる。

授業計画

- 第1回：授業概要講義／課題説明／アイデアスケッチ
第2回：資料収集／アイデアチェック・決定
第3回～第9回：原型制作 手びねりによる作品の制作（テラコッタ粘土・ワックス原型）
第10回：湯道付け・鋳型制作／テラコッタ粘土作品の焼成
第11回：鋳型焼成／テラコッタ粘土作品の仕上げ
第12回：鋳造
第13回～第14回：テラコッタ粘土と鋳物の組み合わせによる作品仕上げ
第15回：講評／作品提出
＊演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進める。

学生に対する成績評価基準

授業の理解度および制作姿勢50%、成果物の内容50%。
なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点する。

テキスト

適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜指示する。

用具

スケッチブックや鉛筆描写具等、準備物を授業にて適宜指示する。
また、作品制作時における材料費4,000円程度が必要となる場合があります。

履修希望者への要望・事前準備

課題に対しての事前資料収集を行い、授業の内容をまとめ、ファイリングすること。
安全に作業を進めるために時間は厳守し、適切な服装で集中して取り組むこと。
素材の魅力を引き出すための努力を積極的に行うこと。
原則として全授業の出席を求めます。

美術・工芸基礎演習 I (C)

2 学年 前期 必修 演習 4 単位
◎中村和宏、菅野 靖、手銭吾郎

授業の概要およびテーマ

工芸素材材として金属とガラスの基本特性及びその共通性を認識・理解するために領域を横断的に結びつける課題設定を行います。ここでは金属・ガラスの異素材としての関係を、彫金・鍛金・ガラスワークの各表現技法のコラボレーションとして考え、新たな制作プロセスを試行することで結びつく応用力を培います。

達成目標

- 金属素材とガラス素材を用いて作品制作を行なう
- 基礎的な工芸手法によるデザイン・発想と展開力を習得する
- 造形制作に必要な素材と技法の関連性を理解・実践することができる
- 装飾性と機能性を理解することができる
- 正しい用具・機器の取り扱い方を理解し安全な作業を実践することができる
- 成果物（作品など）に対してのプレゼンテーションを実践しレポートを完成する

授業計画

- 第1回：概要講義/課題説明/資料収集
第2回：資料収集/アイデアスケッチ
第3回：デザイン決定/図面化/各部位の制作手順の詳細決定
第4回：素材決定・金属orガラス対応パーツの制作用具、使用法説明
第5回～第10回：金属orガラスのパーツ制作
（各回において金属、ガラスの各工房で制作作業を行なう）
第11回～第12回：接合、組み立てを含む仕上げ工程
第13回～第14回：接合、研磨、着色を含む仕上げ工程
第15回：プレゼンテーション・講評/作品及びレポート提出

学生に対する成績評価基準

- 課題や制作への理解度と受講姿勢 50%
 - プレゼンテーション及び作品による評価 50%
- なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点する。

テキスト

授業にて適宜プリント配付

参考書・参考資料等

近代から現代にかける実在作品や諸立体作家集を参考資料として使用します。

用具

- 材料費として4,000円程度必要になります。
- 安全のための作業服等個人用具が必要となります。（上記事項は授業ガイダンス時に説明します）

履修希望者への要望・事前準備

- はじめての工芸領域における作品制作を行う授業です。下記の項目に留意し行動してください。
- 原則として全回出席を求めます。
 - 課題の事前資料収集を行うこと。（適宜、担当教員から指示があります）
 - 授業のまとめをファイルすること。
 - プランニングから作品制作の完成までの過程は、高い集中力と能動的な姿勢を求めます。

美術・工芸基礎実習 II

2 学年 後期 必修 実習 4 単位
◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾、杉原 倫、下山直紀子、中安 麗

授業の概要およびテーマ

各自選択したグループ（美術表現・クラフトデザイン）に属しながら、制作課題等を通してその手法を理解し、形と素材の関連性やものとの関係を考察する。また、表現するための基礎を学ぶ。

- 美術の基礎的な素材と手法を理解し、作品制作を行うことで、それぞれの表現における特徴や要素について学び、基礎技法の習得を目指す。
- 工芸分野における鍛金、彫金、鍍金、ガラスから各自の指向により2領域を選択し、その領域に関する素材や基礎技法について学ぶ。また、工芸の大きな枠組みの中で水平的視点を持つため、工芸における各種素材や技法についての知識も身につける。

達成目標

- 課題作品を制作する上で求められるスケッチ力・発想力・展開力を発揮し、成果として十分応えることができる。
- 素材と技術の関係をイメージし、基礎的な各表現技術を習得することで、完成までの工程を計画し実践することができる。
- 課題において各領域で使用する素材の特質や特性を理解し、形状と技法の関連性を体得して制作することができる。
- 授業で指導された内容を的確に記録・習得し、安全に作業することができる。

授業計画

- 事前に美術表現グループとクラフトデザイングループの2グループ（定員制）に分かれる。
- 〈美術表現グループ〉
01：ガイダンス／美術表現概論
02～03：木炭デッサン
04：講評会
この後、2グループに分かれ、入れ替え制で絵画・彫刻の課題を10日間ずつ行います。
入れ替わり時期の5日間で、スードデッサンを行います。
- 【絵画・銅版画】
05～08：銅版画講義
09～13：油彩作品制作、途中制作状況を見ながら銅版画の本刷り
14：講評会
【共通】
15～18：スードデッサン
19：スード講評会
【彫刻】
20：課題説明／スケッチ・エスキース・粘土クロッキー
21～22：塑造マケット制作
23～28：カービング作品制作
29：カービング作品仕上げ／講評／作品ノート提出
【共通】
30：全体講評会、プレゼンテーション、作品提出
〈クラフトデザイングループ〉
課題制作に関しては2領域を選択する。
01：ガイダンス／クラフトデザイン概論
【第1課題】
02：レクチャー、スケッチ・デッサン
03～06：エスキース、実材による制作、中間講評
07～12：実材による制作
13：講評
【工芸における特別技法研究】
14：レクチャー
15～16：実材による制作
17～18：実材による制作、講評
【第2課題】
19：レクチャー、スケッチ・デッサン
20～23：エスキース、実材による制作、中間講評
24～29：実材による制作
30：講評
＊ 課題数や課題内容はコースごとに計画されます。また、演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。

学生に対する成績評価基準

課題や制作への理解度と受講姿勢40%、プレゼンテーションおよび提出作品の内容60%
なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。

参考書・参考資料等

参考資料として適宜配付または提示。

用具

クロッキー帳や描写具、その他授業にて適宜指示する。
材料費や用具として10,000円程度必要となる場合がある。

履修希望者への要望・事前準備

美術や工芸における基礎的な素材・技法を把握し、表現の特徴を理解することは、専門領域を学ぶ以前に重要なことです。しっかりと取り組み修得してください。また、授業で与えられる情報に満足せず、各自の意思で情報収集や展覧会の鑑賞などを積極的に行ってください。

美術・工芸材料学

2 学年 後期 必修 講義 2 単位

◎長谷川克義、菅野 靖、菊池加代子、手銭吾郎、中村和宏、秋本貴透、井波 純、岩崎靖彦、楠八重有紗、平賀 仁、森田 力

授業の概要およびテーマ

絵画・彫刻・工芸分野における材料の種類と特性に関して、各分野の専門家により講義を行う。そして、今後の創作活動に対する一助とする。

テーマ：「描画材の種類と特性」「版画材の種類と特性」「木および樹脂の種類と特性」「染織素材の種類と特性」「金属の種類と特性」「ガラスの種類と特性」

達成目標

各種材料の基本的特徴と用途や加工方法等が理解できる。
自らが作品等を制作する際、効果的な材料選択ができるような素養が身につく。

授業計画

第1回：ガイダンスおよび概論 〈長谷川〉

第2回：金属の種類と特性（鍛金）〈手銭〉

第3回：樹脂の種類と特性（漆）〈井波〉

第4回：樹脂の種類と特性〈平賀〉

第5回：金属の種類と特性（彫金）〈菅野〉

第6回：版画材の種類と特性〈森田〉

第7回：描画材の種類と特性〈秋本〉

第8回：染織素材の種類と特性〈菊池〉

第9回：染織素材の種類と特性〈菊池〉

第10回：木の種類と特性〈岩崎〉

第11回：木の種類と特性〈岩崎〉

第12回：描画材の種類と特性（フレスコ）〈楠八重〉

第13回：描画材の種類と特性（モザイク）〈楠八重〉

第14回：ガラスの種類と特性〈中村〉

第15回：金属の種類と特性（鋳金）〈長谷川〉

*但し、日程については変更になる場合（土曜日開講となる回）があります。また、担当ごとに小テストやレポート課題を課す場合があります。

学生に対する成績評価基準

受講姿勢および積極性40%、レポート等課題60%。

なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。

参考書・参考資料等

参考資料として授業時にプリントを配付する。また、授業で適宜紹介する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

作品を制作するということは、その素材を知らなければ成り立たないと言っても過言ではありません。美術と工芸を分け隔てることなく素材に対する知識を深めてください。また、原則として全授業の出席およびレポート等課題の全提出を求めます。

古美術研究

2 学年 後期 必修 実習 2 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾、伊藤 哲、和田正泰

授業の概要およびテーマ

美術教育において重要な一分野である古美術研究として、奈良、京都を中心に存在する飛鳥時代以降の彫刻・工芸・絵画・建造物等、日本古来の優れた美術品の鑑賞研究を行う。これらの研究を通して日本の美術・工芸作品についての理解を深め、その表現技法と文化的価値に対する考察を行う。

達成目標

- ・日本古来の優れた美術品について事前学習、資料収集および実際の鑑賞を通して、その理解を深めることができる。
- ・美術・工芸作品で使用される素材および技法について考察し、まとめることができる。

授業計画

01～03：ガイダンス等

04～08：事前学習：国宝等の彫刻（仏像等）

09～13：事前学習：国宝等の絵画（襖絵、障壁画等）

14～30：実地による国宝・重要文化財等の鑑賞研究：彫刻・工芸・絵画・建造物

学生に対する成績評価基準

鑑賞姿勢および授業への積極性50%、鑑賞研究報告書の内容50%。

参考書・参考資料等

参考資料を適宜配付または提示。

用具

別途指示する。

履修希望者への要望・事前準備

日本古来の優れた美術品についての理解を深め、美術品と表現素材および技法について考察を行うことのできるまたとない機会です。事前の学習および資料収集等しっかりと取り組み多くのものを吸収してください。

この授業は、4泊5日で奈良・京都を訪れ、現地での研修を行います。実施は3月中旬から下旬を予定していますが、詳細はバレットにて連絡します。

実地研修の費用については入学時に説明をしていますが、食事や宿泊等に必要の費用として約50,000円を2回に分けて積み立てます。その他必要なものについては別途指示します。

プロダクトスケッチ実習Ⅰ

1 学年 後期 選択 実習 2 単位
◎齋藤和彦、池永 隆

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザイナーをはじめ新しいモノを生み出す仕事において、自身のイメージをスケッチなどで2次元表現することによって、第三者にそのカタチを伝える事が必須である。
このプロダクトスケッチ実習Ⅰでは、そうした「スケッチワーク」を基礎的な内容から学び、実践的なスキルレベルの習得を目指す。

達成目標

- ・スケッチ作業の原理原則を理解し、形状を正しくとらえる事が出来る。
- ・美しい線が描け、正確に面の明暗とコントラスト、素材の特徴を表現出来る。
- ・アイデアの発想、及びそのアイデアを具体的なスケッチとして再現できる。
- ・描いたスケッチが第三者へのコミュニケーションツールとして正しい情報を伝えられる。

授業計画

01. ガイダンス フリーハンドスケッチ
02. 透視図の理解と立方体の作図
03. 円柱と陰影を描く
04. 球体と陰影を描く
05. マーカースケッチ（マーカの基礎）
06. マーカースケッチ（立方体と陰影）
07. マーカースケッチ（円・楕円・曲線）
08. マーカーとバステル・質感表現1
09. 質感表現2
10. 質感表現3
11. 応用表現1
12. 応用表現2
13. 応用表現3
14. 最終スケッチ・ベース（線画）の作図
15. レンダリング（完成予想図）制作

学生に対する成績評価基準

課題提出については毎回提出を原則とし、授業内容の理解度、作画の丁寧さ、完成度などを基準とした総合点とする。
詳細は授業ごとに指示をするので、それに従って提出のこと。
単位取得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。
提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。

テキスト

授業内で適宜プリントを配付する。

用具

コピックマーカー クールグレイ12色セット、コピックマーカー12色基本セット、バステル、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、コピー用紙（A3/A4）、修正液、定規など
コピックマーカーは各自用意すること。（参考）コピックマーカー12色セット 4,788円

履修希望者への要望・事前準備

スケッチの上達のためには、ある程度の訓練と繰り返しの作業が必要で、授業時間以外でも常に手を動かし、スケッチの練習をすることが重要である。
尚、本実習の単位取得は「プロダクトスケッチ実習Ⅱ」履修の条件となる。

表示図法

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
齋藤 博

授業の概要およびテーマ

立体や平面を問わず、造形における創作思想の可視化には、形態や空間に関する諸事の精緻な把握を必要とします。
造形に関する基本的図学及び図面制作の基礎力を知見・習得し、造形表現とその理解力を深めます。

達成目標

- ・自己が構想した造形を他者に制作を依頼する際に適切な形状線、寸法引出線等の作図の考え方・知識・技能を体得、これを説明できる。
- ・幾何学図形の作図法及び平行投影並びに透視投影図法による製図基礎を体得し、かつこれを表現できる。
- ・造形表現に不可欠な幾何学知識の体得。

授業計画

- ・授業は、テキストに基づく受講者による図面制作を重視する。
 - ・各週の成果物は、講義終了後または次週の講義開始時に提出。
- 1 ガイダンスと製図基礎
（1）作図用具とその使い方（2）「線」の引き方
 - 2 前週の（2）「線」の継続練習と成果物提出
 - 3 平面図学1：直線・角・円周に関する作図
 - 4 平面図学2：多角形の作図、円錐曲線
 - 5 投影1：投影法、投影の基礎
 - 6 投影2：面の投影、副投影面
 - 7 立体図学1：立体図形、多面体
 - 8 立体図学2：曲面体、曲面
 - 9 立体の切断・相貫・展開
 - 10 平行投影法とその応用
 - 11 製図に関する決まりごと
 - 12 別途提示する物品の寸法の実測と「スケッチ」作成
…3週継続
 - 13 「組立状態の全体図」の作図
 - 14 13週の成果物を基にした「部品図」の作図
 - 15 前週の継続と提出及び講評

学生に対する成績評価基準

成果物の有無、内容60%程度、授業姿勢40%程度として総合評価します。出席率が2/3を下回る場合は単位を与えられません。遅刻は、3回で1回の欠席扱いとします。

テキスト

- ・「わかりやすい図学と製図」 住野和男著 オーム社
2,600円+税：要購入
- ・授業時には、主として、上記テキストから抜粋した内容から作成した資料（授業開始時に配付）を中心に使用します。

用具

直定規、三角定規、コンパス、デバイダ、鉛筆（B、HB、H）、消しゴム、用紙固定用のドラフティングテープ

履修希望者への要望・事前準備

- ・テキストは毎週使用。本学売店等で事前に購入すること。
- ・作図用紙は、当面、各週に必要な枚数を教員が用意します（失敗分は受講者負担）。

美術・工芸・デザイン分析

3 学年 前期 選択 講義 2 単位

◎馬場省吾、浅賀 武、扇原康成、加藤 慶、日野明子、
溝川誠司

授業の概要およびテーマ

本講義は主に美術・工芸学科の学生を対象とし、基礎から専門科目で培う造形能力を社会での様々な職種・活動において、また広くデザイン分野の業態とどの様に関連づけ有効に発揮することが出来るか、それぞれ分野で活躍する講師が実際の活動する視点から分析し講義を行います。これらから自身の進路及びキャリアへの視野を拡げ、現代社会でボーダレスになりつつある美術・工芸・デザインの領域の境界線上での造形表現やデザイン思考・目的の同意性などを理解することで、ビジュアル系、プロダクト系の企業・事務所、作家、起業等へのミチスジと可能性を考察することを目的とします。

授業は、担当教員の5名がオムニバスで担当します。

テーマとして

- (1) 成果物及び企画・デザイン事例を提示し、
 - ・「目的・表現の的確性・効果／評価の分析」
 - ・「社会性、生業観」
 - ・「造形やデザイン意図の一般化」
 - ・「美術・工芸・デザイン各分野の表現、制作プロセスの共通性」
 - ・「成果物の流通と販売」等から各講師が設定します。

達成目標

- (1) 各分野の創作物・製品のシステム、分析・評価に関する理解を深めることができる。
- (2) 創作・デザイン分野での発注者と受注者との関係と諸事象を認識し、今後の自らの進路にどの様に生かせるかを考察できる。
- (3) 各分野特有の、企画・提案・制作・流通・販売までのプロセスを理解し説明できる。

授業計画

※プロダクトデザインはPDと略、ビジュアルデザインはVDと略、美術・工芸はA&C

- 01 4・09(馬場) 【授業全体ガイダンス】各専門領域の能力を如何に社会で活かせるか02 4・16(溝川) 【身近にあるVDやメディアを紹介(課題提示)】
- 03 4・23(溝川) 【職業としてのVDと業界の構造】
- 04 5・07(溝川) 【VDの制作プロセスとその姿勢(課題提出)】
- 05 5・14(日野) 【流通に関わる仕事のいろいろ】
- 06 5・21(日野) 【製造現場に関わる仕事のいろいろ】
- 07 5・28(日野) 【工芸・デザインを歴史から紐解く】
- 08 6・04(扇原) 【大学から社会へ1】
- 09 6・11(扇原) 【大学から社会へ2】
- 10 6・18(扇原) 【大学から社会へ3】
- 11 6・25(浅賀) 【PDの修得に大切なこと】
- 12 7・02(浅賀) 【PDの歴史から読み取れること(グッドデザイン賞を例に)】
- 13 7・09(浅賀) 【PDにおけるスキルの掘下げ】
- 14 7・16(加藤) 【作家がギャラリーショップを運営する】
- 15 7・23(加藤) 【表現としてのギャラリーショップ】

学生に対する成績評価基準

レポート提出(担当教員により提出課題の場合あり)70%

授業での能動的姿勢30%

公欠でない欠席・遅刻の場合は評価点から減点します。

テキスト

適宜、担当教員から配付する。

参考書・参考資料等

適宜、事前に担当教員から指示があります。

履修希望者への要望・事前準備

分野が違うことで受講姿勢を変えない様に要望します。

大学卒業後の将来は未だ確定していませんが、3年次以降の取り組みの成果は其々の人生の針路を決定付けていきます。また卒業後において社会ではその都度新たな知識と応用力を身に付けることが求められます。大学で修得した専門能力を如何に応用・展開するかが、社会での活動を多角的に押し広げることに繋がります。本授業では各講師の「現場と実際」を知ることで、受講生に「見通す力」を身に付けてほしいと思います。

美術工芸史

3 学年 前期 必修 講義 2 単位

林 克彦

授業の概要およびテーマ

日本およびアジアの古代から現代に渡る工芸作品について、スライド等を使って鑑賞しながら工芸の歴史を振り返る。その中で、工芸の多様性を知り、また、それぞれの工芸作品が生まれた歴史的な背景について考える。

達成目標

様々な工芸作品が生まれた歴史的背景(素材、技術、文化、生活など)を理解することができる。また、「工芸とは何か」「ものを作ることとは何か」の理解を深めることができる。

授業計画

- 1 美術工芸史への入り口 ～ガイダンス～
- 2 人類の進化と芸術性の獲得
- 3 火焔土器誕生 ～縄文土器の精華～
- 4 金属器の伝来と発達
- 5 正倉院の世界
- 6 仏教と工芸
- 7 唐物礼賛 ～東アジアの工芸～
- 8 茶の湯と工芸
- 9 古染付と伊万里 ～古染付日本へ、伊万里世界へ～
- 10 博物誌と工芸
- 11 万国博覧会の世紀 ～明治の技巧的作品～
- 12 柳宗悦と民藝運動
- 13 琉球・沖縄の工芸
- 14 伝統工芸とクラフト
- 15 工芸からKogeiへ ～工芸の現在と未来～

学生に対する成績評価基準

受講態度50%、レポート課題50%。

テキスト

授業時にプリントを配付する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

工芸作品は、様々な歴史的、技術的、文化的脈絡を理解することにより、作品そのものの理解がより深まります。ものを見て素直に感じることも重要ですが、その作品の背景にも思いを巡らせて下さい。

10-5-2 専門教育科目〔美術・工芸学科コース別科目〕

美術表現演習Ⅰ

3学年 前期 必修 演習 4単位

◎小林花子、岡谷敦魚、遠藤良太郎、塩谷 亮、嶋崎達哉

授業の概要およびテーマ

絵画と彫刻の古典技法を学習し、それぞれの技法の古来よりの成り立ちを俯瞰し、時代背景も鑑みつつ考察する。これらの手法による作品制作を通し、平面表現と立体表現の基礎技法を修得することのみではなく、それぞれの技法から、受け継がれてきた概念も含めて学習する。

また、アーティストの役割について考察し、社会と美術との接点についての考察を深める。その実践として、各自が自由制作した作品の展示発表を行う。同時に、「伝えるためのツール」としての資料制作を行い、作品と言葉を駆使し、各自の表現についてプレゼンテーションを行うことを目的とする。

達成目標

- ・絵画と彫刻の古典技法とその基礎的な概念を理解し、作品を制作することができる。
- ・個々の表現手法と制作する意義について考え、作品に生かすことができる。
- ・アーティストの社会的役割について考察することができる。
- ・最終展示発表に向けて、プレゼンテーション資料を作成することができる。
- ・展示発表に必要な基礎的な知識と技術を身につけることができる。
- ・工房およびアトリエにある機材を、安全に正しく使用することができる。
- ・計画的に制作し、期日までに作品を完成させることができる。

授業計画

01 ガイダンス／課題説明

02～9 古典技法研究・課題制作（テンペラと古典彫刻から選択。それぞれ非常勤講師による講義および実技指導がこの期間に5回。）

10 アーティストが行う社会活動について

11～14 展示発表にむけての準備

15 最終展示発表

※講師の都合により、授業回を変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

授業課題の理解度および制作姿勢40%、成果物の内容とプレゼンテーション60%

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

材料費が4,000円程度必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

授業内容の理解と積極的な参加を求める。

美術表現演習Ⅱ

3学年 後期 必修 演習 4単位

◎岡谷敦魚、遠藤良太郎、小林花子、新村秀人

授業の概要およびテーマ

この授業は美術分野の作品制作の一般的な空間（社会的な、またはより具体的な展示場所）における実践についての調査研究と、その上で作品とそれが設置、展開される場所の関係について、主にインスタレーション（作品の設営、設置）の課題が設定され研究をするものである。

まず、社会における表現者の役割、活動という観点から、アーティスト等の実際の活動についてリサーチし、それらの研究を踏まえ、個々がプロジェクトを想定し提案する。この研究を通して社会における美術表現の役割について理解を深める。

さらに表現の具体的な発表における作品設置、発表の方法などについてグループワークにおいて実践・検証する。これは、作品の内容が、どのようにすればその設置された環境、場所と融合して効果を発揮するのかを問いつつ、ひいては美術表現の根底を成す作品、作者、鑑賞者の関係性の問題について検討するものである。

上記の研究に合わせ具体的な事例に直に触れることを目的とした美術館、ギャラリー等の見学がある。

達成目標

- ・創作/研究を通して社会との関係性を認識し自らの制作に反映させることができる。
- ・作品の場所との関係を深く考慮し、それぞれが表現の提示の質を高めることができる。

授業計画

1、2、ガイダンス、アーティストの社会における活動/W.S.等のリサーチ、企画案発表

3、4、美術館見学 ※授業日を振りかえて行う予定。

5～14、インスタレーション研究、グループセッション、制作のうち2回制作発表

15、W.S.研究成果報告 インスタレーション研究等まとめ

学生に対する成績評価基準

研究及び作品の内容70% 成果等の発表30%

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

材料費が3,000円程度必要となる場合がある。

それぞれ必要なものを準備、適宜指示します

履修希望者への要望・事前準備

授業への積極的な参加を求める。

表現者/研究者として行動すること。

クラフトデザイン演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎中村和宏、菅野 靖、手銭吾郎、長谷川克義、馬場省吾、井上 剛、齋藤直子

授業の概要およびテーマ

産業や生活文化を考え社会的思考を育むと共に、専門的な視点において創造的造形と表現を展開するための起点と捉える。そのため暮らしに根差したクラフト領域の基本的な知識を習学し、工芸における伝統と革新を理解することを目的とする

達成目標

- ・課題内容を解釈し各自の発想を提案することができる。
- ・素材及び表現の周辺知識を理解しながら柔軟な表現に繋げることができる。
- ・目的に応じた、研究成果のプレゼンテーションができる。

授業計画

第1回 ガイダンス／課題説明

第2回 「工芸論」：日本の伝統文化における講義

第3回～第4回 レンダリング技法の習得

第5回～第7回 共通課題説明・プレゼンボードの制作

第8回～第9回 各領域での装飾技法の研究

第10回～第13回 制作

第14回 学生主体による計画及びブレ発表

第15回 プレゼンボード発表・総評

※「工芸論」：日本の伝統文化についての講義は、日程の変動があります。

学生に対する成績評価基準

成果の発表（成果物及びプレゼンテーション）60%、受講姿勢40%

テキスト

適宜指示をする。

参考書・参考資料等

適宜指示をする。

用具

適宜指示をする。また、研究制作時に必要となる用具の購入費用や材料費が必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

クラフト領域での素材・技法・表現を学び、様々な審美眼を広げながら各自の未来を開拓する起点として習学してください

クラフトデザイン演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎長谷川克義、菅野 靖、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾、石渡雅史、気賀澤雅人

授業の概要およびテーマ

クラフトデザイン演習Ⅰを踏まえ、素材と造形によって見出される価値を発見すると共に、現代に提案する工芸表現を探る。暮らしと共に発展した「工芸」を知るため、我が国の伝統や現代における表現の動向を考察しながら情報収集を行い、社会において求められるクラフトデザインとその実践的方法について理解を深める。また、これらの能力を今後の方向性に活かすことも目的の一つである。

達成目標

- ・専門領域のみならず、各種素材や技法と国際的視野で社会との繋がりを有する発想ができる。
- ・各自の研究領域にて明確なテーマを構築し、自身の方向性を探ることができる。

授業計画

01 ガイダンス／課題説明

02 「工芸論」：日本の伝統文化についての講義

03 「回転体」についてのレクチャー及びデザイン案制作

04 「回転体」デザイン完成、鳥目箱による石膏「回転体Ⅰ」制作

05 テーマ設定、情報収集、デザイン完成

06 「回転体」デザイン完成、鳥目箱による石膏「回転体Ⅱ」制作

07～09 研究及び情報収集

10～14 ポートフォリオ作成

15 成果発表（プレゼンテーション）

※「工芸論」：日本の伝統文化についての講義は、日程の変動があります。

学生に対する成績評価基準

成果の発表（成果物及びプレゼンテーション）60%、受講姿勢40%

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

適宜指示する。また、研究制作時に必要となる用具の購入費用や材料費が必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

この授業は進路を見据えたものとなります。各自の指向を絡めた柔軟な発想で問題点を解決し、卒業研究および卒業後について考える糧としてください。

10-5-3 専門教育科目〔美術・工芸学科ゼミ科目、卒業研究〕

ゼミⅠ

3 学年 前期 必修 実習 2 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

美術・工芸学科に於ける各分野の研究室を選択し、より専門性を志向した内容の課題制作・研究を行う。
各コース演習の包括的授業と並行しながら、専門領域の基本的な素材・技法・表現手法などの課題を通じて理解習得し、その方法による作品制作についての概念基盤を育む。
※ゼミ選択はその研究・制作の性格上工房等を主に使用するが、工房における履修環境及び作業の安全性を考慮し、受講人数の制限を行うことがある。希望調査を行い、人数の隔たりが起きた場合、希望内容（選択理由）や今までの実習・演習内容（成績や実習姿勢）を検討し対応する。また、選択の状況等から開講されないゼミもある。

達成目標

- ・各専門分野（領域）の基本的概念を理解することができる。
- ・表現方法を得るための材料の理解とそれに伴う手法の基礎技法（専門的制作プロセス）を理解・習得することができる。
- ・課題において求められる発想力や情報収集力、目的別分析選択力など各能力を習得することができる。
- ・各自が専門分野での創作に対して考察することができる。

授業計画

授業内容・進度の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

1：石原ゼミ：美術領域（西洋美術史）：課題〔図像学〕
01：様式論
02：図像学（iconography）と図像解釈学（iconology）
03：初期キリスト教美術
04：ロマネスク美術 フレスコ画
05：ロマネスク美術 十字架像
06：トレチェン（trecento）の美術
07：アッシジのサン・フランチェスコ聖堂の美術
08：ジョットの革新
09：ジョットの影響
10：初期ルネサンス：マサッチョ
11：初期ルネサンス：ドナテロ
12：ボッティチェリの時代
13：盛期ルネサンス：ラファエロ
14：マニエリスム、バロックの美術
15：結論

（遠藤ゼミ）：絵画領域
01：ゼミ進行等概説
02～15：作品制作及びディスカッション、レクチャー（時代ごとのムーブメント等）
それぞれが設定した研究（作品制作）のために必要なプログラムを計画し実行する。
・期末に作品発表のためのグループ展があります。
・学外実践活動（作品発表、アート・イベント、見学）の計画、準備、実行がある場合があります。
・スケジュール詳細は初めに説明します。
（岡谷ゼミ）：版画領域（美術）
01：ガイダンス
02～04：リトグラフの技法研究
05：リトグラフ作品講評会
06～15：〔現代アート10講〕読み合わせ、遠藤ゼミとの合同授業
・現代美術の文脈講読により、現在のアートに関わる状況を俯瞰しつつ自主制作を行います。
・遠藤ゼミと合同で、東京美術館ツアーを行います。
（菅野ゼミ）：彫刻領域（金属工芸）：課題〔基礎技法の理解とその造形〕

01：概説および道具製作工程説明

02～04：彫り課題（鑿、伝統技法の理解）

05～06：シルバリーング制作（金属の溶解、成形、接合）

07～14：高内打ち出し→ジュエリーへの展開
15：総括

（小林ゼミ）：彫刻領域：課題〔具象表現：モデリング／カービング〕

01：授業概要講義・課題説明／材料、道具の特性、取り扱い方法講義／アイデアスケッチ

02：作品プレゼンテーション／塑像心構制作、荒付け

03～07：塑像制作

08～12：木彫制作

13～14：修正・仕上げ／展示計画

15：講評・プレゼンテーション

（手銭ゼミ）：鍛金領域：課題〔鍛金技法の習得として2課題を行う〕

① 鎖継・絞り技法の基本である回転体（花器）の作品制作。

銅素材（銅板）による面体成形に於ける金属塑性等の理解と基本技法の習得。

01：講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具等の使用説明 工具制作・材料取り

02：実習 課題チェック→技法説明 作品制作

03～06：実習 技法説明 作品制作

07：講評・プレゼンテーション

② 鍛金技法の展開として金属工作機械と接合技法による作品制作。

旋盤・能繰り等の工作機械と電気・ガス溶接等の接合技法の理解と基本技術の習得。

08：講義 ② 課題内容説明 工房及び工具・工作機械の使用説明

09：演習 課題チェック→技法説明 作品制作

10～14：実習 技法説明 作品制作

15：講評・プレゼンテーション

（中村ゼミ）：ガラス領域

01：概要講義・課題説明（由吹き技法による器の制作）

02：資料収集・アイデアスケッチ

03～05：作品制作

06：作品制作・講評・作品提出

07：課題説明（パートドヴェール技法による作品制作）

08：資料収集・アイデアスケッチ

09～13：作品制作

14：作品制作・講評・作品提出

15：プレゼンテーション・講評・作品提出・制作ファイル提出

〈長谷川（克）ゼミ〉：鍛金領域（金属工芸）：課題〔鋳型石膏埋没鑄造法による2課題を行う〕

01：オリエンテーション・工房および工具使用説明

02～09：挽型による器物の制作

デザインワーク・島目箱による回転体の挽型、鋳型制作、溶解、剥き仕上、表面処理、着色、プレゼン・講評

10～15：鋳造型による銅製の製作

・スキュー、塑造、石膏離型、鋳原型、鋳型制作、溶解、研磨・叩き仕上、プレゼン・講評

※各自の制作ペースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。

（馬場ゼミ）：鍛金領域：課題〔鍛金技法の習得として2課題を行う〕

① 鎖継・絞り技法の基本である回転体（花器）の作品制作。

銅素材（銅板）による面体成形に於ける金属塑性等の理解と基本技法の習得。

01：講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具等の使用説明 工具制作・材料取り

02：実習 課題チェック→技法説明 作品制作

03～06：実習 技法説明 作品制作

07：講評・プレゼンテーション

② 鍛金技法の展開として金属工作機械と接合技法による作品制作。

旋盤・能繰り等の工作機械と電気・ガス溶接等の接合技法の理解と基本技術の習得。

08：講義 ② 課題内容説明 工房及び工具・工作機械の使用説明

09：演習 課題チェック→技法説明 作品制作

10～14：実習 技法説明 作品制作

15：講評・プレゼンテーション

※演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていく。また、ゼミによっては開講されない場合がある。

学生に対する成績評価基準

授業課題の理解度および制作姿勢30％、成果物の内容70％。

テキスト

各ゼミで適宜指示する。

石原ゼミは毎回配付。

参考書・参考資料等

各ゼミで適宜指示する。

石原ゼミは、E.ゴンパウス「美術の歩み」全2巻（美術出版社）、H.W.ジャンソン「美術の歴史」（美術出版社）、小学館世界美術大全集、M・ドゥルシャック「イタリア・ルネサンス 美術史上下」（岩崎美術社）、金属工芸系（鍛金・彫金・鋳金）は技術シリーズ「金工」（朝倉書店）、「金属の工作工芸」（開隆堂）、「鍛金の実際」（美術出版社）、「造形論／人間の視覚」（京都書院）、「金属の伝統技法」（理工学社）、「金工の着色技法」（理工学社）、「工芸家のための金属ノート」（アグネ技術センター）等を推薦する。

用具

ゼミごとに指示する。また、作品制作時に必要となる道具や工具の購入費用や材料費が必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

・素材や道具の扱いと技法の習熟に取り組むこと。

・課題のテーマ・目的・条件を的確に把握し、各自が達成目標に到達すること。

・毎回紹介する美術作品の解説に努めてほしい。（石原ゼミ）。

ゼミⅡ

3 学年 後期 必修 実習 2 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

ゼミⅠから引き続き美術・工芸学科に於ける各分野の研究室を継続選択し、各コース演習の包括的授業と並行しながら、専門性をより深化した内容の課題制作・研究を行う。
この授業は、ゼミⅠで学んだ領域の授業内容を理解・習得した上で専門性や造形方法を応用・展開し、各自のテーマに沿った思考および制作プロセス、手法、問題点を探るものである。また、4年次での卒業研究、その後の進路を見据えた創作・研究基盤を養うものでもある。また、選択の状況等から開講されないゼミもある。

達成目標

- ・各専門分野（領域）の沿革を理解することができる。
- ・意欲を持ち課題に伴う表現材料のさらなる理解と手法・技法を応用および実践することができる。
- ・各自が課題に際して適切な考察を行い、成果物に十分な完成度を求める事ができる。

授業計画

授業内容・進度の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

（石原ゼミ）：美術領域（西洋美術史）：課題〔図像学〕
01：キリスト教図像学Ⅰ初期キリスト教美術
02：キリスト教図像学Ⅱ中世キリスト教美術
03：『交信告知』図像学
04：キリスト伝Ⅰ
05：キリスト伝Ⅱ
06：ルネサンス絵画の解説 ボッティチェリ
07：ルネサンス絵画の解説 レオナルド・ダ・ヴィンチの『岩窟の聖母』をめぐる
08：ルネサンス絵画の解説 ラファエロの『聖母子』の図像学
09：マニエリスム絵画の解説 フロンツィーノの場合
10：バロック絵画の解説 『無原罪の御宿り』
11：動物図像の図像学

12：動物図像学Ⅱ Bestiary入門

13：動物図像学Ⅲ Bestiary解説

14：動物図像学Ⅳ ベリカン伝説

15：『最後の審判』結論

（遠藤ゼミ）：絵画領域

01：ゼミ進行等概説

02～15：作品制作及びディスカッション、レクチャー（時代ごとのムーブメント等）

・ゼミⅠを発展させ研究を進め深めます。

・期末公開講評会（グループ展示形式、ゲストによる講評）があります。

・学外実践活動（作品発表、アート・イベント、見学）の計画、準備、実行がある場合があります。

・スケジュール詳細は初めに説明します。

（岡谷ゼミ）：版画領域（美術）

01：ガイダンス、夏課題講評会

02～15：アクチュアルなテーマの文獻講読と技法研究、遠藤ゼミとの合同授業

・11月末 大塚版画展に作品を出品します。

・文獻講読と各自のドローイング・個別研究指導・自主制作から、それぞれの研究テーマの発見を目指します。

（菅野ゼミ）：彫金領域（金属工芸）：課題〔技法・表現・対外的視野・今後の方向性を踏まえ各自設定〕

01：金銀研究

02～14：伝統的表現、クラフト・ジュエリー、空間・造形的表現等において、各自が取り組むべく研究計画を作成し実践する。

技法研究は平素の取組みとし、進捗の報告は適宜行う。

15：総括

（小林ゼミ）：彫刻領域：課題〔テーマに基づいた作品制作：各自の表現素材・材料と表現手段の研究〕

01：概説講義／課題説明／テーマ・コンセプト決定／アイデアスケッチ・制作ノート作成

02：プレゼンテーション／マケット制作／扱う素材、道具の取り扱いについて、制作計画書作成

03：作品制作（各作品制作計画による進行）／制作計画書提出

04～09：作品制作（各作品制作計画による進行）

10：中間報告・講評／作品制作

11～13：作品制作（各作品制作計画による進行）

14：作品制作 仕上げ・展示方法の確認と準備

15：講評／作品・制作ノート提出

（手銭ゼミ）：鍛金領域：課題〔鍛金技法による2課題を行う〕

①鍛金技法の応用課題として作品制作。

01：講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具の使用説明・工具制作・材料取り

02：実習 課題チェック→技法説明 作品制作

03～06：技法説明 作品制作

07：講評・プレゼンテーション

②自由研究 卒業研究への展開を考慮した研究と作品制作。

08：講義・実習 ② 課題内容説明

09：実習 課題チェック→技法説明 作品制作

10～14：実習 技法説明 作品制作

15：講評・プレゼンテーション

（中村ゼミ）：ガラス領域

01：概要講義・ディスカッション・課題説明（複合技法による器の制作）

02：資料収集・アイデアスケッチ

03～05：作品制作

06：作品制作・講評・作品提出

07：課題説明（各自テーマにての制作）

08：講義・ディスカッション

09：資料収集・アイデアスケッチ

10～12：作品制作

13：作品制作・講評・作品提出

14：課題説明（切り技法による作品制作）

15：プレゼンテーション・講評（作品・制作ファイルの提出）

〈長谷川（克）ゼミ〉：鍛金領域（金属工芸）：課題〔鋳型石膏埋没鑄造法による2課題を行う〕

01～03：ガイダンス、道具製作

04～09：塑造原型による自然物の模刻

・スキュー、塑造による模刻、石膏離型、鋳型制作、溶解、叩き仕上、着色、プレゼン・講評

10～15：各自のテーマによる鋳金造形作品制作

→技法等制作に関わる機材に対象物により検討する～ プレゼン・講評

※各自の制作ペースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。

（馬場ゼミ）：鍛金領域：課題〔鍛金技法による2課題を行う〕

①鍛金技法の応用課題として作品制作。

01：講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具の使用説明・工具制作・材料取り

02：実習 課題チェック→技法説明 作品制作

03～06：技法説明 作品制作

07：講評・プレゼンテーション

②自由研究 卒業研究への展開を考慮した研究と作品制作。

08：講義・実習 ② 課題内容説明

09：実習 課題チェック→技法説明 作品制作

10～14：実習 技法説明 作品制作

15：講評・プレゼンテーション

※演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていく。また、ゼミによっては開講されない場合がある。

学生に対する成績評価基準

授業課題の理解度および制作姿勢30％、成果物の内容70％。

テキスト

各ゼミで適宜指示する。

石原ゼミは適宜配付。

参考書・参考資料等

各ゼミで適宜指示する。

石原ゼミは、E.ゴンパウス「美術の歩み」全2巻（美術出版社）、J.ホール「西洋美術解説事典」（河出書房新社）、D.フリス「イメージ・シンボル辞典」（大修館）、M.バコ「キリスト教図像学」（白水社）。金属工芸系（鍛金・彫金・鋳金）は技術シリーズ「金工」（朝倉書店）、「金属の工作工芸」（開隆堂）、「鍛金の実際」（美術出版社）、「造形論／人間の視覚」（京都書院）、「金属の伝統技法」（理工学社）、「金工の着色技法」（理工学社）、「工芸家のための金属ノート」（アグネ技術センター）等を推薦する。

用具

ゼミごとに指示する。また、作品制作時に必要となる道具や工具の購入費用や材料費が必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

・日常の観察姿勢と積極的な取り組みで、授業の「達成目標」に到達すること。

・英文の参考テキストを配付するので辞書を忘れないように（石原ゼミ）。

卒業研究Ⅰ

4 学年 前期 必修 演習 3 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

これまで培ってきた造形力を基盤とした卒業研究の前半として相応しい内容のテーマの立案から検討を行い、「制作」や「制作及び論文」又は「論文」の内容を見据えた技法実験、小作品の制作、研究を実践する。そして、後半の本制作の骨格となる成果を中間発表する。

テーマの対象は、屋内・屋外の場とモノ（造形）の関係、人とモノ（造形）の関係を今日的視座から探求し、長期にわたるテーマの持続性、計画性をもとにした目標の達成が求められることとなる。

また、個々に追求した専門領域の研究成果にとどまらず、本学の美術・工芸学科の特性である異領域のコラボレーションを通した、新たな造形表現に取り組むことも可能である。

達成目標

- ・テーマ内容を絞り込むために沿革の資料収集～選択、スケッチ・モデルによる質疑応答、検討が適宜行える。
- ・制作における素材の扱いと技法の効果を予測しイメージを視覚化できる。
- ・テーマに沿った制作技法の習得ができる。
- ・卒業研究として適切な内容のコンセプトを立案し、中間発表をすることができる。

授業計画

各研究室より別途指示もあります。

01～02：テーマ・コンセプトに伴う資料収集・調査～分析・選択

03～04：テーマ・コンセプトの仮設定～制作方法の検討

05～07：スケッチ、モデルによる検討 スケジュール計画

08～10：素材と技法の検討、試作

11～14：試作～諸問題の解決

15：中間発表

学生に対する成績評価基準

受講姿勢及び中間発表成果物60%、プレゼンテーション評価40%

出席・遅刻の基準

各研究室で設定する。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等

各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。

各指導教員より適宜紹介や指示をする。

用具

各研究室で指示する。

履修希望者への要望・事前準備

この「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は連動したものであり長期に渡る研究となります。そして、各自のテーマからそれぞれの手法にて、段階ごとに具体的な成果を獲得していくものとなります。中間発表で終わりではないことを意識して邁進してください。

卒業研究Ⅱ

4 学年 後期 必修 演習 3 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

卒業研究Ⅰを達成することで得た研究内容から最終的な卒業研究におけるコンセプトを設定し、その成果を「制作」や「制作及び論文」又は「論文」で提示する。制作においては、各自が実材による造形について研究を行う。論文においては、個々のテーマにそった考察を深め研究を行う。それぞれが卒業研究としてふさわしい高い成果の発表へ向けてアプローチするものである。

達成目標

- ・コンセプトを踏まえて立案した内容を実現するために積極的に行動することが出来る。
- ・テーマに独自性と客観性を持つことが出来る。
- ・造形における素材の扱いと技法の効果を関連づけられる。
- ・論文で卒業研究を行う場合は、論として文章をまとめることが出来る。
- ・自己の研究内容について理路を立て説明出来る。〈研究発表〉

授業計画

各研究室より別途指示もあります。

01～03：中間発表に基づく内容の修正～制作

04～11：制作

12～14：最終調整～展示実施

15：研究発表

学生に対する成績評価基準

受講姿勢と卒業研究成果物80%、展示及びプレゼンテーション評価20%

出席・遅刻の基準

各研究室で設定する。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等

各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。

各指導教員より適宜紹介や指示をする。

用具

各研究室で指示する。

履修希望者への要望・事前準備

卒業研究は学部4年間の集大成として位置付けられ、社会への一歩や進学へのステップとして重要な役割を持っています。長期計画に基づいたその成果として、最終発表には充実した研究と発表を期待しています。なお、この「卒業研究Ⅱ」は、「卒業研究Ⅰ」の単位修得後履修できるものです。

10-6-1 専門教育科目 [建築・環境デザイン学科共通]

建築・環境コンピュータ基礎演習

1 学年 前期 必修 演習 2 単位
武井奈津美

授業の概要およびテーマ

建築・環境デザインの分野において、Illustrator、Photoshopの使い方に特徴がある。この演習では、設計のプレゼンテーションパネル制作を念頭に、基本操作からアプリケーションの連携まで学び、プレゼン力を身につける。

達成目標

- ・Illustrator、Photoshopの基礎操作方法を習得する。
- ・後期の設計演習のパネルメイキングに、習得した技術を即座に応用する。

授業計画

- 01 ガイダンス、Illustratorの基本操作 1
(図形の描き方、塗り方、アンカーポイント、パスの練習)
☐練習課題 1
- 02 Illustratorの基本操作 2 (文字の使用、整列、変形)
☐練習課題 2
- 03 Illustratorの基本操作 3
(塗り方の応用: グラデーション、透明、パターン)
☐練習課題 3
- 04 Illustratorの基本操作 4
(レイヤー、アートボード、定規、ガイド)
☐練習課題 4
- 05 Illustratorの基本操作 5
■実践課題 1
- 06 Photoshopの基本操作 1
(書類設定、画像と解像度、図形の描画)
☐練習課題 5
- 07 Photoshopの基本操作 2 (選択範囲)
☐練習課題 6
- 08 Photoshopの基本操作 3 (写真の修正:色調補正)
☐練習課題 7
- 09 Photoshopの基本操作 4 (写真の修正: レタッチ)
☐練習課題 8
- 10 Photoshopの基本操作 5 (レイヤー、調整レイヤー)
☐練習課題 9
- 11 Photoshopの基本操作 6 (レイヤースタイル、文字)
☐練習課題10
- 12 Photoshopの基本操作 7
■実践課題 2
- 13 PhotoshopとIllustrator、jw-cadとの連携 1
(jw-cadの基本操作、jw-cadによる2.5D)
- 14 PhotoshopとIllustrator、jw-cadとの連携 2
(2.5Dパースにマッピング)
- 15 PhotoshopとIllustrator、jw-cadとの連携 3
■実践課題 3

学生に対する成績評価基準

作図課題+最終課題によって評価する。
なお、受講態度、欠席回数によっては最終課題の提出を認めないことがある。
データ作成含め、不正が確認された場合は、単位を認めない。

テキスト

授業時にプリントを配付する。

参考書・参考資料等

授業中に適時指示する。

用具

課題のデータ保存用にUSBメモリ (1GB以上推奨) を各自で用意してください。毎回授業の前に各自でUSBメモリ内部のウイルスチェックを行って下さい。

履修希望者への要望・事前準備

後期の「建築・環境デザイン演習I」では、設計がどんなに良くても、パネルのレイアウトが成功しない限り、高得点を得ることはできません。学内に展示される先輩達の優秀作品がとても美しいのは、1年生の時から腕を磨いてきたからです。設計図面、文章、模型写真、透視図などを、自在に編集し、見事にレイアウトすることは、造形大生にとって極めて重要なことです。

製図実習

1 学年 前期 必修 実習 2 単位
◎森 望、平山育男

授業の概要およびテーマ

木造およびRC (鉄筋コンクリート) 造の建築物を教材とし、建築・環境デザイン学科の諸分野における基本的な情報伝達手段である製図、透視図、模型制作、プレゼンテーションの技法について系統的に学習する。

達成目標

建築・環境デザイン学科の諸分野における情報伝達の共通言語としての製図方法を理解し、表現することができる。また、建築物がどのような要素から成り立っているのかを理解し、説明できる。

授業計画

- 01 ガイダンス、製図とは?・必要な道具について
- 02 図法の説明・線と文字・寸法の記入法・表示記号
- 03 木造の配置図・平面図
- 04 木造の立面図・断面図
- 05 木造の平面詳細図 (1)
- 06 木造の平面詳細図 (2)
- 07 木造の断面詳細図 (1)
- 08 木造の断面詳細図 (2)
- 09 展開図
- 10 透視図 (1)
- 11 透視図 (2)
- 12 模型
- 13 RC造の平面図 (1)
- 14 RC造の平面図 (2)
- 15 最終発表・まとめ

学生に対する成績評価基準

課題80%、授業姿勢20%。
なお、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合、遅れた日数により減点する。

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

別途指示する。

参考書・参考資料等

『建築製図』 学芸出版社
『建築設計演習基礎編』 彰国社
『建築製図』 彰国社

用具

最初の授業日に必要な道具の説明をします。また、希望者には大学売店にて、一括販売します。

履修希望者への要望・事前準備

製図はデザイナーにとって必要不可欠なイメージ伝達技法であると同時に、知識と経験の積み上げが必要な技術です。毎回、授業の最初に説明をしますので、遅刻をしないようにしてください。また、課題はほぼ毎週出題されますので、提出期限を守るように。指定された道具と配付された資料は、毎回持参してください。

基礎数学

1 学年 前期 必修 講義 2 単位
◎渡辺誠介、津村泰範、福本 壘

授業の概要およびテーマ

建築・環境デザイン学科で学び、研究を進める上で、不可欠な数学的知識を習得する。高校までの学習内容のうち、特に建築設計や各種計画に必要な部分を取り上げ、集中的に理解度の向上を図る。

達成目標

建築・環境デザイン学科として必要な数学的知識を確かなものにするとともに、建築構造に対する理解や各種計画・解析を定量的な視点から捉えられるような下記の基礎的能力を獲得する。

- ・長さ、面積の単位と図面の縮尺について正しく理解できる。
- ・構造力学Iに使用するレベルの三角関数、ベクトルが理解できる。

授業計画

- 1) 数学的知識の状況確認
- 2) 建物や土地の面積把握
- 3) 建物と土地の関わり（容積率や建ぺい率）
- 4) 縮尺とモジュール
- 5) チェックテスト1と解説
- 6) 三角関数の理解度確認
- 7) 三角関数の建築・建設の場面での基礎的利用方法1
- 8) 三角関数の建築・建設の場面での基礎的利用方法2
- 9) チェックテスト2と解説
- 10) ベクトルの概念
- 11) ベクトルの大きさと成分
- 12) ベクトルの合成
- 13) 内積と角度の計算
- 14) 到達度確認（1）およびまとめ
- 15) 到達度確認（2）

学生に対する成績評価基準

各回で実施する確認テスト、到達度確認テストの成績および受講態度等で総合的に判断する。ただし、出席回数によっては到達度確認テストの受験を認めないことがある。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

今村仁美・大谷一翔『図説 やさしい建築数学』学芸出版社
2,100円

履修希望者への要望・事前準備

この授業専用のノートを一冊必ず用意すること。

基礎造形実習Ⅱ（描写）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱ（描写）は、「パース着色」と「透明水彩画」の2つのプログラムからなる。

透明水彩絵の具を使った着色方法を学ぶ。現在、クライアントにプレゼンテーションする時に使われる着色パースはコンピュータを使用したものが主流であり、手による絵具を使ったパースはほとんど使われなくなっている。しかし絵具を使ったパースには味があり、自身のアイデアを発展させるためにも、手によるパースは重要である。

「パース着色」では、建物の外観、内観、店舗のファサードを描く。

「透明水彩画」では、キャンパス内の風景画の着色を課題とする。

達成目標

透明水彩絵の具による作品制作を通じて、「空間の表現」「色彩を用いた様々な表現」について追求し、基礎的な素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とする。

- ・正しい構図を得ることができる。
- ・描写画材の応用と適切な使用ができる。
- ・個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。
- ・それぞれの材質の特徴を理解し、的確な表現をすることができる。
- ・多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。

授業計画

- 第1回ガイダンス
- 第2回建物の外観パース
- 第3回建物の外観パース
- 第4回建物の内観パース
- 第5回建物の内観パース
- 第6回商業施設のファサード
- 第7回商業施設のファサード
- 第8回商業施設のファサード
- 第9回商業施設のファサード
- 第10回商業施設のファサード
- 第11回～第15回風景画

学生に対する成績評価基準

建物の外観・内観33%
商業施設のファサード33%
風景画33%

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

それぞれの授業内で配付することがある。

参考書・参考資料等

別途指示する。

用具

授業前に適宜指示する。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。経験の有無に関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。

基礎造形実習Ⅱ（造形）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱ（造形）は、「CG」「各種図面作成」「建築士試験製図」の3つのプログラムで構成される。

「CG」では3D描画ソフトのスケッチアップを学ぶ。

「各種図面作成」では前期の製図実習でカバーできなかった伏図などのトレースを行う。

「建築士試験製図」では、建築士受験のために必要な手描き図面のトレーニングを行う。

達成目標

スケッチアップを使い、パースが描ける。

各種伏図の意味を理解し、描くことができる。

建築士受験のために必要な図面を描くことができる。

授業計画

第1回～第5回：スケッチアップ

第6回～第10回：各種図面作成

第11回～第15回：建築士試験製図

学生に対する成績評価基準

「CG」33%

「各種図面作成」33%

「建築士試験製図」33%

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

それぞれの授業内で配付することがある。

参考書・参考資料等

別途指示する。

用具

授業にて適宜指示する。授業日には必ず指示された用具を持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。経験の有無に関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。

基礎造形実習Ⅱ（素形材）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱ（素形材）は、「模型製作」と「椅子制作」の2つのプログラムからなる。

「模型製作」では、建築・環境デザイン演習Ⅰの4つの課題の模型を製作する。

「椅子制作」では、「椅子デザイン」で出されたアイディアを原寸で制作する。

達成目標

- ・課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。
- ・課題の説明を記録し制作過程をまとめることができる。
- ・制作等の指導を理解することができ適切な質疑応答ができる。
- ・制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる完成度のある成果物が提出できる。

授業計画

詳しくは初回のガイダンス時に説明する。

学生に対する成績評価基準

模型製作67%

椅子制作33%

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

各課題により資料テキストを授業時に配付する場合がある。

参考書・参考資料等

別途指示する。

用具

各課題制作に必要な用具・材料は適宜指示する。各自が使用する材料等は各自で購入する場合もある。（各課題により異なる。）

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。経験の有無に関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）は、「建築写真」と「椅子デザイン」の2つのプログラムがある。
「建築写真」では、実際の建築物の写真の撮影法を学び、実際に撮影する。
「椅子デザイン」では、各自、椅子のアイデアをだし、三面図を作成する。

達成目標

建築物撮影のノウハウがわかり、実際に撮影することができる。
椅子制作における約束事が理解でき、デザインし、三面図に表現できる。

授業計画

最初のガイダンス時に説明する。

学生に対する成績評価基準

「建築写真」27%
「椅子デザイン」73%

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

各授業内でプリントなど配付する。

参考書・参考資料等

別途指示する。

用具

授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。

建築・環境CAD実習

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
◎小川峰夫、武井奈津美

授業の概要およびテーマ

国内外でシェアの高いAutoCADを用いて、基本的な作図手法を修得し、図面表現の力をつける。
前半は基本操作を習得する。中盤は、図面をトレースすることで図面の読み方を理解し、効率的な作図を身につける。後半は、その他のアプリケーションと連携を行いながら、設計図書について学ぶ。

達成目標

- ・AutoCADの基本操作を取得し、図面を正確に描くことができる。
- ・同時並行の設計演習課題の図面を、美しく描くことができる。

授業計画

- 01 ガイダンス、AutoCADの基本概念（座標、縮尺、レイヤー）、AutoCADの基本操作1（作図コマンド、基点設定）
- 02 AutoCADの基本操作2（編集コマンド、図形練習）
- 03 AutoCADの基本操作3（ブロックの活用）
☐設計演習課題作図1（ふたり部屋：RC造平面図、展開図）
- 04 AutoCADの基本操作4（寸法、文字の設定、印刷設定）
☐設計演習課題作図2（ふたり部屋：RC造平面図、展開図）
- 05 AutoCADの基本操作5（DXFファイル：Illustratorとの連携）
☐設計演習課題作図3（ふたり部屋：RC造平面図、展開図）
- 06 AutoCADの基本操作6（ペーパー空間）
☐設計演習課題作図4（蔵座敷：木造平面図、断面図、展開図）
- 07 AutoCADの基本操作7
☐設計演習課題作図5（蔵座敷：木造平面図、断面図、展開図）
- 08 AutoCADの基本操作8
（写真データの取込み、DXFファイル：その他のCADとの連携）
☐設計演習課題作図6（フォリー：配置図）
- 09 AutoCADの基本操作9
（Excelとの連携：面積表、仕上表など）
- 10 Revit（BIM）の基本操作1
☐設計演習課題作図7（フォリー：平面図、立面図、断面図）
- 11 Revit（BIM）の基本操作2
☐設計演習課題作図8（フォリー：平面図、立面図、断面図）
- 12 Revit（BIM）の基本操作3
☐設計演習課題作図9（住宅：平面図、立面図、断面図）
- 13 Revit（BIM）の基本操作4
☐設計演習課題作図10（住宅：平面図、立面図、断面図）
- 14 Revit（BIM）の基本操作5
☐設計演習課題作図11（住宅：平面図、立面図、断面図）
- 15 最終課題（CADによる図面表現のまとめ）

学生に対する成績評価基準

作図課題+最終課題によって評価する。
受講態度、欠席回数によっては、最終課題の提出を認めないことがある。
データ作成も含め、不正が確認された場合は、単位を認めない。

テキスト

毎回資料を配付します。

参考書・参考資料等

授業中に、適時指示する。

用具

課題のデータ保存用にUSBメモリ（1GB以上推奨）を各自で用意してください。毎回授業の前に各自でUSBメモリ内部のウィルスチェックを行って下さい。

履修希望者への要望・事前準備

設計稼業は、CADができなければお話になりません。設計は、1に図面、2に図面、3、4も図面で、5も図面です。図面は、設計者の「意図」を相手に伝える極めて重要な手段です。建築・環境デザイン学科に入学したからには、「図面力」を徹底的に鍛えられるものと覚悟し、精進してください。

建築・環境デザイン演習Ⅰ

1 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎山下秀之、小川総一郎、小川峰夫、川口とし子、白鳥洋子、津村泰範、佐藤淳哉

授業の概要およびテーマ

初めての設計演習である。インテリアデザイン→日本伝統様式→小建築とランドスケープ→一戸建て住宅の設計を学ぶ。製図やCAD演習で習得した技術も、この演習で応用する。

■第1課題：「ふたり部屋」／建築・環境デザインを学ぶあなたと友人のふたりが、共同生活するインテリアのデザイン。5.4m立方体の空間認識。プライベートスペース（個別空間）とパブリックスペース（共有空間）を学ぶ。

■第2課題：「蔵座敷」／日本伝統の空間様式を題材にし、そのルールの中で現代に通じる和座敷を設計する。実在する蔵のインテリア・リフォーム。「床・棚・書院」という座敷飾りの扱いを学ぶ。スケルトン・インフィルの習得。

■第3課題：「フォリー」／大学の敷地で自分の好きなポイントに、東屋的な小規模建築物をデザイン。広々とした環境と小さな構造物の関係を学ぶ。

■第4課題：「住宅」／具体的な敷地に、具体的な家族像のための住宅を設計する。住宅の間取りと内部空間と外側の形を一つにまとめる。住宅設計が建築設計の基本中の基本であることを学ぶ。

達成目標

各課題ごとに、以下の完成度合で評価を行う。

1. 毎週の宿題やエスキスを、やり遂げることができる。
2. 課題条件を十分に理解した設計や、優れたデザインができる。
3. 正しく、緻密に、設計図が描ける。
4. 印象的なパースや丁寧な模型を作成することができる。
5. 設計概要を適切な文章で表現できる。
6. 以上を、美しいレイアウトでパネルに表現できる。

授業計画

各演習の初日には、ミニレクチャー形式で課題内容に関連することを学ぶ。中間日のエスキスチェックでは、スケッチブックに描いた素案や模型をもとに、教員のアドバイスを得る。最終日には提出物の採点があり、その場で優秀者の発表と講評会を行う。

前半

〈第1課題「ふたり部屋」／第2課題「蔵座敷」〉

01 オリエンテーション&教員の紹介、第1課題および第2課題の出題&ミニレク

02-03 第1課題、第2課題の宿題チェック、エスキス

04 第1課題の仮提出（図面）、エスキス（最終チェック）

05 第1課題の本提出&採点、講評会

06 第2課題の仮提出（図面）、エスキス（最終チェック）

07 第2課題の本提出&採点、第3課題「フォリー」の出題、講評会

後半

〈第3課題「フォリー」／第4課題「住宅」〉

08 第3課題のミニレク、宿題チェック（敷地写真と素案）

09 第3課題宿題チェック（エスキス模型）、第4課題の出題、ミニレク

10 第3課題と第4課題の宿題チェック、エスキス（平面・断面の検討）

11 第3課題の仮提出、エスキス（デザイン・構造の検討）

12 第3課題の本提出&採点、「フォリー」の講評会

13 第4課題の図面とスタディ模型で中間発表（全員）

14 第4課題仮提出、図面の最終チェック

15 第4課題本提出&採点&講評会

学生に対する成績評価基準

講評会での提出物の成績点数（全教員の採点平均）80%＋宿題提出20%（エスキスを受けると加算される）

未提出作品は、期末の後出し提出日に、提出条件を満たしていれば、60点として採点される。一作品でも未提出のままの場合は、履修は不合格となる。

出席・遅刻の基準

作品提出では、遅れた時間に応じた減点がなされる。

テキスト

課題文に資料を配付し説明する場合がある以外、履修者各自により参考図書などを採し、自習すること。

参考書・参考資料等

自分で探すこと。

用具

スケッチブックあるいはエスキス帳、各種筆記用具

履修希望者への要望・事前準備

各人が設計者として、アイディアや考えを人前で堂々と主張し、図面やパースや模型を作成し、プレゼンしていけるようになること。

建築構法

1 学年 後期 必修 講義 2 単位

平山育男

授業の概要およびテーマ

建築をどのように組み立てるのかは建築を考える場合、必須の事柄と言えます。

軸組構法、組積造などの各種構法の種類と特徴を踏まえた上で、木造構法を中心に基礎、軸組、小屋組、床、壁、天井、建具などの構成方法について基礎的な事項を中心に広く学習をしていきます。

特に、各構法については技術の歴史的な背景と成立の要因を有機的に探求して、現在ある構法の成立背景を併せて示して行きます。

達成目標

木造の構法を中心に設計に活用する知識を得ることを目指し、各構法を羅列的な知識として学習するのではなく、歴史的な発展として把握することにより、今後における建築構法の在り方も探る姿勢を身につけることができる。

授業計画

01 各種建築構法の種類と特徴：軸組構法、組積造

各種構法について材料の特性、構造の違いについて概括的に学びます。

02 基礎：掘立、礎石立、布基礎

02～11回の授業では各部部材の名称を説明するとともに、その成り立ちと変遷を学習します。

03 軸組：土台、柱、梁、桁、胴差

04 軒：垂木

05 架構：折置組、京呂組

06 屋根 形状と名称：切妻造、寄棟造、入母屋造

07 屋根 材料：瓦葺、金属板葺ほか

08 床：大引、根太、床材

09 天井：廻縁、棹縁、各種の天井

10 壁：真壁、大壁、各種の壁

11 開口部：窓、扉

12 木造の架構と構法：基礎伏、床伏

12～14回では各種の施工図についての解説を通して、実際の架構法を学びます。

13 木造の架構と構法：小屋伏、軸組

14 木造の架構と構法：矩計

15 まとめ

学生に対する成績評価基準

授業への参加態度20%、授業毎の小課題30%、複数回行う確認テスト50%。

なお、小課題は毎授業のおわりに実施し、次回の授業で返却をします。

テキスト

日本建築学会編『構造用教材』

参考書・参考資料等

彰国社編集『改訂 伝統のディテール』

近藤豊『古建築の細部意匠』 大河出版

履修希望者への要望・事前準備

建築物を見て、知るためには部材名称を覚えることが最小限必須となります。授業においては名称の記憶や学習に留まらず、その成立・変遷をも把握し、建築が歩んできた歴史の道のりを体験してもらいたいと考えています。そのためには建築に向かうとき、主体的に建築を知る一かたちの意味を考える一努力を希求します。

建築・環境デザイン演習Ⅱ

2 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎渡辺誠介、小川総一郎、白鳥洋子、福本 壘、柏原信幸、清水和也

授業の概要およびテーマ

公園・緑地ならびに都市計画・まちづくりなどの環境計画において、土地の持つ様々な資源を把握しつつ、保存・活用・開発の手法について計画・設計による演習を行います。演習にあたっては、長岡市内の具体的事例をケーススタディとして設定します。

達成目標

環境保全、あるいは新たな環境創造のための実践的手法を習得し、実際の計画や設計に応用できるようになることを目標とします。

授業計画

01 全体説明

〈ランドスケープ課題〉小川、柏原

02 対象地域の周辺状況および敷地現状の把握と分析

03 対象地域のボリューム把握、視点場や歴史分析

04 デザインコンセプト構築

05 空間デザイン及びエスキース作成

06 シークエンシャルスケッチ及び図面作成

07 プレゼンテーションパネル及び模型作成

08 講評会

〈都市計画課題〉清水、渡辺、白鳥、専任教員

09 対象地域の現地踏査

10 対象地域の現況および課題の把握

11 踏査結果に関する取りまとめ（プレゼンテーション）

12 空間改善のためのアイデア・コンセプト立案

13 空間デザイン及びエスキース作成

14 プレゼンテーションパネル・模型・図面作成

15 講評会

学生に対する成績評価基準

中間発表30%、作品（場所性の把握、分析・評価、コンセプト、デザイン、説得力）50%、出席した上での教員への質問・討議20%で評価します。

参考書・参考資料等

日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集成』丸善 5,040円

DAVIS・WALKER『PLAN GRAPHICS』WILEY 5,776円

日本建築学会編『まちづくりデザインのプロセス』日本建築学会 1,995円

小川総一郎『エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法』理工図書4,100円

用具

現地踏査時にカメラと記録用具を携帯してください。

履修希望者への要望・事前準備

身近に接する場所の良い点、悪い点を的確に把握し、その場所が何を求めているのかを読み取る能力を開発します。課外授業を取り入れるため、スケジュールは比較的きびしい授業になります。実際の長岡の敷地をケースとして取り上げ、基本計画をプロセスを重視して作成していきます。

建築材料実験

2 学年 前期 必修 実習 2 単位

◎江尻憲泰、小川峰夫、白井一義

授業の概要およびテーマ

建築をかたちづくる材料には骨組みを構成する構造材料、断熱・防音・耐火などの機能を求められる機能材料、内外装を仕上げる仕上げ材料があります。この授業では地震や台風など建物を破壊しようとする力に対して安全を守るために最も重要な構造材料に対する知識を実験を通して具体的に体得して行きます。実験の対象とする材料は主要な構造材料である木材、コンクリート、鋼材および複合材料としての鉄筋コンクリートです。

達成目標

構造的安全性を理解する上で骨組みの形、力の流れとともに骨組みを構成する材料の力学的性質を知ることが必要である。構造材料として用いられている材料の基本的な力学的挙動を体験的に理解することにより、工学的に評価する方法を身につける。

授業計画

01 ガイダンス

02～05 木材の圧縮試験と引張り試験

06～08 コンクリートの調合と圧縮試験

09～11 鋼材の引張り試験と曲げ試験

12～15 鉄筋コンクリート梁の製作と曲げ・せん断試験

学生に対する成績評価基準

実習・実験を通じて建築材料の性質を学ぶという授業の性格から出席率が80%を下回る場合には単位を与えません。授業のはじめにその日の実験の説明をしますので遅刻をすると目的や手順がわからなくなってしまう。遅刻は厳禁です。もしも遅刻をしたら3回で欠席1回とみなします。成績評価は、積極性（30%）と実験結果のレポート（70%）で行います。

テキスト

『材料実験ノート』長岡造形大学 建築・環境デザイン学科

費用は1,000～2,000円ですが、履修者数等で変わるため第一回授業で指示します。

参考書・参考資料等

『建築材料実験用教材』日本建築学会 1,900円

『建築材料用教材』日本建築学会 1,900円

用具

用具は基本的に大学の備品を使いますが、計算を行うので、電卓が必須です。また作業しやすく、汚れてもよい服装で臨んでください。

履修希望者への要望・事前準備

建築の設計においても施工においても使う材料の性質を知らなくてはお話になりません。しかし、力学的性質は目に見えないことが多いため、理解が困難な一面もあります。この授業では材料の破壊に至るまでのプロセスを観察することで力学的な性質を体で覚えることを意図しています。積極的に体と手を動かして実験に参加して下さい。

また、実験の結果を整理し、考察するには工学的な手法を知る必要があります。予測、観察、考察、まとめの一連の方法を知ること大切なことだと思っていますので実験を通じて覚えていただきたいと思います。

建築環境工学

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
飯野秋成

授業の概要およびテーマ

現代の建築設計にたずさわる者には、建築とまちのサステナブル性を追求する真摯な姿勢が求められる。この講義では、建築物の省エネルギーと快適性を具現化する切り口として、日照と日射、熱と結露、換気と通風、採光と照明、色彩計画、騒音と音響、および都市と地球環境のそれぞれについて、基本的な考え方を学ぶ。

達成目標

- ・日照と日射、熱と結露、換気と通風、採光と照明、色彩計画、騒音と音響、および都市と地球環境について、その基本を説明できる。
- ・環境設計の考え方を、自身の手がける建築物の計画に応用できる。

授業計画

- 01 ガイダンス：建築環境工学はなぜ必要か
- 02 日照と日射（1）
- 03 日照と日射（2）
- 04 採光と照明（1）
- 05 採光と照明（2）
- 06 色彩（1）
- 07 試験A／色彩（2）
- 08 熱と結露（1）
- 09 熱と結露（2）
- 10 通風と換気（1）
- 11 通風と換気（2）
- 12 試験B／騒音と音響（1）
- 13 騒音と音響（2）
- 14 都市と地球環境（1）
- 15 試験C／都市と地球環境（2）

学生に対する成績評価基準

授業中に実施する3回の試験A,B,C（配点は30+30+40）の合計で評価する。

テキスト

図とキーワードで学ぶ建築環境工学 学芸出版社 2800円

用具

- ・指定テキスト
- ・筆記用具

※定規、電卓等を用いることがあります。必要なときに指示します。

履修希望者への要望・事前準備

授業中に多くの演習を実施していきます。当授業の試験A－Cに向けて、そして将来の建築士試験などの受験を見据えて、毎回の演習内容を確実に身につけていってください。

建築計画 I

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
西村伸也

授業の概要およびテーマ

建築の計画・設計では、人と環境との関係を適切に捉えることが必要になります。空間を使う人達の行動とそれぞれの空間との関係、建築の内部空間で行われる行動と外部の空間で行われる活動との繋がり、建築と地域の人たちの関わり等を、建築を計画する視点から捉えて、空間のプログラムを創り上げることが建築計画の役割です。この授業は、建築計画の基本的な技術と考え方を学び、利用者の行動と空間との関係を捉える力を学びます。

達成目標

この授業は以下の目標を持っています。

- （1）建築計画の基礎的な知識（建築計画の専門用語、建築計画の考え方）を持つこと。
- （2）建築空間の課題を適切に調査や観察から把握して、人と空間との多様な関係を読み解くことができること。

授業計画

- 01) 建築計画のオリエンテーション・空間のスケール：空間のスケール感とスケールの意味。
- 02) 人体スケール：建築のスケールを決める基準としての人体スケール。
- 03) ものスケール：机椅子のスケール、空間の大きさ。
- 04) 人と人のスケール：人間距離、パーソナルスペース。
- 05) 教室の空間：教室の問題分析。
- 06) 階段のスケール：階段の各部分のスケール測定。
- 07) 住居の空間：自分の住空間の平面図。
- 08) 住空間の問題分析：住空間の行動分析。
- 09) 海外の集合住宅：中国・ヨーロッパの住宅デザイン。
- 10) 学校の空間：学校の空間記憶・平面構成と使われ方。
- 11) ヨーロッパの学校デザイン：学校の空間とその計画的な意味。
- 12) 学校の計画：学校の空間と教育方法。
- 13) 学校の計画：学生の居場所デザイン。
- 14) メディアセンター：空間の情報を集める。
- 15) 大学の空間と行動：行動を記録する。

学生に対する成績評価基準

講義で行う課題の評価70%、学期末に提出するレポートの評価30%で総合して評価を行います。100点満点で60点以上を合格とします。

テキスト

『環境とデザイン』 朝倉書店 3,400円

用具

定規・コンベックス・スケール・筆記用具等、計測・製図のできる用具を準備してください。

履修希望者への要望・事前準備

変わりゆく空間と人との複雑な関係を捉えてデザインに活かしていくことが、建築計画の役割です。建築や都市をデザインするために、新しい建築空間のアイディアやコンセプトに関する情報を集め、日常の中で空間と人との相互浸透の関係を考えるようにしてください。

建築・環境デザイン演習Ⅲ

2 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎小川峰夫、江尻泰憲、飯野由香利、佐藤淳哉、田中理恵子、東海林健

授業の概要およびテーマ

建築及び建築を含めた風土と環境、敷地との係り合いを学ぶ。建築の持つ空間、量感、そしてこれによって表現される効果を演習する。それぞれの土地に根ざした建築の設計を試みると同時に、少し複合的な機能を持った建築にチャレンジする。テーマは以下のとおり。

- ①単純な機能の中にも、都市に新たな提案を含み、空間全体を引き締めることができる建築を考え、表現とそれを包み込む環境の質の向上を計る。
- ②集合住宅等の設計：地域環境を十分理解した上で、そこに集合して住まうことの意味と街を構成する重要な要素であることを認識し、設計を進める。
- ③博物館・劇場、音楽ホール等の設計：展示するものに対する企画力と建築形態への発想の自由さを獲得し、機能を持たせた建築空間にまとめ上げる力をつける。

達成目標

現実に行われている建築設計の流れを習得する。そのためには、建築構造と建築環境工学の基礎知識を応用する能力が必要である。さらに、敷地の条件を読みこなす能力も問われ、最終的に建築造形として全ての要素を含み込んだ提案ができることが求められる。

授業計画

第1週：第1課題「ドミトリー」説明
第2週～第6週：エスキース
第7週：第1課題提出 講評 第2課題「コンサートホール」説明
第8週～第14週：エスキース
第15週：第2課題提出 講評
第7週頃に見学実習を行う。
平成28年度：八ヶ岳高原音楽ホール、飯山文化交流館
平成29年度：八ヶ岳高原音楽ホール、軽井沢の聖パウロ教会
平成30年度：未定（第一候補は八ヶ岳高原音楽ホール）

学生に対する成績評価基準

課題ごとの担当教員の評価を平均する。毎回のエスキースチェック重要。

テキスト

「博物館建築」半澤重信著 鹿島出版会
「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編
「建築設計資料集成」日本建築学会編
「コミュニティとプライバシー」S・シャマイエフ、C・アレキサンダー 鹿島出版会
「木の学校選集」文部省
各種建築雑誌

履修希望者への要望・事前準備

エスキースを重要視する。毎回学生はエスキースをしながら考えたことを教員に対してプレゼンテーションすることにより、自らの考えを修正したり、深めたりしてほしい。スケジュール管理を徹底し、各段階でのエスキース時間を十分確保すること。各自の設計案は設計者による主旨説明の後、各教員によって講評されるが各自自信をもって立ち向かってほしい。
建築・環境デザイン学科に入学し、2年目。専門課程に入る前の最後の演習となる。敷地における空地のデザインと建築設計は建築・環境デザイン学科におけるものづくりの基本であるという認識に立ち、建築及びその環境を学び、専門家としての考え方、知識を身につける上で大切な演習である。また設計することの喜び、楽しみも十分に満喫してほしい。CADは設計に携わるのであれば必須のスキルですので積極的な授業を各自展開してほしい。

構造力学Ⅰ

2 学年 後期 必修 講義 2 単位

江尻泰憲

授業の概要およびテーマ

物を床に載せた時、また、地震力や風圧力等の外力により建物には力が作用します。建物に生じる様々な応力や変位を知ることは、建物の自由な空間や人命に対する安全性、そして、近年、重要視されるようになった居住性を考える第一歩となります。

構造力学Ⅰでは、外力の種類、そして柱や梁に生じる力の種類を知り、その応力により各部材がどのように変形するかを知ることから始めます。変形が理解できたら、応力や変位を数値として算出するために必要な基本的な事項について説明して行きます。最終的には、知識として身につけた計算が実際にどのように構造物へ応用されるのか実感できる様に具体例を解説します。

達成目標

建築士に必要な力学的知識である構造物の支点反力や変位および部材断面に生じる応力の種類を理解することを第一目標とし、静定構造を中心に構造力学の計算方法を習得すると共に不静定構造物の計算を試みる。

授業計画

- (1) 概要：授業の概要
- (2) 荷重：地震力等建物に加わる外力の種類
- (3) ビン・固定：梁や柱の端部の条件（境界条件）
- (4) 応力と変形：応力の種類と変形
- (5) 力の合成と分解：力の合成及び力の分解方法
- (6) 支点反力：外力からの支点反力計算
- (7) 断面性能：応力・変位計算において必要な断面性能
- (8) 応力図：応力図の書方・見方
- (9) 梁の応力・変位計算：外力による応力・変位の算出方法
- (10) 見学会：工事現場見学または建物見学
- (11) トラスの計算：トラスの計算方法
- (12) 応力計算方法：たわみ角法、D値法
- (13) 応力度と許容応力度：断面性能と応力度、許容応力度
- (14) 演習：応力計算の演習
- (15) まとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価は、試験（75%）と積極性（25%）を総合的に行う。

テキスト

適宜プリントを配付します。

参考書・参考資料等

『建築骨組の力学 基礎編』田中 尚・高梨晃一・宇田川邦明共著、東洋書店

『最高に楽しい建築構造入門』江尻泰憲著、エクスナレッジ

用具

電卓

履修希望者への要望・事前準備

建築の構造は計算だけで理解できるものではありませんが、応力を理解することは創造的な建築設計の基礎になります。興味を持てるようになるには、基本的な知識が必要です。知識取得のためには、時間をかけて努力する必要があります。

建築材料

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
◎平山育男、津村泰範、森 望

授業の概要およびテーマ

建築を造るためには必ず材料が必要です。そして建築に用いられる材料の数は極めて多く、性質もそれぞれ異なります。構造物の建設にはこれらの材料を大量に使用するので、構造物と住環境における安全性や耐久性に対して材料が及ぼす影響も大きく、材料の性質や長所・短所を知ることは極めて重要です。また、仕上材の性質を知り、よりよい空間の構成を知ることも重要です。授業では構造材としての木材、鋼材、コンクリートについての特性と、仕上用材の学習を通し、今後の学習の基礎とします。

達成目標

建築の構造材料として代表的な木材、鉄筋コンクリート、鋼材の性質と強度について理解し、建築物の設計に際しての基本事項として把握することができる。
また、仕上げ材の種類と用途を学ぶことによって、建築表現の在り方を把握することができる。
これらを合わせて実際の設計などにおいて、適切な材料の使用及び選択を行うための力を養うとともに、建築表現を行うことができる。

授業計画

津村

- 01 建築材料の基礎
- 02 木材の特徴と日本建築
- 03 木材の種類と用途
- 04 木材の加工と性質
- 05 合板、集成材、輸入材

平山

- 06 鋼材の性質と強度
- 07 鋼材の物性と製品
- 08 セメント・コンクリートの性質と強度
- 09 コンクリートの調査と打ち込み

森

- 10 石材・セラミックス
- 11 金属・プラスチック・防水材料
- 12 ガラス・屋根材料
- 13 壁下地・左官
- 14 内外装材・塗料・接着剤

共通

- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

成績はテスト（80％）、授業の受講態度・意欲（20％）により評価します。

テキスト

絵とき建築材料 改訂2版 オーム社 2,940円

参考書・参考資料等

『建築材料用教材』 日本建築学会 1,995円
このほかに参考となる資料などを授業において資料として配付します。

履修希望者への要望・事前準備

建築の材料を知ることは、よりよい建築を造るための第1歩となります。材料の種類、性質、特性をよく理解して、今後の設計活動などにおける礎としてください。

建築構造

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
江尻憲泰

授業の概要およびテーマ

日本の建築は、木造、鉄筋コンクリート造、および鉄骨造が基本の3つですが、各材料の性質を利用し、架構の組み方を工夫することにより様々な建築が日々創造されています。本授業では、いろいろな構造形式・構造種別があるので、それぞれの特徴を構造設計の観点から解説します。
また、材料は、温度や湿度の変化で伸びたり縮んだり、水の影響で腐敗したり、火事で燃えたり、ゆがんだりします。材料の性質を熟知し設計に活かすことも重要なことであり、構造に関する講義をしつつも、様々な材料の特質や意匠・設備の関わりについても触れていきます。

達成目標

構造種別、構造形式、材料の強度以外の性質に関する知識を習得すること及び基本的な構造設計法を理解する。また、建築には様々な業種があり、構造設計と意匠設計・設備設計、施工との関わりを理解する。

授業計画

- (1) 概 要：授業の概要
- (2) 構造種別：鉄骨造・鉄筋コンクリート造・木造とは
- (3) 構造形式：ラーメン構造・ブレース構造・壁式構造とは
- (4) 木 造：木の性質と木造
- (5) 鉄筋コンクリート造：コンクリートの性質と鉄筋コンクリート造
- (6) 鉄骨造：鉄鋼の性質と鉄骨造
- (7) 構造図の描き方：構造図の基本的な作図方法の解説
- (8) 建築計画・構造計画：構造計画と建築計画・設備計画との関わりを実例で紹介
- (9) 様々な構造：膜・トラス・シェル・組積造・免震構造・制震構造の解説
- (10) 小さな構造：展示など小さな構造物の実例の紹介
- (11) 建築構造の歴史：基準法の歴史を中心に建築構造に関わる災害・事件を解説
- (12) 見学会：工事現場見学または建物見学
- (13) 耐震診断・耐震補強：一般の建物や重要文化財の診断・補強方法の紹介
- (14) 構造設計の実例：力の流れを実例を通して解説
- (15) まとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価は、試験（50％）とレポート（25％）および積極性（25％）等を含めて総合的に行う。

テキスト

適宜、プリントを配付します。

参考書・参考資料等

『構造物の技術史』 藤本盛久編 市ヶ谷出版社
『YOUR PRIVATE SKY』 R.BUCKMINSTER FULLER LARS MULLER PUBLISHERS
『最高に楽しい建築構造入門』 江尻憲泰著、エックスナレッジ

履修希望者への要望・事前準備

建築設計は、構造に関する様々な知識が必要となる。構造計算以外の構造に関する知識を取得するため、実際の様々な建物を見て構造に関して考えてほしい。

測量学実習

2 学年 前期 選択 実習 2 単位
◎渡辺誠介、平山育男、可兒雅幸、渡邊信治

授業の概要およびテーマ

建築家、ランドスケープデザイナー、都市計画家、文化財建造物保存専門家、遺跡整備専門家、土木技術士などに必要不可欠な技術である「測量学」を講義・実習を通して身につける。特に平板、測距、レベル測量、角測量の技術を実践的に身につけ、スケール感を養う。

達成目標

測量士補レベルの能力を身につける。
(1) 地形情報処理技術の全般的理解ができる
(2) 測量器具が使える

授業計画

- 01 ガイダンス＋距離測量講義
- 02 距離測量実習
- 03 平板講義（放射法、前進法）
- 04 平板測量実習
- 05 平板測量実習
- 06 レベル測量講義
- 07 レベル測量実習
- 08 レベル測量実習
- 09 角測量講義
- 10 角測量実習
- 11 角測量実習
- 12 角測量実習
- 13 土量計算
- 14 GIS測量
- 15 最終内業確認

学生に対する成績評価基準

実習での器具取り扱い習熟50%、講義でのレポート50%

テキスト

『図解土木講座 測量学』 小田部和司著 技報堂出版 3,200円

履修希望者への要望・事前準備

野外での実習があるため、作業しやすい服装を準備すること。
野外で実習の際は、樹木の名前を覚える努力をすること。
三角関数付きの電卓は必須です。

建築・環境CG実習 I

2 学年 前期 選択 実習 2 単位
◎福本 晃、佐々木雅宏、高木秀太

授業の概要およびテーマ

Rhinoceros、Grasshopperによる

1. 建築モデルの3Dモデリング、パラメトリック制御、図面出力（題材：バルセロナパビリオン）
2. 都市の解析手法、ビジュアライズをそれぞれ習得し、建築設計（課題）にデジタルな手法を取り入れる。

達成目標

- ・3DモデラRhinoceros、および、グラフィカルアルゴリズムエディタGrasshopperの学生課題レベルでの技術習得
- ・デジタル3Dモデルの素材活用スキルの習得
- ・上記技術の設計課題への自主的な応用

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Rhinocerosの基礎
- 第3回 Rhinoceros建築モデリング演習 1
- 第4回 Rhinoceros建築モデリング演習 2
- 第5回 Rhinocerosでの図面出力、パース作成
- 第6回 Rhinocerosへの地図データインポート
- 第7回 Grasshopperの基礎
- 第8回 Grasshopper建築モデルのパラメトリック制御演習 1
- 第9回 Grasshopper建築モデルのパラメトリック制御演習 2
- 第10回 Rhinoceros + Grasshopperでの都市解析ビジュアライズ手法
- 第11回 RhinocerosとAdobe Illustratorの連携
- 第12回 課題：都市解析のビジュアライズ スタディ 1
- 第13回 課題：都市解析のビジュアライズ スタディ 2
- 第14回 課題：都市解析のビジュアライズ スタディ 3
- 第15回 課題：都市解析のビジュアライズ 最終発表会

学生に対する成績評価基準

- ・毎授業の提出物可否による絶対評価（70%）
 - ・最終提出物のクオリティによる相対評価（30%）
- 上記の通り、本授業は提出物（主に演習の成果物や課題スタディ結果の報告）を重要とし、全体の評価の7割とするので、注意すること。

テキスト

Webテキストを用いる。詳細は授業時にアナウンスする

参考書・参考資料等

授業時にアナウンスする

用具

大学設備のPCを用いるが自身のPCを用意しても良い

履修希望者への要望・事前準備

- ・第2学年 前期 「建築・環境デザイン演習Ⅱ」を同時履修する（あるいは、履修済である）と習得知識・技術に相乗効果が見込めるので推奨する
- ・コンピューターに「詳しい者」はもちろんではあるが、「詳しくない者」にこそ是非受講していただきたい。丁寧な指導を心がけるので「デジタル」に怖がらないこと。
- ・授業計画については進行状況や他の授業との連携によっては適宜変更するので授業中のアナウンスを注意すること

都市計画

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

都市計画とは、都市の総合的将来像を提示し、その実現に向けて住民の都市活動を誘導する手法である。そのためには、建築の単体規定および集団規定を学び、その上で経済学、社会学、行政学、文化財学、農林学など多くの素養を必要とする。こうした日本の都市計画の流れと、新たな制度、事例を合わせて今後必要となる技術を紹介する。

達成目標

都市計画制度の概要が説明できる
都市計画における専門技術を理解する
現代日本の都市計画の課題を理解する

授業計画

- 01 都市計画理論の変遷
近代都市計画の先人である、エベネザ・ハワード、ル・コルビジェ、パトリック・ゲテス、ケヴィン・リンチ、クリストファー・アレキザンダーの都市論を学ぶ。
- 02 建築の観点から見た都市計画法と都市計画事業
日本における都市計画法の変遷。都市計画法と建築基準法の関係。ゾーニングと集団規定。市街化調整区域と線引き、非線引き。用途地域と建蔽率、容積率。接道義務と二項道路。区画整理事業と都市再開発事業。
- 03 国土計画と市町村合併
全国総合開発計画から4全総、5全総までを概括する。
- 04 都市計画と市民参加
日本のまちづくりNPOの変遷。欧米のまちづくりNPOの変遷。日本の都市計画法の中での市民参加の規定について
- 05 人口予測と土地利用計画
人口予測手法としての線形回帰法とコーホートモデルを学び、長岡の人口推計を行う。これに基づき土地利用計画の立て方を学ぶ
- 06 整備保と都市計画マスタープラン
都市計画の総括的考え方である「整備・開発・保全の方針」と「市町村マスタープラン」について学ぶ
- 07 優良田園都市住宅の考え方
市街化調整区域内での特例的田園集宅地の開発の考え方を学ぶ
- 08 景観法と事例
景観法と景観法が導入されてきた背景を学ぶ
- 09 デザインサーベイとまちづくり
伝統的建造物群保存地域などを調査するための建築的デザインサーベイの方法論を学ぶ
- 10 まちづくり三法、都市再生特別措置法とまちづくり
中心市街地を活性化させるための所謂「まちづくり三法」の正立、改正の背景を学び、都市再生特措法のメニューを学ぶ
- 11 商業地デザインのテクニック
商業地のデザインテクニックを学ぶ
- 12.3 人口減少期のコンパクトなまちづくりの議論
人口減少期に検討されるべき、建築の減築、コンバージョン、間戻の手法と課題について考える
- 14 費用便益、経済波及効果分析
事業の有効性を測定する費用便益法、経済波及効果の手法を学ぶ
- 15 立地適正化計画
立地適正化計画について学ぶ
- 16 期末試験

学生に対する成績評価基準

講義でのレポート30%、期末試験70%

テキスト

授業時に配付する

履修希望者への要望・事前準備

日本の人口が減少に向かう中、地方の都市のあるべき姿と、これまでの方向性に乖離が生まれ、問題が起きている。これを解決するための都市計画的ヒントを理解したい人が受講してください。

住宅リフォーム論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
川口とし子

授業の概要およびテーマ

住宅ストックの量的な充足、また環境問題、資源・エネルギー問題が深刻化する中で、既存ストックの適切な維持管理に加え、地震や高齢化等に対応する住まいの性能もより高く求められてきている。そこでますます重要とされる〈住宅リフォームのプロセス〉について学ぶ。

達成目標

住宅リフォームの流れや建物のライフサイクルコストへの理解を通じ、建築の良質なストックを設計するための基礎知識の習得。

授業計画

- (1) 〈I. 住宅リフォームの基礎知識〉 I-1.住宅市場の推移
- (2) I-2.様々なリフォーム
- (3) I-3.リフォームの流れ
- (4) 〈II.住宅の性能とリフォーム〉 II-1.耐震改修
- (5) II-2.省エネルギー
- (6) II-3.バリアフリーリフォーム、II-4.防犯について
- (7) 〈III. 部位別リフォームとコスト〉 III-1.基礎のリフォーム、III-2.屋根のリフォーム
- (8) III-3.外壁のリフォーム、III-4.内装のリフォーム
- (9) III-5.設備のリフォーム
- (10) 〈IV. 住宅リフォームとLC〉 IV-1.建物のライフサイクルコスト (LC)、IV-2.小規模リフォーム
- (11) IV-3.設備と中規模リフォーム
- (12) IV-4.構造と大規模リフォーム
- (13) 〈V. 事例によるリフォームプロセス〉 V-1.木造 (在来軸組工法) のリフォーム、V-2.木造 (2×4工法) のリフォーム
- (14) V-3.鉄筋コンクリート造のリフォーム
- (15) V-4.鉄骨造のリフォーム

学生に対する成績評価基準

出席率2/3以上を前提に、小レポート・発表 (40%)、期末レポート・発表 (60%)

テキスト

『今、中古マンション買ってリフォームが正解』 川口とし子著、メディアファクトリー¥1,188-

参考書・参考資料等

『リフォームの現場から』 川口とし子著、日本建築仕上学会 学会誌「FINEX No.115~121」、他

履修希望者への要望・事前準備

授業への積極的な参加を前提に、建築の良質なストックを設計する将来世代としてのモチベーションを高めること。

建築計画Ⅱ

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
西村伸也

授業の概要およびテーマ

この授業では、既存の建築での使われ方をいろいろな側面から調査・分析してその問題点を捉えること、それぞれの問題に基づいた新たな空間提案を組み立てます。幾つかのコンセプトを生成するための種を起点にして、建築計画的な視点から空間の問題を整理して、コンセプトデザインを行うための基礎的な学習をします。

達成目標

建築計画的な空間のとらえ方を実際の調査・ワークを通して学習し、建築計画に関する以下の基礎的な力を獲得します。

- (1) 建築計画的な視点からの空間を分析しその問題を適切に捉えられること。
- (2) 空間に対する適切なコンセプトをデザインできること。

授業計画

- 01) オリエンテーションとコンセプトデザインの進め方
- 02) 「透過性」：教室の透過性をキーワードにして、新しい空間を提案する
- 03) 「透過性」：プロムナードの新しい空間提案を行う
- 04) 「居場所」：学生の居場所を考えることで、プロムナード空間に新しいコンセプトの生成を行う。
- 05) 「居場所」：教員・職員、来校者等の居場所や連携する地域住民の居場所をデザインする
- 06) 「居場所」：大学の中に、居場所をデザインすべき所を探して、居場所のコンセプトデザインを行う
- 07) 「多機能性」：教室に設定されている機能とは別の機能を加えることで、新たな教室空間をコンセプトデザインする
- 08) 「多機能性」：食堂の機能を拡張するリノベーションを「多機能性」という視点からデザインする
- 09) 「領域」：食堂の機能を拡張するリノベーション：新しい空間のデザイン
- 10) 「領域」：エントランスの領域を拡張して、新たな空間をデザインする
- 11) 図形の操作と解説：コルビュジェの設計方法
- 12) 図形の操作と解説：横文彦の設計方法
- 13) メディアセンターの拡張：図書室の持っている課題を、利用者としての学生・教員・職員・地域住民等の別に整理する
- 14) メディアセンターの拡張：コンセプトデザインのための種「透過性」を用いて、新たな空間を提案する
- 15) メディアセンターの拡張：コンセプトデザインのための種「居場所」を用いて、新たな空間を提案する

学生に対する成績評価基準

講義で提出するワークのレポートを評価（70％）します。さらに学期末に提出するレポートの評価（30％）を加えて評価を行います。100点満点で60点以上を合格とします。

テキスト

『環境とデザイン』朝倉書店 3,400円

参考書・参考資料等

『かたちのデータファイル』高橋研究室編 彰国社 2,730円

用具

調査に必要な定規・コンベックス・スケール、色鉛筆、製図に必要な用具を用意してください。

履修希望者への要望・事前準備

建築の設計では、いろいろな建築空間や人の環境に対して、新しいまなざしと独創的なコンセプトデザインが求められています。建築計画Ⅱでは、コンセプトデザインの鍵となる視点を活用して、コンセプトの生成をワークしていきます。事前に、自分の身の回りの空間がどのように作られ使われているかをしっかりと見ておいてください。また、インターネットや図書室で関係ある建築空間について、調べておくようにしてください。

緑地環境設計

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
小川総一郎

授業の概要およびテーマ

前期「緑地環境計画」で修得したランドスケープ計画の基礎技術を発展させて、毎週講義で学んだことを課題に反映して最終成果課題につなげる。一連のデザインプロセスを経て、空間を総合的にデザインすることを体験する。

達成目標

ランドスケープの基礎的な図面を描くことができる。
ランドスケープ設計に必要な材料を適切に使い分けることができる。
特定視点場から正確なスケッチを描くことができる。

授業計画

- 1 ガイダンス：最終課題説明
- 2 樹木
- 3 空間構成感覚
- 4 屋外スケッチ
- 5 透明水彩技法
- 6 透明水彩：キャンパス
- 7 透明水彩：キャンパス仕上げ・講評
- 8 植栽設計
- 9 水路設計
- 10 水辺空間設計
- 11 勾配感覚
- 12 道路設計
- 13 造成・排水・駐車場設計
- 14 擁壁・舗装設計
- 15 プレゼン

学生に対する成績評価基準

演習課題ではないのでデザインで評価せず、小課題が最終成果に反映されているかどうかで評価する。
定期的な小課題：未提出の場合減点
最終成果課題 100％

テキスト

エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎
理工図書 4,200円（税別）

参考書・参考資料等

庭木と緑化樹1,2 飯島亮 誠文堂新光社
住まいの樹木図鑑 住友林業緑化

用具

スケッチブックなど、ガイダンス時に説明します。

履修希望者への要望・事前準備

2 学年前期の「緑地環境計画」を履修し単位を取得してください。

建築・環境CG実習Ⅱ

2 学年 後期 選択 実習 2 単位
◎福本 壘、佐々木雅宏、高木秀太

授業の概要およびテーマ

建築設計におけるデジタル手法をアドバンスドに学習する。本授業では特に「住宅」設計に特化し、2つの課題を設定する。前半課題はこれまでに自身が取り組んだ住宅設計課題をデジタル手法で「リビルド」することを試みる。後半課題ではさらに拡張し、レーザーカッター、3Dプリンタを用いた、多様な「住宅模型キット」を作成する。

達成目標

- ・3DモデルRhinceros、および、グラフィカルアルゴリズムエディタGrasshopperの建築設計（課題）へのハイレベルな応用
- ・レーザーカッター、3Dプリンタによる建築模型の出力
- ・上記技術の設計課題への自主的な応用

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Rhinceros、Adobe Illustratorからのレーザー／3D出力
- 第3回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ1
- 第4回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ2
- 第5回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ3
- 第6回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ4
- 第7回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ5
- 第8回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする 最終発表
- 第9回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ1
- 第10回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ2
- 第11回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ3
- 第12回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ4
- 第13回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ5
- 第14回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ6
- 第15回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する 最終発表

学生に対する成績評価基準

- ・毎授業の提出物可否による絶対評価（70%）
 - ・最終提出物のクオリティによる相対評価（30%）
- 上記の通り、本授業は提出物（主に課題スタディ結果の報告）を重要とし、全体の評価の7割とするので、注意すること

テキスト

Webテキストを用いる。詳細は授業時にアナウンスする

参考書・参考資料等

授業時にアナウンスする

用具

大学設備のPCを用いるが自身のPCを用意しても良い

履修希望者への要望・事前準備

- ・第1学年 後期 「建築・環境デザイン演習Ⅰ」（住宅設計課題）を履修済であることが望ましい
- ・第2学年 前期 「建築・環境CG実習Ⅰ」を履修済であると習得知識・技術に相乗効果が見込めるので推奨する
- ・コンピューターに「詳しい者」はもちろんではあるが、「詳しくない者」にこそ是非受講していただきたい。丁寧な指導を心がけるので「デジタル」に怖がらないこと。
- ・授業計画については進行状況や他の授業との連携によっては適宜変更するので授業中のアナウンスを注意すること

構造力学Ⅱ

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
江尻憲泰

授業の概要およびテーマ

実際に建設される建物は柱と梁で構成された構造物です。構造物に外力が作用したときの構造物の応力や変形性状を正しく知ることは大変重要です。構造力学Ⅱでは、構造力学Ⅰで学んだ力学的知識に続きより実設計をする上で必要とされる事について解説します。フレームの力学的性状を理解することは、数値を算出することではありません。建物は、ねじれたり、座屈をしたり複雑に変形します。力の流れがイメージできるとより合理的な建築計画が可能になります。

達成目標

地震、風、積雪等の外力が構造物に作用したときの構造物（フレーム）に生じる力が理解できることを目標とする。また、建築設計実務で行われる許応力度計算や保有水平耐力計算等の実務で使われる手法の概要を理解し、構造設計上の必要知識を習得する。

授業計画

- (1) 概要：授業の概要
- (2) 部材応力：構造力学Ⅰの復習1（応力の種類）
- (3) 応力計算：構造力学Ⅰの復習2（梁・架構の応力計算）
- (4) 剛性率：剛性率の解説
- (5) 偏心率：偏心率の解説
- (6) 木造軸組1：木造軸組の壁量計算法の解説
- (7) 木造軸組2：1/4法、N値法の解説
- (8) 一貫計算：一貫計算プログラムによる計算書の見方
- (9) 見学会：工事現場見学または建物見学
- (10) 座屈：柱・板・構造体の座屈の解説
- (11) 保有水平耐力：保有水平耐力の概要
- (12) 仮想仕事法：保有水平耐力計算方法
- (13) 振動解析1：地震動・固有値の解説
- (14) 振動解析2：環境振動・交通振動の解説
- (15) まとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価は、試験（75%）と積極性（25%）等を含めて総合的に行う。

テキスト

適宜、プリントを配付します。

参考書・参考資料等

『建築骨組の力学 応用編』田中 尚・高梨晃一・宇田川邦明共著、東洋書店
『YOUR PRIVATE SKY』R.BUCKMINSTER FULLER LARS MULLER PUBLISHERS
『最高に楽しい建築構造入門』江尻 憲泰著、エックスナレッジ

用具

電卓

履修希望者への要望・事前準備

建築設計は、構造に関する様々な知識が必要となります。構造計算以外の構造に関する知識も重要です。そのための一歩として、実際の様々な建物を見て、構造力学Ⅰや構造力学Ⅱで身につけた知識を参考に、構造に関して考えるとより構造に対する知識が深まります。

建築設備

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
飯野秋成

授業の概要およびテーマ

建築物を有効にそして快適に使い続けていく上で、建築設備は欠かすことができません。長い歴史の中で人々が培ってきた建築設備技術をひも解けば、無味乾燥に思える機械室設備群の価値が理解され、設備設計の緻密さにロマンを感じるのではないのでしょうか。この授業では、空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備の設計方法を学びます。特に、建物用途ごとの考え方の違いにフォーカスしています。この講義で得られる知識は、学生個々のオリジナルの建築物の設計にも大いに役立ててもらえるのでは、と思っています。

達成目標

- ・設備設計の対象となる建築物に対して、空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備、消防・防災設備の設備設計の考え方を記述できる。
- ・設備設計の対象となる建築物に対して、適切な設備を選択し、また基本的な設備図面を描くことができる。

授業計画

- 01 ガイダンス：建築設備と建築計画との密接な関わり
- 02 オフィスビルの設備設計（1）
- 03 オフィスビルの設備設計（2）
- 04 オフィスビルの設備設計（3）
- 05 演習Aと解説
- 06 学校の設備設計
- 07 図書館の設備設計
- 08 機械設備の仕組み
- 09 演習Bと解説
- 10 宿泊施設の設備設計
- 11 病院の設備設計
- 12 蓄熱とコージェネ
- 13 演習Cと解説
- 14 省エネ重視の設備設計
- 15 演習Dと解説

学生に対する成績評価基準

演習A～Dの各得点（各々25点）の合計で評価します。

テキスト

図とキーワードで学ぶ建築設備 学芸出版社 2800円

参考書・参考資料等

「新潟工科大学環境設備・芸術工学研究室」のWebに、予習、復習用動画があります。
予習、復習に適宜視聴してください。http://www.niit.ac.jp/abehtml/iinolab/

用具

- ・指定テキスト
 - ・筆記用具
- ※定規、電卓等を用いることがあります。必要なときに指示します。

履修希望者への要望・事前準備

演習A～Dに出題する問題は、授業中に説明した内容、およびテキストに明示されている内容となっています。単位修得を目指す学生は、毎回の講義にしっかり向き合ってください。

建築設計

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
山下秀之

授業の概要およびテーマ

本講義では、同時期開講の設計演習と密にリンクしながら進めるものである。事例を具体的にとりあげ、設計方法を解説し、履修者の設計演習に即時応用してもらう。構造・設備・施工についても解説する。

達成目標

設計要件を建築物として成立させるべく、計画・法規・構造・設備・材料・納まり・施工方法を図面化できるようになること。それらを皆さんの設計演習で応用できるようになること。

授業計画

- 第1期__インテリアの設計と建設
- 第2期__RC造の設計と建設（1）（2）
- 第3期__木造の設計と建設（1）（2）
- 第4期__鉄骨造の設計と建設（1）（2）
- 第5期__専門図（詳細図・構造図・設備図）の設計
- 第6期__幾何学的思考・ダイアグラム・システム・プログラム（1）（2）
- 第7期__里山環境の建築の設計（1）（2）
- 第8期__設計競技の建築について
- 第9期__現代都市の建築の設計（1）（2）

学生に対する成績評価基準

期末レポート100%（ただし、出席回数12回以上が条件で、欠席日数に準じる減点あり）

出席・遅刻の基準

授業開始5分以内を出席、それ以降を欠席と扱う。出欠に関して1回でも不正が明らかになった場合は、評価を不合格とする。

テキスト

オリジナルのプリントを毎回配付

参考書・参考資料等

特になし

用具

特になし

履修希望者への要望・事前準備

建築の設計は、以下の「力」を必要とする。複雑な設計条件の読解力、平面計画の推敲力、空間や立体の造形力、日々進化する技術や素材への工学力、建築基準法など法規への適応力、CAD/CGのパソコン力、美しい模型の製作力、手による描写表現力、設計説明書の文章力、パワーポイントによるプレゼン力、面積や工事費計算のエクセル力、建設現場における指示力、近未来を見すえた判断力。以上、大変な労苦を伴うものだが、建築に熱意を持つみなさんの初期衝動が持続し、身を結ぶことを望む。

エコロジカルプランニング

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎小川総一郎、鈴木誠治

授業の概要およびテーマ

「生態的に安定した環境は必然的に景観も美しい」という前提に立ち、自然環境のあるべき姿について学びます。この地域の自然環境に立脚したエコロジカル・プランニング手法により、生態的に安定した美しい景観を計画することを目指します。

そのための基礎として生態学的な知識と理解力を養うとともに、エコロジカル・プランニングの手順と方法について学習します。最後にその応用として、本学のキャンパスをモデルとしたエコロジカル・ランドスケープの小演習を行います。

達成目標

エコロジカル・プランニングの基礎としての地域の植生や生態系を理解し、自分なりのエコロジカルな視点に立った計画アプローチができるようになることを目指す。

授業計画

第1 ステップ：エコロジカル・プランニングの概要と基礎

- 1 エコロジカル・ランドスケープの世界
- 2 地形の読み方と生物相の関係
- 3 生態系に関する基礎知識
- 4 地域の自然（生態系）に関する知識
- 5 里山の生態系の特性と保全

第2 ステップ：地域の自然を知ろう

- 6 キャンパスでのハビタット調査
- 7 キャンパスでの場とハビタット設定

第3 ステップ：生物生息環境とエコロジカル・プランニング

- 8 エコロジカル・プランニングのプロセス
- 9 各種生物の生息環境と生態系
- 10 ビオトープと生態系復元の技術
- 11 目標種の考え方と生態系

第4 ステップ：エコロジカル・ランドスケープの演習

- 12 ビオトープ・ハビタット計画：ゾーニング
- 13 ビオトープ・ハビタット計画：エスキス
- 14 ビオトープ・ハビタット計画：プラン・スケッチ
- 15 ビオトープ・ハビタット計画：まとめ

学生に対する成績評価基準

試験は行わない。与えられた課題についてレポートや作品を提出してもらう。提出されたレポート、作品にて評価する。

テキスト

エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎
理工図書 4,200円（税別）

参考書・参考資料等

養父志乃夫著 ビオトープ再生技術入門 農文協

履修希望者への要望・事前準備

座学およびキャンパス内フィールドでの講義の他、提出された課題のレポート・作品への講評を中心に授業を進めていく。したがって、課題に対して意欲的に取り組みができる人を期待する。

建築法規

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎小川峰夫、石橋 勉

授業の概要およびテーマ

建築物の敷地、構造、設備及び用途等に関する基本的な関係法令について、その体系と建築物の設計及び監理等に必要な規定を法手続きの視点から学習します。

授業では、法文の読み方を知ってもらいながら、建築関係法令の概要について、条文の意図とすること及び規定がどのような場合に適用されるのかを示しながら解説します。

達成目標

二級建築士試験の学科合格程度の法規知識を修得する。

授業計画

- 01 建築物と法規について：法規による制限の目的と捉え方
- 02 建築基準法について：用語の定義、面積・高さ等の算定法
- 03 建築基準法について：制度、手続き等
- 04 建築基準法について：集団規定（概要、都市計画法との関係）
- 05 建築基準法について：集団規定（道路と敷地、用途制限）
- 06 建築基準法について：集団規定（面積、高さ制限Ⅰ）
- 07 建築基準法について：集団規定（高さ制限Ⅱ、防火地域等）
- 08 建築基準法について：単体規定（防火関係規定）
- 09 建築基準法について：単体規定（避難関係規定）
- 10 建築基準法について：単体規定（構造規定）
- 11 建築基準法について：単体規定（設備規定）
- 12 消防法について：概要・建築基準法との関係
- 13 建築士法、建築士試験について：概要・建築基準法との関係
- 14 二級建築士試験過去問（学科の試験）について
（本講義終了時に第15講義の二級建築士試験過去問の課題を配付します。）
- 15 二級建築士試験過去問（設計製図の試験）について
※目標の支障のない範囲で授業計画を変更することがある。

学生に対する成績評価基準

授業の受講態度と意欲（40%）、毎回の授業の最後に行う設問の答案結果（60%）により評価する

テキスト

「超入門 建築法規」イラスト解説による（改訂版）市ヶ谷出版社
建築基準法関係法令集2018年版 建築資料研究社

履修希望者への要望・事前準備

建築法規は、建築物に要求されている最低限の基本性能と建築物の街づくりのルールを定めたものであることを理解し、その概要を修得して欲しい。

また、建築士を目指す方は、本講義の単位が建築士受験に必要な履修科目となっていることを熟知し、講義に臨んで下さい。

建築施工

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
片山善作

授業の概要およびテーマ

建築生産のプロセスを概観し、品質、工程などに関する施工管理の基本と、各種工事についての一般的な施工法の実践を学ぶ。また積算、コスト計画について学ぶ。以上により建設にかかわる者としての基礎的素養を習得する。

〔建築施工〕

建築生産の仕組みと流れ、品質保証・環境問題・工程管理・安全管理仮設及び躯体工事、外部及び内部仕上げ工事

〔建築積算〕

コスト計画、躯体工事、仕上工事の積算

達成目標

建築生産の流れと建設業の概要を説明することができる。非木造建築物の各部工法と施工法を理解し、図、言葉による説明ができるようになることで、施工管理の基礎を学ぶ。積算とコスト計画の概要を理解し、基本的な実務ができる。

授業計画

- 第1回 建築生産の基本と事例紹介
- 第2回 基礎躯体工事（仮設、準備、土、地業、基礎）
- 第3回 基礎躯体工事（鉄筋、コンクリート、型枠）
- 第4回 上部躯体工事（RC造）
- 第5回 上部躯体工事（木造）
- 第6回 上部躯体工事（鉄骨）
- 第7回 プレハブの工事（組積、ALC、システム）
- 第8回 外部仕上工事（屋根、防水）
- 第9回 外部仕上工事（外壁、サッシ）
- 第10回 外部仕上工事（カーテンウォール）
- 第11回 内部仕上工事（床、内壁、天井）
- 第12回 内部仕上ユニット工事（家具）
- 第13回 建築生産の流れ（以上のおさらい）
- 第14回 施工管理（品質、安全、工程、環境）
- 第15回 建築のコスト計画、躯体と仕上の積算

学生に対する成績評価基準

業の受講態度と意欲（40％）、毎回の授業の最後に行う設問の答案結果（60％）により評価する

テキスト

『初学者の建築講座 建築施工（第三版）』中澤他著、市ヶ谷出版社

『図解 建築工事の進め方 木造住宅』深尾精一/福本雅嗣/栗田紀之、市ヶ谷出版社

履修希望者への要望・事前準備

本科目は、基礎知識とともに施工の実践を知ることが重要である。とりわけ各種工事については経験のない人には理解し難い点も多いのでスライドで紹介し講義を進めていく。施工技術の知識は多岐にわたるため多岐であるし、建築に向けた各自の志向も様々であろうと思われるので、各自の受講目的を設定して主体的に学んでください。

コミュニティデザイン

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
福本 壘

授業の概要およびテーマ

地域社会が抱える課題に対して住民が自分たちで解決策を考え、乗り越えていくための「人と人がつながる」場やしきみづくりについて学び、議論をし、理解を深めます。人口減少、高齢化、都市縮退、自然災害、環境問題を背景にコミュニティデザインの全体像を学び、地域の課題を捉えた解決策の提案を行えることを目標にします。

達成目標

- ・コミュニティデザインの全体像を理解していること
- ・自身が関わるコミュニティについて他者に紹介できること
- ・他者から体験談や考えを引き出すコミュニケーションを行えること
- ・地域課題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービス等の提案書をコミュニティデザインの手法に基づき作成していること

授業計画

- 第1回 導入：授業の取り組みのイメージを確認
- 第2回 防災について楽しく話し合う場づくり：課題演習のイメージを確認
- 第3回 コミュニティの定義と構造：自身のコミュニティから人と人がつながる理由を考える
- 第4回 コミュニティの歴史と制度：日本におけるコミュニティの成り立ちを学ぶ
- 第5回 ソーシャルキャピタル：人と人のつながりが生み出すものは何かを考える
- 第6回 コミュニティと空間：地域資源を活かした計画を学ぶ
- 第7回 コミュニティデザインのプロセス①：デザインステージ、ステークホルダー、キープアクション
- 第8回 コミュニティデザインのプロセス②：協働のデザイン（課題発見の方法と体制づくり）
- 第9回 コミュニティデザインのプロセス③：参加のデザイン（場づくり、対話、記録の方法）
- 第10回 コミュニティデザインのプロセス④：発信のデザイン（整理、発信、課題解決の方法）
- 第11回 コミュニティデザインのプロセス⑤：持続性のデザイン（マーケティング、ファンレイジング）
- 第12回 コミュニティデザインツールの開発方法
- 第13回 課題演習①：地域課題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービスの提案
- 第14回 課題演習②：地域課題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービスの提案
- 第15回 まとめ

学生に対する成績評価基準

学習内容を定着させる簡単な課題：30％
積極的な姿勢：20％
課題演習に対する提案：50％

テキスト

特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。
授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意したWEBサービスを利用します。

参考書・参考資料等

- （1）山崎 亮（2011）『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる』学芸出版社。
- （2）山崎 亮（2012）『コミュニティデザインの時代』中央公論新社。
- （3）小泉 秀樹（2016）『コミュニティデザイン学：その仕組みづくりから考える』東京大学出版会。
- （4）Mikiko Ishikawa（2015）「A Study on Community-Based Reconstruction from Great East Japan Earthquake Disaster - A Case Study of Iwanuma City in Miyagi-Pref」, 『Journal of Disaster Research』 Vol.10, No.5.
- （5）福本 壘・中村 和彦（2018）「防災を主題にした対話を通じた学習者の主体性の変化と学びの深まり—防災トランプを活用した事例を通じて—」, 『環境教育』 Vol.68.

用具

特になし

履修希望者への要望・事前準備

本講義は「地域課題を解決するための提案」をコミュニティデザインの手法でまとめることを目標に学びを深めていきます。
履修後の成果は、みなさんのポートフォリオの1ページを飾り、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。

10-6-2 専門教育科目 [建築・環境デザイン学科コース別科目]

建築・インテリア演習Ⅰ（建）

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎山下秀之、江尻憲泰、小川総一郎、大淵政明、高田清之助

授業の概要およびテーマ

建築デザインとランドスケープデザインが直面する諸問題を考えながら、その解決策を実践的に学ぶ。専門領域を横断するデザイン力を培う。

- ・課題A ポートフォリオの制作（建築グループとランドスケープグループ共に、第1課題）
- ・課題B キッズ・ミュージアム（建築グループの第2課題、ランドスケープグループの第3課題）
- ・課題C エコ・ヴィレッジ（ランドスケープグループの第2課題、建築グループの第3課題）
- ・課題D ポートフォリオの制作2（建築グループとランドスケープグループ共に、第4課題）

課題Aと課題Dでは、就職活動に不可欠であるポートフォリオ（作品集）を作成し、それを持って面接のシミュレーションをするものである。どの種のポートフォリオが目玉を留め、どのような面接が好印象となるのかを体得する。

課題Bと課題Cの演習は、建築グループとランドスケープグループとの「たすきがけ」で実施される。たすきがけとは、上記でわかるとおり、一方のグループが終えた課題の成果物に重ねて、他方のグループが課題を継続させる仕組みである。その目的は、実際の実務では欠かせない設計作業のチームワークを仮体験してもらうことにある。

達成目標

「都市と緑地」「開発と修景」、こうした2項対立の基軸のなかで、学生ひとりひとりがエコロジー時代の問題意識を育み、それを解決する建築・環境設計のプロポーザルをまとめあげる。

授業計画

建築グループ

- 01～02 課題Aの説明、専門講義、講評会
 - 03～08 課題Bの専門講義、敷地選定プレゼン、ブロックプランニング、平面・空間構成の検討、意匠・構造・設備計画、一般図&パースとプレゼン模型&専門図の提出、講評会
 - 09～14 課題Cの専門講義、現地調査報告および配置計画、ブロックプランニング、一般図&パースとプレゼン模型&専門図の提出、講評会
 - 15 課題Dの提出、総括
- ランドスケープグループ
- 01～02 課題Aの説明、専門講義、講評会
 - 03～08 課題Cの専門講義、計画地の現地調査・分析、コンセプトメイキング、空間構成の検討、平面・断面計画、流水設備ほか設備計画、植栽計画、パースとプレゼン模型制作、講評会
 - 09～14 課題Bの専門講義、建築計画の理解と現地調査、コンセプトメイキング及び計画範囲の設定、動線計画と空間構成、平面・断面計画、設備計画、植栽計画、パースとプレゼン模型制作、講評会
 - 15 課題Dの提出、総括

学生に対する成績評価基準

講評会での提出物の内容が、成績点数（建築グループは4名の教員の採点平均）となる。未提出作品は、期末の後出し提出日に、提出条件を満たしていれば、60点として採点される。一作品でも未提出のままの場合、履修は不合格となる。

出席・遅刻の基準

作品提出では、遅れた時間に応じた減点、もしくは受け取り拒否がなされる。

テキスト

課題文に資料を配付し説明する場合がある以外、履修者各自により参考図書などを探し、自習すること。

履修希望者への要望・事前準備

この設計演習を終えれば、社会に出て設計の仕事に就いてもやっていける、という皆さんになっていることを望む。

建築・インテリア演習Ⅰ（イ）

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎森 望、川口とし子

授業の概要およびテーマ

21世紀の社会にあわせたデザイン性豊かなインテリア空間の創造を求める。インテリアデザインとはなにか？デザイン手法・空間設計とはなんなのか？デザインとは？美学とは？構成手法とは？プレゼンテーションとは？を中心に授業を進める。

達成目標

課題によりインテリアデザインの設計手法を学び、プレゼンテーションテクニックや現代的なデザイン手法の構築ができる。

授業計画

- 01～03 課題Ⅰ（売店）
- 04～09 課題Ⅱ（イベント）
- 10～15 課題Ⅲ（商業施設）

学生に対する成績評価基準

課題Ⅰ20%、課題Ⅱ40%、課題Ⅲ40%

履修希望者への要望・事前準備

授業への積極的な参加を前提に、建築、室内、家具・什器などを総合的にとらえ、自由な発想・アイデアを形にし、高度なデザイン手法を学んでほしい。

建築・インテリア演習Ⅱ（建）

3 学年 後期 必修 演習 4 単位
◎山下秀之、小川総一郎、白鳥洋子

授業の概要およびテーマ

本演習では、履修する学生の専門志向に基づいて、以下 3 つの設計演習に分かれる。最終的な目標は、各自の設計技術と専門的知見を高度に獲得することである。グループワークによってもたらされる良い影響や多くの気づきも演習の成果となる。

■建築デザイン：山下担当

履修者は、以下、2 つのプログラムのどちらかを選択する。2 つのグループワークを同時に行うが、履修者の人数によっては、グループ数を調整する。

PROGRAM-A：平行植物園

- ・伊の絵本作家レオ・レオーニの「平行植物」を題材とする。
- ・英エデンプロジェクトが建設された採掘場跡地を敷地とする。
- ・そのエリアでの奇想天外で壮大な「平行植物園」を設計提案する。

PROGRAM-B：蓮濁計画

- ・蓮濁の交差点の 1 角（セコム、メガネのバリミキ、セブンイレブンの場所）に複合ビルを構想、設計する。
- ・地上 7 階建てまで、延べ面積 6000㎡～7000㎡。
- ・建築基準法の基本的な遵守、部分詳細図、建具表、仕上表、面積表にいたるまで、実施設計に関連するおおよその事柄をフォローする。

■エコロジカルランドスケープデザイン：小川（総）担当

- ・信濃川河川敷を研究対象地とする。
- ・そのエリアの生態系を調査研究する。
- ・そのエリアでの生物の「楽園」を目的とするランドスケープデザインを設計提案する。

■地域と建築デザイン：白鳥担当

- ・長岡市内の一地区を設計対象として地区設計を行う。
- ・都市や地域の観点から調査分析を行い、その考察から建築のプログラムを考案する。
- ・これらに基づいて建築設計を行い、地域に対する新しい建築デザインのあり方を探求する。

達成目標

各領域の諸問題を正確に分析し、課題を見いだす能力を身につけること。その上で計画の立案、設計の方法、実施の方策に関して学生が自らの方法論を構築する端緒を見つけ出すこと。

授業計画

建築系

第 1 週：各グループわけと課題の検討

第 2 週～第 6 週：エスキース

第 7 週：中間発表

第 8 週～第 14 週：エスキース

第 15 週：最終講評

学生に対する成績評価基準

全提出物の総点による。

テキスト

別途指示する。

履修希望者への要望・事前準備

今までの演習において獲得した考え方や技術に磨きをかけるべく、集中してほしい。
共同作業では、仲間の意見を聞き入れる柔軟性を持ち、より高いレベルに到達してほしい。

建築・インテリア演習Ⅱ（イ）

3 学年 後期 必修 演習 4 単位
◎森 望、川口とし子

授業の概要およびテーマ

住宅のリノベーションについての知識を得たうえで、ある家族像を設定し、リノベーションの提案を行う。また空間を使った情報伝達媒体としてのディスプレイデザインの課題を通し、ディスプレイデザインの考え方を学ぶ。

達成目標

各領域の諸問題を正確に分析し、課題を見いだす能力を身につけること。その上で計画の立案、設計の方法、実施の方策に関して学生が自らの方法論を構築する端緒を見つけ出すこと。

授業計画

01～07 課題Ⅰ（住宅リノベーション）

08～15 課題Ⅱ（文化施設）

学生に対する成績評価基準

課題Ⅰ 50%、課題Ⅱ 50%

履修希望者への要望・事前準備

アイディアを形にする力をつけ、なぜその形にしたのかを第三者に伝える手法を身につけてもらいたい。そのために企画する能力や考え方を学んでほしい。

環境計画・保存演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎渡辺誠介、津村泰範、平山育男、福本 壘、梅嶋 修、大滝 聡、金出ミチル

授業の概要およびテーマ

現代日本は、空間的縮退（空家・空ビル増加、限界集落の増加）に対応するために、文化や社会の持続性を基軸とした空間再編・活性化をプロデュースもしくはデザインする人材が求められる。そして同様に文化財としての価値を有する空間（建造物、町並みなど）を保存・活用する人材も求められている。

本授業では、こうした問題意識の下に建築・デザインの技術をベースに柔軟な発想で創造的な設計や計画を構築する。

演習課題は、都市計画・まちづくり系と文化財保存系に分かれて実施する。最初に合同のガイダンスと見学を行い、後にどちらかの課題を選択する。第2課題は合同の空間で都市計画的課題と文化財保存的課題と混合させて行う。

達成目標

- ・地域の空間的特性を調査・分析することができる
- ・分析に基づいた課題に対して課題解決に向けた設計および計画の提案ができる

授業計画

01 合同ガイダンス

02～03 合同見学（新潟市方面：文化財およびまちづくり事例）

04～10 第1課題

都市計画・まちづくり系：摂田屋地区まちづくり計画の変遷学習とまちづくり会社運営計画作成

文化財保存系：歴史模型製作他

11～15 第2課題（合同）

中島浄水場および周辺地区の文化財保存活用と都市計画策定

学生に対する成績評価基準

成果物の他、現地調査への参加姿勢、エスキース時の取り組み姿勢などを総合的に判断する。なお、現地調査やプレゼンテーションへの欠席は原則認めない。

テキスト

適宜配付する

履修希望者への要望・事前準備

建物、町の歴史と未来に常に好奇心を持ってください。

文化財課題では見学が特に多いので、土曜は明けておいてください。

環境計画・保存演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎渡辺誠介、津村泰範、平山育男、福本 壘、大滝 聡、金出ミチル、後藤 治

授業の概要およびテーマ

現代日本は、空間的縮退（空家・空ビル増加、限界集落の増加）に対応するために、文化や社会の持続性を基軸とした空間再編・活性化をプロデュースもしくはデザインする人材が求められる。そして同様に文化財としての価値を有する空間（建造物、町並みなど）を保存・活用する人材も求められている。

本授業では、こうした問題意識の下に建築・デザインの技術をベースに柔軟な発想で創造的な設計や計画を構築する。

演習課題は、都市計画・まちづくり系と文化財保存系に分かれて実施する。最初に合同のガイダンスと、ポートフォリオ発表課題、そして見学を行う。その後どちらかの課題を選択する。

達成目標

- ・地域の空間的特性を調査・分析することができる
- ・分析に基づいた課題に対して課題解決に向けた設計および計画の提案ができる
- ・領域横断的な視点と専門的視点から課題解決に対しての提案ができる

授業計画

01 ガイダンス

02～03 第1課題：ポートフォリオ制作&発表

04～06 合同見学：近代化遺産、地方中小都市中心市街地、中山間地集落

07～11 第2課題

都市計画・まちづくり系：長岡市の立地適性化計画の学習

文化財保存系：近代化遺産の保存整備

12～15 第3課題

都市計画・まちづくり系：山古志地区中山間地集落計画

文化財保存系：近世城下町の保存整備

学生に対する成績評価基準

成果物の他、現地調査への参加姿勢、エスキース時の取り組み姿勢などを総合的に判断する。なお、現地調査やプレゼンテーションへの欠席は原則認めない。

テキスト

適宜配付する

履修希望者への要望・事前準備

建物、町の歴史と未来に常に好奇心を持ってください。

文化財課題では見学が特に多いので、土曜は明けておいてください。

10-6-3 専門教育科目[建築・環境デザイン学科ゼミ科目、卒業研究]

ゼミⅠ

3 学年 前期 必修 演習 2 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

- 1：教員あるいは複数教員のゼミが、それぞれ、ゼミ課題を掲げる。
- 2：各学生は、取り組む課題をひとつ、もしくは複数選択し、そのゼミ（複数OK）に所属する。
- 3：ゼミ課題に対する提案・調査・研究など、教員との話し合いなどにより、ゼミが運営される。

達成目標

3 年生として専門性を高めつつ、多角的な視野を持って問題を解決する能力を養う。

授業計画

各ゼミによる。

学生に対する成績評価基準

同上

出席・遅刻の基準

同上

テキスト

同上

参考書・参考資料等

同上

用具

同上

履修希望者への要望・事前準備

建築・環境が取り扱うプログラムは多岐にわたり、しかも相互依存が強い。よって、このゼミにより、分野の専門性を高めるのみならず、他分野への興味と理解を高めることができる。前期ガイダンスの際にプログラムと場所を発表する。初回の授業では、所属を希望するプログラムの場所（各ゼミによる）に集合のこと。初回後に所属ゼミの変更を希望する場合には、ゼミ教員に相談すること。

ゼミⅡ

3 学年 後期 必修 演習 2 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

ブレ卒研と位置づける。4 年次に配属される予定の教員との話し合いにより、研究内容が決定され、調査・分析・企画提案・設計などをしていく。

達成目標

教員から指示されたことだけをやるのではなく、自ら問題点を洗い出し、課題を立ち上げ、解決策を提案する能力を養う。

授業計画

各ゼミによる。

学生に対する成績評価基準

同上

出席・遅刻の基準

同上

テキスト

同上

参考書・参考資料等

同上

用具

同上

履修希望者への要望・事前準備

各分野の専門性をさらに高めるためのゼミなので、3 年前期までの座学や演習の内容は、落ちこぼすことなくマスターしておくべきである。ゼミの事前準備は、4 年次に配属される予定の教員の指示を仰ぐこと。

卒業研究Ⅰ

4 学年 前期 必修 演習 3 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

個人または共同で、特別のテーマに基づいた「研究論文」「制作」または「論文および制作」を行います。その内容と規模は、これまでの学習の集大成となるものです。研究テーマは、これまで学んだ各分野の専門科目や演習に基づき、自分にとって最も興味のある課題や題材について、担当教員とゼミを通して煮詰めて行きます。

達成目標

以下の内容を目標にしてください。

- 1) 研究テーマを検討し、卒業研究の実施計画を立てる。
- 2) 7 月（12 月）に研究室ごとに発表会を行うので、下記、授業計画の内容をプレゼンできるようにする。

授業計画

担当教員との話し合いにより、ゼミ形式で適宜行います。例えば、研究主題に関連した資料収集、現況調査、事例研究、研究計画書、コンテンツ検討、基本設計の草案、部分的文章、実験データ、設計や論文の概要や構成など、研究の蓄積など。

学生に対する成績評価基準

研究の態度、プロセス、発表内容、レジュメなどを総合して、各担当教員が判断します。例えば、出席状況、ディスカッションや調査見学、各種準備などの積極的な参加など。これら各項目の割合は、適宜、各担当教員が良識に基づいて決定します。

出席・遅刻の基準

担当教員の判断によります。

卒業研究Ⅱ

4 学年 後期 必修 演習 3 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

まず、「卒業研究Ⅰ」の内容を、9 月（4 月）に予定する中間発表でプレゼンテーションしてもらいます。以後、研究を具体化し、2 月（8 月）に予定する卒研発表会で、最終成果物をプレゼンテーションしてもらいます。

達成目標

以下の内容を目標にしてください。

- 1) 履修した各分野の専門家としての技術を習得し、独自のすばらしい提案ができる。
- 2) 建築・環境デザイン学科生として、社会に貢献できる萌芽を見いだせること。

授業計画

担当教員との話し合いにより、ゼミ形式で適宜行います。

学生に対する成績評価基準

中間発表と最終発表で提示された内容を総合して、各担当教員が判断します。また、研究態度やプロセスも加味される場合もあります。

出席・遅刻の基準

担当教員の判断によります。

履修希望者への要望・事前準備

担当教員の判断によります。なお、本科目は卒業研究Ⅰの単位を修得していなければ履修できません。研究によって、大学を卒業する者としてふさわしい強いハート、厳しいマナー、そして仕事を仕上げる楽しさと喜びを学び得てほしい。

学芸員課程開講科目（平成26～29年度入学者）

生涯学習概論

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
相庭和彦

授業の概要およびテーマ

本科目は以下のような内容により構成される。①生涯学習の意義
②社会教育の意義 ③生涯学習と家庭教育 ④生涯学習と学校教育
⑤成人教育の方法 ⑥社会教育の指導者 ⑦学習の評価 ⑧社会教育の内容と形態 ⑨生涯学習関連施策の動向 ⑩社会教育施策の概要 ⑪学習情報の提供 ⑫学習相談と学習者理解 ⑬学習講座計画と立案

達成目標

本講義は現代社会における生涯学習の意義および社会教育の意義とその基本的役割を理解することを到達目標とする。具体的には生涯学習の意義、社会教育の意義、生涯学習と学校教育、成人学習方法と計画、学習の評価および生涯学習推進施策の特色、生涯学習施設、広報の論理、学習講座の運営の論理を理解することを目的とし、学習活動の効果的支援の方法をより効果的に実践できる力量の養成をめざす。

授業計画

- 1 生涯学習の意義について考察する
- 2 社会教育の意義および生涯学習との関連性について考察する
- 3 家庭教育の意義と生涯学習の関係について考察する
- 4 学校教育と社会教育の関係について生涯学習の視点から考察する
- 5 成人教育の理論と方法について考察する
- 6 社会教育の指導者および生涯学習の指導者について考察する
- 7 学習の評価について考察する
- 8 社会教育の内容および形態について考察する
- 9 生涯学習関連施策について考察する
- 10 社会教育施策の概要について考察する
- 11 学習情報の提供について考察する
- 12 学習相談とはどのようなものかについて考察する
- 13 学習者の理解とはどのようなことかについて考察する
- 14 社会教育施設で立案される講座について考察する
- 15 学習者の学習支援とはどのようなことかを考察する

学生に対する成績評価基準

講義を通して、生涯学習の理念、意義および社会教育・生涯学習施設の役割とその活用方法を理解し、様々な教育文化活動を生涯学習的視点から考えることができるようになると評価点を与える。具体的には講義をもとにした課題レポート提出により評価する。

履修希望者への要望・事前準備

自分の生活している地域の社会教育施設を見学しておくことが望ましい。

博物館経営論

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
浅井俊一

授業の概要およびテーマ

博物館は学芸員の調査・研究も含め人間や社会の英知の結晶であり、知価社会を迎え増々その役割を重要なものになっている。博物館経営や運営を学ぶことを通して、マネジメント能力、教養、人間性などの資質・能力の向上を図るとともに、英知を愛好する豊かな精神を育む授業とする。

達成目標

- 多くの博物館やその在り様を学ぶことにより、人間や社会に対する教養を深める。
- 博物館の本来の存在意義や利用者目線に立ち、経営や運営を考えることを通して、自身のマネジメント能力の向上を図る。

授業計画

1. ガイダンス
2. 博物館の成立、法的根拠とその効用及び学芸員の責務
3. 新潟県現存博物館考察 I
4. 新潟県現存博物館考察 II
5. 博物館経営・運営のトレンド I（金沢21世紀美術館考察）
6. 博物館経営・運営のトレンド II（新潟市美術館考察）
7. 「訪ねたい博物館」情報交換および名著との出会い紹介 I
8. 「訪ねたい博物館」情報交換および名著との出会い紹介 II
9. 発達段階（課題）理解
10. 新潟市こども創造センター経営・運営考察
11. 「MaRouの杜」現場視察（情報収集・計画）
12. 「MaRouの杜」運営計画 I（作成）
13. 「MaRouの杜」運営計画 II（作成）
14. 「MaRouの杜」プレゼン会
15. 総括・振り返り

学生に対する成績評価基準

- レポート・ワークシートの提出率と内容（正対性・独自性）
- 協議・グループワークの運営力、コミュニケーション能力

出席・遅刻の基準

長岡造形大学の規定通り

テキスト

「子供の絵は何を語るか（発達科学の視点から）」東山明・直美（著）：日本放送協会 870円

参考書・参考資料等

「超・美術館革命」角川書店型686円
「美術館をめぐる対話」西沢立衛（著）集英社新書700円
手持ちの博物館の案内・図録・ポスター等

用具

可能であればインターネット接続環境のPCもしくはタブレット

履修希望者への要望・事前準備

共学型の講座を目指しますので、下記の心構えのある者の履修を要望する。

- 自分自身の考えや意見を持つ。
- 事前学習を厭わない。
- 協議や協働に自分自身のやり方で貢献する。

博物館資料論

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
◎石原 宏、小熊博史、広井 造

授業の概要およびテーマ

種々の文化財の性質について広汎な知識を学び、性質に応じた展示方法・活用方法を自分自身で考えながら下記のテーマに沿って学習する。

1. 資料の調査、2. 資料貸借の法的手続き、3. 資料の具体的展示方法、4. 展示環境の整備

達成目標

展示方法、活用方法を身につける。

授業計画

- 01 博物館資料とは（石原）
- 02 博物館資料の条件（石原）
- 03 博物館資料の分類（石原）
- 04 一次資料と二次資料（石原）
- 05 二次製作資料（石原）
- 06 博物館と考古学（考古学の概説、博物館における考古学分野の位置づけ）（小熊）
- 07 考古資料の見方（考古学で取り扱う資料－遺跡や遺物の見方・考え方、活用の方法、地域的特性）（小熊）
- 08 考古展示と普及活動（展示や普及活動の方法、長岡市内における遺跡整備の事例検討）（小熊）
- 09 遺跡の整備と活用（1）（学外実習、遺跡の整備事例の見学、史跡藤橋遺跡＝藤橋歴史の広場）（小熊）
- 10 遺跡の整備と活用（2）（遺跡整備の視点や活用の方法、長岡市内における遺跡整備の事例検討）（小熊）
- 11 考古資料と歴史資料（長岡市域における資料の伝来経緯に関する歴史的前提条件、中世村落研究の事例検討）（広井）
- 12 歴史資料の収集（資料収集の事例、購入した中世資料の事例検討）（広井）
- 13 資料と資料群（資料収集時の留意点、寄贈された近世資料の事例検討）（広井）
- 14 資料の活用と地域的特性（地域に特徴的な問題関心とその具体化、近・現代の資料収集・展示の事例検討）（広井）
- 15 歴史資料の共有化・平準化（資料を後世に守り伝えていくためのネットワークづくりの検討）（広井）

学生に対する成績評価基準

成績評価は発表とレポートにより行う。

出席・遅刻の基準

出席率が80%を下回る場合は単位を与えません。

履修希望者への要望・事前準備

2年生で文化財学概論を履修した学生は、その復習をし、履修しなかった学生に予備知識を与えてほしい。

博物館資料保存論

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
◎石原 宏、小川総一郎、津村泰範

授業の概要およびテーマ

学芸員に必要な博物館資料の保存に関する基礎知識を身につけます。講義、調べ学習、グループ・ディスカッションを通して学習します。また、より実践的な力を養うために、異なる2つのタイプの博物館を見学研修し、保存の観点から比較して学びます。

達成目標

博物館における資料の保存について、保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、現場での資料保存のあり方を理解したうえ、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。

授業計画

- 01 現代社会における資料保存に関する博物館の役割と重要性
- 02 資料の状態調査と現状把握（実際に絵画作品等の状態調査を作成）
- 03 博物館が関わる資料の修復と修理
- 04 文化財の保存に関する倫理（1）
- 05 文化財の保存に関する倫理（2）
- 06 資料の人為的行為、災害や時間の経過による損傷、劣化防止対策
- 07 展示・保存環境（1）湿温度、照明と照度
- 08 展示・保存環境（2）虫・微生物防除、震動、その他
- 09 博物館資料の展示・保存環境の見学（学内美術館）
- 10 博物館資料の展示・保存環境の見学のまとめ
- 11 地域資源の保存と活用1 県立植物園（植物園のバックヤード、種の保存）
- 12 地域資源の保存と活用2 同上
- 13 自然環境の保護1 雪国植物園（里山環境の保全、生物多様性の保全）
- 14 自然環境の保護2 同上
- 15 文化財の保存と活用

学生に対する成績評価基準

授業に臨む姿勢20%、3名の担当教員によるそれぞれの出題による小課題80%とします。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とします。

テキスト

授業内でプリントして配付するほか、適宜示します。

参考書・参考資料等

博物館資料保存論 石崎武志 講談社 2,200円（税別）人文系博物館資料保存論 青木豊 雄山閣 2,400円（税別）

履修希望者への要望・事前準備

博物館資料の保存は学芸員の果たす仕事としては非常に重要であり、難しい。それは技術としてばかりでなく、博物館の範疇がきわめて広いものだからです。履修者は授業中に聞いているだけでなく、必ず復習をして自分なりの考えを持つことが必要とされます。自分が将来就きたい博物館を想定しながら勉強してもらいたい。

博物館展示論

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
◎森 望、長澤信夫

授業の概要およびテーマ

博物館における展示の現状を知り、展示計画に必要な基礎知識を学ぶ。また、実際の博物館の見学を通し、コンテンツ作りや展示現象の具体化を学ぶ。さらに、各人で博物館コンテンツを作成し、それを形にし、プレゼンテーションして提案する。

達成目標

展示作りの方法を体験的に学習し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を身につける。また実際にコンテンツを作り、空間的なデザインを提案できる。

授業計画

- 第1回 展示とは
- 第2回 博物館の展示事例
- 第3回 展示に必要な基礎知識（1）
- 第4回 展示に必要な基礎知識（2）
- 第5回 展示に必要な基礎知識（3）
- 第6回 展示と情報メディア
- 第7回 博物館の見学
- 第8回 博物館の見学
- 第9回 博物館のコンテンツ作り
- 第10回 博物館のコンテンツ作り
- 第11回 博物館のコンテンツ作り
- 第12回 博物館展示のデザイン
- 第13回 博物館展示のデザイン
- 第14回 博物館展示のデザイン
- 第15回 発表

学生に対する成績評価基準

展示企画書50%、展示空間課題50%

履修希望者への要望・事前準備

博物館展示は、コンテンツ作りと空間・展示デザインがメインになります。外部講師を招聘しますので、休まないように受講してください。

博物館情報・メディア論

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
◎石原 宏、浅井勝利、松浦康次

授業の概要およびテーマ

近年の博物館においては、単に展示物を羅列するだけではなく、情報の集積体としての博物館の役割が求められている。これを実現するためには、コンピュータなどに代表されるICTやAV機器を含めたマルチメディアの有効活用が必須である。本科目では博物館活動に即した情報やメディアの作成と活用、併せて、これにより生ずる知的財産の保全・利用の基礎について考察する。

達成目標

- 博物館の運営に必要な諸情報・メディアに関する総合的な概要を理解・体得し、これを説明できる。
- 博物館運営を構成する個別業務に関する知識・手法・機材（使用目的と操作知識・技能）の体得。
- 博物館運営にかかる知財関連法令の基礎知識を体得し、この概要を説明できる。
- 各回講義および予習復習を踏まえて、所要の情報やメディアを博物館活動に利用できる資質を養う。

授業計画

本授業は、第1回から10回までを浅井勝利、11回から15回を松浦康次が担当します。

- 第1回 博物館における情報、メディアの意義
- 第2回 コンピュータの基礎知識
- 第3回 ドキュメンテーションと資料管理データベース（1）
- 第4回 ドキュメンテーションと資料管理データベース（2）
- 第5回 博物館とインターネット（1）
- 第6回 博物館とインターネット（2）
- 第7回 ICTを利用した博学連携
- 第8回 AV機器の取り扱い
- 第9回 展示と情報機器
- 第10回 補論
- 第11回 著作・創作した権利・義務・責任と法令
- 第12回 博物館発情報と知的財産権制度
- 第13回 著作権法Ⅰ（目的、定義、財産権、人格権、隣接権、権利取得意義、著作権制度発展の歴史）
- 第14回 著作権法Ⅱ（権利制限、意匠権との比較、国際条約）
- 第15回 産業財産権制度（意匠・特許・実用新案・商標法）・不正競争防止法概観・知財契約、情報モラル、その他

学生に対する成績評価基準

成績評価は授業に臨む姿勢20%、レポート80%とする。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とする。

テキスト

授業内でプリントを配付するほか、適宜配付する。

参考書・参考資料等

適宜配付

用具

必要な場合、その都度指示。

履修希望者への要望・事前準備

履修者は自分が将来就きたい博物館・美術館を想定しながら勉強してもらいたい。

博物館教育論

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
山本哲也

授業の概要およびテーマ

博物館は余暇施設という側面をもちながら、社会教育施設としてのその意義が理解されなければならない。そのためには、博物館における教育という機能のあり方を認識し、または教育プログラムの理論と実際を理解することが必要である。さらに、博物館の意義が理解されなければ、その教育効果も半減すると考えられ、ミュージアム・リテラシー教育も考えなければならない。本科目では、博物館教育の理論と実践の双方はもちろん、博物館そのものの教育のあり方を学び、教育という博物館の重要な機能を多角的に理解する。

達成目標

博物館を教育施設と捉え、その方法論などを考える。学校教育、家庭教育との相違を認識し、博物館ならではの、という教育理論を理解し、博物館で行われている各種プログラムや学校教育との連携の実際などから、望ましい博物館教育のあり方の理解を求める。そして、教育プログラムの作成・実践ができる人材を育てる。

授業計画

- 01 教育と学習（目標と「学び」）
- 02 生涯学習と博物館教育—博物館機能としての博物館教育
- 03 博物館教育論史、展示教育論（序論）
- 04 展示と博物館教育
- 05 博物館教育活動の諸形態
- 06 博物館教育プログラムⅠ—素材の解釈について
- 07 博物館教育プログラムⅡ—開発と実践 1—ワークシート・ユニバーサルデザイン
- 08 博物館教育プログラムⅢ—開発と実践 2—製作体験プログラム
- 09 博物館教育プログラムⅣ—開発と実践 3—サブカルチャーと博物館
- 10 博物館教育プログラムⅤ—対話型鑑賞法
- 11 博物館教育の利用者像
- 12 博物館教育プログラムⅥ—開発と実践 4—演習
- 13 博物館と学校教育—博学連携
- 14 ミュージアム・リテラシー教育の必要性
- 15 博物館教育の課題

学生に対する成績評価基準

演習（教育プログラム作成）の評価、および出席と受講態度から総合的に評価する。

テキスト

適宜資料を配付の予定。

用具

必要な場合、その都度指示。

履修希望者への要望・事前準備

実際の博物館・美術館等で行われている教育プログラム（ワークショップ等）を多数見聞、または実体験すること。

博物館実習

3・4 学年 通年 必修 実習 3 単位
◎石原 宏、境野広志、津村泰範、長瀬公彦、中村和宏、平山育男、御法川哲郎

授業の概要およびテーマ

学芸員資格を取得するため、実際の博物館施設に通い、実物資料に実際に手を触れて、その取り扱い・保管・展示業務の練習を行う。なお、本授業の内、館内実習は、実習の前年度までに他の必修 9 科目を全科目習得済みで、卒業見込みでなければ受講できない。

テーマ：

3 年次の「博物館概論」、「博物館資料論」、「博物館経営論」、「博物館情報メディア論」等で学習した知識を基礎に、実際の博物館等の運営・資料の取り扱いを、夏期休業中に博物館等に 1 週間～2 週間通って、学芸員の指導を受けながら実習する。また学外・学内で、担当教員に実地指導を受ける。

達成目標

学芸員の仕事を実際に体験し、仕事の概要および学芸員として仕事をする上で重要であるポイントをまとめて報告する。

授業計画

- 1 複数の博物館の見学（見学実習）
 - 2 遺跡・各種文化財の調査（学内実習）
 - 3 展示用具の取り扱いの学習（校内実習）
 - 4 博物館等に通勤し、学芸員の指導のもと、実際に文化財を取り扱う（館内実習）
 - 5 館内実習の前後に指導を行う（事前・事後指導）
- 4 が授業の中心である。通常 4 年生の夏期休業期間（7 月～9 月）に、1～2 週間行われる。

学生に対する成績評価基準

成績評価は実習先博物館等の評価を中心に、出席およびレポートの成績などを含めて総合的に行う。

参考書・参考資料等

随時指定する。

履修希望者への要望・事前準備

この授業は通常の授業と同様に考えてはならない。博物館等の学芸員と触れ合い、実物の文化財資料を取り扱うものであるから、自分が現実にもその博物館等に勤務し、学芸員という職業で生活しているものと認識しなければならない。従って、実習予定の取消・欠席・遅刻など不真面目な態度は絶対に許されない。授業でなく「勤務」と考えるべきである。また文化財資料を破損するような行為をしてはならない。既に自分は就職したものと考えて、社会人と同じ自覚を持った行動が要求される。なおこの授業にかかわるすべての費用は学生の自己負担とする。

※館内実習は、前年度までに他の必修 9 科目を全科目修得済みで、卒業見込みでなければ参加することができない。

教職入門

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

教職の意義、教員の役割、教員の職務・服務・養成・研修、教職の採用・現状、チームとしての学校に関する理解を深めて、教職に必要な資質・能力とは何かを考える。そのうえで、自分はなぜ教職を目指すのか、どのような教師になりたいのかを考える。

達成目標

教職の意義、教員の役割、教員の職務・服務・養成・研修、教職の採用・現状、チームとしての学校等、教職に関する基礎的知識を理解して、教職に必要な資質・能力とは何かを考えられる。また、自分はなぜ教職を目指すのか、どのような教師になりたいのかを説得的に説明できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
第2回：学校とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第3回：学校とは何か2…学校に関する法制・現状・チームとしての学校を学ぶ。
第4回：学校とは何か3…学校論に関して自分の考えをまとめ、発表する。
第5回：教師とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第6回：教師とは何か2…教員の職務・服務・研修・身分保障等に関する法制、現状を学ぶ。
第7回：教師とは何か3…教師論に関して自分の考えをまとめ、発表する
第8回：教師の仕事…授業
第9回：教師の仕事…学級経営
第10回：教師の仕事…生徒指導、部活動指導、校務分掌
第11回：体罰とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第12回：体罰とは何か2…体罰等をめぐる問題状況
第13回：教員養成課程の仕組み、教員採用試験等、教職に就くうえでの関門について
第14回：なぜ教職を目指すのか…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第15回：まとめ
ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

そのほか、適宜指示する。

教育原理

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を、講義・グループワークで学ぶ。

達成目標

教育思想の基本的事項、子どもを取り巻く歴史、学校改革の歴史、教師の歴史等に関する基礎的知識を身につけた上で、それらの思想・歴史的理解をもとにして、現在の教育に関する問題状況を説明できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
第2回：教育とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第3回：教育とは何か2…教育の本質論を学ぶ。
第4回：子どもとは誰か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第5回：子どもとは誰か2…子ども観、子どもに関する法制・現状を学ぶ。
第6回：子どもとは誰か2…子どもを取り巻く歴史
第7回：西洋教育思想史1…概要
第8回：西洋教育思想史2…デューイを中心に
第9回：日本教育史1…古代・中世・近世の学校
第10回：日本教育史2…近代公教育の成立と展開
第11回：日本教育史3…戦後民主主義教育の理念と展開
第12回：教師の歴史…近現代日本を例に
第13回：社会教育の理念と現状1…博学連携の現状
第14回：社会教育の理念と現状2…博物館の開放
第15回：まとめ
ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

今井康雄編『教育思想史』（有斐閣アルマ、2009年）
そのほか、適宜指示する。

教育心理学

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
中村恵子

授業の概要およびテーマ

子どもの教育の場における発達や学習の過程、対人関係、教材、環境への教育的配慮等について、心理学的側面から学習します。また、教育活動における子どもの理解や個への対応のしかたについても学びます。

達成目標

- ・教育心理学の基本的な考え方や、子どもの発達や学習の過程、対人関係などに関する基礎的な知識について説明できる。
- ・相談活動に必要な教育測定やカウンセリングなどの理論や技法について列挙することができ、個に応じた対応について自分の考えを述べることができる。

授業計画

- 01 教育心理学の理念と目的
- 02 発達の概念：成熟と学習
- 03 発達理論：ピアジェ、エリクソン
- 04 記憶のしくみ：短期記憶、長期記憶
- 05 問題解決の方法：アルゴリズム、ヒューリスティックス
- 06 学習の理論：連合論、認知論、状況論
- 07 学習の方法（１）：受容学習、発見学習
- 08 学習の方法（２）：有意味受容学習、プログラム学習
- 09 人格と適応：パーソナリティ、学校不適応
- 10 障害児の理解と対応（１）：発達障害などの理解
- 11 障害児の理解と対応（２）：支援、連携
- 12 カウンセリングの理論と技法：来談者中心療法、認知行動療法
- 13 学級集団の理解：集団の機能、リーダーシップ
- 14 教育評価の方法：知能検査、学力検査、性格検査
- 15 学習の振り返り、理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

授業中に行う小課題60%、理解度の確認のテスト20%、まとめのレポート20%

なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は、単位を与えません。

テキスト

やさしい教育心理学 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 有斐閣 1,900円＋税

参考書・参考資料等

資料は、適宜授業中に配付します。

履修希望者への要望・事前準備

毎回、授業の中で小課題を行い提出してもらいます。また、グループワークをしますので、欠席しないようにしてください。

教育に関する社会的・制度的・経営的研究

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

日本における現在の教育制度を、多面的に検討する。講義中心ではあるが、一部グループワークも取り入れる。

達成目標

- ①日本における現在の教育制度に関する基礎的知識を、総合的に身につける。
- ②現在の教育に関する問題状況を、制度面に注目して説明できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
 - 第2回：公教育とは何か
 - 第3回：教育法制
 - 第4回：教育行政
 - 第5回：学校経営と学校評価
 - 第6回：学校安全への対応
 - 第7回：教育課程経営
 - 第8回：教職員の職務と服務
 - 第9回：児童・生徒の管理
 - 第10回：就学前教育制度
 - 第11回：特別支援教育制度
 - 第12回：教員養成・研修制度
 - 第13回：社会教育行政
 - 第14回：学校給食制度
 - 第15回：教育制度改革の現在、まとめ
- ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』（福村出版、2017年）

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

そのほか、適宜指示する。

教育課程の編成と実際

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

教育課程の意義、思想と構造、編成、カリキュラム開発、教育内容の歴史の変遷、学力論の現在、評価の方法等に関する基本的理解を深める。

達成目標

- ①教育課程の意義、思想と構造、編成、カリキュラム開発、教育内容の歴史の変遷、学力論の現在、評価の方法等に関する基本的理解を深める。
- ②現在の教育課題を、教育課程に関する基本的知識をもとに考えることができる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
第2回：中学校学習指導要領をグループワークでまとめる。
第3回：中学校学習指導要領をグループで発表する。
第4回：教育課程とは何か1…教育課程とは何か、思想と構造
第5回：教育課程とは何か2…編成、経営、カリキュラム開発
第6回：教育課程編成の方法
第7回：カリキュラムマネジメント…意義、カリキュラム評価の考え方
第8回：近代日本における教育課程の変遷
第9回：戦後学習指導要領の変遷1…経験主義、系統主義、構造主義
第10回：戦後学習指導要領の変遷2…ゆとり、新学力観、生きる力、確かな学力
第11回：新学習指導要領の特質
第12回：学力とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第13回：学力とは何か2…現在の学力論を学ぶ
第14回：授業を考える…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第15回：まとめ
ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

水原克敏『学習指導要領は国民形成の設計書 その能力観と人間像の歴史の変遷』（東北大学出版会、2010年）
そのほか、適宜指示する。

美術科指導法

3 学年 前期 必修 演習 8 単位
市川治郎

授業の概要およびテーマ

- ・美術科教育の概要や学校で行われている授業について概説する。
- ・教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。

達成目標

- ・「美術科指導の基礎的能力の育成」を目標とする。
- ・学校における美術科教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。
- ・美術科の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。
- ・教材研究や授業分析などを通して、具体的な指導技術を習得する。

授業計画

- 第1回：美術教育の概要（我が国における美術教育の歴史）
第2回：現行学習指導要領美術編の解説と今後の方向性
第3回：美術科経営と授業の実際（美術科経営計画、年間指導計画、授業の構成要素）
第4回：教材研究（1）表現分野（絵画の教材分析、指導案作成）
第5回：授業研究（1）表現分野（絵画の模擬授業、事前事後検討）
第6回：教材研究（2）表現分野（彫刻の教材分析、指導案作成）
第7回：授業研究（2）表現分野（彫刻の模擬授業、事前事後検討）
第8回：教材研究（3）表現分野（デザイン及び工芸の教材分析、指導案作成）
第9回：教材研究（4）表現分野（デザイン及び工芸の模擬授業、事前事後検討）
第10回：授業研究（3）表現分野（映像メディア表現の教材分析、指導案作成）
第11回：授業研究（4）表現分野（映像メディア表現の模擬授業、事前事後検討）
第12回：教材研究（5）鑑賞分野（鑑賞の教材分析、指導案作成）
第13回：授業研究（5）鑑賞分野（鑑賞の模擬授業、事前事後検討）
第14回：評価計画（評価方法、通知表及び指導要録の評価）
第15回：美術館等との連携（地域の人材、施設設備の活用）

学生に対する成績評価基準

受講姿勢：30%、課題の成績：40%、模擬授業の成績：30%を総合して評価する。

テキスト

中学校学習指導要領解説（美術編）、高等学校学習指導要領解説（芸術編、音楽編、美術編）

参考書・参考資料等

中学校美術教科書、高等学校美術教科書

工芸指導法

3 学年 後期 必修 演習 4 単位
市川治郎

授業の概要およびテーマ

- ・中学校工芸及び高等学校芸術科工芸の概要や、学校で行われている授業について概説する。
- ・教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。

達成目標

- ・「工芸指導の基礎的能力の育成」を目標とする。
- ・学校における工芸教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。
- ・工芸の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。
- ・教材研究や授業分析などを通して、具体的な指導技術を習得する。

授業計画

- 第1回：工芸教育の概要（我が国における工芸教育の歴史）
第2回：現行学習指導要領工芸編の解説と今後の方向性
第3回：芸術科工芸経営の実際（工芸経営計画、年間指導計画）
第4回：授業の実際（授業の構成要素、様々な指導方法）
第5回：教材研究（1）（木工芸の授業構成、教材研究）
第6回：教材研究（2）（木工芸の教材分析、指導案検討）
第7回：授業研究（1）（木工芸の模擬授業、事後検討）
第8回：教材研究（3）（金属工芸の授業構成、教材研究）
第9回：教材研究（4）（金属工芸の教材分析、指導案検討）
第10回：授業研究（2）（金属工芸の模擬授業、事後検討）
第11回：教材研究（5）（陶芸の授業構成、教材研究）
第12回：教材研究（6）（陶芸の教材分析、指導案検討）
第13回：授業研究（3）（陶芸の模擬授業、事後検討）
第14回：教材研究（7）（鑑賞の教材分析、指導案検討）
第15回：工芸の評価（評価方法、通知表及び指導要録の評価）

学生に対する成績評価基準

受講姿勢：30%、課題の成績：40%、模擬授業の成績：30%を総合して評価する。

テキスト

中学校学習指導要領解説（美術編）、高等学校学習指導要領解説（芸術編、音楽編、美術編）

参考書・参考資料等

中学校美術教科書、高等学校工芸教科書

道徳指導法

2 学年 後期 必修 演習 2 単位
市川治郎

授業の概要およびテーマ

- ・中学校及び高等学校における道徳の概要や、学校で行われている授業について概説する。
- ・教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。

達成目標

- ・「道徳指導の基礎的能力の育成」を目標とする。
- ・学校における道徳教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。
- ・道徳の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。
- ・学習指導要領に示される道徳の趣旨や意義を踏まえた授業について理解する。

授業計画

- 第1回：道徳教育の概要（我が国における道徳教育の歴史）
第2回：現行学習指導要領における道徳の解説と今後の方向性
第3回：道徳授業の実際（年間指導計画、授業の構成要素）
第4回：教材研究（1）（道徳の授業構成、教材研究）
第5回：教材研究（2）（道徳の教材研究、教材分析）
第6回：教材研究（3）（道徳の指導方法、指導案検討）
第7回：授業研究（1）（道徳の模擬授業、事後検討）
第8回：教材研究（4）（道徳の授業構成、教材研究）
第9回：教材研究（5）（道徳の教材研究、教材分析）
第10回：教材研究（6）（道徳の指導方法、指導案検討）
第11回：授業研究（2）（道徳の模擬授業、事後検討）
第12回：教材研究（7）（道徳の授業構成、教材研究）
第13回：教材研究（8）（道徳の教材分析、指導方法、指導案検討）
第14回：授業研究（3）（道徳の模擬授業、事後検討）
第15回：道徳の評価（評価方法、通知表及び指導要録の評価）

学生に対する成績評価基準

受講姿勢：30%、課題の成績：40%、模擬授業の成績：30%を総合して評価する。

テキスト

中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）、高等学校学習指導要領解説（総則編）

参考書・参考資料等

「私たちの道徳」中学校

特別活動指導法

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
岩崎保之

授業の概要およびテーマ

特別活動の理論や学習指導要領における規定を理解したり、授業実践を分析したりすることを通して、特別活動の意義、内容及び指導の在り方を研究します。

達成目標

1. 特別活動の基礎理論、変遷、こんにちの課題に対する役割を説明できます。
2. 学習指導要領の規定を、実践例に当てはめて説明できます。
3. 学級活動（ホームルーム活動）の学習指導案を作成できます。

授業計画

- 01 ガイダンス（特別活動とは何か）
- 02 特別活動の理論（1）（目標、教育的意義）
- 03 特別活動の理論（2）（各教科、道徳、総合的な学習との関連）
- 04 特別活動の変遷
- 05 学習指導要領における特別活動の規定（1）（学級／ホームルーム活動）
- 06 学習指導要領における特別活動の規定（2）（生徒会活動）
- 07 学習指導要領における特別活動の規定（3）（学校行事）
- 08 特別活動の全体計画・年間指導計画
- 09 特別活動の指導過程・指導方法（生徒指導の機能・ガイダンスの機能を生かした指導）
- 10 特別活動の評価
- 11 指導計画作成の実際（1）
- 12 指導計画作成の実際（2）
- 13 学級／ホームルーム活動の実際（1）
- 14 学級／ホームルーム活動の実際（2）
- 15 理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

学習態度（10%）、学習指導案（20%）、模擬授業（20%）、理解度の確認（50%）に基づいて評価します。

出席・遅刻の基準

出席回数が、第15回目を含んで10回以上なければ、単位を与えません。
欠席1回につき、5点減点します。

テキスト

1. 中学校学習指導要領解説－特別活動編－、文部科学省、ぎょうせい、2008年、109円＋税
2. これでできる！わくわくファシリテーション－アクティブ・ラーニング時代の授業づくり・学校づくり－、にいがたファシリテーション授業研究会、新潟日報事業社、2016年、900円＋税

参考書・参考資料等

（参考書）

1. 目標準拠評価論の研究－学校教育における理論と実践－、岩崎保之、ウエストン出版部、2009年、2500円＋税
2. みんなが主役！わくわくファシリテーション授業、にいがたファシリテーション授業研究会、新潟日報事業社、2013年、1600円＋税
3. 子どもの抱える問題への支援と連携、ウエストン、2014年、1100円＋税
4. ファシリテーションとユニバーサルデザインで創る授業、新潟市立白新中学校、新潟日報事業社、2014年、1600円＋税
5. えちごの教育（創刊号）、えちごの会、ウエストン、2016年、500円＋税

（参考資料）

授業時にプリントを配付します。

履修希望者への要望・事前準備

特別活動は、体験的な集団活動を通した学びを特徴としています。そのため、本講義においても、グループワークを多くの場面で取り入れた授業を展開します。継続的な出席を望みます。

教育方法・技術

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

教育方法に関する理論、教育方法の歴史、教科書・ICT等の活用方法、評価方法を理解しながら、パネルシアター教材の実作を行う。

達成目標

授業を設計・実践していく上で必要な教育方法に関する知識を理解した上で、学習指導案作成、模擬授業実践に取り組むことができる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
 - 第2回：教育方法の理論
 - 第3回：教科書を活用するとはどういうことか
 - 第4回：黒板はどのように利用すべきか
 - 第5回：パネルシアター教材の実作1…パネルシアターとは何か
 - 第6回：パネルシアター教材の実作2…グループワークでパネルシアター教材を作製する
 - 第7回：パネルシアター教材の実作3…実作したパネルシアターを発表する
 - 第8回：学習指導案作成法
 - 第9回：評価とは何か…学校教育において、生徒をどのように評価するのか
 - 第10回：ICTを活用した授業設計1…ICTを活用した授業の紹介
 - 第11回：ICTを活用した授業設計2…学習指導案作成
 - 第12回：教育方法の観点を重視した授業設計…模擬授業の準備
 - 第13回：教育方法の観点を重視した授業設計…模擬授業、討議
 - 第14回：教育方法の歴史
 - 第15回：まとめ
- ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合があります。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

そのほか、適宜指示する。

生徒・進路指導

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
中村恵子

授業の概要およびテーマ

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動です。生徒指導及び進路指導・キャリア教育、教育相談の意義と課題について学習し、児童生徒理解や校内における指導体制、問題行動への指導についても学びます。

達成目標

- ・生徒指導の定義や機能、児童生徒理解、指導体制について説明することができる。
- ・進路指導・キャリア教育の課題と基本的な考え方について説明することができる。
- ・教育相談の意義と課題、学校教育相談を支える理論と技法について、自分の考えを述べることができる。
- ・いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題についての現状や学校における取組について調べ、発表することができる。

授業計画

- 01 生徒指導とは何か：定義、機能
- 02 児童生徒理解：個と集団、資料の収集方法
- 03 生徒指導の組織と運営：生徒指導主事、生徒指導計画
- 04 進路指導・キャリア教育とは何か：進路指導とキャリア教育、キャリア教育の定義
- 05 進路指導・キャリア教育の実際：基礎的・汎用的能力
- 06 学校教育相談とは何か：開発的教育相談、予防的教育相談、問題解決的教育相談
- 07 学校教育相談を支える理論と技法（１）：グループエンカウンター
- 08 学校教育相談を支える理論と技法（２）：ピア・サポート活動
- 09 学校教育相談を支える理論と技法（３）：ソーシャルスキルトレーニング
- 10 学校教育相談を支える理論と技法（４）：アサーショントレーニング
- 11 不適応の理解と対応
- 12 生徒指導上の諸問題の現状（１）：いじめ、不登校
- 13 生徒指導上の諸問題の現状（２）：暴力行為、虐待
- 14 生徒指導上の諸問題についての取組：関係機関との連携
- 15 学習の振り返り、理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

授業で行う小課題60%、理解度の確認のテスト20%、まとめのレポート20%
なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。

テキスト

生徒指導提要、文部科学省、教育図書、276円＋税

参考書・参考資料等

随時、授業中に紹介します。

履修希望者への要望・事前準備

グループワークや調べ学習を行うので、欠席しないようにしてください。

教育相談

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
伊藤敦美

授業の概要およびテーマ

教育相談は生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。この授業では、学校における教育相談の意義と課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論、教育相談の方法（カウンセリングの意義、理論や方法に関する基礎的知識を含む）、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組や連携の必要性等をテーマとして取り上げる。理論を学び技法を習得するために、授業は講義と趣味レーションの両方の形態で実施する。

達成目標

- 1 学校における教育相談の意義と理論を理解する。
- 2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。
- 3 教育相談の具体的な進め方、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

授業計画

- 第1回 学校における教育相談の意義と課題
- 第2回 自己理解（１）アイデンティティの形成
- 第3回 自己理解（２）防衛機制
- 第4回 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論
- 第5回 児童生徒の不適応・問題行動の意味とその発見
- 第6回 学校教育におけるカウンセリングマインドとその必要性
- 第7回 カウンセリングの基本姿勢
- 第8回 カウンセリングの方法（１）カウンセリングの基礎的技法
- 第9回 カウンセリングの方法（２）カウンセリングの基礎的技法を使用したシミュレーション
- 第10回 カウンセリングの方法（３）シミュレーションについてのグループ討議
- 第11回 学校における教育相談体制と進め方
- 第12回 教育相談の計画及び評価
- 第13回 個別の課題に対する教育相談の進め方（１）いじめ・不登校
- 第14回 個別の課題に対する教育相談の進め方（２）虐待・非行
- 第15回 学校と家庭・地域・専門機関との連携

学生に対する成績評価基準

受講姿勢：20%、授業で課す課題とレポート30%、学習理解の確認（テスト）50%
原則として、出席回数が授業回数の2/3以上であること。

テキスト

新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ 岩崎保之編著 国際文献社 2000円
生徒指導提要 文部科学省 教育図書 290円

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領 文部科学省
高等学校学習指導要領 文部科学省
学校カウンセリング基本訓練 上地安昭 北大路書房 2097円
他に必要図書や資料は授業で指示します。

履修希望者への要望・事前準備

授業では、自分の考えを文章化する、発表する、他の受講生と討論するといった活動を取り入れます。考えをまとめたり、発表したり、討論するためには基礎となる知識が必要ですから、日頃から教育に関するニュースなどに目を通す習慣を付けておいて下さい。

事前・事後指導

4 学年 通年 必修 実習 1 単位
◎竹田進吾、市川治郎

授業の概要およびテーマ

最終提出課題の得点40%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）60%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。

達成目標

教育実習について理解を深め、意欲を持って積極的に実習に取り組むことができる。事後においては客観的に実習を振り返り、冷静に反省できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
第2回：教育実習の心得…意義・目的・取り組む姿勢・実習校理解・勤務・服務・実習態度・守秘義務等
第3回：実習日誌の作成法
第4～7回：道徳教育に関する授業設計…模擬授業と討議
第8～12回：美術科教育に関する授業設計…模擬授業と討議
第13回：実習事後指導、礼状作成、報告書作成、報告会準備
第14回：実習事後報告会…全員の発表、質疑応答
第15回：まとめ
ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

最終提出課題の得点40%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）60%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

そのほか適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

生徒と教職員そして保護者と直に関わり、実践力を身に付ける教育実習は、長期間に及ぶ厳しいものです。教職課程で学んだ知識や技能を確かなものにするだけでなく、生活のリズムを整えることや組織の中で働くものとしての礼儀や態度を身に付けるなどの準備をしておく必要があります。

教育実習Ⅰ

4 学年 通年 必修 実習 2 単位
◎竹田進吾、市川治郎

授業の概要およびテーマ

自己開拓した学校、または実習協力校において教育実習を行う。実習校の教育課程との関係をふまえて、2週間の実習計画を立て、教科指導、教科外指導を実習する。実習日誌をつけて日々振り返り実践力を身につけるとともに、授業見学、授業実践、研究授業を行うことにより、実践的な教材研究・授業設計の方法を学ぶ。

達成目標

- ①教職課程において学んできた教職・美術に関する知識・理解・技能をふまえて、中学校の現場で実習に積極的に取り組むことができる。
②教育職に就く者として、美術科教育、道徳教育、総合的な学習の時間等の実践を行うことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。
③教育職に就く者として、学級経営、生徒指導、学校行事等の重要性を理解した上で、意欲的に取り組むことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。

授業計画

- 実習校の指導教員と打ち合わせのうえ、連続した2週間において以下の内容を実習する。
①教科指導として、授業見学、教材研究、授業、研究授業を行う。
②教科外指導として、総合的な学習の時間、学級活動、給食指導、各種学校行事への参加、生徒指導等を行う。

学生に対する成績評価基準

実習中の態度、教科指導、生徒指導等の教員としての適性、学級経営、校務分掌等に関する理解と能力、勤務状況等に関する実習校による評価を参考にして総合的に評価する。

テキスト

実習日誌

参考書・参考資料等

教職課程で使用してきた各テキスト等

履修希望者への要望・事前準備

生徒・教職員・保護者と直に関わり、実践力を身に付ける教育実習は、長期間に及ぶ厳しいものです。教職課程で学んだ知識や技能の復習をする、生活のリズムや体調を整える、組織人としての礼儀や態度をわきまえコミュニケーションの力を高めるなどの準備を行う。

教育実習Ⅱ

4 学年 通年 必修 実習 2 単位
◎竹田進吾、市川治郎

授業の概要およびテーマ

自己開拓した高等学校において教育実習を行う。実習校の教育課程との関係をふまえて、2 週間の実習計画を立て、教科指導、教科外指導を実習する。実習日誌をつけて日々振り返り実践力を身につけるとともに、授業見学、授業実践、研究授業を行うことにより、実践的な教材研究・授業設計の方法を学ぶ。

ただし、中学校で教育実習Ⅰ・Ⅱを行う場合は、3 週間の実習とする。

達成目標

- ①教職課程において学んできた教職・美術に関する知識・理解・技能をふまえて、高等学校の現場で実習に積極的に取り組むことができる。
- ②教育職に就く者として、美術科教育・総合的な学習の時間等の実践を行うことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。
- ③教育職に就く者として、学級経営、生徒指導、学校行事等の重要性を理解した上で、意欲的に取り組むことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。

授業計画

実習校の指導教員と打ち合わせのうえ、連続した2 週間において、以下の内容を実習する。

- ①教科指導として、授業見学、教材研究、授業、研究授業を行う。
- ②教科外指導として、総合的な学習の時間、ホームルーム活動、各種学校行事への参加、生徒指導等を行う。

学生に対する成績評価基準

実習中の態度、教科指導、生徒指導等の教員としての適性、学級経営、校務分掌等に関する理解と能力、勤務状況等に関する実習校による評価を参考にして総合的に評価する。

テキスト

実習日誌

参考書・参考資料等

教職課程で使用してきた各テキスト等

教職実践演習（中・高）

4 学年 後期 必修 演習 2 単位
◎竹田進吾、市川治郎

授業の概要およびテーマ

教育実習での経験をふまえて、グループワーク、討議を中心とした学習指導案作成、模擬授業、課題作成、現地調査等を行う。これらにより、教育職に必要とされる総合的な実践力を養成する。

達成目標

学校教育（中等教育）とは、生徒の総合的な人間形成の場であるといえる。生徒の個性に配慮したわかりやすい授業実践、親身の学級経営、校務分掌への積極的対応等が、現在の日本社会から要請される教師像である。このような教師を目指していく上で、何が自分には足りないのか、どのような種類の努力が必要とされるのか等を明確化する。教職課程で学んできた知識・理解・技能、現場の実践力を振り返り、教科指導、学級経営、生徒指導、校務分掌等を問題なく実践できる力を身につける。

授業計画

- 第1 回：ガイダンス
 - 第2 回：学校教育における課題の明確化…教育実習を振り返り討議する
 - 第3 回：校務分掌における課題の明確化
 - 第4 回：生徒指導における課題の明確化
 - 第5 回：生徒指導における問題状況のロールプレイ
 - 第6 回：学級経営における課題の明確化
 - 第7 回：学級経営における問題状況のロールプレイ
 - 第8 回：総合的な学習の時間における課題の明確化
 - 第9 回：道德教育の授業設計…過去の自分の実践における問題点の討議
 - 第10 回：道德教育の授業設計…模擬授業の準備
 - 第11 回：道德教育の授業設計…模擬授業と討議
 - 第12 回：美術科教育の授業設計…過去の自分の実践における問題点の討議
 - 第13 回：美術科教育の授業設計…模擬授業の準備
 - 第14 回：美術科教育の授業設計…模擬授業と討議
 - 第15 回：まとめ
- ただし、授業の進捗により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

最終提出課題の得点40%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）60%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

履修カルテ。教職課程で使用してきた各種学習指導要領解説。そのほか適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

教育実習前の自己課題、教育実習後に見えてきた自己課題を意識して、演習する。座学で得た知識では、学校現場で通用しない場合が多い。教師としての実践力を身に付けるために、個々の得手不得手を認識し、日ごろから補っていく取組が求められる。

11 授業科目の概要（平成30年度以降入学者）

11-1 教養科目

スポーツ

1・2・3・4学年 前期 選択 演習 2単位
篠田浩子

授業の概要およびテーマ

適切なスポーツ・運動習慣や合理的な身体技法を身につけることは生涯にわたる健康生活の基盤となり、人間の生き方そのものにおいて重要な意味を持ちます。本講座では筋反射や身体運動学の科学的な基礎やエビデンスに基づいたコンディショニングやエクササイズ、あるいはスポーツの基本となる「走る・跳ぶ・投げる」など多角的なアプローチにおいて実習します。それらの経験の中で仲間と協力し、多面的な身体運動の意味を理解し、様々な場面に对应できる技術の習得によって個々の身体状況に応じたマイスタイルの生涯フィットネス・生涯スポーツを実践し、継続する能力を養うことを目的とします。

そこで、主に以下のテーマを中心に授業を展開したいと思います。

1. 自分自身の身体に「気づく」…日常生活の身体活動の偏りやスポーツ・運動歴による筋のアンバランスなどの障害リスクのチェックや対処と他者とのコミュニケーション能力としての身体技法の習得
 2. 客観的なデータに基づき、各個人の体力やそれぞれの課題に適した運動方法や技術を選択・実践する能力を身につける…「マイ・スタイル」の運動実践方法の習得
 3. 日常生活の中で継続可能な適切な身体技法や運動習慣をプログラミングできる…さまざまなスポーツや運動の基礎につながる簡単なリードアップゲームやフィットネスゲームの実践と習慣化
- ※この授業では特定の各競技スポーツ種目を行うことはありません。低体力の方やこれまでにスポーツ経験や運動経験の少ない方でも取り組める内容を中心に構成されています。

達成目標

- ・自分自身の身体の状態や個人差を認識し、各個人に適切な運動方法を選択的に行う能力と技術を身につける
- ・筋反射や機能解剖・筋生理等に基づいた各運動の意味や運動実践のポイントを理解し、目的に応じた運動方法を見出せる
- ・各コンディショニングやエクササイズの目的や適切な方法について、他者との協力やコミュニケーションを通して、日常生活や各人生ステージにおいて応用してプログラミングし継続的に持続できる

授業計画

- 01 ガイダンス、アイスブレイキングゲーム、身体のアライメントチェック(1)(静止状態で体の歪みチェック)と対処法
 - 02 ウォーミングアップの基本、簡易体力測定(1)「4色の運動」実践(1)
 - 03 4色の運動「実践(2)」ウォーキング・ランニングの基本など
 - 04 ウォーキング・バリエーション(雪道・坂道歩き、リズム・ウォーキング)・障害予防コンディショニング(スクワットの基礎、コアトレーニング等)、スクウェア・アリー、他
 - 05 3段階の歩幅・歩速測定等、リズム・ウォーキング・障害予防コンディショニング(コアトレーニング他)またはオリエンテーリング
 - 06 エアロビクス(1)、ボール運動の基本、リードアップゲーム(1):タッチボールなど
 - 07 エアロビクス(2)リードアップゲーム(2):鬼ごっこバリエーションなど
 - 08 ※ブラインドウォーク、4色の運動実践(3)
 - 09 ボクシングエアロ(1)・スーパーサーキットトレーニング(1)、リードアップゲーム(3):パス・ゲーム他
 - 10 ボクシングエアロ(2)・スーパーサーキットトレーニング(2)、フィットネスゲームなど
 - 11 これまでのまとめ、ふりかえり、フィットネスゲーム・ドッジボールなど
 - 12 マイスタイル・フィットネスのプログラミング(1)、軽スポーツ(1)
 - 13 マイスタイル・フィットネスのプログラミング(2)、軽スポーツ(2)
 - 14 ミッション・ウォーク・オリジナルウォーキングマップ作成実習(天候により戸外)
 - 15 簡易体力測定・ミッション・ウォーク実習(天候により戸外)
 - 16 期末試験
- ※オリエンテーリングやブラインドウォーク他、NIDホールの使用可否や天候や条件によって前後したり、変更したりする場合があります。

学生に対する成績評価基準

授業の中で行われる確認テスト(実技含む):20%、授業への参加態度・意欲、貢献度30%、課題提出物:20%、期末試験:30%

出席・遅刻の基準

2/3以上の授業出席を単位取得条件とします。
また、無断で授業の場から離れた場合は出席不正扱いとなります。(体調不良などでやむを得ず、授業の場を離れた場合は必ず教員に声をかけてください。)

テキスト

授業時に資料を配付します。配付した資料はファイルなどを準備して毎回持参してください。

用具

(各自で用意するもの)
室内運動靴、運動着(ジーンズ不可)、大きめのタオル、補給用水分、着替え、各回で指定された準備物

履修希望者への要望・事前準備

日ごろから適切な体調管理を行い、運動レベルについては各個人の体力などに考慮して無理のないように調整して授業に参加してください。
履修希望者多数の場合は、抽選等で調整を行います。

保健体育講義

1・2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
篠田浩子

授業の概要およびテーマ

古来より人間は身体を媒体とし「動く」ことで他者や世界と関わり、生涯にわたって身体として動くことを宿命づけられてきました。身体運動の質・量が大きく変化した現代においては生活習慣病を始めとする健康障害が大きな問題となり、私たちの「生きる力」を脅かしています。本講座では氾濫する巷の情報に惑わされることなく、生涯にわたる健康生活を実現するための科学的な知識や方法、戦略について解説していきます。また、その上で運動やスポーツを多面的な視野から検討し、他者や社会との有機的な関わりを見据えた健康・体力増進向上のためのライフスタイルに応じたスポーツ・運動実践のあり方について検討します。

達成目標

- ・現代における生活習慣病や健康障害と運動との関係について理解し、それを解決するための科学的知識を身につけ、適切に応用することが出来る。
- ・骨格筋の構造やトレーニングの理論や実践方法の基礎を学び、自らの運動習慣について見直しライフスタイルに応じた持続可能な運動プログラムを作成・実践することができる。
- ・身体の「適応」として捉えられる「体力」について、他者との共生や自らの習慣・生き方と併せて深く考察し、自らの「生きる力」の向上へとつながることが出来る。

授業計画

- 01 ガイダンス、「スポーツ・運動と身体文化」～人間にとって「動く」とは何か～
- 02 現代の生活と運動・スポーツ ～「便利さ」と引き換えに失った身体の教養と生体リズム～
- 03 発育・発達と運動 ～ライフスタイルに応じたスポーツ・運動習慣の設計～
- 04 健康障害と運動・栄養・休養のバランス ～お相撲さんに糖尿病が多いのは何故～
- 05 生活習慣病と運動～「寝ない・食べない・運動しない」が脂肪代謝を悪くする
- 06 身体組成と運動の効果 ～動きやすい体・理想的な体格をつくる～
- 07 ロコモティブ・シンドロームと運動習慣 ～カルシウム剤を飲むだけでは骨は強くない～
- 08 ～体力要素:「4色の運動」とは?～あなたに足りない色の運動はどれ?～
- 09 骨格筋の構造と働き1 ～ヒラメの白い筋、マグロの赤い筋の違い～
- 10 骨格筋の構造と働き2 ～足の指が開かないと踏きやすくなる訳…キネティック・チェーン～
- 11 トレーニングの理論と実践1 ～筋トレの回数を増やすと筋力は上がらなくなる?～
- 12 トレーニングの理論と実践2 ～休みをとる戦略:「スプリット・ルーティン」、「インターバル」～
- 13 スポーツ・運動とリスクマネジメント1:日常生活における姿勢・動作と障害リスク、熱中症予防他
- 14 スポーツ・運動とリスクマネジメント2:特殊環境・条件での対応「その時あなたはどのように?」
- 15 生涯スポーツ・体育と「生きる力」～ソーシャルキャピタルと地域で行う運動・スポーツの可能性～
- 16 期末試験

学生に対する成績評価基準

授業の受講態度・意欲10%、各講義時の課題20%、期中に行う確認小テスト20%、試験50%
但し、単位取得には全体の2/3以上の出席を前提条件とします。また出欠に関して不正があった場合は厳正に対処します。

テキスト

授業内でプリント類を配付する他、適宜指示します

用具

授業時にその都度指示します

履修希望者への要望・事前準備

授業で学んだことは自らの生活習慣に反映させ、適切な運動プログラムの作成や生活改善を着実に実行し、安全で効果的な運動やスポーツを個々のライフスタイルの中で工夫して実践・継続することでより良い身体環境を実現し「より善く生きる」ための糧としてください。

社会心理学

2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
天野美穂子

授業の概要およびテーマ

社会心理学は、社会的状況における人の心理や行動を研究対象とする学問です。たとえば、「人を説得するにはどのようにすればよいのか?」、「流行はどうやって生まれるのか?」、「インターネット上で匿名で発言すると本音が出やすいのはなぜか?」というような、私たちにとって身近な問題が研究の関心となっています。本講義では、社会心理学の基本的な概念やその実験例、応用事例を順次紹介し、これらの知識の取得によって、自己のより深い理解やさまざまな社会問題の分析・理解に役立つ能力を養うことを目指します。

達成目標

- ・社会心理学の基本的な用語・概念を理解し、説明できる。
- ・社会心理学の知識の習得によって、身の回りの出来事や社会状況・問題を分析し、理解することができる。

授業計画

- 01 授業ガイダンス～社会心理学とは
- 02 自己
- 03 社会的認知
- 04 態度
- 05 対人行動（1）
- 06 対人行動（2）
- 07 対人行動（3）
- 08 集団（1）
- 09 集団（2）
- 10 マス・コミュニケーション（1）
- 11 マス・コミュニケーション（2）
- 12 インターネット・コミュニケーション
- 13 消費者心理
- 14 文化と心理
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

毎回の講義時に提出する小課題／コメントシート（40%）
期末試験（60%）

テキスト

授業内でプリントを配付するほか、適宜指示します。

参考書・参考資料等

社会心理学キーワード 山岸俊男編 有斐閣 1,900円（税抜）

履修希望者への要望・事前準備

講義では、受講生に意見を求めたり、エクササイズの時間を設けながら進めていきます。講義への意欲的な参加を希望致します。

日本文化論

2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
◎黒川廣子、岡本明子、薩摩雅登、芹生春葉

授業の概要およびテーマ

近年グローバル化が進む中で、世界における日本の文化の特徴とは何かを把握するためのテーマを概説し、現代日本の文化に対する理解を促します。

日本は時代ごとに海外の影響を受けながら発展を遂げて、文化的に独特な現象を形成してきました。現代日本文化に影響を与えている複数の異質の文化がダイナミックに融合して文明として成立した事例を挙げて、文化と文明について考えます。古代より日本に最も大きな影響力を及ぼした大陸伝来の仏教について、主に尊像を中心にその形と意味、材質や技法の変遷と表現との密接な関係と、歴史の中でどのような祈りが像に込められたかを考えます。絵画を中心に、大陸文化の伝播とその日本化（和様化）の視点からみる古墳壁画、日本を描くやまと絵、異国・異界の表現、浮世絵に見る西洋文化との出会いやジャポニズムと呼ばれる西欧から見た日本文化を絵画作品を通して概観します。また、古代からの年中行事や生活文化、三道と呼ばれる芸道などに見られる現代に通じる諸要素を探ります。開国に伴う変革、そして高度経済成長期に、近代ヨーロッパおよび現代アメリカから大きな影響を受けつつも、東京オリンピック、日本万国博覧会（大阪）などを経て、現代につながる日本文化を形成したこの重要な時期を、芸術、文化、衣食住など様々な側面から探ります。

達成目標

国際的な視点から見た日本文化のあり方を理解できる。
現代まで受け継がれている日本文化における「美」の感性を考察できる。

授業計画

- 1 序論 文化と文明
 - 2 総論：日本文化への唐文化の影響 神社と寺の違い
 - 3 総論：日本文化への西洋文化の影響 日本の近代化
 - 4 総論：日本文化へのアメリカ文化の影響 1960年代の日本文化
 - 5 仏教美術の受容と展開 1 仏像の誕生と伝来
 - 6 仏教美術の受容と展開 2 仏像の儀軌と技法
 - 7 仏教美術の受容と展開 3 イメージの伝播
 - 8 大陸文化への憧れ 1 古墳壁画の伝存と保存
 - 9 大陸文化への憧れ 2 日本の風景を描く、異国の景色を描く
 - 10 西洋文化との交流 1、浮世絵に見るヨーロッパ
 - 11 西洋文化との交流 2、ヨーロッパの中の日本美術
 - 12 年中行事の彩り
 - 13 生活を彩る文様やかたち
 - 14 三道（茶道・華道・香道）の工芸
 - 15 開国に伴う文化の激変
 - 16 試験
- *担当教員 講義1－4は薩摩、5－7は芹生、8－11は岡本、12－15は黒川
ただし、この順序で進めるとは限りません。

学生に対する成績評価基準

授業態度40%、試験60%

テキスト

随時資料を配付

美術論

2・3・4 学年 後期 選択 講義 2 単位
石原 宏

授業の概要およびテーマ

西洋美術に於ける一技法を中心に、美術史に沿って西洋美術を概観する。テーマは、（１）空間表現の歴史、（２）遠近法の種類、（３）科学的遠近法の発見、（４）空間表現とヨーロッパの南北交流

達成目標

美術作品には、制作された時代の思想・歴史などが反映されている。本講義では西洋の中世からルネサンス時代にかけての空間表現を概観し、どのようにして二次元平面上に立体を表してきたかを考え、またそこに見られる各時代の考え方の変遷を理解する。

授業計画

- 第1回：空間表現と遠近法
- 第2回：古代から中世の空間表現1
- 第3回：古代から中世の空間表現2
- 第4回：ゴシック時代の空間表現
- 第5回：アッシジのサン・フランチェスコ聖堂での革新
- 第6回：ジョットの芸術
- 第7回：ルネサンス前夜のフィレンツェ美術
- 第8回：科学的遠近法の発見
- 第9回：フィレンツェの画家たち1－マサッチョ、マソリーノ
- 第10回：フィレンツェの画家たち2－フラ・アンジェリコ、フィリッポ・リッピ
- 第11回：遠近法に魅せられた画家たち－ウッチェロ、ピエロ・デラ・フランチェスカ、フランドル絵画
- 第12回：『最後の晩餐』の図像学－レオナルド・ダ・ヴィンチの作品を巡って
- 第13回：盛期ルネサンスの画家たち－ミケランジェロ、ラファエロ
- 第14回：マニエリスムとバロック美術における空間表現
- 第15回：まとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価はレポートによる。出席率が80%を下回る場合は単位を与えません。

参考書・参考資料等

「空間を描く遠近法」黒田正己著 彰国社発行 1992年 7,443円
参考資料として、授業時にプリントを配付する。

履修希望者への要望・事前準備

絵を描くとき、何気なく用いている遠近法だが、その歴史は古い。空間表現と言うテーマを通して西洋美術における人間の思考を学ぶ。スライドを使用して数多くの作品に接することを目的としており、コンスタントな出席が不可欠である。

環境と社会

2・3・4 学年 後期 選択 講義 2 単位
水流潤太郎

授業の概要およびテーマ

デザインは生活や社会をよりよくすることを志向しています。したがって、およそデザインに関わる者は、地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題に関心を持ち、自らの考えを深めることが大切です。

この講義では、まず地球環境分野の3大課題である脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会についてとりあげます。さらに後半では、サステナブルな社会に向けて同じく早急な対応が必要となっている、人口減少社会への対応や地方創生、財政健全化の課題も取り上げます。

地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題は、私たちの生活行為や経済活動が引き起こしたものです。講義では、問題が深刻化するに至った原因やメカニズムを探りながら、技術の開発・普及、社会システムやライフスタイルの変革など、問題克服に向けた取り組みについて学びます。

達成目標

- ・地球環境問題など社会の持続可能性を脅かす諸問題について、基礎的な知識を身につけ、概要を説明することができる。
- ・地球環境問題等を自らの問題として自覚し、身近な生活行動や経済活動に関連付けながら、問題の克服に向けた取り組みについて自分の考えを簡潔に論述できる。

授業計画

- 1 社会の持続可能性を脅かす諸問題
- 2 地球温暖化～「脱炭素社会の構築」～
- 3 省エネルギー
- 4 再生可能エネルギーの開発・普及
- 5 二酸化炭素の森林吸収
- 6 対策手法の類型（規制的手法、経済的手法、情報提供等）
- 7 廃棄物の増大、資源の枯渇～「循環型社会の形成」～
- 8 生態系や生物多様性の毀損～「自然共生社会の実現」～
- 9 人口減少、少子高齢化
- 10 地方消滅～「地方創生」～
- 11 リノベーションまちづくり
- 12 空家問題とその対策
- 13 観光まちづくり
- 14 財政危機～「財政健全化」～
- 15 まとめ（未来の選択に自覚を持とう）

学生に対する成績評価基準

成績は課題レポートをもとに評価します。

- ・課題は初回の授業で提示するとともに、最終回の授業で説明します。
- ・レポート提出期限は最終回の授業の1週間後とします。

テキスト

授業ごとにプリントを配付します。

履修希望者への要望・事前準備

社会の持続可能性の問題は、「あちら立てればこちら立たず」、「まだ大丈夫だろうから先送り」の構図にはまっています。老い先の長い、若いジェネレーションほど重大な影響を被る問題ですので、皆さん、関心を強めて下さい。

地域文化論

2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
◎田中洋史、田邊 幹、筑波匡介

授業の概要およびテーマ

「地域」には、それぞれ、豊かな自然と、人びとの暮らしの移り変わりを伝える「歴史」や「文化」があります。本講義では、長岡造形大学が所在する新潟県・長岡市を中心に、「地域」で積み上げられてきた固有の「歴史」と「文化」をとともに学んでいきます。全15回の講義は、人物、地名、古文書、食べ物、景観、建造物、自然災害、戦災など、地域に由来する様々な情報をもとに進めていきます。講義のテーマは、大きく分けて以下の3つです（各講義のタイトルは授業計画を参照）。①「新潟県・長岡市の地域文化」（講義1・15）、②「新潟県・長岡市の歴史と人物」（講義2～4、6、7、9、11～13）、③「自然災害と地域文化」（講義5、8、10、14）。新潟県出身の歴史地理学者・吉田東伍（1864－1918）は、「郷土の地理、郷土の歴史というものはとりもなおさず、郷土の未来に向かってその応用を待つのものである」と述べています。本講義で学んだ、「地域」の「歴史」と「文化」に関する様々な事柄を、自らの専門領域や将来の生活の中で役立ててほしいと考えています。

達成目標

- （1）新潟県・長岡市の歴史と文化を知ること。
- （2）自己の生まれ育った地と新潟県・長岡市の違いなどを講義やレポートを通して語れること。
- （3）新潟県・長岡市で育まれた地域の歴史と文化を、自らの作品や活動にどう活かせるかを模索すること。

授業計画

- 1 地域文化論の序の序～新潟県・長岡市の歴史と風土～
- 2 蔵王堂城から長岡城へ
- 3 城下町長岡と村の食文化
- 4 河井継之助・小林虎三郎・三島億二郎
- 5 中越大震災と災害復興・地域振興～山古志の事例から～
- 6 藩士の記録・村の記録からみた北越戊辰戦争
- 7 信濃川・長生橋と長岡の花火
- 8 中越沖地震と災害復興・地域防災～柏崎の事例から～
- 9 絵葉書が語る近代
- 10 中越大震災と文化財・博物館
- 11 井上門了の妖怪学
- 12 長岡市公会堂と戦前の市民活動
- 13 長岡空襲と戦災復興
- 14 中越大震災・東日本大震災の記録と記憶
- 15 地域文化論の視点～（続）新潟県・長岡市の歴史と風土～

※担当教員 講義1～4、6、7、12～15 田中洋史
講義5・8 筑波匡介、講義9～11 田邊幹

学生に対する成績評価基準

授業態度（10%）、レポート（90%）

テキスト

随時、資料配付

参考書・参考資料等

『ふるさと長岡のあゆみ』（長岡市、1986年）、『長岡の空襲』（長岡市、1987年）、『ふるさと長岡の人びと』（長岡市、1998年）、『長岡歴史事典』（長岡市、2004年）、『長岡市政100年のあゆみ』（長岡市、2006年）、『郷土長岡を創った人びと』（長岡市、2009年）、『知っておきたい新潟県の歴史』（新潟日報事業社、2009年）、『語りつぐ長岡空襲－長岡戦災資料館十周年記念誌－』（長岡市、2013年）など。

用具

筆記用具。その他、必要場合は随時指示。

履修希望者への要望・事前準備

- （1）地域の図書館・博物館・美術館を訪れ、読書や鑑賞をとおして、地域の歴史と文化に興味を持ってほしい。
- （2）自らの出身地と新潟県・長岡市を比較し、その違いや共通点を様々な視点から考えていくという姿勢で講義を受けてほしい。

文化人類学

2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
飯島康夫

授業の概要およびテーマ

人類は、多様な環境のなかで、様々な文化を形成してきました。一方で、多様にみえる各地の文化にも多くの共通性がみられます。本講では、「文化の諸形態とその展開」をテーマに、主として生業形態、時間、祭祀、通過儀礼という視点から、世界や日本の様々な地域で展開する文化についての理解を深めてゆきます。

達成目標

人類文化の多様性と共通性について理解できる。
自らの文化を相対化して考えることができる。

授業計画

- 01 文化とは
- 02 人類の歴史と分類
- 03 文化の見方と異文化理解
- 04 環境への適応と生業パターン
- 05 狩猟採集社会の文化
- 06 牧畜社会の文化（1）
- 07 牧畜社会の文化（2）
- 08 農耕社会の文化
- 09 時間と暦
- 10 信仰と祭り（1）
- 11 信仰と祭り（2）
- 12 儀礼とその分類
- 13 通過儀礼（1）出産
- 14 通過儀礼（2）婚姻
- 15 通過儀礼（3）葬送
- 16 試験

学生に対する成績評価基準

学期末の試験70%、出席を含めた授業参加態度30%

ただし、総授業数の3分の1以上欠席した場合には、期末試験の受験資格を失う。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介します。

履修希望者への要望・事前準備

私たちは自分の属す文化を意識せず、しばしば自文化を基準にして他の文化を見てしまいがちです。異文化、そして自文化をどう理解したらよいかを、受講者それぞれが主体的に考えることを望みます。

法学（日本国憲法）

2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
星野 徹

授業の概要およびテーマ

教職課程の一環として、日本国憲法を題材に「法学」を理解しよう。

憲法解釈を通じて法解釈の在り方、法体系の在り方、そして生活の中で法がどのように機能しているのかを授業を通じて実感できるようにします。

憲法論としては、法の支配とは何か、立憲主義が歴史の中でどのように成り立ち守られてきたか、そして日本国憲法の特殊な成立と性質を、判例を踏まえ理解できるようにします。

教員採用試験の受験希望者については、試験に有益な法律知識を提供します。

達成目標

日本国憲法の基本原則と体系的構造の理解を身につける。
判例解釈を通じて、実践的に法学を理解する。

授業計画

- 01：総論 1 憲法の基本原則とその相互の関係、法の形式
- 02：総論 2 日本国憲法の成り立ち、明治憲法との比較
- 03：総論 3 人権保障総論（主体、新しい権利）
- 04：人権 1 包括的人権 1（人権の種類、平等権）
- 05：人権 2 包括的人権 2（平等権、幸福追求権）
- 06：人権 3 自由権 1（精神的自由、表現の自由を除く）
- 07：人権 4 自由権 2（表現の自由を除く精神的自由の残り）
- 08：人権 5 自由権 3（表現の自由）
- 09：人権 6 自由権 4（経済的自由）
- 10：人権 7 社会権・レポート講評
- 11：人権 8 人身の自由（刑事手続上の保障）
- 12：統治 1 統治の基本原則・国会
- 13：統治 2 国会・内閣
- 14：統治 3 内閣・裁判所
- 15：統治 4 裁判所・憲法保障・地方自治
- 16：試験

学生に対する成績評価基準

レポートの成績30%、試験の成績70%の合計100%で評価する。
レポートは原則として11月の祝日直前の講義の日に出題し、祝日を挟んだ次の講義の日に出題してもらう。
試験は15回の講義の後に、別の日を指定して実施する。
授業の出席日数の不足、出席態度については、減点材料となる。

テキスト

テキストとして『憲法入門』（有斐閣双書）伊藤正己著 定価1,728円（税込み）を指定する。

参考書・参考資料等

『教育六法』、そのほか授業で紹介する書籍。

用具

薄いものでいいので六法、または、憲法の条文のコピー。

履修希望者への要望・事前準備

法学及び憲法に興味を持って授業に臨むこと。
とくに教員志望の方は、教員になることは、自分が教室の責任者になることを意味するので、生徒・児童の人権を理解し、適切な指導を行うためにも、最低限の教養として法学を身につけ、実践できる思考方法を身につけること。

科学技術論

2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
寺島正二郎

授業の概要およびテーマ

今日の我々の生活を支えている科学や技術は、古くからの経験や知恵によって進歩し、多くの試行錯誤によって発展してきた。この科学や技術の進歩は、日常生活から生まれたニーズに基づくものから、その時代の社会的背景に発端を持つものまで様々である。
本講の各講義では、現在の文明社会に欠かすことのできない科学理論や産業技術、生活の必需品に焦点をあて、その発達の歴史や社会への波及効果などについて概説する。これにより科学技術の発展過程を学ぶと共に、今後の技術開発のあり方を考える。

達成目標

科学や技術に興味を持って、科学技術の発展に至った社会的背景や発達の過程、社会的な波及効果などについて理解できるようになること。また、必要な事項について自ら調査を行い、今後の科学技術のあり方について各自の意見が持てること。

授業計画

- 第1～3回目：エネルギーと動力源
- 第4～6回目：建築、家庭用電気製品（衣食住の“住”）
- 第7～9回目：食品の加工（衣食住の“食”）
- 第10～12回目：衣類、生活用品（衣食住の“衣”）
- 第13～15回目：医療・福祉機器、自然現象、宇宙開発
- 第16回目：定期試験

学生に対する成績評価基準

講義ごとに行う出席確認クイズ、レポート、期末試験の結果を総合して評価する。原則として評価の70～80%は定期試験の得点を用いることとし、レポートなどを課した場合には、最大20～30%まで評価に取り入れる。
尚、欠席回数が多い学生については、定期試験とレポート点を合計した得点から（欠席超過回数）×10%を減点し、最終的な評価点とする。

テキスト

特に指定しない。尚、講義資料は長岡造形大学のパレットにアップロードすると共に、必要に応じてプリントを配付する。

履修希望者への要望・事前準備

自分の目で見て、耳で聴いて、自分で考えることが大切です。まず、出席して自分の視点で感じてください。また、授業中は多くの学生さんに意見を求めます。「分かりません」などと回答せず、間違っているとしても良いので「自分の意見」を答えて下さい。
講義中の態度が悪い（私語、内職、居眠り）場合について：
1～2回の注意しますが、改善が見られない諸君は、理由の如何によらず、それ以降の聴講を認めません。お互いに、大人としてのマナーを守りましょう。

哲学

3・4 学年 後期 選択 講義 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

哲学といってもあまりにいろいろな立場があるのが現状ですが、ここで学ぶ哲学とは、世界や自己という根本的な問題について深く感じ、考えるという、人類の文化的伝統を指しています。単に頭で考えるというだけではなく、感覚や直観もあわせ、人間にとっての「謎」の領域に迫ろうとする行為について理解を深めます。狭い意味でのアカデミックな哲学のみを対象とはしません。テーマとしては次の三つがあります。

- (1) 伝統哲学における「英知」を理解する。
ギリシア、キリスト教、インド、中国、日本、等々、各伝統哲学が、世界や自己の「根源」について思索し、それぞれの「宇宙ヴィジョン」を展開していたことが語られます。
- (2) 近代文明とは何であったのかを哲学思想の観点から理解する。
ここでは、近代ヨーロッパ文明における世界のヴィジョンとはどのようなもので、それがいかに近代文明を形作ったかを考えます。
- (3) 現代において「英知の伝統」としての哲学は復活したのか。
人類がまったく新しい時代に入っている現状をふまえ、これから未来へ向かっての哲学的な問いのありかたについて考えます。

達成目標

伝統哲学に含まれた英知を理解する。
近代的な世界観の特徴とその限界を理解する。
人類史的な視野の中で根本的問題を思考することができる。

授業計画

- 01～02. 哲学とは何なのか (1)～(2)
文明のゆくえと哲学の現状について
- 03～08. 東洋における哲学の探究 (1)～(6)
日本の哲学、仏教の哲学、インド哲学
- 09～12. 西洋における伝統の哲学 (1)～(4)
ギリシア哲学、キリスト教哲学など
13. 近代ヨーロッパ文明と哲学
14. 20世紀から現在への哲学
15. まとめと小論文
(進行計画はだいたいの目安です。履修者の状況に応じて若干の変更を行うことがあります)

学生に対する成績評価基準

期末に、まとめの小論文による試験を行い評価を決定します。

テキスト

開講時に指示します。

参考書・参考資料等

必要に応じて指示することがあります。

履修希望者への要望・事前準備

哲学に一つの決められた答えはないと言われますが、その時の自分にとって最善の答えはあり得ます。それを探求するために、人類の伝統に学んでみてください。

英語中級 I

1 学年 前期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。
TOEICへの対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。

達成目標

TOEICテストの形式に慣れ、基礎的な問題解答力をつける。
期末のTOEICテストで400～500点を獲得する。

授業計画

01. TOEICテストの概要、学習の進め方、発音基礎
02. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
03. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
04. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
05. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
06. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
07. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
08. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
09. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験 (TOEIC IPテスト)

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み (授業内のテストを含む) 50%
試験 (TOEIC IPテスト) スコア 50%
ただし、原則としてTOEICスコア300点以上を単位認定の条件とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。

テキスト

主となるテキスト
開講時に指示します。
単語学習として使用するテキスト (後期も使用)
『新TOEICテスト出る語句1800+』早川幸治 コスモビア 1,728円

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ

☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『絶対発音力』静哲人 ジャパンタイムズ
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版

☆その他 (英語の感覚を理解するために)
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

辞書、赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく (参考書の欄も参照)。
MP3プレーヤー (ソフトウェア、アプリ等) は、再生速度を変えられるものがよい (Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple等)。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語中級Ⅱ				
1 学年	後期	選択	演習	2 単位
菅原 浩				

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。
TOEICへの対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。

達成目標

TOEICテストの形式にさらに慣れ、問題解答力をつける。
 前回のTOEICテストより50点のスコアアップ。

授業計画

- 現在の実力チェック
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
- TOEIC模擬テスト
- 試験（TOEIC IPテスト）

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み（授業内のテストを含む）50％
 試験（TOEIC IPテスト）スコア 50％
 ただし、原則としてTOEICスコア300点以上を単位認定の条件とする。
 理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。

テキスト

主となるテキスト
 最初の授業時に指示します。公式問題集を予定。
 単語学習として使用するテキスト（前期から引き続き使用）
『新TOEICテスト出る語句1800+』早川幸治 コスモビア 1,728円

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『絶対発音力』静哲人 ジャパンタイムズ
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他（英語の感覚を理解するために）
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

辞書、赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく（参考書の欄も参照）。
MP3プレーヤー（ソフトウェア、アプリ等）は、再生速度を変えられるものがよい（Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple 等）。

英語中上級Ⅰ				
1・2 学年	前期	選択	演習	2 単位
菅原 浩				

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。
TOEICへの対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。

達成目標

TOEICテストの形式に慣れ、問題解答力をつける。
TOEICテストで500－600点以上を獲得する。

授業計画

- (a クラス)
01. TOEICテストの概要、学習の進め方、発音基礎
02. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
03. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
04. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
05. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
06. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
07. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
08. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
09. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験（TOEIC IPテスト）
- (x クラス)
01. TOEICテストの概要、学習の進め方、現在の実力チェック
02. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
03. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
04. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
05. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
06. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
07. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
08. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
09. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験（TOEIC IPテスト）

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み（授業内のテストを含む）50％
試験（TOEIC IPテスト）スコア 50％
原則としてTOEICスコア400点以上を単位認定の条件とする。ただし x クラスでTOEIC初受験の場合のみ350点とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。
遅刻3回で欠席1回分にカウントする。

テキスト

(a. xクラス)
『新TOEICテスト出る語句1800+』早川幸治 コスモビア 1,728円（前年の英語中級で使用したものがある場合はそれでよい）
このほかにメインとなる追加の教材を指定する（詳細は4月のガイダンスにて）。公式問題集を使用する予定。

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他（英語の感覚を理解するために）
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

自己採点のための赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく（参考書の欄も参照）。
MP3プレーヤー（ソフトウェア、アプリ等）は、再生速度を変えられるものがよい（Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple, Audipo等）。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語中上級Ⅱ

1・2 学年 後期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を作る。
TOEICへの対策のみならず、音声の基礎を学習して、音読練習などによる英語基礎力の養成にも力を入れる。

達成目標

TOEICテストの形式にさらに慣れ、問題解答力をつける。
TOEICテストで前期よりも50点以上のスコアアップ。

授業計画

- (1 年生 a クラス、2 年生 x クラスとも)
1. 現在の実力チェック
 2. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 3. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 4. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 5. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 6. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 7. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 8. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 9. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
 15. TOEIC模擬テスト
 16. 試験 (TOEIC IPテスト)

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み (授業内のテストを含む) 50%
試験 (TOEIC IPテスト) スコア 50%
ただし、原則としてTOEICスコア400点以上を単位認定の条件とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。
遅刻3回で欠席1回分にカウントする。

テキスト

(1 年生 a クラス、2 年生 x クラスとも)
単語学習として使用するテキスト (前期から引き続き使用)
『新TOEICテスト出る語句1800+』早川幸治 コスモビア 1,728円
主となるテキストは後ほど発表します。前期のものを継続して使用する場合があります。

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『絶対発音力』静哲人 ジャパンタイムズ
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他 (英語の感覚を理解するために)
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

辞書、赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく (参考書の欄も参照)。
MP3プレーヤー (ソフトウェア、アプリ等) は、再生速度を変えられるものがよい (Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple等)。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語上級Ⅰ

2 学年 前期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を完成させる。

達成目標

TOEICテストの形式に慣れ、問題解答力をつける。
期末のTOEICテストで600点以上を獲得する。すでに600点を獲得している人については、さらに700点台をめざす。

授業計画

01. TOEICテストの概要、学習の進め方、現在の実力チェック
02. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
03. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
04. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
05. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
06. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
07. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
08. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
09. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を用いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験 (TOEIC IPテスト)

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み (授業内のテストを含む) 50%
試験 (TOEIC IPテスト) スコア 50%
ただし、原則としてTOEICスコア450点以上を単位認定の条件とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。
遅刻3回で欠席1回分にカウントする。

テキスト

『新TOEICテスト出る語句1800』早川幸治 コスモビア 1,728円 (英語中上級で使用したもの) ただし、受講者と相談の上変更することがあります。
このほか『公式問題集』を使用する予定 (詳細は初回授業にて)。2800円+税

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他 (英語の感覚を理解するために)
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく (参考書の欄も参照)。
MP3プレーヤー (ソフトウェア、アプリ等) は、再生速度を変えられるものがよい (Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple等)。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語上級Ⅱ

2 学年 後期 選択 演習 2 単位
菅原 浩

授業の概要およびテーマ

TOEICテストに対応するための英語力、そして問題解答力の養成。
それを通して、将来的に仕事でも使える英語力の基礎を完成させる。

達成目標

TOEICテストの形式に慣れ、問題解答力をつける。
期末のTOEICテストで600点以上を獲得する。すでに600点を獲得している人については、さらに700点台をめざす。

授業計画

1. 現在の實力チェック
2. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
3. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
4. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
5. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
6. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
7. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
8. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
9. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
10. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
11. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
12. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
13. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
14. 音読練習、単語テスト、TOEIC問題を聞いた演習
15. TOEIC模擬テスト
16. 試験（TOEIC IPテスト）

学生に対する成績評価基準

授業への取り組み（授業内のテストを含む）50%
試験（TOEIC IPテスト）スコア 50%
ただし、原則としてTOEICスコア450点以上を単位認定の条件とする。
理由のない欠席は4回までとし、5回以上は成績が不可となる。
遅刻3回で欠席1回分にカウントする。

テキスト

英単語の本として、『新TOEICテスト出る語句1800』早川幸治 コスモビア
1,728円（英語中上級で使用したもの）ただし、受講者と相談の上変更することがあります。
主となる教材は後ほど発表します。前期と同じものを継続して使用する場合があります。

参考書・参考資料等

☆文法書
『一億人の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ ナガセ
☆音声参考書
『英語舌のつくり方』野中泉 研究社
『絶対発音力』静哲人 ジャパンタイムズ
『世界一わかりやすい英語の発音の教科書』関正生 KADOKAWA/中経出版
☆その他（英語の感覚を理解するために）
『英単語イメージ・ハンドブック』大西泰斗、ポール・マクベイ 青灯社
『ハートで感じる英語塾 英語の5原則編』大西泰斗、ポール・マクベイ NHK出版

用具

辞書、赤ペン等を持参する。

履修希望者への要望・事前準備

教室に毎回持ってくる必要はないが、英語学習に必要なものとして、CDおよびMP3を再生できるもの、文法書、音声についての参考書をそろえておく（参考書の欄も参照）。
MP3プレーヤー（ソフトウェア、アプリ等）は、再生速度を変えられるものがよい（Windows Media Player, Quicktime, All-in-1, Maple等）。
TOEICの学習をする場合は、このほかにTOEICの対策書、問題集、単語集などが必要となる。テキスト代がかかるが、必要な投資だと考えてほしい。

英語オーラルコミュニケーションⅠ

1 学年 前期 選択 実習 1 単位
Andrew Van Goethem

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on listening.

Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

Students will be able to perform a number of tasks that are related to the topic. After each lesson students should feel more comfortable talking about the topic that was covered in the lesson. They will also learn more vocabulary words and phrases related to the topic that was being discussed.

Students will be motivated to learn English, free of any negative feeling about it.

They will attain a very basic level of speaking skills suitable for traveling abroad.

CLASS PLAN

Class 1: Introductions, Topic 1 Family
Class 2: Topic 2 Food
Class 3: Topic 3 Time, Topic 8 Numbers
Class 4: Topic 4 House & Home
Class 5: Topic 5 Music
Class 6: Topic 6 Transportation
Class 7: Topic 7 Sports
Class 8: Topic 9 Best Friends
Class 9: Topic 10 TV, Topic 14 Movies
Class 10: Topic 11 Work, Topic 13 School
Class 11: Topic 15 Money
Class 12: Topic 12 Vacation
Class 13: Topic 12 Vacation Part II
Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
Class 16: TOEIC Bridge Test

GRADE

Class grade is 40%, Participation
20%, Homework: E-mail
20%, Oral Exam
20%, TOEIC Bridge Test

TEXTBOOK

Topic Talk
Second Edition
Written By: David Martin 2006
¥2,520

STUDENTS REQUIREMENTS

Students are required to come to class on time bring a dictionary and notebook. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.

英語オーラルコミュニケーションⅡ

1 学年 後期 選択 実習 1 単位
Andrew Van Goethem

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on listening

Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

Students will be able to perform a number of tasks that are related to the topic. After each lesson students should feel more comfortable talking about the topic that was covered in the lesson. They will also learn more vocabulary words and phrases related to the topic that was being discussed.

Students will be motivated to learn English, free of any negative feeling about it.

They will attain a very basic level of speaking skills suitable for traveling abroad with some progress from the 1 st semester.

CLASS PLAN

Class 1: Topic 16 Restaurants
Class 2: Topic 17 Animals
Class 3: Topic 18 Shopping
Class 4: Topic 19 Health & Fitness
Class 5: Topic 20 Fashion
Class 6: Topic 21 Travel
Class 7: Topic 22 Books Magazines & Newspapers
Class 8: Topic 23 Sickness, Topic 25 Fears
Class 9: Topic 26 Dating, Topic 27 Marriage
Class 10: Topic 28 Beliefs
Class 11: Topic 29 Crime
Class 12: Topic 30 Opinions
Class 13: Topic 24 Holidays
Class 14 & 15: Summary and Oral Exam

GRADE

Class grade is 50%, Participation
10%, Homework: E-mail
15%, English Usage
25%, Oral Exam

TEXTBOOK

Topic Talk
Second Edition
Written By: David Martin 2006
¥2,520

STUDENTS REQUIREMENTS

Students are required to come to class on time bring a dictionary and notebook. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.

英語オーラルコミュニケーションⅢ

1・2 学年 前期 選択 実習 1 単位
©Andrew Van Goethem, Paul Edwards

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on listening. Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions. Second year students will be given the opportunity to increase their speaking ability by joining this class. A list of topics will be discussed during each semester and students can expand their English knowledge they have acquired from their first year English classes. This is an English speaking class.
1-year students will take a TOEIC Bridge Test at the end of the term.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

First-year students will be able to perform a number of tasks that are related to the topic. After each lesson students should feel more comfortable talking about the topic that was covered in the lesson. They will also learn more vocabulary words and phrases related to the topic that was being discussed. Students will be motivated to learn English, free of any negative feeling. Second year students' major goal in this class will be to interact with other students using a wide range of vocabulary and expressions in English. The purpose of this class is to spend each lesson speaking in English only and building much confidence when using English as a second language. They will attain a basic level of speaking skills suitable for traveling abroad.

CLASS PLAN

(Class a, b, and c: 1 st-year classes by Van Goethem)

Class 1: Introductions, Topic 1 Family
Class 2: Topic 2 Food
Class 3: Topic 3 Time, Topic 8 Numbers
Class 4: Topic 4 House & Home
Class 5: Topic 5 Music
Class 6: Topic 6 Transportation
Class 7: Topic 7 Sports
Class 8: Topic 9 Best Friends
Class 9: Topic 10 TV, Topic 14 Movies
Class 10: Topic 11 Work, Topic 13 School
Class 11: Topic 15 Money
Class 12: Topic 12 Vacation
Class 13: Topic 12 Vacation Part II
Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
Class 16: TOEIC Bridge Test

(Class d: 1 st-year class by Edwards)

Week 1: Introduction to course & textbook
Week 2: Asking people to do things
Week 3: continued
Week 4: Talking about likes & dislikes
Week 5: Talking about what people are doing
Week 6: continued
Week 7: Talking about dates, days and events
Week 8: continued
Week 9: Mid-term review quiz
Week 10: Describing jobs
Week 11: continued
Week 12: Describing locations
Week 13: continued
Week 14: Final exam
Week 15: Final exam
Week 16: TOEIC Bridge Test
(Class x, y and z: 2 nd-year classes by Van Goethem)
Week 1: Introductions, How are you? Nice to meet you. Can you say that again?
Week 2: Nice weather, isn't it? I love hip-hop!
Week 3: My favorite movie is... What time is it?
Week 4: Would you try kayaking? Do you have any brothers?
Week 5: She's pretty smart. I love your shirt! What's she wearing?
Week 6: When do you get up? When do you get there? What do you do first?
Week 7: What are you doing? What's your place like? Where can I get a lamp?
Week 8: Where's the mall? Take a left. How much is coffee?
Week 9: Will you take \$20? Do you ever buy books? Your phone is so cool!
Week 10: Do you eat much fruit? We need onions.
Week 11: Do you ever eat a big lunch? How does it taste?
Week 12: I had a great weekend. What time did you call? You won't believe this!
Week 13: What are your plans?
Week 14: Class summary
Week 15: Class summary

GRADE

For 1-year students:
Participation in class: 40%
Homework, Assignments, etc: 20%
Final Exam: 20%
TOEIC Bridge: 20%
For 2-year students:
Participation in class: 50%
Homework, Assignments, etc: 25%
Final Exam: 25%

TEXTBOOK

(Class a, b, and c)
Topic Talk Second Edition Written By: David Martin 2006 EFL Press about ¥2,520
(Class d)
Communication Spotlight (Starter) Second Edition by Alastair Graham-Marr (ABAX ELT Publishers) with audio CD about ¥2,550
(Class x, y and z)
Speak NOW 1: Communicate with Confidence By: Jack C. Richards and David Bohlke Oxford about ¥2,800

STUDENTS REQUIREMENTS

(Class a, b, c, x, y and z: Van Goethem)
Students are required to be in class on time and have their textbooks, dictionary and notebook with them for each lesson. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.
(Class d: Edwards)
Japanese - English/English - Japanese Dictionary..paper or electronic is a must.

英語オーラルコミュニケーションⅣ

1・2学年 後期 選択 実習 1単位
©Andrew Van Goethem, Paul Edwards

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on listening.
Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.
Second year students will be given the opportunity to increase their speaking ability by joining this class. A list of topics will be discussed during each semester and students can expand their English knowledge they have acquired from their first year English classes. This is an English speaking class.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

First year students will be able to perform a number of tasks that are related to the topic.

After each lesson students should feel more comfortable talking about the topic that was covered in the lesson. They will also learn more vocabulary words and phrases related to the topic that was being discussed.

Students will be motivated to learn English, free of any negative feeling.

Second year students' major goal in this class will be to interact with other students using a wide range of vocabulary and expressions in English.

The purpose of this class is to spend each lesson speaking in English only and building much confidence when using English as a second language.

They will attain a basic level of speaking skills suitable for traveling abroad with some progress from the 1st semester.

CLASS PLAN

(Class a, b and c: Van Goethem's schedule)

Class 1: Topic 16 Restaurants

Class 2: Topic 17 Animals

Class 3: Topic 18 Shopping

Class 4: Topic 19 Health & Fitness

Class 5: Topic 20 Fashion

Class 6: Topic 21 Travel

Class 7: Topic 22 Books Magazines & Newspapers

Class 8: Topic 23 Sickness, Topic 25 Fears

Class 9: Topic 26 Dating, Topic 27 Marriage

Class 10: Topic 28 Beliefs

Class 11: Topic 29 Crime

Class 12: Topic 30 Opinions

Class 13: Topic 24 Holidays

Class 14 & 15: Summary and Oral Exam

(Class d: Edwards' schedule)

Week 1: Intro to course/Talking about school schedules

Week 2: Talking about school schedules

Week 3: Talking about things you can do

Week 4: continued

Week 5: Describing location

Week 6: continued

Week 7: Talking about everyday things

Week 8: continued

Week 9: Mid-term review quiz

Week 10: Fluency with numbers

Week 11: continued

Week 12: Talking about things you did

Week 13: continued

Week 14: Asking questions

Week 15: Final exam

Week 16: Final exam

(Class x, y and z: Van Goethem's schedule)

Week 1: Introductions. Where are you from? I'm tall and thin. Alice is more serious.

Week 2: All of my friends text. I've never had Thai food. First, grill the bread.

Week 3: The service is great. Are you ready to order?

Week 4: I have a sore throat. What should I do? I'd love to try that!

Week 5: Soccer is more exciting! I can write pretty well. I'd have to have..

Week 6: I travel for free. Is the manager there?

Week 7: That sounds fun! I'd love to go. I'm sorry, but I can't.

Week 8: Sorry I'm late. Did you go alone? Which do you prefer?

Week 9: You must get a visa. When is the next train?

Week 10: I usually wear..What do you think?

Week 11: Can you do me a favor? What is it used for?

Week 12: I think it's fun. I feel the same way.

Week 13: What would you do? Then what happened?

Week 14: Summary

Week 15: Summary

GRADE

Participation in class: 50%

Homework, Assignments, etc. 25%

Final Exam: 25%

TEXTBOOK

(Class a, b, and c: Van Goethem)

Topic Talk Second Edition Written By: David Martin 2006 ¥2,520

(Class d: Edwards)

Communication Spotlight (Starter) Second Edition by Alastair Graham-Marr (ABAX ELT Publishers) (¥2,550) with audio CD

(Class x, y and z: Van Goethem)

Speak NOW 2: Communicate with Confidence By: Jack C. Richards and David Bohlke Oxford about ¥2,800

STUDENTS REQUIREMENTS

(Van Goethem) Students are required to come to class on time bring a dictionary and notebook. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.

(Edwards) Japanese – English/English – Japanese Dictionary..paper or electronic is a must.

英語オーラルコミュニケーションⅤ

1・2学年 前期 選択 実習 1単位
©Andrew Van Goethem, Paul Edwards, Brian Drier,
Bill Evangelos Moulinos, 木伏あづさ

THEME

First year students: Basic conversation skills using everyday English with some emphasis on listening. Students will interact with each other each week sharing from their own lives, experiences, interests, and opinions. Second year students will be given the opportunity to increase their speaking ability by joining this class. A list of topics will be discussed during each semester and students can expand their English knowledge they have acquired from their first year English classes. This is an English speaking class. 1-year students will take a TOEIC Bridge Test at the end of the term, if they do not take a TOEIC test instead.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

This is an oral communication class. Students are expected to use whatever English knowledge they have to positively communicate with their classmates on a weekly basis. There will also be some listening, writing, and reading components as well. Students will get speaking skills to get by in everyday English. Second year students' major goal in this class will be to interact with other students using a wide range of vocabulary and expressions in English. The purpose of this class is to spend each lesson speaking in English only and building much confidence when using English as a second language.

CLASS PLAN

(Class a: Drier's schedule)

Week 1: Introductions (Professor; Class; Students)

Week 2: Getting Acquainted (Let's Chat, Unit 1)

Week 3: Experiences (Let's Chat, Unit 2)

Week 4: Sport & Leisure (Let's Chat, Unit 3)

Week 5: Shopping & Money (Let's Chat, Unit 4)

Week 6: Food (Let's Chat, Unit 5)

Week 7: Travel (Let's Chat, Unit 6)

Week 8: Movies & Television (Let's Chat, Unit 7)

Week 9: Work (Let's Chat, Unit 8)

Week 10: Health (Let's Chat, Unit 9)

Week 11: Love & Romance (Let's Chat, Unit 10)

Week 12: Music & Books (Let's Chat, Unit 11)

Week 13: Culture & Places in Japan (Let's Chat, Unit 12)

Week 14 and 15: Final Exams

Week 16: TOEIC Bridge Test (1-year students only)

(Class b: Van Goethem's schedule)

Class 1: Introductions, Topic 1 Family

Class 2: Topic 2 Food

Class 3: Topic 3 Time, Topic 8 Numbers

Class 4: Topic 4 House & Home

Class 5: Topic 5 Music

Class 6: Topic 6 Transportation

Class 7: Topic 7 Sports

Class 8: Topic 9 Best Friends

Class 9: Topic 10 TV, Topic 14 Movies

Class 10: Topic 11 Work, Topic 15 School

Class 11: Topic 15 Money

Class 12: Topic 12 Vacation

Class 13: Topic 12 Vacation Part II

Class 14 & 15: Summary and Oral Exam

Class 16: TOEIC Bridge Test

(Class v & w: Moulinos's schedule)

1. Introduction

2. Unit 1: Guess Where I'm from.

3. Unit 2: Comfy Seats.

4. Unit 3: A Trip to the Art Gallery; Unit 4: My Quirky Family.

5. Unit 5: Scaredy Cat.

6. Unit 6: The Commute.

7. Unit 7: A Close Shave.

8. Unit 8: Excuses, Excuses.

9. Unit 9: Moving On.

10. Unit 10: Shop till You Drop.

11. Unit 11: Home Sweet Home.

12. Unit 12: The Life of the Party.

13. Unit 13: Aussies are So Cool.

14. Unit 14: World's Worst Cook; Unit 15: Lucky Dog.

15. Unit 16: I Want to be a Superhero; Review for Test.

16. Final Examination.

(Class x: Drier's schedule)

Week 1: Introductions (Professor; Class; Students)

Week 2: Getting Acquainted (Let's Chat, Unit 1)

Week 3: Experiences (Let's Chat, Unit 2)

Week 4: Sport & Leisure (Let's Chat, Unit 3)

Week 5: Shopping & Money (Let's Chat, Unit 4)

Week 6: Food (Let's Chat, Unit 5)

Week 7: Travel (Let's Chat, Unit 6)

Week 8: Movies & Television (Let's Chat, Unit 7)

Week 9: Work (Let's Chat, Unit 8)

Week 10: Health (Let's Chat, Unit 9)

Week 11: Love & Romance (Let's Chat, Unit 10)

Week 12: Music & Books (Let's Chat, Unit 11)

Week 13: Culture & Places in Japan (Let's Chat, Unit 12)

Week 14: World Problems (Let's Chat, Unit 13)

Weeks 15 and 16: Final Exams

(Class y: Kibushi's schedule)

Week 1: Introduction to Class and Useful Language

Week 2: Oral communication exercises

Week 3: Oral communication exercises

Week 4: Oral communication exercises

Week 5: Oral communication exercises

Week 6: Oral communication exercises

Week 7: Oral communication exercises

Week 8: Oral communication exercises

Week 9: Oral communication exercises

Week 10: Oral communication exercises

Week 11: Oral communication exercises

Week 12: Oral communication exercises

Week 13: Oral communication exercises

Week 14: Preparation for Final exam

Week 15: Final exam

Week 16: Final exam

(Class z: Edwards' schedule)

Week 1: Course Introduction/ Student Intros

Week 2: Talking about likes & dislikes

Week 3: Fluency with money & prices

Week 4: continued

Week 5: Describing your family

Week 6: continued

Week 7: Talking about things you did

Week 8: continued

Week 9: Mid-term review quiz

Week 10: Describing occupations

Week 11: continued

Week 12: Describing your daily routines

Week 13: continued

Week 14: Describing locations, things in a room

Week 15: Final exam

Week 16: Final exam

GRADE

For 1-year students: Participation in class: 40%

Homework, Assignments, etc: 20%

Final Exam: 20%

For 2-year students:

Participation in class: 50%

Homework, Assignments, etc: 25%

Final Exam: 25%

TEXTBOOK

(Class a & x: Drier)

Let's Chat (John Pak, EFL Press: ¥2500 + tax)

(Class b: Van Goethem)

Topic Talk Second Edition Written By: David Martin 2006 ¥2,520

(Class v & w: Moulinos)

Impact Conversation 1 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens; 2009, Pearson Longman.

(Class y: Kibushi)

To be announced at the first class. 最初の授業時に指示します。

(Class z: Edwards)

Communication Spotlight (High Beginner) 2nd Edition by Alastair Graham-Marr (2013) ABAX ELT Publishers (¥2,550)

STUDENTS REQUIREMENTS

I am looking forward to our classes. 2015 will be my first year teaching at NID, and I view this course as an experiment in English. That is, although I have prepared a schedule, it is tentative. This means that I may make changes during the semester, based on the character of the class and the amount of time necessary for the content.

I may change the sequence of units, remove units altogether, and add content not listed above. I plan to share my personal experiences with you, and I hope that you will come to class prepared to share your experiences with me and your classmates. Bring a dictionary to be safe and "gentle" to be active!

(Van Goethem)

Students are required to be in class on time and have their textbooks, dictionary and notebook with them for each lesson. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.

(木伏)

辞書を持参してください

(Moulinos)

Please bring an advanced – level dictionary and a positive attitude to every class session.

(Edwards)

Japanese – English/English – Japanese Dictionary..paper or electronic is a must.

英語オーラルコミュニケーションⅥ

1・2 学年 後期 選択 実習 1 単位

◎Andrew Van Goethem, Paul Edwards, Brian Drier, Bill Evangelos Moulinos, 木伏あづさ

THEME

First Year Students: Basic Conversation with some emphasis on listening Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.
Second year students will be given the opportunity to increase their speaking ability by joining this class. A list of topics will be discussed during each semester and students can expand their English knowledge they have acquired from their first year English classes. This is an English speaking class.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

This is an oral communication class. Students are expected to use whatever English knowledge they have to positively communicate with their classmates on a weekly basis.
There will also be some listening, writing, and reading components as well.
Second year students' major goal in this class will be to interact with other students using a wide range of vocabulary and expressions in English.
The purpose of this class is to spend each lesson speaking in English only and building much confidence when using English as a second language.
Students will get speaking skills to get by in everyday English with some progress from the 1st semester.

CLASS PLAN

(Class a and x: Drier's schedule)
Week 1: Introduction; Summer Vacation 1
Week 2: Summer Vacation 2
Week 3: Animals
Week 4: Fashion
Week 5: Family
Week 6: School
Week 7: Nature
Week 8: Friends
Week 9: Fun
Week 10: Home & Housing
Week 11: Opinion/Presentation 1
Week 12: Opinion/Presentation 2
Week 13: Opinion/Presentation 3
Week 14: Opinion/Presentation 4
Weeks 15 & 16: Final Exams
(Class b: Van Goethem's schedule)
Class 1: Topic 16 Restaurants
Class 2: Topic 17 Animals
Class 3: Topic 18 Shopping
Class 4: Topic 19 Health & Fitness
Class 5: Topic 20 Fashion
Class 6: Topic 21 Travel
Class 7: Topic 22 Books Magazines & Newspapers
Class 8: Topic 23 Sickness, Topic 25 Pears
Class 9: Topic 26 Dating, Topic 27 Marriage
Class 10: Topic 28 Beliefs
Class 11: Topic 29 Crime
Class 12: Topic 30 Opinions
Class 13: Topic 24 Holidays
Class 14 & 15: Summary and Oral Exam
(Class v and w: Moulinos's schedule)
1. Introduction
2. Unit 1: Something Cool.
3. Unit 2: My Humble Abode.
4. Unit 3: Food Cravings.
5. Unit 4: Who We Are.
6. Unit 5: Corporate Ladder.
7. Unit 6: Another World.
8. Unit 7: Big Worry: Unit 8: Unplugged.
9. Unit 9: The Remote.
10. Unit 10: Clean Freak.
11. Unit 11: No Such Thing.
12. Unit 12: Like Chalk and Cheese.
13. Unit 13: Hang in There.
14. Unit 14: The Time of My Life; Unit 15: It's a Guy Thing.
15. Unit 16: Role Model; Review for Test.
16. Final Examination.
(Class y: Kibushi's schedule)
Week 1: Introduction to Class and Useful Language
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: preparation for Final exam
Week 15: Final exam
Week 16: Final exam
(Class z: Edwards's schedule)
Week 1: Course Intro/ Talking about holidays and school
Week 2: Giving instructions/describing how to cook
Week 3: continued
Week 4: Describing current actions
Week 5: continued
Week 6: Talking about the future
Week 7: continued
Week 8: Describing foods (fruits & vegetables)
Week 9: Mid-term review quiz
Week 10: Fluency with large numbers
Week 11: continued
Week 12: Giving directions/describing neighborhoods
Week 13: continued
Week 14: Asking for information
Week 15: Final exam
Week 16: Final exam

GRADE

Participation in class: 50%
Homework, Assignments, etc.: 25%
Final Exam: 25%

TEXTBOOK

(Class a and x: Drier)
No textbook to buy for this class.
(Class b: Van Goethem)
Topic: Talk Second Edition Written By: David Martin 2006 ¥2,520
(Class v and w: Moulinos)
Impact Conversation 2 by Kristen Sullivan and Todd Beuckens; 2009, Pearson Longman.
(Class y: Kibushi)
最初の授業時に指示します。
(Class z: Edwards)
Communication Spotlight (High Beginner) 2nd Edition by Allastair Graham-Marr (2013) ABAX ELT Publishers (¥2,550)

STUDENTS REQUIREMENTS

(Drier)
While Oral Communication V is concerned primarily with communication through conversation, I expect that this class will include some additional emphasis on presenting opinion as well as informal and formal presentation skills. There is a strong possibility that the final exam will consist in an oral presentation. Please note that the schedule is subject to change, much like Oral Communication V, and will probably change even more than that class, because I expect to give students a greater opportunity to give me input concerning the content, activities, and procedure of this class. I hope that you will take an active part in the process
of decision-making and offer your opinions about the best form for this class to take. Note that there will be no textbook to buy for this class. However, I recommend that you bring a dictionary and lots of "yaru-ki!"
(Van Goethem)
Students are required to be in class on time and have their textbooks, dictionary and notebook with them for each lesson. Students are also required to ask questions when they don't know something in English.
(Moulinos)
Please bring an advanced-level dictionary and a positive attitude to every class session.
(木伏)
辞書を持参してください
(Edwards)
Japanese-English/English-Japanese Dictionary-paper or electronic is a must.

英語オーラルコミュニケーションⅦ

1・2 学年 前期 選択 実習 1 単位

Lance Latham, 木伏あづさ

THEME

Basic Conversation with some emphasis on listening Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

This is an oral communication class. Students are expected to use whatever English knowledge they have to positively communicate with their classmates on a weekly basis. There will also be some listening, writing, and reading components as well. Students will get basic speaking skills to express opinions in English.
1-year students will take a TOEIC Bridge Test at the end of the term.

CLASS PLAN

(Class a)

Week 1: Introduction to Course
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: Review of Textbook Materials
Week 15: Oral Assessment
Week 16: TOEIC Bridge Test

(Class x)

Week 1: Introduction to Class and Useful Language
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: Preparation for Final exam
Week 15: Final exam
Week 16: Final exam

GRADE

For 1-year students:

Participation in class: 40%

Homework, Assignments, etc.: 20%

Final Exam: 20%

TOEIC Bridge: 20%

For 2-year students:

Participation in class: 50%

Homework, Assignments, etc.: 25%

Final Exam: 25%

TEXTBOOK

For both class a and x

To be announced at the beginning of the term.

STUDENTS REQUIREMENTS

(Class a: Lance Latham)

Be prepared to use English in conversation style for most of each class.

However, there will also be some listening, reading, and writing. The items

in the schedule are subject to change. In addition to standard writing

materials and a notebook, students are expected to bring a paper/

electronic

dictionary.

(Class x: 木伏あづさ)

辞書を持参してください。

英語オーラルコミュニケーションⅧ

1・2学年 後期 選択 実習 1単位
Lance Latham, 木伏あづさ

THEME

Basic Conversation with some emphasis on listening
Students interact with each other sharing their own lives interests and opinions.

STUDENTS PURPOSE AND GOALS

This is an oral communication class. Students are expected to use whatever English knowledge they have to positively communicate with their classmates on a weekly basis. There will also be some listening, writing, and reading components as well. Students will get basic speaking skills to express opinions in English with some progress from the 1st semester.

CLASS PLAN

(Class a: Latham's schedule)

Week 1: Oral communication exercises
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: Review of Textbook Materials
Week 15: Oral Assessment

(Class x: Kibushi's schedule)

Week 1: Introduction to Class and Useful Language
Week 2: Oral communication exercises
Week 3: Oral communication exercises
Week 4: Oral communication exercises
Week 5: Oral communication exercises
Week 6: Oral communication exercises
Week 7: Oral communication exercises
Week 8: Oral communication exercises
Week 9: Oral communication exercises
Week 10: Oral communication exercises
Week 11: Oral communication exercises
Week 12: Oral communication exercises
Week 13: Oral communication exercises
Week 14: preparation for Final exam
Week 15: Final exam
Week 16: Final exam

GRADE

Participation/English in Class 50%
Homework, Assignments, etc. 25%
Final exam 25%

TEXTBOOK

(Class a: Latham)

To be announced at the beginning of the term.

(Class x: Kibushi)

To be announced at the beginning of the term.

STUDENTS REQUIREMENTS

(Latham)

Be prepared to use English in conversation style for most of each class. However, there will also be some listening, reading, and writing. The items in the schedule are subject to change. In addition to standard writing materials and a notebook, students are expected to have bring a paper/electronic dictionary.

(木伏)

辞書を持参してください。

基礎ゼミ

1学年 後期 必修 演習 2単位

◎金山正貴、板垣順平、市川治郎、小松佳代子、竹田進吾、
福本 壘、米田瑠美

授業の概要およびテーマ

デザインを学ぶことの意味、それを社会にどのように還元するかを考えます。
他大学も含めた先輩方の話をきっかけとしながら、自分自身が大学でどのようなことを学びそれを社会で生かしていくかを改めて整理していくことが目的です。

達成目標

自分自身の将来像を見定める。
目標とする将来像に対して、自分自身が今後どのような態度で学修を進めていくべきかを把握する。
学修を進める上で必要となるスキルをより一層向上させる意欲を持つ。
将来へ向けたビジョンを他の学生と共有する。

授業計画

01 ガイダンス

02-10 「大学生生活で何に取り組み、どんな未来をつくるのか」

※120分×4回（主に土曜日）でNPOカタリバとの協働により実施します。

※カタリバの最終回は時間を延長します（1時間程度）。

- ・先輩トークライブ
- ・対話の座談会
- ・プレゼンテーション準備
- ・最終プレゼンテーション

※途中に二度、通常開講日を使って作業日を設定します。

11 ふりかえり

12 成果をデジタルデータにする（PowerPoint, Keynote, Acrobat）

13 学修効果を高めるスキルを身につける 1

14 学修効果を高めるスキルを身につける 2

15 未来履歴書を作成する（Word, Excel）

学生に対する成績評価基準

提出された成果物によって評価を行います。
評価には、数回設定されるプレゼンテーションの評価も含まれます。

出席・遅刻の基準

※NPOカタリバと実施する回は土曜日13時～15時を予定しています。

（4回目は全体発表に時間を要するため13時～16時となる予定です）
事前周知するので、その日程を確保してください。
グループワーク実施の回に関しては、原則として授業開始時までに出席していない場合は参加を認めず、欠席扱いとします。

用具

室内履き（NPOカタリバとのワークショップはNIDホールで行う予定です。冷え込む可能性もあるので、必要に応じて室内履き・防寒具持参してください）

履修希望者への要望・事前準備

自分の将来像を見定め、そうなるために今後何をするべきかをきちんと把握することで日々の学修、制作もより実のあるものになるはずです。積極的な姿勢で参加してください。

キャリア計画実習Ⅰ

2学年 後期 必修 実習 1単位

◎真壁 友、椎名勇太、高橋健太郎、横田和典、横部延寿

授業の概要およびテーマ

自らの生き方を選択する力を身につける授業です。世の中を知ることと、自分自身を考えることで将来の目標を明確にしていきます。また、グループワークやプレゼンテーション等を通して社会で活躍できる能力が何なのかを理解します。この授業では、実際に社会で働いている先輩や企業の人事担当者を招き社会や仕事での面白さや大変さ等も学んでいきます。

達成目標

自身が社会で求められる能力を理解する。
自身の将来の目標を設定する。
2年次終了時点での希望進路を明確にする。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 社会を知る
- 03 どのような仕事がしたいか
- 04 内定者報告会
- 05 企業の調べ方を考える
- 06 卒業生パネルディスカッション（1）
- 07 卒業生パネルディスカッション（2）
- 08 社会人として必要なマナー
- 09 人事担当者パネルディスカッション
- 10 振り返りとコミットメント宣言
- 11 インターンシップ報告会（1）
- 12 インターンシップ報告会（2）
- 13 チームに働きかけるコミュニケーション能力について
- 14 グループワークとは
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

- ・出席回数が2/3以上でない場合は、原則として単位を与えません。
- ・レポートにより採点を行います。

テキスト

必要に応じて随時準備し配付します。

参考書・参考資料等

適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

定時での入室、締め切り厳守など時間・ルール厳守を求めます。

キャリア計画実習Ⅱ

3学年 前期 必修 実習 1単位

◎真壁 友、椎名勇太、横田和典、横部延寿

授業の概要およびテーマ

自らの可能性を発見し、世の中のどのような場所で活躍したいかを考える授業です。
自らが希望を持った社会にどうすれば出ることができるのか学んでいきます。
また、グループワークやプレゼンテーション等を通して社会で活躍できる能力を身につけていきます。
上記を通し、社会で働くということが何なのかをしっかりと学び、今後のキャリアを定めることを目標とします。

達成目標

社会に出る工程を理解し自身のスケジュールを構成できる。
世の中に挑むために準備することが必要な内容を理解できる。

授業計画

- 01 オリエンテーション
- 02 社会を知る
- 03 「聴く」「伝える」とは
- 04 SPI試験対策
- 05 卒業生パネルディスカッション（1）
- 06 卒業生パネルディスカッション（2）
- 07 振り返り
- 08 人事担当者パネルディスカッション
- 09 振り返りとコミットメント宣言
- 10 インターンシップ実践のためのマナー
- 11 書いて伝える（1）
- 12 書いて伝える（2）
- 13 話して伝える（1）
- 14 話して伝える（2）
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

- ・出席回数が2/3以上でない場合は、原則として単位を与えません。
- ・通常レポート各回6点（78点満点）
- ・中間、最終レポート各回11点（22点満点）

テキスト

必要に応じて随時準備し配付します。

参考書・参考資料等

適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

定時での入室、締め切り厳守など時間・ルール厳守を求めます。

論理学

1・2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
市野敬介

授業の概要およびテーマ

日本語でディベートを行います。主張を、根拠をともなって伝え、議論をする授業です。現代の社会課題を論題としたディベートの準備および試合を行います。論理的に考えること、論理的に表現することなどについて、ディベートを通じて体験していただきます。前半のマイクロディベートでは、身近な社会問題で議論を行います。後半のディベート実戦では、本格的にチームを結成し、準備および試合を行います。

達成目標

講座を終えた時に以下のことができるようになっていくことをゴールとします。

- (1) テーマ（論題）に対して多面的に考えて、主張を組み立てることができる
- (2) 説得力のある話し方で主張・反論ができる
- (3) 根拠が明確でない議論を聞いて、質問することができる
- (4) 肯定側・否定側の双方の意見をよく聞いて、どちらの議論が優勢だったか判断を下すことができる

授業計画

- 01 講座の全体像／デザイン×ディベートとは
- 02 モデルディベート視聴／メモの取り方／ルール説明
- 03 論題発表／マイクロディベートをやってみる
- 04 メリット・デメリットを考える／立論の3要件を考える
- 05 シナリオを活用したマイクロディベート 準備
- 06 シナリオを活用したマイクロディベート 実践
- 07 シナリオを活用したマイクロディベート 実践
- 08 ディベートの試合 準備
- 09 ディベートの試合 準備
- 10 ディベートの試合 準備
- 11 ディベートの試合 準備
- 12 ディベートの試合 実戦
- 13 ディベートの試合 実戦
- 14 ディベートの試合 実戦
- 15 ディベートの試合 実戦（受講人数によって変動します）

学生に対する成績評価基準

(1) ディベートの説明・講義
授業への参加、課題に取り組む姿勢、発言・発表の内容などを評価します。ディベートに関する説明や技法を活用する演習は参加型・対話形式で行います。

(2) ディベートの試合
試合の中で行う立論や反論などのスピーチの内容、質疑応答の内容や聞き方答え方で評価します。それだけではなく、審判も行っていたいただきますので、その審査や選手へのフィードバックの内容も評価をします。

(3) 身に着いた力に関する自己評価
最終的に講座を通じてご自身でどんな力が身に着いたのか、どんな成長があったのかの振り返りを、理由をつけて記述していただきます。その内容と理由付けで評価します。
概ね(1) 10%、(2) 40%、(3) 50% の割合で評価します。

テキスト

講義の中でお渡しします

用具

筆記用具（できれば、3色のボールペンをご用意ください）
情報機器（スマートフォンやノートパソコン）

履修希望者への要望・事前準備

授業内で様々な質問や課題を出します。「不正解」があるものではありませんので、積極的に回答してください。
ディベートの試合はグループ活動です。限られた時間の中であらゆることを考えて、スピーチをする準備をしていただきます。役割分担や協力をしあいながら活動してください。

統計学

1・2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
中山雅友美

授業の概要およびテーマ

欲しい情報を得るために、どのようなデータをどの程度集めて、どのように処理をすればいいのかということを全体を通して学びます。

はじめに、データから読み取れる特徴を考えてデータを整理する方法を学びます。次に、一部のデータから全体を推測する方法を学びます。最後に、変量の間の相関関係について学びます。

統計学は、研究や仕事だけでなく、日常の生活においても役に立つと思います。

達成目標

統計学の基本的な考え方を理解し、基本の統計的手法を身に付けることを目標にします。

授業計画

- 1 度数分布・ヒストグラム
- 2 平均など
- 3 分散・標準偏差
- 4 正規分布 1
- 5 正規分布 2
- 6 標本調査
- 7 推定 1
- 8 推定 2
- 9 推定 3
- 10 検定 1
- 11 検定 2
- 12 検定 3
- 13 相関関係
- 14 回帰分析
- 15 期末試験
- 16 試験返却とまとめ

学生に対する成績評価基準

期末試験で評価します。

テキスト

「文系でも分かるビジネス統計入門」内田学・兼子良久・斎藤嘉一
著 東洋経済新報社 1,800円+税

用具

電卓

履修希望者への要望・事前準備

試験のときに四則演算・平方根の計算が行える電卓が必要になります。

情報リテラシー

1・2・3・4学年 後期 選択 講義 2単位
横田秀珠

授業の概要およびテーマ

インターネットが普及し情報社会が加速しています。氾濫する情報を検索するニーズが高まりました。またスマートフォンの台頭で、情報を発信する事も容易になりました。更にソーシャルメディアで気軽に情報を拡散する事も可能になり、プライバシー漏洩やセキュリティの重要性など様々な問題点も露呈してきました。情報の検索手法や情報の発信方法、ソーシャルメディアなどの使い方と留意点などを体得し、インターネットの仕組み等を総合的に習得することを目的にした科目です。

達成目標

検索エンジンやソーシャルメディアなどインターネット上の様々なサービスを理解すること、情報を受信する際と発信する際の注意点、プライバシーの管理やセキュリティの重要性を通して情報社会のあり方を説明できるようになること。

授業計画

- 1) 情報リテラシーを学ぶ理由
- 2) インターネット概論と歴史
- 3) 検索エンジンの変遷と進化
- 4) ソーシャルメディアの台頭
- 5) スマートフォン普及と課題
- 6) キュレーションが必要な訳
- 7) 多様な連絡手段とインフラ
- 8) 位置情報で激変の生活習慣
- 9) TVの衰弱と動画メディア
- 10) 様々な動画とネット生配信
- 11) 苦戦する紙媒体と電子書籍
- 12) ラジオと音声技術の未来生
- 13) 画像認識の技術と流出問題
- 14) セキュリティとクラウド化
- 15) デマや詐欺と進化する技術
- 16) 定期試験

学生に対する成績評価基準

講義レポート 40%

期末試験 60%

講義レポートは、講義の内容をブログやソーシャルメディア等でまとめるだけでなく、自分の意見や考察を含めた投稿を評価に取り入れる。

テキスト

特に指定しない。

授業に用いる資料は、パレットからダウンロード可能。

授業までに必要に応じ各自で予習しておくこと。

履修希望者への要望・事前準備

- 1) 講義資料はパレットに掲載するので、必要に応じて各自で予習しておくこと
- 2) パレットの資料や講義まとめブログで復習を徹底すること
- 3) 質問は専用LINE@メッセージなどで受け付ける
- 4) 学習した内容はブログやソーシャルメディアでアウトプットすると望ましい

現代社会論

2・3・4学年 前期 選択 講義 2単位
広田秀樹

授業の概要およびテーマ

宇宙の歴史は約138億年、地球の歴史は約46億年、人類の歴史は約700万年といわれています。想像を絶する長い時間の流れの中で人間は、制度、慣習、文化、思想などを形成し変化させています。その一つの現象が「現代社会」でもあります。本授業では、現代社会を多角的な視点から学習します。

達成目標

現代社会を多角的視点から考える訓練の中で、「表面的な現象」を観察しながら「真実や本質」を見抜く思考力を身に付けることを達成目標とする。

授業計画

- 第1回 宇宙史からの現代社会の考察
- 第2回 地球史からの現代社会の考察
- 第3回 人類史からの現代社会の考察
- 第4回 過去・現在・未来という時間の流れからの現代社会分析の手法
- 第5回 社会の中の「制度・慣習・文化・思想」
- 第6回 国際政治
- 第7回 国際経済
- 第8回 グローバリゼーション
- 第9回 テクノロジーの未来
- 第10回 国内政治
- 第11回 国内経済
- 第12回 国内人口構造と社会の激変
- 第13回 社会の変化とライフスタイルの変化
- 第14回 自由とライフスタイル超多様性の関係
- 第15回 まとめ

学生に対する成績評価基準

レポート提出、期末試験、授業への受講態度・意欲をもとに評価します。

テキスト

毎回講義プリントを配付します。

参考書・参考資料等

浅川公紀『国際政治の構造と展開』武蔵野大学出版会2014年

履修希望者への要望・事前準備

講義に参加する上での基本的なマナー、礼儀礼節をお願いします。遅刻や無断欠席はしないこと。授業はつねに深く考えながら参加し、質問、意見を活発に述べて下さい。

社会起業

2・3・4 学年 前期 選択 講義 2 単位
中嶋敏夫

授業の概要およびテーマ

本講義は、社会起業の「理論」及び「実務」の習得を通じて、起業の実際を学んでもらおうとするものであり、起業にまつわる「基礎知識」をはじめ、「事例研究」をベースとして受講生の活発な議論を通して起業及び事業化の実践を学び、起業に関する知識及びノウハウの蓄積を図ることにより、起業実践力を高めることを目的としている。

達成目標

起業にまつわる「基礎知識」を習得し、具体的な事例を基に実際にビジネスプランを作成し、起業に対する意欲とチャレンジ精神を養う。

授業計画

1. 「社会起業の概要と現状」
社会起業の意義及び現状の起業実態についての講義を行なう。
2. 「起業とは」
起業の流れと起業後のポイントについて講義を行なう。
3. 「ビジネスモデルの構築」
ビジネスモデル構築のポイントについて、具体的な事例を交えて講義を行なう。
4. 「ビジネスアイディアとビジネスチャンス」
ビジネスアイディアの捉え方と市場性について講義を行なう。
5. 「事業コンセプトとマーケティング」
顧客の捉え方・市場調査を中心に販売戦略の知識と事業コンセプトについて講義を行なう。
6. 「21世紀に売れるモノ」
売れる理由を具体的な事例を挙げて検討する。
7. 「ビジネスプラン策定のポイント」
実際にビジネスプランを策定する際に必要な知識とポイントについて講義を行なう。
8. 「損益計画」
損益（収支）計画策定の仕方について講義を行ない、具体的に策定してみることでその方法を学ぶ。
9. 「資金繰り計画」
資金繰り計画策定の仕方について講義を行ない、具体的に策定してみることでその方法を学ぶ。
10. 「資金調達について」
資金調達（直接金融と間接金融）の方法及び調達の時期・金額について講義を行なう。
11. 「資本政策の策定」
資本政策策定の目的・必要性について講義を行なう。
12. 「会計の基礎知識」
P/L・B/S等起業に際して必要な会計の基礎知識についての講義を行なう。
13. 「起業に際しての注意点及び支援策について」
起業する際に注意すべき点と起業支援策・支援機関について講義を行なう。
14. 「ビジネスプランの策定」
現在若しくは将来考えているビジネスプランを実際に策定し、自ら検証し精度を高める。
15. 「ビジネスプランの発表」
実際に自ら策定したプランを発表し、その評価ポイントを学び、プレゼンテーションを行なって客観的な評価を受ける。

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が70%を下回る場合は単位を与えません。

成績は、課題提出（ビジネスプランの策定）が70%、授業の受講態度・意欲が30%とします。

テキスト

授業内で配付します。別途必要な場合は、適宜指示します。

用具

後半の授業で電卓を必要としますので、事前に指示します。

履修希望者への要望・事前準備

卒業後直ぐに独立・起業するということは少ないと思いますが、講義の内容を理解した上で、組織に属して経営者の計画・方向性を理解し仕事に取り組めば、将来経営に参画することも考えられますし、企業内起業という道も開けてきます。また、作家を目指している方においても、これからの時代は作品を通して糧を得るためには、事業主としての経営マインドを持たねばならず、人・モノ・金・情報・時間といった事業を成立させるための算段を知っておく必要があります。

何れにしても、自分が経営側として又、将来自分が自立して起業し代表者になるという気概を持ち、必ずや将来役に立つ時が来るという気持ちで受講してください。

11-2 専門教育科目〔学部共通〕

基礎造形実習Ⅰ（描写）

1 学年 前期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

描写は全ての造形活動の根幹となる行為であり、自らの手で線を引くところから創作がスタートします。授業では描写（デッサン）の目的と基本となる概念・用具の知識から使用法まで理解します。また課題では基本的形態（モチーフ）を観察・描写することにより「形・構図・明暗・色彩・質感・空間」を含む「画面」の意味を認識し、観察と空間把握力の基本を修得します。各課題を経験することで絵画的表現のみならず広く造形分野で必要となる図画力、形と空間（パースペクティブ）に対する観察力と考察力の基盤を養います。また、人体という普遍的なテーマを理解するために、実際の人体の持つプロポーション・量感・骨格・筋肉・皮膚の動きに着目し、クロッキーからデッサン等による作品制作を通じて、画面における線・面・量・色彩の描写表現と「人体の構造と美」について理解できるようにします。素材・技法としては、画用紙に鉛筆で描写、透明水彩その他の画材で着色による表現を行います。各課題は、「静物・着色」「ヌードデッサン」とし、課題毎の初回授業の1限目に講義形式で課題目的・技法を説明し、その後モチーフを使用した課題作品の制作を行います。

達成目標

- ・造形制作の基となる能動的集中力・持続力を持ち、講義と指導内容を理解し質疑応答ができる。
- ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。
- ・描写（デッサン）における構図・構成を理解し、正しい形態の比率やパースペクティブ、明暗の階調、質感をとらえ、積極的に制作できる。
- ・人体の骨・筋構造を理解しプロポーション、比率を正確にとる事ができ正しい構図を得ることができる。
- ・観察から得られる量感、質感、動きを認識し的確に描写できる。
- ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。
- ・観察し描くことを繰り返すことにより、各自の問題点を認識し、正しい方向へ修正し、成果を上げることができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス／「静物着色」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第2回 「静物着色」作品制作1
第3回 「静物着色」作品制作2
第4回 「静物着色」作品制作3
第5回 「静物着色」／講評会
第6回 「静物着色」／レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第7回 「静物着色」作品制作1
第8回 「静物着色」作品制作2
第9回 「静物着色」作品制作3
第10回 「静物着色」／講評会／次課題説明
第11回 「人体描写」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第12回 「人体描写」作品制作1
第13回 「人体描写」作品制作2
第14回 「人体描写」作品制作3
第15回 「人体描写」／講評会／次課題説明
＊授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
・受講、制作の準備ができていた。
・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
・適切な質疑応答ができた。
・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
②成果物（作品）の内容（50％）
・課題の条件を満たしている。
・指導を成果に生かすことができた。
・十分な考察と制作をした。
・プレゼンテーション
以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）
また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。

用具

描写用具等一式他。詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力（描写）は、今後の大学での制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力を持っていても基礎的な造形力がなければ具体的な表現成果につながりません。また目的に必要な形に含まれる線を描く力と空間を把握する力、多くの描線や形の中から洗練された一つを選択する能力は造形に関わる全ての分野に必要な不可欠となります。また、経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的に、諦めのない最後までしっかりと取り組む修得してください。

基礎造形実習Ⅰ（造形）

1 学年 前期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

この授業では造形の要素となる「形」を幾何形態や色による立体表現の課題により理解します。
幾何形体の分割構成は、想定する基本的形態を的確に把握し表現します。またそれを分割する際の整合性を考えます。立体物を2次元の画面上で空間構成し、正確なパースペクティブを習得し、魅力的な空間構成を目指します。
彩色による立体表現では、基本的な立体を様々な色変換により視覚表現として空間と立体の関係を試し、グレースケールと同一色相、類似色相によって理解します。

達成目標

- ・造形制作の基となる能動的集中力・持続力を持ち、講義と指導内容を理解し質疑応答ができる。
- ・授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。
- ・描写における構図・構成を理解し、正しい形態の比率やパースペクティブ、明暗の階調、質感をとらえ、積極的に制作できる。
- ・色彩の基礎（三属性の理解）をベースに、モノクロから色相の相関性を理解し、目的に沿った効果的な配色を考え制作できる。
- ・画材を適切に扱うことができ美しい画面を完成させることができる。
- ・制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス／「基本形態：立方体」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第2回 「基本形態：立方体」作品制作1
第3回 「基本形態：立方体」作品制作2
第4回 「基本形態：立方体」作品制作3
第5回 「基本形態：立方体」／講評会
第6回 「基本形態：楕円」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第7回 「基本形態：楕円」作品制作1
第8回 「基本形態：楕円」作品制作2
第9回 「基本形態：楕円」作品制作3
第10回 「基本形態：楕円」／講評会／次課題説明
第11回 「混色：立方体」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第12回 「混色：立方体」作品制作1
第13回 「混色：立方体」作品制作2
第14回 「混色：立方体」作品制作3
第15回 「混色：立方体」／講評会／次課題説明
＊授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
・受講、制作の準備ができていた。
・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
・適切な質疑応答ができた。
・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
②成果物（作品）の内容（50％）
・課題の条件を満たしている。
・指導を成果に生かすことができた。
・十分な考察と制作をした。
・プレゼンテーション
以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）
また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。
PCCSハーモニックカラーチャート201-L 日本色研事業株式会社 1,575円
新配色カード199C 日本色研事業株式会社 2,625円

用具

授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力（造形）は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力を持っていても裏付けとなる経験や理由、基礎的な造形力がなければ具体的な結果につながりません。各課題のそれぞれの問題に対して性質や構造を理解できるよう繰り返し考え、その上で教員に質問してください。造形することの意味を考えながら粘り強く制作することで各自に必要な本質的な能力を習得できます。経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的に、しっかりと取り組んでください。

基礎造形実習Ⅰ（素形材）
1 学年 前期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

工芸の基本である「手」による素材と技法の実際を習得し、「道具」を使用した制作を行うことで実材造形での基本的な工作原理を養います。グライダー課題では、木を素材とした「ハンド・ランチ・グライダー」を制作します。授業では図面の見方、設計図から完成までの工程を理解し、道具の正しい取り扱いと加工の原理を習得します。これにより素材が目的とする形へと転換する過程を学び、その構造における機能的要素に対する理解を深めます。幾何形体の分割構成は、想定する基本的形態を的確に把握し表現します。またそれを分割する際の整合性を考えます。立体物を2次元の画面上で空間構成し、正確なパースペクティブを習得し、魅力的な空間構成を目指します。紙による立体表現では、素材の扱いから面材の扱い、接合や空間との関係等を意識して美しい立体構成を目指します。

達成目標

- グライダー課題
 - 図面を読み取ることができ、平面から立体への展開や完成までの正しい工程を理解し実践できる。
 - 作業での素材の取り扱いや各工程での道具の使用方法が安全かつ適切に行う事ができる。
 - 制作・組み立てにおいて微細で正確な作業ができ、機能を伴う完成度の高い成果物ができる。
 - 指導に際して能動的な質疑応答ができる。
- 幾何分割課題
 - 想定による立体構成・スケッチへ描写表現ができる。
 - スケッチにて幾何形体を想定し、空間的に構成を考えられる。
 - 描く幾何形体を正確に理解することで、描写し、分割した場合の形状を細部に至るまで適切に表現できる。
 - 与えられた条件内で美しい構成による画面制作をする。
- 紙立体課題
 - 立体における素材形状の「面材」を利用し、構成的且つ構造的な美しいフォルムを見つけ出し、紙による立体として制作することができる。
 - スケジュール管理をし、期日までに作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- グライダー課題
- 第1回 課題説明：レクチャー／作業ポイント／制作（主翼）
 - 第2回 制作（水平・垂直尾翼、胴体部）
 - 第3回 制作（機体の組立）
 - 第4回 塗装 錘によるバランス確認
 - 第5回 講評／作品提出 ・飛行／次回課題説明
- 幾何分割課題
- 第6回 課題説明／制作ポイント／アイデアスケッチ
 - 第7回 アイデアチェック／制作
 - 第8回 制作
 - 第9回 制作
 - 第10回 作品提出／講評／次回課題説明
- 紙立体課題
- 第11回 課題説明：レクチャー／課題ポイント／ アイデアスケッチ
 - 第12回 アイデアスケッチ～チェック～制作
 - 第13回 制作
 - 第14回 制作
 - 第15回 作品提出／講評／次回課題説明
- *授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
- ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・適切な質疑応答ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（50％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション
- 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。

用具

詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。なお立体制作には各自1,000円程度の材料費が必要となります。

履修希望者への要望・事前準備

素材と用具の正しい取り扱い方法、材料加工と作業の意味、色彩による構成・空間的表現の基礎を学びます。様々な課題がもつ目的をよく理解し、伴う表現方法を習得し造形センス・感性を伸ばして欲しい。必要な材料・用具の準備を忘れないようにしてください。

基礎造形実習Ⅰ（デザイン）
1 学年 前期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

コンピューターの発達により現代は、マウスとキーボードの操作を覚えさえすれば、全くデザインの学習をしていなくとも大抵の事は出来てしまう世の中となった。しかしこのような時代であればこそ、デザインの専門家を目指す者にとって必要不可欠なのは、実際に手を使って線や形を描くことや色を作って塗ることである。これら造形の基礎から学ぶべき事柄は非常に多い。平面デザインを学ぶ上で必要不可欠な平面造形の基礎、並びに色彩や画面構成に関する基本的技術を学習する。

達成目標

- 課題文に書かれた内容を正確に読み取り、作品制作に臨むことができる。
- 授業毎の画材用具を用意でき、特徴と使用法を理解し、必要に応じ適切に扱うことができる。
- 美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることができる。
- 色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。
- 制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス／「トーン別色相チャート」：レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
 - 第2回 「トーン別色相チャート」作品制作：高彩度
 - 第3回 「トーン別色相チャート」作品制作：中彩度
 - 第4回 「トーン別色相チャート」作品制作：低彩度
 - 第5回 「トーン別色相チャート」／修正・講評会
 - 第6回 「色彩構成／幾何」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
 - 第7回 「色彩構成／幾何」色相対比、彩度対比の把握
 - 第8回 「色彩構成／幾何」有彩色によるシンプルな画面構成の制作
 - 第9回 「色彩構成／幾何」画面構成の把握と修正
 - 第10回 「色彩構成／幾何」／講評会／次課題説明
 - 第11回 「色彩構成／イメージ」：レクチャー／アイデア検討
 - 第12回 「色彩構成／イメージ」：アイデアチェック、作品制作
 - 第13回 「色彩構成／イメージ」作品制作2
 - 第14回 「色彩構成／イメージ」作品制作3
 - 第15回 「色彩構成／イメージ」／講評会／次課題説明
- *授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
- ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・適切な質疑応答ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（50％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション
- 以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。PCCSハーモニックカラーチャート201-L 日本色研事業株式会社 1,575円
新配色カード199C 日本色研事業株式会社 2,625円

用具

詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

社会的マナーを身につけることも学習であるので、作品の提出や出席についても厳しく指導をする。加えて特に締め切りは守るように最善の努力を図る。そのためにはスケジュール管理を学ぶことが必須である。

基礎造形実習Ⅰ（複合造形）
1 学年 前期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

現代での幅広い創造分野で表現活動を行うためには、確かな表現力に伴う素材・用具の扱いまでを知る事が不可欠です。複合造形の授業ではその基本となる幾何形体の平面的理解から立体的理解に至るプロセスを実際に経験することから始めます。この授業では、素材を用いて作品制作するうえで必要な基本的な用具・道具（鉛筆、消しゴム、ペン、定規、カッター、接着剤等）について初歩的な使用法をマスターします。また同時に1mm以下の単位で制作することで、各自が制作過程の作法・集中力と成果物（完成作品）のクオリティに対して客観的評価ができる観察力を養います。これらは今後のあらゆる実習における創作に対応する観察力の修得の基盤になるものです。また、平面作品における基本的作法の習得および前期・基礎造形実習Ⅰ各授業にて習得し培った成果を確認し、自己検証をするためのコンクール形式の作品制作を行うものです。これにより限られた時間内でのスケジュール・制作工程を各自が計画し高い完成度の作品制作を目指します。

達成目標

- 授業、課題の意図、材料・用具の名称、使用法を認識し作業工程を理解・実践できる。
- 1mm以下の誤差を確認修正でき、作業を正しい作法により行うことができる。
- 展開図において正確な寸法取りで作図できる。
- 定規・カッターの正確な扱いにより綺麗に切断ができる。
- 接合部の辺の調整が適切にでき綺麗に接合できる。
- 完成物の正確さ、美しさが理解できる。
- 美しい線が引ける、正確な作図が出来る、ムラなく色を塗れるなど、精緻かつ丁寧な作業をすることが出来る。
- 色彩の基礎を理解し、その知識を用いて作品制作ができる。
- 授業で経験し修得したことを基盤に設定された時間内で十分に課題の意図に応えることができる。
- 与えられたテーマを、習得してきた構成力、色彩計画による画面を自らの狙いの上に適切に実践することができる。
- 制作時の各段階において指導される内容を理解し、正しく記録を取ることができる。

授業計画

- 第1回 授業ガイダンス／課題説明／「幾何立体」制作
第2回 「幾何立体」制作
第3回 「幾何立体」制作
第4回 「幾何立体」制作
第5回 「幾何立体」講評／パネル水張り
第6回 「線・面・多角形」レクチャー／課題ポイント・素材・技法等の説明
第7回 「線・面・多角形」制作
第8回 「線・面・多角形」制作
第9回 「線・面・多角形」制作
第10回 「線・面・多角形」講評会／次課題説明
第11回 色彩構成課題／制作
第12回 課題制作
第13回 課題制作
第14回 講評会1
第15回 講評会2
＊授業進度により若干のスケジュール調整が入ります。また、授業時間外での制作を推奨します。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
・受講、制作の準備ができていた。
・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
・適切な質疑応答ができた。
・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
②成果物（作品）の内容（50％）
・課題の条件を満たしている。
・指導を成果に生かすことができた。
・十分な考察と制作をした。
・プレゼンテーション

以上の①、②を合わせた評価から総合的に判断する。また、欠席／遅刻の回数、成果物の提出締め切り超過や未提出を点数換算し、評価から減点することもある。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは課題を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用するので必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルインダーの購入と持参を求めます。）
また、大学図書館、書店などに課題や基礎造形系（描写、平面、立体等）に関する技法書等が多数ありますので目を通しておくことを薦めます。
PCCSハーモニックカラーチャート201-L 日本色研事業株式会社 1,575円
新配色カード199C 日本色研事業株式会社 2,625円

用具

詳細は授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

初回の授業から受講生への伝達事項が多いので必ず大学指定のバインダーノートを持参のこと。また各授業では配付プリント、用具等を忘れないよう注意してください。作業が出来ない場合があります授業における作品制作の遅れる原因になります。

デザイン概論
1 学年 前期 必修 講義 2 単位
和田 裕

授業の概要およびテーマ

デザインの専門教育研究機関として設立された長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解し、デザインの発祥から始まり、現在に至るまでの役割の変化、活動領域、デザインワークの実態等を通し、これからのデザインに求められる理念、知識、技術の概要を把握することにより、長岡造形大学におけるデザイン修学の心構えを養う。

達成目標

長岡造形大学が意図する「デザイン教育・研究の理念」を理解できている。
デザインの発祥から現在に至る道程を理解できている。
他造形領域とデザインの違いを明確に把握している。
デザインの専門領域毎の特性を理解できている。
経営資源としてのデザインの役割を理解できている。
デザイナーとして獲得すべき資質について認識できている。
将来の社会においてデザインの果たす役割を想定できている。
自らの将来を想定し本学で何を学ぶべきかの指針を持ち得ている。

授業計画

- 1）長岡造形大学の理念
- 2）デザインの発祥と軌跡－1
- 3）デザインの発祥と軌跡－2
- 4）造形領域概要
- 5）美術と工芸
- 6）空間に関わるデザイン
- 7）立体に関わるデザイン
- 8）情報に関わるデザイン
- 9）デザイナーの就労形態
- 10）デザイナーの特質
- 11）経営資源としてのデザイン
- 12）ブランディングに関わるデザイン
- 13）デザイナーの倫理
- 14）デザイン＝革新と創造
- 15）デザインワード&感性

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が80％を下回る場合は単位を与えない。
毎回提出するミニレポートにて理解度を評価する。
レポート未提出、欠席、遅刻、受講姿勢悪しき場合は減点対象とする。

テキスト

必要に応じ授業当日にプリントを配付。

参考書・参考資料等

必要に応じ配付プリントに参考図書を明示。

履修希望者への要望・事前準備

この講義を受講していくにつれ、受講生各自が抱いていたデザインへの認識が変化すると思います。
新たな認識の下、以降のデザインに向かう姿勢を再確認し、もし将来設計を変更するようであれば、興味を抱いた領域、内容に付き更に深い認識が持てるよう各自で補習し、2学年からの履修計画立案の参考にして下さい。
予習は、次回の授業計画のテーマにつき自分なりの見識を持つことです。
復習は、興味を抱いた点、疑問を抱いた点など自らが深く掘り下げることです。
されば学生諸君の未来に生じるかもしれないミスマッチを回避できるでしょう。

色彩学

1 学年 後期 必修 講義 2 単位
三井直樹

授業の概要およびテーマ

本講義は、あらゆる制作現場で必要となる色彩感覚を磨き、感性を高めるための基本原理を学ぶ。まず、アートやデザインに応用できる色彩学の体系を学習し、そのうえで実用的な配色法とデザインテクニックを習得する。また、実践的に色彩を活用するための造形の秩序、プロポーションやテクスチュアなどのかかわりも合わせて論ずる。DTPやモーショングラフィックス等でも活用できるCMYK、RGBのデジタルカラー理論とその配色方法を解説する。多彩なビジュアル資料を併用しながら授業展開をしていく。

達成目標

本科目を履修した学生は、色彩学の意義、色彩理論を理解しながら、色彩に対する感性を磨くことができる。また、実践的な作品制作での配色や作品鑑賞において色彩調和理論を活用することができる。

授業計画

- 01 色彩と造形：オリエンテーション（色とかたち）
- 02 色彩理論01：色彩の原理と混色
- 03 色彩理論02：色の表し方（マンセルシステムとPCCS）
- 04 色彩理論03：色の知覚と色彩心理
- 05 色彩調和01：配色の基本と色彩調和論
- 06 色彩調和02：色の表示方法
- 07 色彩調和03：同一調和、類似調和、対比調和
- 08 色彩調和04：連続多色、ハイキー・ローキー、無彩色
- 09 色彩調和05：トーン、マルチカラー、グラデーション
- 10 配色とデザイン01：明度差、面積比、基調色、アクセント
- 11 配色とデザイン02：テクスチュアと色彩
- 12 配色とデザイン03：アート&デザインにおける色彩の役割
- 13 色彩と造形01：近現代の美術作品、デザインに見る色彩調和
- 14 色彩と造形02：映像と色光
- 15 総括：理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位取得はできません。「理解度の確認とまとめ」（100%）を基本として評価します。

テキスト

三井直樹、三井秀樹『色彩デザイン学』六耀社、2,800円（本体）

参考書・参考資料等

千々岩 英彰『色彩学概説』東京大学出版会、3,200円（本体）
ヨハネス・イッテン『色彩論』美術出版社、3,500円（本体）
三井秀樹『新構成学』六耀社、5,200円（本体）
『色彩用語事典』東京大学出版会、15,000円（本体）
『ハンディクラフトのデザイン学』3,800円（本体）

履修希望者への要望・事前準備

色彩学とは配色のデザイン学です。色彩理論の理解とともに、色を見分ける感性を養って下さい。本講義を基礎にして、各自の作品制作に還元できることが肝要です。履修条件は特にありませんが、色彩センスを会得したいというモチベーションが不可欠です。授業内で指示のあった教科書の部分については、必ず通読し、復習して下さい。

クロス実習（プロダクトA）

2・3・4 学年 前期 選択 実習 1 単位
境野広志

授業の概要およびテーマ

身近な商品をテーマとして、調査～コンセプト～造形検討～プレゼンテーションまでのプロダクトデザインの基本的なプロセスを体験する。デザイナーの実務はボーダーレスな業務が多いので他の専攻の学生であってもプロダクトデザインのプロセスを概観することはメリットが多い。またこのプロセスは社会活動の多くの場面で有用として近年注目を集めているデザインシンキングの方法論でもある。

達成目標

- ・プロダクトデザインの基本的なプロセスを理解すること。
- ・デザイナーの共通的思考方法を体得すること。
- ・自らの専門領域において役立つようなスキルを身につけること。

授業計画

- 原則二コマ連続で全8回とする。詳細はガイダンス時に説明する。
- 01：ガイダンス、テーマ説明、プロダクトデザインのプロセス説明
 - 02～03：調査
 - 04～05：ブレンストーミング
 - 06～07：コンセプト立案、アイデアスケッチ
 - 08～09：モックアップモデル作成
 - 10～11：ハードモデル制作
 - 12～13：塗装仕上げ
 - 14～15：プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

基本的な知識の習得度合及び作品で80%、履修態度を20%として評価する。原則、欠席は5点、遅刻は3点減点する。また3回欠席した時点で受講を放棄したものとみなす。

出席・遅刻の基準

原則、遅刻は一コマ目の授業開始後20分までとする。

テキスト

必要な資料については授業内で配付する。

参考書・参考資料等

適宜、指示する。

用具

モデル制作用のカッター、定規等。消耗品代として2000～3000円必要。

履修希望者への要望・事前準備

商品企画やプロダクトデザインに関心がある学生には広く受講を勧めるが、作業はかなり多いので中途半端な意識では臨まないこと。約15人を定員とし、希望が多数の場合はレポートで選定する。またグループディスカッションが成立しない人数（3人以下）の場合は本授業は開講しない。

クロス実習（プロダクトB）

2・3・4学年 後期 選択 実習 1単位
土田知也

授業の概要およびテーマ

3DCGの基本的なオペレーションの習得を目的とする。CGソフトは製品デザインの現場でもっともよく使われているソフトの一つであるRhonocerosを使う。受講人数は20人を上限とする。3DCG系の科目が用意されていない視覚の学生を優先し、視覚の学生の中でも、成績上位のものを優先する。

達成目標

- ・操作方法を確実にマスターすること。
- ・課題で提供されるモデルを完璧に作り上げること。
- ・自らの課題制作に役立つようなスキルを身につけること。

授業計画

- 01：ガイダンス及びインターフェース
 - 02：数値入力、直線、円・円弧、幾何変換
 - 03：編集、自由曲線
 - 04：サーフェース1
 - 05：サーフェース2
 - 06：ソリッド
 - 07：レンダリング
 - 08：ソリッドの変形
 - 09：ブレンド
 - 10：ルールスイープの応用
 - 11：ネットワークサーフェース1
 - 12：ネットワークサーフェース2
 - 13：自由制作課題
 - 14：自由制作課題
 - 15：自由制作課題
- * 詳細な開講日はガイダンスで発表する。

学生に対する成績評価基準

課題の総合点から欠席、遅刻点を減ずる。ただし、2/3以上の出席が単位取得の必要条件となる。

テキスト

毎回の授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

「Rhonoceros入門」は枝靖久著 ラトルズ 3,800円
* 図書館に蔵書あり。
<http://www.rhino3d.co.jp/>

履修希望者への要望・事前準備

Rhinoはコマンドの数が多くそれほど優しいソフトではない。3Dソフトをマスターしたいというそれなりの意思を持って臨むこと。なお、最低開講人数を10名とする。

クロス実習（視覚A）

2・3・4学年 前期 選択 実習 1単位
◎真壁 友、阿部充夫

授業の概要およびテーマ

写真とプロトタイピング2つのテーマについて扱います。
写真ではデジタル一眼レフの使い方、映像スタジオの機材を使い撮影方法を学びます。
プロトタイピングではArduinoの基本的な使い方、モーターで動くモデルを作成するための基本技術について学びます。

達成目標

写真
デジタル一眼レフカメラの基本的な使い方を理解し、映像スタジオで機材を使い撮影できる
プロトタイピング
Arduinoの基本的な使い方を習得する。
3Dプリンタを使って構造部品を出力して動くモデルを組み立てる。

授業計画

- 1 回2コマで実施予定
- 1 デジタル一眼レフカメラの基本操作
- 2 スタジオ機材の使い方基礎
- 3 物撮りの基礎
- 4 人物撮影の基礎
- 5 Arduinoの基本
- 6 モーターについて
- 7 制作
- 8 制作

学生に対する成績評価基準

写真とプロトタイピングの2つを総合して評価を決めます。

用具

プロトタイピングについて：
ノートパソコン（winでもmacでも可）
Arduino UNO
モーター、モータードライバ一式
{<https://strawberry-linux.com/catalog/items?code=12026>}
{<https://strawberry-linux.com/catalog/items?code=12023>}
{<https://strawberry-linux.com/catalog/items?code=90009>}
{<http://akizukidenshi.com/catalog/g/gM-01804/>}

履修希望者への要望・事前準備

プロトタイピングについて：
CADの基本操作ができることが望ましい。
CADができない場合は自習で習得してください。
定員：10名

クロス実習（視覚B）

2・3・4学年 後期 選択 実習 1単位
◎金 牟洙、天野 誠

授業の概要およびテーマ

- ・シンボルマーク
シンボルマークは、会社、団体、家系などを象徴する意匠である。この演習ではシンボルマークを理解するための歴史と文化について学ぶ。また課題として実際にAdobe Illustratorを使ってシンボルを制作し基本的なプロセスを体験する。
- ・タイポグラフィ
Adobe InDesignを使ってデジタル文字組版の実践的なトレーニングを行う。

達成目標

- ・シンボルマーク
シンボルマークの基礎知識とデザイン制作を習得していく。
- ・タイポグラフィ
Adobe InDesignのオペレーションと文字組版の基本の習得。

授業計画

- (01) ガイダンス（1コマ）
- (02) シンボルマーク 1回目：シンボルマークの基礎（2コマ）
- (03) シンボルマーク 2回目：シンボルマークの事例分析1／課題による実習（2コマ）
- (04) シンボルマーク 3回目：シンボルマークの事例分析2／課題による実習（2コマ）
- (05) シンボルマーク 4回目：講評／質疑応答（1コマ）
- (06) タイポグラフィ 1回目：組版の基本とオペレーション（2コマ）
- (07) タイポグラフィ 2回目：オペレーション（2コマ）
- (08) タイポグラフィ 3回目：オペレーション（2コマ）
- (09) タイポグラフィ 4回目：講評／質疑応答（1コマ）

学生に対する成績評価基準

- ・シンボルマーク
提出課題作品80%、授業参加態度・制作姿勢20%とする。
課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点する。
- ・タイポグラフィ
制作物（作品）に対する評価を80%、受講態度に対する評価を20%とする。
成果物の評価段階は次の基準に従う。
B評価：文字組に関する最小限の知識と技術を理解することができた。
A評価：文字情報を正確に紙面に再現することができた。
S評価：作品としても完成度が高いもの。

テキスト

必要に応じて適宜指示。

参考書・参考資料等

- ・シンボルマーク
特になし
- ・タイポグラフィ
『デザイン解体新書』工藤強勝・著/ワークスコーポレーション/2,500円
その他の参考書は必要に応じて適宜指示する。

用具

- ・シンボルマーク
Adobe Illustrator、Photoshopがインストールされているノートパソコン、
アイデアスケッチが出来る用具一式（A4紙或いはスケッチブック、各種鉛筆・ペンなど）
- ・タイポグラフィ
Adobe InDesignがインストールされているノートパソコン

履修希望者への要望・事前準備

受講条件として指定の用具を持っていること。定員は10名。

クロス実習（美・工A）

2・3・4学年 前期 選択 実習 1単位
石原 宏

授業の概要およびテーマ

本学での美術領域である絵画、版画、彫刻、西洋美術史分野の実践的授業を通して、美術造形領域を俯瞰的に考察することの一助とします。美術表現といっても、その実際は多岐に及び、専門的表現手法は限られた設備と環境でなければ体験することができません。また、西洋美術史の中に位置づけられる絵画に描かれている建築物の、歴史的な意味の検証を行うプログラムもあります。本授業を領域横断的カリキュラムの一つとして位置付け、当該分野の専門的内容の一端に触れ、視野を広げ今後の自身の創作活動へのヒントとする事を目的とします。少ない時間ですが、専門的な手法や歴史研究の一端を経験することが可能です。
本授業内でのプログラムは、年度によって開講しない年があります。本年度の開講するプログラムは、「絵の中の建築の描写」の1講座です。
なお、授業は実習1単位＝7回授業となります。

達成目標

- ・透視図法の歴史と技術を習得出来る。
- ・西洋建築史の一端を理解出来る。

授業計画

- ・授業は年度によって計画される内容が異なります。
 - ・本年度は前期に開講し、内容は1講座「絵の中の建築の描写」を行います。
 - ・開講する領域での履修人数は、設備等により定員制となりますので注意してください。
 - ・開講内容によっては持参用具、材料費等が必要となる場合があります。
 - ・実習は、集中授業となる場合があります。（原則は2コマ連続）
- 【絵の中の建築の描写】
この授業で扱うのは、画中建築である。画中建築とは絵に描かれた建築のことである。その歴史は古く古代ギリシアの文献に記述がある。ギリシア悲劇の舞台装置（スケノグラフィー skenographie）である。授業では古代から中世、ルネサンス、バロック時代の画中建築の歴史を学び、また遠近法を使って実際に画中建築を描写する。
- 01 ガイダンス、古代の画中建築
 - 02 ゴシック時代の壁画、装飾写本、ルネサンス時代
 - 03 バロック時代、特異な画家たち
 - 04～07 絵画のモチーフとしての建築の描写
 - 08 講評、レポート作成

学生に対する成績評価基準

授業参加態度・制作姿勢30%、提出作品等の内容70%
なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点する。

参考書・参考資料等

適宜指示する

用具

【絵の中の建築の描写】
クロッキー帳、アイデアスケッチ、描写用具（水彩、油彩等々）
その他の物品に関しては、適宜指示いたします。

履修希望者への要望・事前準備

【絵の中の建築の描写】
絵の描写の能力は問わないが、歴史特に美術史に興味があること。

クロス実習（美・工B）

2・3・4学年 後期 選択 実習 1単位
◎菅野 靖、手銭吾郎

授業の概要およびテーマ

本学での工芸領域である金属工芸（鍛金、鋳金、彫金）各分野の実践的授業の実際を通して、デザイン造形領域を俯瞰的考察することの一助とします。

工芸と言っても、その実際は多岐に及び専門的表現手法は限られた設備と環境でなければ経験することができません。本授業では、本学の領域を横断的カリキュラムの一つとして位置付け、当該分野の専門的内容の一端に触れ、視野を広げ今後の創作活動へのヒントになる事を目的とします。

少ない時間ですが専門的な手法の一端を経験することが可能です。

達成目標

各領域の専門的表現技法、素材の扱い方法、加工方法などを経験します。

- ・各自のコンセプトを立案し完成まで制作をおこなう事ができる。
- ・表現に必要な素材を理解し、それに伴う技法の理解ができる。
- ・制作上のプロセスを理解、正しく実践できる。
- ・工房での安全な制作・加工方法を実践できる。
- ・工芸の実際を理解することができる。

授業計画

*年度によって計画される内容が異なります。今年度の開講は〈彫金〉と〈鍛金〉です。また、開講は時間割に則りますが、詳細は初回ガイダンス時に説明します。（原則は2コマ連続）

〈彫金〉

彫金・ジュエリーにおいて最も基本的な加工法とデザインを経験する目的でシルバーリングの制作を行います。銀素材の溶解に始まり、切削から磨り出し、研磨仕上げ（完成）といった素材づくりからフィニッシュワーク迄の全てを受講者自身で行います。また、加工法の制約を理解し、デザインを考える事も重要な目的です。：定員4名

01：ガイダンス

02：アイデア決定→3面図（2倍サイズ）

03：銀素材溶解→成形

04：糸鋸による切断加工

05：ヤスリによる摺出し加工

06：ヤスリによる摺出し加工

07：研磨仕上げ

08：講評（作品撮影）

〈鍛金〉

鍛造技法による「スツール」の制作：定員5名

01：ガイダンス

02：アイデア検討

03：アイデア決定、材料取り

04：鍛造によるパーツの制作

05：鍛造及びパーツの接合（溶接等）

06：接合及び天板制作

07：調整及び仕上げ（塗装）

08：講評

学生に対する成績評価基準

受講態度および理解度・制作姿勢60%、成果物の内容40%。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

持参用具などは、初回ガイダンスやパレットで通知する。

履修希望者への要望・事前準備

〈彫金〉と〈鍛金〉のどちらかを選択する授業ですが、設備や場所の関係から履修人数は上記定員となります。定員を超えた場合は抽選とします。また、材料費が各々3,000円程度かかります。

クロス実習（建築・環境A）

2・3・4学年 前期 選択 実習 1単位
◎小川峰夫、江尻憲泰、山下秀之（建築系A-1）
◎小川総一郎、菅原 浩、福本 壘、渡辺誠介（ランドスケープ・まちづくり系A-2）

授業の概要およびテーマ

前期の前半は建築系、後半はランドスケープ・まちづくり系の教員が提示したそれぞれの課題について、見学や制作を行う。

達成目標

建築・環境デザイン学科以外の学生が、空間デザイン分野の基礎的な演習や実習を体験し、空間造形を理解し、自らの専門領域の糧にすること。

授業計画

01. ガイダンス

02～08. 建築

09～15. ランドスケープ・まちづくり

学生に対する成績評価基準

各教員（グループ毎）による。

履修希望者への要望・事前準備

空間系に興味がある学生のための授業です。

多少専門的になりますが、遅刻せずに出席してください。

クロス実習（建築・環境B）

2・3・4学年 後期 選択 実習 1単位
◎津村泰範、平山育男（保存系B－1）
◎森 望、川口とし子（インテリア系B－2）

授業の概要およびテーマ

後期の前半は保存系、後半はインテリア系。保存系では解説後に建物や街並みを見学してレポートをまとめる。17年度は群馬県の富岡製糸場、長岡市摂田屋などを見学。インテリア系は住宅の居間・食堂のレイアウトやコーディネートを行う。空間イメージを決め、家具や材料、カーテンや小物などを決めて、空間の中にコーディネートする。

達成目標

建築・環境デザイン学科以外の学生のために、建築・環境デザインの範疇を知り、見学や課題により空間系のデザインを学び、提案できるようにすること。

授業計画

- 1：ガイダンス
- 2：解説
- 3,4：歴史的建造物の見学・実習
- 5：解説
- 6,7：歴史的建造物の見学・実習
- 8：成果発表
- 9：課題説明
- 10：空間イメージ決定
- 11：家具などの選択
- 12：配置、色彩構成
- 13,14：エスキースチェック
- 15：発表

学生に対する成績評価基準

各教員による。

履修希望者への要望・事前準備

空間系に興味がある学生のための授業です。
多少専門的になりますが、遅刻せず出席してください。

日本美術史

1学年 前期 選択 講義 2単位
大倉 宏

授業の概要およびテーマ

日本の美術を時代を追って概観します。
「日本美術史」という枠組みは、明治期に西洋に自国文化を体系的に紹介、提示する必要から組み立てが始まりました。そのため草創期には「日本文化」の独自性を証明、提示するという国家的課題を負い、扱う作品にも偏りがありました。その意味で美術史もまた時代の鏡であったと言えます。しかし一世紀半の研究の積み重ねと広がり、そして時代の変化とともに日本美術史も変わってきました。1980年代以降には、美術史が扱ってきた作品群をきわめて個人的視点から語る言説が登場し（例えば橋本治やいとうせいこう）、美術史家たちの言葉もより個性的になります。そこで明らかになってきたことは日本文化の多様性、多層性であったように思われます。この講義もまた日本美術は多様であるとの視点に立ち、美術史研究の成果をふまえつつ、私個人の視点も積極的にお話することで、みなさん一人一人が自分の日本美術史を見いだすきっかけを提示したいと思います。

達成目標

1. 講義で紹介する多様な日本美術の表現世界から、現在の自分の関心にあふれてくるもの発見することができる。
2. 発見した興味ある対象について、正確な理解のもとづきながら、自分の見解を自分の言葉で人に伝えることができる。

授業計画

- 01 〈国家〉から私へ一二つの日本美術史
- 02 誰もいない場所にいる人―仏教伝来以前のイメージの世界
- 03 人の形をした神、神の形をした人―仏教と中国（大陸・半島）文化の受容と葛藤
- 04 アイドル誕生―仏教はどう調理され食べられたか（奈良時代の仏教美術）
- 05 人くさくなった仏たち―仏教の非仏教化（平安時代の仏教美術）
- 06 ただの人に帰っていく仏たち―非仏教化した仏教の仏教化（鎌倉期以降の仏教美術）
- 07 つよいもの、うつくしいもの、わくわくさせるもの―日本人と絵・鎌倉時代までの諸相
- 08 華麗の変遷―寺院建築の展開
- 09 外に開く内―禅宗僧侶の周辺（住宅・水墨画・庭園）
- 10 都という場所―近世の京都美術（宗達光琳派）
- 11 浮世の住み心地 1―浮世絵誕生まで
- 12 浮世の住み心地 2―浮世絵版画の諸相
- 13 3秒後のコーヒーとクリーム―江戸時代後半の絵（文人画・写生画・蘭画ほか）
- 14 〈日本〉に支えられた「私」の苦悩―「美術」の誕生
- 15 日本美術史の忘れ物―「民家」と「民芸」
- 16 試験

学生に対する成績評価基準

試験により評価する。

参考書・参考資料等

『日本美術の歴史』（辻惟雄 東京大学出版会）¥2,940
この本は日本美術史の全体イメージをつたえ、授業に沿って読むことで理解のふかまる良書であり、購入を勧める。
そのほかの参考書としては
『ひらがな日本美術史1～7』（橋本治 新潮社）
1、2、7 ¥3,150 3 ¥3,360 4～7 ¥2,940
『見仏記』（いとうせいこう みうらじゅん 角川文庫）¥672

履修希望者への要望・事前準備

日本美術はもっとも身近に「本物」に接することのできる美術です。受講前、受講中、受講後に積極的に機会を捉え実際の作品に接する体験を持つことを希望します。

西洋美術史

1 学年 後期 選択 講義 2 単位
石原 宏

授業の概要およびテーマ

芸術は様式の歴史である。芸術の形は多様であるが、芸術作品は時代的、地理的にそれぞれまとまった統一体、すなわち様式を形作る。原始美術から近代美術までのなかから、各時代を代表する作品を取り上げる。

テーマ：

1. 様式の探究、2. 芸術意思の発見、3. 人間と芸術の関わり、4. 歴史と芸術

達成目標

各時代の様式を生み出すもととなった芸術意思について考える力を身に付ける。西洋の原始時代から、現代に至るまでの、建築・彫刻・絵画のそれぞれの時代を代表する作品を知ることができ、制作の際に何らかのインスピレーションを与えることになるだろう。

授業計画

- 01 美術史とは・時代概念の解説
- 02 原始時代の美術
- 03 古代オリエント美術
- 04 古代ギリシア美術
- 05 エトルリア美術と古代ローマ美術
- 06 初期キリスト教美術とビザンチン美術
- 07 ロマネスク美術
- 08 ゴシック美術
- 09 初期ルネサンス美術
- 10 中期ルネサンス美術
- 11 盛期ルネサンス美術
- 12 マニエリスム美術
- 13 バロック美術
- 14 ロココ美術、新古典主義、ロマン主義
- 15 写実主義、印象派、後期印象派、立体派
- 16 試験

学生に対する成績評価基準

16週目に行う試験と、授業態度、レポートをもとに評価します。

出席・遅刻の基準

出席率が80%を下回る場合は単位を与えません。

参考書・参考資料等

『体系世界の美術』（全20巻）学習研究社、『世界美術大全集』（全28巻）小学館、『人類の美術』（全20巻）新潮社

履修希望者への要望・事前準備

人類が延々と作り続けてきた芸術作品には、芸術意思が潜んでいる。1つの作品でも、作者だけでなく、時代、風土の面から考えなければ理解することはできない。ものを作る人間は、芸術の歴史を知っていなければならない。本大学の学生諸君には本講義を積極的に履修してもらいたいが、1回だけ行いう試験は出席不良者には高度なものなので、安易な態度で履修しないように。

形態デザイン論

1 学年 後期 選択 講義 2 単位
三井直樹

授業の概要およびテーマ

自然界のあらゆる形や現象、私たちの身の周りにある様々な造形物には、それぞれ形づくる数理性や造形原理が存在する。こうした形体の発生の原理やメカニズム、造形秩序の法則を理解することによって、クリエイティブな感性を涵養し、造形的な豊かな発想につなげることができる。

本講義は造形原理の根幹をなす構成学の観点から自然の形、人工の形を概観し、「形の美」とは何かという命題を基に造形理論を体系的に学んでいく。また、幅広い分野の映像、ビジュアルを鑑賞し、より高度なアートアンドデザインの発想力（クリエイティビティ）と実践力を培うことを目指す。

達成目標

本講義を履修した学生は、造形美と形をつくりだす原理・法則について理解し、造形的感性を養うことができる。また、構成学の習得によって、作品制作における造形表現へ還元することができる。

授業計画

1. 形の体系・1
2. 形の体系・2
3. 形の見え方とゲシュタルト心理学
4. 配色のテクニックとトーン
5. 色彩の錯視と造形表現
6. プロポーションとコンポジション
7. 黄金比と分割法
8. 黄金比と複雑系美学
9. 整数比例法と日本美
10. 紋様と装飾美術
11. ジャポニスムと近代デザイン
12. バウハウスとジャポニスム
13. オーガニックフォルムと自然の造形
14. シンメトリーの美学
15. 総括：理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位取得はできません。「理解度の確認とまとめ」（100%）を基本として評価します。

テキスト

三井秀樹『構成学のデザイントレーニング』六耀社、3200円（本体）
他に適宜プリント配付します。

参考書・参考資料等

三井秀樹『フラクタル造形』（SD選書）鹿島出版会、1,800円（本体）
三井秀樹『新構成学』六耀社、5,200円（本体）
三井秀樹『オーガニックデザイン』平凡社、2,400円（本体）
三井直樹、三井秀樹『色彩デザイン学』六耀社、2,800円（本体）
三井秀樹『形の美とは何か』NHK ブックス、920円（本体）

履修希望者への要望・事前準備

本講義のなかで、さまざまなアート／デザイン領域への造詣を深め、形態に関わる語彙（ボキャブラリー）を広げましょう。作品制作のみならず、作品についてプレゼンテーションを行ったり、文章を書くことも、プロフェッショナルへの大事なスキルです。構成学における造形理論を習得し、美の本質を理解する理論と感性を養いましょう。

美術・工芸概論

1 学年 後期 選択 講義 2 単位

◎長谷川克義、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、鈴木均治、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

美術や工芸は、時代背景と様々な文化の起こりにより、社会と個人の思想、素材と技術の発達などと密接な関係によって発生し展開してきた。人間が文明を開化させた時代から、19世紀の産業革命を経て今日もたらされた世界の縮図で、美術はどの様に変遷してきたのか、また今日で言う工芸と呼ばれる表現形式はどの様に成立し変化せざるを得なかったのか。本講義では各分野、領域が成立してきた時々の事例と其々が求めた志向の概要と創作原因を理解し、存在する多様な価値観と表現特性の要因関係を考えその概要を探る。造形表現の新たな可能性と展開の模索を行うとき、領域を超えて制作者たちの知見を得ることは、今後の創作活動を志向する者たちの基盤と成り得る分析力と考察力、発想力を養うものと考えます。

- ・作品と作者の認識
- ・アート、デザイン、クラフトの意味と要因の解釈～美術と工芸の枠組み
- ・歴史・地域等から起因する表現と素材の共通性・再生
- ・手と視点からの創造～美術工芸思考
- ・造形活動と社会活動

達成目標

- ・歴史の観点から視る造形表現や普遍的魅力的理解と認識ができる。
 - ・目的と素材特性（素材と手法・技法の関連性）が理解できる。
 - ・鑑賞する作品から作者の思考と表現特性を考察できる。
 - ・社会においての造形表現の意義と現存性を考えることができる。
- ※レポート等課題の体裁および提出は各教員の指示に従うこと。また、提出レポートは講義内容のメモや感想文程度の内容ではなく、授業から考察した自分の考え・意見が述べられている等与えられたテーマに基づいたレポートとしての体裁をなしていること。

授業計画

01：日本における美術と工芸の枠組み・分野、領域の概念と解釈

02～03：美術絵画の発生と概念

①素材の発達と表現 ②作家と作品の歴史的変遷～現状

③表現と造形手法の理路

04：染織の発生と概念

①素材と技法の発達 ②作家と作品の展開と現状

③素材と造形手法の理路

05：漆の発生と概念

①素材の発達と表現 ②作家と作品の歴史的変遷～現状

③表現と造形手法の理路

06：陶芸の発生と概念

①素材と技法の発達 ②作家と作品の展開と現状

③素材と造形手法の理路

07～08：美術彫刻の概念

①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史的変遷～現状

③表現と造形手法の理路

09：金属工芸の発生と概念（鍍金）

①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史的変遷～現状

③表現と造形手法の理路

10：金属工芸の発生と概念（彫金）

①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史的変遷～現状

③表現と造形手法の理路

11～12：版画の概念

①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史的変遷～現状

③表現と造形手法の理路

13：金属工芸の発生と概念（鍛金）

①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史的変遷～現状

③表現と造形手法の理路

14～15：ガラス工芸の発生と概念

①素材と技法の発達 ②作家と作品の歴史的変遷～現状

③表現と造形手法の理路

*但し、授業日程は変更になる場合があります。

学生に対する成績評価基準

レポート評価70％・受講姿勢30％

テキスト

適宜配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

履修希望者への要望・事前準備

講義において紹介される種々の概念の上に今日の表現活動が実践されています。皆さんが日々演習等の授業で取り扱う全ての手法と成果をより深く理解し、考察することを望みます。また、原則全授業の出席およびレポート等課題の全提出を求めます。

現代芸術論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位

大倉 宏

授業の概要およびテーマ

日本の現代芸術史は、西欧の芸術動向との関わりに言及されずに語られることが稀です。「西洋化＝近代化」が時代の流れであったためですが、そのために見えなくなることもあります。

ここでは参照事項として20世紀美術の海外（主に西欧）の動向を確認した上で、私たちに最も身近な「日本の現代美術」を日本人自身の表現史としてとらえます。その現代美術の始まりを近代初頭（明治期）の「西洋画」に求めます。日本の近現代美術に流れる共通の大きな課題が「西欧との対決」であったと考えるためです。この大きな課題の中で苦悩しつつ「自分の表現」を模索した12人の美術家たちの作品、生涯、言葉を紹介し、さらに私自身の批評を語ることで、現代の日本において表現者であることの意味を考えるきっかけとしてほしいと思います。

達成目標

1. 講義で紹介する近現代の日本の美術家の作品、人生、言葉から、現在の自分の関心を強く引くものを意識することができる。
2. その関心を引かれるものについて、正確な理解にもとづきながら、自分の見解を自分の言葉で人に伝えることができる。

授業計画

01 近世から近現代へ（授業コンセプトの説明と20世紀前半の美術の国際的動向について）

02 高橋由一

03 岸田劉生

04 村山槐多

05 古賀春江

06 松本竣介

07 佐藤哲三

08 岡本太郎

09 20世紀後半の美術の国際的動向について

10 赤瀬川原平

11 河原温

12 李禹煥

13 井上有一

14 森村泰昌

15 2000年代の動き

16 試験

学生に対する成績評価基準

試験により評価する

参考書・参考資料等

『東京ノイズ』大倉宏 アートヴィレッジ ￥1,575

『眼の神殿『美術』受容史ノート』北澤憲昭 美術出版社 ￥2,957

『日本・現代・美術』樫木野衣 新潮社 ￥3,360

『気まぐれ美術館シリーズ』（全六冊セット）洲之内徹 新潮社 ￥21,000（なお六冊のうち「気まぐれ美術館」「絵の中の散歩」「帰りたい風景」は新潮文庫版もあったが現在絶版。古書などで入手可能）

履修希望者への要望・事前準備

できれば受講前に新潟県立近代美術館、または新潟市美術館など近現代の美術作品を所蔵する美術館の常設展示を観覧しておくこと。また上記の参考書を一冊以上読んでおけば、なお望ましい。

美術解剖学

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
非常勤講師

授業の概要およびテーマ

人体を分析的に捉える医学的解剖学とは異なり、美術解剖学では人体を統合的に捉える。このことを念頭に置きながら、ヒトのからだの三次元的な構造を理解する。授業にあたっては実物の写真や解剖図さらには作品中の人体像を提示するにとどまらず、コンピュータグラフィックスを駆使して視覚に訴える。また、テキストを補足するプリントをほぼ毎回配付し、それぞれのテーマに沿って授業を行う。

達成目標

ヒトの形態についての正確なイメージを身につけ、自分の言葉で説明できる。

授業計画

- 01 イントロダクション：美術解剖学とは何か
- 02 共通の言語をもとう：方向用語と運動用語
- 03 骨とは何か：骨のはたらきと全身の骨
- 04 骨と骨の連結：関節はよく動くための連結
- 05 体幹の骨：脊柱と胸郭
- 06 上肢の骨：可動性を重視した骨格
- 07 肩という名のマジック
- 08 下肢の骨：体重支持を重視した骨格
- 09 頭部の骨：多くの骨で構成された立体パズル
- 10 感覚はすべてのはじまり
- 11 全身の筋：筋は収縮するだけの装置
- 12 体幹と上肢・下肢の筋
- 13 頭部の筋：咀嚼筋と表情筋
- 14 体表解剖学：体表から観察できる構造
- 15 総まとめ

学生に対する成績評価基準

課題レポート100%とする。ただし、授業はすべて出席することを前提にすすめられる。

テキスト

高橋彬『入門 美術解剖学』（医歯薬出版）

参考書・参考資料等

桜木晃彦『自分の骨のこと知ってますか』（講談社 + α 新書）
桜木晃彦『図解 からだのしくみがわかる本』（新星出版社）
桜木晃彦・武田美幸『CGクリエイターのための人体解剖学』（ポーンデジタル）

履修希望者への要望・事前準備

人体において自分の最も興味のあるところについて考え、疑問をもって受講することが望ましい。高校で「生物」を履修している必要はない。また、上記の参考書のうち少なくとも1冊は目を通しておくことをお勧めする。

美術・工芸特別講義

2 学年 後期 選択 講義 1 単位
◎長谷川克義、渋谷良治、林 範親、樋田豊郎、丸山直文

授業の概要およびテーマ

豊富な造形活動の経験と作品表現への深い造詣を持つ作家等を招聘し、美術・工芸を取り巻く最新の動向や経緯、次代に求められる思考力や方向性について幅広く講義を行います。
本講義により幅広い表現領域の現状を認識し、学生各自がその志向と制作・研究活動の方向性を探ると共に各専門分野にて創作に必要なとされる意識や概念、習得すべき技法について考察していきます。また毎回講義について事前・事後レポート提出を義務付けます。

達成目標

講師についての事前調査（事前レポート）が己の興味を広げる内容とすることができる。
講義後のレポートが講義内容の単なるメモや感想文ではなく、各自の考察・意見が述べられている等、聴講レポートとして体裁をなすことができる。その内容については、「講義された作家と作品、表現と手法・創作概念の考察」と共に、「各自考察する現在の美術・工芸領域の現状認識」や「講義に関連する自己の制作・表現活動の方向性の考察」を含むものとします。

授業計画

講義日程は4回（4名）を後期日程中に設定します。その予定は履修者にパレット等で周知します。
また、受講希望者はガイダンスに出席すること。レポート課題などの指示があります。
00：ガイダンス
01～02：美術表現分野A
03～04：クラフトデザイン分野A
05～06：美術表現分野B
07～08：クラフトデザイン分野B

学生に対する成績評価基準

レポート評価70%・受講姿勢30%

参考書・参考資料等

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

現代の作家と作品はいかなるものか、その本質を垣間見るまたとな機会である。皆さんが漠然とイメージしている造形活動との差異は…。作家の言葉をどのように聞き理解するか・表現の根幹に必要なことは…。緊張感をもった受講を望みます。必ず質問等を用意し講義に臨むこと。
また、レポート課題の全提出を求めます。
美術・工芸学科の学生だけでなく、他学科の学生も是非受講してください。

プロダクトデザイン概論

1 学年 前期 選択 講義 2 単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、
境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインは、生活のあらゆる場面で接するモノを発想し、形を与え、製品として世の中に送り出し、人々の暮らしを豊かにするモノである。

その分野は、身近な雑貨からファッション、テキスタイル、生活雑貨、家電用品、情報機器から自動車やロボットまで多岐に及ぶ。また、生活者との関わりはもとより、企業の経営資源でもあり、社会とも深い関わりを持つものである。

本講義は、それら広範な分野におけるデザインのありかたや制作・開発のプロセス、今後の展望などを概観するものである。

具体的には、本学科の教員全員が、そのバックボーンを通して各分野の概説を行う講義と、プロダクトデザイン、テキスタイル・ファッションデザインの歴史についての講義より構成されている。

達成目標

- ・プロダクトデザインの多様な分野の特質・意義を理解すること。
- ・プロダクトデザイン及びテキスタイル・ファッションデザインの歴史について、概要を理解すること。

授業計画

- 01 授業ガイダンス・プロダクトデザインとは何か
- 02 家具・生活用品のデザイン
- 03 乗り物のデザイン
- 04 情報機器・家電製品のデザイン
- 05 インターフェースデザイン
- 06 プロダクトデザインの歴史Ⅰ
- 07 プロダクトデザインの歴史Ⅱ
- 08 プロダクトデザインの歴史Ⅲ
- 09 テキスタイル（染め）のデザイン
- 10 テキスタイル（染め）のデザインの歴史
- 11 テキスタイル（織）のデザイン
- 12 テキスタイル（織）のデザインの歴史
- 13 UXデザイン
- 14 音響・映像機器などのデザイン
- 15 プロダクトデザインについて トークセッション

学生に対する成績評価基準

各講義においてレポートを提出。

各レポートの得点の平均点から、欠席、遅刻に応じて点を減ずる。

テキスト

テーマ毎に必要なより、コピー等で配付

用具

筆記用具

履修希望者への要望・事前準備

自分の身近にあるプロダクトに対し、常に関心を持ち、観察すること。

概論では、それぞれが独立した分野のようにみえるが、実際には相互に影響しあって新しいモノが生み出されているのであり、それを意識し各回の授業に臨むこと。

視覚デザイン概論

1 学年 前期 選択 講義 2 単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、
金 牟洙、徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、
山田博行

授業の概要およびテーマ

日常生活で接することのない日はないというほど『視覚デザイン』は、実はとても身近な存在なのです。新聞、雑誌、絵本など印刷物に始まり、CDジャケットや食料品のパッケージ、テレビコマーシャルにウェブサイト、または街中で見かけるサインボードに至るまで、余りにも身近すぎてその存在に気付かない程です。そのように今まで接してきながら意識して来なかった『視覚デザイン』を改めて眺めることにより、社会の中での『視覚デザイン』の果たす役割、またはその成り立ちを知り、これから専門的に学修して行く上での基礎的知識や心構えなどを考えていきます。

達成目標

視覚デザインに関わる文字、印刷、イラストレーション、写真、Webなど各分野について基礎知識を深く理解し、専門用語、代表的な作品、作家について説明ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス（長瀬）
 - 02 いろいろなビジュアルコミュニケーション（池田）
 - 03 日本のしるし（金）
 - 04 地域とデザイン（吉川）
 - 05 紙、印刷（長谷川）
 - 06 文字と本（天野）
 - 07 イラストレーション（御法川）
 - 08 写真表現（松本）
 - 09 広告写真（阿部）
 - 10 映像表現（ビューラ）
 - 11 コマーシャル（山田）
 - 12 広告（山本）
 - 13 デジタル（真壁）
 - 14 Web（徳久）
 - 15 まとめ（長谷川・金）
- ※順番は変更することがあります。

学生に対する成績評価基準

積極性など授業態度40%

レポート等60%

テキスト

適宜指示します。

参考書・参考資料等

適宜指示します。

履修希望者への要望・事前準備

「視覚デザイン概論」は、視覚表現の基礎となる理論を学ぶものです。講義の内容を単に知識として受け止めるだけではなく、演習や実習における制作を通して、その真の意味合いを考えてください。また日頃から図書館等も利用し、各分野の専門誌を読んでおくこと。さらに、美術館、ギャラリー等を利用し、本物のアート、デザインの作品に触れる機会を持つこと。

人間工学

1 学年 後期 選択 講義 2 単位
三村宣治

授業の概要およびテーマ

人間はいまや数多くの道具や機器を使い、人工的な環境の中で暮らしている。それによって物質的には豊かな社会となった。その反面、機器を使うことによる人間の思考や行動の制限、そして人間の精神や肉体への障害が無視できなくなっている。近年のテクノストレスはその典型である。“人間工学”とは、このような人間と機器・環境との関係を、ヒトの形態・心理・生理的特性を考慮して人間／機械系として捉え、人間にとって最適な作業形態・環境・機器・道具を設計するための基礎知識を与える学問分野である。多くの分野に関連し、学際性の高い内容を扱う。

達成目標

人間工学の基礎である次の6項目に関する基礎的な知識・技能および応用力を身につけ、説明できることを目標とする。

1) 人間工学の手法、2) 形態的特性、3) 生理的特性、4) 官能評価手法、5) 人間／機械系、6) ヒューマンエラー

授業計画

- 01 「人間工学」とは
人間工学の歴史的意義と対象。
- 02 人間の形態的特性1
生体システムの概要と生体計測法、運動機能および動作姿勢の概略。
- 03 人間の形態的特性2
動作分析や時間研究など、動作・時間測定手法。
- 04 人間の形態的特性3
人間の形態的特性に基づく作業動作の最適化や作業配置のための指針。
- 05 人間の形態的特性4
形態的特性のまとめと演習
- 06 人間の生理的特性1
脳の構造と脳波、心電図および筋電図など生体信号について
- 07 人間の生理的特性2
人間の感覚、知覚特性
- 08 人間の生理的特性3
視覚、聴覚など人間の五感と体感感覚の特性。
- 09 人間の生理的特性4
生理的特性のまとめと演習
- 10 官能検査手法、SD法など各種測定法の原理。
- 11 官能検査手法、SD法など各種測定法の利用法。
- 12 人間とシステムの融合「人間／機械系」1
人間／機械系の概念。
- 13 人間とシステムの融合「人間／機械系」2
人間／機械系の設計手順。
- 14 表示装置（ディスプレイ）とコントロールパネルの最適設計。
- 15 人間の心理的特性
ヒューマン・エラーと人間工学
人間の行動・動作に存在するエラーの分類と背後要因、発生要因、さらに人間の行動モデルと人間工学的対策。
- 16 期末試験

学生に対する成績評価基準

成績は、期末試験の成績80%、講義中に行うレポート20%によって総合的に評価する。

総合評価では、達成目標である次の6項目の理解・習得を基準とし、これらを最低限達成した場合、合格とする。

1) 人間工学の手法、2) 形態的特性、3) 生理的特性、4) 官能評価手法、5) 人間／機械系、6) ヒューマンエラー

テキスト

必要に応じプリントを配付する。

参考書・参考資料等

呉 景龍、塚本一義著『現代人間工学』（森北出版）、村田厚生著『人間工学概論』（泉文堂）

履修希望者への要望・事前準備

シラバスにしたいがい、プリントを使って講義を行うので、講義後復習をしておくこと。

メディア概論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎真壁 友、大野一生、澤 隆志、林 洋介、松本祐一、
南 加乃子、山田興生

授業の概要およびテーマ

現在メディアと呼ばれている物は多様化してきています。紙、放送、インターネット。これからも今までは思い付かなかったようなモノがメディアとして活躍する可能性もあります。この授業ではそれぞれの分野で活躍している講師から、それぞれの立場から「メディアとは？マルチメディアとは？」を講義します。社会の中では様々なメディアに精通したデザイナーが求められています。この授業ではマルチメディアを「コミュニケーションデザイン」「社会」「技術」の各観点から理解し、その全体像を把握することを目的とします。

達成目標

デジタルメディアの歴史とその広がり的一端を知る。

映像、放送での動画編集の意味について理解するきっかけを得る。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 デジタル技術とメディアの歴史1
- 3 デジタル技術とメディアの歴史2
- 4 デジタル技術とメディアの歴史3
- 5 ネットアート
- 6 データビジュアライゼーション
- 7 デバイス
- 8 デバイス
- 9 ネットワークと音楽
- 10 ネットワークと音楽
- 11 放送
- 12 放送
- 13 映像
- 14 映像
- 15 映像
- 16 期末試験

学生に対する成績評価基準

授業のテーマにより授業時間中に行うテスト、提出物があります。それとあわせ学期末の試験により評価を行います。

なお成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。

テキスト

各講師から授業時に指示されます。

また必要に応じてプリントを配付。

参考書・参考資料等

各講師から授業時に指示されます。

履修希望者への要望・事前準備

各分野の第一線で活躍している先生方を招いてのオムニバス形式の授業になります。デジタルメディアについての内容が多くなります。興味のある人のみ受講すること。また授業中に様々な映像を見る機会があります。映像と音に対して過敏な人は受講をおすすめしません。

出席、提出物、試験の不正に対しては厳しく対処します。

プロダクトデザイン特別講義

2 学年 前期 選択 講義 1 単位

◎齋藤和彦、上野和広、竹原あき子、田中啓一、松本 有

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインの第一線で活躍されているデザイナーあるいは、長年活躍されてきた豊富な経験と深い造詣をお持ちの方を講師として迎え、デザインの動向、注目される製品・作品・成果、次代に求められるデザイナー像などを幅広い視野で講義していただく。

達成目標

- ・事前レポートにより、講師の経歴や仕事などのバックグラウンドを理解すること。
- ・講義レポートにより、講義を受けての自分の考え・意見を記述することができること。
- ・デザイナーの仕事や社会における役割を把握、理解すること。

授業計画

オムニバス形式で4人の講師が4回の授業を行う。

学生に対する成績評価基準

毎回のレポートの総合点から、欠席、遅刻点を減ずる。

配点比率 事前レポート（20%）：講義レポート（80%）

3／4以上の出席、及び事前・講義両レポートの提出が単位取得の必要条件となる

テキスト

必要に応じて配付・指示する。

参考書・参考資料等

授業で適宜紹介する。

履修希望者への要望・事前準備

講義の前に講師の経歴や仕事について十分に調べておくこと。

講義レポートは、講義内容のまとめや感想文にならないように意識し、自分自身の考えを記述すること。

視覚デザイン特別講義

2 学年 前期 選択 講義 1 単位

◎山本 敦、五島一浩、川上典季子、南雲暁彦、山本晃夫

授業の概要およびテーマ

視覚デザインの領域は、広告やグラフィックデザインなどから、写真、映像、デジタルデザイン等、幅広い分野に渡ります。この講義では、それら視覚デザインの分野から代表的なものを抜粋、第一線で活躍されているクリエイターの方々に講師にお招きし、各分野を取り巻く最新の動向や仕事内容についての話を伺います。

達成目標

各クリエイターの仕事や社会におけるデザインの役割を、現実的に把握、そして理解できるようになることが目標です。

授業計画

4人の非常勤講師がオムニバス形式で4回の授業を行う。

学生に対する成績評価基準

成績評価の前提条件として、出席率が3／4を下回る場合は単位を与えない。

また出欠に関し不正があった場合は、最終成績の素点より50点の減点とする。

レポート60%

積極性など授業態度40%

テキスト

必要に応じて、各講師によるプリントを適宜配付。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

履修希望者への要望・事前準備

講師の方々はいずれも、各分野の第一線で活躍されている方々です。毎講義の前に、講師の方々の仕事、プロフィール等を調べておくこと。

また、真摯な態度で受講すること。

商品記号論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
非常勤講師

授業の概要およびテーマ

消費の対象としての商品が使用的価値を超えて記号的価値（商品の背後に潜む意味的な価値）に基づいて消費されるようになると、商品にはモダンデザインが求めている物的機能や環境的機能を超えて、使用者とのコミュニケーションを企図する記号的な機能が求められるようになる。

そこでは、デザイナーは審美的な価値を高めるためだけでなく、かたちや色といった非言語を操作してユーザーにわかりやすさや親しみやすさを伝えることが重要となる。

それは、商品のコミュニケーション機能（意味）をデザインすることであり、意味を設計し可視化することである。

本講義では、記号論の基礎を学ぶと同時に、主に消費財のデザイン（プロダクトデザイン）を対象に、"Design is making sense of things."（デザインは意味を与えることである）を主題にして、記号的視点からデザインの本来的な役割や、人とデザインの関係を考察することを学んでいく。

また併せて、今日注目を集める「デザイン思考」についても解説する。

達成目標

- ・デザインについて記号的解釈ができる
- ・デザイン思考について理解する
- ・製品意味論を理解し、意味のデザインの手法を修得する
- ・デザイン表現の記号論的分類ができる（C.S.パースの分類）
- ・感性品質の定義について理解し、イメージボードが制作できる

授業計画

1. デザインと記号論：講義の目的
2. 講義の全体像：資料集の解説を中心に
3. デザインの変遷 I：デザインの変遷
4. デザインの変遷 II：新たなデザインの時代
5. デザイン思考：3つの重要なスキル
6. モダンデザインの誕生：モダンデザインの誕生、記号使用での物議
7. デザイナーの誕生：デザイナーの誕生と活躍
8. デザイン機能の変遷と製品意味論：モダンデザイン誕生以降のデザインの役割
9. デザインの記号的解釈：デザインにおける記号論、記号論の基礎
10. デザインレトリック：レトリックによるデザイン操作
11. デザインの表象と対象：デザインの記号的表現と意味の分類、デザインコード
12. 視覚伝達デザインと記号：視覚伝達デザインの記号的解釈、ゲシュタルト心理学
13. デザインテストとイメージボード：デザイン分類、イメージボードの作成
14. デザインの評価軸：デザイン審査の状況、デザインの印象評価手法
15. デザインの価値：デザイン実践の事例、ブランドの記号性
16. 試験

学生に対する成績評価基準

3分の2以上の出席を前提に、レポートと試験の結果で評価する

出席・遅刻の基準

初回の授業の際に説明する

テキスト

オリジナルテキストを配付する

参考書・参考資料等

『意味論の転回』（クラウスクリップENDORF、共訳、エスアイビーアクセス）
『企業における形態意味論の実践』（自著、インダストリアルデザイン139、140合併号、IIDA）
『記号論への招待』（池上嘉彦、岩波新書）
『記号論』（P・コプリ、吉田成行訳、現代書館）
『記号としての芸術 講座・記号論3』（川本茂雄他編、勁松書房）
『一般記号学』（エリザベート・ヴァルター、向井周太郎他訳、勁松書房）
『レトリック感覚』（佐藤信夫）
『デザイン学（思索のコンステレーション）』（向井周太郎）
『生きのびるためのデザイン』（ヴィクターババネック、阿部公正訳、晶文社）
『誰のためのデザイン？』（D.A.ノーマン、野島久雄訳、新曜社刊）
『エモーショナル・デザイン』（D.A.ノーマン、岡本 明 他 訳、新曜社）
『未来のモノのデザイン』（D.A.ノーマン、安村通晃 他 訳、新曜社）
『Design Thinking』（N. Cross）他

用具

特に必要ない

履修希望者への要望・事前準備

「デザインは構成されるものであり、計画されるものであるが、完全に規定されるものでなく美性という不確かさによって性格付けられている」とエリザベート・ヴァルターは述べている。

本講義では、この不確かさを「人とデザインとの関係に潜む不確かさ」として捉え、この不確かさを解く糸口を探っていく。

履修生にはこの講義を通じて、デザインのひとつの研究領域である記号論を理解しながら、デザインの鍵を握る「不確かさ」のヒントをつかんで欲しい。

なお、講義にあたっては、配付したテキストを事前学習すること。

ユーザインタフェースデザイン論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
尾田雅文

授業の概要およびテーマ

機器や製品の扱いにおいて、主に「わかりやすさ・使いやすさ」に関するデザインの考え方を学習する。このために、適切なヒューマンインタフェース、人間の認知特性とデザインなどの理解、さらには、社会的課題としてのユニバーサルデザイン（UD）についても取り扱う。

達成目標

デザイン要件としての「わかりやすさ・使いやすさ」を理解し、「ユーザーの立場に立ったデザイン」を自ら発想できるデザイナーとしての基礎的素養、能力の向上を図る。

授業計画

- 1 ユーザインタフェースとは
- 2 ユーザインタフェースデザインの背景と関連分野
- 3 人間の特性 - 視覚 -
- 4 人間の特性 - 聴覚 -
- 5 人間の特性 - 体性感覚 -
- 6 人間の特性 - 高齢者・障がい者 -
- 7 入出力機器としくみ
- 8 インタラクションデザイン
- 9 GUIデザイン
- 10 情報の可視化
- 11 ユーザインタフェースの設計
- 12 ユーザインタフェースの評価
- 13 ユニバーサルデザイン - 高齢者対応 -
- 14 ユニバーサルデザイン - 障がい者対応 -
- 15 ユーザインタフェースの展開

学生に対する成績評価基準

単位付与の前提条件として、2/3以上の出席を満たすことを原則とする。

成績は、報告書・課題等（70%）、授業態度・小テスト（30%）に基づいて評価します。

テキスト

●講義資料を毎回配付する

参考書・参考資料等

- ・「誰のためのデザイン？」D.A.ノーマン 新曜社 3,465円
- ・「福祉工学」依田光正 理工図書 2,800円

履修希望者への要望・事前準備

講義資料を事前にPaletteからダウンロードして、授業に備えてください。

マーケティング論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
上原正孝

授業の概要およびテーマ

マーケティングは低迷する既存商品に新たな価値や需要を創造したり、コンシューマーの潜在的ニーズを掘り起こして売れる商品・サービスを開発したり、価格、流通、コミュニケーション領域を組み合わせることで実に様々なビジネスクリエーションを行なう実践科学です。ビジネス成功に不可欠とまで言われる所以です。今やマーケティングは、私企業は言うに及ばず学校・病院・公共機関などの非営利団体や個人に至るまで社会環境の変化に適応して存続と成長をはかっていくことにも積極的に利用されています。その意味でデザインや広告、コミュニケーションもマーケティングの重要な一要素と言えます。

講義では学生が身近に接する広告キャンペーン、ブランディング、メディアミックス（マスメディア・ソーシャルメディア）等の広範な題材や事例を取り上げ、その背後に隠れたマーケティング意図を対話形式も交えて検討します。またデザインを生かした就職を目指す学生にも有益なマーケティングの応用としてのキャリアデザインにも踏み込む予定です。

達成目標

- 1、マーケティング目的、要素を具体的に説明できる事
 - 2、マーケティング活動のPDCAを具体的に説明出来る事
 - 3、マーケティングとコミュニケーション、プロモーション、広告の相互関係、位置付けを説明出来る事
 - 4、ブランディングの目的、機能、役割を説明できる事
 - 5、マーケティング課題が提示された際、誰に（To whom）、何を（What to say）、どの様に伝えるべきか（How to communicate）が論理的に整理でき、かつ説明できる事（成績評価の指針）
- * 1、2、3、の到達を及第水準とする。
* 上記に加えてより高次の4、5の到達を加算点とする。

授業計画

- 01：マーケティングとは何か（要素と戦略、広告との関係）
- 02：製品とターゲット戦略（消費者インサイト分析と絞込み）
- 03：製品と競合戦略、動機付け
- 04：ポジショニング開発（ビジネス源泉、競合、標的、動機付）
- 05：マーケティング要素－1（製品ブランド、価格、流通戦略）
- 06：マーケティング要素－2（季節、地域、広告・販促戦略等）
- 07：マーケティングとブランディング
- 08：キャンペーンデザイン
- 09：コピー戦略と基本構成要素（誰に、何を、どの様に）
- 10：コピー戦略と追加的要素（購買誘引、USP等）
- 11：コピー・ブリーフ（基本要素とフォーマット）
- 12：メディアプランニング（目標、媒体戦略、媒体ミックス）
- 13：マス&ソーシャルメディアの活用
- 14：ソーシャルマーケティング
- 15：ダイレクトマーケティング
- 16：期末試験

※事例紹介形式で上記項目を渾然一体と組み合わせて説明

学生に対する成績評価基準

毎週提出してもらうレポート20%、課題40%、期末試験40%
欠席1回に付3点、遅刻で1点減点する

テキスト

特にありません

参考書・参考資料等

「マーケティング入門」……………実教出版
「広告の科学」……………中公新書
「マーケティング戦略・コピー戦略」……………自著サブテキスト
高等学校の政治経済・公民の教科書

用具

PC（Word、Excel、Powerpoint、PDF）以外は特にありません。
PCは大学の共用PC使用でも可です。

履修希望者への要望・事前準備

このマーケティング論では全15回と言う制約からカバーする領域も主要な項目に限られますが、クリエイターとして広告代理店や制作会社への就職を検討している学生のみならず、将来起業を視野に入れている学生や環境、建築等を含め本学全ての学科生に有益な科目と言えたいと思います。マーケティングは難解な学問と敬遠する学生も多いと思いますが考え方はシンプルで、柔軟な発想力があれば十分理解できると思います。とはいえ、世の中の仕組みや生活者の理解の土台の上に組み立てる実践科学なので高等学校の政治経済・公民の教科書は将来の就職準備を兼ねて是非読んでおいて欲しいです。

広告論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
嶋田 清

授業の概要およびテーマ

広告クリエイティブは大きく変化しています。

「不特定多数に向けた、最大公約数的なメッセージを、複数のメディアで、同時に大量投下するマス広告」の時代から、インターネットとデジタル技術の発達により「個に対して、それぞれのターゲット特性に応じたメッセージを、最適な機会と接点で、多様に発信する。」時代になりました。

本講義では新しい時代のコミュニケーション・デザイン＝広告の全体設計の考え方と、いつの時代も変わらないクリエイティブの表現技術の基本について学びます。

達成目標

- ・ブランドの課題を発見できるようになる。
- ・その課題のコミュニケーション的解決策（クリエイティブ・アイデア）を発見できるようになる。
- ・アイデアを発見するための基本技術を身につける。

授業計画

- 1 ローカル広告が元気～課題オリエン
- 2 最新広告のコミュニケーション・デザイン
- 3 広告の領域
- 4 商品・ブランドの作り方
- 5 企業・ブランドの作り方
- 6 20世紀の広告 1
- 7 20世紀の広告 2
- 8 広告の時代性
- 9 広告の社会性
- 10 ストラテジック・プランニング
- 11 表現技術1 ビジュアルライズ
- 12 表現技術2 コピーライティング
- 13 表現技術3 映像表現
- 14 グローバル広告～課題提出
- 15 長岡の広告～課題発表

学生に対する成績評価基準

提出課題レポート70%、
授業参加態度30%

参考書・参考資料等

『表現の技術』高崎卓馬 電通1728円
『広告コピーってこう書くんだ！相談室』谷山雅計 宣伝会議
1944円
『広告をナメたらアカンよ。』山本高史 宣伝会議 1836円

履修希望者への要望・事前準備

- ・新しい情報や話題に積極的に接する姿勢。
- ・人間や社会を日常的に観察する姿勢。

デザイン感性工学

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
境野広志

授業の概要およびテーマ

感性工学とは、人間の感覚や意思、印象及び好悪といった感情について客観的、定量的なアプローチを試みる研究領域である。デザインとは人とモノを意図した関係でつなぐ行為であり、感性工学はその理論的背景を提供し、また新たな方法を展望するための手法ともなるものである。本授業では感性工学の知見、視点によりデザインの価値、デザイナーの思考過程を論理的に把握、理解することを主要なテーマとする。

達成目標

- ・感性工学の意味、役割、理論的背景を理解する
- ・感性工学の手法の理解と演習を通じてその適用方法を理解する
- ・デザインの価値についての定量的な評価を行う
- ・デザイナーの思考過程について、モデル化することでそのスキルを客観的に理解する

授業計画

- 01 ガイダンス、感性工学の概要、歴史概観
- 02 感性とは
- 03 人間の認知諸特性 1
- 04 人間の認知諸特性 2
- 05 美しさの数理
- 06 工学的手法概観
- 07 非線形手法（ラフ集合、AHP）
- 08 多変量解析概要
- 09 多変量演習ガイダンス
- 10 主成分分析／数量化理論Ⅳ類
- 11 数量化理論Ⅲ類
- 12 重回帰分析／数量化理論Ⅰ類
- 13 数量化理論Ⅱ類／判別分析
- 14 感性／記号から見たデザインの変遷
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

レポート及びグループワークとしての解析演習で採点する。授業態度及び欠席等で減点する。4 回以上の欠席は単位を認めない。原則として欠席は 5 点、遅刻は 3 点の減点とする。また出欠に関して不正があった場合は厳正に対処する。

テキスト

直接必要な資料等はパレットなどで配付する。

参考書・参考資料等

『感性工学』長町三生 海文堂
『システム工学入門』寺野寿郎 共立出版
『経営のための多変量解析』本多正久/島田一明 産業能率大学
『デザインの工学』森典彦 朝倉書店
『キーポイント線形台数』薩摩順吉/四ツ谷晶二 岩波書店
『ラフ集合と感性』森典彦他編 海文堂
『左脳デザイン』森典彦編 海文堂
『ニューラルネットワーク情報処理』麻生秀樹 産業図書
『多変量解析のはなし』有島哲/石村貞夫 東京図書
『デザイン情報学入門』和歌山大学システム工学部デザイン情報学科日本規格協会
『官能評価の基礎と応用』天坂格郎/長沢伸也 日本規格協会

履修希望者への要望・事前準備

本授業では、デザインの数理的な解析を手法の軸としている。基本は中学、高校レベルの統計や確率論であり講義においても概略の説明は行いが、不安があれば復習しておいて欲しい。また、これらの手法はあくまでツールであり、講義の本質は人間の感性を考究することにあるので、関心がある学生は学科を問わず受講してほしい。卒研で論文を希望する学生、進学を希望する学生には特に受講を勧める。

サインデザイン論

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
太田 岳

授業の概要およびテーマ

基本的に前回までのCI計画論にサインデザインの授業を組込んでいきます。私たちの身の回りにあふれているCIやロゴマークは、企業やブランドのコミュニケーションの核として重要な役割を担っています。本講義では実際の仕事の体験談や実例を紹介しながら、課題やトレーニングを通してそれらを学んでいきます。また看板サインデザインで重要な文字やビクトなどについても事例を紹介しながら学んでいきます。

（講義ですが、実技の課題や宿題も多い。PC作業必須）

達成目標

- ・社会の中におけるCIデザインやブランド、サインデザインの重要性を理解する。
- ・身の回りにおけるCIデザインを「プロのデザイナーの目」で客観的に評価、判断できるようにする事。

授業計画

- 01：ガイダンスCI事例紹介（様々な種類のCIデザイン/重要）
○課題：1（期を通しての課題/マーク収集）○レポート
 - 02：○講義（CIの歴史・プロセス/時代ごとのCIの流れ/マークの変遷）
○次の課題の参考事例紹介 [シンボルマーク]
 - 03：○課題：（デザイントレーニング/5年後10年後のシンボルマークリニューアル）
 - 04：○課題：講評 ○サインデザイン参考事例
 - 05：○課題：（デザイントレーニング/5年後10年後のワードマークリニューアル/授業内で完結→提出）
○講義 [ワードマーク/フォント/書体の特性] など
 - 06：○課題：講評 ○参考事例など
 - 07：○課題：（目指すイメージのマーク制作トレーニング [シンボルマーク] 授業内で完結→提出）
○講義（デザイン表現/先進性・信頼感・親しみなど目指すイメージに合わせた造形の作り方）
 - 08：○課題：講評 ○参考事例など
○課題：（目指すイメージのマーク制作トレーニング [ワードマーク] →宿題、翌週提出）
 - 09：○課題：講評 ○参考事例など
 - 10：○課題：（セルフブランディング/自分自身のマークを制作、名刺のデザインまで落とし込む）
 - 11：○課題：チェック ○参考事例など
 - 12：○課題：チェック ○参考事例など
 - 13：○課題：提出 /プレゼン/評価 ○課題：提出（期を通しての課題/マーク収集）
 - 14：○課題：提出 /プレゼン/評価 ○レポート（このクラスを受ける前と後の変化等）
 - 15：○学校のアンケート ○質疑応答
- ※サインデザイン論では、ビジュアルアイデンティの内容を考慮し、ビジュアルアイデンティの参考になるアプリケーションデザイン事例を紹介いたしますので、セットで履修する事が理想的です。（特に視覚の学生）
※状況により多少スケジュール・内容が変更される事があります。
※レポートは都度指示。（2～4回）

学生に対する成績評価基準

- ・提出物作品50% ・授業態度、制作姿勢50%
- ※授業態度重視。私語、居眠りなど。

出席・遅刻の基準

- ※2/3を下回る出席は単位取得不可。
- ※出欠の不正が認められた場合は、単位取得不可。

参考書・参考資料等

「タイポグラフィー 02/ロゴをつくらう」グラフィック社
「タイポグラフィー 01/フォントをつくらう」グラフィック社
「デザイントレンドアーカイブvol.0 CI&ロゴマーク特集」PIE BOOKS
「プロのデザインルールCI&ロゴマーク編」PIE BOOKS
「ロゴワールド・Logo World」河出書房新社
「マーク・シンボル・ロゴタイプ」グラフィック社
「ブランディングデザイン1,2,3,4」グラフィック社
その他必要に応じてプリント配付。

履修希望者への要望・事前準備

- ・サインデザイン論はヴィジュアルアイデンティとセットで履修する事が原則です。サインデザイン論ではデザインの考え方を学び、基礎知識やテクニックを覚え、ヴィジュアルアイデンティではそれらを応用しながらポートフォリオを完成させますので、両方履修してください。（特に視覚デザイン学科の学生）
- ・第1回目は事例（実際の仕事）をたくさん紹介しCIの全体像を把握する大変重要な授業ですので、履修希望者は必ず出席してください。その後の理解度が大きく違います。
- ・課題が多く大変ですが決してできない量ではありません。しっかり出席し課題をこなし、デザイナーとしての基礎知識を身につけてください。
- ・2つの大きな課題と多数の小さな課題やレポートがありますが、休んだ日の課題は遅れても必ず提出、また大きな課題が1つでも未提出だと単位は取得できません。
- ・このクラスは人数制限があり抽選になります。真剣にCIデザイン、サインデザインを学びたい学生のみ受講してください。

パッケージデザイン演習

3 学年 前期 選択 演習 4 単位
◎長谷川博紀、大塚 隆、大塚麻利子

授業の概要およびテーマ

近年マーケティングの現場では、基本である 4 P (Product, Price, Place, Promotion) に加え 5 つ目の P として Package が注目されています。
パッケージは内容物を保護するための包装に留まらず、店頭 (Point of Purchase) での販売促進活動のツールとしての重要性が増していると考えられます。そこで「売れるパッケージ」、「買いたくなるデザイン」とは何かを学ぶことに力を置きます。
また、パッケージデザインは「新たな価値」や「ライフスタイルの提案」を伝える重要な手段でもあり、その点をふまえブランディングや商品企画への展開を併せて学びます。

達成目標

魅力的な商品作りためには優れたパッケージデザインは不可欠です。そのために必要な「立案」、「調査」、「デザイン」、「プレゼンテーション」の能力を身につける事を目標とします。

授業計画

- 1 ガイダンス、第 1 課題説明
 - 2 レクチャー、討議、制作と個別チェック
 - 3 レクチャー、討議、制作と個別チェック
 - 4 第 1 課題 中間プレゼンテーションと講評
 - 5 レクチャー、討議、制作、個別チェック
 - 6 レクチャー、討議、制作、個別チェック
 - 7 第 1 課題 完成作品プレゼンテーションとアドバイス
 - 8 レクチャー 第 2 課題説明
 - 9 レクチャー、討議、制作、個別チェック
 - 10 レクチャー、討議、制作、個別チェック
 - 11 第 2 課題 中間プレゼンテーションと講評
 - 12 レクチャー、討議、制作、個別チェック
 - 13 レクチャー、討議、制作、個別チェック
 - 14 第 3 課題 完成作品プレゼンテーションとアドバイス
 - 15 第 3 課題展示会、講評会
- ※ 課題の進捗に応じて受講生と相談の上、日程を変更する場合があります。

学生に対する成績評価基準

2 つの演習課題 (課題の出来ばえとともにプロセスとして中間プレゼンテーションやチェックを含む) で評価 (50 点 + 50 点)

出席・遅刻の基準

欠席は 4 点、遅刻は 2 点の減点とし、かつ 2 / 3 以上の出席を単位取得の必要条件とします。(遅刻 2 回で欠席 1 回と数える)

参考書・参考資料等

『パッケージデザインの教科書』日経デザイン
『パッケージデザインを学ぶ』武蔵野美術大学出版局
『図解でわかるパッケージデザインマーケティング』小川 亮 著 日本能率協会マネジメントセンター
『売れるパッケージ 5 つの法則と 70 の事例』松浦 陽司 著 ANIVA BOOKS
『パッケージデザインの勘どころ』六耀社
『100s ビジュアルアイデア：パッケージ&ラベル』グラフィック社
『パッケージデザイン MORE』グラフィック社
『PACKAGE DESIGN』DAAB 社 (洋書)
『BOXED AND LABELLED』GESTALTEN 社 (洋書)
『包』岡 秀行 著 毎日新聞社

用具

デザイン作業に必要なコンピュータ (必須)、ソフトとしてイラストレーター、フォトショップ (必須)
A 4 サイズ以上のスケッチブックかコピー用紙、その他筆記具、画材 (厚紙等素材を含む)

履修希望者への要望・事前準備

- 筐体のデザインも扱いますが、基本的にはロゴデザインをはじめ、ラベルのグラフィックデザインを主に扱います。
- 短時間でたくさん内容を盛り込んでいるので、履修生に求められる授業のレベルは高くなります。履修の要件として、パッケージデザインに対し強い興味を持っている、パッケージデザインへの理解を一層深めたいと考えている、パッケージデザイナーを目指している等、明確な目的意識が求められます。
- コンピュータソフトとしてイラストレータやフォトショップの基本操作が必要となります。
- 成果物として商品ダミーやモックアップを制作します。その際、厚紙加工のためのカッターワークや簡単な作図が出来るように、インターネットや書籍からテンプレートを手に入れて、それを組み立てたり、既成のパッケージを解体して構造を理解する等の予習をしておくことを薦めます。
- 基本的に毎回チェックを行いますので、製品やパッケージデザインのための「スケッチ」、「展開図」、「カンパ」等についての知識や技能を高めるように心がけてください。
- またマーケティング・リサーチから始まり、コンセプトメイク、プレゼンテーションまで、企画立案に関する書籍を読んでおく、授業の理解に役立ちます。
- 演習はグループによる共同作業と個人作業を組み合わせで行う予定です。本授業は指導の都合上、履修者数 50 名を目安とします。履修希望者が多数の場合は、抽選等により受講者を決定する場合があります。

デザインマネジメント

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
池永 隆

授業の概要およびテーマ

近年のデザイン活動は、単にモノづくりやその一組織という領域を超え、企業経営を支える経営資源の一部として認識されつつある。その為にデザイナーにも、問題解決手法としてのデザインと、経営を支えるマネジメントの知識が必要な時代となっている。
この授業では、これからのデザインが経営資源としての役割を果たす為に必要な基本的なマネジメントのありかたや、デザインと企業・社会とはどのような関係であるべきかについて考えていく。

達成目標

- ・ マネジメントとデザインの関係性について説明することができる。
- ・ 経営的資源としてのデザインの役割とその使命について理解できている。
- ・ 組織の問題点を指摘し、マネジメント的見地から問題解決の具体的な対応策を提示できる。

授業計画

- 01 ガイダンス：マネジメントの歴史と経緯
- 02 経営資源としてのデザイン
- 03 企業とデザイン組織
- 04 ブランディング
- 05 企業とデザインについての考察
- 06 企画・提案・マーケティング
- 07 発想とデザインセンス
- 08 デザインイノベーション
- 09 評価・検証
- 10 デザインプロセスに於けるマネジメントの考察
- 11 PDCA を回す
- 12 ヒト・モノ・カネ
- 13 戦略と戦術
- 14 広告・宣伝・広報
- 15 考察・デザインマネジメントとは

学生に対する成績評価基準

各回の授業において、アンケートやレポート等を提出。
授業全体を 3 段階に分け、各課題提出内容をもとに「達成目標」に照らし合わせて総合的に評価します。
提出課題 (アンケート・レポート) の未提出・授業参加態度・欠席回数は最終評価の減点対象となります。
出席率が 2 / 3 を下回る場合には、単位を与えられません。

テキスト

適宜資料を配付します

履修希望者への要望・事前準備

デザイナーにとって、創造的活動を行う際に、つねに経営的視点も必要となる。
そのため社会の動向や情報に対し、アンテナを張っておくことが重要で、新聞・雑誌・ニュースサイトなどを、常にチェックしておくことを習慣づけよう。

知的財産権論

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
本多誠一

授業の概要およびテーマ

物品（製品、商品）や情報関連のデザインを創作し、それらを市場において取引・流通させるにあたっては、他人の知的財産を侵害しないこと、自分の創作に係る知的財産を的確に保護することが重要である。本講義は、それらのために必要とされる基礎的な知識が習得できるように、意匠法、著作権法、不正競争防止法などの知的財産権制度全般を概観し考察する。

達成目標

- ・創作する者として自分が創作したデザインに関して、法律上発生する権利、取得し得る権利、及び行使し得る権利を常に意識し、これらの説明ができる。
- ・自分が創作したデザインに関する権利を意識するのと同様に、他人の創作を尊重し、その権利を侵害しないようにする意識を持ち、これらの意義を説明できる。
- ・知的財産権制度の体系を知得し、これらの概要を説明できる。
- ・デザインを創作しようとする場合、参考にした他人の著作物との関係性を意識すること、また、引用した他人の著作物を適切に明示することを常態として保有し、これを課題作成などにおいて実行できる。

授業計画

- ・毎回、ミニテスト（5 点満点）を実施します。
- ・授業終了後に、パレットシステムを介した報告書を求めます。授業概要、質問又は意見、適宜求める小レポートを500字から1000字程度にまとめて提出。
- 第1回 本講義の概要及び進め方、評価方法等に関するガイダンス
- 第2回 【知的財産権制度の概要（1）デザインとビジネス】
デザインの役割、デザイナーの役割、企業活動におけるデザインの活用領域、デザイン・プロセスにおける知的財産権
- 第3回 【知的財産権制度の概要（2）デザインと知的財産権】
知的財産の特性と保護の意義／知的財産の種類と内容
- 第4回 【特許法 技術的アイデアを守る デザイン創作と発明・考案】
特許制度の概要、デザインの技術的側面の保護
- 第5回 【意匠法 カタチを守る デザイン創作と意匠（1）】
意匠制度の概要、意匠法で守られる意匠（意匠法上の意匠）
- 第6回 【意匠法 カタチを守る デザイン創作と意匠（2）】
意匠登録の要件、意匠の新規性喪失の例外、意匠権
- 第7回 【意匠法 カタチを守る デザイン創作と意匠（3）】
部分意匠制度（全体／部分意匠）、関連意匠制度、秘密意匠制度
- 第8回 【著作権法 表現を守る デザイン創作と著作権（1）】
著作権制度の概要、著作物、著作権
- 第9回 【著作権法 表現を守る デザイン創作と著作権（2）】
著作権・著作隣接権、著作権の保護期間
- 第10回 【著作権法 表現を守る デザイン創作と著作権（3）】
著作人格権、著作権の利用制限
- 第11回 【商標法・不正競争防止法等 ブランドを守る デザイン創作と商標・不正競争（1）】
ブランド（ブランディング）と商標、商標制度の概要
- 第12回 【商標法・不正競争防止法等 ブランドを守る デザイン創作と商標・不正競争（2）】
商品形態模倣、新たなタイプの商標、不正競争、営業秘密
- 第13回 【パブリシティ権等 デザイン創作に関するその他のルールを知る】
パブリシティ権、肖像権、製造物責任法、景品表示法
- 第14回 【模倣品対策・契約等 クライアントと契約する】
模倣品対策、契約における留意点、コンペにおける留意点、下請法
- 第15回 【知的財産権制度の概要（3）デザイン創作と知的財産の今後】
オープンデザイン、クリエイティブ・コモンズ

学生に対する成績評価基準

- ・2/3 以上の出席を満たす受講者に対してのみ単位付与可否検討対象とする。
- ・成績は、報告書・課題等（ミニテストを含む。）の提出自体及び内容評価70%、授業姿勢30%とし、総合評価する。遅刻は、3 回で 1 回の欠席扱い。

テキスト

- ・講義概要をPDF化資料として、パレットシステムを通じて受講者に学内限りの利用を前提に開示します。授業前にハードコピー乃至各自のPCに格納し、内容に目を通したのちに受講に臨むこと。

履修希望者への要望・事前準備

- ・パレットシステム（ワープロを含む）の操作習熟を要す。

機構学

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
磯部浩巳

授業の概要およびテーマ

機構学は主に機械系の大学や工業高校などで履修する科目であるが、デザインを学ぶ皆さんもその基本を理解し、将来に役立ててもらいたい。本講義では機構の基本事項を概説すると共に、身近な機構を例にとり、機構の組み合わせ、運動、働き等について講義する。

達成目標

機械各部の運動を幾何学的、力学的に解析する能力を養い、機械の基本設計に必要な素地をつくる。そのため、各種の機構を例に挙げ、各部の形状や組み合わせによって運動状態がどのようになるかを調べ、さらに希望する運動は、どのような機械要素をどのように組み合わせれば得られるかを理解させる。

授業計画

- 1) 機械と機構（2 回）
- 2) リンク機構の種類と運動（2 回）
- 3) リンク機構の運動解析（2 回）
- 4) カム機構（2 回）
- 5) 摩擦伝動装置（2 回）
- 6) 巻掛け伝動装置（2 回）
- 7) 歯車機構（3 回）

学生に対する成績評価基準

講義毎に提出する理解度報告書で40%、達成目標の理解度調査試験で60%の評価を行う。

参考書・参考資料等

「絵ときでわかる機構学」住野 和男、林 俊一 著、オーム社

履修希望者への要望・事前準備

【物体の移動速度】を移動距離と時間から、【円弧長さ】や【円の面積】を半径と円周率から求められることを前提として履修すること。

建築・環境デザイン概論

1 学年 後期 必修 講義 2 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、
白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望
山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

環境デザインとは人間と環境相互の多様な関係に深く係る事象において、その両者の関係をよりよいものとするべく計画し設計するための学問である。従来の細分化されて成立してきた様々なデザイン方法論を再度総合化し、環境デザインの方法論を確立することが究極の目標となるが、本授業では環境デザインを構成している建築デザイン、インテリアデザイン、文化財建造物保存、ランドスケープデザイン、都市計画まちづくりの各領域からの環境デザインへのアプローチを概説することにより、これから専門領域に進む学生に建築・環境デザインの全体像を理解してもらうことをテーマとしている。

達成目標

これから深く学んでいく建築・環境デザインの領域の大筋を理解すること。

授業計画

本講義は、学科全教員12人によるオムニバスで講義である。
プログラムは以下のとおり。

（講義の順番は、変更する場合あり）

- 01 建築・環境デザインとは（山下）
- 02 住宅リフォーム概論（川口）
- 03 展示空間概論（森）
- 04 歴史・文化的環境の保存再生概論（津村）
- 05 建築史概論（平山）
- 06 建築構造・技術概論（江尻）
- 07 現代建築設計概論（山下）
- 08 エコロジカル・ランドスケープ概論（小川総一郎）
- 09 景観設計概論（小川総一郎）
- 10 まちづくり概論（渡辺）
- 11 コミュニティデザイン概論（福本）
- 12 都市防災概論（福本）
- 13 西洋建築意匠概論（白鳥）
- 14 環境思想概論（菅原）
- 15 長岡都市里山空間概論（小川峰夫）

学生に対する成績評価基準

毎回の講義について自分の考えをまとめたレポート（400字以上を、毎回、次の週の講義にて提出）により評価する。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

特になし。

履修希望者への要望・事前準備

建築・環境デザイン学科の各分野の概説であるため、各講師がそれぞれの領域で伝えようとしているニュアンスを感じ取ることが重要である。いずれ選択しなくてはならない専門領域が環境デザインにどのようにアプローチしているかを横断的に知ることに出来る講義なので、欠席しないように。

都市論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位

渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

古代から現代まで共通する都市化のメカニズムの原理を解説し、その上で人口減少期を迎えている日本の都市の都市文化の特徴を明らかにする。こうした理論を理解した上で、都市の活性化には地域プライドが重要であるとの見地から、新潟県および長岡市の都市としてのプライドづくりのきっかけとなりうるコンセプトを解説し、地域活性化策を考察する。

達成目標

人口減少社会の地方部において今後の都市住民として主体的に関わる思いを持って、地域に意識が向かうことができる。
都市空間のデザインの見方を修得することができる。

授業計画

- 01 人口論
人口の停滞期、減少期に起こる共通の現象が何かを考える。
- 02 祈りと都市の形態
歴史的に都市の形態を追うことで、その時代の祈りの対象が何にあるかを考察する。
- 03 言語論と文化論から考える都市形態
文化圏によって、言語構造が異なる。このことによって、都市構造はどのような変化があるのかを考察する。
- 04 風水と都市形態
中国の長安（西安）などに見られる都市デザイン・風水思想は、韓国のソウルや日本の京都にも見られる。この考え方について考察する。
- 05 鎖国と都市
日本は江戸時代に鎖国することで、エコロジカルな都市群を形成させたと考えられる。鎖国が日本の都市形成に与えた影響を考察する。
- 06 全共闘世代とジェイコブスの都市論
全共闘世代の都市計画を学んだ学生達は、ジェイコブスの都市論に心酔したといわれる。現在の参加のまちづくり、保存のまちづくりの源流に繋がる考え方を学ぶ。
- 07 地方分権と上杉謙信
中世の新潟（越後）を治めた上杉謙信の人生を概括し、地方分権について歴史的に考察する。
- 08 長岡花火の歴史
- 09 震災復興とまちづくりの心
後藤新平の台湾、そして震災復興のまちづくりを概括し、日本の近代都市計画の礎には何があるのかを考察する。
- 10 商店街と都市論
現在の中心市街地は商店街としての活力を失っている。その活性化方法を事例を見ながら考察する。
- 11 地域通貨と都市のあり方
現代の社会問題は行き過ぎた資本主義に原因を見出すことが多い。その資本主義に対抗するものとして、老いる貨幣として生まれた地域通貨の背景を学ぶ。
- 12 河井継之助と長岡
明治維新時の長岡人・河井継之助が生きていたら、長岡は日本のスイスになったのか？河井の人生を概括し、考察する。
- 13 山本五十六と長岡
長岡出身の山本五十六は、日米戦争を命を賭して反対していたのに、なぜパールハーバー奇襲攻撃を遂行しなければならなかったのか。長岡精神を考察する。
- 14 新潟県のまちづくり事例（村上）
新潟県には、全国的に注目されるまちづくり活動が多くある。それらの活動を見て、自分の地域について考察する。
- 15 途上国の都市計画、地球温暖化、フィルムコミッションを考える
長岡を舞台にした昭和44年映画「青春の鐘」を鑑賞し、今後の地方都市長岡でのフィルムコミッションのあり方について考える。

学生に対する成績評価基準

毎講義でのレポートで評価する

テキスト

授業時に配付する

履修希望者への要望・事前準備

大都市についてはほとんど扱いません。地方分権に興味があり、新潟や長岡など地方の振興に興味のある人が受講してください。

インテリア

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎森 望、川口とし子

授業の概要およびテーマ

インテリア・ディスプレイデザインに関する講義。現代的インテリア空間やディスプレイデザインをどのように構築するかに焦点を当て、20世紀に世界中で繁栄した現代建築から21世紀の新時代に対して開かれるであろうインテリア・ディスプレイデザインについて考える。またインテリア空間と建築との関係性を学び、ディスプレイデザインの各分野に共通する基礎的な知識を習得し、さまざまな分野における作品を紹介する。

達成目標

住空間、商業空間、公共空間、街空間などをヒューマンスケールから考え、インテリア空間として把握できる。また現代社会におけるインテリア空間についての基礎知識を修得し、様々なインテリア空間の形成手法と、空間を構成する要素を記述することができる。

授業計画

1. 建築とインテリア概論
2. ディスプレイとは？
3. 建築の歴史とインテリア
4. ディスプレイデザインの目的・機能・装飾
5. 伝統素材のインテリア
6. 領域別（1）ショーウィンドウ
7. 地球環境とインテリア
8. 領域別（2）ショップ・ストアー
9. 水回りのインテリア
10. 領域別（3）エキジビション
11. 安心・安全とインテリア
12. 領域別（4）ミュージアム
13. 建築とインテリアー人と空間の関係性
14. 領域別（5）アミューズメント
15. 理解度確認テスト、解説。まとめ

学生に対する成績評価基準

川口と森の授業を交互に開講し、最終日に理解度確認テストを行う。評価は川口担当分のレポート20%、森担当分の授業中の小課題20%、理解度確認テスト60%。なお、欠席は減点する。

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

参考書・参考資料等

『インテリアデザイン教科書』彰国社、『マテリアル・デザイン2009-10年度版』彰国社、他

履修希望者への要望・事前準備

授業への積極的な参加を前提に、建築、室内、家具などを総合的に捉える視点を持つこと。

空間安全論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎福本 壘、稲垣文彦

授業の概要およびテーマ

日本には豊かな自然がある一方で、様々な自然現象が起これ、人々が生活を営む空間に応じて災害が発生します。また、ミサイル、テロ、事故、感染症といった脅威にも晒されています。近年に起きた災害を事例に、空間や状況に応じて、「誰にとって何が危険なのか」、「どのような被害を受けるのか」、「その対策や教訓は何か」の各要素を学び、「安全」の基本的な考え方を身に付けます。さらに、私たちの生活に「安全」をどのように取り入れることができるのか具体的な実践に結びつける提案を行えることを目標にします。

達成目標

- ・日本ではこれまでに起きた災害の概要を理解し、その教訓を習得していること
- ・安全なまちづくりに関する様々な取り組みとその重要性を理解していること
- ・身の回りの危険について空間や状況に応じた具体的なイメージができること
- ・これまで自身が関わった空間の自然災害リスクを調べ、他者に説明できること
- ・空間や状況に応じて、自身の生活に安全を取り入れるための具体的な提案を行えること

授業計画

- 第1回 「安全」とは何か？について学ぶ：授業の取り組みのイメージを確認
- 第2回 能動的な協働と内発的な自助・共助の重要性
- 第3回 災害発生時のしくみと被害、教訓を学ぶ①：地震・津波
- 第4回 災害発生時のしくみと被害、教訓を学ぶ②：火災・噴火・風水害・土砂災害
- 第5回 災害発生時のしくみと被害、教訓を学ぶ③：ミサイル・テロ・事故・感染症
- 第6回 災害と空間情報
- 第7回 コミュニティ・プロセス・デザイン～災害復興から地域おこしへ～
- 第8回 地域防災計画と復旧・復興計画の概要
- 第9回 安全なまちづくりに関する様々な取り組み
- 第10回 地域の防災・防犯訓練と自分に必要な防災・防犯訓練
- 第11回 安全なまちづくりの取り組み①：空間に対する理解を促す「Open Street Map」、 「防災・防犯マップづくり」、 「図上訓練」、 「逃げ地図」、 「HUG」
- 第12回 安全なまちづくりの取り組み②：現地の救援活動を支援する「DroneBird」、 「Crisis Mapping」
- 第13回 安全なまちづくりの取り組み③：人々をつなぐ防災を主題にしたツールとワークショップ「クロスロード」、 「防災トランプ」、 「シャッフル」
- 第14回 課題演習準備：自身の生活、関わりのある空間に基づく災害リスクを認識する
- 第15回 課題演習：空間や状況を踏まえた「安全」を生活に取り入れるための提案

学生に対する成績評価基準

学習内容を定着させる簡単な課題：30%
積極的な姿勢：20%
課題演習に対する提案：50%

テキスト

特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。
授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意したWEBサービスを利用します。

参考書・参考資料等

- 【参考書】
(1) 片田敏孝 (2012) 『人が死なない防災』 集英社。
(2) 鎌田浩毅 (2015) 『せまりくる「天災」とどう向き合うか』 ミネルヴァ書房。
(3) 室崎益輝ほか (2016) 『災害対応ハンドブック』 法律文化社。
【参考資料】
(4) 神奈川わかものシンクタンク (2016) 『自宅での防災訓練をしたことがありますか？ - 自分に必要な防災訓練を考える -』
<https://futakoburakuda.org/b-texts/> よりダウンロード可能。
(5) 内閣府 (2016) 『復旧・復興ハンドブック』。

用具

特になし

履修希望者への要望・事前準備

本講義は「空間や状況に応じて災害から身を守る方法と考え方」を学び、それを「みなさんの生活に取り入れるための具体的な提案」に着地させることを目標にします。履修後の成果は、みなさんのポートフォリオの1ページを飾り、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。

文化財学概論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位

◎津村泰範、大楽和正、武内正和、中山俊介、西田泰民、前嶋 敏

授業の概要およびテーマ

我が国の文化財に関する幅広い知識を養い、その取り扱い方の基礎を学ぶものとし、文化財全般の基礎知識／文化財保護のあゆみと世界文化遺産／建造物の調査研究と保存・活用／集落・町並みに関する調査研究と保存・まちづくり／古文書の見方／埋蔵文化財の調査研究と遺跡の保存整備／文化財の保存科学／民俗文化財の見方と扱い方／美術工芸品（原始～近世）をテーマとします。

達成目標

文化財全般の基礎知識を習得して歴史的遺産の価値と魅力を理解することができるようになり、その個々について、文章などによって概略を示すことができる。

授業計画

01 ガイダンス

文化財全般の基礎知識／課題説明

02 文化財保護のあゆみ／世界文化遺産と日本

文化財保護法／文化財行政／世界文化遺産の登録

03 我が国の文化財保護の取り組み（建造物）

調査と指定／修理と技術／整備と活用

04 古文書の見方、扱い方

古文書の定義／古文書の管理／古文書の扱い／紙と古文書

05 文化財の保存科学

文化財保存の調査／保存処置

06 埋蔵文化財の調査研究

遺跡・遺物・遺構／年代の研究／発掘

07 遺跡の調査研究と保存整備

遺跡の調査と遺構の展示／遺跡整備の事例

08 民俗文化財の見方・扱い方

生活用具、農具などの文化財としての特徴と研究

09 美術工芸品 1

原始・古代の工芸品の文化財としての特徴と研究

10 美術工芸品 2

中世・近世の工芸品の関する文化財としての特徴と研究

11 課題の中間発表

対象物件の登録、選択理由、進捗状況

12 文化財建造物の見方と基礎知識

種別の分類／構え・構造・意匠／時代・流派・地方性

13 建造物の調査研究

古代、中世、近世の社寺／民家／近代建築・近代化遺産

14 建造物の保存と活用

指定と登録／活用の用途と使い方／活用のための改修と設備

15 課題の発表と意見交換、講評

学生に対する成績評価基準

授業に臨む姿勢30%、課題の提出と発表70%。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とします。課題は自らが文化財指定候補物件を調査して調査書を作成。評価は中間発表を経て、最終回の提出・発表をもっておこないます。

テキスト

授業内容に応じて適宜作成して配付します。

参考書・参考資料等

『わかりやすい文化財保護制度の解説』 ぎょうせい 2,300円

『歴史的遺産の保存・活用とまちづくり』 学芸出版 3,500円

『入門者のための考古学教室・改訂版』 同成社 1,900円

文化庁提供の国宝・重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区、登録有形文化財などに関する資料 <http://www.bunka.go.jp/bunkazai/index.html>

用具

特に必要としませんが、04「古文書の見方、扱い方」では、ハサミが必要です。

履修希望者への要望・事前準備

身近にある建物、遺跡、古い生活用具、伝統的な工芸品などに目を向け、それぞれの価値や魅力を見出す力を養ってください。

緑地環境計画

2 学年 前期 選択 講義 2 単位

小川総一郎

授業の概要およびテーマ

地域環境を理解して地域景観を創出するために、基礎造形実習で習得した技術に磨きをかけ、植物を含む環境を総合的に計画できる基礎知識を習得することを目的とします

達成目標

植生の基礎知識を習得すること。

景観構成要素を再構築して、コンセプトに適合する将来像を表現し伝えられること。

人の目の高さからの正確なスケッチが描けること

授業計画

1 エコロジカル・ランドスケープの世界

2 スケール感覚・立体感覚を鍛えよう

3 場とシークエンス

4 サムネイルスケッチとコメント

5 キャンパスツアー

6 キャンパスツアー回答

7 情景感覚を鍛えよう

8 ものの見え方の仕組みを理解しよう

9 植物群落と造園植栽

10 スケッチシートと断面パース

11 小さな庭

12 植栽計画：即日設計

13 小さな庭プレゼン

14 屋外実習（雪国植物園）

15 屋外実習（雪国植物園）

学生に対する成績評価基準

課題:小さな庭60%

小課題とレポート40%

テキスト

エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎

理工図書 4,200円（税別）

参考書・参考資料等

すぐ描ける！ガーデンデザインのテクニック 高崎康隆、本田奈緒子 彰国社 2,500円（税別）

用具

スケッチブックなど、ガイダンス時に説明します。

履修希望者への要望・事前準備

後期の「緑地環境設計」、第3学年前期「エコロジカル・プランニング」を受講する学生は、本講座を必ず受講してください。

都市デザイン

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
白鳥洋子

授業の概要およびテーマ

自然発生的都市と計画的都市のいずれにおいても、建築と人間の営みが堆積し、都市は変容し続ける。本講義では、各都市の変遷や成熟における原則を考察し、それらを踏まえた建築と都市との関係性と都市の意匠的手法や都市空間について認識を深める。各時代や都市の記念碑的な建築と人々の住居の建築との関係性や、都市的な集住の方法への理解を経て、都市の持つ固有性を解き明かす。また、時代の進展とともに生成される様々な建築と都市全体を律する設計方法論について論考を行う。主なテーマは「都市の成立：都市の構成要素」、「住宅と都市：集住の形式と地域の固有性」、「都市建築：都市建築の概念と都市の象徴性」とする。

達成目標

以下の3項目を理解し、考察することを目標とする。

- 1 都市デザインの理解：都市は固有の原則により記念碑的な建築と集住の建築を醸成し、そこにはその都市の固有の人々の生活と都市空間が成立していること。
- 2 都市が各時代と共に文化を築き、持続するシステムを完成させ、それが都市であること。
- 3 都市や建築の組織化の過程を歴史的に考察することにより、自らの建築や都市の設計の手法を考える契機とすること。

授業計画

1. 都市デザインにおける歴史的系譜による概観、その1
2. 都市デザインにおける歴史的系譜による概観、その2
3. 都市デザインにおける歴史的系譜による概観、その3
4. 空間の捉え方について
5. 都市の捉え方について
6. ヨーロッパと都市文化の源流として：（1）集住以前の住宅の原型について
7. （2）集住への変遷における組織化や法則について
8. （3）建築の高度化過程における組織化や方法とその限界について
9. アジア文化の源流として：（1）集住以前の住宅の原型について
10. （2）建築の住宅を集合させるための組織化の法則について
11. （3）高度化過程における組織化の方法とその限界について
12. 都市景観の形成と建築の建設
13. 近代都市デザインの源流とその応用
14. 現代建築と都市デザイン
15. 近年の動向

学生に対する成績評価基準

復習レポート30%、最終レポート70%。

テキスト

『都市史図集』、都市史図集編集委員会編、彰国社、1999。『西洋建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、3訂第2版、1981。『近代建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、新訂版、1976。

参考書・参考資料等

『日本建築史図集』、日本建築学会編、彰国社、新訂第3版、2011。『西洋の都市』、ヴォルフガング・ブラウンフェルス、日高健一郎訳、丸善、1986。その他は、適宜、講義中に提示する。

用具

適宜。

履修希望者への要望・事前準備

建築に携わる人には、都市的な視点を持っていることが必要です。建築は都市の一部を形成し、都市は建築の集積により成立し、建築を設計することは都市の景観や営みの一部をデザインしているのです。建築は社会的責任を伴い、芸術、科学、人文学などの様々な領域を包含する総合芸術であるとも、人類の叡智の結晶とも言えるのです。建築の創造には、基礎となる知識の豊かさ、発想の基礎となる感性や洞察力が必要であり、さらには大きなエネルギーが必要です。この講義を通じて、都市と建築が高め合う関係と両者の同時性について認識を深めてほしいと思います。

居住論

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
山下秀之

授業の概要およびテーマ

リビングデザインに深く関わる内容から、グローバルデザインの内容までを看破する。世界の居住は、つい数年前と比べても格段の違いがある。例えば、情報化社会において、家族や家庭のあり方も劇的に変わりつつある。本講では、皆さんに何が重要で、何が重要でないのかを示唆しながら、居住に関する様々な事象を、＜コントロールvs非コントロール＞という2項対立で解説し、2項間のどこにバランス地点があるのかを考えてもらう。居住論はデザイン論でもあるので、皆さんの演習におけるコンセプトやデザイン手法を補強するものである。

達成目標

近未来の社会を見すえ、そこでの自身の居住を思い描き、自身のデザイン活動に生かせるようになること。毎回のコメントバックに自論を展開できる能力を身につけること。

授業計画

- 01__Simple Life? (居住論は自分の部屋から考える：あなたはシンプルライフ系?)
- 02__Shibuya Chaos (美は乱調にあり)
- 03__Sジョブズ (この人のシンプルデザインに対する執念、その魅力あふれる生き様、居住論的見方)
- 04__番外編1 (コメントバック大会：シンプルとカオスは補完関係にある)
- 05__Metropolis 1 (20世紀最大の都市－NYマンハッタン)
- 06__Metropolis 2 (支配と戦争と都市：独裁か民主か、コントロールか非コントロールか)
- 07__Cold Region 1 (妖精が出てきそうな地域：湖水地方、アイルランド、スコットランド、アイスランド)
- 08__Cold Region 2 (持続的であること、ディープエコロジーへのまなざし：富良野、そして北欧4国)
- 09__Feed Me Better (スローフード発祥地イタリア、最悪の食文化イギリス)
- 10__番外編2 (コメントバック大会：輝く北欧～すべてが良いというわけではないが、やはり持続して行く国)
- 11__The Japanese 1 (私たちは、良くも悪くも日本人)
- 12__The Japanese 2 (さあ～どうだろう、くらいじゃない)
- 13__The Japanese 3 (答えは外ではなく、私たちの中にある)
- 14__Network Society 1 (生のコントロール：精子バンク、家族あるいは母と子)
- 15__Network Society 2 (ネット+エコ／－ 私たちの基準における「家族」)

学生に対する成績評価基準

期末レポート100% (ただし、出席回数12回以上が条件で、欠席日数に準じて減点あり)

出席・遅刻の基準

授業開始5分以内を出席、それ以降を欠席と扱う。出欠に関して1回でも不正が明らかになった場合は、履修を不合格とする。

テキスト

オリジナルのプリントを毎回配付

参考書・参考資料等

特になし

用具

特になし

履修希望者への要望・事前準備

普段生活している背景にある良いこと悪いことを掘り下げ、毎回のコメントバックに、自分の考えをさらに発展させ、実践できるようになることを望む。

建築史

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
◎平山育男、津村泰範

授業の概要およびテーマ

原始、古代から近代、現代を通し、主に日本の建築を歴史的に理解します。そして人々が時代ごと、どのように建築と向き合って建築を造って来たのかを知り、考えて行くとともに、現代はどのような課題に直面しているのかを考える材料を提供したいと考えています。

授業では、『建築を造る』ということを主基調に講義を進めて行きます。個別の題材では「歴史的建造物」として、寺院、神社、住宅について、古代から近代について代表的な建築物を中心に考察・説明を加えます。

集落・町並みとしては、古代の平安京、平城京から、江戸の街、各地の歴史的な集落や町並みを扱います。

また、近代の建築では諸外国の関係と日本における建造のあり方について論じ、考えて行きます。

達成目標

建築の歴史を基礎知識として身につけるとともに、ひとつの建築を前にして、その魅力を自分なりに感じとり、それらを正しく第三者に伝えることができるようになる。それが自分自身にとっての成長ともなり、建築を造るに際しての材料ともなります。

授業計画

平山

- 01 原始：建築の初源とは
- 02 古代1：古代的な建築はどのように成立し、その特色とは何か
- 03 古代2：仏教建築はどのように導入して発展をしたのか
- 04 古代3：神社建築、寝殿造はどのように成立発展したのか
- 05 中世1：「大仏様」とはどのような建築様式か
- 06 中世2：「禅宗様」とはどのような建築様式か
- 07 中世3：密教本堂とはどのような建築か
- 08 近世1：方丈とはどのような建築か
- 09 近世2：「権現造」はどのように成立・発展したのか
- 10 近世3：「書院造」が持つ造形の特徴とは何か
- 11 近世4：民家とはどのような建築か

津村

- 12 近代1：洋風建築はどのように導入されたか
- 13 近代2：近代建築はどのように展開したのか
- 14 近代3：近代建築の課題

平山・津村

- 15 課題の発表 建築はどのように創られてきたのか？

学生に対する成績評価基準

講義への取り組み姿勢20%、小課題30%、課題（報告）30%、成果発表20%。なお、小課題は毎回の授業終わりに実施して、次の授業で返却をします。

テキスト

『日本建築史図集』 新訂版 彰国社 2500円

参考書・参考資料等

『日本近代建築史図集』 彰国社 2500円

履修希望者への要望・事前準備

建築史は、これまで人々がどのような思いを込めて、建物を築いてきたのかを考える学問の分野です。人がどのようにして建築、ものを創り出したのかをじっくり考えて下さい。

建築・環境デザイン特別講義

2 学年 後期 必修 講義 1 単位
◎平山育男、アラン パーデン、石川幹子、伊藤拓次郎、木村 勉

授業の概要およびテーマ

広く環境デザインに関わる非常勤講師による講義系授業である。各分野でエキセントリックに活躍している専門家を講師として迎え、環境デザインの領域を拡張していく方法を探っていく。すべての講師は世界を股にかけて仕事をしている。国境を越え、分野横断の内容も多く盛り込まれているので、履修者の「気づき」が試される場となるであろう。講師とのディスカッションの時間も設けてあり、講師から見たNID生の評価も決まることから、それぞれの分野の予習をすることにより、的確な問題意識を持つておくことが重要である。

達成目標

環境デザインの諸分野において活躍している講師に講義していただく。講師について事前調査をし、仕事の内容を把握できること。また、事後レポートが講義内容のメモや感想文ではなく、自分の考え・意見が述べられている等、体裁をなしたレポートを書くことができる。

授業計画

■0：講義のガイダンス・レポートの書き方など（学科長）

■1：環境デザイン（石川）

環境デザインは、人の営みと自然をつなぐデザインです。公園緑地、広場、水辺などの身近な空間から、東日本大震災の復興まで、そのパースペクティブについて、作品を通して紹介します。

■2：構造デザイン（パーデン）

構造デザインの定義はいろいろあるが、中心にあるのは与えられた用途条件と物理的条件の中でより経済的に、より能率的に、より美しく構造システムを発想し、それを実現できるための情報を作成することであろう。エンジニアの感性・経験・思想から生まれる構造デザインについて自分の経験を取り入れながら話します。

■3：歴史ある建築を活かし未来に手渡す（木村）

歴史や時代を語る建築への関心が高まってきた。世界遺産もブームになって久しい。それらを先人の遺産として未来へ引き継いでいこうとするとき、私たちには何ができるだろう。複雑で急激な変化をもたらす現代社会では、建築をより深く理解し、なぜ・どう遺すべきかの模索が必要だ。いまを生きる私たちにその判断が託されている。

■4：国際協力における社会開発のデザイン（伊藤）

グローバル化時代に於いては日本人のアイデンティティを別の視点から見ること必要です。パラグアイの地域おこしのエコツーリズムプロジェクト、ミャンマーの教育プロジェクト、ドミニカ共和国でのフォークメディアを用いた住民参加型保健啓発活動などの事例を紹介しながら、参加者と一緒に考えます。

学生に対する成績評価基準

講義前に作成する「事前レポート」（講師についての調査）と、講義後に作成する「受講レポート」（講義の内容について自分の考え）により評価する。

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

特になし。

用具

特になし。

履修希望者への要望・事前準備

各講師についての予習と、Q&Aセッションやディスカッション時に、手を挙げて発言すること。

博物館概論

3 学年 前期 必修／選択 講義 2 単位
津村泰範

授業の概要およびテーマ

博物館と博物館学の基本を理解するとともに、よりよい博物館のあり方を考えます。博物館の多様な姿への理解を求め、現代の博物館のあるべき姿を探ります。

達成目標

博物館の役割を知り、博物館の定義、歴史、現状を学び、それらの概略を博物館や博物館学に関する基礎知識として語ることができるようになる。

授業計画

- 01 ガイダンス：博物館概論を学ぶにあたって
- 02 博物館学とは何か 1：目的・方法・しくみ
- 03 博物館学とは何か 2：博物館学のあゆみ
- 04 博物館の定義 1：博物館と法令
- 05 博物館の定義 2：博物館の種類
- 06 博物館の歴史 1：世界の博物館の発達史
- 07 博物館の歴史 2：日本の博物館の発達史
- 08 博物館の現状 1：日本の博物館の現状
- 09 博物館の現状 2：地域と博物館
- 10 小課題の発表と意見交換
- 11 博物館の現状 3：一次資料と二次資料／4：展示とは何か
- 12 博物館の現状 5：バリアフリーと博物館／6：災害と博物館
- 13 小課題の発表と意見交換
- 14 博物館の現状 7：学芸員の役割と使命
- 15 理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

授業に臨む姿勢 20%、小課題 30%、理解度の確認 50%、とします。ただし前提として、評価の対象となる出席率は 2/3 以上とします。順番で行う発表も履修者は必ず 1 人 1 回はしてください。

テキスト

テキストは、授業の内容に応じて資料を適宜配付します。

参考書・参考資料等

参考書はテーマに応じて随時紹介します。

用具

特に必要ありません。

履修希望者への要望・事前準備

博物館は単なる“施設”ではありません。学芸員をはじめとする、そこで働く人々の姿を考えるとともに、社会が求める博物館とはどのようなものなのかをイメージしながら学んでください。日常生活の中で得られる博物館に関する知識・情報の修得に努めてください。

スノープラン

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
齋藤和彦、長谷川克義、ヨールグ ビューラ、平山育男、山下秀之、上村靖司、本吉弘岐

授業の概要およびテーマ

長岡は豪雪地帯であり、積雪期はあらゆる面で雪への配慮が必要となります。この科目では、雪の基礎的な性状からはじまり、雪国の暮らし、建築やまちづくりへの配慮、雪国独特のランドスケープ、そして雪国ならではの地域活動などについて、その現状と今後のデザインのあり方などについて学びます。

達成目標

長岡にある大学としてその特長を生かし、雪の基本的性状や中越地方における雪の特徴を理解するとともに、今後の雪との共存について、各自の立場でその方法論を考察する。

授業計画

1. 雪の基礎（1）
2. 雪の基礎（2）
3. 雪の基礎（3）
4. 雪の基礎（雪氷防災研究センター見学 1）
5. 雪の基礎（雪氷防災研究センター見学 2）
6. 雪と建築デザイン
7. 雪と歴史的建造物
8. 雪とプロダクトデザイン
9. 雪と美術・工芸
10. 雪と視覚デザイン
11. 雪国の暮らしと課題（1）
12. 雪国の暮らしと課題（2）
13. 雪国の暮らしと課題（3）
14. 雪国の暮らし（降雪期の中山間地見学 1）
15. 雪国の暮らし（降雪期の中山間地見学 2）

学生に対する成績評価基準

課題およびレポート（70 %）、出席した上での教員への質問や討議（30 %）により評価する。

テキスト

必要に応じて適宜プリントを配付する。

履修希望者への要望・事前準備

雪について興味を持つことが第一です。せっかく長岡で生活しているのですから、降雪期になったら実際に雪を良く見て触って、雪の風景や街の中の除雪の様子など、雪に関するあらゆることを興味深く観察して下さい。そしてこれらのことに関して疑問を持ったら、必ず書き留めて各教員に質問して下さい。

地域協創演習A

2・3・4学年 通年 選択 演習 2単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。
テーマは年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従う。

達成目標

演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。
また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を習得する。

授業計画

授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当指導教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。

学生に対する成績評価基準

地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当指導教員がプログラムごとに行う。

出席・遅刻の基準

プログラムの内容により基準が異なる為、担当指導教員の説明を必ず聞くこと

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。

地域協創演習B

2・3・4学年 通年 選択 演習 2単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。
テーマは年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従う。

達成目標

演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。
また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を習得する。

授業計画

授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当指導教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。

学生に対する成績評価基準

地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当指導教員がプログラムごとに行う。

出席・遅刻の基準

プログラムの内容により基準が異なる為、担当指導教員の説明を必ず聞くこと

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。

地域協創演習C

3・4学年 通年 選択 演習 2単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。テーマは年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従う。

達成目標

演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。
また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を取得する。

授業計画

授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当指導教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。

学生に対する成績評価基準

地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当指導教員がプログラムごとに行う。

出席・遅刻の基準

プログラムの内容により基準が異なる為、担当指導教員の説明を必ず聞くこと

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。

地域協創演習D

3・4学年 通年 選択 演習 2単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値を創造することを、演習科目として開講する。テーマは年度当初ガイダンスを行い履修生を募るほか、年度途中から企画されたものはテーマ、スケジュール、条件等をパレットで通知するので、履修を希望する場合はその指示に従う。

達成目標

演習を通しての、知財・地域価値・企業価値の創造とともに、地域や企業の理解を深める。
また、グループプロジェクト形式の作業スキル、企画力、提案力を取得する。

授業計画

授業スケジュールはテーマにより異なるので、各担当指導教員が随時指示する。授業は原則的に通常の授業時間外で行う。
履修者が制作した作品の知的財産権は依頼者側との契約に基づき、守秘義務、公開の一定の制限などが発生する場合がある。個別のテーマで契約内容を説明するので、この条件に同意する者のみ履修すること。

学生に対する成績評価基準

地域社会や企業の評価も含め、出席、参加状況、個々の成果を統合した成績評価基準の説明を、各担当指導教員がプログラムごとに行う。

出席・遅刻の基準

プログラムの内容により基準が異なる為、担当指導教員の説明を必ず聞くこと

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

学外での地域や企業とのコミュニケーションから生まれる知見や体験と、これまで学内で履修したスキルを基に、社会で必要とされる様々な価値を、積極性、能動性、実行性を持って協創していくこと。

インターンシップA

2・3・4学年 通年 選択 実習 1単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

企業、自治体、NGO、NPOなどが提供するインターンシップや実習のプログラムに参加し、デザイン業務をはじめとした就業経験をする。受け入れ先に関しては大学からパレットなどを通じて定期的にリストを提示する。また、学生が独自に受け入れ先を探してくることも可能だが、インターンシップが授業として受け入れられるためには下記の基準を満たす必要がある。

「認可基準」

- ・期間3日以上（22.5時間以上、1単位）
 - ・実際の就業体験やデザインワークなどの体験を主とするもので、会社説明・業界説明を主とするものではないこと。
- なお、この基準はあくまで単位認定のためのものであり、単位認定を受けないインターンシップや実習への参加を拘束するものではない。

達成目標

- ・実務における知識や技術を習得すること。
- ・実社会において労働することの具体的なイメージを掴み、仕事観を醸成すること。

授業計画

参加の1週間前までに「履修申請シート」を事務局に提出すること。学生が独自に探してきた受け入れ先に関しては大学としての単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。インターンシップ最終日には主催の担当者から「インターンシップ・ボランティア実施証明書」の必要か所に記入と捺印を受ける。終了後1か月以内に「インターンシップ・ボランティア実施証明書」と「実際に行ったスケジュール・実務内容が具体的にわかる資料」、「実施内容の報告書」を事務局に提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。

学生に対する成績評価基準

担当教員が受け入れ先によって記録された評価と、学生が提出した実習報告書、成果物を元に総合的に評価する。

履修希望者への要望・事前準備

インターンシッププログラムによっては、ポートフォリオや書類による事前審査が必要とされるものもある。希望のプログラムに参加するためには、何より日々の授業における研鑽が必要である。

インターンシップB

2・3・4学年 通年 選択 実習 1単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

企業、自治体、NPO、NGOなどが提供するインターンシッププログラムに参加し、デザインの実践をはじめとした就業経験をする。受け入れ先に関しては大学からパレットなどを通じて定期的にリストを提示する。また、学生が独自に受け入れ先を探してくることも可能であるが、インターンシップが授業として認められるためには下記の基準を満たす必要がある。

「認可基準」

- ・期間3日以上（22.5時間、1単位）
 - ・実際の就業体験やデザインワークの体験などを主とするもので、会社説明・業界説明を主とするものではないこと。
- なお、この基準はあくまで授業として単位認定を受けるためのものであり、単位認定を受けないインターンシップ、企業実習などへの参加を拘束するものではない。

達成目標

- ・実務における知識や技術を習得すること。
- ・実社会において労働することの具体的なイメージを掴み、仕事観を醸成すること。

授業計画

参加の1週間前までに「履修申請シート」を事務局に提出すること。学生が独自に探してきた受け入れ先に関しては大学の単位認可の可否を判断して当該学生に通知する。インターンシップ最終日には主催の担当者から「インターンシップ・ボランティア実施証明書」の必要か所に記入と捺印を受ける。終了後1ヶ月以内に「インターンシップ・ボランティア実施証明書」と「実際に行ったスケジュール・実施内容が具体的に分かる資料」、「実施内容の報告書」を事務局に提出すること。実施期間により前期または後期に単位を付与する。

学生に対する成績評価基準

担当教員が受け入れ先によって記録された評価と、学生が提出した実習報告書、成果物を元に総合的に評価する。

履修希望者への要望・事前準備

インターンシッププログラムによっては、ポートフォリオや書類における事前審査が必要とされるものもある。希望のプログラムに参加するためには、何より日々の授業における研鑽が必要である。

ボランティア実習A

2・3・4学年 通年 選択 実習 1単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

「暗いと不平を言うよりも自ら進んで灯りをつけなさい」。これはマザーテレサの奉仕の精神を表す言葉です。本授業ではこの奉仕（ボランティア）精神を実社会で実践し、日頃修練している知見・技術を社会に還元する経験を積むことをテーマにしています。具体的には下記の種類が用意されます。

- 1) 地域からの要請を大学で受けたものを本授業のプロジェクトとする方式
- 2) 社会福祉協議会等とおした福祉型ボランティア
- 3) 災害復興関連組織を通した復興支援ボランティア
- 4) 国際協力関連組織（NGO等）を通した国際ボランティア

達成目標

自ら進んで社会の課題に対して自分の技能を通して奉仕することができる

授業計画

- 1) 地域要請プロジェクトの場合
 - 01 主査教員によるガイダンス
 - 02～14 ボランティア実践
 - 15 報告
- *特に長岡大花火大会関連のボランティアが大人数要請されています
- 2) 社会福祉協議会、災害復興組織、NGOを通した場合
 - 01 主査教員への活動計画等の提出
 - 02～14 ボランティア実践
 - 15 関連組織の承認を得た活動記録報告書をもとにした報告

学生に対する成績評価基準

事前にボランティア計画を立て、計画を実践できたかを受け手側からの報告で確認する。また、この経験を通して社会人基礎力の向上が達成できたか提出レポートの報告から評価する。

出席・遅刻の基準

ボランティア計画に基づいて受け入れ側に判断してもらう。
仮に遅刻、欠席が事前に分かっていた場合、先方に事前連絡を入れることは社会人基礎力の一つである。

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

比較的体力を要するプログラムが多いので体調管理に留意すること。
社会人基礎力をつける経験と考えてもらいたく、積極的参加を望む。

ボランティア実習B

2・3・4学年 通年 選択 実習 1単位
専任教員

授業の概要およびテーマ

「暗いと不平を言うよりも自ら進んで灯りをつけなさい」。これはマザーテレサの奉仕の精神を表す言葉です。本授業ではこの奉仕（ボランティア）精神を実社会で実践し、日頃修練している知見・技術を社会に還元する経験を積むことをテーマにしています。具体的には下記の種類が用意されます。

- 1) 地域からの要請を大学で受けたものを本授業のプロジェクトとする方式
- 2) 社会福祉協議会等とおした福祉型ボランティア
- 3) 災害復興関連組織を通した復興支援ボランティア
- 4) 国際協力関連組織（NGO等）を通した国際ボランティア

達成目標

自ら進んで社会の課題に対して自分の技能を通して奉仕することができる

授業計画

- 1) 地域要請プロジェクトの場合
 - 01 主査教員によるガイダンス
 - 02～14 ボランティア実践
 - 15 報告
- *特に長岡大花火大会関連のボランティアが大人数要請されています
- 2) 社会福祉協議会、災害復興組織、NGOを通した場合
 - 01 主査教員への活動計画等の提出
 - 02～14 ボランティア実践
 - 15 関連組織の承認を得た活動記録報告書をもとにした報告

学生に対する成績評価基準

事前にボランティア計画を立て、計画を実践できたかを受け手側からの報告で確認する。また、この経験を通して社会人基礎力の向上が達成できたか提出レポートの報告から評価する。

出席・遅刻の基準

ボランティア計画に基づいて受け入れ側に判断してもらう。
仮に遅刻、欠席が事前に分かっていた場合、先方に事前連絡を入れることは社会人基礎力の一つである。

テキスト

プログラムに応じ適宜

用具

プログラムに応じ適宜

履修希望者への要望・事前準備

比較的体力を要するプログラムが多いので体調管理に留意すること。
社会人基礎力をつける経験と考えてもらいたく、積極的参加を望む。

11-3-1 専門教育科目 [プロダクトデザイン学科共通]

プロダクトコンピュータ基礎演習

1 学年 前期 必修 演習 2 単位
金澤孝和

授業の概要およびテーマ

コンピュータをデザインの道具として使う基本を、業界標準となっているソフトウェアを使い練習していく。簡単な図形を描くことから始まり、画像処理の基本、レイアウト操作など、実際にデザインの現場で使える技術へと発展していく。

達成目標

- ・ Illustrator／Photoshopの基本操作を習得する。
- ・ その知識を用いて期限内に課題制作ができる。

授業計画

- 1 ガイダンス／コンピュータの基本操作
- 2 Illustratorの基本操作 1
- 3 Illustratorの基本操作 2
- 4 Illustratorの基本操作 3
- 5 Illustratorの基本操作 4
- 6 Illustratorの基本操作 5
- 7 Illustratorの基本操作 6
- 8 Photoshopの基本操作 1
- 9 Photoshopの基本操作 2
- 10 Photoshopの基本操作 3
- 11 Photoshopの基本操作 4
- 12 Photoshopの基本操作 5
- 13 IllustratorとPhotoshopの連携
- 14 IllustratorとPhotoshopの連携
- 15 まとめ／講評

学生に対する成績評価基準

提出課題と受講姿勢（提出課題70%、受講姿勢30%）の総合点を基準とし、欠席・遅刻・早退は総合点から減点する。
なお成績評価の前提条件として、2／3以上の出席が必須。また課題提出が締め切りを過ぎた場合は、遅れた日数により提出課題評価から減点する。

テキスト

授業時にプリントを配付する

参考書・参考資料等

授業中に適時指示する

履修希望者への要望・事前準備

この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行う。操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を養む。
授業開始時に重要な説明を行う事が多い。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となる。十分注意する事。

基礎造形実習Ⅱ（描写）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱでは、各学科の専門性に直結する内容の授業内容となるがプロダクトデザイン学科では、基礎的な表現と手法として色・形の重要性を改めて見直し、自身の意図が第3者に理解できるような表現を習得することを目指す。
デッサンでは自身でモチーフを選び構成し、質感や表面処理、色などを意識し鉛筆で描画することで造形の成り立ちを理解する。
色彩描写では、花をモチーフにそのものが持つ特徴を見つけ再構成し色彩表現する。
三面図では、画面という平面上に立体を表現する手法として、三角法を中心とした図法を習得し、平面と立体との相関を理解する。

達成目標

描写表現手法による作品制作を通じて、「製品の造形の成り立ち」「色彩を用いた様々な表現」について追求し、基礎的な素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とします。
〈精密デッサン〉
・形を正確に捉える事ができ正しい構図を得ることができる。
・観察から得られる量感、質感、動きを認識し的確に描写できる。
・個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。
〈色彩描写〉
・それぞれの物質の特徴を抽出し的確な色彩と描写ができることにより表現をすることができる。
・多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。
〈三面図〉
・製図法の概念、正投影図法及びアイソメトリック図法の基礎的理解が出来、図面上での2D⇔3D、立体・空間の抽象的把握ができる。

授業計画

精密デッサン（布と製品）
第1回：ガイダンス
第2回～4回：制作
第5回：講評
三面図
第6回：課題説明
第7回～9回：制作
第10回：講評
色彩描写（自然物）
第11回 課題の説明
第12回～14回 制作
第15回 講評

* 日程変更の可能性があるので、その場合は指示に従うこと。

学生に対する成績評価基準

- ① 受講への態度、理解度（20%）
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ② 成果物（作品）の内容（80%）
 - ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。

以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席・遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外には出席と見ません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅱも含む）使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）
各学科毎の課題においては適宜説明があります。
また、大学図書館、書店などに各課題、基礎造形系（デザイン、描写、平面、立体、建築等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので普段から参照することを薦めます。

用具

授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力（描写）は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力があれば具体的な成果につながりません。常にものを観察し、どのようにすれば的確な表現ができるのかという目を持つことを心がけてください。

基礎造形実習Ⅱ（造形）		
1 学年	後期 必修 実習	2 単位
履修ガイド参照		

授業の概要およびテーマ

立体造形の手法の基礎的な素材・器材を使って造形表現を習得する。図面から立体、スケッチから立体表現では、プロダクトデザインの分野でスタイロフォーム（発泡材）が手軽で素早く形状検討できる素材として、一般的にデザインの現場でも使用されていることから、これを用いたモデリングを行う。図面を読み取りモデル制作することを実習し、その後課題テーマに基づいたオリジナルな造形を考え、モデル化することでイメージの立体化を行う。線材（糸）による造形では、糸を巻きつけることにより、線から立体への変化、色彩の変化を理解する。グラフィックレイアウトでは、基礎造形Ⅱで制作した立体作品をより魅力的に見せるグラフィカルな処理をPC上で実習し、ポートフォリオやプレゼンテーションパネル制作への基本スキルを習得する。

達成目標

- ・基礎的な図形や図法の意味を理解できる。
- ・平面上の図から正確な比率で立体を読み取ることができる。また同様に立体物を平面上の図に置き換えることができる。
- ・有機的な面のもつ特徴を観察し、対比と構成による的確に造形表現ができる。
- ・素材と用具を適切に扱う事ができる。

授業計画

図面から立体制作
第1回：課題説明・制作
第2回～3回：制作
第4回：制作・講評
スケッチから立体制作
第5回：課題説明・スケッチ
第6回：スケッチ
第7回：モデル制作
第8回：モデル制作・講評
線材（糸）による色彩の構成
第9回：課題説明・細作
第10回：制作
第11回：制作・講評
グラフィックレイアウト
第12回：課題説明
第13回～14回：制作
第15回：講評

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（20％）
- ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（80％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
- 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
- また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。また、大学図書館、書店などに課題、基礎造形系（描写、平面、立体等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。

用具

授業にて適宜指示します。授業日には必ず指示された用具を持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

初めて扱う材料や、課題内容により講義、説明が重要になります。よく理解して授業に臨むことを求めます。また素材の特性や表現技法についても深く知ることが必要です。自ら興味をもって参考となる作品や資料にふれ予習をする習慣をつけてください。

基礎造形実習Ⅱ（素形材）		
1 学年	後期 必修 実習	2 単位
履修ガイド参照		

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザイン学科の各コースでの素材を用いた実習授業である。それぞれの素材の特徴・特性を知り図面からのモデリング、織り、染め、ファッション、これらの課題を通してプロダクトデザインの基礎を学ぶ。図面からモデリングでは、スタイロフォームで制作した立体造形を恒久的なモデルとするため、ケミカルウッドに置き換えて制作し、塗装を施すことでモックアップとしての完成品を目指す。テキスタイル（織り）では、織り機を使って、織りの原理となる縦糸・横糸の構成を理解する。テキスタイル（染め）では、絞り、型捺染などの基本手法・原理原則を理解する。ファッションでは布素材を用い、ミシンによる縫製によってファッション小物を制作することで、布パーツの構成と制作手順を理解する。

達成目標

- ・課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。
- ・課題の説明を記録し制作過程をまとめることができる。
- ・制作等の指導を理解することができ適切な質疑応答ができる。
- ・制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる完成度のある成果物が提出できる。

授業計画

ケミカルウッドによるモデリング
第1回 課題説明
第2回～第5回 制作
第6回 講評
テキスタイル：織り
第7回 課題説明・制作
第8回 制作
第9回 講評
テキスタイル：染め
第10回 課題説明・制作
第11回 制作
第12回 講評
ファッション
第13回 課題説明・制作
第14回 制作
第15回 講評
※全体を3グループに分けて授業を行うため、必ずしもこの順番とはならない。
※詳細日程は授業開始時に説明する。

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（20％）
- ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（80％）
- ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
- 以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
- また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

テキスト

各課題により資料テキストを授業時に配付する場合があります。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して使用する事があります。学科毎に求められた場合には必ず毎授業持参すること。また、大学図書館、書店などに課題関連、基礎造形系の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。

用具

各課題制作に必要な準備・持参用具を適宜指示する。各自が使用する材料等は適宜購入してもらう場合があります。（各課題により異なります。）

履修希望者への要望・事前準備

プロダクトデザイン学科の中でも、大きく2つのコースがあり、さらに専門分野に細分化されていきます。これからの大学生生活はどの領域に進むかによって、学ぶこともより専門的になっていきますが、その第一歩となるのが、この素形材の授業です。それぞれの領域の課題に興味を持ち、完成度の高い作品制作を目差してください。

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインの最初の作品制作とそれを的確に記録するための実習である。
身近な製品をテーマに、持ちやすさ・使いやすさを考え、立体デザインとしてまとめていくことを目指す。
製品デザインでは、実際の製品を使い、問題点を洗い出し、解決するための手法を考え、造形に落ち込むための手法として、スケッチによりアイデア展開を行う。最後に簡単な発表を行う。
スケッチしたものから選んだアイデアを立体化し、実際に持ちやすさ・使いやすさを検証し、提案モデルを制作することで、機能と造形のバランスを学ぶ。
写真では基礎造形Ⅱで制作した作品をもとに、ライティングやセッティング、構図など作品を魅力的に見せるための写真撮影手法を学ぶ。

達成目標

〈スケッチ〉自分で考えたアイデアを紙の上（平面上）に、第3者が理解できるように表現できる。
〈モデリング〉スケッチで発想したアイデアを的確に立体化し、それが製品としての機能を満たすような造形となっている。
〈写真〉カメラの基本的操作・適切なライティングで、自身の作品をより魅力的なものに見えるよう撮影を行うことが出来、その後の画像処理ができる。

授業計画

製品のデザイン（スケッチ）

- 第1回：課題説明
- 第2～4回：スケッチ展開
- 第5回：発表・講評

製品のデザイン（モデリング）

- 第6回：課題説明
- 第7～9回：モデリング
- 第10回：発表・講評

写真（製品を効果的に見せる）

- 第11回：デジタル一眼レフの基本操作講義
- 第12回：撮影1／セッティングとライティング基礎
- 第13回：撮影2／作品の撮影
- 第14回：撮影3／作品の撮影
- 第15回：撮影4／作品の撮影、講評

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（20％）
 - ・受講、制作の準備ができていた。
 - ・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
 - ・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
- ②成果物（作品）の内容（80％）
 - ・課題の条件を満たしている。
 - ・指導を成果に生かすことができた。
 - ・十分な考察と制作をした。
 - ・プレゼンテーション

以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。
これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。
また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

テキスト

必要に応じて、適宜指示または配付する。

参考書・参考資料等

〈写真〉デジタル映像表現「改訂版」デジタル映像表現編集委員会編（CGARTS協会）3,150円

用具

授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

プロダクトデザインにおける作品制作は、「想像を巡らせ」「考える」ことから始まる。身の回りにあるモノを使いながら、使いやすさ・扱いやすさなどを気にかけながら生活することで、何かしらの発見や気づきがあるはずである。そういった経験を蓄積しておくこと。

プロダクトコンピュータ演習

1 学年 後期 必修 演習 2 単位
金澤孝和

授業の概要およびテーマ

コンピュータ基礎演習の発展としてAdobe Illustrator及びPhotoshopを自由に使いこなし、思い通りに、かつ正確に作画するための練習を行う。またIllustratorとPhotoshopの連携した使用方法についても、より詳しく学習する。

達成目標

- ・Illustrator／Photoshopをツールとして思い通りに、かつ正確に操作ができる。
- ・知識を応用して期限内に課題制作ができる。

授業計画

- 1 ガイダンス／Illustrator
- 2 Illustrator
- 3 Illustrator
- 4 Illustrator
- 5 Illustrator
- 6 Illustrator
- 7 Illustrator
- 8 Photoshop
- 9 Photoshop
- 10 Photoshop
- 11 IllustratorとPhotoshopの連携
- 12 IllustratorとPhotoshopの連携
- 13 IllustratorとPhotoshopの連携
- 14 IllustratorとPhotoshopの連携
- 15 まとめ／講評

学生に対する成績評価基準

提出課題と受講姿勢（提出課題70％、受講姿勢30％）の総合点を基準とし、欠席・遅刻・早退は総合点から減点する。
なお成績評価の前提条件として、2／3以上の出席が必須。また課題提出が締め切りを過ぎた場合は、遅れた日数により提出課題評価から減点する。

テキスト

授業時にプリントを配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じて適時指示する。

履修希望者への要望・事前準備

この授業では、Illustrator、Photoshopの基本操作は前期で習得していることを前提としている。不安のある履修者は事前に予習をしておくこと。授業開始時に重要な説明を行うことが多い。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となる。十分注意すること。

プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ

2 学年 前期 必修 実習 4 単位

◎金澤孝和、池永 隆、金山正貴、菊池加代子、齋藤和彦、
境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲

授業の概要およびテーマ

ある指定された具体的な素材、材料を活用し、様々な試行錯誤を繰り返しながら機能あるものを作り上げる。とにかく現物に触れて確認しながら、試しながら考えることを重視する。

2つの課題に取り組み、1つはプロダクトデザインコース、1つはテキスタイル・ファッションデザインコースからのテーマとする。また、全体を2つのグループに分けて、授業を行うため、第一課題と、第二課題の順番はグループにより異なる。

達成目標

- ・アイデアを出すこと、発想すること。
- ・その時点でのベストを尽くしたと言えるような作品を作ること。

授業計画

「第一課題」プロダクトデザインコース課題

01 ガイダンス、ブレインストーミング

02 調査

03～06 コンセプトの検討

07～10 造形検討

11～14 モデル制作

15 講評

「第二課題」テキスタイル・ファッションデザインコース課題

16 ガイダンス、染色

17～18 染色

19～21 織り、ソーイング

22 レクチャー、アイデア検討

23 アイデア検討、試作

24～29 制作

30 講評

学生に対する成績評価基準

2つの課題の総合点から欠席及び・遅刻点を減点する。

ただし、2/3以上の出席および課題提出が単位修得の必要条件となる。

テキスト

授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

週2回の授業であるが、授業時間だけの作業では決して満足するような結果は得られない。毎回の授業において教員に指摘されたことに、授業外の時間を使って取り組むことが大切である。

プロダクト材料学

2 学年 前期 必修 講義、学外見学 2 単位

◎菊池加代子、齋藤 博

授業の概要およびテーマ

人類は、道具を利用して自然素材から身体を使い様々な生活必需品を作ってきました。現在では、自然素材はもとより、自然素材を人工的に合成、改良する事で新素材を開発し、製造工程は手作業から多岐に進化して様々な製造方法で製品が流通しています。

ものづくりに於いては、原材料の知識から製造工程までを理解しなくては製品をつくることはできません。

本授業では、世界各地の伝統的ものづくり文化や最先端の素材技術開発を柔軟な思考で捉え、地球環境や持続性も踏まえて私達のデザイン活動に应用が出来る事をテーマとします。

達成目標

ものづくりを構成する素材に関する幅広い知識を習得し、それらの造形方法および製造技術の現実を理解する。

伝統的ものづくり文化や最先端の素材技術開発を柔軟な思考で捉え、地球環境や持続性も踏まえて私達のものづくり活動に应用が出来る。

授業計画

8 回を講義

7 回分として3日間の学外見学

学生に対する成績評価基準

授業内容に合わせた提出物（レポート及び制作するサンプル等）を評価の対象とし、未提出がある場合は単位を与えません。

提出が遅れた場合は、日数に応じて減点します。

欠席、遅刻、早退、問題のある授業態度（居眠りやおしゃべり等）は、減点の対象とします。

出席・遅刻の基準

遅刻は、授業開始の「5分」まで、厳しくとります。

出席に対する不正があった場合は、減点します。

テキスト

授業開始時に必要な資料を配付します。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介します。

用具

適宜、授業の中で指示します。

履修希望者への要望・事前準備

暮らしに必要な「もの」を改めて観てみましょう。一日に必要な「もの」はどのくらいあるでしょうか？その素材はなんですか？どのようにしてつくられているのでしょうか？

そして、それに満足していますか？気に入っているところや不満なところは？

いろいろな「もの」に興味を持って観察して見直してください。

生産技術論

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
◎境野広志、長谷川克義、齋藤 博

授業の概要およびテーマ

人類は道具を活用して天然材料から手作業で生活に必要なものを作ってきました。それを発展させることで複雑かつ高機能なものも大量に製造することができるようになり、現在では人工的に合成した新素材も加わってますます多種多様な工業製品が流通しています。

ものづくりに際しては、適した素材の選択と所望の形や構造に造り上げる生産技術を知る必要があります。本授業では、各種の工業材料の用途を把握し、それを工業製品に仕上げるまでの基本的な製造プロセスを学ぶことによって、より高機能な製品の開発が容易に行えるようになることを意図しています。

達成目標

工業製品を構成する素材に関する幅広い知識を習得し、それらの造形法および製造技術の現実を理解する。

また、設計者、生産者、コンシューマー間のコミュニケーション用語を理解し、自分の言葉として活用、説明ができるようになる。

授業計画

- 1 イントロダクション：ものづくりの歴史と生産技術
- 2 材料の種類と用途：構造用材料、機能性材料、天然材料
- 3 鉄が主体の金属材料 1：鋼、炭素の役割、熱処理
- 4 鉄が主体の金属材料 2：ステンレス鋼、鋳鉄、耐熱合金
- 5 非鉄金属材料：アルミニウム、銅、マグネシウム、チタン、貴金属
- 6 有機材料 1：プラスチックを中心として
- 7 有機材料 2：複合材料、ゴム
- 8 無機材料：セラミックス、ガラス
- 9 加工法 1：除去加工（切削、研削、放電、レーザー）
- 10 加工法 2：変形加工（プレス、鍛造、鋳造、粉末）
- 11 加工法 3：付加・接合加工（3D造形、溶接、ろう付）
- 12 加工法 4：処理加工（めっき、CVD、PVD、塗装）
- 13 自然素材（木材、紙）の材料特性と加工
- 14 生産管理技術と最新生産技術
- 15 総まとめ

学生に対する成績評価基準

レポート課題（40%）と小テスト（60%）で評価します。
出席率が2/3を下回る場合は単位を与えられません。
遅刻は3回で1回の欠席扱いとします。

テキスト

授業開始時に必要な資料を配付します。

参考書・参考資料等

特に指定しませんが、情報源と情報媒体を折に触れて活用してください。

履修希望者への要望・事前準備

多種多様な工業製品に関心をいだき、デザインのみならず、使われている素材や特徴を想像する習慣を身につけて下さい。さらに造形・組み立て技術の良し悪しを判断する癖を身につけて下さい。

プロダクトスケッチ実習Ⅰ

1 学年 後期 選択 実習 2 単位
◎齋藤和彦、池永 隆

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザイナーをはじめ新しいモノを生み出す仕事において、自身のイメージをスケッチなどで2次元表現することによって、第三者にそのカタチを伝える事が必須である。
このプロダクトスケッチ実習Ⅰでは、そうした「スケッチワーク」を基礎的な内容から学び、実践的なスキルレベルの習得を目指す。

達成目標

- ・スケッチ作業の原理原則を理解し、形状を正しくとらえる事が出来る。
- ・美しい線が描け、正確に面の明暗とコントラスト、素材の特徴を表現出来る。
- ・アイデアの発想、及びそのアイデアを具体的なスケッチとして再現できる。
- ・描いたスケッチが第三者へのコミュニケーションツールとして正しい情報を伝えられる。

授業計画

01. ガイダンス フリーハンドスケッチ
02. 透視図の理解と立方体の作図
03. 円柱と陰影を描く
04. 球体と陰影を描く
05. マーカースケッチ（マーカースの基礎）
06. マーカースケッチ（立方体と陰影）
07. マーカースケッチ（円・楕円・曲線）
08. マーカーとパステル・質感表現 1
09. 質感表現 2
10. 質感表現 3
11. 応用表現 1
12. 応用表現 2
13. 応用表現 3
14. 最終スケッチ・ベース（線画）の作図
15. レンダリング（完成予想図）制作

学生に対する成績評価基準

課題提出については毎回提出を原則とし、授業内容の理解度、作画の丁寧さ、完成度などを基準とした総合点とする。
詳細は授業ごとに指示をするので、それに従って提出のこと。
単位取得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。
提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。

テキスト

授業内で適宜プリントを配付する。

用具

コピックマーカー クールグレイ12色セット、コピックマーカー12色基本セット、パステル、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、コピー用紙（A3/A4）、修正液、定規など
コピックマーカーは各自用意すること。（参考）コピックマーカー12色セット 4,788円

履修希望者への要望・事前準備

スケッチの上達のためには、ある程度の訓練と繰り返しの作業が必要で、授業時間以外でも常に手を動かし、スケッチの練習をすることが重要である。
尚、本実習の単位取得は「プロダクトスケッチ実習Ⅱ」履修の条件となる。

プロダクトスケッチ実習Ⅱ

2 学年 前期 選択 実習 2 単位
◎齋藤和彦、増田 譲

授業の概要およびテーマ

第1 学年後期に開講される「プロダクトスケッチ実習Ⅰ」の続きの授業の位置付けとなる。

生み出した造形やアイデアを第三者が理解しやすいスケッチとして表現し、より正確なコミュニケーションが図れることを目指す。この授業では、マーカーなどの画材を用いた手描きスケッチとPhotoshop、Illustratorを使用して、複合的な表現を必要とするプロダクト製品である輸送機器や家電・情報機器を中心にその手法を学習する。

達成目標

- ・工業製品の色彩、表面処理表現ができるようになる。
- ・デザインの意図が、的確に第三者に伝わるスケッチが描けるようになる。
- ・Photoshop、Illustratorによるスケッチが描ける。

授業計画

01. ガイダンス フリーハンドスケッチと着色
02. 三面図に着色（質感表現）
03. 輸送機器 1
04. 輸送機器 2
05. 輸送機器 3
06. 家電・情報機器 1
07. 家電・情報機器 2
08. 家電・情報機器 3 (Illustrator)
09. 家電・情報機器 4 (Illustrator)
10. 家電・情報機器 4 (Illustrator)
11. Photoshop スケッチ 1
12. Photoshop スケッチ 2
13. Photoshop スケッチ 3
14. 総合スケッチ 1
15. 総合スケッチ 2

＊授業内容により教室が変わることがあるため、その場合は指示にしたがうこと。

学生に対する成績評価基準

課題提出については毎回提出を原則とし、授業内容の理解度、作画の丁寧さ、完成度などを基準とした総合点とする。提出物の詳細は授業ごとに指示をするので、それに従って提出のこと。

単位取得には2/3 以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。

提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。

テキスト

授業内で適宜プリントを配付します。

用具

コピックマーカー グレイセット、コピックマーカー12色基本セット、パステル、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、コピー用紙（A3/A4）、修正液、定規など
コピックマーカーは各自用意すること。12色セット 4,788円（参考）

Photoshop, IllustratorがインストールされたノートPC。

履修希望者への要望・事前準備

「プロダクトスケッチ実習Ⅰ」を履修していることが条件。
スケッチは日頃からの練習が上達の早道であり、手を動かし、画材に慣れておくこと。
早く描けることが目標ではないので、第三者に理解しやすいスケッチを目指すこと。

プロダクト3DCG演習Ⅰ

2 学年 前期 選択 演習 2 単位
土田知也

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインのプロセスにおいて、時間短縮のため及びより自由な造形のため3 DCG（CAD）は必要不可欠なツールとなっている。この授業ではプロダクトデザインの現場で、最もよく使われているソフトの一つであるRhincerosの基本的な操作を学習する。

達成目標

- ・毎回学習する操作方法を確実にマスターすること。
- ・課題で提示されるモデルを完璧に作り上げること。
- ・提出期限を守ること。
- ・自分のイメージした質感、色彩で美しくレンダリングできるようになること。

授業計画

01. ガイダンス及び数値入力、直線
02. 円、円弧、編集
03. 自由曲線
04. サーフェース 1
05. サーフェース 2
06. ソリッド
07. レンダリング
08. ソリッドの変形
09. ブレンド
10. レールスイープの応用
11. ネットワークサーフェース
12. 3Dカーヴ
13. モデリング練習
14. 自由制作課題
15. 自由制作課題

学生に対する成績評価基準

毎回提出される課題の総合点から、欠席、遅刻点を減点する。

ただし、2/3 以上の出席及び課題提出が単位修得の必要条件となる。

なお、公欠事由、病気、事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。

テキスト

毎回の授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

「Rhinceros Ver 5 入門」是枝靖久著 ラトルズ 3,800円

<http://www.rhino3d.co.jp/>

履修希望者への要望・事前準備

本演習は2 年後期に開講される3 DCG演習Ⅱを通して、デザインのツールとして3 DCGをある程度使いこなせるようになることを目的としている。従って、ゴールから逆算したカリキュラムとなり、課題は毎回提出され確実に授業時間内では終了しない。とりあえず経験のために受講しようという様な姿勢では続かないので注意すること。

プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（A）

2 学年 後期 選択 実習 4 単位

◎金山正貴、池永 隆、金澤孝和、齋藤和彦、境野広志、土田知也、増田 謙

授業の概要およびテーマ

設定された具体的な製品領域のもとで、調査からプレゼンテーションにいたる一通りのプロセスを踏襲して課題制作に取り組む。第一から第三課題ともグループワークと個人ワークを組み合わせ、取り組み以下の3つの課題を設定する。

- ①家電・情報機器の領域
- ②ユーザー体験をベースにしたサービス・UI領域
- ③生活雑貨・日用品の領域

達成目標

- ・今までの授業で得た、知識・スキルをフルに活用した課題制作を行うこと。
- ・結果のみならずプロセスを大切にしたい取り組みを行うこと。
- ・ポートフォリオに載せられるようなレベルの高い作品を作ることを。

授業計画

「第一課題」

- 01 ガイダンス、調査
- 02 調査
- 03～04 コンセプトの検討
- 05～06 造形検討
- 07～09 モデル制作、プレゼンテーション準備
- 10 プレゼンテーション

「第二課題」

- 11 ガイダンス、調査
- 12～13 調査分析 まとめ
- 14～15 コンセプトの検討
- 16～17 UI・シナリオ検討
- 18～19 ムービー制作、プレゼンテーション準備
- 20 プレゼンテーション

「第三課題」

- 21 ガイダンス、調査
- 22 調査
- 23～24 コンセプトの検討
- 25～26 造形検討
- 27～29 モデル制作、プレゼンテーション準備
- 30 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

課題の総合点から欠席・遅刻点を減点する。

なお、2/3以上の出席及び課題提出が単位取得の必要条件となる。

テキスト

授業において適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示する。

用具

第二課題では、Adobe Premiereをインストールした PC（win,mac どちらかで可）の用意をすること。

履修希望者への要望・事前準備

授業時間はもちろん、授業外の取り組みが大切である。少しでも良いものにするべく前向きに取り組んで欲しい。

プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（B）

2 学年 後期 選択 実習 4 単位

◎鈴木均治、菊池加代子、専任教員

授業の概要およびテーマ

織・染・ファッションそれぞれの基礎を学び3年次の専門選択の一助とする。

織：織機を用いた布制作と動物性繊維の糸染め、ウールの縮絨仕上げを習得する。

染：型糊防染及び型捺染による作品制作をとおして連続模様を習得する。

ファッション：衣服製作の基本構成（製図）を理解することに主眼をおき、ベーシックウェアより基本構成（製図）の展開と製品加工により、オリジナル作品を製作する。

製作行程を理解し、組み立て方を考察します。

達成目標

- ・素材の特性および手法における制約を理解しデザインに生かすことが出来る。
- ・制作における各工程の作業の意味を理解することが出来る。
- ・ファイル等で制作の記録をまとめることが出来る。
- ・期限を守り課題作品を提出することが出来る。
- ・安全に注意を払い、一人で作業することが出来る。

授業計画

織・染・ファッションの内容をそれぞれ5週間を2または3のグループでローテーションする。

織

- 01 〈ストライプとチェック〉ストライプのデザイン・「Weaving note（織計画表）」作成・織機に経糸をかける
- 02 〈ストライプとチェック〉織機に経糸をかける・織
- 03 〈マフラー〉デザイン・ウールの糸染め・「Weaving note（織計画表）」作成
- 04 〈マフラー〉織機に経糸をかける・織
- 05 〈マフラー〉仕上げ・講評

染

- 06 精練・敷き糊・唐草型型彫り/豆引き・紗張り・藍建て・基本型説明
 - 07 唐草糊置き・基本型型彫り・紗張り/基本型糊置き・応用型説明
 - 08 藍染・応用型デザインチェック・応用型型彫り/応用型紗張り・型捺染説明
 - 09 応用型糊置き・型捺染デザインチェック色糊説明/応用型藍染・型捺染糊置き
 - 10 型捺染しごき・蒸熱・仕上げ/プレゼン・講評
- ファッション
- 11 デザイン考案、パターン（製図）制作
 - 12 裁断、縫製
 - 13 縫製
 - 14 縫製、加工
 - 15 加工、仕上げ

学生に対する成績評価基準

製作姿勢及び理解度（50％）課題による成果物（作品）の内容（50％）を合わせた評価。

出席・遅刻の基準

遅刻は5分までとする。遅刻及び欠席は素点より減点する。

テキスト

課題資料としてプリントを配付。

用具

織：糸代として3,000円から4,000円程度必要となります。

染：布代として1,000円程度必要となります。

ファッション：授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業時間だけの作業だけでは決して満足するような作品は出来上がらない。製作行程を各々しっかり計画立てること。

プロダクトCAD演習

2 学年 後期 選択 演習 2 単位
◎土田知也、金山正貴

授業の概要およびテーマ

立体デザインの分野では「図面」の作成・読解は不可欠の能力である。この授業では具体的な図面作成上の約束事、表現のノウハウ等を具体的な課題により養う。基本はJISの機械製図に基づくが、デザイナーの描く図面としての特性も加味する。
なおソフトはRhinoceorsを使用し、基本的なオペレーションはプロダクト3DCG演習Ⅱにて身につけていることを前提とする。

達成目標

- ・JIS規格の図面の書き方の基本をマスターすること。
- ・課題において決まりごとをしっかりと守って図面を描くこと。
- ・提出期限を守ること。

授業計画

- 01 授業ガイダンス CADとは？
- 02 図面の基本1（図法、寸法、線種）、練習問題1
- 03 練習問題2
- 04 図面の基本3（断面法、矢視図）、練習問題3
- 05 練習問題4
- 06 図面の基本5（複合円弧）、練習問題5
- 07 練習問題6
- 08 練習問題7
- 09 練習問題8
- 10 練習問題9
- 11 実力チェック問題
- 12 実物の図面化1
- 13 実物の図面化1
- 14 実物の図面化2
- 15 実物の図面化2

学生に対する成績評価基準

提出課題の総合点から欠席、遅刻点を減点する。
ただし、2/3以上の出席および課題提出が単位取得の必要条件となる。
なお、公欠事由、病気、事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。

テキスト

01～06はプリントを配付する。

用具

ノギス、直線定規

履修希望者への要望・事前準備

本演習はプロダクト3DCG演習Ⅰの単位取得を受講条件とする。
また、それなりに複雑な図面を描けるようになることを目的とするため負荷もそれなりに高い。何となく、あるいは、とっておいた方がよいと言われたから等の後ろ向きな理由での履修は遠慮してもらいたい。もちろん、図面が描ける様になりたいという強い意志を持つての履修は学科を問わず歓迎する。

プロダクト3DCG演習Ⅱ

2 学年 後期 選択 演習 2 単位
土田知也

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインのプロセスにおいて、時間短縮のため及びより自由な造形のため3DCG（CAD）は必要不可欠なツールとなっている。この授業はプロダクト3DCG演習Ⅰの続きの授業であり、Rhinoceorsの高度な操作を学習し様々な対象をモデリング、レンダリングする。

達成目標

- ・新たに学んだ操作方法を確実にマスターすること。
- ・課題で提出されるモデルを完璧に作り上げること。
- ・提出期限を守ること。
- ・自分の描いたカタチを自由に立体化できるようになること。

授業計画

- 01 モデリング：アイロン
- 02 モデリング：アイロン
- 03 モデリング：マウス
- 04 モデリング：マウス
- 05 高度なレンダリング
- 06 高度なレンダリング
- 07 モデリング：リール
- 08 モデリング：リール
- 09 モデリング：化粧品のボトル
- 10 モデリング：化粧品のボトル
- 11 モデリング：スプーン
- 12 モデリング：スプーン
- 13 モデリング：一輪挿し
- 14 自由課題制作
- 15 自由課題制作

学生に対する成績評価基準

原則として毎回提出される課題の総合点から、欠席・遅刻点を減点する。
ただし、2/3以上の出席及び課題提出が単位取得の必要条件となる。
なお、公欠事由、病気・事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。

テキスト

毎回の授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

Rhinoceorsオフィシャルトレーニングブック 中島淳雄他著
（株）ワークスコーポレーション 4,743円（税抜）

履修希望者への要望・事前準備

本授業はプロダクト3DCG演習Ⅰの単位取得を受講条件とする。

ファッション画実習				
2 学年	後期	選択	実習	2 単位
金石浩一				

授業の概要およびテーマ

社会におけるデザイン画の描き方、およびファッション画の描き方をプロダクトを通して、その必要性を習得するとともに、人に伝えなければならない情報もしくは自分なりのメモとしての視点やスケッチ力を磨く。
個性を大切にしたいドローイングやファッション画とコラージュなどによる個々のオリジナルなイメージボードを制作します。

達成目標

- ・現在のファッション業界が必要としている、ファッションデザイン画を描く事が出来る。
- ・衣服をデザインした時のバランス感、デフォルメの仕方を習得できる。
- ・個々のおいた設定よりオリジナルな衣服デザイン、イメージボードの作成ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス、ファッションイラストの表現力と個性
- 02 ハンガーイラストとファッション画の描き方
- 03 ハンガーイラストとファッション画の描き方
- 04 デフォルメとバランスとポージング
- 05 デザインとデザイン画とスタイル画（着衣）ドローイング
- 06 デザインとデザイン画とスタイル画（着衣）ドローイング
- 07 着彩：素材表現とテクニック、ソフト イラストレーターによるテクニック
- 08 着彩：実習
- 09 着彩：素材表現とテクニック フォトショッップによるテクニック
- 10 着彩：実習
- 11 ファッションイメージ：コラージュ
- 12 ファッションイメージ：コラージュ
- 13 イメージボード制作
- 14 イメージボード制作
- 15 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70％、授業参加態度・制作姿勢30％

テキスト

授業内でプリントを配付するほか、適宜指示します。

参考書・参考資料等

- ・ファッション・デザイナーの創作スケッチブック ハイウエル・デヴィス 著 P-Vine BOOKs
- ・ファッションデザインアイデアノート サイモン・トラバース＝サリダ・ザマン 著 グラフィック社

用具

授業のガイダンスで適宜指示します。
着彩の授業の時は、水彩、色鉛筆、もしくはコンピューターでの作業など各々用意してもらいます。

履修希望者への要望・事前準備

授業内のみの学習ではなかなか成果、達成は得られません。技術習得というのは修練を重ねた上に成り立ちます。人物画を得意とする人、そうでない人も探究心をもって諦めずに授業にのぞんで下さい。
事前準備としては、「こんな絵が好き」、「こんな服が好き」というものを（写真の切り抜きで良いので）見つけて（ファイリングする）おいてください。

テキスタイル・ファッションCAD演習				
2 学年	後期	選択	演習	2 単位
◎山本正記、安永 哲				

授業の概要およびテーマ

この授業は、テキスタイル（山本正記）ファッション（安永 哲）が分担して行ないます。
テキスタイル・ファッションを専攻する学生には必須の授業です。
〈テキスタイル〉
プリントにおけるPCの関わり方としては大別して2種類考えられる。一つには人の手によって行われていた作業の効率を高め、製品の安定を計るという目的。もう一つには、染色用インクジェットプリンター等、従来の方法とは異なる出力を前提とした表現の追求にあると考える。
この授業では、photoshop/ Illustratorをツールに、通常のシルクスクリーンプリントを出口とした表現。ダイレクトインクジェットプリントを前提とした表現。PCと連動したジャガード織りを出口とした表現。それぞれへの考察並びにデータの作成について学んでゆく。
この授業はパワーポイントを使った解説と演習にて進行する。
尚、授業計画は担当講師が授業の進捗具合から判断し変更する事がある。
〈ファッション〉
現在のパターン（製図）はアナログのみならずデーター化したもののでの対応が一般化しており、それによってよりグローバルな対応を可能にしている。CADにより基本的製図理論の理解とパターン（製図）展開法を習得する。
3D CADとの連動により2次元であるパターンの可視化、修正や変更へのよりスピーディーな対応の方法、基礎的工業用パターンへの展開方法等を習得する。

達成目標

- 〈テキスタイル〉
 - ・学内にてのシルクスクリーンプリントを前提としたデータ制作
 - ・ダイレクトインクジェットプリントを前提としたデータ製作
 - ・シルクスクリーンプリントにおけるリポート（送り）を理解する。
 - ・プレゼン用の簡単な2Dマッピング作成
 - ・PCと連動したジャガード織への理解を深める
- 〈ファッション〉
 - ・原型（服のゆとりやデザインが最小限のもの）より、ベーシック（シャツ等）の製図がCADにより描ける。
 - ・基本的製図の理論と展開方法が理解できる。
 - ・同一デザインの内、素材（生地や柄）の違いによるシルエットの変化がわかる。

授業計画

- 〈テキスタイル〉
 - 01 授業説明・カラーマネジメントを含めた色の問題等について
 - 02 Photoshop/ Illustratorを使用したチェック、ドット等ベーシックな柄作り
 - 03 Photoshop/ Illustratorを使用した各種リポート柄柄作り
 - 04 Photoshop/ Illustratorを使用した各種リポート柄と2Dマッピング
 - 05 Photoshop/ Illustratorを使用したシルクスクリーンプリントの為のデータ作成①
 - 06 Photoshop/ Illustratorを使用したシルクスクリーンプリントの為のデータ作成②
 - 07 Photoshop/ Illustratorを使用したインクジェットプリントの為のデータ作成と2Dマッピング①
 - 08 Photoshop/ Illustratorを使用したインクジェットプリントの為のデータ作成と2Dマッピング②
 - 09 photoshopを使用したジャガード用データ作成と2Dマッピング①
 - 10 photoshopを使用したジャガード用データ作成と2Dマッピング②
- 〈ファッション〉
 - 11 アパレルCAD基本操作法、基礎製図理論：
 - 12 ベーシックパターンⅠ、3D CAD展開
 - 13 ベーシックパターンⅡ、3D CAD展開
 - 14 グレーディング（サイズ展開、製図柄配置）
 - 15 工業用パターン展開、実物パターン（プリントアウト）

学生に対する成績評価基準

〈テキスタイル〉
成績は提出された課題の評価による。
〈ファッション〉
課題提出内容と最終回のデーター測定を基に「達成目標」に照らし合わせ評価します。
出欠席回数は最終評価の減点対象となります。
＊テキスタイル3分の2、ファッション3分の1の割合で集計して成績をつけます。

出席・遅刻の基準

〈テキスタイル〉
出席等に関しては大学の規定に従うこととする。

テキスト

〈テキスタイル〉
必要があれば授業内でプリントを配付する他、適宜指示します。
〈ファッション〉
授業内でプリントを配付するほか、適宜指示します。

用具

〈テキスタイル〉
基本的にデータのやり取りには外部ストレージの利用を考えて居るが、個人用にUSBメモリーか外付けハードディスクを用意する事が好ましい。
ラフスケッチ用にクロッキー帳と筆記用具

履修希望者への要望・事前準備

〈テキスタイル〉
Photoshop/ Illustratorに関しては基本操作ができることが前提となっています。（頑張ってください）
加えてIllustratorのオブジェクト/パターンを使用するのは、全体を意識しながらデザイン（部分）を作成して行く為です。意識してください。
用具の欄にクロッキー帳と筆記用具と記したが、此れはパソコン上での作業が直接的に進みやすいためで在り、イメージの広がり易い環境を各自が作る必要が在ると考え得て居る為である。
沢山のテキスタイルに興味を持ち、良く観察する事。
〈ファッション〉
週1回1コマの授業となる為、完結して授業の復習は必ずしてください。遅刻や欠席でも授業を理解するための障害となるので十分注意をすること。

11-3-2 専門教育科目[プロダクトデザイン学科コース別科目]

プロダクトデザイン演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎土田知也、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、齋藤和彦、
境野広志、増田 譲

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインの専門導入授業として、具体的なテーマに対しデザインワークを一貫したフローで進め、カタチだけではない総合的なデザイン提案を行う。

第一、第二課題でそれぞれ産学協同プロジェクト、各種デザインコンペティション参加を経験する。そのことにより社会におけるデザインの役割を理解し、自らのデザインを広く発信していく力を養う。

達成目標

- ・プロダクトデザイナーとしての発想力、企画力、プレゼンテーション力の強化
- ・スケッチをはじめ、自ら考えたデザインを表現する方法の試行と理解
- ・社会におけるデザインの役割、デザイナーの立ち位置の理解

授業計画

課題1（産学協同プロジェクト）

- 1 ガイダンス／課題説明、ブレインストーミング
- 2 調査、考察
- 3 コンセプトの検討
- 4 アイデア展開
- 5 中間講評
- 6 制作
- 7 制作
- 8 プレゼンテーション／課題2説明

課題2（各種デザインコンペティション）

- 9 調査、考察
- 10 アイデア展開
- 11 中間講評
- 12 制作
- 13 制作
- 14 制作
- 15 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

プレゼンテーション内容を含めた課題得点と中間講評の得点の総合点を基準とする。欠席・遅刻・早退は最終評価から減点する。
なお成績評価の前提条件として、2／3以上の出席が必須。

履修希望者への要望・事前準備

本授業は、2年時までの基礎造形力、プロダクトデザインに関わるスケッチのスキル、コンピュータのスキルなどの専門教育の修得を前提としている。不安のある履修者は事前に予習などをしておくこと。

プロダクトデザイン演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎境野広志、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、齋藤和彦、
土田知也、増田 譲

授業の概要およびテーマ

将来を見据えて必要とされる有用なデザインスキル、デザイナーとしての思考を体得する。

第1課題は社会におけるデザイナーの実務を想定し、グループで問題発見からソリューションまでプロジェクト型で演習を進める。

第2課題は家電/情報、生活雑貨/家具、トランスポートレーションなどの領域ごとに課題を設定する。

その中から自分の進路や将来を想定し、課題を選択する。

社会や技術の動向を踏まえ、調査、問題探索も含めた新規性の高いソリューションデザインや商品の企画、仕様、造形を通して、質の高いプロダクトデザインを提案する。

達成目標

デザイナーとしての発想力、企画力、造形力、プレゼンテーション能力の獲得。

さらに社会のニーズに応えられるようなソリューション発想を体得する。

また社会人としての認識やモラルを身に付け就職、進学等への活動に臨めるようにする。

授業計画

01 ガイダンス

02～07 第1課題（グループ分け、課題発見、コンセプト立案、アイデア展開、制作）

08 第1課題 プレゼンテーション

09～14 第2課題（調査、コンセプト立案、アイデア展開、評価、制作）

15 第2課題 プレゼンテーション

（詳細な進行は設定された課題、テーマによる）

学生に対する成績評価基準

単位取得には10回以上の出席を必須とする。

成績については2つの課題の得点を均等に評価し基準点とする。

欠席日数や授業参加態度は最終評価において減点の対象となる。

参考書・参考資料等

個別に指示する

用具

アイデア展開に必要な画材およびコンピュータ。

モデル制作に必要な材料、各道具類は各自準備すること。

履修希望者への要望・事前準備

本授業はプロダクトデザイナーになるための教育として、仕上げる段階にある。

学生個々が自分の将来を見据えて課題選択すること。

またこの授業での作品が自分の代表作となることを意識し、自主的・積極的に臨んでほしい。

テキスタイル・ファッション演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位
◎鈴木均治、菊池加代子、専任教員

授業の概要およびテーマ

織・染・ファッションから何れか一つ選択する。

織：「織物の構造を理解し、織機を用いて自由な布が制作出来る」を目標に糸染めも含めた基礎技術の習得とそれを応用したテキスタイルデザインを実践する。

染：型染め（型糊防染・型紙捺染・スクリーン捺染）を通してリピート模様の染色を布に実践する。

ファッション：ベーシック（原型パターン）からのデザイン展開、マテリアル研究、立体裁断と平面構成によるパターン制作、製造工程の理解とともに作品製作までの基礎的服飾造形手法を習得する。マーケティングマップ等の制作方法を習得しポートフォリオを制作する。

達成目標

染・織共通

- ・課題の内容をレポートにまとめ整理することが出来る。
- ・制作習慣が身につくこと、また計画通りに作業を進めることが出来る。
- ・教授された方法で糸や布を扱い染や織をすることが出来る。
- ・安全に注意を払いガス・薬品・器械等を取り扱うことが出来る。

染

- ・技法の特性を理解しイメージを具現化することが出来る。

織

- ・織機と糸と組織の関係を理解し、作品を制作し発表することが出来る。

ファッション

- ・生地とデザインの関係性を理解できる。
- ・プロダクトとしてのファッションの役割と時代の流れを読み取り、デザインに活かすことが出来る。
- ・個々のデザインイメージは筋道を立てコンセプトを立案し「使えるモノ」として具現化することが出来る。

授業計画

- 織
- 01～07 〈織物組織〉ガイダンス・織物組織解説・サンプル制作・作品（厚い布）デザイン・制作・講評
- 08～15 〈絛織り〉絛織り解説・サンプル制作・作品（薄い布）デザイン・制作・講評

- 染
- 01～03 型防染技法による（引き染め）植物柄の作成
- 04～10 型紙捺染技法による植物柄および自由柄の作成
- 11～15 スクリーン捺染技法による幾何文様等の作成
- ファッション
- 01～04 表現基礎Ⅰ（原型パターン理論、立体裁断）
- 05～08 表現基礎Ⅱ（リサーチによるコンセプト立案、立体裁断と平面構成によるパターン制作、材料研究）
- 09～14 加工、裁断、縫製 マーケティング方法論
- 15 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

課題や制作への理解度と受講姿勢50%、作品による評価50%
出席率2／3を下回る場合、課題提出の有無・内容に関係なく単位は与えません。また出席率2／3を上回る場合でも作品・制作姿勢の内容によっては単位を与えないことがあります。

出席・遅刻の基準

始業時までを出席。20分までを遅刻とする。

テキスト

ファッション：専門書が必要となり初回概説にて指示します。

用具

ファッション：洋裁材料一式（ハサミ等）その他は初回概説にて指示します。

履修希望者への要望・事前準備

授業間の制作作業では、授業進度に合わせて各自が計画的に進めてください。授業は主としてレクチャー及びデザインチェック、受講者からの疑問等を解決する時間です。またデザイン案を求められた際には一案だけでなく必ず複数案準備しておくよう心がけてください。

テキスタイル・ファッション演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位
◎鈴木均治、菊池加代子、専任教員

授業の概要およびテーマ

演習Ⅰで履修した同分野を履修する。

織：織物の確かな知識と技術を基に、イメージ・素材・技法の連関を認識した作品制作を行なう。素材や技法の枠を超え、既成概念にとらわれない自由なテキスタイルデザインの創作を実践する。

染：前演習で修得した知識・技法をベースに、イメージ・素材・技法の連関を意識して、制作を通して染色表現の可能性を追求する。

ファッション：マーケットリサーチをもとにブランディングのコンセプト立案をする。コンセプトより商品企画を考察し、ウェアを始めファッションの領域であるバッグや帽子などのデザインおよびマテリアル研究を行う。パターンにおいては立体裁断と平面構成（CAD）を使用し、より効率的な作業手法を習得する。

ブランディングをもとにポートフォリオを制作する。

達成目標

染・織共通

- ・課題の内容をレポートにまとめ整理することが出来る。
- ・制作習慣が身につくこと、また計画通りに作業を進めることが出来る。
- ・教授された方法で糸や布を扱い染や織をすることが出来る。
- ・安全に注意を払いガス・薬品・器械等を取り扱うことが出来る。

染

- ・技法および素材の特性を理解、また布に染めることの意味を考察した上で作業が行われている。

織

- ・素材の特性・織組織・機の仕組みを理解し、作品制作し発表が出来る。

ファッション

- ・筋道の通ったコンセプト（時代の流れを読み取り配慮したもの＝着目点）を立てることが出来る。
- ・コンセプトに基づいたデザインワークおよび作品制作が出来る。

授業計画

- 織
- 01～07 〈二重織り〉サンプル制作・植物繊維の染色・作品（立体orレリーフ状の布）デザイン・制作・講評
- 08～15 〈コンピュータドビールーム〉サンプル制作・作品制作・講評
- 染
- 01～05 生地とは異なった表情をもつ染布の提案（錯視効果などを利用したリピート模様を制作する。）
- 06～12 布の二次製品への展開を考慮した模様染め1（指定された生地から用途を決め、生地の特性に合ったリピート模様を提案する）
- 13～15 布の展開を考慮した模様染め2（ラッピングの発想から風呂敷を制作する）
- ファッション
- 01～05 表現基礎Ⅲ マーケティング、コンセプト立案、コーディネート考案、素材研究、デザイン決定
- 06～09 立体裁断、平面構成によるパターン制作、ポートフォリオ制作
- 10～14 加工、裁断、縫製
- 15 ポートフォリオをもとにプレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

課題や制作への理解度と受講姿勢50%、作品による評価50%
出席率2／3を下回る場合、課題提出の有無・内容に関係なく単位は与えません。また出席率2／3を上回る場合でも作品・制作姿勢の内容によっては単位を与えないことがあります。

出席・遅刻の基準

始業時までを出席。20分までを遅刻とする。

用具

ファッション：プログラムにおいて適宜購入

履修希望者への要望・事前準備

授業間の制作作業では、授業進度に合わせて各自が計画的に進めてください。授業は主としてレクチャー及びデザインチェック、受講者からの疑問等を解決する時間です。またデザイン案を求められた際には一案だけでなく必ず複数案準備しておくよう心がけてください。

11-3-3 専門教育科目[プロダクトデザイン学科ゼミ科目、卒業研究]

ゼミⅠ

3学年 前期 必修 演習 2単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲、専任教員

授業の概要およびテーマ

- ・課題内容、進行は研究室毎に設定し、専門書の輪読、テーマを設定しての調査、実際のデザインワーク、スキルアップのトレーニングなど多岐にわたる。
- ・研究室毎の内容についてはガイダンスの時に資料を配付するので選択の参考にする。
- ・学生は研究室の授業を2つ選択し、前後期でそれぞれ履修するが履修時期の指定はできない。
- ・コースの枠は無く、異なるコースの研究室の授業を履修することも可能である。
- ・一度の授業の履修人数は5人以下とするため、1つの研究室で受け入れる学生の人数はゼミⅠ・Ⅱ合わせて10人が上限 となる。前後期とも同じゼミの履修選択も可能だが、定員をオーバーした場合は成績上位の学生の希望を優先する。
- ・ゼミの選択と卒業研究の研究室配属は同じである必要はなく、異なる研究室を希望しても構わない。

達成目標

- ・デザインに対する知識、技術の幅を広げること。
- ・教員の専門性を認識し、研究室配属の一助となるようにすること。

授業計画

4/4(水): 3年生ガイダンス時、研究室毎の授業内容の資料・アンケート用意配付

4/6(金): 希望研究室のアンケート締め切り

4/9(月): 配属研究室の発表

以降は、それぞれの研究室による授業計画による。

第1回目の授業において指示される。

学生に対する成績評価基準

提出物・成果物の得点から、欠席、遅刻、履修態度により減点する。

参考書・参考資料等

各研究室ごとに、必要に応じ指示・配付する。

履修希望者への要望・事前準備

多様なものの見方が必要なデザイナーにとって、いろいろな分野に対する知識や見聞を得る機会として、積極的な姿勢で臨むこと。

ゼミⅡ

3学年 後期 必修 演習 2単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲、専任教員

授業の概要およびテーマ

- ・課題内容、進行は研究室毎に設定し、専門書の輪読、テーマを設定しての調査、実際のデザインワーク、スキルアップのトレーニングなど多岐にわたる。
- ・研究室毎の内容については、前期ガイダンス時に配付した資料に準ずる。
- ・前期で決定した履修時期・研究室に従って履修となる。履修時期の指定はできない。

達成目標

- ・デザインに対する知識、技術の幅を広げること。
- ・教員の専門性を認識し、研究室配属の一助となるようにすること。

授業計画

それぞれの研究室の履修内容に沿った授業計画となる。

日程・計画については、第一回目の授業において指示がある。

学生に対する成績評価基準

提出物・成果物の得点から、欠席、遅刻、履修態度により減点する。

参考書・参考資料等

各研究室ごとに必要に応じ指示・配付する

履修希望者への要望・事前準備

多様なものの見方を必要とされるデザイナーにとって、いろいろな分野に対する知識や見聞を得る機会として積極的に臨むこと。

卒業研究Ⅰ

4 学年 前期 必修 演習 3 単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲、専任教員

授業の概要およびテーマ

個人又は共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「研究論文」又は「論文及び制作」のための骨格・コンセプト・サンプルをまとめる。
その内容と規模は、それまでの学習を集大成するものであること。

達成目標

- ・スケジュールを順守し、それぞれ定められた内容を達成すること。
- ・今までに学んだことを十二分に発揮したものであること。
- ・提案においては既存のものには見られない「新しさ」を感じさせること。
- ・各自の提案に基づき、スケッチ・ボード・映像・ラフモックアップ・サンプルなどを用いた効果的なプレゼンテーションを行うこと。

授業計画

コース／研究室毎に異なるため、詳細は指導教員より指示を受けること。

チェック・審査は学科全体で行う。

01～02 ガイダンス・スケジュール計画

03～04 情報収集・調査・分析

05～07 テーマ設定・試作 中間チェック

08～10 「制作物」または「論文」の進捗状況チェック

11～14 発表用制作・準備・試作

学生に対する成績評価基準

履修態度、研究のプロセス、成果物の完成度などを勘案し、総合的に判断する。

出席・遅刻の基準

各研究室でルールを設定する。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

履修希望者への要望・事前準備

4 年間の学生生活最後の課題であり、集大成の作品としての完成度をを目指すこと。

卒業研究Ⅱ

4 学年 後期 必修 演習 3 単位

◎齋藤和彦、池永 隆、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、境野広志、鈴木均治、土田知也、増田 譲、専任教員

授業の概要およびテーマ

個人又は共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「研究論文」又は「論文及び制作」を行う。
・その内容と規模は、それまでの学習を集大成するものであること。
・卒業研究Ⅰと連続したテーマであること。

達成目標

- ・これまで学んだことを十分に発揮した作品であること。
- ・提案においては、既存のものにはみられない「新しさ」を感じさせること。
- ・本人の意図が第三者に100%伝わり、かつ美しいものであること。
- ・簡潔で制作意図が伝わる効果的なプレゼンテーションを行うこと。

授業計画

コース／研究室毎に異なるため、詳細は指導教員より指示を受けること。

チェック・審査は学科全体で行う。

01～03：中間発表に基づくデザイン決定と制作

04～11：制作・進捗状況チェック

12～14：完成度チェック・パネル制作・プレゼンテーションリハーサル

15：研究発表・審査

学生に対する成績評価基準

研究のプロセス、成果物の完成度をもとに、履修態度などを勘案し、総合的に判断する。

出席・遅刻の基準

各研究室でルールを設定する。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等

授業時に各研究室より、必要に応じ指示または配付する。

履修希望者への要望・事前準備

大学生活の集大成として、自身の代表作となるようなクオリティの高い作品づくりを目指すこと。
本科目は卒業研究Ⅰの単位を修得していなければ履修できない。

11-4-1 専門教育科目〔視覚デザイン学科共通〕

視覚コンピュータ基礎演習

1 学年 前期 必修 演習 2 単位

◎徳久達彦、金 牟洙、ヨールグ ビューラ、真壁 友

授業の概要およびテーマ

コンピュータはコミュニケーションの道具として欠かせないものになってきており、学内での掲示連絡手段としても活用されている。この授業では大学生活に必要な基本的なコンピュータの操作から始まり、自分のパソコンをデザイン道具として使う為の基本を、業界標準となっているソフトウェアを使い練習していく。簡単な図形を描くことから始まり、実際にデザインを行える技術と伝えるための方法へと発展させる。

達成目標

- ・コンピュータの基本の扱いを理解できる。
- ・Illustrator、Photoshopの基本操作を習得できる。
- ・情報のレイアウトの基本について理解できる。

授業計画

- 1 Illustratorの基本操作 1
- 2 Illustratorの基本操作 2
- 3 Illustratorの基本操作 3
- 4 Illustratorの基本操作 4
- 5 Illustratorの基本操作 5
- 6 Illustratorの基本操作 6
- 7 Photoshopの基本操作 1
- 8 Photoshopの基本操作 2
- 9 Photoshopの基本操作 3
- 10 Photoshopの基本操作 4
- 11 Photoshopの基本操作 5
- 12 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 1
- 13 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 2
- 14 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 3
- 15 情報のまとめ方とレイアウトの基礎 4

学生に対する成績評価基準

課題提出により評価

テキスト

授業時にプリントを配付する

参考書・参考資料等

授業中に適時指示

用具

ノートパソコン、Adobe CC

履修希望者への要望・事前準備

この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行う。操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を望む。授業開始時に重要な説明を行う事が多い。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となる。毎回の授業でノートパソコンを使います。ノートパソコン、電源アダプタ、ネットワーク接続用のケーブルを持参してください。

基礎造形実習Ⅱ（描写）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位

履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。デッサンをテーマとする。ここで言うデッサンは、対象を的確に捉え自分の手で再現することである。そのため、鉛筆で描くだけでなく油粘土を使用した立体による制作も行う。

達成目標

目の前の対象を的確に捉え、油粘土で再現することができる。同様に鉛筆で描き再現することができる。

授業計画

- 01 デッサン1「手」油粘土による模刻 1
- 02 デッサン1「手」油粘土による模刻 2
- 03 デッサン1「手」油粘土による模刻 3
- 04 デッサン1「手」油粘土による模刻 4
- 05 デッサン1「手」鉛筆によるデッサン 1
- 06 デッサン1「手」鉛筆によるデッサン 2
- 07 デッサン1「手」鉛筆によるデッサン 3
- 08 デッサン2「頭部」油粘土による模刻 1
- 09 デッサン2「頭部」油粘土による模刻 2
- 10 デッサン2「頭部」油粘土による模刻 3
- 11 デッサン2「頭部」油粘土による模刻 4
- 12 デッサン2「頭部」鉛筆によるデッサン 1
- 13 デッサン2「頭部」鉛筆によるデッサン 1
- 14 デッサン2「頭部」鉛筆によるデッサン 1
- 15 デッサン2「頭部」鉛筆によるデッサン 1

学生に対する成績評価基準

課題70%、授業態度30%

※遅刻・欠席は最終評価より減点します。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。授業開始20分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。

参考書・参考資料等

回の内容に応じ配付及び指示します。

履修希望者への要望・事前準備

必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。

基礎造形実習Ⅱ（造形）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。グラフィックを中心テーマとする。文字のバランス、グラフィックにおける基本図形の扱いのトレーニング、マーク・シンボルの作成、写真の撮影を行う。

達成目標

文字を書くときに最も大切な「バランスを保つこと」ができる。グラフィックにおける基本図形の扱い・効果を理解し、活用することができる。

図を単純化しながら、的確で効果的にヴィジュアルコミュニケーションできる。

写真撮影の基礎技術を理解することができる。

授業計画

- 01 グラフィック 1-1 タイポグラフィ 1
- 02 グラフィック 1-1 タイポグラフィ 2
- 03 グラフィック 1-1 タイポグラフィ 3
- 04 グラフィック 1-1 タイポグラフィ 4
- 05 グラフィック 1-2 グラフィック・トレーニング 1
- 06 グラフィック 1-2 グラフィック・トレーニング 2
- 07 グラフィック 1-2 グラフィック・トレーニング 3
- 08 グラフィック 1-2 グラフィック・トレーニング 4
- 09 グラフィック 1-3 マーク・シンボル 1
- 10 グラフィック 1-3 マーク・シンボル 2
- 11 グラフィック 1-3 マーク・シンボル 3
- 12 グラフィック 1-3 マーク・シンボル 4
- 13 写真「携帯電話の撮影」 1
- 14 写真「携帯電話の撮影」 2
- 15 写真「携帯電話の撮影」 3

学生に対する成績評価基準

課題70%、授業態度30%

※遅刻・欠席は最終評価より減点します。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。

授業開始20分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。

遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。

参考書・参考資料等

回の内容に応じ配付及び指示します。

履修希望者への要望・事前準備

必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。

基礎造形実習Ⅱ（素形材）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。写真、映像をテーマとする。携帯電話、小物の撮影で写真撮影の基礎技術を修得し、短い映像作品の制作で映像撮影・編集の基礎技術を修得する。

達成目標

写真撮影の基礎技術を理解し、実践することができる。

映像撮影・編集の基礎技術を理解し、実践することができる。

授業計画

- 01 写真「携帯電話の撮影」 4
- 02 写真「携帯電話の撮影」 5
- 03 写真「小物の撮影」 1
- 04 写真「小物の撮影」 2
- 05 写真「小物の撮影」 3
- 06 写真「小物の撮影」 4
- 07 写真「小物の撮影」 5
- 08 映像「1分の映像制作」 1
- 09 映像「1分の映像制作」 2
- 10 映像「1分の映像制作」 3
- 11 映像「1分の映像制作」 4
- 12 映像「1分の映像制作」 5
- 13 映像「1分の映像制作」 6
- 14 映像「1分の映像制作」 7
- 15 映像「1分の映像制作」 8

学生に対する成績評価基準

課題70%、授業態度30%

※遅刻・欠席は最終評価より減点します。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。

授業開始20分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。

遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。

参考書・参考資料等

回の内容に応じ配付及び指示します。

履修希望者への要望・事前準備

必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

前期の基礎造形実習Ⅰでの成果を基に、視覚デザイン分野のどのような方向であっても基盤となる基本的な技術の修得を目的とする。グラフィックをテーマとする。名作ポスターの模写でポスター制作について理解を深め、その後与えられたテーマに対して各自のポスター制作を行う。

達成目標

名作ポスターの魅力を理解し、再現することができる。
与えられたテーマに対して各自の視点で魅力的な形を探り、ポスターに落とし込むことができる。

授業計画

- 01 グラフィック 2 名作ポスター模写 1
- 02 グラフィック 2 名作ポスター模写 2
- 03 グラフィック 2 名作ポスター模写 3
- 04 グラフィック 3 ポスター 1
- 05 グラフィック 3 ポスター 2
- 06 グラフィック 3 ポスター 3
- 07 グラフィック 3 ポスター 4
- 08 グラフィック 3 ポスター 5
- 09 グラフィック 3 ポスター 6
- 10 グラフィック 3 ポスター 7
- 11 グラフィック 3 ポスター 8
- 12 グラフィック 3 ポスター 9
- 13 グラフィック 3 ポスター 10
- 14 グラフィック 3 ポスター 11
- 15 グラフィック 3 ポスター 12

学生に対する成績評価基準

課題70%、授業態度30%
※遅刻・欠席は最終評価より減点します。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエで制作を行うことです。
授業開始20分以降に遅れて来た学生は欠席扱いとなります。
遅刻・欠席は最終評価より減点されるので注意してください。

参考書・参考資料等

回の内容に応じ配付及び指示します。

履修希望者への要望・事前準備

必要な用具等の準備は必ず課題前週に完了させること。

視覚コンピュータⅠ

1 学年 後期 必修 演習 2 単位
◎金 牟洙、徳久達彦、ヨールグ ビューラ、真壁 友

授業の概要およびテーマ

この演習は前期のコンピュータ基礎演習からの続きとなります。前期ではAdobe IllustratorとPhotoShopの基本操作を習得しました。この演習ではそれらの技術をデザインで使える技術とするためにトレーニングを行います。また単にコンピュータの操作だけではなく、情報の整理、レイアウトの基本といったデザインを構成する上で必要になる項目を学びます。この授業はコンピュータのソフトウェアの使い方を学ぶだけではなく反復的なトレーニングを通してデザインに必要となる基礎技術の習得を目的とします。

達成目標

Adobe Illustratorを使い正確な作図が出来る。
Adobe PhotoShopを使い正確な作業が出来る。
文様やロゴマーク等、割り出し図を理解し、作図出来る。
様々な情報を含む紙面のレイアウトの基礎を理解する。
データの受け渡し、印刷についての基礎を理解する。

授業計画

- 1 ロゴの作図 1
- 2 ロゴの作図 2
- 3 ロゴの作図 3
- 4 レイアウト・情報の整理 1
- 5 レイアウト・情報の整理 2
- 6 レイアウト・情報の整理 3
- 7 模写 1
- 8 模写 2
- 9 模写 3
- 10 模写 4
- 11 総合課題 1
- 12 総合課題 2
- 13 総合課題 3
- 14 総合課題 4
- 15 総合課題 5

学生に対する成績評価基準

提出作品により評価

テキスト

毎回の授業で配付します。

用具

ノートパソコン、Adobe CC

履修希望者への要望・事前準備

毎回の授業でノートパソコンを使います。ノートパソコン、電源アダプタ、ネットワーク接続用のケーブルを持参してください。

視覚デザイン基礎演習Ⅰ

2 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎池田光宏、阿部充夫、吉川賢一郎、金 峯洙、徳久達彦、
長瀬公彦、長谷川博紀、ヨールグ ビューラ、真壁 友、
松本明彦、御法川哲郎、山田博行、山本 敦、迫 一成、
さとうりさ、古屋貴広、三田村光土里

授業の概要およびテーマ

視覚表現の基礎となるアイデアと発想に重点を置く。またその発想をどのように具体化して、どのように伝えるかを学び後期の演習に備える。1 年次に修得した造形の知識と技術を活かし、視覚デザインに必要な思考（主にアイデアの抽出）に焦点をあてて視覚によるコミュニケーション能力の向上を目指す。

達成目標

- ・課題の指示を正確に読み取り作品制作ができる。
- ・作品発表に際して、制作意図を十分に伝えられる。
- ・スケジュール管理をし、課題作品提出締め切りまでに作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス 第1 課題出題、導入
- 02 アイデアチェック 制作
- 03 中間チェック
- 04 講評
- 05 発表、全体講評、提出
- 06 第2 課題出題、導入
- 07 中間チェック
- 08 アイデアチェック、制作
- 09 講評
- 10 発表、全体講評、提出
- 11 第3 課題出題、導入
- 12 中間チェック
- 13 アイデアチェック、制作
- 14 講評
- 15 発表、全体講評、提出 視覚デザイン基礎演習Ⅱへの導入

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%
課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された、次回までに行うべき調査等、自学自習内容をメモし準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。

視覚コンピュータⅡ

2 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎真壁 友、徳久達彦、矢尾板和宣

授業の概要およびテーマ

この演習ではInDesignの基本操作、情報の整理を含めたレイアウトの作成、そしてWebデザインについて学びます。

InDesignはエディトリアルのためのソフトウェアです。ページ数の多い紙媒体の作品をつくるための基本を習得します。また情報の整理の仕方、情報整理を含むレイアウト手法について取り組みます。その発展としてwebページのレイアウトの基礎を学びます。

達成目標

InDesignの基本操作を身につける。
情報を整理したレイアウトが行える。
webページのレイアウトの基礎について学ぶ。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 InDesignの基本（1）
- 3 InDesignの基本（2）
- 4 InDesignの基本（3）
- 5 InDesignの基本（4）
- 6 InDesignの基本（5）
- 7 InDesignの基本（6）
- 8 InDesignの基本（7）
- 9 情報の整理とレイアウト（1）
- 10 情報の整理とレイアウト（2）
- 11 情報の整理とレイアウト（3）
- 12 情報の整理とレイアウト（4）
- 13 Webデザイン レイアウト（1）
- 14 Webデザイン レイアウト（2）
- 15 Webデザイン レイアウト（3）

学生に対する成績評価基準

提出作品により評価します。

テキスト

授業中に配付します。

用具

ノートパソコンを毎回持参する事。

Adobe CC（PhotoShop, Illustrator, InDesign）をインストールしておくこと。

履修希望者への要望・事前準備

1 年次のコンピュータの授業からの延長になりますが取り扱う内容が高度になります。

コンピュータの基本操作、Adobe IllustratorやPhotShopといったツールを使える事が授業の前提になります。

視覚デザイン基礎演習Ⅱ

2 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎池田光宏、阿部充夫、吉川賢一郎、金 峯洙、徳久達彦、
長瀬公彦、長谷川博紀、ヨールグ ビューラ、真壁 友、
松本明彦、御法川哲郎、山田博行、山本 敦、迫 一成、
さとうりさ、古屋貴広

授業の概要およびテーマ

視覚デザイン基礎演習Ⅰで学んだことをさらに発展させる。視覚表現の基礎となるアイデアと発想に重点を置き、またその発想をどのように具体化して、どのように伝えるかを中心に据えながら3年次の演習へ発展させるための導入として、伝達デザイン・表現デザインに関わる具体的な課題制作にも取り組む。

達成目標

- ・課題の指示を正確に読み取り作品制作ができる。
- ・作品発表に際して、制作意図を十分に伝えられる。
- ・スケジュール管理をし、課題作品提出締め切りまでに作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス 第1 課題出題、導入
- 02 アイデアチェック 制作
- 03 中間チェック
- 04 講評
- 05 発表、全体講評、提出
- 06 第2 課題出題、導入
- 07 中間チェック
- 08 アイデアチェック、制作
- 09 講評
- 10 発表、全体講評、提出
- 11 第3 課題出題、導入
- 12 中間チェック
- 13 アイデアチェック、制作
- 14 講評
- 15 発表、全体講評、提出

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%

課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された、次回までに行うべき調査等、自学自習内容をメモし準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。

視覚デザイン論

2 学年 後期 必修 講義 2 単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、
金 峯洙、徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、
山田博行

授業の概要およびテーマ

3 年生のゼミ1・2へ繋げていくことも踏まえ、広告、Web、写真、映像、イラストレーション、ブランディング、デジタル、アートプロジェクト等視覚デザイン各分野の知識、技術を、ゼミ形式で専門的により詳細に深く学んで行く。

達成目標

各視覚デザイン分野の知識を専門的に身に付け、次年度3年生時のゼミ1・ゼミ2の選択に活かせる。

授業計画

各回、専門分野の講義を行う。

写真

2 学年 前期 選択 講義 4 単位
◎松本明彦、阿部充夫、非常勤講師

授業の概要およびテーマ

ストロボを使用したスタジオライティングを学ぶ。物撮り、ポートレート両方に取り組む。

達成目標

スタジオでストロボを使った物撮り、ポートレートの基本的な撮影ができる。

授業計画

1. カメラ、絞り、シャッタースピード、ISO感度、WBなど基礎知識復習
2. スタジオ機材の名称、取り扱い説明
3. ストロボ、露出計の取り扱い説明
4. 物撮り基本ライティング
5. 物撮り応用
6. 撮影実習
7. 撮影実習
8. ポートレート基本ライティング
9. ポートレート応用ライティング
10. 撮影実習
11. 撮影実習
12. A4チェック
13. B2モノクロチェック
14. B2最終チェック
15. 展示

描写基礎

2 学年 前期 選択 演習 4 単位
◎御法川哲郎、長瀬公彦、内堀 豪

授業の概要およびテーマ

この演習では、木炭やコンテを使用し、目の前の対象を紙の上に描きとらえる（認識・把握する）作業を行う。目的は、描く行為によるヴィジュアルコミュニケーションの能力を高めることである。自分が見ている対象がどのようなものなのかを、描いて他者に伝える。その際、見たものを的確に他者に伝えるためには、的確に描かなければならない。的確に描くためにはトレーニングが必要となる。1年次の基礎造形実習での描く作業による成果を基に、さらにトレーニングを積み重ねる。1年次に学習した内容を再確認し、さらに1段上の力の獲得を目指す。また美術史の巨匠を参考にし、対象のとらえ方・技術を学ぶ。

達成目標

目の前の対象を、紙の上に的確に描きとらえる力を獲得する。
美術史の巨匠から、対象のとらえ方・技術を吸収する。

授業計画

- 01 ガイダンス、課題1「石膏像を描く1 / 木炭」制作
- 02 制作
- 03 制作、講評
- 04 課題2「友人を描く / 木炭」制作
- 05 制作
- 06 制作
- 07 制作、講評
- 08 課題3「石膏像を描く2 / 木炭もしくは白・黒コンテ」制作
- 09 制作
- 10 制作
- 11 制作、講評
- 12 課題4「モデルを描く / 木炭もしくは白・黒コンテ」制作
- 13 制作
- 14 制作
- 15 制作、講評

学生に対する成績評価基準

課題80%、授業態度20%

テキスト

回の内容に応じ配付及び指示します。

用具

木炭、白・黒コンテ、木炭紙、画用紙、木炭紙大スケッチブック
他、授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

描く能力を武器にしたいと考えている学生は履修すること。能力の獲得には、できるまでトレーニングが必要である。

映像 I

2 学年 前期 選択 講義 4 単位
◎山田博行、ヨールグ ビューラ、非常勤講師

授業の概要およびテーマ

本授業は、視覚デザインに欠かすことができない映像制作を、履修者全員が学びます。

決まったテーマに沿って実際の映像作品を制作します。作品制作計画および撮影手法と編集技術知識を得ます。

達成目標

時間経過メディアの特性を理解し、アイデアから仕上げまで、機材の使い方を含めてデジタルムービー制作の基礎を習得できる。その上で映像作品を制作できる。

授業計画

1. 「映像概論 1」：「映像とは何か」「映像の歴史」「映像の役割」
2. 「映像概論 2」：映像作品分析
3. 「ストーリーテリング 1」
4. 「ストーリーテリング 2」
5. 「ストーリーテリング 3」
6. 「撮影技術 1」：カメラ、三脚
7. 「撮影技術 2」：録音、ライティング
「ストーリー 1」絵の繋がり
「課題」アイデアチェック 1
8. 「撮影技術 3」、「ワークフロー」
「ストーリー 2」絵コンテ
「課題」アイデアチェック 2、撮影プラン
9. 「編集技術 1」：編集ソフトの導入
「課題」素材の読み込み、粗編
10. 「編集技術 2」：タイムラインでの操作
「課題」本編
11. 「編集技術 3」：文字と音の扱い方
「課題」オーディオ編集、タイトルデザイン、仕上げ
12. 制作および相談
13. 制作および相談
14. 「編集技術 4」：書き出しと上映環境、フォーマットについて
15. 「課題」課題提出、講評会

学生に対する成績評価基準

課題 80%
積極性など授業態度 20%

出席・遅刻の基準

理由なき遅刻は認めません。

用具

adobe Premiere CC

履修希望者への要望・事前準備

広告やデザイン業界において今や映像制作は必須メディアです。将来映像方面へ進みたい学生はもちろん、アートディレクター、デザイナーとして、フォトグラファー、カメラマンといった業種において仕事をしたい学生も、積極的に受講してください。学んだ知識と技術は、AD、Dとして自分の指示や希望を出したり、P、Cの意図を読み取ったりする時に、必ず役に立つでしょう。

Webデザイン

2 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎真壁 友、徳久達彦、中西清吾、村山直幸、矢尾板和宣

授業の概要およびテーマ

インターネットは社会の基本的なインフラの一つとなっています。そのメディアを使い情報を発信する基本がWebです。このWebをデザインする技術が現在求められています。この授業ではWebサイトを構築するために必要になる情報の整理、見せ方を学びます。またWebサイトを実装するために必要となる基本技術となるHTMLとCSSのコーディングについて学びます。Webページはパソコンだけでなくスマートフォンを使い見るものになっています。この両方の機器に対応したレスポンスデザインという手法が普通に使われています。この授業ではこのレスポンスデザインについて学びます。情報のまとめ方、デザイン作業、実際のコーディングまでを取り扱います。

達成目標

与えられたテーマに沿ったwebサイトのデザインが行える。
HTML+CSSを使いサイトデザインの実装が行える。
jQueryを使って簡単な仕掛けが作れる。
CMS (WordPress) の仕組みを理解する。

授業計画

- 1 ガイダンス 課題 1 について説明
- 2 コーディング
- 3 コーディング
- 4 コーディング
- 5 コーディング
- 6 課題 1 作業
- 7 課題 1 作業
- 8 プレゼンテーション
- 9 課題 2 について説明
- 10 課題 2
- 11 課題 2
- 12 課題 2
- 13 課題 2
- 14 プレゼンテーション
- 15 プレゼンテーション

学生に対する成績評価基準

課題の狙いを理解出来ているか。課題を理解したアイデアを考えられるか。丁寧な仕上げが出来ているか。
課題毎のプレゼンテーションは必須とします。
プレゼンテーションと提出作品により評価します。
締め切り厳守。締め切り後の提出は0点となります。

テキスト

授業中に配付します。

参考書・参考資料等

ドットインストール {<http://dotinstall.com>}

用具

Adobe CC (Dreamweaver, Photoshop, Illustrator)
Webレンタルサーバー
用具については初回授業で詳しく説明します。

履修希望者への要望・事前準備

この授業ではwebデザインの画面レイアウト、情報の扱い、実際にデザインを制作するコーディングまでを扱います。作業の中ではAdobe IllustratorやPhotoshopといったツールを当たり前使える事が授業の前提になります。

タイポグラフィ

2 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎天野 誠、吉川賢一郎、阿部宏史

授業の概要およびテーマ

前期の「タイポグラフィ基礎」では主に文字組みの基礎トレーニングを行ったが、この授業では前期で修得した技術と感覚を活かし、より具体的なデザイン作業へと展開させていく。
また同時期に開講されている「DTP」を並行して受講することで、より実践的な文字組版の技術も修得することができるようになる。

達成目標

- ・グラフィックデザイナーとして実社会で働くための、文字、文字組版に対する基礎的な知識を知ることができる。
- ・文字、文字組版の技術を修得することによって表現することができるようになる。

授業計画

- 1 回目：ガイダンス／【課題 1】説明と制作
- 2 回目：制作と講評
- 3 回目：制作と講評
- 4 回目：制作と講評
- 5 回目：映画「Helvetica」鑑賞／【課題 2】説明と制作
- 6 回目：講評／【課題 3】説明と制作
- 7 回目：制作と講評
- 8 回目：【課題 4】説明と制作
- 9 回目：講評／【課題 5】説明と制作
- 10 回目：制作と講評
- 11 回目：制作と講評／レクチャー「レイアウトの基本セオリー」
- 12 回目：制作と講評
- 13 回目：制作と講評／レクチャー「紙と製本」
- 14 回目：講評
- 15 回目：提出、採点、返却

学生に対する成績評価基準

受講態度30%、作業プロセスおよび最終成果物（作品）70%とし、成果物の評価段階は以下の基準に基づく。たとえ作品を提出していても、著しく欠席が多い場合は単位を与えないので注意すること。
B 評価：文字の基本的な扱い、「読みやすく、分かりやすい構成」ができた。

A 評価：学んだことを生かし、造形的に魅力的である。

S 評価：より独創的で個性を反映させている。

テキスト

必要に応じて適宜指示する。

参考書・参考資料等

参考書は必要に応じて適宜指示し、資料は配付する。

用具

筆記用具、カッターナイフ、カッターマット、ハサミ、メンディングテープ、三角定規セット、30cm以上の直定規、A4判クリアファイル（40ポケットくらい）。

履修希望者への要望・事前準備

課題は前期同様トレーニングを目的とした内容が主になる。タイポグラフィやデザインレイアウトをもっと深く学びたい学生の受講を望む。
なお希望者を対象に、本課題と平行してオプション課題も行う予定。

映像Ⅱ

2 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎ヨールグ ビューラ、万年麻美

授業の概要およびテーマ

本授業では前半と後半に分けて、前半は最初の8週間の間にまず、手書きアニメーションから3DCGまでのそれぞれの技法を習得する。後半は勉強した技術を使って自由作品を制作する。
それぞれの技術を元にした相応しい表現を経験するために2つの練習課題を指定します。9週目から自分で選んだアニメーション技術を利用しながら優れた表現を追求した自由作品の1本を完成する。その作品は学生アニメーションフェスティバルに出品できるクオリティを目指すこと。

達成目標

アニメーションの様々な表現を勉強できる。
そのための必要な技術や制作方法を理解できる。
特に自分で目指した表現のために適切な実技のスキルを習得できる。
作品の制作過程に関してスケジュールを管理し、完成度の高い作品を仕上げる事ができる。

授業計画

- 01 ガイダンス、手書きアニメーション 1
- 02 手書きアニメーション 2、練習課題 1 制作
- 03 デジタルドローイング、練習課題 1 制作
- 04 2Dアニメーションソフト、練習課題 1 制作
- 05 アニメーションとモーショングラフィックス 1、練習課題 2 制作
- 06 アニメーションとモーショングラフィックス 2、練習課題 2 制作
- 07 3DCG 1、練習課題 2 制作
- 08 3DCG 2、練習課題 2 制作
- 09 自由作品の作業：アイデアと技法選択、表現スケッチ
- 10 自由作品の作業：アイデアと技法選択、表現イメージ、ストーリー
- 11 自由作品の作業：絵コンテ、音響プラン
- 12 自由作品の作業：作画、ラインテスト、録音
- 13 自由作品の作業：作画、着色、編集、整音
- 14 自由作品の作業：編集、仕上げ
- 15 発表と講評

学生に対する成績評価基準

練習課題 1 と練習課題 2、自由課題、三つの作品80%、積極性など授業態度20%。
提出課題作品は「講評会」の際、評価されます。

出席・遅刻の基準

基本的に出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。

テキスト

授業で配付する

参考書・参考資料等

「アニメーションの基礎知識大百科」、"Encyclopedia of Animation Basics"
神村 幸子（かみむら さちこ）、大型本—グラフィック社2009/9、¥3,000

用具

鉛筆、消しゴム、コピー用紙
ノートパソコンとAdobeCCのソフト

履修希望者への要望・事前準備

カメラで撮影されるコマ撮りアニメーションよりも手で描く、もしくはソフトでアニメートするグラフィックスを勉強したい学生。課題と作品は授業時間内だけで制作するのは難しいですので、時間的余裕を持って臨んでください。遅刻厳禁、課題提出期限厳守。
本授業では30人の定員を指定します。希望者が30人を超えたら次の様に選択します：（1）2年次に写真映像系の選択授業を履修した学生を優先（2）他は面接とポートフォリオでの判断。
ノートパソコン、電源アダプター、等を授業に持参してください。

描写表現

2 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎御法川哲郎、内堀 豪、羽川幸一

授業の概要およびテーマ

前期の描写表現基礎における成果を基に、美術史の巨匠を参考にし、対象をいかにとらえるかを考え・実践する。目的は前期同様、描く行為によるヴィジュアルコミュニケーションの能力を高めることである。そして、対象を的確に紙（キャンパス）の上にとらえることに加え、指定した巨匠の対象のとらえ方・技法を学び、学生各自のとらえ方・技法を拡張する。巨匠の作品を観察し、そこでの発見を各自の制作に反映させる。観察し実践することで、巨匠の考えを迫体験し理解を深める。また透明水彩絵具、アクリル絵具、一部ペンタブレットを使用し、扱える画材・技法の幅も拡張する。

達成目標

目の前の対象を、紙（キャンパス）の上にて的確に描きとらえる力を獲得する。

美術史の巨匠の作品を観察し、各自の対象のとらえ方・技術を拡張する。

授業計画

- 01 ガイダンス、課題 1 「風景を描く 1 / 透明水彩絵具」制作
- 02 制作
- 03 制作、講評
- 04 課題 2 「風景を描く 2 / アクリル絵具」制作
- 05 制作
- 06 制作
- 07 制作、講評
- 08 課題 3 「モデルを描く / アクリル絵具」制作
- 09 制作
- 10 制作
- 11 制作、講評
- 家庭課題「自画像を描く / ペンタブレット」
- 12 課題 4 「剥製のある静物を描く / アクリル絵具」制作
- 13 制作
- 14 制作
- 15 制作、講評

学生に対する成績評価基準

課題80%、授業態度20%

テキスト

回の内容に応じ配付及び指示します。

用具

透明水彩絵具、アクリル絵具、B3 パネル、画用紙、F10 キャンパス、木炭紙大スケッチブック、ペンタブレット（持っていない学生は貸出）、ノートPC他、授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

描く能力を武器にしたいと考えている学生は履修すること。

3 年次以降に、描くことで個人の表現を獲得したいと考えている学生は履修すること。

前期同様、対象の観察をおろそかにしないこと。

サウンドデザイン

3 学年 前期 選択 演習 4 単位
◎ヨールグ ビューラ、宇波 拓、吹田哲二郎

授業の概要およびテーマ

初心者はおおざりにしがちな映像作品の音響。しかし、映像において音声トラックは作品全般にわたる本質的な表現方法です。映像の素晴らしさとは思いがけず音声で決まってゆく。本授業ではまず、撮影現場での失敗の無い録音方法とその為に必要な考え方を学びます。次に、レコーディングスタジオでのナレーションや効果音とアフレコの技術、効果音制作におけるそれぞれの音の種類の扱い方と映像の完パケにいたるまでに必要不可欠な音響技術を習得します。最後に、映像用のBGMや音楽の作曲方法も本授業で学べます。

達成目標

この演習では映像に関するオーディオのそれぞれの種類の扱い方を学ぶことができます。技術や操作の解説も沢山必要ですが、主に自分の作品を製作しながら必要な知識を習得できます。

授業計画

- 1 ガイダンス、音響の基本、課題解説
- 2 - 6 フィールドレコーディング：環境音と効果音
- 7 - 10 スタジオレコーディング：フォリーとアフレコ技法を含む台詞
- 11 - 14 BGM / 音楽の扱い方と製作
- 15 課題の発表

学生に対する成績評価基準

受講姿勢と提出作品に評価（受講姿勢20%、提出作品80%）。提出課題作品は「講評会」の際、評価されます。

出席・遅刻の基準

出席が2/3を下回る場合は単位を与えません。

テキスト

授業時にプリントを配付する

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示

履修希望者への要望・事前準備

実際に音声や音響、音楽の演習を学びたいのであればデザイン分野は問わない。ただし、映像音声の扱い方を優先します。

定時に入室すること。課題提出は、締め切りを守ること。積極的な制作姿勢を望みます。

コマーシャル演習

3 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎長谷川博紀、山田博行、非常勤講師

授業の概要およびテーマ

「環境問題」「コミュニケーション」「公共マナー・モラル」など現代社会が抱えている問題がいろいろあります。この問題を A C 公共広告制作を通してみんなで考え、社会・公共のためになるメッセージを広告という形で発信しよう。各自が考えた企画（実写・アニメーション）から、教員の審査によって制作する作品を決定し、2～7 名でグループ制作を行います。各自の役割をしっかりと果たすためのチームワークが求められます。

達成目標

- ・公共広告のコマーシャルを企画～撮影～編集まですることでクリエーターとしての意識、自信を体得できる。
- ・グループ作業を通して社会の現場で必要とされる協調性、コミュニケーション力を身につける。

授業計画

- 1 授業オリエンテーション
- 2 公共広告テーマのとらえ方
- 3 プランニング
- 4 プレゼンテーション
- 5 グループ作業
- 6 グループ作業
- 7 グループ作業
- 8 グループ作業
- 9 グループ作業
- 10 撮影～編集 修正案の検討
- 11 撮影～編集
- 12 撮影～編集
- 13 応募用 企画意図・コンセプト制作
- 14 全体試写
- 15 公開試写

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%

履修希望者への要望・事前準備

A C ジャパンのホームページより受賞作品を見て人の心を動かす広告とは・・・を研究しておいてください。

11-4-2 専門教育科目〔視覚デザイン学科コース別科目〕

伝達デザイン演習Ⅰ

3学年 前期 必修 演習 4単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、
金 牟洙、長瀬公彦、真壁 友、山田博行、相澤千晶、
石川竜太、嶋田 清、角田 誠

授業の概要およびテーマ

社会・企業・地域・家族または商品・サービス等はさまざまな問題を抱えている。伝達デザイン演習では、それらの問題を抽出し、今までとは異なる視点でコンセプトを描き上げ、視覚によるコミュニケーション（伝達）に焦点をあてて、問題が解決できるようなツールを制作する。

扱う分野としては、広告、VI、エディトリアル、web、インフォグラフィックス、コマーシャルフィルム、広告写真、パッケージデザイン、商品企画・開発等々多岐にわたるが、それらを複合的に取り上げて演習を行う。

達成目標

- ・視覚的なアプローチで問題解決に当る際に、課題解決に先立って問題の発見が先ず重要となる。そのための調査研究をどのように行ったかを論理的に展開できることを目標とする。
- ・ターゲットのインサイトを捉えた新しい視点による創造的問題解決の達成と、より仕上げるにこだわるダミー制作の達成を目標とする。
- ・また他者にモノやコトを伝えるための効果的なプレゼンテーション能力を身につけることも目標に据える。

授業計画

- 01 ガイダンス 第1課題出題
- 02 デザインチェック 制作
- 03 デザインチェック 制作
- 04 デザインチェック 制作
- 05 発表、講評、提出
- 06 第2課題出題
- 07 デザインチェック 制作
- 08 デザインチェック 制作
- 09 デザインチェック 制作
- 10 発表、講評、提出
- 11 第3課題出題
- 12 デザインチェック 制作
- 13 デザインチェック 制作
- 14 デザインチェック 制作
- 15 発表、講評、提出

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%
課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された次回までに調査等、自学自習内容を準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。

伝達デザイン演習Ⅱ

3学年 後期 必修 演習 4単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、
金 牟洙、長瀬公彦、真壁 友、山田博行、相澤千晶、
石川竜太

授業の概要およびテーマ

伝達デザイン演習Ⅰに引き続き、社会・企業・地域・家族または商品・サービス等はさまざまな問題を抱えている。伝達デザイン演習では、それらの問題を抽出し、今までとは異なる視点でコンセプトを描き上げ、視覚によるコミュニケーション（伝達）に焦点をあてて、問題が解決できるようなツールを制作する。

扱う分野としては、広告、VI、エディトリアル、web、インフォグラフィックス、コマーシャルフィルム、広告写真、パッケージデザイン、商品企画・開発等々多岐にわたるが、それらを複合的に取り上げて演習を行う。

達成目標

- ・視覚的なアプローチで問題解決に当る際に、課題解決に先立って問題の発見が先ず重要となる。そのための調査研究をどのように行ったかを論理的に展開できることを目標とする。
- ・ターゲットのインサイトを捉えた新しい視点による創造的問題解決の達成と、より仕上げるにこだわるダミー制作の達成を目標とする。
- ・また他者にモノやコトを伝えるための効果的なプレゼンテーション能力を身につけることも目標に据える。

授業計画

- 01 第1課題出題
- 02 デザインチェック 制作
- 03 デザインチェック 制作
- 04 デザインチェック 制作
- 05 発表、講評、提出
- 06 第2課題出題
- 07 デザインチェック 制作
- 08 デザインチェック 制作
- 09 デザインチェック 制作
- 10 発表、講評、提出
- 11 第3課題出題
- 12 デザインチェック 制作
- 13 デザインチェック 制作
- 14 デザインチェック 制作
- 15 発表、講評、提出

学生に対する成績評価基準

提出課題作品70%、授業参加態度・制作姿勢30%
課題提出が締め切りを過ぎた場合は最終評価から減点します。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

授業終了時に指示された次回までに調査等、自学自習内容を準備する事。遅刻厳禁、課題提出日厳守。

表現デザイン演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎松本明彦、池田光宏、徳久達彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、御法川哲郎、伊藤彰剛、大西隆介、
五島一浩、早園真己、本間 純

授業の概要およびテーマ

視覚デザイン領域における表現技法と技術を磨き、個々の持つ豊かな感性を活かして表現することを学ぶ。また、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋げて行くことを学んで行く。その表現方法は、イラスト、写真、映像、デジタル等多岐に渡る。

また表現デザイン演習Ⅰの成果を表現デザイン演習Ⅱに繋げ、最終的にはその成果を個人の作品集にまとめ、発表をする。

達成目標

グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋がられるようになることを目的とする。その視覚デザイン表現方法は問わないが、自己完結に終わることなく、社会に向けてプレゼンテーションできるものとする。

授業計画

- 1～6. ポスター表現
- 7～13. アーティストの最新作
14. 発表
15. 展示

学生に対する成績評価基準

課題60%
積極性など授業態度40%

用具

課題によって適宜指示を出す。

履修希望者への要望・事前準備

この授業は、多くの非常勤講師がいらっしゃいます。いろんな分野のいろんな先生方から、多くのことを吸収し、自分の作品に生かして行ってください。

課題スケジュールを確認した上で、自分で予定を立て、スケジュール管理をしてください。課題提出メ切は厳守です。

表現デザイン演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎松本明彦、池田光宏、徳久達彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、御法川哲郎、安斎利洋、伊藤彰剛、
大塚いちお、大西隆介、川上典李子、木場明義、
シミズダニヤスノブ、丸山晶崇、山本裕子、若子jet

授業の概要およびテーマ

視覚デザイン領域における表現技法と技術を磨き、個々の持つ豊かな感性を活かして、表現デザイン演習Ⅰで学んだことを活かしながら、より深く学んで行く。また、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋げて行くことを学んで行く。その表現方法は、イラスト、写真、映像、デジタル等多岐に渡る。

また表現デザイン演習Ⅰの成果を表現デザイン演習Ⅱに繋げ、最終的にはその成果を個人の作品集としてまとめ、発表をする。

達成目標

グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、視覚デザイン表現で提案し、社会と繋がられるようになることを目的とする。その視覚デザイン表現方法は問わないが、自己完結に終わることなく、社会に向けてプレゼンテーションできるものとする。従って、その成果を学外に向けて、個人の作品集という形でプレゼンテーションする。

授業計画

1. 2. 総合課題
3. 4. ワークショップ
- 5～8. 総合課題
9. 発表
10. 展示
- 11～13. 作品集の制作
14. 発表
15. 展示

学生に対する成績評価基準

課題60%
積極性など授業態度40%

履修希望者への要望・事前準備

この授業は、多くの非常勤講師がいらっしゃいます。いろんな分野のいろんな先生方から、多くのことを吸収し、自分の作品に生かして行ってください。

課題スケジュールを確認した上で、自分で予定を立て、スケジュール管理をしてください。課題提出メ切は厳守です。

11-4-3 専門教育科目〔視覚デザイン学科ゼミ科目、卒業研究〕

ゼミⅠ

3学年 前期 必修 演習 2単位

◎長谷川博紀、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、金 牟洙、徳久達彦

授業の概要およびテーマ

4年生の卒業研究へ繋げていくことも踏まえ、広告、Web、写真、映像、イラストレーション、ブランディング、デジタル、アートプロジェクト等視覚デザイン各分野の知識、技術を、ゼミ形式で専門的により詳細に深く学んで行く。

達成目標

各視覚デザイン分野の知識、技術を専門的に身に付け、その分野での作品制作が出来る。またその経験を、次年度4年生時の卒業研究に活かせる。

授業計画

各ゼミの担当教員により授業計画は異なるので、確認すること。

(一例)

- 1～4. 課題制作
- 5. 講評
- 6～9. 課題制作
- 10. 講評
- 11～14. 課題制作
- 15. 講評

学生に対する成績評価基準

課題60%

積極性など授業態度40%

履修希望者への要望・事前準備

これまで学習してきた課題を復習し、授業課題に対する各自の問題を発見しておく。

それぞれの課題におけるテーマやその目的を理解し、各々の問題解決のための方策を探り、課題に取り組む姿勢を持つこと。

ゼミⅡ

3学年 後期 必修 演習 2単位

◎山本 敦、長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、山田博行、相澤千晶

授業の概要およびテーマ

4年生の卒業研究へ繋げていくことも踏まえ、広告、Web、写真、映像、イラストレーション、ブランディング、デジタル、アートプロジェクト等視覚デザイン各分野の知識、技術を、ゼミ形式で専門的により詳細に深く学んで行く。

達成目標

各視覚デザイン分野の知識、技術を専門的に身に付け、その分野での作品制作が出来る。またその経験を、次年度4年生時の卒業研究に活かせる。

授業計画

- 1～4. 課題制作
- 5. 講評
- 6～9. 課題制作
- 10. 講評
- 11～14. 課題制作
- 15. 講評

学生に対する成績評価基準

課題60%

積極性など授業態度40%

履修希望者への要望・事前準備

その専門分野の教員の元で、他の授業では学びきれない、より深い知識や技術をゼミⅡで学んでいきます。敢えて広く学ぶために自分の専門分野以外を取ったり、4年生の卒業研究も視野に入れ、そこに繋げていくことも考えて自分の専門分野のゼミⅡを取るのもいいでしょう。

いずれにせよ、自分の将来を見据えてゼミを選んでください。迷うようであれば、各研究室を積極的に訪ね、各教員と相談するといいでしょう。教員は歓迎します。

卒業研究Ⅰ

4 学年 前期 必修 演習 3 単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、
金 牟洙、徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、
山田博行

授業の概要およびテーマ

個人または共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「制作および論文」または「論文」を行います。

これまでの演習・実習課題と大きく異なる点は、テーマを自ら設定する点で、また研究期間も長期に及びます。この三年間での学習経験を基に、一年間を費やして研究するに値するテーマを設定し、各々がデザインによる実践を進めていきます。

達成目標

中間発表までに、テーマにもとづいた情報収集・調査・分析をしっかり行なうこと。その中から明快なコンセプトと自分のオリジナリティを結びつけた「制作物」の試作または論文の「構想」を発表する。

中間発表の分量ややり方については適時指示をする。

授業計画

- 01～02 テーマ・コンセプトの立案、提示
- 03～04 スケジュール計画
- 05～06 各テーマによる情報収集、調査、分析
- 07～08 「制作物」または「論文」の検討、試作
- 09～14 中間発表用制作
- 15 中間発表

学生に対する成績評価基準

- 作品および論文45%
- 研究過程30%
- 研究態度15%
- 努力成果10%

履修希望者への要望・事前準備

卒業研究は大学における学習の総決算であり、社会へ踏み出すための重要なプレゼンテーションです。四年間の成果として充実した作品にしてください。

毎回のゼミでは、前回のゼミより、何かしらの進んだ成果を見せてくれることを期待します。そのために制作に没頭して下さい。

卒業研究Ⅱ

4 学年 後期 必修 演習 3 単位

◎山本 敦、阿部充夫、天野 誠、池田光宏、吉川賢一郎、
金 牟洙、徳久達彦、長瀬公彦、長谷川博紀、
ヨールグ ビューラ、真壁 友、松本明彦、御法川哲郎、
山田博行

授業の概要およびテーマ

個人または共同で、特定のテーマに基づいた「制作」、「制作および論文」または「論文」を行います。

これまでの演習・実習課題と大きく異なる点は、テーマを自ら設定する点で、また研究期間も長期に及びます。この三年間での学習経験を基に、一年間を費やして研究するに値するテーマを設定し、各々がデザインによる実践を進めていきます。

達成目標

卒業・修了研究展前に行われる、卒研最終発表時に作品が完成していること。内容、規模ともに、四年間の研究の集大成となるものを目標とする。コンセプトが明快で、客観性がありながらオリジナリティがある作品を制作する。分量は、平面作品換算でB1を6枚以上。平面に換算できないものは、個別にそれに相当するかを教員が協議し判断する。

授業計画

- 01～03 中間発表に基づく内容の修正～制作
- 04～11 制作
- 12～14 展示計画、実施
- 15 研究発表

学生に対する成績評価基準

取り組み姿勢と成果物評価80%、展示およびプレゼンテーション評価20%

参考書・参考資料等

各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。
各指導教員より適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

本科目は卒業研究Ⅰの単位を修得していなければ履修できない。
卒業研究は学部4年間の集大成として位置付けられている。

長期計画の基に各自がテーマを立案し、それぞれの手法にて段階ごとに具体的成果を望む。

最終発表には充実した研究作品と成果発表を期待する。

11-5-1 専門教育科目〔美術・工芸学科共通〕

美術・工芸コンピュータ基礎演習

1 学年 前期 必修 演習 2 単位
池永 隆

授業の概要およびテーマ

デザインの分野で標準的なデジタルツールであるIllustrator、Photoshopの基本操作を習得する。
多くのデザインワークをより質の高いものにしていくために、それぞれのツールの特性を理解した上で、必要な操作等を具体的な課題制作を通じて習得する。
解像度やアウトラインフォントの埋め込み、画像ファイルフォーマットなど、作品制作等に必要な基礎的な知識を身につける。

達成目標

- ・ Adobe Illustratorの基礎的操作方法を習得する
- ・ Adobe Photoshopの基礎的操作方法を習得する
- ・ 各種出力手法を理解する
- ・ 解像度やカラーモード、フォント、画像ファイルフォーマット等の理解を深める

授業計画

- 01 ガイダンス
- 02 Illustratorの基本操作 1
- 03 Illustratorの基本操作 2
- 04 Illustratorの基本操作 3
- 05 Illustratorの基本操作 4
- 06 Illustratorの基本操作 5
- 07 Illustratorの基本操作 6
- 08 Illustratorの基本操作 7
- 09 Photoshopの基本操作 1
- 10 Photoshopの基本操作 2
- 11 Photoshopの基本操作 3
- 12 Photoshopの基本操作 4
- 13 Photoshopの基本操作 5
- 14 PhotoshopとIllustratorの連携 1
- 15 PhotoshopとIllustratorの連携 2

学生に対する成績評価基準

各回で制作する課題によって評価する。

なお、受講態度、欠席回数によっては最終課題の提出を認めないことがある。

テキスト

授業時にプリントを配付する

参考書・参考資料等

授業中に適時指示

用具

授業中に適時指示

履修希望者への要望・事前準備

この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行います。
操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を望みます。
授業の前半部分で重要な説明を行う事が多くなる構成となっています。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となります。十分注意して臨んでください。

基礎造形実習Ⅱ（描写）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

デッサン/人体（ヌード・石膏）ではモデルのクロッキー及び固定ポーズを観察し描きます。前期の課題を踏まえ、更に各自が主体的な課題を設定し取り組むことを前提とします。
着色/組モチーフでは対象を捉えること、またそこから画面を構築する過程において、デッサン/人体と同様に特に美術・工芸学科の諸分野の造ること、表現することの前提となる様々な問題を見出し、描くことによってそれに取り組みます。

達成目標

描写表現手法による作品制作を通じて、「人体の構造と美」「色彩を用いた様々な表現」について追求し、基礎的なことから素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とします。
・ 人体の骨・筋構造を理解しプロポーション、比率を正確にとる事ができ正しい構図を得ることができる。
・ 観察から得られる量感、質感、動きを認識し的確に描写できる。
・ 描写画材の応用と適切な使用ができる。
・ 個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。
・ それぞれの物質の特徴を抽出し的確な色彩と描写ができることにより表現をすることができる。
・ 多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。

授業計画

授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時限をよく理解して受講してください。
〈デッサン：人体〉
01：クロッキー
02～08：作品制作
09：講評／作品提出
〈着色／組モチーフ〉
10：課題・素材・技法等の説明・モチーフセッティング
11～14：作品制作
15：講評会／作品提出

学生に対する成績評価基準

①受講への態度、理解度（50％）
・ 受講、制作の準備ができていた。
・ 説明、指導を理解し適切な制作ができた。
・ 適切な質疑応答ができた。
・ 制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
②成果物（作品）の内容（50％）
・ 課題の条件を満たしている。
・ 指導を成果に生かすことができた。
・ 十分な考察と制作をした。
・ プレゼンテーション
以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席は開始時間から終了時間までアトリエ・所定の場所で制作を行うことです。これ以外は出席と見なしません。（無断途中退室も含む）授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。また遅刻の際、課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。この場合は欠席扱いとなる事があります。十分準備をして受講してください。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅰも含む）使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）また、大学図書館、書店などに各課題、基礎造形系（デザイン、描写、平面、立体、建築等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので普段から参照することを薦めます。

用具

授業前に適宜指示します。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力（描写）は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。またスケッチなど目的に必要なかたちに含まれる線（ライン）を描く能力と、多くの描線や形の中から洗練された一つを選択する能力は造形に関わる全ての分野に必要不可欠となります。また、経験の有無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかりと取り組んでください。また、授業においては時間・用具・制作姿勢について厳しく対応しますので事前説明と準備を厳守してください。

基礎造形実習Ⅱ（造形）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

彫刻分野に於ける可塑性が特徴の素材『粘土』による制作を通して立体素材への知識や制作手法を習得し立体造形の基礎を学び、様々な要素について考え認識する。

- ・物理的制約の中で発想力を養い、量塊や構造の認識と空間性の意味を探る。幾何形態と自然形態に内在する構造や形の特性を理解し、美しい構成の作品を目指す。
- ・対象（人体）の観察と描写を通してその成り立ちや特性を理解する。塑像による造形表現の魅力に触れる。

達成目標

- ・基礎的な図形や図法の意味を理解できる。
- ・平面上の図から正確な比率で立体を読み取ることができる。また同様に立体物を平面上の図に置き換えることができる。
- ・有機物と人工物のもつ特徴を観察し対比と構成による的確な表現ができる。
- ・粘土素材と用具を適切に扱う事ができる。
- ・立体構成を理解、造形表現の完成度を追求することができる。
- ・課題の意図を理解し、繰り返し目的を追求する。

授業計画

授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時間をよく理解して受講してください。

- 〈幾何形態と自然物の立体構成〉
01：課題説明／講義／アイデアスケッチ
02：アイデアチェック／制作
03：制作
04：制作
05：講評／課題提出
〈塑像〉
06：課題説明／講義／スケッチ
07：塑造制作、心棒の制作／粘土荒付け
08～13：塑造制作
14：仕上げ
15：講評／清掃

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
・受講、制作の準備ができていた。
・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
・適切な質疑応答ができた。
・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
②成果物（作品）の内容（50％）
・課題の条件を満たしている。
・指導を成果に生かすことができた。
・十分な考察と制作をした。
・プレゼンテーション
以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。
これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。
また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅰも含む）使用する事があります。必ず毎授業持参することを求めます。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）
また、大学図書館、書店などに課題、基礎造形系（描写、平面、立体等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。

用具

授業にて適宜指示します。授業日には必ず指示された用具を持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

各課題は事前準備をして取り組んでください。
初めて扱う材料や、課題内容により講義、説明が重要になります。よく理解して授業に臨むことを求めます。また素材の特性や表現技法についても深く知ることが必要です。
自ら興味をもって参考となる作品や資料にふれ予習をする習慣をつけてください。

基礎造形実習Ⅱ（素形材）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

工芸に於ける素形材の意味を一例であるが立体表現における基礎的な実習により理解する。

- ・線材・面材を利用した立体における空間構成およびその機能について
- ・図面（2次元）から起こす石膏素材による回転形態（3次元）について
- ・金属素材を用いた線材・面材使用による構造と機能、ガラス素材による表現手法の基礎について

達成目標

- ・課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。
- ・課題の説明を記録し制作過程をまとめることができる。
- ・制作等の指導を理解することができ適切な質疑応答ができる。
- ・制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる完成度のある成果物が提出できる。

授業計画

授業時間は月～金の1・2限の中で変則的に行われるものがあります。授業日と開講時間をよく理解して受講してください。

- 〈ヤジロベエ〉
01：課題説明／講義／スケッチ
02：スケッチ、試作
03～04：本制作
05：プレゼンテーション、講評
〈回転体〉
06：課題説明／アイデアスケッチ
07：挽型作成／鳥目箱設置
08～09：石膏挽き
10：仕上げ／講評
〈複合素材課題〉
11：素材・技法説明／鍛金制作
12：素材・技法説明／鋳金制作
13：素材・技法説明／ガラス制作
14：各部材仕上げ
15：組立・小テスト・講評

学生に対する成績評価基準

- ①受講への態度、理解度（50％）
・受講、制作の準備ができていた。
・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
・適切な質疑応答ができた。
・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）
②成果物（作品）の内容（50％）
・課題の条件を満たしている。
・指導を成果に生かすことができた。
・十分な考察と制作をした。
・プレゼンテーション
以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。
また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。
これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。
原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。
また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

テキスト

各課題により資料テキストを授業時に配付する場合があります。

参考書・参考資料等

課題資料としてプリントを配付する場合があります。このプリントは授業を通して（基礎造形実習Ⅰも含む）使用する事があります。学科毎に求められた場合には必ず毎授業持参すること。（この為に基礎造形専用のファイルバインダーの購入と持参を求めます。）
また、大学図書館、書店などに課題関連、基礎造形系（デザイン、描写、平面、立体、建築等）の入門書・技法書等が多数刊行されていますので適宜参照することを薦めます。

用具

各課題制作に必要な準備・持参用具を適宜指示する。各自が使用する材料等は適宜購入してもらう場合があります。（各課題により異なります。）

履修希望者への要望・事前準備

造形の基礎力は様々なアイデアと素材・表現方法で培われているものです。発想力、スケッチ力を含め基本的な素形材の概念を理解することは今後の制作・研究の展開におおいに役立つので積極的な意図を持って受講してください。

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

デザインを学ぶ者において構成は、制作意図やその手法、工夫などを成果として表現するための根底にあるものである。そこで、構成をより意識するために実験的な混合表現手法を利用した作品制作を行うことと、デジタル一眼カメラでの撮影により、画面構成の基礎知識を習得する。

〈コラージュ〉

画面構成とは、単にバランスのとれた画面を作り上げることのみが目的ではない。目的の設定も含め、画面を構成すること・異素材へのアプローチ・すでに表出されたイメージの再構成とそのフレーミングへの意識を目標に授業を展開する。

〈写真／フレームワーク〉

基本的なデジタル一眼レフの操作やライティングを通して写真撮影の基礎を習得する。また写真の画像処理方法を学ぶ。

達成目標

〈コラージュ〉

・画面構成に対する意識を持ち、様々な素材を用いて実験的な混合表現手法を検討・実践することができる。

〈写真／フレームワーク〉

・カメラの基本的操作や適切なライティングができ、自身の作品や作品制作に必要なモチーフの撮影を行うことができる。

・撮影した記録媒体をPCにて処理することができる。

授業計画

〈コラージュ〉

01：ガイダンス

02～09：資料収集／コラージュ制作

10：講評会

〈写真／フレームワーク〉

11：レクチャー・デジタル一眼レフの基本操作講義・セッティングとライティング基礎講義

12：撮影1／立体モチーフの撮影・撮影2／立体モチーフの撮影

13：撮影3／立体モチーフの撮影、小講評・撮影4／平面モチーフの撮影

14：撮影5／平面モチーフの撮影・撮影6／平面モチーフの撮影、小講評

15：ブラッシュアップ、メディアへの保存、講評

学生に対する成績評価基準

①受講への態度、理解度（50％）

・受講、制作の準備ができていた。
・説明、指導を理解し適切な制作ができた。
・適切な質疑応答ができた。
・制作姿勢（制作空間を適切な状態に保つよう配慮し、能動的に制作を行えた。）

②成果物（作品）の内容（50％）

・課題の条件を満たしている。
・指導を成果に生かすことができた。
・十分な考察と制作をした。
・プレゼンテーション

以上の①、②を合わせた評価から以下の内容を含めて総合的に評価します。

また、欠席／遅刻の回数、提出締め切りの超過や未提出は、これらを点数換算し評価から減点し、最終評価となります。

出席・遅刻の基準

出席とは授業開始時間から終了時間までアトリエの所定の場所で制作を行うことです。

これ以外は出席と見なしません。授業開始5分前には準備をして始める用意をしてください。

原則、遅刻は認めません。もし正当な理由があり遅刻した場合は担当教員にその場で申告してください。なお授業開始20分以降に遅れてきた学生に対しては欠席扱いとなりますので注意してください。

また課題によってはアトリエ入室を認めない場合があります。

参考書・参考資料等

〈写真〉デジタル映像表現「改訂版」デジタル映像表現編集委員会編（CGARTS協会）3,150円

用具

授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

各課題においてデザインや美術・工芸での幅広い思考展開に必要となるのは疑問の余地がありません。描く・塗る作業のみではなく「考える」「想像」する要素から始まることを体感し、視覚化することを大いに体験して欲しいと思っています。これまで「描く」「作る」といった課題が苦手であった学生も、気持ちを新たに臨んで下さい。

美術・工芸コンピュータ演習

1 学年 後期 必修 演習 2 単位
池永 隆

授業の概要およびテーマ

この授業は前期の美術・工芸コンピュータ基礎演習Ⅰからの応用です。前期で基本操作を学んだIllustratorとPhotoshopを使い今後の作品制作で使える基礎技術を確実なものにします。

それらのデザインツールを活用したポートフォリオの作成に取り組み、そのデータを活用したPowerPointのアニメーション機能を利用する表現を含めたプレゼンテーションの資料作成を行います。

達成目標

・Illustrator、Photoshop、PowerPointの基礎的操作な操作ができる。

・Illustrator、Photoshopを用いてポートフォリオの作成ができる。

・PowerPointを利用した視覚的表現効果を持つプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

01 ガイダンス

02 Illustratorによるさまざまな描画手法1

03 Illustratorによるさまざまな描画手法2

04 Illustratorによるさまざまな描画手法3

05 Photoshopによる画像編集1

06 Photoshopによる画像編集2

07 IllustratorとPhotoshopの連携1

08 IllustratorとPhotoshopの連携2

09 Illustratorによるポートフォリオ作成1

10 Illustratorによるポートフォリオ作成2

11 PowerPointの基本操作1

12 PowerPointの基本操作2

13 PowerPointの基本操作3

14 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成1

15 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成2

学生に対する成績評価基準

各回で制作する課題によって評価する。

なお、受講態度、欠席回数によっては最終課題の提出を認めないことがある。

テキスト

授業時にプリントを配付する。

参考書・参考資料等

授業中に適時指示

用具

授業中に適時指示

履修希望者への要望・事前準備

この授業では実際にコンピュータを操作しながら授業を行います。操作説明を注意深く聞き、不明な点は積極的に質問する姿勢を望みます。

授業の前半部分で重要な説明を行う事が多くなる構成となっています。そのため少しの遅刻でも授業を理解するための障害となります。十分注意して臨んでください。

美術・工芸基礎演習Ⅰ（絵画）

2 学年 前期 必修 演習 2 単位
◎岡谷敦夫、遠藤良太郎、ミーヨン

授業の概要およびテーマ

アナログ技術とデジタル技術を横断的に学習し、視覚メディアの時代的な変遷と、情報が物質化する経過をたどり、作品を制作する方法論そのものを考察します。

絵画・版画・写真それぞれの表現に対する基礎的な素材と技法を知り、横断的かつ実験的な混合表現手法と描画手法を組み合わせた作品を作成し、新たな作品制作の可能性について模索します。

成果物としては、35mmフィルムでアナログ写真を撮影し、現像の技術を学び写真作品として完成させます。その後、撮影した写真はスキャンしてパソコンに取り込み、デジタル加工した後、シルクスクリーンの版下として出力して支持体に印刷します。それらを素材とし、再構成してコラージュ作品として完成させます。

達成目標

- ・テーマを理解し、柔軟な発想で制作することができる。
- ・表象（イメージ）と物質（素材）の関係について考察することができる。

用具や機器の正しい取り扱い方を理解し、作業を安全に行うことができる

授業計画

第1回：ガイダンス・素材研究・資料収集・写真撮影講義及び撮影実践

第2回～第4回：写真撮影

第5回～第8回：写真紙焼き講義及び実践。シルクスクリーン版下制作（デジタル加工表現）と、製版と印刷の講義及び実践・ドローイング・エスキース

第9回～第14回：写真・シルクスクリーンの各メディアからの制作物を素材とし、コラージュ制作・発表準備

第15回：講評会

*演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。

成績評価基準

授業参加態度・制作姿勢40%、提出作品・レポート等の内容60%を基本に、総合的に判断します。

なお、成績評価の前提条件として出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜指示する。

用具

材料費として4,000円程度必要となる場合があります。

履修希望者への要望・事前準備

本講義は、物質のない光景から徐々に物質化していく工程を、概念的に俯瞰する授業でもある。履修学生には、その課題内容と将来関わるであろう自主制作との繋がりを考察しながら受講することを望む。

美術・工芸基礎演習Ⅰ（彫刻）

2 学年 前期 必修 演習 2 単位
◎小林花子、長谷川克義、新村秀人

授業の概要及びテーマ

彫刻の基本軸の一つである『塑造』について作品制作を通して理解するとともに、『型取り』を行い、各素材へ置き換えるための一連の技術を学ぶことで、基礎的な技法と素材の特性や作品との関連性について理解し、作品による表現へと結びつける力を培います。成果物は、「塑造（水粘土）による原型制作」から「石膏雌型取り」による粘土（テラコッタ）と金属（鋳物）による複合的な造形表現を行い、その表現の可能性と広がりを経験します。

達成目標

- ・課題テーマを理解し、立体作品のための柔軟な発想力を向上させることができる。
- ・塑造と型取、素材への置き換えを行う一連の制作を各自の表現に関連づけて理解することができる。
- ・技法や素材の特性について観察と研究を能動的に行うことができる。
- ・正しく用具や機器の取り扱い方を理解し、安全な作業を実践することができる。

授業計画

第1回：授業概要講義／課題説明／アイデアスケッチ

第2回：資料収集／アイデア・制作プランチェック・決定

第3回～第4回：作品制作（塑造）

第5回～第6回：作品制作（塑造仕上げ）

第7回～第8回：石膏型取り（雌型制作）

第9回～第10回：作品制作（雄型制作）

第11回～第14回：作品制作発表準備（仕上げ）・発表準備

第15回：講評／作品提出

*演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。

成績評価基準

授業理解度・制作姿勢40%、成果物の内容60%を基本に、総合的に判断します。

なお、成績評価の前提条件として出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。

テキスト

授業にて適宜紹介する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜指示およびプリント等を配付する。

用具

スケッチブックや鉛筆描写具等、準備物を授業にて適宜指示します。また、作品制作時における材料費4,000円程度が必要になる場合があります。

履修希望者への要望・事前準備

授業内容をまとめファイリングすること。

安全に作業をするために時間は厳守し、適切な服装で集中して取り組むこと。

素材の魅力を引き出すための努力を積極的に行うこと。

原則として全授業の出席を求めます。

美術・工芸基礎演習Ⅰ（工芸）

2 学年 前期 必修 演習 2 単位
◎中村和宏、菅野 靖、手銭吾郎

授業の概要及びテーマ

工芸素材材として金属（鍛金・彫金）とガラスの基礎的な技法と各素材の特性を理解し、各自の作品に対する応用力を養いつつ、各自のテーマに沿った統一感あるテーブルウェアを制作します。

<彫金>

彫金の基礎技法を理解しながら装飾的な造形表現を行います。また、暮らしの道具をデザインする生活空間の思考から他領域の工芸品との相互性についても柔軟な視点を深めます。

<鍛金>

鍛金技法に於ける金属の展延性や表面処理などの基本的な技術と素材の特性を理解し、各自の作品に対する造形表現を行い、応用力を養います。

<ガラス>

ガラス素材を深く理解するために各種サンプル制作を行い、基礎技法を身に着けます。そのうえで日々の暮らしにおける生活工芸（クラフト）やライフスタイルを踏まえた「うつわ」を考えデザインし造形表現を行います。

達成目標

- ・課題内容を理解し柔軟な発想力を向上させることができる。
- ・成果物（作品など）に対してのプレゼンテーションを実践し完成することができる。
- ・造形制作に必要な素材と技法の関連性を理解・実践することができる。
- ・正しく用具や機器の取り扱い方を理解し正しく安全な作業を実践することができる。

授業計画

<彫金>

第1回：課題説明 / デザインおよび作業工程の確認

第2回：工具・機器と金属材料の説明 / デザインチェック・決定 / 作品制作

第3回：作品制作 / 技法・素材の研究

第4回：作品制作 / 仕上げ

第5回：作品提出 / 講評（メッキ仕上げ選択は業者発注）

<ガラス>

第6回：課題説明 / 道具の説明及びサンプル制作

第7回：デザイン案決定/作品制作

第8回：作品制作/素材と温度関係の研究

第9回：作品制作 / 仕上げ

第10回：作品提出 / 講評

<鍛金>

第11回：課題説明 / デザインの検討

第12回：工具・機器と金属材料の説明 / デザインチェック・決定/作品制作

第13回：作品制作 / 技法素材の研究

第14回：作品制作 / 仕上げ

第15回：作品提出 / 講評

*演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。

成績評価基準

授業参加態度・制作姿勢40%、提出作品60%を基本に、総合的に判断します。

なお、成績評価の前提条件として出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。

テキスト

授業にて適宜紹介、プリント等を配付する。

参考書・参考資料等

近代から現代にかける実在作品や諸立体作家集を参考資料として使用する。

用具

- ・材料費として4,000円程度必要になる場合があります。
 - ・安全のための作業服等個人用具が必要となります。
- （上記事項は授業ガイダンス時に説明します）

履修希望者への要望・事前準備

下記の項目に留意し行動してください。

- ・原則として全回出席を求めます。
- ・授業のまとめをファイルすること。
- ・プランニングから作品制作の完成までの過程は、高い集中力と能動的な姿勢を求めます。

美術・工芸基礎演習Ⅰ（複合）

2 学年 前期 必修 演習 2 単位

◎長谷川克義、遠藤良太郎、岡谷敦夫、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、ミーヨン、新村秀人

授業の概要及びテーマ

美術・工芸基礎演習Ⅰ<美術・彫刻・工芸>における課題制作研究に共通する資料収集やスケッチワークを通して、表現するための工程に関する基礎を学ぶと共に、形と素材の関連性や技法研究からその手法や技法を習得する。また、発表（プレゼンテーション）時において自作品の研究テーマを明確に説明し、他作品との比較により客観的視点から作品を考察することで「作品を観せる」意識を培う。

達成目標

- ・作品を制作するための事前の情報収集および調査をすることができる。
- ・アイデアスケッチ・ドローイング・エスキース等を通して、作品を展開することができる。
- ・素材と技術の関係から制作工程の意義を理解することができる。
- ・成果物（作品）を、各々が必要とする媒体を用いてプレゼンテーションおよび発表することができる。

授業計画

美術・工芸基礎演習Ⅰの他の授業と連携するため各授業ガイダンス時に授業計画をより詳しく説明する。

<絵画>

第1回 素材研究・資料収集

第2回 ドローイング

第3回 ドローイング・エスキース

第4回 エスキース

第5回 発表・プレゼンテーション

<彫刻>

第6回 アイデアスケッチ・資料収集

第7回 エスキース・制作プラン検討

第8回 制作プラン確認

第9回 プレゼンテーション資料作成

第10回 発表・プレゼンテーション

<工芸>

第11回 資料収集

第12回 各領域における素材や技法研究・考察

第13回 プレゼンボード制作

第14回 プレゼンボード制作

第15回 発表・プレゼンテーション

*演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。

成績評価基準

受講姿勢40%、プレゼンテーションおよび発表の内容60%を基本に、総合的に判断します。

なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。プレゼンテーションが発表時にできない場合は、最終評価から減点します。

テキスト

授業にて適宜紹介する。

参考書・参考資料等

参考資料として適宜配付または提示する。

用具

クロッキー帳や描写具、その他授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

どのような形態の作品制作にも必要な資料収集能力やスケッチ力、プレゼン力を高められるよう取り組んでください。

美術・工芸基礎演習Ⅱ			
2 学年	後期	必修	演習 8 単位
◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾、下山直紀、杉原倫子、中安 麗			

授業の概要およびテーマ
各自選択したグループ（美術表現・クラフトデザイン）に属しながら、制作課題等を通してその手法を理解し、形と素材の関連性やものとの関係を考察する。また、表現するための基礎を学ぶ。
・美術の基礎的な素材と手法を理解し、作品制作を行うことで、それぞれの表現における特徴や要素について学び、基礎技法の習得を目指す。
・工芸分野における鍛金、彫金、鋳金、ガラスから各自の指向により2領域を選択し、その領域に関する素材や基礎技法について学ぶ。また、工芸の大きな枠組みの中で水平的視点を持つため、工芸における各種素材や技法についての知識も身につける。

達成目標
・課題作品を制作する上で求められるスケッチ力・発想力・展開力を発揮し、成果として十分応えることができる。
・素材と技術の関係をイメージし、基礎的な各表現技術を習得することで、完成までの工程を計画し実践することができる。
・課題において各領域で使用する素材の特質や特性を理解し、形状と技法の関連性を体得して制作することができる。
・授業で指導された内容を的確に記録・習得し、安全に作業することができる。

授業計画
事前に美術表現グループとクラフトデザイングループの2グループ（定員制）に分かれる。
〈美術表現グループ〉
01：ガイダンス／美術表現概論
02～03：木炭デッサン
04：講評会
この後、2グループに分かれ、入れ替え制で絵画・彫刻の課題を10日間ずつ行います。入れ替わり時期の5日間で、ヌードデッサンを行います。
【絵画／銅版画】
05～08：銅版画講義
09～13：油彩作品制作、途中制作状況を見ながら銅版画の本刷り
14：講評会
【共通】
15～18：ヌードデッサン
19：ヌード講評会
【彫刻】
20：課題説明／スケッチ・エスキース・粘土クロッキー
21～22：塑造マケット制作
23～28：カービング作品制作
29：カービング作品仕上げ／講評／作品ノート提出
【共通】
30：全体講評会、プレゼンテーション、作品提出
〈クラフトデザイングループ〉
課題制作に関しては2領域を選択する。
01：ガイダンス／クラフトデザイン概論
【第1課題】
02：レクチャー、スケッチ・デッサン
03～06：エスキース、実材による制作、中間講評
07～12：実材による制作
13：講評
【工芸における特別技法研究】
14：レクチャー
15～16：実材による制作
17～18：実材による制作、講評
【第2課題】
19：レクチャー、スケッチ・デッサン
20～23：エスキース、実材による制作、中間講評
24～29：実材による制作
30：講評
＊課題数や課題内容はコースごとに計画されます。また、演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていきます。

学生に対する成績評価基準
課題や制作への理解度と受講姿勢40％、プレゼンテーションおよび提出作品の内容60％
なお、成績評価の前提条件として、出席率が2／3を下回る場合は単位を与えません。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。

参考書・参考資料等
参考資料として適宜配付または提示。

用具
クロッキー帳や描写具、その他授業にて適宜指示する。
材料費や用具として10,000円程度必要となる場合がある。

履修希望者への要望・事前準備
美術や工芸における基礎的な素材・技法を把握し、表現の特徴を理解することは、専門領域を学ぶ以前に重要なことです。しっかりと取り組み修得してください。また、授業で与えられる情報に満足せず、各自の意思で情報収集や展覧会の鑑賞などを積極的に行ってください。

美術・工芸材料学			
2 学年	後期	必修	講義 2 単位
◎長谷川克義、菅野 靖、菊池加代子、手銭吾郎、中村和宏、秋本貴透、井波 純、岩崎靖彦、楠八重有紗、平賀 仁、森田 力			

授業の概要およびテーマ
絵画・彫刻・工芸分野における材料の種類や特性に関して、各分野の専門家により講義を行う。そして、今後の創作活動に対する一助とする。
テーマ：「描画材の種類と特性」「版画材の種類と特性」「木および樹脂の種類と特性」「染織素材の種類と特性」「金属の種類と特性」「ガラスの種類と特性」

達成目標
各種材料の基本的特徴と用途や加工方法等が理解できる。
自らが作品等を制作する際、効果的な材料選択ができるような素養が身につく。

授業計画
第1回：ガイダンスおよび概論 〈長谷川〉
第2回：金属の種類と特性（鍛金）〈手銭〉
第3回：樹脂の種類と特性（漆）〈井波〉
第4回：樹脂の種類と特性 〈平賀〉
第5回：金属の種類と特性（彫金）〈菅野〉
第6回：版画材の種類と特性 〈森田〉
第7回：描画材の種類と特性 〈秋本〉
第8回：染織素材の種類と特性 〈菊池〉
第9回：染織素材の種類と特性 〈菊池〉
第10回：木の種類と特性 〈岩崎〉
第11回：木の種類と特性 〈岩崎〉
第12回：描画材の種類と特性（フレスコ）〈楠八重〉
第13回：描画材の種類と特性（モザイク）〈楠八重〉
第14回：ガラスの種類と特性 〈中村〉
第15回：金属の種類と特性（鋳金）〈長谷川〉
＊但し、日程については変更になる場合（土曜日開講となる回）があります。また、担当ごとに小テストやレポート課題を課す場合があります。

学生に対する成績評価基準
受講姿勢および積極性40％、レポート等課題60％。
なお、成績評価の前提条件として、出席率が2／3を下回る場合は単位を与えません。課題提出が締め切りを過ぎた場合は、最終評価から減点します。

参考書・参考資料等
参考資料として授業時にプリントを配付する。また、授業で適宜紹介する。

用具
適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備
作品を制作するということは、その素材を知らなければ成り立たないと言っても過言ではありません。美術と工芸を分け隔てることなく素材に対する知識を深めてください。また、原則として全授業の出席およびレポート等課題の全提出を求めます。

古美術研究

2 学年 後期 必修 実習 2 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾、伊藤 哲、和田正泰

授業の概要およびテーマ

美術教育において重要な一分野である古美術研究として、奈良、京都を中心に存在する飛鳥時代以降の彫刻・工芸・絵画・建造物等、日本古来の優れた美術品の鑑賞研究を行う。これらの研究を通して日本の美術・工芸作品についての理解を深め、その表現技法と文化的価値に対する考察を行う。

達成目標

- ・日本古来の優れた美術品について事前学習、資料収集および実際の鑑賞を通して、その理解を深めることができる。
- ・美術・工芸作品で使用される素材および技法について考察し、まとめることができる。

授業計画

01～03：ガイダンス等

04～08：事前学習：国宝等の彫刻（仏像等）

09～13：事前学習：国宝等の絵画（襖絵、障壁画等）

14～30：実地による国宝・重要文化財等の鑑賞研究：彫刻・工芸・絵画・建造物

学生に対する成績評価基準

鑑賞姿勢および授業への積極性50%、鑑賞研究報告書の内容50%。

参考書・参考資料等

参考資料を適宜配付または提示。

用具

別途指示する。

履修希望者への要望・事前準備

日本古来の優れた美術品についての理解を深め、美術品と表現素材および技法について考察を行うことのできるまたとない機会です。事前の学習および資料収集等しっかりと取り組み多くのものを吸収してください。

この授業は、4泊5日で奈良・京都を訪れ、現地での研修を行います。実施は3月中旬から下旬を予定していますが、詳細はバレットにて連絡します。

実地研修の費用については入学時に説明をしていますが、食事や宿泊等に必要費用として約50,000円を2回に分けて積み立てます。その他必要なものについては別途指示します。

プロダクトスケッチ実習Ⅰ

1 学年 後期 選択 実習 2 単位

◎齋藤和彦、池永 隆

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザイナーをはじめ新しいモノを生み出す仕事において、自身のイメージをスケッチなどで2次元表現することによって、第三者にそのカタチを伝える事が必須である。このプロダクトスケッチ実習Ⅰでは、そうした「スケッチワーク」を基礎的な内容から学び、実践的なスキルレベルの習得を目指す。

達成目標

- ・スケッチ作業の原理原則を理解し、形状を正しくとらえる事が出来る。
- ・美しい線が描け、正確に面の明暗とコントラスト、素材の特徴を表現出来る。
- ・アイデアの発想、及びそのアイデアを具体的なスケッチとして再現できる。
- ・描いたスケッチが第三者へのコミュニケーションツールとして正しい情報を伝えられる。

授業計画

01. ガイダンス フリーハンドスケッチ

02. 透視図の理解と立方体の作図

03. 円柱と陰影を描く

04. 球体と陰影を描く

05. マーカースケッチ（マーカの基礎）

06. マーカースケッチ（立方体と陰影）

07. マーカースケッチ（円・楕円・曲線）

08. マーカーとパステル・質感表現1

09. 質感表現2

10. 質感表現3

11. 応用表現1

12. 応用表現2

13. 応用表現3

14. 最終スケッチ・ベース（線画）の作図

15. レンダリング（完成予想図）制作

学生に対する成績評価基準

課題提出については毎回提出を原則とし、授業内容の理解度、作画の丁寧さ、完成度などを基準とした総合点とする。

詳細は授業ごとに指示をするので、それに従って提出のこと。

単位取得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。

提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。

テキスト

授業内で適宜プリントを配付する。

用具

コピックマーカー クールグレイ12色セット、コピックマーカー12色基本セット、パステル、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、コピー用紙（A3/A4）、修正液、定規など

コピックマーカーは各自用意すること。（参考）コピックマーカー12色セット 4,788円

履修希望者への要望・事前準備

スケッチの上達のためには、ある程度の訓練と繰り返しの作業が必要で、授業時間以外でも常に手を動かし、スケッチの練習をすることが重要である。

尚、本実習の単位取得は「プロダクトスケッチ実習Ⅱ」履修の条件となる。

表示図法

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
齋藤 博

授業の概要およびテーマ

立体や平面を問わず、造形における創作思想の可視化には、形態や空間に関する諸事の精緻な把握を必要とします。
造形に関する基本的図学及び図面制作の基礎力を知見・習得し、造形表現とその理解力を深めます。

達成目標

- ・自己が構想した造形を他者に制作を依頼する際に適切な形状線、寸法引出線等の作図の考え方・知識・技能を体得、これを説明できる。
- ・幾何学図形の作図法及び平行投影並びに透視投影図法による製図基礎を体得し、かつこれを表現できる。
- ・造形表現に不可欠な幾何学知識の体得。

授業計画

- ・授業は、テキストに基づく受講者による図面制作を重視する。
- ・各週の成果物は、講義終了後または次週の講義開始時に提出。

- 1 ガイダンスと製図基礎
(1) 作図用具とその使い方 (2) 「線」の引き方
- 2 前週の (2) 「線」の継続練習と成果物提出
- 3 平面図学 1 : 直線・角・円周に関する作図
- 4 平面図学 2 : 多角形の作図、円錐曲線
- 5 投影 1 : 投影法、投影の基礎
- 6 投影 2 : 面の投影、副投影面
- 7 立体図学 1 : 立体図形、多面体
- 8 立体図学 2 : 曲面体、曲面
- 9 立体の切断・相貫・展開
- 10 平行投影法とその応用
- 11 製図に関する決まりごと
- 12 別途提示する物品の寸法の実測と「スケッチ」作成
… 3 週継続
- 13 「組立状態の全体図」の作図
- 14 13 週の成果物を基にした「部品図」の作図
- 15 前週の継続と提出及び講評

学生に対する成績評価基準

成果物の有無、内容60%程度、授業姿勢40%程度として総合評価します。出席率が2/3を下回る場合は単位を与えられません。遅刻は、3回で1回の欠席扱いとします。

テキスト

- ・「わかりやすい図学と製図」 住野和男著 オーム社
2,600円+税：要購入
- ・授業時には、主として、上記テキストから抜粋した内容から作成した資料（授業開始時に配付）を中心に使用します。

用具

直定規、三角定規、コンパス、デバイダ、鉛筆（B、HB、H）、消しゴム、用紙固定用のドラフティングテープ

履修希望者への要望・事前準備

- ・テキストは毎週使用。本学売店等で事前に購入すること。
- ・作図用紙は、当面、各週に必要な枚数を教員が用意します（失敗分は受講者負担）。

プロダクトスケッチ実習Ⅱ

2 学年 前期 選択 実習 2 単位
◎齋藤和彦、増田 譲

授業の概要およびテーマ

第1学年後期に開講される「プロダクトスケッチ実習Ⅰ」の続きの授業の位置付けとなる。
生み出した造形やアイデアを第三者が理解しやすいスケッチとして表現し、より正確なコミュニケーションが図れることを目指す。
この授業では、マーカーなどの画材を用いた手描きスケッチとPhotoshop、Illustratorを使用して、複合的な表現を必要とするプロダクト製品である輸送機器や家電・情報機器を中心にその手法を学習する。

達成目標

- ・工業製品の色彩、表面処理表現ができるようになる。
- ・デザインの意図が、的確に第三者に伝わるスケッチが描けるようになる。
- ・Photoshop、Illustratorによるスケッチが描ける。

授業計画

01. ガイダンス フリーハンドスケッチと着色
02. 三面図に着色（質感表現）
03. 輸送機器 1
04. 輸送機器 2
05. 輸送機器 3
06. 家電・情報機器 1
07. 家電・情報機器 2
08. 家電・情報機器 3 (Illustrator)
09. 家電・情報機器 4 (Illustrator)
10. 家電・情報機器 4 (Illustrator)
11. Photoshop スケッチ 1
12. Photoshop スケッチ 2
13. Photoshop スケッチ 3
14. 総合スケッチ 1
15. 総合スケッチ 2

*授業内容により教室が変わることがあるため、その場合は指示にしたがうこと。

学生に対する成績評価基準

課題提出については毎回提出を原則とし、授業内容の理解度、作画の丁寧さ、完成度などを基準とした総合点とする。提出物の詳細は授業ごとに指示をするので、それに従って提出のこと。
単位取得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。
提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。

テキスト

授業内で適宜プリントを配付します。

用具

コピックマーカー グレイセット、コピックマーカー12色基本セット、パステル、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、コピー用紙（A3/A4）、修正液、定規など
コピックマーカーは各自用意すること。12色セット 4,788円（参考）
Photoshop, IllustratorがインストールされたノートPC。

履修希望者への要望・事前準備

「プロダクトスケッチ実習Ⅰ」を履修していることが条件。
スケッチは日頃からの練習が上達の早道であり、手を動かし、画材に慣れておくこと。
早く描けることが目標ではないので、第三者に理解しやすいスケッチを目指すこと。

プロダクト3DCG演習 I

2 学年 前期 選択 演習 2 単位
土田知也

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインのプロセスにおいて、時間短縮のため及びより自由な造形のため3DCG (CAD) は必要不可欠なツールとなっている。この授業ではプロダクトデザインの現場で、最もよく使われているソフトの一つであるRhino3Dの基本的な操作を学習する。

達成目標

- ・毎回学習する操作方法を確実にマスターすること。
- ・課題で提示されるモデルを完璧に作り上げること。
- ・提出期限を守ること。
- ・自分のイメージした質感、色彩で美しくレンダリングできるようになること。

授業計画

- 01 ガイダンス及び数値入力、直線
- 02 円、円弧、編集
- 03 自由曲線
- 04 サーフエース 1
- 05 サーフエース 2
- 06 ソリッド
- 07 レンダリング
- 08 ソリッドの変形
- 09 ブレンド
- 10 レールスイープの応用
- 11 ネットワークサーフェース
- 12 3Dカーブ
- 13 モデリング練習
- 14 自由制作課題
- 15 自由制作課題

学生に対する成績評価基準

毎回提出される課題の総合点から、欠席、遅刻点を減点する。
ただし、2/3以上の出席及び課題提出が単位修得の必要条件となる。
なお、公欠事由、病気、事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。

テキスト

毎回の授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

「Rhino3D Ver 5 入門」は枝靖久著 ラトルズ 3,800円
<http://www.rhino3d.co.jp/>

履修希望者への要望・事前準備

本演習は2年後期に開講される3DCG演習Ⅱを通して、デザインのツールとして3DCGをある程度使いこなせるようになることを目的としている。従って、ゴールから逆算したカリキュラムとなり、課題は毎回提出され確実に授業時間内では終了しない。とりあえず経験のために受講しようという様な姿勢では続かないので注意すること。

描写表現

2 学年 後期 選択 演習 4 単位
◎御法川哲郎、内堀 豪、羽川幸一

授業の概要およびテーマ

前期の描写表現基礎における成果を基に、美術史の巨匠を参考にし、対象をいかにとらえるかを考え・実践する。目的は前期同様、描く行為によるヴィジュアルコミュニケーションの能力を高めることである。そして、対象を的確に紙（キャンパス）の上にとらえることに加え、指定した巨匠の対象のとらえ方・技法を学び、学生各自のとらえ方・技法を拡張する。巨匠の作品を観察し、そこでの発見を各自の制作に反映させる。観察し実践することで、巨匠の考えを迫体験し理解を深める。また透明水彩絵具、アクリル絵具、一部ペンタブレットを使用し、扱える画材・技法の幅も拡張する。

達成目標

目の前の対象を、紙（キャンパス）の上の的確に描きとらえる力を獲得する。
美術史の巨匠の作品を観察し、各自の対象のとらえ方・技術を拡張する。

授業計画

- 01 ガイダンス、課題1「風景を描く1 / 透明水彩絵具」制作
- 02 制作
- 03 制作、講評
- 04 課題2「風景を描く2 / アクリル絵具」制作
- 05 制作
- 06 制作
- 07 制作、講評
- 08 課題3「モデルを描く / アクリル絵具」制作
- 09 制作
- 10 制作
- 11 制作、講評
- 家庭課題「自画像を描く / ペンタブレット」
- 12 課題4「剥製のある静物を描く / アクリル絵具」制作
- 13 制作
- 14 制作
- 15 制作、講評

学生に対する成績評価基準

課題80%、授業態度20%

テキスト

回の内容に応じ配付及び指示します。

用具

透明水彩絵具、アクリル絵具、B3パネル、画用紙、F10キャンパス、木炭紙大スケッチブック、ペンタブレット（持っていない学生は貸出）、ノートPC他、授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

描く能力を武器にしたいと考えている学生は履修すること。
3年次以降に、描くことで個人の表現を獲得したいと考えている学生は履修すること。
前期同様、対象の観察をおろそかにしないこと。

生産技術論

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
◎境野広志、齋藤 博、長谷川克義

授業の概要およびテーマ

人類は道具を活用して天然材料から手作業で生活に必要なものを作ってきました。それを発展させることで複雑かつ高機能なものも大量に製造することができるようになり、現在では人工的に合成した新素材も加わってますます多種多様な工業製品が流通しています。

ものづくりに際しては、適した素材の選択と所望の形や構造に造り上げる生産技術を知る必要があります。本授業では、各種の工業材料の用途を把握し、それを工業製品に仕上げるまでの基本的な製造プロセスを学ぶことによって、より高機能な製品の開発が容易に行えるようになることを意図しています。

達成目標

工業製品を構成する素材に関する幅広い知識を習得し、それらの造形法および製造技術の現実を理解する。

また、設計者、生産者、コンシューマー間のコミュニケーション用語を理解し、自分の言葉として活用、説明ができるようになる。

授業計画

- 1 イントロダクション：ものづくりの歴史と生産技術
- 2 材料の種類と用途：構造用材料、機能性材料、天然材料
- 3 鉄が主体の金属材料 1：鋼、炭素の役割、熱処理
- 4 鉄が主体の金属材料 2：ステンレス鋼、鋳鉄、耐熱合金
- 5 非鉄金属材料：アルミニウム、銅、マグネシウム、チタン、貴金属
- 6 有機材料 1：プラスチックを中心として
- 7 有機材料 2：複合材料、ゴム
- 8 無機材料：セラミックス、ガラス
- 9 加工法 1：除去加工（切削、研削、放電、レーザー）
- 10 加工法 2：変形加工（プレス、鍛造、鋳造、粉末）
- 11 加工法 3：付加・接合加工（3D造形、溶接、ろう付）
- 12 加工法 4：処理加工（めっき、CVD、PVD、塗装）
- 13 自然素材（木材、紙）の材料特性と加工
- 14 生産管理技術と最新生産技術
- 15 総まとめ

学生に対する成績評価基準

レポート課題（40%）と小テスト（60%）で評価します。
出席率が2/3を下回る場合は単位を与えられません。
遅刻は3回で1回の欠席扱いとします。

テキスト

授業開始時に必要な資料を配付します。

参考書・参考資料等

特に指定しませんが、情報源と情報媒体を折に触れて活用してください。

履修希望者への要望・事前準備

多種多様な工業製品に関心をいだき、デザインのみならず、使われている素材や特徴を想像する習慣を身につけて下さい。さらに造形・組み立て技術の良し悪しを判断する癖を身につけて下さい。

プロダクトCAD演習

2 学年 後期 選択 演習 2 単位
◎土田知也、金山正貴

授業の概要およびテーマ

立体デザインの分野では「図面」の作成・読解は不可欠の能力である。この授業では具体的な図面作成上の約束事、表現のノウハウ等を具体的な課題により養う。基本はJISの機械製図に基づくが、デザイナーの描く図面としての特性も加味する。

なおソフトはRhincerosを使用し、基本的なオペレーションはプロダクト3DCG演習Ⅱにて身につけていることを前提とする。

達成目標

- ・JIS規格の図面の書き方の基本をマスターすること。
- ・課題において決まりごとをしっかりと守って図面を描くこと。
- ・提出期限を守ること。

授業計画

- 01 授業ガイダンス CADとは？
- 02 図面の基本1（図法、寸法、線種）、練習問題1
- 03 練習問題2
- 04 図面の基本3（断面法、矢視図）、練習問題3
- 05 練習問題4
- 06 図面の基本5（複合円弧）、練習問題5
- 07 練習問題6
- 08 練習問題7
- 09 練習問題8
- 10 練習問題9
- 11 実力チェック問題
- 12 実物の図面化1
- 13 実物の図面化1
- 14 実物の図面化2
- 15 実物の図面化2

学生に対する成績評価基準

提出課題の総合点から欠席、遅刻点を減点する。
ただし、2/3以上の出席および課題提出が単位取得の必要条件となる。
なお、公欠事由、病気、事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。

テキスト

01～06はプリントを配付する。

用具

ノギス、直線定規

履修希望者への要望・事前準備

本演習はプロダクト3DCG演習Ⅰの単位取得を受講条件とする。
また、それなりに複雑な図面を描けるようになることを目的とするため負荷もそれなりに高い。何となく、あるいは、とっておいた方がよいと言われたから等の後ろ向きな理由での履修は遠慮してもらいたい。もちろん、図面が描ける様になりたいという強い意志を持つての履修は学科を問わず歓迎する。

プロダクト3DCG演習Ⅱ

2 学年 後期 選択 演習 2 単位
土田知也

授業の概要およびテーマ

プロダクトデザインのプロセスにおいて、時間短縮のため及びより自由な造形のため3DCG（CAD）は必要不可欠なツールとなっている。この授業はプロダクト3DCG演習Ⅰの続きの授業であり、RhinoCerosの高度な操作を学習し様々な対象をモデリング、レンダリングする。

達成目標

- ・新たに学んだ操作方法を確実にマスターすること。
- ・課題で提出されるモデルを完璧に作り上げること。
- ・提出期限を守ること。
- ・自分の描いたカタチを自由に立体化できるようになること。

授業計画

- 01 モデリング：アイロン
- 02 モデリング：アイロン
- 03 モデリング：マウス
- 04 モデリング：マウス
- 05 高度なレンダリング
- 06 高度なレンダリング
- 07 モデリング：リール
- 08 モデリング：リール
- 09 モデリング：化粧品ボトル
- 10 モデリング：化粧品ボトル
- 11 モデリング：スプーン
- 12 モデリング：スプーン
- 13 モデリング：一輪挿し
- 14 自由課題制作
- 15 自由課題制作

学生に対する成績評価基準

原則として毎回提出される課題の総合点から、欠席・遅刻点を減点する。
ただし、2/3以上の出席及び課題提出が単位取得の必要条件となる。
なお、公欠事由、病気・事故などの理由がない限り、提出期限に遅れての提出は認めない。

テキスト

毎回の授業においてプリントを配付する。

参考書・参考資料等

RhinoCerosオフィシャルトレーニングブック 中島淳雄他著
（株）ワークスコーポレーション 4,743円（税抜）

履修希望者への要望・事前準備

本授業はプロダクト3DCG演習Ⅰの単位取得を受講条件とする。

美術・工芸・デザイン分析

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎馬場 省吾、浅賀 武、扇原康成、加藤 慶、日野明子、
溝川誠司

授業の概要およびテーマ

本講義は主に美術・工芸学科の学生を対象とし、基礎から専門科目で培う造形能力を社会での様々な職種・活動において、また広くデザイン分野の業態とどの様に関連づけ有効に発揮することが出来るか、それぞれ分野で活躍する講師が実際の活動する視点から分析し講義を行います。これらから自身の進路及びキャリアへの視野を拡げ、現代社会でボーダレスになりつつある美術・工芸・デザインの領域の境界線上での造形表現やデザイン思考・目的の同意性などを理解することで、ビジュアル系、プロダクト系の企業・事務所、作家、起業等へのミチスジと可能性を考察することを目的とします。

授業は、担当教員の5名がオムニバスで担当します。

テーマとして

- （1）成果物及び企画・デザイン事例を提示し、
 - ・「目的・表現の的確性・効果／評価の分析」
 - ・「社会性、生業観」
 - ・「造形やデザイン意図の一般化」
 - ・「美術・工芸・デザイン各分野の表現、制作プロセスの共通性」
 - ・「成果物の流通と販売」
- 等から各講師が設定します。

達成目標

- （1）各分野の創作物・製品のシステム、分析・評価に関する理解を深めることができる。
- （2）創作・デザイン分野での発注者と受注者との関係と諸事象を認識し、今後の自らの進路にどの様に生かせるかを考察できる。
- （3）各分野特有の、企画・提案・制作・流通・販売までのプロセスを理解し説明できる。

授業計画

※プロダクトデザインはPDと略、ビジュアルデザインはVDと略、美術・工芸はA&C

- 01 4・09（馬場）【授業全体ガイダンス】各専門領域の能力を如何に社会で活かせるか
- 02 4・16（溝川）【身近にあるVDやメディアを紹介（課題提示）】
- 03 4・23（溝川）【職業としてのVDと業界の構造】
- 04 5・07（溝川）【VDの制作プロセスとその姿勢（課題提出）】
- 05 5・14（日野）【流通に関わる仕事のいろいろ】
- 06 5・21（日野）【製造現場に関わる仕事のいろいろ】
- 07 5・28（日野）【工芸・デザインを歴史から紐解く】
- 08 6・04（扇原）【大学から社会へ1】
- 09 6・11（扇原）【大学から社会へ2】
- 10 6・18（扇原）【大学から社会へ3】
- 11 6・25（浅賀）【PDの修得に大切なこと】
- 12 7・02（浅賀）【PDの歴史から読み取れること（グッドデザイン賞を例に）】
- 13 7・09（浅賀）【PDにおけるスキルの掘下げ】
- 14 7・16（加藤）【作家がギャラリーショップを運営する】
- 15 7・23（加藤）【表現としてのギャラリーショップ】

学生に対する成績評価基準

レポート提出（担当教員により提出課題の場合あり）70%
授業での能動的姿勢30%
公欠でない欠席・遅刻の場合は評価点から減点します。

テキスト

適宜、担当教員から配付する。

参考書・参考資料等

適宜、事前に担当教員から指示があります。

履修希望者への要望・事前準備

分野が違ふことで受講姿勢を変えない様に要望します。
大学卒業後の将来は未だ確定していませんが、3年次以降の取り組みの成果は其々の人生の針路を決定付けていきます。また卒業後において社会ではその都度新たな知識と応用力を身に付けることが求められます。大学で修得した専門能力を如何に応用・展開するかが、社会での活動を多角的に押し広げることに繋がります。本授業では各講師の「現場と実際」を知ることで、受講生に「見通す力」を身に付けてほしいと思います。

美術工芸史

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
林 克彦

授業の概要およびテーマ

日本およびアジアの古代から現代に渡る工芸作品について、スライド等を使って鑑賞しながら工芸の歴史を振り返る。その中で、工芸の多様性を知り、また、それぞれの工芸作品が生まれた歴史的な背景について考える。

達成目標

様々な工芸作品が生まれた歴史的背景（素材、技術、文化、生活など）を理解することができる。また、「工芸とは何か」「ものを作ることとは何か」の理解を深めることができる。

授業計画

- 1 美術工芸史への入り口 ～ガイダンス～
- 2 人類の進化と芸術性の獲得
- 3 火焰土器誕生 ～縄文土器の精華～
- 4 金属器の伝来と発達
- 5 正倉院の世界
- 6 仏教と工芸
- 7 唐物礼賛 ～東アジアの工芸～
- 8 茶の湯と工芸
- 9 古染付と伊万里 ～古染付日本へ、伊万里世界へ～
- 10 博物誌と工芸
- 11 万国博覧会の世紀 ～明治の技巧的作品～
- 12 柳宗悦と民藝運動
- 13 琉球・沖縄の工芸
- 14 伝統工芸とクラフト
- 15 工芸からKogeiへ ～工芸の現在と未来～

学生に対する成績評価基準

受講態度50%、レポート課題50%。

テキスト

授業時にプリントを配付する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

工芸作品は、様々な歴史的、技術的、文化的脈絡を理解することにより、作品そのものの理解がより深まります。ものを見て素直に感じることも重要ですが、その作品の背景にも思いを巡らせて下さい。

11-5-2 専門教育科目〔美術・工芸学科コース別科目〕

美術表現演習Ⅰ

3学年 前期 必修 演習 4単位

◎小林花子、岡谷敦魚、遠藤良太郎、塩谷亮、嶋崎達哉

授業の概要およびテーマ

絵画と彫刻の古典技法を学習し、それぞれの技法の古来よりの成り立ちを俯瞰し、時代背景も鑑みつつ考察する。これらの手法による作品制作を通し、平面表現と立体表現の基礎技法を修得することのみではなく、それぞれの技法から、受け継がれてきた概念も含めて学習する。

また、アーティストの役割について考察し、社会と美術との接点についての考察を深める。その実践として、各自が自由制作した作品の展示発表を行う。同時に、「伝えるためのツール」としての資料制作を行い、作品と言葉を駆使し、各自の表現についてプレゼンテーションを行うことを目的とする。

達成目標

- ・絵画と彫刻の古典技法とその基礎的な概念を理解し、作品を制作することができる。
- ・個々の表現手法と制作する意義について考え、作品に生かすことができる。
- ・アーティストの社会的役割について考察することができる。
- ・最終展示発表に向けて、プレゼンテーション資料を作成することができる。
- ・展示発表に必要な基礎的な知識と技術を身につけることができる。
- ・工房およびアトリエにある機材を、安全に正しく使用することができる。
- ・計画的に制作し、期日までに作品を完成させることができる。

授業計画

01 ガイダンス／課題説明

02～9 古典技法研究・課題制作（テンペラと古典彫刻から選択。それぞれ非常勤講師による講義および実技指導がこの期間に5回。）

10 アーティストが行う社会活動について

11～14 展示発表にむけての準備

15 最終展示発表

※講師の都合により、授業回を変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

授業課題の理解度および制作姿勢40%、成果物の内容とプレゼンテーション60%

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

材料費が4,000円程度必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

授業内容の理解と積極的な参加を求める。

美術表現演習Ⅱ

3学年 後期 必修 演習 4単位

◎岡谷敦魚、遠藤良太郎、小林花子、新村秀人

授業の概要およびテーマ

この授業は美術分野の作品制作の一般的な空間（社会的な、またはより具体的な展示場所）における実践についての調査研究と、その上で作品とそれが設置、展開される場所の関係について、主にインスタレーション（作品の設営、設置）の課題が設定され研究をするものである。

まず、社会における表現者の役割、活動という観点から、アーティスト等の実際の活動についてリサーチし、それらの研究を踏まえ、個々がプロジェクトを想定し提案する。この研究を通して社会における美術表現の役割について理解を深める。

さらに表現の具体的な発表における作品設置、発表の方法などについてグループワークにおいて実践・検証する。これは、作品の内容が、どのようにすればその設置された環境、場所と融合して効果を発揮するのかを問いつつ、ひいては美術表現の根底を成す作品、作者、鑑賞者の関係性の問題について検討するものである。

上記の研究に合わせ具体的な事例に直に触れることを目的とした美術館、ギャラリー等の見学がある。

達成目標

- ・創作/研究を通して社会との関係性を認識し自らの制作に反映させることができる。
- ・作品の場所との関係を深く考慮し、それぞれが表現の提示の質を高めることができる。

授業計画

1、2、ガイダンス、アーティストの社会における活動/W.S.等のリサーチ、企画案発表

3、4、美術館見学 ※授業日を振りかえて行う予定。

5～14、インスタレーション研究、グループセッション、制作のうち2回制作発表

15、W.S.研究成果報告 インスタレーション研究等まとめ

学生に対する成績評価基準

研究及び作品の内容70% 成果等の発表30%

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

材料費が3,000円程度必要となる場合がある。

それぞれ必要なものを準備、適宜指示します

履修希望者への要望・事前準備

授業への積極的な参加を求める。

表現者/研究者として行動すること。

クラフトデザイン演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎中村和宏、菅野 靖、手銭吾郎、長谷川克義、馬場省吾、井上 剛、齋藤直子

授業の概要およびテーマ

産業や生活文化を考え社会的思考を育むと共に、専門的な視点において創造的造形と表現を展開するための起点と捉える。そのため暮らしに根差したクラフト領域の基本的な知識を習学し、工芸における伝統と革新を理解することを目的とする

達成目標

- ・課題内容を解釈し各自の発想を提案することができる。
- ・素材及び表現の周辺知識を理解しながら柔軟な表現に繋げることができる。
- ・目的に応じた、研究成果のプレゼンテーションができる。

授業計画

第1回 ガイダンス／課題説明

第2回「工芸論」：日本の伝統文化における講義

第3回～第4回 レンダリング技法の習得

第5回～第7回 共通課題説明・プレゼンボードの制作

第8回～第9回 各領域での装飾技法の研究

第10回～第13回 制作

第14回 学生主体による計画及びプレ発表

第15回 プレゼンボード発表・総評

※「工芸論」：日本の伝統文化についての講義は、日程の変動があります。

学生に対する成績評価基準

成果の発表（成果物及びプレゼンテーション）60%、受講姿勢40%

テキスト

適宜指示をする。

参考書・参考資料等

適宜指示をする。

用具

適宜指示をする。また、研究制作時に必要となる用具の購入費用や材料費が必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

クラフト領域での素材・技法・表現を学び、様々な審美眼を広げながら各自の未来を開拓する起点として習学してください

クラフトデザイン演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎長谷川克義、手銭吾郎、菅野 靖、中村和宏、馬場省吾、石渡雅史、気賀澤雅人

授業の概要およびテーマ

クラフトデザイン演習Ⅰを踏まえ、素材と造形によって見出される価値を発見すると共に、現代に提案する工芸表現を探る。暮らしと共に発展した「工芸」を知るため、我が国の伝統や現代における表現の動向を考察しながら情報収集を行い、社会において求められるクラフトデザインとその実践的方法について理解を深める。また、これらの能力を今後の方向性に活かすことも目的の一つである。

達成目標

- ・専門領域のみならず、各種素材や技法と国際的視野で社会との繋がりを有する発想ができる。
- ・各自の研究領域にて明確なテーマを構築し、自身の方向性を探ることができる。

授業計画

01 ガイダンス／課題説明

02 「工芸論」：日本の伝統文化についての講義

03 「回転体」についてのレクチャー及びデザイン案制作

04 「回転体」デザイン完成、鳥目箱による石膏「回転体Ⅰ」制作

05 テーマ設定、情報収集、デザイン完成

06 「回転体」デザイン完成、鳥目箱による石膏「回転体Ⅱ」制作

07～09 研究及び情報収集

10～14 ポートフォリオ作成

15 成果発表（プレゼンテーション）

※「工芸論」：日本の伝統文化についての講義は、日程の変動があります。

学生に対する成績評価基準

成果の発表（成果物及びプレゼンテーション）60%、受講姿勢40%

参考書・参考資料等

適宜指示する。

用具

適宜指示する。また、研究制作時に必要となる用具の購入費用や材料費が必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

この授業は進路を見据えたものとなります。各自の指向を絡めた柔軟な発想で問題点を解決し、卒業研究および卒業後について考える糧としてください。

11-5-3 専門教育科目〔美術・工芸学科ゼミ科目、卒業研究〕

ゼミⅠ

3 学年 前期 必修 実習 2 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

美術・工芸学科に於ける各分野の研究室を選択し、より専門性を志向した内容の課題制作・研究を行う。
各コース演習の包括的授業と並行しながら、専門領域の基本的な素材・技法・表現手法などの課題を通じて理解習得し、その方法による作品制作についての概念基盤を育む。
※ゼミ選択はその研究・制作の性格・工房等を主に使用するが、工房における履修環境及び作業の安全性を考慮し、受講人数の制限を行うことがある。希望調査を行い、人数の隔たりが起きた場合、希望内容（選択理由）や今までの実習・演習内容（成績や実習姿勢）を検討し対応する。また、選択の状況等から開講されないゼミもある。

達成目標

- ・各専門分野（領域）の基本的概念を理解することができる。
- ・表現方法を得るための材料の理解とそれに伴う手法の基礎技法（専門的制作プロセス）を理解・習得することができる。
- ・課題において求められる発想力や情報収集力、目的別分析選択力など各能力を習得することができる。
- ・各自が専門分野での創作に対して考察することができる。

授業計画

授業内容・進度の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

- 1：石原ゼミ）：美術領域（西洋美術史）：課題【図像学】
01：様式論
02：図像学（iconography）と図像解釈学（iconology）
03：初期キリスト教美術
04：ロマネスク美術 フレスコ画
05：ロマネスク美術 十字架像
06：トレチエニ（trecento）の美術
07：アッシジのサン・フランチェスコ聖堂の美術
08：ジョットの革新
09：ジョットの影響
10：初期ルネサンス：マサッチョ
11：初期ルネサンス：ドナテロ
12：ボッティチエリ時代
13：盛期ルネサンス：ラファエロ
14：マニエリスム、バロックの美術
15：結論
（遠藤ゼミ）：絵画領域
01：ゼミ進行等概説
02～15：作品制作及びディスカッション、レクチャー（時代ごとのムーブメント等）
それぞれが設定した研究（作品制作）のために必要なプログラムを計画し実行する。
・期末に作品発表のためのグループ展があります。
・学外実践活動（作品発表、アート・イベント、見学）の計画、準備、実行がある場合があります。
・スケジュール詳細は初めに説明します。
（岡谷ゼミ）：版画領域（美術）
01：ガイダンス
02～04：リトグラフの技法研究
05：リトグラフ作品講評会
06～15：「現代アート10講」読み合わせ、遠藤ゼミとの合同授業
・現代美術の文脈講読により、現在のアートに関わる状況を俯瞰しつつ自主制作を行います。
・遠藤ゼミと合同で、東京美術館ツアーを行います。
（菅野ゼミ）：彫刻領域（金属工芸）：課題【基礎技法の理解とその造形】

- 01：概説および道具製作工程説明
02～04：彫り課題（鑿、伝統技法の理解）
05～06：シルバリング制作（金属の溶解、成形、接合）
07～14：高内打出し→ジュエリーへの展開
15：総括
（小林ゼミ）：彫刻領域：課題【具象表現：モデリング／カービング】
01：授業概要講義・課題説明／材料、道具の特性、取り扱い方法講義／アイデアスケッチ
02：作品プレゼンテーション／塑像心構制作、荒付け
03～07：塑像制作
08～12：木彫制作
13～14：修正・仕上げ／展示計画
15：講評・プレゼンテーション
（手銭ゼミ）：鍛金領域：課題【鍛金技法の習得として2課題を行う】
① 鎖起・絞り技法の基本である回転体（花器）の作品制作。
銅素材（銅板）による面体成形に於ける金属塑性性の理解と基本技法の習得。
01：講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具等の使用説明 工具制作・材料取り
02：実習 課題チェック→技法説明 作品制作
03～06：実習 技法説明 作品制作
07：講評・プレゼンテーション
② 鍛金技法の展開として金属工作機械と接合技法による作品制作。
旋盤・能繰り等の工作機械と電気・ガス溶接等の接合技法の理解と基本技術の習得。
08：講義 ② 課題内容説明 工房及び工具・工作機械の使用説明
09：演習 課題チェック→技法説明 作品制作
10～14：実習 技法説明 作品制作
15：講評・プレゼンテーション

- （中村ゼミ）：ガラス領域
01：概要講義・課題説明（由吹き技法による器の制作）
02：資料収集・アイデアスケッチ
03～05：作品制作
06：作品制作・講評・作品提出
07：課題説明（パートドヴェール技法による作品制作）
08：資料収集・アイデアスケッチ
09～13：作品制作
14：作品制作・講評・作品提出
15：プレゼンテーション・講評・作品提出・制作ファイル提出
〈長谷川（克）ゼミ〉：鍛金領域（金属工芸）：課題【鋳型石膏埋没鑄造法による2課題を行う】
01：オリエントーション・工房および工具使用説明
02～09：挽型による器物の制作
デザインワーク／島目箱による回転体の挽型、鋳型制作、溶解、剥き仕上、表面処理、着色、プレゼン・講評
10～15：鋳造型による銅製の制作
・スキュー、塑造、石膏離型、鋳原型、鋳型制作、溶解、研磨・叩き仕上、プレゼン・講評
＊各自の制作ペースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。
（馬場ゼミ）：鍛金領域：課題【鍛金技法の習得として2課題を行う】
① 鎖起・絞り技法の基本である回転体（花器）の作品制作。
銅素材（銅板）による面体成形に於ける金属塑性性の理解と基本技法の習得。
01：講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具等の使用説明 工具制作・材料取り
02：実習 課題チェック→技法説明 作品制作
03～06：実習 技法説明 作品制作
07：講評・プレゼンテーション
② 鍛金技法の展開として金属工作機械と接合技法による作品制作。
旋盤・能繰り等の工作機械と電気・ガス溶接等の接合技法の理解と基本技術の習得。
08：講義 ② 課題内容説明 工房及び工具・工作機械の使用説明
09：演習 課題チェック→技法説明 作品制作
10～14：実習 技法説明 作品制作
15：講評・プレゼンテーション
＊演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていく。また、ゼミによっては開講されない場合がある。

学生に対する成績評価基準

授業課題の理解度および制作姿勢30％、成果物の内容70％。

テキスト

各ゼミで適宜指示する。

石原ゼミは毎回配付。

参考書・参考資料等

各ゼミで適宜指示する。

石原ゼミは、E.ゴンブリッチ「美術の歩み」全2巻（美術出版社）、H.W.ジャッソン「美術の歴史」（美術出版社）、小学館世界美術大全集、M・ドゥルシヤック「イタリア・ルネサンス 美術史上下」（岩崎美術社）、金属工芸系（鍛金・彫金・鋳金）は技術シリーズ「金工」（朝倉書店）、「金属の工作工芸」（開隆堂）、「鍛金の実際」（美術出版社）、「造形論／人間の視覚」（京都書院）、「金属の伝統技法」（理工学社）、「金工の着色技法」（理工学社）、「工芸家のための金属ノート」（アグネ技術センター）等を推薦する。

用具

ゼミごとに指示する。また、作品制作時に必要となる道具や工具の購入費用や材料費が必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

- ・素材や道具の扱いと技法の習熟に取り組むこと。
- ・課題のテーマ・目的・条件を的確に把握し、各自が達成目標に到達すること。
- ・毎回紹介する美術作品の解説に努めてほしい（石原ゼミ）。

ゼミⅡ

3 学年 後期 必修 実習 2 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

ゼミⅠから引き続き美術・工芸学科に於ける各分野の研究室を継続選択し、各コース演習の包括的授業と並行しながら、専門性をより深化した内容の課題制作・研究を行う。
この授業は、ゼミⅠで学んだ領域の授業内容を理解・習得した上で専門性や造形方法を応用・展開し、各自のテーマに沿った思考および制作プロセス、手法、問題点を探るものである。また、4年次での卒業研究、その後の進路を見据えた創作・研究基盤を養うものでもある。また、選択の状況等から開講されないゼミもある。

達成目標

- ・各専門分野（領域）の沿革を理解することができる。
- ・意欲を持ち課題に伴う表現材料のさらなる理解と手法・技法を応用および実践することができる。
- ・各自が課題に際して適切な考察を行い、成果物に十分な完成度を求める事ができる。

授業計画

授業内容・進度の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

- （石原ゼミ）：美術領域（西洋美術史）：課題【図像学】
01：キリスト教図像学Ⅰ初期キリスト教美術
02：キリスト教図像学Ⅱ中世キリスト教美術
03：『交信告知』図像学
04：キリスト伝Ⅰ
05：キリスト伝Ⅱ
06：ルネサンス絵画の解説 ボッティチエリ
07：ルネサンス絵画の解説 レオナルド・ダ・ヴィンチの『岩窟の聖母』をめぐる
08：ルネサンス絵画の解説 ラファエロの『聖母子』の図像学
09：マニエリスム絵画の解説 フロンツィーノの場合
10：バロック絵画の解説 「無原罪の御宿り」
11：動物図像の図像学
12：動物図像Ⅰ Bestiary入門
13：動物図像Ⅱ Bestiary解説
14：動物図像Ⅲ ベリカン伝説
15：『最後の審判』結論
（遠藤ゼミ）：絵画領域
01：ゼミ進行等概説
02～15：作品制作及びディスカッション、レクチャー（時代ごとのムーブメント等）
・ゼミⅠを履修させ研究を進め深めます。
・期末公開講評会（グループ展示形式、ゲストによる講評）があります。
・学外実践活動（作品発表、アート・イベント、見学）の計画、準備、実行がある場合があります。
・スケジュール詳細は初めに説明します。
（岡谷ゼミ）：版画領域（美術）
01：ガイダンス、夏課題講評会
02～15：アクチュアルなテーマの文献講読と技法研究、遠藤ゼミとの合同授業
・11月末 大塚版画展に作品を出品します。
・文献講読と各自のドローイング・個別研究指導・自主制作から、それぞれの研究テーマの発見を目指します。
（菅野ゼミ）：彫刻領域（金属工芸）：課題【技法・表現・対外的視野・今後の方向性を踏まえ各自設定】
01：金銀研究
02～14：伝統的表現、クラフト・ジュエリー、空間・造形的表現等において、各自が取り組むべく研究計画を作成し実践する。
技法研究は平素の取組みとし、進捗の報告は適宜行う。

- 15：総括
（小林ゼミ）：彫刻領域：課題【テーマに基づいた作品制作：各自の表現素材・材料と表現手段の研究】
01：概説講義・課題説明／テーマ・コンセプト決定／アイデアスケッチ・制作ノート作成
02：プレゼンテーション／マケット制作／扱う素材、道具の取り扱いについて、制作計画書作成
03：作品制作（各作品制作計画による進行）／制作計画書提出
04～09：作品制作（各作品制作計画による進行）
10：中間報告・講評／作品制作
11～13：作品制作（各作品制作計画による進行）
14：作品制作 仕上げ／展示方法の確認と準備
15：講評／作品・制作ノート提出
（手銭ゼミ）：鍛金領域：課題【鍛金技法による2課題を行う】

- ①鍛金技法の応用課題として作品制作。
01：講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具の使用説明・工具制作・材料取り
02：実習 課題チェック→技法説明 作品制作
03～06：技法説明 作品制作
07：講評・プレゼンテーション
②自由研究 卒業研究への展開を考慮した研究と作品制作。
08：講義・実習 ② 課題内容説明
09：実習 課題チェック→技法説明 作品制作
10～14：実習 技法説明 作品制作
15：講評・プレゼンテーション
（中村ゼミ）：ガラス領域
01：概要講義・ディスカッション・課題説明（複合技法による器の制作）
02：資料収集・アイデアスケッチ
03～05：作品制作
06：作品制作・講評・作品提出
07：課題説明（各自テーマにての制作）
08：講義・ディスカッション
09：資料収集・アイデアスケッチ
10～12：作品制作
13：作品制作・講評・作品提出
14：課題説明（切り技法による作品制作）
15：プレゼンテーション・講評・作品・制作ファイルの提出
〈長谷川（克）ゼミ〉：鍛金領域（金属工芸）：課題【鋳型石膏埋没鑄造法による2課題を行う】
01～03：ガイダンス、道具製作
04～09：塑造原型による自然物の模刻
・スキュー、塑造による模刻、石膏離型、鋳型制作、溶解、叩き仕上、着色、プレゼン・講評
→15：各自のテーマによる鋳金造形作品制作
→技法等制作に関わるものは対象外により検討する～ プレゼン・講評
＊各自の制作ペースと工房共通機材の関係により時間外の指導も行う。
（馬場ゼミ）：鍛金領域：課題【鍛金技法による2課題を行う】
①鍛金技法の応用課題として作品制作。
01：講義・ガイダンス ①課題内容説明 工房及び工具の使用説明・工具制作・材料取り
02：実習 課題チェック→技法説明 作品制作
03～06：技法説明 作品制作
07：講評・プレゼンテーション
②自由研究 卒業研究への展開を考慮した研究と作品制作。
08：講義・実習 ② 課題内容説明
09：実習 課題チェック→技法説明 作品制作
10～14：実習 技法説明 作品制作
15：講評・プレゼンテーション
＊演習日程のみならず、各自の時間を用いて制作を進めていく。また、ゼミによっては開講されない場合がある。

学生に対する成績評価基準

授業課題の理解度および制作姿勢30％、成果物の内容70％。

テキスト

各ゼミで適宜指示する。

石原ゼミは適宜配付。

参考書・参考資料等

各ゼミで適宜指示する。

石原ゼミは、E.ゴンブリッチ「美術の歩み」全2巻（美術出版社）、J.ホール「西洋美術解説事典」（河出書房新社）、D.フリス「イメージ・シンボル辞典」（大修館）、M.バコ「キリスト教図像学」（白水社）。金属工芸系（鍛金・彫金・鋳金）は技術シリーズ「金工」（朝倉書店）、「金属の工作工芸」（開隆堂）、「鍛金の実際」（美術出版社）、「造形論／人間の視覚」（京都書院）、「金属の伝統技法」（理工学社）、「金工の着色技法」（理工学社）、「工芸家のための金属ノート」（アグネ技術センター）等を推薦する。

用具

ゼミごとに指示する。また、作品制作時に必要となる道具や工具の購入費用や材料費が必要となる。

履修希望者への要望・事前準備

- ・日常の観察姿勢と積極的な取り組みで、授業の「達成目標」に到達すること。
- ・英文の参考テキストを配付するので辞書を忘れないように（石原ゼミ）。

卒業研究Ⅰ

4 学年 前期 必修 演習 3 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、
小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

これまで培ってきた造形力を基盤とした卒業研究の前半として相応しい内容のテーマの立案から検討を行い、「制作」や「制作及び論文」又は「論文」の内容を見据えた技法実験、小作品の制作、研究を実践する。そして、後半の本制作の骨格となる成果を中間発表する。

テーマの対象は、屋内・屋外の場とモノ（造形）の関係、人とモノ（造形）の関係を今日的視座から探求し、長期にわたるテーマの持続性、計画性をもとにした目標の達成が求められることとなる。

また、個々に追求した専門領域の研究結果にとどまらず、本学の美術・工芸学科の特性である異領域のコラボレーションを通した、新たな造形表現に取り組むことも可能である。

達成目標

- ・テーマ内容を絞り込むために沿革の資料収集～選択、スケッチ・モデルによる質疑応答、検討が適宜行える。
- ・制作における素材の扱いと技法の効果を予測しイメージを視覚化できる。
- ・テーマに沿った制作技法の習得ができる。
- ・卒業研究として適切な内容のコンセプトを立案し、中間発表をすることができる。

授業計画

各研究室より別途指示もあります。

01～02：テーマ・コンセプトに伴う資料収集・調査～分析・選択

03～04：テーマ・コンセプトの仮設定～制作方法の検討

05～07：スケッチ、モデルによる検討 スケジュール計画

08～10：素材と技法の検討、試作

11～14：試作～諸問題の解決

15：中間発表

学生に対する成績評価基準

受講姿勢及び中間発表成果物60%、プレゼンテーション評価40%

出席・遅刻の基準

各研究室で設定する。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等

各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。

各指導教員より適宜紹介や指示をする。

用具

各研究室で指示する。

履修希望者への要望・事前準備

この「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は連動したものであり長期に渡る研究となります。そして、各自のテーマからそれぞれの手法にて、段階ごとに具体的な成果を獲得していくものとなります。中間発表で終わりではないことを意識して邁進してください。

卒業研究Ⅱ

4 学年 後期 必修 演習 3 単位

◎長谷川克義、石原 宏、遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、
小林花子、手銭吾郎、中村和宏、馬場省吾

授業の概要およびテーマ

卒業研究Ⅰを達成することで得た研究内容から最終的な卒業研究におけるコンセプトを設定し、その成果を「制作」や「制作及び論文」又は「論文」で提示する。制作においては、各自が実材による造形について研究を行う。論文においては、個々のテーマにそった考察を深め研究を行う。それぞれが卒業研究としてふさわしい高い成果の発表へ向けてアプローチするものである。

達成目標

- ・コンセプトを踏まえて立案した内容を実現するために積極的に行動することが出来る。
- ・テーマに独自性と客観性を持つことが出来る。
- ・造形における素材の扱いと技法の効果を関連づけられる。
- ・論文で卒業研究を行う場合は、論として文章をまとめることが出来る。
- ・自己の研究内容について理路を立て説明出来る。〈研究発表〉

授業計画

各研究室より別途指示もあります。

01～03：中間発表に基づく内容の修正～制作

04～11：制作

12～14：最終調整～展示実施

15：研究発表

学生に対する成績評価基準

受講姿勢と卒業研究成果物80%、展示及びプレゼンテーション評価20%

出席・遅刻の基準

各研究室で設定する。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等

各自テーマ・制作に必要な資料を取得・収集すること。

各指導教員より適宜紹介や指示をする。

用具

各研究室で指示する。

履修希望者への要望・事前準備

卒業研究は学部4年間の集大成として位置付けられ、社会への一歩や進学へのステップとして重要な役割を持っています。長期計画に基づいたその成果として、最終発表には充実した研究と発表を期待しています。なお、この「卒業研究Ⅱ」は、「卒業研究Ⅰ」の単位修得後履修できるものです。

11-6-1 専門教育科目 [建築・環境デザイン学科共通]

建築・環境コンピュータ基礎演習

1 学年 前期 必修 演習 2 単位
武井奈津美

授業の概要およびテーマ

建築・環境デザインの分野において、Illustrator、Photoshopの使い方に特徴がある。この演習では、設計のプレゼンテーションパネル制作を念頭に、基本操作からアプリケーションの連携まで学び、プレゼン力を身につける。

達成目標

- ・Illustrator、Photoshopの基礎操作方法を習得する。
- ・後期の設計演習のパネルメイキングに、習得した技術を即座に応用する。

授業計画

- 01 ガイダンス、Illustratorの基本操作 1
(図形の描き方、塗り方、アンカーポイント、パスの練習)
☐練習課題 1
- 02 Illustratorの基本操作 2 (文字の使用、整列、変形)
☐練習課題 2
- 03 Illustratorの基本操作 3
(塗り方の応用: グラデーション、透明、パターン)
☐練習課題 3
- 04 Illustratorの基本操作 4
(レイヤー、アートボード、定規、ガイド)
☐練習課題 4
- 05 Illustratorの基本操作 5
■実践課題 1
- 06 Photoshopの基本操作 1
(書類設定、画像と解像度、図形の描画)
☐練習課題 5
- 07 Photoshopの基本操作 2 (選択範囲)
☐練習課題 6
- 08 Photoshopの基本操作 3 (写真の修正:色調補正)
☐練習課題 7
- 09 Photoshopの基本操作 4 (写真の修正: レタッチ)
☐練習課題 8
- 10 Photoshopの基本操作 5 (レイヤー、調整レイヤー)
☐練習課題 9
- 11 Photoshopの基本操作 6 (レイヤースタイル、文字)
☐練習課題 10
- 12 Photoshopの基本操作 7
■実践課題 2
- 13 PhotoshopとIllustrator、jw-cadとの連携 1
(jw-cadの基本操作、jw-cadによる2.5D)
- 14 PhotoshopとIllustrator、jw-cadとの連携 2
(2.5Dパースにマッピング)
- 15 PhotoshopとIllustrator、jw-cadとの連携 3
■実践課題 3

学生に対する成績評価基準

作図課題+最終課題によって評価する。
なお、受講態度、欠席回数によっては最終課題の提出を認めないことがある。
データ作成含め、不正が確認された場合は、単位を認めない。

テキスト

授業時にプリントを配付する。

参考書・参考資料等

授業中に適時指示する。

用具

課題のデータ保存用にUSBメモリ (1GB以上推奨) を各自で用意してください。毎回授業の前に各自でUSBメモリ内部のウイルスチェックを行って下さい。

履修希望者への要望・事前準備

後期の「建築・環境デザイン演習I」では、設計がどんなに良くても、パネルのレイアウトが成功しない限り、高得点を得ることはできません。学内に展示される先輩達の優秀作品がとても美しいのは、1年生の時から腕を磨いてきたからです。設計図面、文章、模型写真、透視図などを、自在に編集し、見事にレイアウトすることは、造形大生にとって極めて重要なことです。

製図実習

1 学年 前期 必修 実習 2 単位
◎森 望、平山育男

授業の概要およびテーマ

木造およびRC (鉄筋コンクリート) 造の建築物を教材とし、建築・環境デザイン学科の諸分野における基本的な情報伝達手段である製図、透視図、模型制作、プレゼンテーションの技法について系統的に学習する。

達成目標

建築・環境デザイン学科の諸分野における情報伝達の共通言語としての製図方法を理解し、表現することができる。また、建築物がどのような要素から成り立っているのかを理解し、説明できる。

授業計画

- 01 ガイダンス、製図とは?・必要な道具について
- 02 図法の説明・線と文字・寸法の記入法・表示記号
- 03 木造の配置図・平面図
- 04 木造の立面図・断面図
- 05 木造の平面詳細図 (1)
- 06 木造の平面詳細図 (2)
- 07 木造の断面詳細図 (1)
- 08 木造の断面詳細図 (2)
- 09 展開図
- 10 透視図 (1)
- 11 透視図 (2)
- 12 模型
- 13 RC造の平面図 (1)
- 14 RC造の平面図 (2)
- 15 最終発表・まとめ

学生に対する成績評価基準

課題80%、授業姿勢20%。
なお、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えない。また、課題提出が締め切りを過ぎた場合、遅れた日数により減点する。

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

別途指示する。

参考書・参考資料等

『建築製図』 学芸出版社
『建築設計演習基礎編』 彰国社
『建築製図』 彰国社

用具

最初の授業日に必要な道具の説明をします。また、希望者には大学売店にて、一括販売します。

履修希望者への要望・事前準備

製図はデザイナーにとって必要不可欠なイメージ伝達技法であると同時に、知識と経験の積み上げが必要な技術です。毎回、授業の最初に説明をしますので、遅刻をしないようにしてください。また、課題はほぼ毎週出題されますので、提出期限を守るように。指定された道具と配付された資料は、毎回持参してください。

基礎数学

1 学年 前期 必修 講義 2 単位
◎渡辺誠介、津村泰範、福本 壘

授業の概要およびテーマ

建築・環境デザイン学科で学び、研究を進める上で、不可欠な数学的知識を習得する。高校までの学習内容のうち、特に建築設計や各種計画に必要な部分を取り上げ、集中的に理解度の向上を図る。

達成目標

建築・環境デザイン学科として必要な数学的知識を確かなものにするとともに、建築構造に対する理解や各種計画・解析を定量的な視点から捉えられるような下記の基礎的能力を獲得する。

- ・長さ、面積の単位と図面の縮尺について正しく理解できる。
- ・構造力学Iに使用するレベルの三角関数、ベクトルが理解できる。

授業計画

- 1) 数学的知識の状況確認
- 2) 建物や土地の面積把握
- 3) 建物と土地の関わり（容積率や建ぺい率）
- 4) 縮尺とモジュール
- 5) チェックテスト1と解説
- 6) 三角関数の理解度確認
- 7) 三角関数の建築・建設の場面での基礎的利用方法1
- 8) 三角関数の建築・建設の場面での基礎的利用方法2
- 9) チェックテスト2と解説
- 10) ベクトルの概念
- 11) ベクトルの大きささと成分
- 12) ベクトルの合成
- 13) 内積と角度の計算
- 14) 到達度確認（1）およびまとめ
- 15) 到達度確認（2）

学生に対する成績評価基準

各回で実施する確認テスト、到達度確認テストの成績および受講態度等で総合的に判断する。ただし、出席回数によっては到達度確認テストの受験を認めないことがある。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

今村仁美・大谷一翔『図説 やさしい建築数学』学芸出版社
2,100円

履修希望者への要望・事前準備

この授業専用のノートを一冊必ず用意すること。

基礎造形実習Ⅱ（描写）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱ（描写）は、「パース着色」と「透明水彩画」の2つのプログラムからなる。

透明水彩絵の具を使った着色方法を学ぶ。現在、クライアントにプレゼンテーションする時に使われる着色パースはコンピュータを使用したものが主流であり、手による絵具を使ったパースはほとんど使われなくなっている。しかし絵具を使ったパースには味があり、自身のアイデアを発展させるためにも、手によるパースは重要である。

「パース着色」では、建物の外観、内観、店舗のファサードを描く。

「透明水彩画」では、キャンパス内の風景画の着色を課題とする。

達成目標

透明水彩絵の具による作品制作を通じて、「空間の表現」「色彩を用いた様々な表現」について追求し、基礎的な素材と技法の把握、多様な描写表現の習得を目標とする。

- ・正しい構図を得ることができる。
- ・描写画材の応用と適切な使用ができる。
- ・個々の表現対象物の特徴を精緻に観察することができる。
- ・それぞれの材質の特徴を理解し、的確な表現をすることができる。
- ・多様な表現で特徴ある色彩表現ができる。

授業計画

- 第1回ガイダンス
- 第2回建物の外観パース
- 第3回建物の外観パース
- 第4回建物の内観パース
- 第5回建物の内観パース
- 第6回商業施設のファサード
- 第7回商業施設のファサード
- 第8回商業施設のファサード
- 第9回商業施設のファサード
- 第10回商業施設のファサード
- 第11回～第15回風景画

学生に対する成績評価基準

建物の外観・内観33%
商業施設のファサード33%
風景画33%

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

それぞれの授業内で配付することがある。

参考書・参考資料等

別途指示する。

用具

授業前に適宜指示する。指示・指定された用具は必ず授業当日までに用意・持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。経験の有無に関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。

基礎造形実習Ⅱ（造形）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱ（造形）は、「CG」「各種図面作成」「建築士試験製図」の3つのプログラムで構成される。

「CG」では3D描画ソフトのスケッチアップを学ぶ。

「各種図面作成」では前期の製図実習でカバーできなかった伏図などのトレースを行う。

「建築士試験製図」では、建築士受験のために必要な手描き図面のトレーニングを行う。

達成目標

スケッチアップを使い、パースが描ける。

各種伏図の意味を理解し、描くことができる。

建築士受験のために必要な図面を描くことができる。

授業計画

第1回～第5回：スケッチアップ

第6回～第10回：各種図面作成

第11回～第15回：建築士試験製図

学生に対する成績評価基準

「CG」33%

「各種図面作成」33%

「建築士試験製図」33%

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

それぞれの授業内で配付することがある。

参考書・参考資料等

別途指示する。

用具

授業にて適宜指示する。授業日には必ず指示された用具を持参すること。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。

基礎造形実習Ⅱ（素形材）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱ（素形材）は、「模型製作」と「椅子制作」の2つのプログラムからなる。

「模型製作」では、建築・環境デザイン演習Ⅰの4つの課題の模型を製作する。

「椅子制作」では、「椅子デザイン」で出されたアイディアを原寸で制作する。

達成目標

- ・課題の目的と条件をよく理解し、それらを満たす制作に積極的に取り組むことができる。
- ・課題の説明を記録し制作過程をまとめることができる。
- ・制作等の指導を理解することができ適切な質疑応答ができる。
- ・制作に必要な準備ができ、正しい加工法や用具の取り扱いを実践でき、美しいデザインによる完成度のある成果物が提出できる。

授業計画

詳しくは初回のガイダンス時に説明する。

学生に対する成績評価基準

模型製作67%

椅子制作33%

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

各課題により資料テキストを授業時に配付する場合がある。

参考書・参考資料等

別途指示する。

用具

各課題制作に必要な用具・材料は適宜指示する。各自が使用する材料等は各自で購入する場合もある。（各課題により異なる。）

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
履修ガイド参照

授業の概要およびテーマ

基礎造形実習Ⅱ（デザイン）は、「建築写真」と「椅子デザイン」の2つのプログラムがある。
「建築写真」では、実際の建築物の写真の撮影法を学び、実際に撮影する。
「椅子デザイン」では、各自、椅子のアイデアをだし、三面図を作成する。

達成目標

建築物撮影のノウハウがわかり、実際に撮影することができる。
椅子制作における約束事が理解でき、デザインし、三面図に表現できる。

授業計画

最初のガイダンス時に説明する。

学生に対する成績評価基準

「建築写真」27%
「椅子デザイン」73%

出席・遅刻の基準

大学の基準に準ずる。

テキスト

各授業内でプリントなど配付する。

参考書・参考資料等

別途指示する。

用具

授業にて適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

基礎造形力は、今後の制作・研究を行う上で身に付ける大切な要素のひとつです。発想力と同様に基礎的な表現力がなければ具体的な成果につながりません。経験の有る無しに関わらずそれぞれのレベルが向上することを目的としてしっかり取り組んでください。

建築・環境CAD実習

1 学年 後期 必修 実習 2 単位
◎武井奈津美、小川峰夫

授業の概要およびテーマ

国内外でシェアの高いAutoCADを用いて、基本的な作図手法を修得し、図面表現の力をつける。
前半は基本操作を習得する。中盤は、図面をトレースすることで図面の読み方を理解し、効率的な作図を身につける。後半は、その他のアプリケーションと連携を行いながら、設計図書について学ぶ。

達成目標

- ・AutoCADの基本操作を取得し、図面を正確に描くことができる。
- ・同時並行の設計演習課題の図面を、美しく描くことができる。

授業計画

- 01 ガイダンス、AutoCADの基本概念（座標、縮尺、レイヤー）、AutoCADの基本操作1（作図コマンド、基点設定）
- 02 AutoCADの基本操作2（編集コマンド、図形練習）
- 03 AutoCADの基本操作3（ブロックの活用）
☐設計演習課題作図1（ふたり部屋：RC造平面図、展開図）
- 04 AutoCADの基本操作4（寸法、文字の設定、印刷設定）
☐設計演習課題作図2（ふたり部屋：RC造平面図、展開図）
- 05 AutoCADの基本操作5（DXFファイル：Illustratorとの連携）
☐設計演習課題作図3（ふたり部屋：RC造平面図、展開図）
- 06 AutoCADの基本操作6（ペーパー空間）
☐設計演習課題作図4（蔵座敷：木造平面図、断面図、展開図）
- 07 AutoCADの基本操作7
☐設計演習課題作図5（蔵座敷：木造平面図、断面図、展開図）
- 08 AutoCADの基本操作8
（写真データの取込み、DXFファイル：その他のCADとの連携）
☐設計演習課題作図6（フォリー：配置図）
- 09 AutoCADの基本操作9
（Excelとの連携：面積表、仕上表など）
- 10 Revit（BIM）の基本操作1
☐設計演習課題作図7（フォリー：平面図、立面図、断面図）
- 11 Revit（BIM）の基本操作2
☐設計演習課題作図8（フォリー：平面図、立面図、断面図）
- 12 Revit（BIM）の基本操作3
☐設計演習課題作図9（住宅：平面図、立面図、断面図）
- 13 Revit（BIM）の基本操作4
☐設計演習課題作図10（住宅：平面図、立面図、断面図）
- 14 Revit（BIM）の基本操作5
☐設計演習課題作図11（住宅：平面図、立面図、断面図）
- 15 最終課題（CADによる図面表現のまとめ）

学生に対する成績評価基準

作図課題+最終課題によって評価する。
受講態度、欠席回数によっては、最終課題の提出を認めないことがある。
データ作成も含め、不正が確認された場合は、単位を認めない。

テキスト

毎回資料を配付します。

参考書・参考資料等

授業中に、適時指示する。

用具

課題のデータ保存用にUSBメモリ（1GB以上推奨）を各自で用意してください。毎回授業の前に各自でUSBメモリ内部のウィルスチェックを行って下さい。

履修希望者への要望・事前準備

設計稼業は、CADができなければお話になりません。設計は、1に図面、2に図面、3、4も図面で、5も図面です。図面は、設計者の「意図」を相手に伝える極めて重要な手段です。建築・環境デザイン学科に入学したからには、「図面力」を徹底的に鍛えられるものと覚悟し、精進してください。

建築・環境デザイン演習 I

1 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎山下秀之、小川総一郎、小川峰夫、川口とし子、白鳥洋子、津村泰範、佐藤淳哉

授業の概要およびテーマ

初めての設計演習である。インテリアデザイン→日本伝統様式→小建築とランドスケープ→一戸建て住宅の設計を学ぶ。製図やCAD演習で習得した技術も、この演習で応用する。

■第1課題：「ふたり部屋」／建築・環境デザインを学ぶあなたと友人のふたりが、共同生活するインテリアのデザイン。5.4m立方体の空間認識。プライベートスペース（個別空間）とパブリックスペース（共有空間）を学ぶ。

■第2課題：「蔵座敷」／日本伝統の空間様式を題材にし、そのルールの中で現代に通じる和座敷を設計する。実在する蔵のインテリア・リフォーム。「床・棚・書院」という座敷飾りの扱いを学ぶ。スケルトン・インフィルの習得。

■第3課題：「フォリー」／大学の敷地で自分の好きなポイントに、東屋的な小規模建築物をデザイン。広々とした環境と小さな構造物の関係を学ぶ。

■第4課題：「住宅」／具体的な敷地に、具体的な家族像のための住宅を設計する。住宅の開取りと内部空間と外側の形をつつまとめる。住宅設計が建築設計の基本中の基本であることを学ぶ。

達成目標

各課題ごとに、以下の完成度合で評価を行う。

1. 毎週の宿題やエスキスを、やり遂げることができる。
2. 課題条件を十分に理解した設計や、優れたデザインができる。
3. 正しく、緻密に、設計図が描ける。
4. 印象的なパースや丁寧な模型を作成することができる。
5. 設計概要を適切な文章で表現できる。
6. 以上を、美しいレイアウトでパネルに表現できる。

授業計画

各演習の初日には、ミニレクチャー形式で課題内容に関連することを学ぶ。中間日のエスキスチェックでは、スケッチブックに描いた素案や模型をもとに、教員のアドバイスを得る。最終日には提出物の採点があり、その場で優秀者の発表と講評会を行う。

前半

〈第1課題「ふたり部屋」／第2課題「蔵座敷」〉

01 オリエンテーション&教員の紹介、第1課題および第2課題の出題&ミニレク

02-03 第1課題、第2課題の宿題チェック、エスキス

04 第1課題の仮提出（図面）、エスキス（最終チェック）

05 第1課題の本提出と採点、講評会

06 第2課題の仮提出（図面）、エスキス（最終チェック）

07 第2課題の本提出と採点、第3課題「フォリー」の出題、講評会

後半

〈第3課題「フォリー」／第4課題「住宅」〉

08 第3課題のミニレク、宿題チェック（敷地写真と素案）

09 第3課題宿題チェック（エスキス模型）、第4課題の出題、ミニレク

10 第3課題と第4課題の宿題チェック、エスキス（平面・断面の検討）

11 第3課題の仮提出、エスキス（デザイン・構造の検討）

12 第3課題の本提出と採点、「フォリー」の講評会

13 第4課題の図面とスタディ模型で中間発表（全員）

14 第4課題仮提出、図面の最終チェック

15 第4課題本提出と採点と講評会

学生に対する成績評価基準

講評会での提出物の成績点数（全教員の採点平均）80％＋宿題提出20％（エスキスを受けると加算される）

未提出作品は、期末の後出し提出日に、提出条件を満たしていれば、60点として採点される。一作品でも未提出のままの場合は、履修は不合格となる。

出席・遅刻の基準

作品提出では、遅れた時間に応じた減点がなされる。

テキスト

課題文に資料を配付し説明する場合がある以外、履修者各自により参考図書などを探し、自習すること。

参考書・参考資料等

自分で探すこと。

用具

スケッチブックあるいはエスキス帳、各種筆記用具

履修希望者への要望・事前準備

各人が設計者として、アイデアや考えを人前で堂々と主張し、図面やパースや模型を作成し、プレゼンしていけるようになること。

建築構法

1 学年 後期 必修 講義 2 単位

平山育男

授業の概要およびテーマ

建築をどのように組み立てるのかは建築を考える場合、必須の事柄と言えます。

軸組構法、組積造などの各種構法の種類と特徴を踏まえた上で、木造構造を中心に基礎、軸組、小屋組、床、壁、天井、建具などの構成方法について基礎的な事項を中心に広く学習をしていきます。

特に、各構法については技術の歴史的な背景と成立の要因を有機的に探求して、現在ある構法の成立背景を併せて示して行きます。

達成目標

木造の構法を中心に設計に活用する知識を得ることを目指し、各構法を羅列的な知識として学習するのではなく、歴史的な発展として把握することにより、今後における建築構法の在り方も探る姿勢を身につけることができる。

授業計画

01 各種建築構法の種類と特徴：軸組構法、組積造

各種構法について材料の特性、構造の違いについて概括的に学びます。

02 基礎：掘立、礎石立、布基礎

02～11回の授業では各部部材の名称を説明するとともに、その成り立ちと変遷を学習します。

03 軸組：土台、柱、梁、桁、胴差

04 軒：垂木

05 架構：折置組、京呂組

06 屋根 形状と名称：切妻造、寄棟造、入母屋造

07 屋根 材料：瓦葺、金属板葺ほか

08 床：大引、根太、床材

09 天井：廻縁、棹縁、各種の天井

10 壁：真壁、大壁、各種の壁

11 開口部：窓、扉

12 木造の架構と構法：基礎伏、床伏

12～14回では各種の施工図についての解説を通して、実際の架構法を学びます。

13 木造の架構と構法：小屋伏、軸組

14 木造の架構と構法：矩計

15 まとめ

学生に対する成績評価基準

授業への参加態度20％、授業毎の小課題30％、複数回行う確認テスト50％。

なお、小課題は毎授業のおわりに実施し、次回の授業で返却をします。

テキスト

日本建築学会編『構造用教材』

参考書・参考資料等

彰国社編集『改訂 伝統のディテール』

近藤豊『古建築の細部意匠』 大河出版

履修希望者への要望・事前準備

建築物を見て、知るためには部材名称を覚えることが最小限必須となります。授業においては名称の記憶や学習に留まらず、その成立・変遷をも把握し、建築が歩んできた歴史の道のりを体験してもらいたいと考えています。そのためには建築に向かうとき、主体的に建築を知る－かたちの意味を考える－努力を希求します。

建築・環境デザイン演習Ⅱ

2 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎渡辺誠介、小川総一郎、白鳥洋子、福本 壘、柏原信幸、清水和也

授業の概要およびテーマ

公園・緑地ならびに都市計画・まちづくりなどの環境計画において、土地の持つ様々な資源を把握しつつ、保存・活用・開発の手法について計画・設計による演習を行います。演習にあたっては、長岡市内の具体的事例をケーススタディとして設定します。

達成目標

環境保全、あるいは新たな環境創造のための実践的手法を習得し、実際の計画や設計に応用できるようになることを目標とします。

授業計画

01 全体説明

〈ランドスケープ課題〉小川、柏原

02 対象地域の周辺状況および敷地現状の把握と分析

03 対象地域のボリューム把握、視点場や歴史分析

04 デザインコンセプト構築

05 空間デザイン及びエスキース作成

06 シークエンシャルスケッチ及び図面作成

07 プレゼンテーションパネル及び模型作成

08 講評会

〈都市計画課題〉清水、渡辺、白鳥、専任教員

09 対象地域の現地踏査

10 対象地域の現況および課題の把握

11 踏査結果に関する取りまとめ（プレゼンテーション）

12 空間改善のためのアイデア・コンセプト立案

13 空間デザイン及びエスキース作成

14 プレゼンテーションパネル・模型・図面作成

15 講評会

学生に対する成績評価基準

中間発表30%、作品（場所性の把握、分析・評価、コンセプト、デザイン、説得力）50%、出席した上での教員への質問・討議20%で評価します。

参考書・参考資料等

日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集成』丸善 5,040円

DAVIS・WALKER『PLAN GRAPHICS』WILEY 5,776円

日本建築学会編『まちづくりデザインのプロセス』日本建築学会 1,995円

小川総一郎『エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法』理工図書4,100円

用具

現地踏査時にカメラと記録用具を携帯してください。

履修希望者への要望・事前準備

身近に接する場所の良い点、悪い点を的確に把握し、その場所が何を求めているのかを読み取る能力を開発します。課外授業を取り入れるため、スケジュールは比較的きびしい授業になります。実際の長岡の敷地をケースとして取り上げ、基本計画をプロセスを重視して作成していきます。

建築材料実験

2 学年 前期 必修 実習 2 単位

◎江尻憲泰、小川峰夫、白井一義

授業の概要およびテーマ

建築をかたちづくる材料には骨組みを構成する構造材料、断熱・防音・耐火などの機能を求められる機能材料、内外装を仕上げる仕上げ材料があります。この授業では地震や台風など建物を破壊しようとする力に対して安全を守るために最も重要な構造材料に対する知識を実験を通して具体的に体得して行きます。実験の対象とする材料は主要な構造材料である木材、コンクリート、鋼材および複合材料としての鉄筋コンクリートです。

達成目標

構造的安全性を理解する上で骨組みの形、力の流れとともに骨組みを構成する材料の力学的性質を知ることが必要である。構造材料として用いられている材料の基本的な力学的挙動を体験的に理解することにより、工学的に評価する方法を身につける。

授業計画

01 ガイダンス

02～05 木材の圧縮試験と引張り試験

06～08 コンクリートの調合と圧縮試験

09～11 鋼材の引張り試験と曲げ試験

12～15 鉄筋コンクリート梁の製作と曲げ・せん断試験

学生に対する成績評価基準

実習・実験を通じて建築材料の性質を学ぶという授業の性格から出席率が80%を下回る場合には単位を与えません。授業のはじめにその日の実験の説明をしますので遅刻をすると目的や手順がわからなくなってしまう。遅刻は厳禁です。もしも遅刻をしたら3回で欠席1回とみなします。成績評価は、積極性（30%）と実験結果のレポート（70%）で行います。

テキスト

『材料実験ノート』長岡造形大学 建築・環境デザイン学科

費用は1,000～2,000円ですが、履修者数等で変わるため第一回授業で指示します。

参考書・参考資料等

『建築材料実験用教材』日本建築学会 1,900円

『建築材料用教材』日本建築学会 1,900円

用具

用具は基本的に大学の備品を使いますが、計算を行うので、電卓が必須です。また作業しやすく、汚れてもよい服装で臨んでください。

履修希望者への要望・事前準備

建築の設計においても施工においても使う材料の性質を知らなくてはお話になりません。しかし、力学的性質は目に見えないことが多いため、理解が困難な一面もあります。この授業では材料の破壊に至るまでのプロセスを観察することで力学的な性質を体で覚えることを意図しています。積極的に体と手を動かして実験に参加して下さい。

また、実験の結果を整理し、考察するには工学的な手法を知る必要があります。予測、観察、考察、まとめの一連の方法を知ること大切なことだと思っていますので実験を通じて覚えていただきたいと思います。

建築環境工学

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
飯野秋成

授業の概要およびテーマ

現代の建築設計にたずさわる者には、建築とまちのサステナブル性を追求する真摯な姿勢が求められる。この講義では、建築物の省エネルギーと快適性を具現化する切り口として、日照と日射、熱と結露、換気と通風、採光と照明、色彩計画、騒音と音響、および都市と地球環境のそれぞれについて、基本的な考え方を学ぶ。

達成目標

- ・日照と日射、熱と結露、換気と通風、採光と照明、色彩計画、騒音と音響、および都市と地球環境について、その基本を説明できる。
- ・環境設計の考え方を、自身の手がける建築物の計画に応用できる。

授業計画

- 01 ガイダンス：建築環境工学はなぜ必要か
- 02 日照と日射（1）
- 03 日照と日射（2）
- 04 採光と照明（1）
- 05 採光と照明（2）
- 06 色彩（1）
- 07 試験A／色彩（2）
- 08 熱と結露（1）
- 09 熱と結露（2）
- 10 通風と換気（1）
- 11 通風と換気（2）
- 12 試験B／騒音と音響（1）
- 13 騒音と音響（2）
- 14 都市と地球環境（1）
- 15 試験C／都市と地球環境（2）

学生に対する成績評価基準

授業中に実施する3回の試験A,B,C（配点は30+30+40）の合計で評価する。

テキスト

図とキーワードで学ぶ建築環境工学 学芸出版社 2800円

用具

- ・指定テキスト
- ・筆記用具

※定規、電卓等を用いることがあります。必要なときに指示します。

履修希望者への要望・事前準備

授業中に多くの演習を実施していきます。当授業の試験A－Cに向けて、そして将来の建築士試験などの受験を見据えて、毎回の演習内容を確実に身につけていってください。

建築計画 I

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
西村伸也

授業の概要およびテーマ

建築の計画・設計では、人と環境との関係を適切に捉えることが必要になります。空間を使う人達の行動とそれぞれの空間との関係、建築の内部空間で行われる行動と外部の空間で行われる活動との繋がり、建築と地域の人たちの関わり等を、建築を計画する視点から捉えて、空間のプログラムを創り上げることが建築計画の役割です。この授業は、建築計画の基本的な技術と考え方を学び、利用者の行動と空間との関係を捉える力を学びます。

達成目標

この授業は以下の目標を持っています。

- （1）建築計画の基礎的な知識（建築計画の専門用語、建築計画の考え方）を持つこと。
- （2）建築空間の課題を適切に調査や観察から把握して、人と空間との多様な関係を読み解くことができること。

授業計画

- 01) 建築計画のオリエンテーション・空間のスケール：空間のスケール感とスケールの意味。
- 02) 人体スケール：建築のスケールを決める基準としての人体スケール。
- 03) ものスケール：机椅子のスケール、空間の大きさ。
- 04) 人と人のスケール：人間距離、パーソナルスペース。
- 05) 教室の空間：教室の問題分析。
- 06) 階段のスケール：階段の各部分のスケール測定。
- 07) 住居の空間：自分の住空間の平面図。
- 08) 住空間の問題分析：住空間の行動分析。
- 09) 海外の集合住宅：中国・ヨーロッパの住宅デザイン。
- 10) 学校の空間：学校の空間記憶・平面構成と使われ方。
- 11) ヨーロッパの学校デザイン：学校の空間とその計画的な意味。
- 12) 学校の計画：学校の空間と教育方法。
- 13) 学校の計画：学生の居場所デザイン。
- 14) メディアセンター：空間の情報を集める。
- 15) 大学の空間と行動：行動を記録する。

学生に対する成績評価基準

講義で行う課題の評価70%、学期末に提出するレポートの評価30%で総合して評価を行います。100点満点で60点以上を合格とします。

テキスト

『環境とデザイン』 朝倉書店 3,400円

用具

定規・コンベックス・スケール・筆記用具等、計測・製図のできる用具を準備してください。

履修希望者への要望・事前準備

変わりゆく空間と人との複雑な関係を捉えてデザインに活かしていくことが、建築計画の役割です。建築や都市をデザインするために、新しい建築空間のアイディアやコンセプトに関する情報を集め、日常の中で空間と人との相互浸透の関係を考えるようにしてください。

建築・環境デザイン演習Ⅲ

2 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎小川峰夫、江尻泰憲、飯野由香利、佐藤淳哉、田中理恵子、東海林健

授業の概要およびテーマ

建築及び建築を含めた風土と環境、敷地との係り合いを学ぶ。建築の持つ空間、量感、そしてこれによって表現される効果を演習する。それぞれの土地に根ざした建築の設計を試みると同時に、少し複合的な機能を持った建築にチャレンジする。テーマは以下のとおり。

- ①単純な機能の中にも、都市に新たな提案を含み、空間全体を引き締めることができる建築を考え、表現とそれを包み込む環境の質の向上を計る。
- ②集合住宅等の設計：地域環境を十分理解した上で、そこに集合して住まうことの意味と街を構成する重要な要素であることを認識し、設計を進める。
- ③博物館・劇場、音楽ホール等の設計：展示するものに対する企画力と建築形態への発想の自由さを獲得し、機能を持たせた建築空間にまとめ上げる力をつける。

達成目標

現実に行われている建築設計の流れを習得する。そのためには、建築構造と建築環境工学の基礎知識を応用する能力が必要である。さらに、敷地の条件を読みこなす能力も問われ、最終的に建築造形として全ての要素を含み込んだ提案ができることが求められる。

授業計画

第1週：第1課題「ドミトリ」説明
第2週～第6週：エスキース
第7週：第1課題提出 講評 第2課題「コンサートホール」説明
第8週～第14週：エスキース
第15週：第2課題提出 講評
第7週頃に見学実習を行う。
平成28年度：八ヶ岳高原音楽ホール、飯山文化交流館
平成29年度：八ヶ岳高原音楽ホール、軽井沢の聖パウロ教会
平成30年度：未定（第一候補は八ヶ岳高原音楽ホール）

学生に対する成績評価基準

課題ごとの担当教員の評価を平均する。毎回のエスキースチェック重要。

テキスト

「博物館建築」半澤重信著 鹿島出版会
「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編
「建築設計資料集成」日本建築学会編
「コミュニティとプライバシー」S・シャマイエフ、C・アレキサンダー 鹿島出版会
「木の学校選集」文部省
各種建築雑誌

履修希望者への要望・事前準備

エスキースを重要視する。毎回学生はエスキースをしながら考えたことを教員に対してプレゼンテーションすることにより、自らの考えを修正したり、深めたりしてほしい。スケジュール管理を徹底し、各段階でのエスキース時間を十分確保すること。各自の設計案は設計者による主旨説明の後、各教員によって講評されるが各自自信をもって立ち向かってほしい。
建築・環境デザイン学科に入学し、2年目。専門課程に入る前の最後の演習となる。敷地における空地のデザインと建築設計は建築・環境デザイン学科におけるものづくりの基本であるという認識に立ち、建築及びその環境を学び、専門家としての考え方、知識を身につける上で大切な演習である。また設計することの喜び、楽しみも十分に満喫してほしい。CADは設計に携わるのであれば必須のスキルですので積極的な授業を各自展開してほしい。

構造力学Ⅰ

2 学年 後期 必修 講義 2 単位

江尻泰憲

授業の概要およびテーマ

物を床に載せた時、また、地震力や風圧力等の外力により建物には力が作用します。建物に生じる様々な応力や変位を知ることは、建物の自由な空間や人命に対する安全性、そして、近年、重要視されるようになった居住性を考える第一歩となります。

構造力学Ⅰでは、外力の種類、そして柱や梁に生じる力の種類を知り、その応力により各部材がどのように変形するかを知ることから始めます。変形が理解できたら、応力や変位を数値として算出するために必要な基本的な事項について説明して行きます。最終的には、知識として身につけた計算が実際にどのように構造物へ応用されるのか実感できる様に具体例を解説します。

達成目標

建築士に必要な力学的知識である構造物の支点反力や変位および部材断面に生じる応力の種類を理解することを第一目標とし、静定構造を中心に構造力学の計算方法を習得すると共に不静定構造物の計算を試みる。

授業計画

- (1) 概要：授業の概要
- (2) 荷重：地震力等建物に加わる外力の種類
- (3) ビン・固定：梁や柱の端部の条件（境界条件）
- (4) 応力と変形：応力の種類と変形
- (5) 力の合成と分解：力の合成及び力の分解方法
- (6) 支点反力：外力からの支点反力計算
- (7) 断面性能：応力・変位計算において必要な断面性能
- (8) 応力図：応力図の書方・見方
- (9) 梁の応力・変位計算：外力による応力・変位の算出方法
- (10) 見学会：工事現場見学または建物見学
- (11) トラスの計算：トラスの計算方法
- (12) 応力計算方法：たわみ角法、D値法
- (13) 応力度と許容応力度：断面性能と応力度、許容応力度
- (14) 演習：応力計算の演習
- (15) まとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価は、試験（75%）と積極性（25%）を総合的に行う。

テキスト

適宜プリントを配付します。

参考書・参考資料等

『建築骨組の力学 基礎編』田中 尚・高梨晃一・宇田川邦明共著、東洋書店

『最高に楽しい建築構造入門』江尻泰憲著、エクスナレッジ

用具

電卓

履修希望者への要望・事前準備

建築の構造は計算だけで理解できるものではありませんが、応力を理解することは創造的な建築設計の基礎になります。興味を持てるようになるには、基本的な知識が必要です。知識取得のためには、時間をかけて努力する必要があります。

建築材料

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
◎平山育男、津村泰範、森 望

授業の概要およびテーマ

建築を造るためには必ず材料が必要です。そして建築に用いられる材料の数は極めて多く、性質もそれぞれ異なります。構造物の建設にはこれらの材料を大量に使用するので、構造物と住環境における安全性や耐久性に対して材料が及ぼす影響も大きく、材料の性質や長所・短所を知ることが極めて重要です。また、仕上材の性質を知り、よりよい空間の構成を知ることが重要です。授業では構造物としての木材、鋼材、コンクリートについての特性と、仕上用材の学習を通し、今後の学習の基礎とします。

達成目標

建築の構造材料として代表的な木材、鉄筋コンクリート、鋼材の性質と強度について理解し、建築物の設計に際しての基本事項として把握することができる。
また、仕上げ材の種類と用途を学ぶことによって、建築表現の在り方を把握することができる。
これらを合わせて実際の設計などにおいて、適切な材料の使用及び選択を行うための力を養うとともに、建築表現を行うことができる。

授業計画

- 津村
- 01 建築材料の基礎
 - 02 木材の特徴と日本建築
 - 03 木材の種類と用途
 - 04 木材の加工と性質
 - 05 合板、集成材、輸入材
- 平山
- 06 鋼材の性質と強度
 - 07 鋼材の物性と製品
 - 08 セメント・コンクリートの性質と強度
 - 09 コンクリートの調合と打ち込み
- 森
- 10 石材・セラミックス
 - 11 金属・プラスチック・防水材料
 - 12 ガラス・屋根材料
 - 13 壁下地・左官
 - 14 内外装材・塗料・接着剤
- 共通
- 15 まとめ

学生に対する成績評価基準

成績はテスト（80％）、授業の受講態度・意欲（20％）により評価します。

テキスト

絵とき建築材料 改訂2版 オーム社 2,940円

参考書・参考資料等

『建築材料用教材』 日本建築学会 1,995円
このほかに参考となる資料などを授業において資料として配付します。

履修希望者への要望・事前準備

建築の材料を知ることが、よりよい建築を造るための第1歩となります。材料の種類、性質、特性をよく理解して、今後の設計活動などにおける礎としてください。

建築構造

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
江尻憲泰

授業の概要およびテーマ

日本の建築は、木造、鉄筋コンクリート造、および鉄骨造が基本の3つですが、各材料の性質を利用し、架構の組み方を工夫することにより様々な建築が日々創造されています。本授業では、いろいろな構造形式・構造種別があるので、それぞれの特徴を構造設計の観点から解説します。
また、材料は、温度や湿度の変化で伸びたり縮んだり、水の影響で腐敗したり、火事で燃えたり、ゆがんだりします。材料の性質を熟知し設計に活かすことも重要なことであり、構造に関する講義をしつつも、様々な材料の特質や意匠・設備の関わりについても触れていきます。

達成目標

構造種別、構造形式、材料の強度以外の性質に関する知識を習得すること及び基本的な構造設計法を理解する。また、建築には様々な業種があり、構造設計と意匠設計・設備設計、施工との関わりを理解する。

授業計画

- (1) 概 要：授業の概要
- (2) 構造種別：鉄骨造・鉄筋コンクリート造・木造とは
- (3) 構造形式：ラーメン構造・ブレース構造・壁式構造とは
- (4) 木 造：木の性質と木造
- (5) 鉄筋コンクリート造：コンクリートの性質と鉄筋コンクリート造
- (6) 鉄骨造：鉄鋼の性質と鉄骨造
- (7) 構造図の描き方：構造図の基本的な作図方法の解説
- (8) 建築計画・構造計画：構造計画と建築計画・設備計画との関わりを実例で紹介
- (9) 様々な構造：膜・トラス・シェル・組積造・免震構造・制震構造の解説
- (10) 小さな構造：展示など小さな構造物の実例の紹介
- (11) 建築構造の歴史：基準法の歴史を中心に建築構造に関わる災害・事件を解説
- (12) 見学会：工事現場見学または建物見学
- (13) 耐震診断・耐震補強：一般の建物や重要文化財の診断・補強方法の紹介
- (14) 構造設計の実例：力の流れを実例を通して解説
- (15) まとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価は、試験（50％）とレポート（25％）および積極性（25％）等を含めて総合的に行う。

テキスト

適宜、プリントを配付します。

参考書・参考資料等

『構造物の技術史』 藤本盛久編 市ヶ谷出版社
『YOUR PRIVATE SKY』 R.BUCKMINSTER FULLER LARS MULLER PUBLISHERS
『最高に楽しい建築構造入門』 江尻憲泰著、エックスナレッジ

履修希望者への要望・事前準備

建築設計は、構造に関する様々な知識が必要となる。構造計算以外の構造に関する知識を取得するため、実際の様々な建物を見て構造に関して考えてほしい。

測量学実習

2 学年 前期 選択 実習 2 単位
◎渡辺誠介、平山育男、可兒雅幸、渡邊信治

授業の概要およびテーマ

建築家、ランドスケープデザイナー、都市計画家、文化財建造物保存専門家、遺跡整備専門家、土木技術士などに必要不可欠な技術である「測量学」を講義・実習を通して身につける。特に平板、測距、レベル測量、角測量の技術を実践的に身につけ、スケール感を養う。

達成目標

測量士補レベルの能力を身につける。
(1) 地形情報処理技術の全般的理解ができる
(2) 測量器具が使える

授業計画

- 01 ガイダンス＋距離測量講義
- 02 距離測量実習
- 03 平板講義（放射法、前進法）
- 04 平板測量実習
- 05 平板測量実習
- 06 レベル測量講義
- 07 レベル測量実習
- 08 レベル測量実習
- 09 角測量講義
- 10 角測量実習
- 11 角測量実習
- 12 角測量実習
- 13 土量計算
- 14 GIS測量
- 15 最終内業確認

学生に対する成績評価基準

実習での器具取り扱い習熟50%、講義でのレポート50%

テキスト

『図解土木講座 測量学』 小田部和司著 技報堂出版 3,200円

履修希望者への要望・事前準備

野外での実習があるため、作業しやすい服装を準備すること。
野外で実習の際は、樹木の名前を覚える努力をすること。
三角関数付きの電卓は必須です。

建築・環境CG実習 I

2 学年 前期 選択 実習 2 単位
◎福本 壘、佐々木雅宏、高木秀太

授業の概要およびテーマ

Rhinoceros、Grasshopperによる

1. 建築モデルの3Dモデリング、パラメトリック制御、図面出力（題材：バルセロナパビリオン）
2. 都市の解析手法、ビジュアライズをそれぞれ習得し、建築設計（課題）にデジタルな手法を取り入れる。

達成目標

- ・3DモデラRhinoceros、および、グラフィカルアルゴリズムエディタGrasshopperの学生課題レベルでの技術習得
- ・デジタル3Dモデルの素材活用スキルの習得
- ・上記技術の設計課題への自主的な応用

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Rhinocerosの基礎
- 第3回 Rhinoceros建築モデリング演習1
- 第4回 Rhinoceros建築モデリング演習2
- 第5回 Rhinocerosでの図面出力、パース作成
- 第6回 Rhinocerosへの地図データインポート
- 第7回 Grasshopperの基礎
- 第8回 Grasshopper建築モデルのパラメトリック制御演習1
- 第9回 Grasshopper建築モデルのパラメトリック制御演習2
- 第10回 Rhinoceros + Grasshopperでの都市解析ビジュアライズ手法
- 第11回 RhinocerosとAdobe Illustratorの連携
- 第12回 課題：都市解析のビジュアライズ スタディ1
- 第13回 課題：都市解析のビジュアライズ スタディ2
- 第14回 課題：都市解析のビジュアライズ スタディ3
- 第15回 課題：都市解析のビジュアライズ 最終発表会

学生に対する成績評価基準

- ・毎授業の提出物可否による絶対評価（70%）
 - ・最終提出物のクオリティによる相対評価（30%）
- 上記の通り、本授業は提出物（主に演習の成果物や課題スタディ結果の報告）を重要とし、全体の評価の7割とするので、注意すること。

テキスト

Webテキストを用いる。詳細は授業時にアナウンスする

参考書・参考資料等

授業時にアナウンスする

用具

大学設備のPCを用いるが自身のPCを用意しても良い

履修希望者への要望・事前準備

- ・第2学年 前期 「建築・環境デザイン演習Ⅱ」を同時履修する（あるいは、履修済である）と習得知識・技術に相乗効果が見込めるので推奨する
- ・コンピューターに「詳しい者」はもちろんではあるが、「詳しくない者」にこそ是非受講していただきたい。丁寧な指導を心がけるので「デジタル」に怖がらないこと。
- ・授業計画については進行状況や他の授業との連携によっては適宜変更するので授業中のアナウンスを注意すること

都市計画

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

都市計画とは、都市の総合的将来像を提示し、その実現に向けて住民の都市活動を誘導する手法である。そのためには、建築の単体規定および集団規定を学び、その上で経済学、社会学、行政学、文化財学、農林学など多くの素養を必要とする。こうした日本の都市計画の流れと、新たな制度、事例を合わせて今後必要となる技術を紹介する。

達成目標

都市計画制度の概要が説明できる
都市計画における専門技術を理解する
現代日本の都市計画の課題を理解する

授業計画

- 01 都市計画理論の変遷
近代都市計画の先人である、エベネザー・ハワード、ル・コルビジェ、パトリック・ゲテス、ケヴィン・リンチ、クリストファー・アレキザンダーの都市論を学ぶ。
- 02 建築の観点から見た都市計画法と都市計画事業
日本における都市計画法の変遷。都市計画法と建築基準法の関係。ゾーニングと集団規定。市街化調整区域と線引き、非線引き。用途地域と建蔽率、容積率。接道義務と二項道路。区画整理事業と都市再開発事業。
- 03 国土計画と市町村合併
全国総合開発計画から4全総、5全総までを概括する。
- 04 都市計画と市民参加
日本のまちづくりNPOの変遷。欧米のまちづくりNPOの変遷。日本の都市計画法の中での市民参加の規定について
- 05 人口予測と土地利用計画
人口予測手法としての線形回帰法とコーホートモデルを学び、長岡の人口推計を行う。これに基づき土地利用計画の立て方を学ぶ
- 06 整備保と都市計画マスタープラン
都市計画の総括的考え方である「整備・開発・保全の方針」と「市町村マスタープラン」について学ぶ
- 07 優良田園都市住宅の考え方
市街化調整区域内での特例的田園集宅地の開発の考え方を学ぶ
- 08 景観法と事例
景観法と景観法が導入されてきた背景を学ぶ
- 09 デザインサーベイとまちづくり
伝統的建造物群保存地域などを調査するための建築的デザインサーベイの方法論を学ぶ
- 10 まちづくり三法、都市再生特別措置法とまちづくり
中心市街地を活性化させるための所謂「まちづくり三法」の正立、改正の背景を学び、都市再生特措法のメニューを学ぶ
- 11 商業地デザインのテクニック
商業地のデザインテクニックを学ぶ
- 12.3 人口減少期のコンパクトなまちづくりの議論
人口減少期に検討されるべき、建築の減築、コンバージョン、間戻の手法と課題について考える
- 14 費用便益、経済波及効果分析
事業の有効性を測定する費用便益法、経済波及効果の手法を学ぶ
- 15 立地適正化計画
立地適正化計画について学ぶ
- 16 期末試験

学生に対する成績評価基準

講義でのレポート30%、期末試験70%

テキスト

授業時に配付する

履修希望者への要望・事前準備

日本の人口が減少に向かう中、地方の都市のあるべき姿と、これまでの方向性に乖離が生まれ、問題が起きている。これを解決するための都市計画的ヒントを理解したい人が受講してください。

住宅リフォーム論

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
川口とし子

授業の概要およびテーマ

住宅ストックの量的な充足、また環境問題、資源・エネルギー問題が深刻化する中で、既存ストックの適切な維持管理に加え、地震や高齢化等に対応する住まいの性能もより高く求められてきている。そこでますます重要とされる〈住宅リフォームのプロセス〉について学ぶ。

達成目標

住宅リフォームの流れや建物のライフサイクルコストへの理解を通じて、建築の良質なストックを設計するための基礎知識の習得。

授業計画

- (1) 〈I. 住宅リフォームの基礎知識〉 I-1. 住宅市場の推移
- (2) I-2. 様々なリフォーム
- (3) I-3. リフォームの流れ
- (4) 〈II. 住宅の性能とリフォーム〉 II-1. 耐震改修
- (5) II-2. 省エネルギー
- (6) II-3. バリアフリーリフォーム、II-4. 防犯について
- (7) 〈III. 部位別リフォームとコスト〉 III-1. 基礎のリフォーム、III-2. 屋根のリフォーム
- (8) III-3. 外壁のリフォーム、III-4. 内装のリフォーム
- (9) III-5. 設備のリフォーム
- (10) 〈IV. 住宅リフォームとLC〉 IV-1. 建物のライフサイクルコスト (LC)、IV-2. 小規模リフォーム
- (11) IV-3. 設備と中規模リフォーム
- (12) IV-4. 構造と大規模リフォーム
- (13) 〈V. 事例によるリフォームプロセス〉 V-1. 木造（在来軸組工法）のリフォーム、V-2. 木造（2×4工法）のリフォーム
- (14) V-3. 鉄筋コンクリート造のリフォーム
- (15) V-4. 鉄骨造のリフォーム

学生に対する成績評価基準

出席率2/3以上を前提に、小レポート・発表（40%）、期末レポート・発表（60%）

テキスト

『今、中古マンション買ってリフォームが正解』 川口とし子著、メディアファクトリー¥1,188-

参考書・参考資料等

『リフォームの現場から』 川口とし子著、日本建築仕上学会 学会誌「FINEX No.115~121」、他

履修希望者への要望・事前準備

授業への積極的な参加を前提に、建築の良質なストックを設計する将来世代としてのモチベーションを高めること。

建築計画Ⅱ

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
西村伸也

授業の概要およびテーマ

この授業では、既存の建築での使われ方をいろいろな側面から調査・分析してその問題点を捉えること、それぞれの問題に基づいた新たな空間提案を組み立てます。幾つかのコンセプトを生成するための種を起点にして、建築計画的な視点から空間の問題を整理して、コンセプトデザインを行うための基礎的な学習をします。

達成目標

建築計画的な空間のとらえ方を実際の調査・ワークを通して学習し、建築計画に関する以下の基礎的な力を獲得します。

- (1) 建築計画的な視点からの空間を分析しその問題を適切に捉えられること。
- (2) 空間に対する適切なコンセプトをデザインできること。

授業計画

- 01) オリエンテーションとコンセプトデザインの進め方
- 02) 「透過性」：教室の透過性をキーワードにして、新しい空間を提案する
- 03) 「透過性」：プロムナードの新しい空間提案を行う
- 04) 「居場所」：学生の居場所を考えることで、プロムナード空間に新しいコンセプトの生成を行う。
- 05) 「居場所」：教員・職員、来校者等の居場所や連携する地域住民の居場所をデザインする
- 06) 「居場所」：大学の中に、居場所をデザインすべき所を探して、居場所のコンセプトデザインを行う
- 07) 「多機能性」：教室に設定されている機能とは別の機能を加えることで、新たな教室空間をコンセプトデザインする
- 08) 「多機能性」：食堂の機能を拡張するリノベーションを「多機能性」という視点からデザインする
- 09) 「領域」：食堂の機能を拡張するリノベーション：新しい空間のデザイン
- 10) 「領域」：エントランスの領域を拡張して、新たな空間をデザインする
- 11) 図形の操作と解説：コルビュジェの設計方法
- 12) 図形の操作と解説：横文彦の設計方法
- 13) メディアセンターの拡張：図書室の持っている課題を、利用者としての学生・教員・職員・地域住民等の別に整理する
- 14) メディアセンターの拡張：コンセプトデザインのための種「透過性」を用いて、新たな空間を提案する
- 15) メディアセンターの拡張：コンセプトデザインのための種「居場所」を用いて、新たな空間を提案する

学生に対する成績評価基準

講義で提出するワークのレポートを評価（70％）します。さらに学期末に提出するレポートの評価（30％）を加えて評価を行います。100点満点で60点以上を合格とします。

テキスト

『環境とデザイン』朝倉書店 3,400円

参考書・参考資料等

『かたちのデータファイル』高橋研究室編 彰国社 2,730円

用具

調査に必要な定規・コンベックス・スケール、色鉛筆、製図に必要な用具を用意してください。

履修希望者への要望・事前準備

建築の設計では、いろいろな建築空間や人の環境に対して、新しいまなざしと独創的なコンセプトデザインが求められています。建築計画Ⅱでは、コンセプトデザインの鍵となる視点を活用して、コンセプトの生成をワークしていきます。事前に、自分の身の回りの空間がどのように作られ使われているかをしっかりと見ておいてください。また、インターネットや図書室で関係ある建築空間について、調べておくようにしてください。

緑地環境設計

2 学年 後期 選択 講義 2 単位
小川総一郎

授業の概要およびテーマ

前期「緑地環境計画」で習得したランドスケープ計画の基礎技術を発展させて、毎週講義で学んだことを課題に反映して最終成果課題につなげる。一連のデザインプロセスを経て、空間を総合的にデザインすることを体験する。

達成目標

ランドスケープの基礎的な図面を描くことができる。
ランドスケープ設計に必要な材料を適切に使い分けることができる。
特定視点場から正確なスケッチを描くことができる。

授業計画

- 1 ガイダンス：最終課題説明
- 2 樹木
- 3 空間構成感覚
- 4 屋外スケッチ
- 5 透明水彩技法
- 6 透明水彩：キャンパス
- 7 透明水彩：キャンパス仕上げ・講評
- 8 植栽設計
- 9 水路設計
- 10 水辺空間設計
- 11 勾配感覚
- 12 道路設計
- 13 造成・排水・駐車場設計
- 14 擁壁・舗装設計
- 15 プレゼン

学生に対する成績評価基準

演習課題ではないのでデザインで評価せず、小課題が最終成果に反映されているかどうかで評価する。
定期的な小課題：未提出の場合減点
最終成果課題 100％

テキスト

エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎
理工図書 4,200円（税別）

参考書・参考資料等

庭木と緑化樹1,2 飯島亮 誠文堂新光社
住まいの樹木図鑑 住友林業緑化

用具

スケッチブックなど、ガイダンス時に説明します。

履修希望者への要望・事前準備

2 学年前期の「緑地環境計画」を履修し単位を取得してください。

建築・環境CG実習Ⅱ

2 学年 後期 選択 実習 2 単位
◎福本 壘、佐々木雅宏、高木秀太

授業の概要およびテーマ

建築設計におけるデジタル手法をアドバンスドに学習する。本授業では特に「住宅」設計に特化し、2つの課題を設定する。前半課題はこれまでに自身が取り組んだ住宅設計課題をデジタル手法で「リビルド」することを試みる。後半課題ではさらに拡張し、レーザーカッター、3Dプリンタを用いた、多様な「住宅模型キット」を作成する。

達成目標

- ・3DモデルRhinceros、および、グラフィカルアルゴリズムエディタGrasshopperの建築設計（課題）へのハイレベルな応用
- ・レーザーカッター、3Dプリンタによる建築模型の出力
- ・上記技術の設計課題への自主的な応用

授業計画

- 第1回 ガイダンス
第2回 Rhinceros、Adobe Illustratorからのレーザー／3D出力
第3回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ1
第4回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ2
第5回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ3
第6回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ4
第7回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする スタディ5
第8回 課題1：住宅課題をパラメトリックリビルドする 最終発表
第9回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ1
第10回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ2
第11回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ3
第12回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ4
第13回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ5
第14回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する スタディ6
第15回 課題2：システムチックな住宅キットを開発する 最終発表

学生に対する成績評価基準

- ・毎授業の提出物可否による絶対評価（70%）
 - ・最終提出物のクオリティによる相対評価（30%）
- 上記の通り、本授業は提出物（主に課題スタディ結果の報告）を重要とし、全体の評価の7割とするので、注意すること

テキスト

Webテキストを用いる。詳細は授業時にアナウンスする

参考書・参考資料等

授業時にアナウンスする

用具

大学設備のPCを用いるが自身のPCを用意しても良い

履修希望者への要望・事前準備

- ・第1学年 後期 「建築・環境デザイン演習Ⅰ」（住宅設計課題）を履修済であることが望ましい
- ・第2学年 前期 「建築・環境CG実習Ⅰ」を履修済であると習得知識・技術に相乗効果が見込めるので推奨する
- ・コンピューターに「詳しい者」はもちろんではあるが、「詳しくない者」にこそ是非受講していただきたい。丁寧な指導を心がけるので「デジタル」に怖がらないこと。
- ・授業計画については進行状況や他の授業との連携によっては適宜変更するので授業中のアナウンスを注意すること

構造力学Ⅱ

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
江尻憲泰

授業の概要およびテーマ

実際に建設される建物は柱と梁で構成された構造物です。構造物に外力が作用したときの構造物の応力や変形状を正しく知ることは大変重要です。構造力学Ⅱでは、構造力学Ⅰで学んだ力学的知識に続きより実設計をする上で必要とされる事について解説します。フレームの力学的性状を理解することは、数値を算出することではありません。建物は、ねじれたり、座屈をしたり複雑に変形します。力の流れがイメージできるとより合理的な建築計画が可能になります。

達成目標

地震、風、積雪等の外力が構造物に作用したときの構造物（フレーム）に生じる力が理解できることを目標とする。また、建築設計実務で行われる許応力度計算や保有水平耐力計算等の実務で使われる手法の概要を理解し、構造設計上の必要知識を習得する。

授業計画

- （1）概要：授業の概要
- （2）部材応力：構造力学Ⅰの復習1（応力の種類）
- （3）応力計算：構造力学Ⅰの復習2（梁・架構の応力計算）
- （4）剛性率：剛性率の解説
- （5）偏心率：偏心率の解説
- （6）木造軸組1：木造軸組の壁量計算法の解説
- （7）木造軸組2：1/4法、N値法の解説
- （8）一貫計算：一貫計算プログラムによる計算書の見方
- （9）見学会：工事現場見学または建物見学
- （10）座屈：柱・板・構造体の座屈の解説
- （11）保有水平耐力：保有水平耐力の概要
- （12）仮想仕事法：保有水平耐力計算方法
- （13）振動解析1：地震動・固有値の解説
- （14）振動解析2：環境振動・交通振動の解説
- （15）まとめ

学生に対する成績評価基準

成績評価は、試験（75%）と積極性（25%）等を含めて総合的に行う。

テキスト

適宜、プリントを配付します。

参考書・参考資料等

『建築骨組の力学 応用編』田中 尚・高梨晃一・宇田川邦明共著、東洋書店
『YOUR PRIVATE SKY』R.BUCKMINSTER FULLER LARS MULLER PUBLISHERS
『最高に楽しい建築構造入門』江尻 憲泰著、エックスナレッジ

用具

電卓

履修希望者への要望・事前準備

建築設計は、構造に関する様々な知識が必要となります。構造計算以外の構造に関する知識も重要です。そのための一歩として、実際の様々な建物を見て、構造力学Ⅰや構造力学Ⅱで身につけた知識を参考に、構造に関して考えるとより構造に対する知識が深まります。

建築設備

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
飯野秋成

授業の概要およびテーマ

建築物を有効にそして快適に使い続けていく上で、建築設備は欠かすことができません。長い歴史の中で人々が培ってきた建築設備技術をひも解けば、無味乾燥に思える機械室設備群の価値が理解され、設備設計の緻密さにロマンをも感じるのではないのでしょうか。この授業では、空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備の設計方法を学びます。特に、建物用途ごとの考え方の違いにフォーカスしています。この講義で得られる知識は、学生個々のオリジナルの建築物の設計にも大いに役立ててもらえるのでは、と思っています。

達成目標

- ・設備設計の対象となる建築物に対して、空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備、消防・防災設備の設備設計の考え方を記述できる。
- ・設備設計の対象となる建築物に対して、適切な設備を選択し、また基本的な設備図面を描くことができる。

授業計画

- 01 ガイダンス：建築設備と建築計画との密接な関わり
- 02 オフィスビルの設備設計（1）
- 03 オフィスビルの設備設計（2）
- 04 オフィスビルの設備設計（3）
- 05 演習Aと解説
- 06 学校の設備設計
- 07 図書館の設備設計
- 08 機械設備の仕組み
- 09 演習Bと解説
- 10 宿泊施設の設備設計
- 11 病院の設備設計
- 12 蓄熱とコージェネ
- 13 演習Cと解説
- 14 省エネ重視の設備設計
- 15 演習Dと解説

学生に対する成績評価基準

演習A～Dの各得点（各々25点）の合計で評価します。

テキスト

図とキーワードで学ぶ建築設備 学芸出版社 2800円

参考書・参考資料等

「新潟工科大学環境設備・芸術工学研究室」のWebに、予習、復習用動画があります。
予習、復習に適宜視聴してください。http://www.niit.ac.jp/abehtml/iinolab/

用具

- ・指定テキスト
 - ・筆記用具
- ※定規、電卓等を用いることがあります。必要なときに指示します。

履修希望者への要望・事前準備

演習A～Dに出題する問題は、授業中に説明した内容、およびテキストに明示されている内容となっています。単位修得を目指す学生は、毎回の講義にしっかり向き合ってください。

建築設計

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
山下秀之

授業の概要およびテーマ

本講義では、同時期開講の設計演習と密にリンクしながら進めるものである。事例を具体的にとりあげ、設計方法を解説し、履修者の設計演習に即時応用してもらう。構造・設備・施工についても解説する。

達成目標

設計要件を建築物として成立させるべく、計画・法規・構造・設備・材料・納まり・施工方法を図面化できるようにすること。それらを皆さんの設計演習で応用できるようになること。

授業計画

- 第1期__インテリアの設計と建設
- 第2期__RC造の設計と建設（1）（2）
- 第3期__木造の設計と建設（1）（2）
- 第4期__鉄骨造の設計と建設（1）（2）
- 第5期__専門図（詳細図・構造図・設備図）の設計
- 第6期__幾何学的思考・ダイアグラム・システム・プログラム（1）（2）
- 第7期__里山環境の建築の設計（1）（2）
- 第8期__設計競技の建築について
- 第9期__現代都市の建築の設計（1）（2）

学生に対する成績評価基準

期末レポート100%（ただし、出席回数12回以上が条件で、欠席日数に準じる減点あり）

出席・遅刻の基準

授業開始5分以内を出席、それ以降を欠席と扱う。出欠に関して1回でも不正が明らかになった場合は、評価を不合格とする。

テキスト

オリジナルのプリントを毎回配付

参考書・参考資料等

特になし

用具

特になし

履修希望者への要望・事前準備

建築の設計は、以下の「力」を必要とする。複雑な設計条件の読解力、平面計画の推敲力、空間や立体の造形力、日々進化する技術や素材への工学力、建築基準法など法規への適応力、CAD/CGのパソコン力、美しい模型の製作力、手による描写表現力、設計説明書の文章力、パワーポイントによるプレゼン力、面積や工事費計算のエクセル力、建設現場における指示力、近未来を見すえた判断力。以上、大変な労苦を伴うものだが、建築に熱意を持つみなさんの初期衝動が持続し、身を結ぶことを望む。

エコロジカルプランニング

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎小川総一郎、鈴木誠治

授業の概要およびテーマ

「生態的に安定した環境は必然的に景観も美しい」という前提に立ち、自然環境のあるべき姿について学びます。この地域の自然環境に立脚したエコロジカル・プランニング手法により、生態的に安定した美しい景観を計画することを目指します。

そのための基礎として生態学的な知識と理解力を養うとともに、エコロジカル・プランニングの手順と方法について学習します。最後にその応用として、本学のキャンパスをモデルとしたエコロジカル・ランドスケープの小演習を行います。

達成目標

エコロジカル・プランニングの基礎としての地域の植生や生態系を理解し、自分なりのエコロジカルな視点に立った計画アプローチができるようになることを目指す。

授業計画

第1 ステップ：エコロジカル・プランニングの概要と基礎

- 1 エコロジカル・ランドスケープの世界
- 2 地形の読み方と生物相の関係
- 3 生態系に関する基礎知識
- 4 地域の自然（生態系）に関する知識
- 5 里山の生態系の特性と保全

第2 ステップ：地域の自然を知ろう

- 6 キャンパスでのハビタット調査
- 7 キャンパスでの場とハビタット設定

第3 ステップ：生物生息環境とエコロジカル・プランニング

- 8 エコロジカル・プランニングのプロセス
- 9 各種生物の生息環境と生態系
- 10 ビオトープと生態系復元の技術
- 11 目標種の考え方と生態系

第4 ステップ：エコロジカル・ランドスケープの演習

- 12 ビオトープ・ハビタット計画：ゾーニング
- 13 ビオトープ・ハビタット計画：エスキス
- 14 ビオトープ・ハビタット計画：プラン・スケッチ
- 15 ビオトープ・ハビタット計画：まとめ

学生に対する成績評価基準

試験は行わない。与えられた課題についてレポートや作品を提出してもらう。提出されたレポート、作品にて評価する。

テキスト

エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎
理工図書 4,200円（税別）

参考書・参考資料等

養父志乃夫著 ビオトープ再生技術入門 農文協

履修希望者への要望・事前準備

座学およびキャンパス内フィールドでの講義の他、提出された課題のレポート・作品への講評を中心に授業を進めていく。したがって、課題に対して意欲的に取り組みができる人を期待する。

建築法規

3 学年 前期 選択 講義 2 単位
◎小川峰夫、石橋 勉

授業の概要およびテーマ

建築物の敷地、構造、設備及び用途等に関する基本的な関係法令について、その体系と建築物の設計及び監理等に必要な規定を法手続きの視点から学習します。

授業では、法文の読み方を知ってもらいながら、建築関係法令の概要について、条文の意図とすること及び規定がどのような場合に適用されるのかを示しながら解説します。

達成目標

二級建築士試験の学科合格程度の法規知識を習得する。

授業計画

- 01 建築物と法規について：法規による制限の目的と捉え方
- 02 建築基準法について：用語の定義、面積・高さ等の算定法
- 03 建築基準法について：制度、手続き等
- 04 建築基準法について：集団規定（概要、都市計画法との関係）
- 05 建築基準法について：集団規定（道路と敷地、用途制限）
- 06 建築基準法について：集団規定（面積、高さ制限Ⅰ）
- 07 建築基準法について：集団規定（高さ制限Ⅱ、防火地域等）
- 08 建築基準法について：単体規定（防火関係規定）
- 09 建築基準法について：単体規定（避難関係規定）
- 10 建築基準法について：単体規定（構造規定）
- 11 建築基準法について：単体規定（設備規定）
- 12 消防法について：概要・建築基準法との関係
- 13 建築士法、建築士試験について：概要・建築基準法との関係
- 14 二級建築士試験過去問（学科の試験）について
（本講義終了時に第15講義の二級建築士試験過去問の課題を配付します。）
- 15 二級建築士試験過去問（設計製図の試験）について
※目標の支障のない範囲で授業計画を変更することがある。

学生に対する成績評価基準

授業の受講態度と意欲（40%）、毎回の授業の最後に行う設問の答案結果（60%）により評価する

テキスト

「超入門 建築法規」イラスト解説による（改訂版）市ヶ谷出版社
建築基準法関係法令集2018年版 建築資料研究社

履修希望者への要望・事前準備

建築法規は、建築物に要求されている最低限の基本性能と建築物の街づくりのルールを定めたものであることを理解し、その概要を習得して欲しい。

また、建築士を目指す方は、本講義の単位が建築士受験に必要な履修科目となっていることを熟知し、講義に臨んで下さい。

建築施工

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
片山善作

授業の概要およびテーマ

建築生産のプロセスを概観し、品質、工程などに関する施工管理の基本と、各種工事についての一般的な施工法の実践を学ぶ。また積算、コスト計画について学ぶ。以上により建設にかかわる者としての基礎的素養を習得する。

〔建築施工〕

建築生産の仕組みと流れ、品質保証・環境問題・工程管理・安全管理

仮設及び躯体工事、外部及び内部仕上り工事

〔建築積算〕

コスト計画、躯体工事、仕上り工事の積算

達成目標

建築生産の流れと建設業の概要を説明することができる。非木造建築物の各部工法と施工法を理解し、図、言葉による説明ができるようになることで、施工管理の基礎を学ぶ。積算とコスト計画の概要を理解し、基本的な実務ができる。

授業計画

- 第1回 建築生産の基本と事例紹介
- 第2回 基礎躯体工事（仮設、準備、土、地業、基礎）
- 第3回 基礎躯体工事（鉄筋、コンクリート、型枠）
- 第4回 上部躯体工事（RC造）
- 第5回 上部躯体工事（木造）
- 第6回 上部躯体工事（鉄骨）
- 第7回 プレハブの工事（組積、ALC、システム）
- 第8回 外部仕上り工事（屋根、防水）
- 第9回 外部仕上り工事（外壁、サッシ）
- 第10回 外部仕上り工事（カーテンウォール）
- 第11回 内部仕上り工事（床、内壁、天井）
- 第12回 内部仕上りユニット工事（家具）
- 第13回 建築生産の流れ（以上のおさらい）
- 第14回 施工管理（品質、安全、工程、環境）
- 第15回 建築のコスト計画、躯体と仕上の積算

学生に対する成績評価基準

業の受講態度と意欲（40%）、毎回の授業の最後に行う設問の答案結果（60%）により評価する

テキスト

『初学者の建築講座 建築施工（第三版）』中澤他著、市ヶ谷出版社
『図解 建築工事の進め方 木造住宅』深尾精一/福本雅嗣/栗田紀之、市ヶ谷出版社

履修希望者への要望・事前準備

本科目は、基礎知識とともに施工の実践を知ることが重要である。とりわけ各種工事については経験のない人には理解し難い点も多いのでスライドで紹介し講義を進めていく。施工技術の知識は多岐にわたるため多岐であるし、建築に向けた各自の志向も様々であろうと思われるので、各自の受講目的を設定して主体的に学んでください。

コミュニティデザイン

3 学年 後期 選択 講義 2 単位
福本 壘

授業の概要およびテーマ

地域社会が抱える課題に対して住民が自分たちで解決策を考え、乗り越えていくための「人と人がつながる」場やしきづくりについて学び、議論をし、理解を深めます。人口減少、高齢化、都市縮退、自然災害、環境問題を背景にコミュニティデザインの全体像を学び、地域の課題を捉えた解決策の提案を行えることを目標にします。

達成目標

- ・コミュニティデザインの全体像を理解していること
- ・自身が関わるコミュニティについて他者に紹介できること
- ・他者から体験談や考えを引き出すコミュニケーションを行えること
- ・地域課題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービス等の提案書をコミュニティデザインの手法に基づき作成していること

授業計画

- 第1回 導入：授業の取り組みのイメージを確認
- 第2回 防災について楽しく話し合う場づくり：課題演習のイメージを確認
- 第3回 コミュニティの定義と構造：自身のコミュニティから人と人がつながる理由を考える
- 第4回 コミュニティの歴史と制度：日本におけるコミュニティの成り立ちを学ぶ
- 第5回 ソーシャルキャピタル：人と人のつながりが生み出すものは何かを考える
- 第6回 コミュニティと空間：地域資源を活かした計画を学ぶ
- 第7回 コミュニティデザインのプロセス①：デザインステージ、ステークホルダー、キーマン
- 第8回 コミュニティデザインのプロセス②：協働のデザイン（課題発見の方法と体制づくり）
- 第9回 コミュニティデザインのプロセス③：参加のデザイン（場づくり、対話、記録の方法）
- 第10回 コミュニティデザインのプロセス④：発信のデザイン（整理、発信、課題解決の方法）
- 第11回 コミュニティデザインのプロセス⑤：持続性のデザイン（マーケティング、ファンレイジング）
- 第12回 コミュニティデザインツールの開発方法
- 第13回 課題演習①：地域課題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービスの提案
- 第14回 課題演習②：地域課題を解決するツール、教材、アクティビティ、サービスの提案
- 第15回 まとめ

学生に対する成績評価基準

学習内容を定着させる簡単な課題：30%
積極的な姿勢：20%
課題演習に対する提案：50%

テキスト

特定のテキストは使用せず、授業の内容によって講師が独自に資料を作成・準備し、適宜配付します。
授業後の学習内容を定着させる教材として講師が独自に用意したWEBサービスを利用します。

参考書・参考資料等

- （1）山崎 亮（2011）『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる』学芸出版社。
- （2）山崎 亮（2012）『コミュニティデザインの時代』中央公論新社。
- （3）小泉 秀樹（2016）『コミュニティデザイン学：その仕組みづくりから考える』東京大学出版会。
- （4）Mikiko Ishikawa（2015）「A Study on Community-Based Reconstruction from Great East Japan Earthquake Disaster - A Case Study of Iwanuma City in Miyagi-Pref」, 『Journal of Disaster Research』 Vol.10, No.5.
- （5）福本 壘・中村 和彦（2018）「防災を主題にした対話を通じた学習者の主体性の変化と学びの深まり—防災トランプを活用した事例を通じて—」, 『環境教育』 Vol.68.

用具

特になし

履修希望者への要望・事前準備

本講義は「地域課題を解決するための提案」をコミュニティデザインの手法でまとめることを目標に学びを深めていきます。
履修後の成果は、みなさんのポートフォリオの1ページを飾り、みなさんの将来に役立つよう進めていきたいと考えています。そのためには、みなさん自身が「体験談」や「考え」を話すことが大切で、是非積極的な姿勢を持って受講して頂ければと思います。

11-6-2 専門教育科目〔建築・環境デザイン学科コース別科目〕

建築・インテリア演習Ⅰ（建）

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎山下秀之、江尻憲泰、小川総一郎、大瀨政明、高田清之助

授業の概要およびテーマ

建築デザインとランドスケープデザインが直面する諸問題を考えながら、その解決策を実践的に学ぶ。専門領域を横断するデザイン力を培う。

- ・課題A ポートフォリオの制作（建築グループとランドスケープグループ共に、第1課題）
- ・課題B キッズ・ミュージアム（建築グループの第2課題、ランドスケープグループの第3課題）
- ・課題C エコ・ヴィレッジ（ランドスケープグループの第2課題、建築グループの第3課題）
- ・課題D ポートフォリオの制作2（建築グループとランドスケープグループ共に、第4課題）

課題Aと課題Dでは、就職活動に不可欠であるポートフォリオ（作品集）を作成し、それを持って面接のシミュレーションをするものである。どの種のポートフォリオが目玉を留め、どのような面接が好印象となるのかを体得する。

課題Bと課題Cの演習は、建築グループとランドスケープグループとの「たすきがけ」で実施される。たすきがけとは、上記でわかるとおり、一方のグループが終了した課題の成果物に重ねて、他方のグループが課題を継続させる仕組みである。その目的は、実際の実務では欠かせない設計作業のチームワークを仮体験してもらうことにある。

達成目標

「都市と緑地」「開発と修景」、こうした2項対立の基軸のなかで、学生ひとりひとりがエコロジー時代の問題意識を育み、それを解決する建築・環境設計のプロポーザルをまとめあげる。

授業計画

建築グループ

- 01～02 課題Aの説明、専門講義、講評会
- 03～08 課題Bの専門講義、敷地選定プレゼン、ブロックプランニング、平面・空間構成の検討、意匠・構造・設備計画、一般図&パースとプレゼン模型&専門図の提出、講評会
- 09～14 課題Cの専門講義、現地調査報告および配置計画、ブロックプランニング、一般図&パースとプレゼン模型&専門図の提出、講評会

15 課題Dの提出、総括

ランドスケープグループ

- 01～02 課題Aの説明、専門講義、講評会
- 03～08 課題Cの専門講義、計画地の現地調査・分析、コンセプトメイク、空間構成の検討、平面・断面計画、流水設備ほか設備計画、植栽計画、パースとプレゼン模型制作、講評会
- 09～14 課題Bの専門講義、建築計画の理解と現地調査、コンセプトメイク及び計画範囲の設定、動線計画と空間構成、平面・断面計画、設備計画、植栽計画、パースとプレゼン模型制作、講評会

15 課題Dの提出、総括

学生に対する成績評価基準

講評会での提出物の内容が、成績点数（建築グループは4名の教員の採点平均）となる。未提出作品は、期末の後出し提出日に、提出条件を満たしていれば、60点として採点される。一作品でも未提出のままの場合、履修は不合格となる。

出席・遅刻の基準

作品提出では、遅れた時間に応じた減点、もしくは受け取り拒否がなされる。

テキスト

課題文に資料を配付し説明する場合がある以外、履修者各自により参考図書などを探し、自習すること。

履修希望者への要望・事前準備

この設計演習を終えれば、社会に出て設計の仕事に就いてもやっていける、という皆さんになっていることを望む。

建築・インテリア演習Ⅰ（イ）

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎森 望、川口とし子

授業の概要およびテーマ

21世紀の社会にあわせたデザイン性豊かなインテリア空間の創造を求める。インテリアデザインとはなにか？デザイン手法・空間設計とはなんなのか？デザインとは？美学とは？構成手法とは？プレゼンテーションとは？を中心に授業を進める。

達成目標

課題によりインテリアデザインの設計手法を学び、プレゼンテーションテクニックや現代的なデザイン手法の構築ができる。

授業計画

01～03 課題Ⅰ（売店）

04～09 課題Ⅱ（イベント）

10～15 課題Ⅲ（商業施設）

学生に対する成績評価基準

課題Ⅰ20%、課題Ⅱ40%、課題Ⅲ40%

履修希望者への要望・事前準備

授業への積極的な参加を前提に、建築、室内、家具・什器などを総合的にとらえ、自由な発想・アイディアを形にし、高度なデザイン手法を学んでほしい。

建築・インテリア演習Ⅱ（建）

3 学年 後期 必修 演習 4 単位
◎山下秀之、小川総一郎、白鳥洋子

授業の概要およびテーマ

本演習では、履修する学生の専門志向に基づいて、以下 3 つの設計演習に分かれる。最終的な目標は、各自の設計技術と専門的知見を高度に獲得することである。グループワークによってもたらされる良い影響や多くの気づきも演習の成果となる。

■建築デザイン：山下担当

履修者は、以下、2 つのプログラムのどちらかを選択する。2 つのグループワークを同時に行うが、履修者の人数によっては、グループ数を調整する。

PROGRAM-A：平行植物園

- ・伊の絵本作家レオ・レオーニの「平行植物」を題材とする。
- ・英エデンプロジェクトが建設された採掘場跡地を敷地とする。
- ・そのエリアでの奇想天外で壮大な「平行植物園」を設計提案する。

PROGRAM-B：蓮濁計画

- ・蓮濁の交差点の 1 角（セコム、メガネのバリミキ、セブンイレブンの場所）に複合ビルを構想、設計する。
- ・地上 7 階建てまで、延べ面積 6000㎡～7000㎡。
- ・建築基準法の基本的な遵守、部分詳細図、建具表、仕上表、面積表にいたるまで、実施設計に関連するおおよその事柄をフォローする。

■エコロジカルランドスケープデザイン：小川（総）担当

- ・信濃川河川敷を研究対象地とする。
- ・そのエリアの生態系を調査研究する。
- ・そのエリアでの生物の「楽園」を目的とするランドスケープデザインを設計提案する。

■地域と建築デザイン：白鳥担当

- ・長岡市内の一地区を設計対象として地区設計を行う。
- ・都市や地域の観点から調査分析を行い、その考察から建築のプログラムを考案する。
- ・これらに基づいて建築設計を行い、地域に対する新しい建築デザインのあり方を探求する。

達成目標

各領域の諸問題を正確に分析し、課題を見いだす能力を身につけること。その上で計画の立案、設計の方法、実施の方策に関して学生が自らの方法論を構築する端緒を見つけ出すこと。

授業計画

建築系

- 第 1 週：各グループわけと課題の検討
第 2 週～第 6 週：エスキース
第 7 週：中間発表
第 8 週～第 14 週：エスキース
第 15 週：最終講評

学生に対する成績評価基準

全提出物の総点による。

テキスト

別途指示する。

履修希望者への要望・事前準備

今までの演習において獲得した考え方や技術に磨きをかけるべく、集中してほしい。
共同作業では、仲間の意見を聞き入れる柔軟性を持ち、より高いレベルに到達してほしい。

建築・インテリア演習Ⅱ（イ）

3 学年 後期 必修 演習 4 単位
◎森 望、川口とし子

授業の概要およびテーマ

住宅のリノベーションについての知識を得たうえで、ある家族像を設定し、リノベーションの提案を行う。また空間を使った情報伝達媒体としてのディスプレイデザインの課題を通し、ディスプレイデザインの考え方を学ぶ。

達成目標

各領域の諸問題を正確に分析し、課題を見いだす能力を身につけること。その上で計画の立案、設計の方法、実施の方策に関して学生が自らの方法論を構築する端緒を見つけ出すこと。

授業計画

- 01～07 課題Ⅰ（住宅リノベーション）
08～15 課題Ⅱ（文化施設）

学生に対する成績評価基準

課題Ⅰ 50%、課題Ⅱ 50%

履修希望者への要望・事前準備

アイディアを形にする力をつけ、なぜその形にしたのかを第三者に伝える手法を身につけてもらいたい。そのために企画する能力や考え方を学んでほしい。

環境計画・保存演習Ⅰ

3 学年 前期 必修 演習 4 単位

◎渡辺誠介、津村泰範、平山育男、福本 壘、梅嶋 修、大滝 聡、金出ミチル

授業の概要およびテーマ

現代日本は、空間的縮退（空家・空ビル増加、限界集落の増加）に対応するために、文化や社会の持続性を基軸とした空間再編・活性化をプロデュースもしくはデザインする人材が求められる。そして同様に文化財としての価値を有する空間（建造物、町並みなど）を保存・活用する人材も求められている。

本授業では、こうした問題意識の下に建築・デザインの技術をベースに柔軟な発想で創造的な設計や計画を構築する。

演習課題は、都市計画・まちづくり系と文化財保存系に分かれて実施する。最初に合同のガイダンスと見学を行い、後にどちらかの課題を選択する。第2課題は合同の空間で都市計画的課題と文化財保存的課題と混合させて行う。

達成目標

- ・地域の空間的特性を調査・分析することができる
- ・分析に基づいた課題に対して課題解決に向けた設計および計画の提案ができる

授業計画

01 合同ガイダンス

02～03 合同見学（新潟市方面：文化財およびまちづくり事例）

04～10 第1課題

都市計画・まちづくり系：摂田屋地区まちづくり計画の変遷学習とまちづくり会社運営計画作成

文化財保存系：歴史模型製作他

11～15 第2課題（合同）

中島浄水場および周辺地区の文化財保存活用と都市計画策定

学生に対する成績評価基準

成果物の他、現地調査への参加姿勢、エスキース時の取り組み姿勢などを総合的に判断する。なお、現地調査やプレゼンテーションへの欠席は原則認めない。

テキスト

適宜配付する

履修希望者への要望・事前準備

建物、町の歴史と未来に常に好奇心を持ってください。

文化財課題では見学が特に多いので、土曜は明けておいてください。

環境計画・保存演習Ⅱ

3 学年 後期 必修 演習 4 単位

◎渡辺誠介、津村泰範、平山育男、福本 壘、大滝 聡、金出ミチル、後藤 治

授業の概要およびテーマ

現代日本は、空間的縮退（空家・空ビル増加、限界集落の増加）に対応するために、文化や社会の持続性を基軸とした空間再編・活性化をプロデュースもしくはデザインする人材が求められる。そして同様に文化財としての価値を有する空間（建造物、町並みなど）を保存・活用する人材も求められている。

本授業では、こうした問題意識の下に建築・デザインの技術をベースに柔軟な発想で創造的な設計や計画を構築する。

演習課題は、都市計画・まちづくり系と文化財保存系に分かれて実施する。最初に合同のガイダンスと、ポートフォリオ発表課題、そして見学を行う。その後どちらかの課題を選択する。

達成目標

- ・地域の空間的特性を調査・分析することができる
- ・分析に基づいた課題に対して課題解決に向けた設計および計画の提案ができる
- ・領域横断的な視点と専門的視点から課題解決に対しての提案ができる

授業計画

01 ガイダンス

02～03 第1課題：ポートフォリオ制作&発表

04～06 合同見学：近代化遺産、地方中小都市中心市街地、中山間地集落

07～11 第2課題

都市計画・まちづくり系：長岡市の立地適性化計画の学習

文化財保存系：近代化遺産の保存整備

12～15 第3課題

都市計画・まちづくり系：山古志地区中山間地集落計画

文化財保存系：近世城下町の保存整備

学生に対する成績評価基準

成果物の他、現地調査への参加姿勢、エスキース時の取り組み姿勢などを総合的に判断する。なお、現地調査やプレゼンテーションへの欠席は原則認めない。

テキスト

適宜配付する

履修希望者への要望・事前準備

建物、町の歴史と未来に常に好奇心を持ってください。

文化財課題では見学が特に多いので、土曜は明けておいてください。

11-6-3 専門教育科目[建築・環境デザイン学科ゼミ科目、卒業研究]

ゼミⅠ

3 学年 前期 必修 演習 2 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、
白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望、
山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

- 1：教員あるいは複数教員のゼミが、それぞれ、ゼミ課題を掲げる。
- 2：各学生は、取り組む課題をひとつ、もしくは複数選択し、そのゼミ（複数OK）に所属する。
- 3：ゼミ課題に対する提案・調査・研究など、教員との話し合いなどにより、ゼミが運営される。

達成目標

3 年生として専門性を高めつつ、多角的な視野を持って問題を解決する能力を養う。

授業計画

各ゼミによる。

学生に対する成績評価基準

同上

出席・遅刻の基準

同上

テキスト

同上

参考書・参考資料等

同上

用具

同上

履修希望者への要望・事前準備

建築・環境が取り扱うプログラムは多岐にわたり、しかも相互依存が強い。よって、このゼミにより、分野の専門性を高めるのみならず、他分野への興味と理解を高めることができる。前期ガイダンスの際にプログラムと場所を発表する。初回の授業では、所属を希望するプログラムの場所（各ゼミによる）に集合のこと。初回後に所属ゼミの変更を希望する場合には、ゼミ教員に相談すること。

ゼミⅡ

3 学年 後期 必修 演習 2 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、
白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望、
山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

ブレ卒研と位置づける。4 年次に配属される予定の教員との話し合いにより、研究内容が決定され、調査・分析・企画提案・設計などをしていく。

達成目標

教員から指示されたことだけをやるのではなく、自ら問題点を洗い出し、課題を立ち上げ、解決策を提案する能力を養う。

授業計画

各ゼミによる。

学生に対する成績評価基準

同上

出席・遅刻の基準

同上

テキスト

同上

参考書・参考資料等

同上

用具

同上

履修希望者への要望・事前準備

各分野の専門性をさらに高めるためのゼミなので、3 年前期までの座学や演習の内容は、落ちこぼすことなくマスターしておくべきである。ゼミの事前準備は、4 年次に配属される予定の教員の指示を仰ぐこと。

卒業研究Ⅰ

4 学年 前期 必修 演習 3 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

個人または共同で、特別のテーマに基づいた「研究論文」「制作」または「論文および制作」を行います。その内容と規模は、これまでの学習の集大成となるものです。研究テーマは、これまで学んだ各分野の専門科目や演習に基づき、自分にとって最も興味のある課題や題材について、担当教員とゼミを通して煮詰めて行きます。

達成目標

以下の内容を目標にしてください。

- 1) 研究テーマを検討し、卒業研究の実施計画を立てる。
- 2) 7 月（12 月）に研究室ごとに発表会を行うので、下記、授業計画の内容をプレゼンできるようにする。

授業計画

担当教員との話し合いにより、ゼミ形式で適宜行います。例えば、研究主題に関連した資料収集、現況調査、事例研究、研究計画書、コンテンツ検討、基本設計の草案、部分的文章、実験データ、設計や論文の概要や構成など、研究の蓄積など。

学生に対する成績評価基準

研究の態度、プロセス、発表内容、レジュメなどを総合して、各担当教員が判断します。例えば、出席状況、ディスカッションや調査見学、各種準備などの積極的な参加など。これら各項目の割合は、適宜、各担当教員が良識に基づいて決定します。

出席・遅刻の基準

担当教員の判断によります。

卒業研究Ⅱ

4 学年 後期 必修 演習 3 単位

◎平山育男、小川総一郎、小川峰夫、江尻憲泰、川口とし子、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、福本 壘、森 望、山下秀之、渡辺誠介

授業の概要およびテーマ

まず、「卒業研究Ⅰ」の内容を、9 月（4 月）に予定する中間発表でプレゼンテーションしてもらいます。以後、研究を具体化し、2 月（8 月）に予定する卒研発表会で、最終成果物をプレゼンテーションしてもらいます。

達成目標

以下の内容を目標にしてください。

- 1) 履修した各分野の専門家としての技術を習得し、独自のすばらしい提案ができる。
- 2) 建築・環境デザイン学科生として、社会に貢献できる萌芽を見いだせること。

授業計画

担当教員との話し合いにより、ゼミ形式で適宜行います。

学生に対する成績評価基準

中間発表と最終発表で提示された内容を総合して、各担当教員が判断します。また、研究態度やプロセスも加味される場合もあります。

出席・遅刻の基準

担当教員の判断によります。

履修希望者への要望・事前準備

担当教員の判断によります。なお、本科目は卒業研究Ⅰの単位を修得していなければ履修できません。研究によって、大学を卒業する者としてふさわしい強いハート、厳しいマナー、そして仕事を仕上げる楽しさと喜びを学び得てほしい。

学芸員課程開講科目（平成30年度以降入学者）

生涯学習概論

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
相庭和彦

授業の概要およびテーマ

本科目は以下のような内容により構成される。①生涯学習の意義
②社会教育の意義 ③生涯学習と家庭教育 ④生涯学習と学校教育
⑤成人教育の方法 ⑥社会教育の指導者 ⑦学習の評価 ⑧社会教育の内容と形態 ⑨生涯学習関連施策の動向 ⑩社会教育施策の概要 ⑪学習情報の提供 ⑫学習相談と学習者理解 ⑬学習講座計画と立案

達成目標

本講義は現代社会における生涯学習の意義および社会教育の意義とその基本的役割を理解することを到達目標とする。具体的には生涯学習の意義、社会教育の意義、生涯学習と学校教育、成人学習方法と計画、学習の評価および生涯学習推進施策の特色、生涯学習施設、広報の論理、学習講座の運営の論理を理解することを目的とし、学習活動の効果的支援の方法をより効果的に実践できる力量の養成をめざす。

授業計画

- 1 生涯学習の意義について考察する
- 2 社会教育の意義および生涯学習との関連性について考察する
- 3 家庭教育の意義と生涯学習の関係について考察する
- 4 学校教育と社会教育の関係について生涯学習的視点から考察する
- 5 成人教育の理論と方法について考察する
- 6 社会教育の指導者および生涯学習の指導者について考察する
- 7 学習の評価について考察する
- 8 社会教育の内容および形態について考察する
- 9 生涯学習関連施策について考察する
- 10 社会教育施策の概要について考察する
- 11 学習情報の提供について考察する
- 12 学習相談とはどのようなものかについて考察する
- 13 学習者の理解とはどのようなことかについて考察する
- 14 社会教育施設で立案される講座について考察する
- 15 学習者の学習支援とはどのようなことかを考察する

学生に対する成績評価基準

講義を通して、生涯学習の理念、意義および社会教育・生涯学習施設の役割とその活用方法を理解し、様々な教育文化活動を生涯学習的視点から考えることができるようになると評価点を与える。具体的には講義をもとにした課題レポート提出により評価する。

履修希望者への要望・事前準備

自分の生活している地域の社会教育施設を見学しておくことが望ましい。

博物館経営論

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
非常勤講師

授業の概要およびテーマ

博物館は学芸員の調査・研究も含め人間や社会の英知の結晶であり、知価社会を迎え増々その役割を重要なものになっている。博物館経営や運営を学ぶことを通して、マネジメント能力、教養、人間性などの資質・能力の向上を図るとともに、英知を愛好する豊かな精神を育む授業とする。

達成目標

- 多くの博物館やその在り様を学ぶことにより、人間や社会に対する教養を深める。
- 博物館の本来の存在意義や利用者目線に立ち、経営や運営を考えることを通して、自身のマネジメント能力の向上を図る。

授業計画

1. ガイダンス
2. 博物館の成立、法的根拠とその効用及び学芸員の責務
3. 新潟県現存博物館考察
4. 博物館経営・運営のトレンドⅠ（金沢21世紀美術館考察）
5. 博物館経営・運営のトレンドⅡ（新潟市美術館考察）
6. 新潟県立近代美術館考察
7. 「訪ねたい博物館」情報交換および名著との出会い紹介Ⅰ
8. 「訪ねたい博物館」情報交換および名著との出会い紹介Ⅱ
9. 発達段階（課題）理解
10. 新潟市こども創造センター経営・運営考察
11. 「MarRouの杜」現場視察（情報収集・計画）
12. 「MarRouの杜」運営計画Ⅰ（作成）
13. 「MarRouの杜」運営計画Ⅱ（作成）
14. 「MarRouの杜」プレゼン会
15. 総括・振り返り

学生に対する成績評価基準

- レポート・ワークシートの提出率と内容（正対性・独自性）
- 協議・グループワークの運営力、コミュニケーション能力

出席・遅刻の基準

長岡造形大学の規定通り

テキスト

「子供の絵は何を語るか（発達科学の視点から）」東山明・直美（著）：日本放送協会 870円

参考書・参考資料等

「超・美術館革命」角川書店型686円
「美術館をめぐる対話」西沢立衛（著）集英社新書700円
手持ちの博物館の案内・図録・ポスター等

用具

可能であればインターネット接続環境のPCもしくはタブレット

履修希望者への要望・事前準備

共学型の講座を目指しますので、下記の心構えのある者の履修を要望する。

- 自分自身の考えや意見を持つ。
- 事前学習を厭わない。
- 協議や協働に自分自身のやり方で貢献する。

博物館資料論

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
◎石原 宏、小熊博史、広井 造

授業の概要およびテーマ

種々の文化財の性質について広汎な知識を学び、性質に応じた展示方法・活用方法を自分自身で考えながら下記のテーマに沿って学習する。

1. 資料の調査、2. 資料貸借の法的手続き、3. 資料の具体的展示方法、4. 展示環境の整備

達成目標

展示方法、活用方法を身につける。

授業計画

- 01 博物館資料とは（石原）
- 02 博物館資料の条件（石原）
- 03 博物館資料の分類（石原）
- 04 一次資料と二次資料（石原）
- 05 二次製作資料（石原）
- 06 博物館と考古学（考古学の概説、博物館における考古学分野の位置づけ）（小熊）
- 07 考古資料の見方（考古学で取り扱う資料－遺跡や遺物の見方・考え方、活用の方法、地域的特性）（小熊）
- 08 考古展示と普及活動（展示や普及活動の方法、長岡市内における遺跡整備の事例検討）（小熊）
- 09 遺跡の整備と活用（1）（学外実習、遺跡の整備事例の見学、史跡藤橋遺跡＝藤橋歴史の広場）（小熊）
- 10 遺跡の整備と活用（2）（遺跡整備の視点や活用の方法、長岡市内における遺跡整備の事例検討）（小熊）
- 11 考古資料と歴史資料（長岡市域における資料の伝来経緯に関する歴史的前提条件、中世村落研究の事例検討）（広井）
- 12 歴史資料の収集（資料収集の事例、購入した中世資料の事例検討）（広井）
- 13 資料と資料群（資料収集時の留意点、寄贈された近世資料の事例検討）（広井）
- 14 資料の活用と地域的特性（地域に特徴的な問題関心とその具体化、近・現代の資料収集・展示の事例検討）（広井）
- 15 歴史資料の共有化・平準化（資料を後世に守り伝えていくためのネットワークづくりの検討）（広井）

学生に対する成績評価基準

成績評価は発表とレポートにより行う。

出席・遅刻の基準

出席率が80%を下回る場合は単位を与えません。

履修希望者への要望・事前準備

2年生で文化財学概論を履修した学生は、その復習をし、履修しなかった学生に予備知識を与えてほしい。

博物館資料保存論

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
◎石原 宏、小川総一郎、津村泰範

授業の概要およびテーマ

学芸員に必要な博物館資料の保存に関する基礎知識を身につけます。講義、調べ学習、グループ・ディスカッションを通して学習します。また、より実践的な力を養うために、異なる2つのタイプの博物館を見学研修し、保存の観点から比較して学びます。

達成目標

博物館における資料の保存について、保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、現場での資料保存のあり方を理解したうえ、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。

授業計画

- 01 現代社会における資料保存に関する博物館の役割と重要性
- 02 資料の状態調査と現状把握（実際に絵画作品等の状態調査を作成）
- 03 博物館が関わる資料の修復と修理
- 04 文化財の保存に関する倫理（1）
- 05 文化財の保存に関する倫理（2）
- 06 資料の人為的行為、災害や時間の経過による損傷、劣化防止対策
- 07 展示・保存環境（1）湿温度、照明と照度
- 08 展示・保存環境（2）虫・微生物防除、震動、その他
- 09 博物館資料の展示・保存環境の見学（学内美術館）
- 10 博物館資料の展示・保存環境の見学のまとめ
- 11 地域資源の保存と活用1 県立植物園（植物園のバックヤード、種の保存）
- 12 地域資源の保存と活用2 同上
- 13 自然環境の保護1 雪国植物園（里山環境の保全、生物多様性の保全）
- 14 自然環境の保護2 同上
- 15 文化財の保存と活用

学生に対する成績評価基準

授業に臨む姿勢20%、3名の担当教員によるそれぞれの出題による小課題80%とします。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とします。

テキスト

授業内でプリントして配付するほか、適宜示します。

参考書・参考資料等

博物館資料保存論 石崎武志 講談社 2,200円（税別）人文系博物館資料保存論 青木豊 雄山閣 2,400円（税別）

履修希望者への要望・事前準備

博物館資料の保存は学芸員の果たす仕事としては非常に重要であり、難しい。それは技術としてばかりでなく、博物館の範疇がきわめて広いものだからです。履修者は授業中に聞いているだけでなく、必ず復習をして自分なりの考えを持つことが必要とされます。自分が将来就きたい博物館を想定しながら勉強してもらいたい。

博物館展示論

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
◎森 望、長澤信夫

授業の概要およびテーマ

博物館における展示の現状を知り、展示計画に必要な基礎知識を学ぶ。また、実際の博物館の見学を通し、コンテンツ作りや展示現象の具体化を学ぶ。さらに、各人で博物館コンテンツを作成し、それを形にし、プレゼンテーションして提案する。

達成目標

展示作りの方法を体験的に学習し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を身につける。また実際にコンテンツを作り、空間的なデザインを提案できる。

授業計画

- 第1回 展示とは
- 第2回 博物館の展示事例
- 第3回 展示に必要な基礎知識（1）
- 第4回 展示に必要な基礎知識（2）
- 第5回 展示に必要な基礎知識（3）
- 第6回 展示と情報メディア
- 第7回 博物館の見学
- 第8回 博物館の見学
- 第9回 博物館のコンテンツ作り
- 第10回 博物館のコンテンツ作り
- 第11回 博物館のコンテンツ作り
- 第12回 博物館展示のデザイン
- 第13回 博物館展示のデザイン
- 第14回 博物館展示のデザイン
- 第15回 発表

学生に対する成績評価基準

展示企画書50%、展示空間課題50%

履修希望者への要望・事前準備

博物館展示は、コンテンツ作りと空間・展示デザインがメインになります。外部講師を招聘しますので、休まないように受講してください。

博物館情報・メディア論

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
◎石原 宏、浅井勝利、松浦康次

授業の概要およびテーマ

近年の博物館においては、単に展示物を羅列するだけではなく、情報の集積体としての博物館の役割が求められている。これを実現するためには、コンピュータなどに代表されるICTやAV機器を含めたマルチメディアの有効活用が必須である。本科目では博物館活動に即した情報やメディアの作成と活用、併せて、これにより生ずる知的財産の保全・利用の基礎について考察する。

達成目標

- 博物館の運営に必要な諸情報・メディアに関する総合的な概要を理解・体得し、これを説明できる。
- 博物館運営を構成する個別業務に関する知識・手法・機材（使用目的と操作知識・技能）の体得。
- 博物館運営にかかる知財関連法令の基礎知識を体得し、この概要を説明できる。
- 各回講義および予習復習を踏まえて、所要の情報やメディアを博物館活動に利用できる資質を養う。

授業計画

本授業は、第1回から10回までを浅井勝利、11回から15回を松浦康次が担当します。

- 第1回 博物館における情報、メディアの意義
- 第2回 コンピュータの基礎知識
- 第3回 ドキュメンテーションと資料管理データベース（1）
- 第4回 ドキュメンテーションと資料管理データベース（2）
- 第5回 博物館とインターネット（1）
- 第6回 博物館とインターネット（2）
- 第7回 ICTを利用した博学連携
- 第8回 AV機器の取り扱い
- 第9回 展示と情報機器
- 第10回 補論
- 第11回 著作・創作した権利・義務・責任と法令
- 第12回 博物館発情報と知的財産権制度
- 第13回 著作権法Ⅰ（目的、定義、財産権、人格権、隣接権、権利取得意義、著作権制度発展の歴史）
- 第14回 著作権法Ⅱ（権利制限、意匠権との比較、国際条約）
- 第15回 産業財産権制度（意匠・特許・実用新案・商標法）・不正競争防止法概観・知財契約、情報モラル、その他

学生に対する成績評価基準

成績評価は授業に臨む姿勢20%、レポート80%とする。ただし前提として、評価の対象となる出席率は2/3以上とする。

テキスト

授業内でプリントを配付するほか、適宜配付する。

参考書・参考資料等

適宜配付

用具

必要な場合、その都度指示。

履修希望者への要望・事前準備

履修者は自分が将来就きたい博物館・美術館を想定しながら勉強してもらいたい。

博物館教育論

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
山本哲也

授業の概要およびテーマ

博物館は余暇施設という側面をもちながら、社会教育施設としてのその意義が理解されなければならない。そのためには、博物館における教育という機能のあり方を認識し、または教育プログラムの理論と実際を理解することが必要である。さらに、博物館の意義が理解されなければ、その教育効果も半減すると考えられ、ミュージアム・リテラシー教育も考えなければならない。本科目では、博物館教育の理論と実践の双方はもちろん、博物館そのものの教育のあり方を学び、教育という博物館の重要な機能を多角的に理解する。

達成目標

博物館を教育施設と捉え、その方法論などを考える。学校教育、家庭教育との相違を認識し、博物館ならではの、という教育理論を理解し、博物館で行われている各種プログラムや学校教育との連携の実際などから、望ましい博物館教育のあり方の理解を求める。そして、教育プログラムの作成・実践ができる人材を育てる。

授業計画

- 01 教育と学習（目標と「学び」）
- 02 生涯学習と博物館教育—博物館機能としての博物館教育
- 03 博物館教育論史、展示教育論（序論）
- 04 展示と博物館教育
- 05 博物館教育活動の諸形態
- 06 博物館教育プログラムⅠ—素材の解釈について
- 07 博物館教育プログラムⅡ—開発と実践 1—ワークシート・ユニバーサルデザイン
- 08 博物館教育プログラムⅢ—開発と実践 2—製作体験プログラム
- 09 博物館教育プログラムⅣ—開発と実践 3—サブカルチャーと博物館
- 10 博物館教育プログラムⅤ—対話型鑑賞法
- 11 博物館教育の利用者像
- 12 博物館教育プログラムⅥ—開発と実践 4—演習
- 13 博物館と学校教育—博学連携
- 14 ミュージアム・リテラシー教育の必要性
- 15 博物館教育の課題

学生に対する成績評価基準

演習（教育プログラム作成）の評価、および出席と受講態度から総合的に評価する。

テキスト

適宜資料を配付の予定。

用具

必要な場合、その都度指示。

履修希望者への要望・事前準備

実際の博物館・美術館等で行われている教育プログラム（ワークショップ等）を多数見聞、または実体験すること。

博物館実習

3・4 学年 通年 必修 実習 3 単位
◎石原 宏、境野広志、津村泰範、長瀬公彦、中村和宏、平山育男、御法川哲郎

授業の概要およびテーマ

学芸員資格を取得するため、実際の博物館施設に通い、実物資料に実際に手を触れて、その取り扱い・保管・展示業務の練習を行う。なお、本授業の内、館内実習は、実習の前年度までに他の必修 9 科目を全科目習得済みで、卒業見込みでなければ受講できない。

テーマ：

3 年次の「博物館概論」、「博物館資料論」、「博物館経営論」、「博物館情報メディア論」等で学習した知識を基礎に、実際の博物館等の運営・資料の取り扱いを、夏期休業中に博物館等に 1 週間～2 週間通って、学芸員の指導を受けながら実習する。また学外・学内で、担当教員に実地指導を受ける。

達成目標

学芸員の仕事を実際に体験し、仕事の概要および学芸員として仕事をする上で重要であるポイントをまとめて報告する。

授業計画

- 1 複数の博物館の見学（見学実習）
 - 2 遺跡・各種文化財の調査（学内実習）
 - 3 展示用具の取り扱いの学習（校内実習）
 - 4 博物館等に通勤し、学芸員の指導のもと、実際に文化財を取り扱う（館内実習）
 - 5 館内実習の前後に指導を行う（事前・事後指導）
- 4 が授業の中心である。通常 4 年生の夏期休業期間（7 月～9 月）に、1～2 週間行われる。

学生に対する成績評価基準

成績評価は実習先博物館等の評価を中心に、出席およびレポートの成績などを含めて総合的に行う。

参考書・参考資料等

随時指定する。

履修希望者への要望・事前準備

この授業は通常の授業と同様に考えてはならない。博物館等の学芸員と触れ合い、実物の文化財資料を取り扱うものであるから、自分が現実にもその博物館等に勤務し、学芸員という職業で生活しているものと認識しなければならない。従って、実習予定の取消・欠席・遅刻など不真面目な態度は絶対に許されない。授業でなく「勤務」と考えるべきである。また文化財資料を破損するような行為をしてはならない。既に自分は就職したものと考えて、社会人と同じ自覚を持った行動が要求される。なおこの授業にかかわるすべての費用は学生の自己負担とする。

※館内実習は、前年度までに他の必修 9 科目を全科目修得済みで、卒業見込みでなければ参加することができない。

教職課程開講科目

教職入門

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

教職の意義、教員の役割、教員の職務・服務・養成・研修、教職の採用・現状、チームとしての学校に関する理解を深めて、教職に必要な資質・能力とは何かを考える。そのうえで、自分はなぜ教職を目指すのか、どのような教師になりたいのかを考える。

達成目標

教職の意義、教員の役割、教員の職務・服務・養成・研修、教職の採用・現状、チームとしての学校等、教職に関する基礎的知識を理解して、教職に必要な資質・能力とは何かを考えられる。また、自分はなぜ教職を目指すのか、どのような教師になりたいのかを説得的に説明できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
第2回：学校とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第3回：学校とは何か2…学校に関する法制・現状・チームとしての学校を学ぶ。
第4回：学校とは何か3…学校論に関して自分の考えをまとめ、発表する。
第5回：教師とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第6回：教師とは何か2…教員の職務・服務・研修・身分保障等に関する法制、現状を学ぶ。
第7回：教師とは何か3…教師論に関して自分の考えをまとめ、発表する
第8回：教師の仕事…授業
第9回：教師の仕事…学級経営
第10回：教師の仕事…生徒指導、部活動指導、校務分掌
第11回：体罰とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第12回：体罰とは何か2…体罰等をめぐる問題状況
第13回：教員養成課程の仕組み、教員採用試験等、教職に就くうえでの関門について
第14回：なぜ教職を目指すのか…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第15回：まとめ
ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

そのほか、適宜指示する。

教育原理

2 学年 後期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を、講義・グループワークで学ぶ。

達成目標

教育思想の基本的事項、子どもを取り巻く歴史、学校改革の歴史、教師の歴史等に関する基礎的知識を身につけた上で、それらの思想・歴史的理解をもとにして、現在の教育に関する問題状況を説明できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
第2回：教育とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第3回：教育とは何か2…教育の本質論を学ぶ。
第4回：子どもとは誰か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第5回：子どもとは誰か2…子ども観、子どもに関する法制・現状を学ぶ。
第6回：子どもとは誰か2…子どもを取り巻く歴史
第7回：西洋教育思想史1…概要
第8回：西洋教育思想史2…デューイを中心に
第9回：日本教育史1…古代・中世・近世の学校
第10回：日本教育史2…近代公教育の成立と展開
第11回：日本教育史3…戦後民主主義教育の理念と展開
第12回：教師の歴史…近現代日本を例に
第13回：社会教育の理念と現状1…博学連携の現状
第14回：社会教育の理念と現状2…博物館の開放
第15回：まとめ
ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

今井康雄編『教育思想史』（有斐閣アルマ、2009年）
そのほか、適宜指示する。

教育心理学

2 学年 前期 選択 講義 2 単位
中村恵子

授業の概要およびテーマ

子どもの教育の場における発達や学習の過程、対人関係、教材、環境への教育的配慮等について、心理学的側面から学習します。また、教育活動における子どもの理解や個への対応のしかたについても学びます。

達成目標

- ・教育心理学の基本的な考え方や、子どもの発達や学習の過程、対人関係などに関する基礎的な知識について説明できる。
- ・相談活動に必要な教育測定やカウンセリングなどの理論や技法について列挙することができ、個に応じた対応について自分の考えを述べることができる。

授業計画

- 01 教育心理学の理念と目的
- 02 発達の概念：成熟と学習
- 03 発達理論：ピアジェ、エリクソン
- 04 記憶のしくみ：短期記憶、長期記憶
- 05 問題解決の方法：アルゴリズム、ヒューリスティックス
- 06 学習の理論：連合論、認知論、状況論
- 07 学習の方法（１）：受容学習、発見学習
- 08 学習の方法（２）：有意味受容学習、プログラム学習
- 09 人格と適応：パーソナリティ、学校不適応
- 10 障害児の理解と対応（１）：発達障害などの理解
- 11 障害児の理解と対応（２）：支援、連携
- 12 カウンセリングの理論と技法：来談者中心療法、認知行動療法
- 13 学級集団の理解：集団の機能、リーダーシップ
- 14 教育評価の方法：知能検査、学力検査、性格検査
- 15 学習の振り返り、理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

授業中に行う小課題60%、理解度の確認のテスト20%、まとめのレポート20%

なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は、単位を与えません。

テキスト

やさしい教育心理学 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 有斐閣 1,900円＋税

参考書・参考資料等

資料は、適宜授業中に配付します。

履修希望者への要望・事前準備

毎回、授業の中で小課題を行い提出してもらいます。また、グループワークをしますので、欠席しないようにしてください。

教育に関する社会的・制度的・経営的研究

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

日本における現在の教育制度を、多面的に検討する。講義中心ではあるが、一部グループワークも取り入れる。

達成目標

- ①日本における現在の教育制度に関する基礎的知識を、総合的に身につける。
- ②現在の教育に関する問題状況を、制度面に注目して説明できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
 - 第2回：公教育とは何か
 - 第3回：教育法制
 - 第4回：教育行政
 - 第5回：学校経営と学校評価
 - 第6回：学校安全への対応
 - 第7回：教育課程経営
 - 第8回：教職員の職務と服務
 - 第9回：児童・生徒の管理
 - 第10回：就学前教育制度
 - 第11回：特別支援教育制度
 - 第12回：教員養成・研修制度
 - 第13回：社会教育行政
 - 第14回：学校給食制度
 - 第15回：教育制度改革の現在、まとめ
- ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』（福村出版、2017年）

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

そのほか、適宜指示する。

教育課程の編成と実際

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

教育課程の意義、思想と構造、編成、カリキュラム開発、教育内容の歴史の変遷、学力論の現在、評価の方法等に関する基本的理解を深める。

達成目標

- ①教育課程の意義、思想と構造、編成、カリキュラム開発、教育内容の歴史の変遷、学力論の現在、評価の方法等に関する基本的理解を深める。
- ②現在の教育課題を、教育課程に関する基本的知識をもとに考えることができる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
第2回：中学校学習指導要領をグループワークでまとめる。
第3回：中学校学習指導要領をグループで発表する。
第4回：教育課程とは何か1…教育課程とは何か、思想と構造
第5回：教育課程とは何か2…編成、経営、カリキュラム開発
第6回：教育課程編成の方法
第7回：カリキュラムマネジメント…意義、カリキュラム評価の考え方
第8回：近代日本における教育課程の変遷
第9回：戦後学習指導要領の変遷1…経験主義、系統主義、構造主義
第10回：戦後学習指導要領の変遷2…ゆとり、新学力観、生きる力、確かな学力
第11回：新学習指導要領の特質
第12回：学力とは何か1…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第13回：学力とは何か2…現在の学力論を学ぶ
第14回：授業を考える…課題についてグループワークで考えをまとめ、発表する。
第15回：まとめ
ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

水原克敏『学習指導要領は国民形成の設計書 その能力観と人間像の歴史の変遷』（東北大学出版会、2010年）
そのほか、適宜指示する。

美術科指導法

3 学年 前期 必修 演習 8 単位
市川治郎

授業の概要およびテーマ

- ・美術科教育の概要や学校で行われている授業について概説する。
- ・教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。

達成目標

- ・「美術科指導の基礎的能力の育成」を目標とする。
- ・学校における美術科教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。
- ・美術科の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。
- ・教材研究や授業分析などを通して、具体的な指導技術を習得する。

授業計画

- 第1回：美術教育の概要（我が国における美術教育の歴史）
第2回：現行学習指導要領美術編の解説と今後の方向性
第3回：美術科経営と授業の実際（美術科経営計画、年間指導計画、授業の構成要素）
第4回：教材研究（1）表現分野（絵画の教材分析、指導案作成）
第5回：授業研究（1）表現分野（絵画の模擬授業、事前事後検討）
第6回：教材研究（2）表現分野（彫刻の教材分析、指導案作成）
第7回：授業研究（2）表現分野（彫刻の模擬授業、事前事後検討）
第8回：教材研究（3）表現分野（デザイン及び工芸の教材分析、指導案作成）
第9回：教材研究（4）表現分野（デザイン及び工芸の模擬授業、事前事後検討）
第10回：授業研究（3）表現分野（映像メディア表現の教材分析、指導案作成）
第11回：授業研究（4）表現分野（映像メディア表現の模擬授業、事前事後検討）
第12回：教材研究（5）鑑賞分野（鑑賞の教材分析、指導案作成）
第13回：授業研究（5）鑑賞分野（鑑賞の模擬授業、事前事後検討）
第14回：評価計画（評価方法、通知表及び指導要録の評価）
第15回：美術館等との連携（地域の人材、施設設備の活用）

学生に対する成績評価基準

受講姿勢：30%、課題の成績：40%、模擬授業の成績：30%を総合して評価する。

テキスト

中学校学習指導要領解説（美術編）、高等学校学習指導要領解説（芸術編、音楽編、美術編）

参考書・参考資料等

中学校美術教科書、高等学校美術教科書

工芸指導法

3 学年 後期 必修 演習 4 単位
市川治郎

授業の概要およびテーマ

- ・高等学校芸術科工芸の概要や、学校で行われている授業について概説する。
- ・教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。

達成目標

- ・「工芸指導の基礎的能力の育成」を目標とする。
- ・学校における工芸教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。
- ・工芸の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。
- ・教材研究や授業分析などを通して、具体的な指導技術を習得する。

授業計画

- 第1回：工芸教育の概要（我が国における工芸教育の歴史）
第2回：現行学習指導要領工芸編の解説と今後の方向性
第3回：芸術科工芸経営の実際（工芸経営計画、年間指導計画）
第4回：授業の実際（授業の構成要素、様々な指導方法）
第5回：教材研究（1）（木工芸の授業構成、教材研究）
第6回：教材研究（2）（木工芸の教材分析、指導案検討）
第7回：授業研究（1）（木工芸の模擬授業、事後検討）
第8回：教材研究（3）（金属工芸の授業構成、教材研究）
第9回：教材研究（4）（金属工芸の教材分析、指導案検討）
第10回：授業研究（2）（金属工芸の模擬授業、事後検討）
第11回：教材研究（5）（陶芸の授業構成、教材研究）
第12回：教材研究（6）（陶芸の教材分析、指導案検討）
第13回：授業研究（3）（陶芸の模擬授業、事後検討）
第14回：教材研究（7）（鑑賞の教材分析、指導案検討）
第15回：工芸の評価（評価方法、通知表及び指導要録の評価）

学生に対する成績評価基準

受講姿勢：30%、課題の成績：40%、模擬授業の成績：30%を総合して評価する。

テキスト

高等学校学習指導要領解説（芸術編、音楽編、美術編）

参考書・参考資料等

高等学校工芸教科書

道徳指導法

2 学年 後期 必修 演習 2 単位
市川治郎

授業の概要およびテーマ

- ・中学校及び高等学校における道徳の概要や、学校で行われている授業について概説する。
- ・教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、授業検討等を通して実践的な指導力を身に付ける。

達成目標

- ・「道徳指導の基礎的能力の育成」を目標とする。
- ・学校における道徳教育の概要を理解し、年間指導計画が作成できる。
- ・道徳の学習指導案を作成し、目標に沿った模擬授業ができる。
- ・学習指導要領に示される道徳の趣旨や意義を踏まえた授業について理解する。

授業計画

- 第1回：道徳教育の概要（我が国における道徳教育の歴史）
第2回：現行学習指導要領における道徳の解説と今後の方向性
第3回：道徳授業の実際（年間指導計画、授業の構成要素）
第4回：教材研究（1）（道徳の授業構成、教材研究）
第5回：教材研究（2）（道徳の教材研究、教材分析）
第6回：教材研究（3）（道徳の指導方法、指導案検討）
第7回：授業研究（1）（道徳の模擬授業、事後検討）
第8回：教材研究（4）（道徳の授業構成、教材研究）
第9回：教材研究（5）（道徳の教材研究、教材分析）
第10回：教材研究（6）（道徳の指導方法、指導案検討）
第11回：授業研究（2）（道徳の模擬授業、事後検討）
第12回：教材研究（7）（道徳の授業構成、教材研究）
第13回：教材研究（8）（道徳の教材分析、指導方法、指導案検討）
第14回：授業研究（3）（道徳の模擬授業、事後検討）
第15回：道徳の評価（評価方法、通知表及び指導要録の評価）

学生に対する成績評価基準

受講姿勢：30%、課題の成績：40%、模擬授業の成績：30%を総合して評価する。

テキスト

中学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）、高等学校学習指導要領解説（総則編）

参考書・参考資料等

「私たちの道徳」中学校

特別活動指導法

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
岩崎保之

授業の概要およびテーマ

特別活動の理論や学習指導要領における規定を理解したり、授業実践を分析したりすることを通して、特別活動の意義、内容及び指導の在り方を研究します。

達成目標

1. 特別活動の基礎理論、変遷、こんにちの課題に対する役割を説明できます。
2. 学習指導要領の規定を、実践例に当てはめて説明できます。
3. 学級活動（ホームルーム活動）の学習指導案を作成できます。

授業計画

- 01 ガイダンス（特別活動とは何か）
- 02 特別活動の理論（1）（目標、教育的意義）
- 03 特別活動の理論（2）（各教科、道徳、総合的な学習との関連）
- 04 特別活動の変遷
- 05 学習指導要領における特別活動の規定（1）（学級／ホームルーム活動）
- 06 学習指導要領における特別活動の規定（2）（生徒会活動）
- 07 学習指導要領における特別活動の規定（3）（学校行事）
- 08 特別活動の全体計画・年間指導計画
- 09 特別活動の指導過程・指導方法（生徒指導の機能・ガイダンスの機能を生かした指導）
- 10 特別活動の評価
- 11 指導計画作成の実際（1）
- 12 指導計画作成の実際（2）
- 13 学級／ホームルーム活動の実際（1）
- 14 学級／ホームルーム活動の実際（2）
- 15 理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

学習態度（10%）、学習指導案（20%）、模擬授業（20%）、理解度の確認（50%）に基づいて評価します。

出席・遅刻の基準

出席回数が、第15回目を含んで10回以上なければ、単位を与えません。
欠席1回につき、5点減点します。

テキスト

1. 中学校学習指導要領解説－特別活動編－、文部科学省、ぎょうせい、2008年、109円＋税
2. これでできる！わくわくファシリテーション－アクティブ・ラーニング時代の授業づくり・学校づくり－、にいがたファシリテーション授業研究会、新潟日報事業社、2016年、900円＋税

参考書・参考資料等

（参考書）

1. 目標標準評価論の研究－学校教育における理論と実践－、岩崎保之、ウエストン出版部、2009年、2500円＋税
2. みんなが主役！わくわくファシリテーション授業、にいがたファシリテーション授業研究会、新潟日報事業社、2013年、1600円＋税
3. 子どもの抱える問題への支援と連携、ウエストン、2014年、1100円＋税
4. ファシリテーションとユニバーサルデザインで創る授業、新潟市立白新中学校、新潟日報事業社、2014年、1600円＋税
5. えちごの教育（創刊号）、えちごの会、ウエストン、2016年、500円＋税

（参考資料）

授業時にプリントを配付します。

履修希望者への要望・事前準備

特別活動は、体験的な集団活動を通した学びを特徴としています。そのため、本講義においても、グループワークを多くの場面で取り入れた授業を展開します。継続的な出席を望みます。

教育方法・技術

3 学年 後期 必修 講義 2 単位
竹田進吾

授業の概要およびテーマ

教育方法に関する理論、教育方法の歴史、教科書・ICT等の活用方法、評価方法を理解しながら、パネルシアター教材の実作を行う。

達成目標

授業を設計・実践していく上で必要な教育方法に関する知識を理解した上で、学習指導案作成、模擬授業実践に取り組むことができる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
 - 第2回：教育方法の理論
 - 第3回：教科書を活用するとはどういうことか
 - 第4回：黒板はどのように利用すべきか
 - 第5回：パネルシアター教材の実作1…パネルシアターとは何か
 - 第6回：パネルシアター教材の実作2…グループワークでパネルシアター教材を作製する
 - 第7回：パネルシアター教材の実作3…実作したパネルシアターを発表する
 - 第8回：学習指導案作成法
 - 第9回：評価とは何か…学校教育において、生徒をどのように評価するのか
 - 第10回：ICTを活用した授業設計1…ICTを活用した授業の紹介
 - 第11回：ICTを活用した授業設計2…学習指導案作成
 - 第12回：教育方法の観点を重視した授業設計…模擬授業の準備
 - 第13回：教育方法の観点を重視した授業設計…模擬授業、討議
 - 第14回：教育方法の歴史
 - 第15回：まとめ
- ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合があります。

学生に対する成績評価基準

期末試験の得点30%、最終提出課題の得点30%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）40%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。期末試験を受けなかった受講者の単位は認めない。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

そのほか、適宜指示する。

生徒・進路指導

2 学年 前期 必修 講義 2 単位
中村恵子

授業の概要およびテーマ

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動です。生徒指導及び進路指導・キャリア教育、教育相談の意義と課題について学習し、児童生徒理解や校内における指導体制、問題行動への指導についても学びます。

達成目標

- ・生徒指導の定義や機能、児童生徒理解、指導体制について説明することができる。
- ・進路指導・キャリア教育の課題と基本的な考え方について説明することができる。
- ・教育相談の意義と課題、学校教育相談を支える理論と技法について、自分の考えを述べることができる。
- ・いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題についての現状や学校における取組について調べ、発表することができる。

授業計画

- 01 生徒指導とは何か：定義、機能
- 02 児童生徒理解：個と集団、資料の収集方法
- 03 生徒指導の組織と運営：生徒指導主事、生徒指導計画
- 04 進路指導・キャリア教育とは何か：進路指導とキャリア教育、キャリア教育の定義
- 05 進路指導・キャリア教育の実際：基礎的・汎用的能力
- 06 学校教育相談とは何か：開発的教育相談、予防的教育相談、問題解決的教育相談
- 07 学校教育相談を支える理論と技法（１）：グループエンカウンター
- 08 学校教育相談を支える理論と技法（２）：ピア・サポート活動
- 09 学校教育相談を支える理論と技法（３）：ソーシャルスキルトレーニング
- 10 学校教育相談を支える理論と技法（４）：アサーショントレーニング
- 11 不適応の理解と対応
- 12 生徒指導上の諸問題の現状（１）：いじめ、不登校
- 13 生徒指導上の諸問題の現状（２）：暴力行為、虐待
- 14 生徒指導上の諸問題についての取組：関係機関との連携
- 15 学習の振り返り、理解度の確認とまとめ

学生に対する成績評価基準

授業で行う小課題60%、理解度の確認のテスト20%、まとめのレポート20%
なお、成績評価の前提条件として、出席率が2/3を下回る場合は単位を与えません。

テキスト

生徒指導提要、文部科学省、教育図書、276円＋税

参考書・参考資料等

随時、授業中に紹介します。

履修希望者への要望・事前準備

グループワークや調べ学習を行うので、欠席しないようにしてください。

教育相談

3 学年 前期 必修 講義 2 単位
伊藤敦美

授業の概要およびテーマ

教育相談は生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。この授業では、学校における教育相談の意義と課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論、教育相談の方法（カウンセリングの意義、理論や方法に関する基礎的知識を含む）、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組や連携の必要性等をテーマとして取り上げる。理論を学び技法を習得するために、授業は講義と趣味レーションの両方の形態で実施する。

達成目標

- 1 学校における教育相談の意義と理論を理解する。
- 2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。
- 3 教育相談の具体的な進め方、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

授業計画

- 第1回 学校における教育相談の意義と課題
- 第2回 自己理解（１）アイデンティティの形成
- 第3回 自己理解（２）防衛機制
- 第4回 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論
- 第5回 児童生徒の不適応・問題行動の意味とその発見
- 第6回 学校教育におけるカウンセリングマインドとその必要性
- 第7回 カウンセリングの基本姿勢
- 第8回 カウンセリングの方法（１）カウンセリングの基礎的技法
- 第9回 カウンセリングの方法（２）カウンセリングの基礎的技法を使用したシミュレーション
- 第10回 カウンセリングの方法（３）シミュレーションについてのグループ討議
- 第11回 学校における教育相談体制と進め方
- 第12回 教育相談の計画及び評価
- 第13回 個別の課題に対する教育相談の進め方（１）いじめ・不登校
- 第14回 個別の課題に対する教育相談の進め方（２）虐待・非行
- 第15回 学校と家庭・地域・専門機関との連携

学生に対する成績評価基準

受講姿勢：20%、授業で課す課題とレポート30%、学習理解の確認（テスト）50%
原則として、出席回数が授業回数の2/3以上であること。

テキスト

新カリキュラム対応教育・保育の基礎を学ぶ 岩崎保之編著 国際文献社 2000円
生徒指導提要 文部科学省 教育図書 290円

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領 文部科学省
高等学校学習指導要領 文部科学省
学校カウンセリング基本訓練 上地安昭 北大路書房 2097円
他に必要図書や資料は授業で指示します。

履修希望者への要望・事前準備

授業では、自分の考えを文章化する、発表する、他の受講生と討論するといった活動を取り入れます。考えをまとめたり、発表したり、討論するためには基礎となる知識が必要ですから、日頃から教育に関するニュースなどに目を通す習慣を付けておいて下さい。

事前・事後指導

4 学年 通年 必修 実習 1 単位
◎竹田進吾、市川治郎

授業の概要およびテーマ

最終提出課題の得点40%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）60%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。

達成目標

教育実習について理解を深め、意欲を持って積極的に実習に取り組むことができる。事後においては客観的に実習を振り返り、冷静に反省できる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
第2回：教育実習の心得…意義・目的・取り組む姿勢・実習校理解・勤務・服務・実習態度・守秘義務等
第3回：実習日誌の作成法
第4～7回：道徳教育に関する授業設計…模擬授業と討議
第8～12回：美術科教育に関する授業設計…模擬授業と討議
第13回：実習事後指導、礼状作成、報告書作成、報告会準備
第14回：実習事後報告会…全員の発表、質疑応答
第15回：まとめ
ただし、授業の進度により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

最終提出課題の得点40%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）60%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

そのほか適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

生徒と教職員そして保護者と直に関わり、実践力を身に付ける教育実習は、長期間に及ぶ厳しいものです。教職課程で学んだ知識や技能を確かなものにするだけでなく、生活のリズムを整えることや組織の中で働くものとしての礼儀や態度を身に付けるなどの準備をしておく必要があります。

教育実習Ⅰ

4 学年 通年 必修 実習 2 単位
◎竹田進吾、市川治郎

授業の概要およびテーマ

自己開拓した学校、または実習協力校において教育実習を行う。実習校の教育課程との関係をふまえて、2週間の実習計画を立て、教科指導、教科外指導を実習する。実習日誌をつけて日々振り返り実践力を身につけるとともに、授業見学、授業実践、研究授業を行うことにより、実践的な教材研究・授業設計の方法を学ぶ。

達成目標

- ①教職課程において学んできた教職・美術に関する知識・理解・技能をふまえて、中学校の現場で実習に積極的に取り組むことができる。
②教育職に就く者として、美術科教育、道徳教育、総合的な学習の時間等の実践を行うことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。
③教育職に就く者として、学級経営、生徒指導、学校行事等の重要性を理解した上で、意欲的に取り組むことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。

授業計画

- 実習校の指導教員と打ち合わせのうえ、連続した2週間において以下の内容を実習する。
①教科指導として、授業見学、教材研究、授業、研究授業を行う。
②教科外指導として、総合的な学習の時間、学級活動、給食指導、各種学校行事への参加、生徒指導等を行う。

学生に対する成績評価基準

実習中の態度、教科指導、生徒指導等の教員としての適性、学級経営、校務分掌等に関する理解と能力、勤務状況等に関する実習校による評価を参考にして総合的に評価する。

テキスト

実習日誌

参考書・参考資料等

教職課程で使用してきた各テキスト等

履修希望者への要望・事前準備

生徒・教職員・保護者と直に関わり、実践力を身に付ける教育実習は、長期間に及ぶ厳しいものです。教職課程で学んだ知識や技能の復習をする、生活のリズムや体調を整える、組織人としての礼儀や態度をわきまえコミュニケーションの力を高めるなどの準備を行う。

教育実習Ⅱ

4 学年 通年 必修 実習 2 単位
◎竹田進吾、市川治郎

授業の概要およびテーマ

自己開拓した高等学校において教育実習を行う。実習校の教育課程との関係をふまえて、2 週間の実習計画を立て、教科指導、教科外指導を実習する。実習日誌をつけて日々振り返り実践力を身につけるとともに、授業見学、授業実践、研究授業を行うことにより、実践的な教材研究・授業設計の方法を学ぶ。
ただし、中学校で教育実習Ⅰ・Ⅱを行う場合は、3 週間の実習とする。

達成目標

- ①教職課程において学んできた教職・美術に関する知識・理解・技能をふまえて、高等学校の現場で実習に積極的に取り組むことができる。
- ②教育職に就く者として、美術科教育・総合的な学習の時間等の実践を行うことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。
- ③教育職に就く者として、学級経営、生徒指導、学校行事等の重要性を理解した上で、意欲的に取り組むことができる。またそれらの実践を振り返り、客観的に反省できる。

授業計画

実習校の指導教員と打ち合わせのうえ、連続した2 週間において、以下の内容を実習する。

- ①教科指導として、授業見学、教材研究、授業、研究授業を行う。
- ②教科外指導として、総合的な学習の時間、ホームルーム活動、各種学校行事への参加、生徒指導等を行う。

学生に対する成績評価基準

実習中の態度、教科指導、生徒指導等の教員としての適性、学級経営、校務分掌等に関する理解と能力、勤務状況等に関する実習校による評価を参考にして総合的に評価する。

テキスト

実習日誌

参考書・参考資料等

教職課程で使用してきた各テキスト等

教職実践演習（中・高）

4 学年 後期 必修 演習 2 単位
◎竹田進吾、市川治郎

授業の概要およびテーマ

教育実習での経験をふまえて、グループワーク、討議を中心とした学習指導案作成、模擬授業、課題作成、現地調査等を行う。これらにより、教育職に必要とされる総合的な実践力を養成する。

達成目標

学校教育（中等教育）とは、生徒の総合的な人間形成の場であるといえる。生徒の個性に配慮したわかりやすい授業実践、親身の学級経営、校務分掌への積極的対応等が、現在の日本社会から要請される教師像である。このような教師を目指していく上で、何が自分には足りないのか、どのような種類の努力が必要とされるのか等を明確化する。教職課程で学んできた知識・理解・技能、現場の実践力を振り返り、教科指導、学級経営、生徒指導、校務分掌等を問題なく実践できる力を身につける。

授業計画

- 第1 回：ガイダンス
 - 第2 回：学校教育における課題の明確化…教育実習を振り返り討議する
 - 第3 回：校務分掌における課題の明確化
 - 第4 回：生徒指導における課題の明確化
 - 第5 回：生徒指導における問題状況のロールプレイ
 - 第6 回：学級経営における課題の明確化
 - 第7 回：学級経営における問題状況のロールプレイ
 - 第8 回：総合的な学習の時間における課題の明確化
 - 第9 回：道徳教育の授業設計…過去の自分の実践における問題点の討議
 - 第10 回：道徳教育の授業設計…模擬授業の準備
 - 第11 回：道徳教育の授業設計…模擬授業と討議
 - 第12 回：美術科教育の授業設計…過去の自分の実践における問題点の討議
 - 第13 回：美術科教育の授業設計…模擬授業の準備
 - 第14 回：美術科教育の授業設計…模擬授業と討議
 - 第15 回：まとめ
- ただし、授業の進捗により順番・内容を一部変更する場合がある。

学生に対する成績評価基準

最終提出課題の得点40%、平常点（授業態度・貢献度・通常提出物等）60%により総合的に決定する。全体として60%取れなければ不合格とする。

テキスト

適宜、資料プリントを配付する。ファイル等を用意して、配付プリントは教科書同様の扱いで管理すること。

参考書・参考資料等

履修カルテ。教職課程で使用してきた各種学習指導要領解説。そのほか適宜指示する。

履修希望者への要望・事前準備

教育実習前の自己課題、教育実習後に見えてきた自己課題を意識して、演習する。座学で得た知識では、学校現場で通用しない場合が多い。教師としての実践力を身に付けるために、個々の得手不得手を認識し、日ごろから補っていく取組が求められる。



公立大学法人

長岡造形大学

Nagaoka Institute of Design

学務課

940-2088 新潟県長岡市千秋4丁目197番地

tel 0258-21-3351 fax 0258-21-3343

e-mail gakumu@nagaoka-id.ac.jp

<http://www.nagaoka-id.ac.jp/>

